

若宮ノ東遺跡Ⅰ

都市計画道路高知南国線建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅰ

2022.3

高 知 県 教 育 委 員 会
(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

序

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターでは、平成 28 年度から高知県中央東土木事務所の業務委託を受けた都市計画道路高知南国線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施しています。

一連の調査によって若宮ノ東遺跡が弥生時代から近世にかけての大規模な遺跡であることが判明しました。弥生時代では後期後葉から古墳時代前期初頭にかけての竪穴建物跡が 100 棟以上検出され、飛鳥時代では県下最大規模の掘立柱建物跡、続く奈良時代から平安時代では正倉と考えられる掘立柱建物跡がみつき、律令期を通して重要な地点であったことが窺われます。また、中世では溝で囲まれた屋敷群がみつき、有力者の存在を示しています。以上のように若宮ノ東遺跡は各時代を通して地域の拠点となる遺跡です。

最後になりましたが、今回の調査では高知県中央東土木事務所、南国市教育委員会をはじめ地元の皆様には多大なご理解とご協力を得ることができました。また、発掘作業・整理作業に従事していただいた作業員の皆様に対しましても厚く御礼を申し上げます。

令和4年3月

公益財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター
所長 松田 直則

例 言

1. 本書は都市計画道路高知南国線の建設に伴い、平成28～30年度に実施した1～3区の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、高知県中央東土木事務所から受託し、公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。
3. 若宮ノ東遺跡は長岡台地の縁辺部に立地する弥生時代から近世までの複合遺跡で、弥生時代後期の集落跡、古代の官衙関連遺構、中世の屋敷群など多くの遺構・遺物が確認されている。調査面積は平成28年度(1区・2-1区・3区)が2,180㎡、平成29年度(2-2区・2-3区・3区)が860㎡、平成30年度(2-4区・3区)が610㎡である。
4. 発掘調査・整理作業は次の体制で行った。

平成28年度

総 括 : 公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 松田直則
総 務 : 同次長兼総務課長 東勝彦, 同総務係長 吉森和子
調 査 総 括 : 同調査課長兼調査第一班長 吉成承三
調 査 担 当 : 同調査第二班長 坂本憲昭, 同専門調査員 江間盛男, 同主任調査員 徳平涼子
同調査補助員 大原直美・片岡和美・前田早苗
事 務 職 員 : 今田琴美
事務補助員 : 廣内美登利・奥宮千恵子

平成29年度

総 括 : 公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 松田直則
総 務 : 同次長兼総務課長 和田安弘, 同総務係長 吉森和子, 同主幹 三谷有紀
調 査 総 括 : 同調査課長兼調査第一班長 吉成承三
調 査 担 当 : 同調査第二班長 坂本憲昭, 同調査員 矢野雅子
同調査補助員 大賀幸子・岡林真史
事 務 職 員 : 今田琴美
事務補助員 : 廣内美登利

平成30年度

総 括 : 公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 松田直則
総 務 : 同次長兼総務課長 和田安弘, 同総務係長 吉森和子
調 査 総 括 : 同調査課長兼調査第一班長 吉成承三
調 査 担 当 : 同調査第二班長 坂本憲昭, 同専門調査員 久家隆芳, 同調査員 下木千佳
同調査補助員 坂本憲彦・大賀幸子・岡林真史・野崎益範
事 務 職 員 : 今田琴美
事務補助員 : 北村幸恵・笹野女怜

令和元年度(平成31年度)

総 括 : 公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 松田直則
総 務 : 同次長兼総務課長 和田安弘, 同総務係長 吉森和子, 同主査 門田香織
調 査 総 括 : 同調査課長兼調査第一班長 吉成承三
調 査 担 当 : 同調査第二班長 坂本憲昭, 同専門調査員 西村豊史, 同専門調査員 久家隆芳

例言

同調査補助員 大賀幸子・田上修造

事務職員：今田琴美

事務補助員：北村幸恵

令和2年度

総括：公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 松田直則

総務：同次長兼総務課長 橋田歩, 同主査 門田香織

調査総括：同調査課長兼調査第一班長 吉成承三

調査担当：同調査第二班長 坂本憲昭, 同専門調査員 久家隆芳, 同調査員 綾部侑真
調査補助員 岡林真史・幾野雄也

事務職員：今田琴美

事務補助員：北村幸恵

令和3年度

総括：公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 松田直則

総務：同次長兼総務課長 橋田歩, 同主査 門田香織

調査総括：同調査課長 吉成承三

調査担当：同チーフ 坂本憲昭・久家隆芳, 同調査員 綾部侑真・宮地啓介
同調査補助員 大賀幸子・岡林真史

事務職員：今田琴美

事務補助員：北村幸恵

5. 本書の執筆は、第I・II章を坂本憲昭((公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター チーフ), 第三章は平成28年・29年度調査分は坂本が遺構の基礎整理, 遺物の選び出し, 実測図の点検を行い, これをもとに久家隆芳(同 チーフ)が平成30年度分とともに執筆した。第四章はパリノ・サーヴェイ株式会社, 株式会社イビソクが執筆した。編集は久家が行った。また, 宮地啓介(同 調査員)の補助を得た。現場写真については各担当職員が行い, 遺物写真については平成28年・29年度調査分は坂本が, 平成30年度調査分は久家が撮影した。
6. 遺構についてはST(竪穴建物跡), SB(掘立柱建物跡), SA(柵列跡), SK(土坑), SD(溝跡), SE(井戸跡), P(柱穴), SX(性格不明遺構)等で表記した。掘立柱建物跡の復元については, 大賀幸子(同調査補助員)の協力による。また, 掲載している遺構平面図の縮尺はそれぞれに記しており, 方位Nは世界測地系のGNである。遺構の主軸方位については, 真北から計測した。
7. 遺物については弥生土器は縮尺1/4, 須恵器・土師器・土師質土器・陶磁器は縮尺1/3を基本として掲載し, 一部の遺物については適宜縮尺を変えているが, 各挿図にはスケールを表記している。
8. 調査にあたっては, 高知県中央東土木事務所のご協力をいただいた。また, 地元住民の方々には遺跡に対するご理解とご協力をいただき, 厚く感謝の意を表したい。
9. 発掘作業・整理作業について, 多くの方々に労を厭わず作業に従事していただいた。厚く感謝の意を表したい。
10. 出土遺物は平成28年度を「16 - 3NW」, 平成29年度を「17 - 1NW」, 平成30年度を「18 - 1NW」と注記し, 高知県立埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第Ⅰ章 調査に至る経緯.....	1
第Ⅱ章 地理的・歴史的環境.....	3
1. 地理的環境.....	3
2. 歴史的環境.....	3
第Ⅲ章 調査成果.....	9
第1節 調査の方法と基本層序.....	9
1. 調査の方法.....	9
2. 基本層序.....	9
第2節 1区.....	13
1. ST.....	13
2. SB.....	77
3. SA.....	110
4. SK.....	116
5. SD.....	162
6. SE.....	168
7. SX.....	172
8. P.....	175
9. 遺構外出土遺物.....	181
第3節 2区.....	189
1. ST.....	189
2. SB.....	209
3. SA.....	222
4. SK.....	224
5. SD.....	228
6. P.....	232
7. 遺構外出土遺物.....	234
第4節 3区.....	237
1. ST.....	237
2. SB.....	246
3. SA.....	264
4. SK.....	268
5. SG.....	275
6. SD.....	275
7. P.....	277
8. 遺構外出土遺物.....	282
第Ⅳ章 自然科学分析.....	285

挿図目次

図 1	南国市位置図.....	1
図 2	報告書所収調査区位置図.....	2
図 3	若宮ノ東遺跡周辺の遺跡地図.....	4
図 4	グリッド設定図.....	10
図 5	1区 基本層序.....	11
図 6	2区 基本層序.....	11
図 7	3区 基本層序.....	12
図 8	1区 ST1 平面図・断面図.....	13
図 9	1区 ST1 出土遺物実測図_1.....	14
図10	1区 ST1 出土遺物実測図_2.....	16
図11	1区 ST1 出土遺物実測図_3.....	16
図12	1区 ST2 平面図・断面図.....	17
図13	1区 ST2 出土遺物実測図_1.....	19
図14	1区 ST2 出土遺物実測図_2.....	20
図15	1区 ST2 出土遺物実測図_3.....	21
図16	1区 ST2 出土遺物実測図_4.....	22
図17	1区 ST2 出土遺物実測図_5.....	23
図18	1区 ST3 平面図・断面図.....	25
図19	1区 ST3 出土遺物実測図.....	25
図20	1区 ST4 平面図・断面図.....	26
図21	1区 ST4 出土遺物実測図.....	26
図22	1区 ST5 平面図・断面図.....	27
図23	1区 ST5 出土遺物実測図_1.....	28
図24	1区 ST5 出土遺物実測図_2.....	29
図25	1区 ST5 出土遺物実測図_3.....	31
図26	1区 ST5 出土遺物実測図_4.....	33
図27	1・2-1区 ST6 平面図・断面図.....	35
図28	1・2-1区 ST6 出土遺物実測図.....	36
図29	1区 ST7 平面図・断面図.....	37
図30	1区 ST7 出土遺物実測図.....	37
図31	1区 ST8 平面図・断面図.....	38
図32	1区 ST8 出土遺物実測図.....	39
図33	1区 ST9 平面図・断面図.....	40
図34	1区 ST9 出土遺物実測図.....	41
図35	1区 ST10 平面図・断面図.....	42
図36	1区 ST10 出土遺物実測図_1.....	43

図37	1区 ST10	出土遺物実測図_2	45
図38	1区 ST10	出土遺物実測図_3	46
図39	1区 ST10	出土遺物実測図_4	47
図40	1区 ST11	平面図・断面図	48
図41	1区 ST11	出土遺物実測図_1	49
図42	1区 ST11	出土遺物実測図_2	50
図43	2-1区 ST12	平面図・断面図	51
図44	2-1区 ST12	出土遺物実測図	52
図45	2-1区 ST13	平面図・断面図	56
図46	2-1区 ST13	出土遺物実測図_1	57
図47	2-1区 ST13	出土遺物実測図_2	58
図48	1区 ST14	平面図・断面図	59
図49	1区 ST14	出土遺物実測図_1	60
図50	1区 ST14	出土遺物実測図_2	61
図51	1区 ST14	出土遺物実測図_3	62
図52	1・2-1区 ST15	平面図・断面図	64
図53	1・2-1区 ST15	出土遺物実測図	65
図54	1区 ST16	平面図・断面図	66
図55	1区 ST16	出土遺物実測図	67
図56	1区 ST17	平面図・断面図	68
図57	1区 ST17	出土遺物実測図	69
図58	1区 ST18	平面図・断面図	70
図59	1区 ST18	出土遺物実測図	70
図60	1区 ST19	平面図・断面図	71
図61	1区 ST19	出土遺物実測図	72
図62	1区 ST20	平面図・断面図	73
図63	1区 ST20	出土遺物実測図	74
図64	2-1区 ST21	平面図・断面図	75
図65	2-1区 ST21	出土遺物実測図	76
図66	1区 ST22	平面図・断面図	76
図67	1区 ST22	出土遺物実測図	77
図68	1区 SB1	平面図・エレベーション図	78
図69	1区 SB1	柱穴断面図_1	80
図70	1区 SB1	柱穴断面図_2	81
図71	1区 SB1	柱穴断面図_3	84
図72	1区 SB1	出土遺物実測図	85
図73	1区 SB2	平面図・エレベーション図	86
図74	1区 SB3	平面図・エレベーション図	86

挿図目次

図 75	1区 SB4	平面図・エレベーション図	87
図 76	1区 SB5	平面図・エレベーション図	87
図 77	1区 SB6	平面図・エレベーション図	88
図 78	1区 SB7	平面図・エレベーション図	88
図 79	1区 SB8	平面図・エレベーション図	89
図 80	1区 SB9	平面図・エレベーション図	89
図 81	1区 SB10	平面図・エレベーション図	90
図 82	1区 SB11	平面図・エレベーション図	90
図 83	1区 SB12	平面図・エレベーション図	91
図 84	1区 SB13	平面図・エレベーション図	91
図 85	1区 SB14	平面図・エレベーション図	92
図 86	1区 SB15	平面図・エレベーション図	92
図 87	1区 SB16	平面図・エレベーション図	93
図 88	1区 SB16	出土遺物実測図	93
図 89	1区 SB17	平面図・エレベーション図	94
図 90	1区 SB18	平面図・エレベーション図	94
図 91	1区 SB19	平面図・エレベーション図	95
図 92	1区 SB19	出土遺物実測図	95
図 93	1区 SB20	平面図・エレベーション図	96
図 94	1区 SB21	平面図・エレベーション図	96
図 95	1区 SB22	平面図・エレベーション図	97
図 96	1区 SB23	平面図・エレベーション図	98
図 97	1区 SB23	出土遺物実測図	98
図 98	1区 SB24	平面図・エレベーション図	99
図 99	1区 SB24	出土遺物実測図	99
図 100	1区 SB25	平面図・エレベーション図	100
図 101	1区 SB26	平面図・エレベーション図	101
図 102	1区 SB26	出土遺物実測図	101
図 103	1区 SB27	平面図・エレベーション図	102
図 104	1区 SB28	平面図・エレベーション図	102
図 105	1区 SB29	平面図・エレベーション図	103
図 106	1区 SB30	平面図・エレベーション図	103
図 107	1区 SB31	平面図・エレベーション図	104
図 108	1区 SB32	平面図・エレベーション図	104
図 109	1区 SB33	平面図・エレベーション図	105
図 110	1区 SB34	平面図・エレベーション図	105
図 111	1区 SB35	平面図・エレベーション図	106
図 112	1区 SB36	平面図・エレベーション図	107

図113	1区	SB36	出土遺物実測図	107
図114	1区	SB37	平面図・エレベーション図	108
図115	1区	SB37	出土遺物実測図	108
図116	1区	SB38	平面図・エレベーション図	108
図117	1区	SB39	平面図・エレベーション図	109
図118	1区	SB39	出土遺物実測図	109
図119	1区	SB40	平面図・エレベーション図	110
図120	1区	SB41	平面図・エレベーション図	110
図121	1区	SB42	平面図・エレベーション図	111
図122	1区	SB43	平面図・エレベーション図	111
図123	1区	SB44	平面図・エレベーション図	112
図124	1区	SB45	平面図・エレベーション図	112
図125	1区	SB46	平面図・エレベーション図	113
図126	1区	SB46	出土遺物拓影	113
図127	1区	SB47	平面図・エレベーション図	114
図128	1区	SB48	平面図・エレベーション図	114
図129	1区	SB49	平面図・エレベーション図	115
図130	1区	SB49	出土遺物実測図	115
図131	1区	SB50	平面図・エレベーション図	116
図132	1区	SB51	平面図・エレベーション図	117
図133	1区	SB51	出土遺物実測図	117
図134	1区	SB52	平面図・エレベーション図	118
図135	1区	SB53	平面図・エレベーション図	118
図136	1区	SB54	平面図・エレベーション図	119
図137	1区	SB55	平面図・エレベーション図	119
図138	1区	SB56	平面図・エレベーション図	120
図139	1区	SB56	出土遺物実測図	120
図140	1区	SB57	平面図・エレベーション図	121
図141	1区	SB58	平面図・エレベーション図	121
図142	1区	SB59	平面図・エレベーション図	122
図143	1区	SB60	平面図・エレベーション図	123
図144	1区	SB61	平面図・エレベーション図	124
図145	1区	SB62	平面図・エレベーション図	124
図146	1区	SB63	平面図・エレベーション図	125
図147	1区	SB64	平面図・エレベーション図	125
図148	1区	SB65	平面図・エレベーション図	126
図149	1区	SB65	出土遺物実測図	126
図150	1区	SB66	平面図・エレベーション図	127

挿図目次

図 151	1区 SB66	出土遺物実測図	127
図 152	1区 SB67	平面図・エレベーション図	128
図 153	1区 SB68	平面図・エレベーション図	128
図 154	1区 SB69	平面図・エレベーション図	129
図 155	1区 SA1	平面図・エレベーション図	130
図 156	1区 SA1	個別平面図・断面図	131
図 157	1区 SA1	出土遺物実測図	132
図 158	1区 SA2	出土遺物実測図	132
図 159	1区 SA4	出土遺物実測図	132
図 160	1区 SK1	平面図・断面図・出土遺物拓影	133
図 161	1区 SK3	平面図・断面図	133
図 162	1区 SK3	出土遺物拓影	133
図 163	1区 SK5	平面図・断面図	134
図 164	1区 SK5	出土遺物拓影	134
図 165	1区 SK10	平面図・断面図	134
図 166	1区 SK10	出土遺物実測図	135
図 167	1区 SK14, SK17	平面図・断面図	136
図 168	1区 SK22・23, SK24・25・44	平面図・断面図	137
図 169	1区 SK28	平面図・エレベーション図	138
図 170	1区 SK28	出土遺物実測図	138
図 171	1区 SK29	平面図・断面図	139
図 172	1区 SK29	出土遺物実測図	139
図 173	1区 SK31・36・P29, SK32・34・43, SK33, SK38, SK40, SK46	平面図・断面図	140
図 174	1区 SK48	出土遺物実測図	141
図 175	1区 SK49・54・59・66・87	平面図・断面図	142
図 176	1区 SK49・55・105	平面図・断面図	143
図 177	1区 SK49	出土遺物実測図	143
図 178	1区 SK49・55・59・97・105・P346	平面図・断面図	144
図 179	1区 SK86・87・93	平面図・断面図	145
図 180	1区 SK51	平面図・断面図	145
図 181	1区 SK53・58・63・64・87・92・95・P289・465	平面図・断面図	146
図 182	1区 SK55	出土遺物実測図	147
図 183	1区 SK58・66・90・95・SX1・P388	平面図・断面図	147
図 184	1区 SK58	出土遺物実測図	148
図 185	1区 SK66	出土遺物実測図	148
図 186	1区 SK71・75・P295, SK73, SK74・91, SK77・78	平面図・断面図	149
図 187	1区 SK75	出土遺物実測図	150
図 188	1区 SK82・83・103・106	平面図・断面図	151

図189	1区	SK82	出土遺物実測図	151
図190	1区	SK86	出土遺物実測図	152
図191	1区	SK88・P278,SK102,SK107,SK110・111,SK121・122・137・P693・859	平面図・断面図	153
図192	1区	SK91	出土遺物実測図	154
図193	1区	SK95	出土遺物実測図	154
図194	1区	SK96	出土遺物実測図	154
図195	1区	SK105	出土遺物実測図	154
図196	1区	SK112	平面図・断面図	155
図197	1区	SK112	出土遺物実測図	155
図198	1区	SK113・119	平面図・断面図	156
図199	1区	SK113	出土遺物実測図	156
図200	1区	SK117	出土遺物実測図	157
図201	1区	SK118	平面図・断面図	157
図202	1区	SK118	出土遺物実測図	157
図203	1区	SK123, SK125・P691, SK127・128・P685	平面図・断面図	158
図204	1区	SK128	出土遺物実測図	159
図205	1区	SK129	出土遺物実測図	159
図206	1区	SK129・131	平面図・断面図	160
図207	1区	SK134・135	平面図・断面図	160
図208	1区	SK139	平面図・エレベーション図	161
図209	1区	SK139	出土遺物実測図	161
図210	1区	SK140	平面図・断面図	162
図211	1区	SK140	出土遺物実測図	162
図212	1区	SK153・P1139・1272・1434・1443・1546	平面図・断面図	163
図213	1区	SK153	出土遺物実測図	163
図214	1区	SK157	出土遺物実測図	164
図215	1区	SK158・160・P1610・1611・1612	平面図・断面図	164
図216	1区	SD2	断面図	165
図217	1区	SD2	出土遺物実測図	165
図218	1区	SD3・5・6	断面図	165
図219	1区	SD3	出土遺物実測図	165
図220	1区	SD5	断面図	166
図221	1区	SD5	出土遺物実測図	166
図222	1区	SD8	断面図	166
図223	1区	SD9	エレベーション図	167
図224	1区	SD9	出土遺物実測図	167
図225	1区	SD10	断面図	167
図226	1区	SD10	出土遺物実測図	167

挿図目次

図 227	1区 SD16	エレベーション図	168
図 228	1区 SD16	出土遺物実測図	168
図 229	1区 SD18	エレベーション図	168
図 230	1区 SD18	出土遺物実測図	168
図 231	1区 ST1_P3(井戸)	平面図・エレベーション図	169
図 232	1区 ST1_P3(井戸)	出土遺物実測図_1	170
図 233	1区 ST1_P3(井戸)	出土遺物実測図_2	171
図 234	1区 SX1	平面図・エレベーション図	172
図 235	1区 SX1	出土遺物実測図	172
図 236	1区 SX2	平面図・断面図	173
図 237	1区 SX4・5・7	平面図・断面図	174
図 238	1区 SX4	出土遺物実測図	175
図 239	1区 SX6	平面図・エレベーション図	175
図 240	1区 SX6	出土遺物実測図	176
図 241	1区 SX7	出土遺物実測図	176
図 242	1区 P	出土遺物実測図_1	177
図 243	1区 P	出土遺物実測図_2	179
図 244	1区 P	出土遺物実測図_3	181
図 245	1区 1層	出土遺物実測図	182
図 246	1区 2層	出土遺物実測図_1	183
図 247	1区 2層	出土遺物実測図_2	184
図 248	1区 2層	出土遺物実測図_3	185
図 249	1区 2層	出土遺物実測図_4	186
図 250	1区	遺構外出土遺物実測図	187
図 251	2-3区 ST23	平面図・断面図	189
図 252	2-3区 ST23	出土遺物実測図	190
図 253	2-4区 ST24	平面図・断面図	191
図 254	2-4区 ST24	遺物出土状態図・エレベーション図	191
図 255	2-4区 ST24	出土遺物実測図	192
図 256	2-4区 ST25	平面図・断面図	193
図 257	2-4区 ST25	出土遺物実測図_1	194
図 258	2-4区 ST25	出土遺物実測図_2	195
図 259	2-4区 ST26	平面図・断面図	198
図 260	2-4区 ST26_中央ピット	平面図・断面図	198
図 261	2-4区 ST26	出土遺物実測図_1	199
図 262	2-4区 ST26	出土遺物実測図_2	200
図 263	2-4区 ST26	出土遺物実測図_3	201
図 264	2-4区 ST26	出土遺物実測図_4	202

図265	2-4区	ST25・26	遺物出土状態図	204
図266	2-4区	ST25・26	出土遺物実測図	204
図267	2区	SB1	平面図・エレベーション図	206
図268	2区	SB2	平面図・エレベーション図	207
図269	2区	SB2	出土遺物実測図	207
図270	2区	SB3	平面図・エレベーション図	208
図271	2区	SB3	出土遺物実測図	208
図272	2区	SB4	平面図・エレベーション図	209
図273	2区	SB5	平面図・エレベーション図	210
図274	2区	SB6	平面図・エレベーション図	210
図275	2区	SB7	平面図・エレベーション図	211
図276	2区	SB7	出土遺物実測図	212
図277	2区	SB8	平面図・エレベーション図	213
図278	2区	SB8	出土遺物実測図	214
図279	2区	SB9	平面図・エレベーション図	214
図280	2区	SB10	平面図・エレベーション図	215
図281	2区	SB11	平面図・エレベーション図	216
図282	2区	SB11	出土遺物実測図	216
図283	2区	SB12	平面図・エレベーション図	217
図284	2区	SB12	出土遺物実測図	217
図285	2区	SB13	平面図・エレベーション図	218
図286	2区	SB14	平面図・エレベーション図	218
図287	2区	SB14	出土遺物実測図	218
図288	2区	SB15	平面図・エレベーション図	219
図289	2区	SB16	平面図・エレベーション図	219
図290	2区	SB17	平面図・エレベーション図	220
図291	2区	SB17	出土遺物実測図	220
図292	2区	SB18	平面図・エレベーション図	221
図293	2区	SB18	出土遺物実測図	221
図294	2区	SB19	平面図・エレベーション図	222
図295	2区	SA2	出土遺物実測図	222
図296	2区	SB20	平面図・エレベーション図	223
図297	2区	SK8	平面図・エレベーション図	223
図298	2区	SK8	出土遺物実測図	223
図299	2区	SK18	出土遺物実測図	224
図300	2区	SK19	出土遺物実測図	224
図301	2区	SK32	平面図・断面図	225
図302	2区	SK32	出土遺物実測図	225

挿図目次

図 303	2区 SD12	断面図	226
図 304	2区 SD12	出土遺物実測図	226
図 305	2区 SD16・17	断面図	227
図 306	2区 SD16	出土遺物実測図	227
図 307	2区 SD17	出土遺物実測図	228
図 308	2区 P	出土遺物実測図_1	229
図 309	2区 P	出土遺物実測図_2	230
図 310	2区	遺構外出土遺物実測図_1	231
図 311	2区	遺構外出土遺物実測図_2	233
図 312	3区 ST1	平面図・断面図	237
図 313	3区 ST1	出土遺物実測図	238
図 314	3区 ST2	平面図・断面図	239
図 315	3区 ST2	出土遺物実測図	240
図 316	3区 ST3	平面図・断面図	240
図 317	3区 ST4	平面図・断面図	241
図 318	3区 ST4	出土遺物実測図	241
図 319	3区 ST5	平面図・断面図	242
図 320	3区 ST5	出土遺物実測図	242
図 321	3区 ST6	平面図・エレベーション図	243
図 322	3区 ST6	出土遺物実測図	243
図 323	3区 SB1	平面図・エレベーション図	244
図 324	3区 SB1	出土遺物実測図	244
図 325	3区 SB2	平面図・エレベーション図	245
図 326	3区 SB2	出土遺物実測図	245
図 327	3区 SB3	平面図・エレベーション図	246
図 328	3区 SB3	出土遺物実測図	246
図 329	3区 SB4	平面図・エレベーション図	247
図 330	3区 SB5	平面図・エレベーション図	248
図 331	3区 SB5	出土遺物実測図	248
図 332	3区 SB6	平面図・エレベーション図	249
図 333	3区 SB7	平面図・エレベーション図	250
図 334	3区 SB7	出土遺物実測図	250
図 335	3区 SB8	平面図・エレベーション図	250
図 336	3区 SB8	出土遺物実測図	251
図 337	3区 SB9	平面図・エレベーション図	251
図 338	3区 SB9	出土遺物実測図	251
図 339	3区 SB10	平面図・エレベーション図	252
図 340	3区 SB11	平面図・エレベーション図	253

図341	3区	SB12	平面図・エレベーション図	253
図342	3区	SB13	平面図・エレベーション図	254
図343	3区	SB14	平面図・エレベーション図	255
図344	3区	SB15	平面図・エレベーション図	256
図345	3区	SB15	出土遺物実測図	257
図346	3区	SB16	平面図・エレベーション図	257
図347	3区	SB16	出土遺物実測図	258
図348	3区	SB17	平面図・エレベーション図	258
図349	3区	SB18	平面図・エレベーション図	259
図350	3区	SB19	平面図・エレベーション図	260
図351	3区	SB20	平面図・エレベーション図	260
図352	3区	SB21	平面図・エレベーション図	261
図353	3区	SB22	平面図・エレベーション図	262
図354	3区	SB23	平面図・エレベーション図	263
図355	3区	SB24	平面図・エレベーション図	265
図356	3区	SB25	平面図・エレベーション図	266
図357	3区	SB26	平面図・エレベーション図	266
図358	3区	SB27	平面図・エレベーション図	267
図359	3区	SB28	平面図・エレベーション図	267
図360	3区	SB29	平面図・エレベーション図	268
図361	3区	SB29	出土遺物実測図	268
図362	3区	SB30	平面図・エレベーション図	269
図363	3区	SB30	出土遺物実測図	269
図364	3区	SB31	平面図・エレベーション図	270
図365	3区	SB32	平面図・エレベーション図	271
図366	3区	SB33	平面図・エレベーション図	272
図367	3区	SB34	平面図・エレベーション図	272
図368	3区	SB35	平面図・エレベーション図	273
図369	3区	SA3	出土遺物実測図	273
図370	3区	SK1・3	平面図・断面図	274
図371	3区	SK1	出土遺物実測図	274
図372	3区	SK13	出土遺物実測図	275
図373	3区	SK18	平面図・エレベーション図	275
図374	3区	SK18	出土遺物実測図	275
図375	3区	SK30	出土遺物実測図	275
図376	3区	SK32	平面図・エレベーション図	276
図377	3区	SK32	出土遺物実測図	276
図378	3区	SG1	平面図・断面図	276

表目次

図379	3区 SG1 出土遺物実測図	277
図380	3区 SD5 断面図	278
図381	3区 SD5 出土遺物実測図	278
図382	3区 SD6 断面図	278
図383	3区 SD6 出土遺物実測図	278
図384	3区 SD7 断面図	278
図385	3区 SD7 出土遺物実測図	278
図386	3区 SD15 エレベーション図	279
図387	3区 SD15 出土遺物実測図	279
図388	3区 SX1 平面図・断面図	280
図389	3区 P 出土遺物実測図_1	281
図390	3区 P 出土遺物実測図_2	282
図391	3区 遺構外出土遺物実測図	283
図392	暦年較正結果	287
図393	試料状態写真・炭化材の電子顕微鏡写真	290
図394	暦年較正結果	293
図395	石杵のマッピングおよび多点分析箇所	295
図396	炭化材の顕微鏡写真	297
図397	赤色顔料の蛍光X線分析結果	299
図398	試料採取位置および赤色顔料の生物顕微鏡写真	300
図399	地金の分析位置	300

表目次

表1	若宮ノ東遺跡周辺の遺跡一覧	4
表2	SB1柱穴計測表	79
表3	SA1柱穴計測表	130
表4	分析試料一覧	285
表5	放射性炭素年代測定および暦年較正結果	286
表6	樹種同定結果	288
表7	放射性炭素年代測定・炭化材同定結果	292
表8	多点分析結果	296
表9	面分析結果	301
表10	ST計測表	305
表11	SB計測表	306
表12	SA計測表	310
表13	SK計測表	311

遺物観察表(土器・陶磁器類)	323
遺物観察表(土製品)	360
遺物観察表(石製品)	362
遺物観察表(金属製品)	364

図版目次

図版 1	1区 東半部・2-1区 空中写真(垂直)
図版 2	調査区周辺 空中写真(北より) 1区 東半部 空中写真(北より)
図版 3	1区 東半部 空中写真(垂直)
図版 4	1区 調査前風景(東より) 1区 調査前風景(西より)
図版 5	1区 東半部 遺構検出状況(西より) 1区 東半部 遺構検出状況(南より)
図版 6	1区 東半部・2-1区 遺構完掘状況(西より) 1区 西半部・2-1区 遺構完掘状況(西部)(東より)
図版 7	1区 東半部 遺構完掘状況(北西部)(南より) 1区 西半部・2-1区 遺構完掘状況(東より)
図版 8	1区 北東トレンチセクション(西より) 1区 ST1・7 完掘状況(東より)
図版 9	1区 ST1 完掘状況(南より) 1区 ST1 床面遺構検出状況(南より)
図版 10	1区 ST1 西半セクション(南より) 1区 ST1 北半セクション(東より)
図版 11	1区 ST1 焼土検出状況(西より) 1区 ST1_P5 炭化物・弥生土器出土状態(北より)
図版 12	1区 ST1 遺物(6)出土状態(北より) 1区 ST2・5 完掘状況(南より)
図版 13	1区 ST2 完掘状況(南より) 1区 ST2 南北セクション(西より)
図版 14	1区 ST2 東半セクション(南より) 1区 ST2_P1 セクション(西より)
図版 15	1区 ST2 遺物出土状態(西より) 1区 ST2 遺物出土状態(北より)
図版 16	1区 ST3 セクション(南より)

図版目次

- 1区 ST4 完掘状況(南西より)
- 図版17 1区 ST4 西半セクション(南より)
- 1区 ST5 完掘状況(南より)
- 図版18 1区 ST5 南北セクション(西より)
- 1区 ST5 北半セクション(西より)
- 図版19 1区 ST5 遺物出土状態(南より)
- 1区 ST5 遺物(89・98)出土状態(北より)
- 図版20 1区 ST5 遺物(109・115・121)出土状態(南より)
- 1区 ST6・SD9・10 南半セクション(西より)
- 図版21 1区 ST7 完掘状況(南東より)
- 1区 ST7・SK69 南半セクション(南より)
- 図版22 1区 ST8 完掘状況(垂直)
- 1区 ST8 南北セクション(東より)
- 図版23 1区 ST8 遺物(154)出土状態
- 1区 ST8 遺物(157)出土状態(北より)
- 図版24 1区 ST8 紡錘車(162)出土状態
- 1区 ST9 完掘状況(垂直)
- 図版25 1区 ST9・SK80 南北セクション(東より)
- 1区 ST9 遺物(164)出土状態(東より)
- 図版26 1区 ST8・10 完掘状況(東より)
- 1区 ST10 セクション(西より)
- 図版27 1区 ST10 遺物(190・203・204)出土状態(南より)
- 1区 ST10 遺物(180・212)出土状態(北東より)
- 図版28 1区 ST10 遺物(183・206・213)出土状態
- 1区 ST10_P1 遺物(196)出土状態(南西より)
- 図版29 1区 ST11 完掘状況(南より)
- 1区 ST11 東西セクション(南より)
- 図版30 1区 ST14 完掘状況(東より)
- 1区 ST15・19 完掘状況(東より)
- 図版31 1区 ST15 西半セクション(南より)
- 1区 ST15_P5 セクション(東より)
- 図版32 1区 ST16 完掘状況(北西より)
- 1区 ST16 東半セクション(南より)
- 図版33 1区 ST17 完掘状況(北東より)
- 1区 ST17 東西セクション(南より)
- 図版34 1区 ST17_P27 遺物(331)出土状態
- 1区 ST18 東半セクション(南より)
- 図版35 1区 ST19 セクション(南より)

- 1区 ST19_P2 炭化物出土状態(北より)
- 図版36 1区 ST19_P2 セクション(東より)
- 1区 ST20 セクション(南より)
- 図版37 1区 ST20_P10 セクション(東より)
- 1区 ST22・SK83 セクション(南東より)
- 図版38 1区 SB1 完掘状況(東より)
- 1区 SB1_SK142 完掘状況(南より)
- 図版39 1区 SB1_SK143・147 完掘状況(北より)
- 1区 SB1_SK144 完掘状況(北より)
- 図版40 1区 SB1_SK151 完掘状況(西より)
- 1区 SB1_SK154 完掘状況(南より)
- 図版41 1区 SB1_SK155 完掘状況(南より)
- 1区 SB1_SK162 完掘状況(西より)
- 図版42 1区 SB1_SK171 完掘状況(北より)
- 1区 SB1_SK172 完掘状況(北より)
- 図版43 1区 SB56 完掘状況(南より)
- 1区 SB23_P1135 遺物(381)出土状態(南より)
- 図版44 1区 SB37_P696 遺物(390)出土状態(北より)
- 1区 SA1 完掘状況(北より)
- 図版45 1区 SA1_SK2 セクション(東より)
- 1区 SA1_SK6 完掘状況(南より)
- 図版46 1区 SA1_SK6 セクション(南より)
- 1区 SA1_SK6 柱痕完掘状況(南より)
- 図版47 1区 SA1_SK8 セクション(西より)
- 1区 SA1_SK9 完掘状況(東より)
- 図版48 1区 SA1_SK12 セクション(北西より)
- 1区 SA1_SK12 完掘状況(東より)
- 図版49 1区 SA1_SK39 セクション(西より)
- 1区 SK57 完掘状況(南より)
- 図版50 1区 SK31・36 セクション(東より)
- 1区 SK32・43 セクション(西より)
- 図版51 1区 SK71・75 セクション(東より)
- 1区 SK84・85・115 セクション(南より)
- 図版52 1区 SK105 セクション(南より)
- 1区 SK105 遺物(439・441)出土状態
- 図版53 1区 SK112 東半セクション(北より)
- 1区 SK133 完掘状況(東より)
- 図版54 1区 ハンダSK1 完掘状況(南より)

図版目次

- 1区 ST1_P3(井戸) セクション(東より)
- 図版55 1区 SD3・5・6 セクション(南より)
- 1区 SD5 セクション(南より)
- 図版56 1区 SX2 セクション(南より)
- 1区 P1 根石出土状態
- 図版57 1区 SD10 石列検出状況(北より)
- 1区 P21 遺物(510)出土状態(西より)
- 図版58 1区 P647 土器棺(526)完掘状況(北より)
- 1区 SA2_P753 遺物(405)出土状態(西より)
- 図版59 1区 遺物(556)出土状態(P782)
- 1区 P911 遺物(536)出土状態
- 図版60 1区 P1092 遺物出土状態(南より)
- 1区 P1606 遺物(549)出土状態
- 図版61 1区 西半部・2-1区 空中写真(垂直)
- 図版62 2・3区 空中写真(西より)
- 図版63 2-2区 調査前風景(東より)
- 2-4・3区 調査前風景(北東より)
- 図版64 2-1区 遺構検出状況(東より)
- 2-4・3区 遺構検出状況(東より)
- 図版65 2-1区 上面遺構完掘状況(西より)
- 2-1区 遺構完掘状況(西より)
- 図版66 2-1区 遺構完掘状況(東より)
- 2-2・2-3・3区 遺構完掘状況(東より)
- 図版67 2-2区 遺構完掘状況(東より)
- 2-3区 遺構完掘状況(東より)
- 図版68 2-1区 調査区北壁セクション(南東より)
- 2-2区 調査区北壁セクション(南西より)
- 図版69 2-2区 調査区北壁セクション(南より)
- 2-3区 調査区北壁セクション(南西より)
- 図版70 2-3区 調査区北壁セクション(南より)
- 2-4区 調査区北壁セクション(南東より)
- 図版71 2-1区 ST6 完掘状況(北西より)
- 2-1区 ST12 完掘状況(西より)
- 図版72 2-1区 ST12_P7 セクション(西より)
- 2-1区 ST12 遺物(252・254)出土状態
- 図版73 2-1区 ST13 東西セクション(南東より)
- 2-1区 ST13 遺物(260)出土状態
- 図版74 2-3区 ST23 東半セクション(南より)

- 2-3区 ST23 遺物(625・626・630)出土状態(南より)
- 図版75 2-3区 ST23 遺物(626・630)出土状態(西より)
- 2-3区 ST23 遺物(625・626)出土状態(西より)
- 図版76 2-4区 ST24 東半セクション(南より)
- 2-4区 ST24 遺物(640)出土状態(南より)
- 図版77 2-4区 ST25 東半セクション(北より)
- 2-4区 ST25 遺物(647・671・674)出土状態(北より)
- 図版78 2-4区 ST25 遺物(668)出土状態(北より)
- 2-4区 ST25 遺物(694)出土状態(南東より)
- 図版79 2-4区 ST26 南北セクション(東より)
- 2-4区 ST26 遺物出土状態(東より)
- 図版80 2-4区 ST26 遺物(723・735・738)出土状態(北より)
- 2-4区 ST26 遺物(713)出土状態(南より)
- 図版81 2-4区 ST26 遺物出土状態(東より)
- 2-4区 ST26 遺物(751)出土状態(北より)
- 図版82 2-4区 ST26 遺物(752)出土状態
- 2-1区 SB18_P58 遺物(787)出土状態(東より)
- 図版83 2-1区 SK13 集石出土状態(南より)
- 2-4区 SK32 遺構完掘状況(北より)
- 図版84 2-1区 SD14・15 セクション(西より)
- 2-1区 P205 遺物(810)出土状態
- 図版85 2-1区 P271 遺物(814)出土状態(東より)
- 2-2区 SB7_P322 遺物(776)出土状態(南より)
- 図版86 2-2区 SB7_P322 遺物(775)出土状態(北より)
- 2-3区 SB3_P421 遺物(774)出土状態(北より)
- 図版87 2-4区 SB2_P449 セクション(北より)
- 2-4区 P456 遺物(821)出土状態(北より)
- 図版88 3・2-2・2-3区 空中写真(南より)
- 3・2-2・2-3区 空中写真(北より)
- 図版89 3・2-4区 調査前風景(西より)
- 3区 遺構完掘状況(東より)
- 図版90 3区 遺構検出状況(東より)
- 図版91 3区 遺構完掘状況(東より)
- 図版92 3・2-4区 遺構完掘状況(東より)
- 3区 調査区北壁セクション(南西より)
- 図版93 3区 ST1 完掘状況(東より)
- 3区 ST1 南半セクション(西より)
- 図版94 3区 ST1 北半セクション(西より)

図版目次

- 3区 ST2 完掘状況(東より)
- 図版95 3区 ST2 セクション(南より)
- 3区 ST2 遺物(880)出土状態(北より)
- 図版96 3区 ST3 セクション(南より)
- 3区 ST4 セクション(西より)
- 図版97 3区 ST6_中央ピット セクション(東より)
- 3区 SB29 完掘状況(東より)
- 図版98 3区 SB13_P298 遺物(971)出土状態(北より)
- 3区 SB14_P321 根石出土状態(東より)
- 図版99 3区 SB29_P179 遺物(943)出土状態
- 3区 SB30_P660 遺物(945)出土状態(南東より)
- 図版100 3区 SK1 遺物(949)出土状態(東より)
- 3区 SK2 セクション(西より)
- 図版101 3区 SK4 セクション(北より)
- 3区 SK27 セクション(北より)
- 図版102 3区 SK29 セクション(東より)
- 3区 SK32 遺物(953)出土状態(北より)
- 図版103 3区 SK33 セクション(北より)
- 3区 SG1 遺物(954)出土状態(南より)
- 図版104 3区 SG1 セクション(南東より)
- 3区 SD6 セクション(南東より)
- 図版105 3区 SD6・P138 セクション(西より)
- 3区 SD7 セクション(南より)
- 図版106 3区 SD10・11 セクション(東より)
- 3区 SD15 遺物(961)出土状態(南より)
- 図版107 3区 P12 遺物(962)出土状態
- 3区 P128 遺物(965)出土状態(東より)
- 図版108 3区 P180 遺物(966)出土状態
- 3区 P631 根石出土状態(西より)
- 図版109 3区 SB2_P712 遺物(921)出土状態(南より)
- 3区 SB5_P720 遺物(929)出土状態(西より)
- 図版110 3区 SB8_P718 セクション(南より)
- 3区 検出面遺物(999)出土状態(東より)
- 図版111 線刻(218・392)
- 白吹き痕跡(291)
- 図版112 出土遺物写真(583～587・589・615～619)
- 図版113 出土遺物写真(85・187・276・474)
- 図版114 出土遺物写真(1・4・6・26・29・31)

- 図版 115 出土遺物写真(39・41～43・52・73)
 図版 116 出土遺物写真(82～84・86・89・90)
 図版 117 出土遺物写真(92～97)
 図版 118 出土遺物写真(98～103)
 図版 119 出土遺物写真(104～106・134・154・164)
 図版 120 出土遺物写真(178・180～184)
 図版 121 出土遺物写真(185・188・216・217・219・248)
 図版 122 出土遺物写真(256・258・260・265・295・333)
 図版 123 出土遺物写真(345・346・349・356・357・390)
 図版 124 出土遺物写真(434・445・464・475・482・485)
 図版 125 出土遺物写真(507・524・572・647・648・735)
 図版 126 出土遺物写真(11・24・35・57・69・70・75)
 図版 127 出土遺物写真(91・109・110・113・115・120・121・159)
 図版 128 出土遺物写真(190・193～196・198～200)
 図版 129 出土遺物写真(202～204・296・317・320・344・358)
 図版 130 出土遺物写真(359・395・452・470・492・496・554・610)
 図版 131 出土遺物写真(636・637・672～676・749)
 図版 132 出土遺物写真(12～14・59・61・74・111・112・114・116)
 図版 133 出土遺物写真(117～119・122～128)
 図版 134 出土遺物写真(129・130・132・201・206・208～210・212・213)
 図版 135 出土遺物写真(236・241・251・252・269・270・331・353・354・378)
 図版 136 出土遺物写真(382・394・405・422・439・444・467・468・502・523)
 図版 137 出土遺物写真(533・536・540・542～544・546・548～550)
 図版 138 出土遺物写真(551・666・667・750・851・873・875・912・921・978)

付図目次

- 付図1 若宮ノ東遺跡 1～3区遺構平面図(S=1/200)
 付図2 若宮ノ東遺跡 1～3区西側遺構平面図(S=1/100)
 付図3 若宮ノ東遺跡 1～3区東側遺構平面図(S=1/100)
 付図4 若宮ノ東遺跡 1～3区上層遺構平面図①(S=1/200)
 付図5 若宮ノ東遺跡 1～3区上層遺構平面図②(S=1/200)
 付図6 若宮ノ東遺跡 1～3区SB・SA遺構平面図①(S=1/300)
 付図7 若宮ノ東遺跡 1～3区SB・SA遺構平面図②(S=1/300)
 付図8 若宮ノ東遺跡 1～3区SA平面図・エレベーション図①(S=1/80)
 付図9 若宮ノ東遺跡 1～3区SA平面図・エレベーション図②(S=1/80)

第I章 調査に至る経緯

南国市篠原地区では、高知県が計画し高知県中央東土木事務所が施工する都市計画道路高知南国線の建設が予定されており、計画地内には若宮ノ東遺跡が所在する事が知られていた。このため、開発部局と文化財保護部局の高知県教育委員会が協議を行い、平成27年度に遺跡の規模、本調査の有無の確認を行うための試掘調査を実施する事になった。

試掘調査は高知県教育委員会が実施し平成27年8月4・5日に都市計画道路高知南国線計画地内の南国市篠原884-3を西端に同1715-3を東端としてトレンチを6ヶ所設定し行われた。

調査の結果、調査した6ヶ所のトレンチ全てで遺構を確認した。内4ヶ所のトレンチでは弥生時代末～古墳時代初頭の時期の大型土坑もしくは竪穴建物跡の一部を確認し、残りの2ヶ所でも複数の柱穴を確認している。また、遺物は弥生時代を中心に近世の陶磁器まで各時期の遺物が出土した。この結果や篠原地区区画整理事業に伴って南国市教育委員会によって平成26年度に行われた試掘調査の結果から、今回試掘調査を実施した範囲においては遺存状態が良好で遺構密度が高く、工事施行に先だって記録保存を目的とする発掘調査を行う必要があると判断された。

都市計画道路高知南国線建設工事に伴う若宮ノ東遺跡発掘調査は、事業主体である高知県から公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターが業務委託を受け、平成28年度より用地買収が行われ、調査可能な部分から開始し令和3年現在まで継続して調査が行われている。



図1 南国市位置図

発掘調査体制

平成28年度(1区・2-1区・3区)

吉成承三(調査課長)

坂本憲昭(調査第二班長), 江間盛男(専門調査員), 徳平涼子(主任調査員)

大原直美・片岡和美・前田早苗(調査補助員)

平成29年度(2-2区・2-3区・3区)

吉成承三(調査課長)

坂本憲昭(調査第二班長), 矢野雅子(調査員)

大賀幸子・岡林真史(調査補助員)

平成30年度(2-4区・3区)

吉成承三(調査課長)

坂本憲昭(調査第二班長), 下木千佳(調査員)

岡林真史・野崎益範(調査補助員)

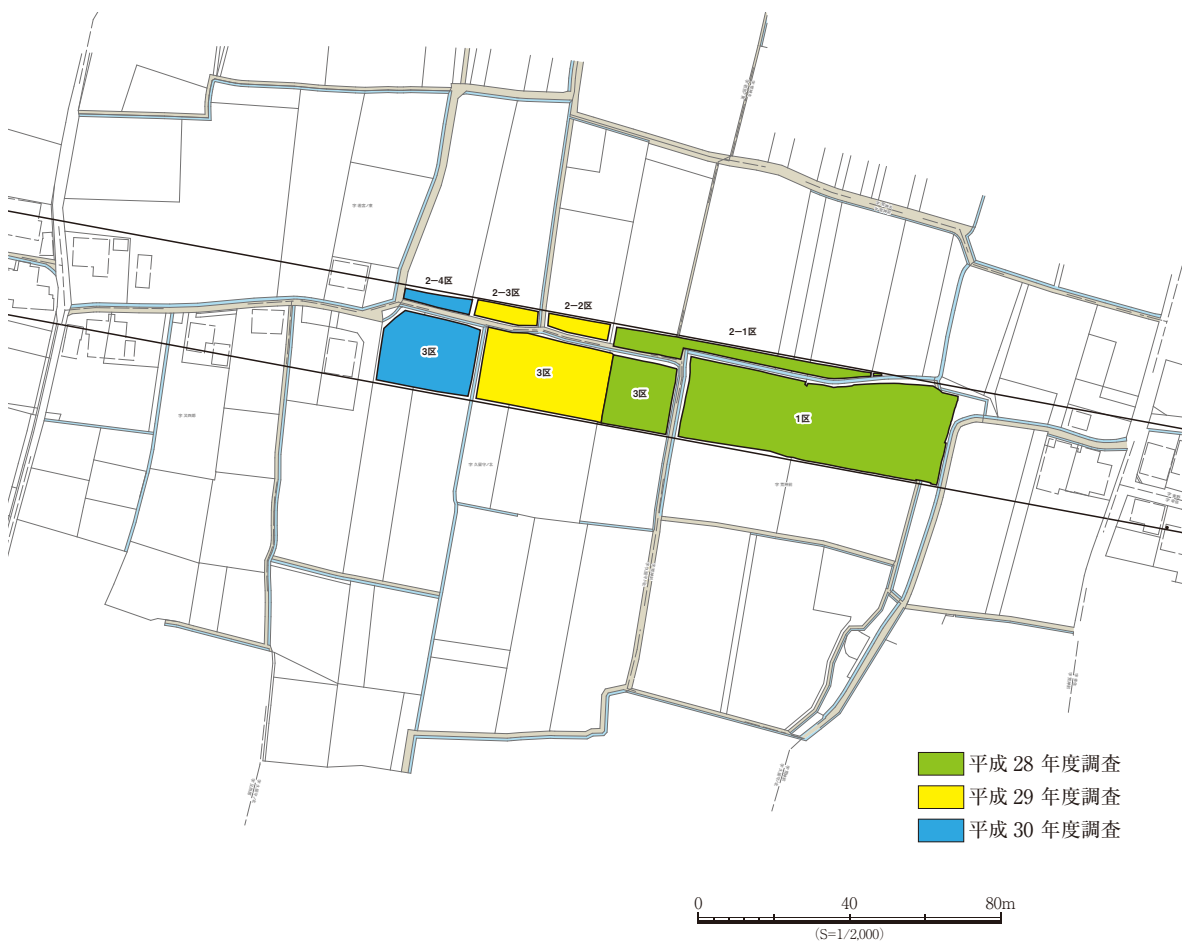


図2 報告書所収調査区位置図

第Ⅱ章 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

若宮ノ東遺跡は南国市篠原に所在する。南国市は、高知県の中央部に位置し、四国山地につながる北部の山地から太平洋に面する土佐湾岸までの細長い範囲を占め、市域の南側には高知県で最も広い香長平野の中央部を有している。行政区域的には西側を高知市、東側を香南市と香美市に隣接し、北側は嶺北地域の土佐町、本山町と接している。古代以来の行政区分としては、長岡郡と香美郡の一部が相当する。

南国市の中心部は北部の山地が開け海岸部分まで続く平野部分で、古代以来連綿と人々の営みの跡が確認され、高知県で最も遺跡の多い地域となっており、土佐国衙跡や土佐国分寺跡等が所在し、南国市の中心部だけでなく、近世にいたるまで高知県の中心であったことが窺える。

平野部は南国市の東限を区切る物部川と平野部北側を西に流れる国分川によって形成され地理的特徴付けされている。特に物部川は南国市平野部の大部分を占める香長平野を形成し、地形的に古期扇状地、新期扇状地、三角州、砂丘に分けられる。古期扇状地は開析され段丘となっており、香美市から西側にのびる長さ8km、最大幅2kmの舌状の所謂長岡台地と呼ばれる台地状地形を形成している。長岡台地は東側の香美市土佐山田町で標高約50mを測り、西端部の南国市小籠で標高8mとなり新期扇状地に沈む。台地の南北は崖線を形成しており、南側の崖線は東崎の高知県立高知農業高等学校付近までは比較的明瞭であるが、高度が下がるに従い不明瞭となってゆく。

新期扇状地は古期扇状地の南側、香美市岩積付近を頂部とする。これに従い上岡川、香我美川、田村川、下田川、介良川、明見川等の河道や旧河道跡が扇状に残存している。末端部の小籠南部、里改田字城付近、篠原南部から船岡山北部等は湧水し扇状端部湧水帯を形成している。

三角州は新期扇状地の先にひろがり、里改田等の香長平野南方の標高5mラインから海岸砂丘に至る部分と、明見、稲生、十市等の山稜の境に形成されたものがみられる。

遺跡が所在している篠原は南国市の中心部、南国市役所の西約1kmに位置しており、地形的には北側の一部が長岡台地西南端部にあたり大部分は新期扇状地である。南方には扇状端部湧水帯、西側の明見付近には三角州がみられる。遺跡は篠原北側の長岡台地端部に位置しており、標高は約7～8mを測る。洪積層とみられる砂礫層が基盤層となっている。

2. 歴史的環境

南国市は旧石器時代以来現在約300ヶ所の遺跡が登録されており、高知県で最も遺跡の多い地域として知られている。また、所在する遺跡も田村遺跡群をはじめ土佐国分寺跡、土佐国衙跡、岡豊城跡等各時代を代表する規模、内容であり高知県の歴史を知る上で重要な地域となっている。

旧石器時代では、奥谷南遺跡のみ確認されている。奥谷南遺跡は岡豊町小蓮に所在し南国市北側の山地が平野に変わる変化点に立地している。平成8年に四国横断自動車道建設に伴い発掘調査が行われ、ナイフ形石器、細石刃等の旧石器時代の遺物が多量に出土した。高知県では、南国市に隣接

2. 歴史的環境



図3 若宮ノ東遺跡周辺の遺跡地図

表1 若宮ノ東遺跡周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	若宮ノ東遺跡	弥生～近世	16	住吉山2号墳	古墳	31	上岡北遺跡	弥生・近世
2	忠兵衛遺跡	中世	17	住吉山3・4号墳	〃	32	上岡遺跡	弥生・平安
3	西野々遺跡	弥生～近世	18	吾岡山古墳	〃	33	下ノ坪遺跡	弥生～古代
4	関町田遺跡	弥生	19	吾岡山南遺跡	古墳～平安	34	北地遺跡	弥生～中世
5	田村西遺跡	弥生～近世	20	大篠遺跡	弥生	35	西野遺跡群	弥生～古代
6	田村遺跡群	縄文～近世	21	介良野遺跡	弥生・古墳	36	深淵遺跡	弥生～中世
7	里改田遺跡	弥生～中世	22	狸岩1～3号墳	古墳	37	深淵北遺跡	〃
8	秋葉山南平古墳	古墳	23	明見彦山1～3号墳	〃	38	岡豊城跡	中世
9	井山川1・2号墳	〃	24	竹ノ後遺跡	弥生・古墳	39	小蓮古墳	古墳
10	馬背古墳	〃	25	小籠遺跡	弥生～近世	40	国分大塚古墳	〃
11	馬背東1・2号墳	〃	26	越戸1・2号墳	古墳	41	土佐国分寺跡	古代
12	馬背西1号墳	〃	27	野中麿寺跡	平安	42	土佐国衙跡	〃
13	丸山古墳	〃	28	折年遺跡	縄文～近世	43	比江麿寺跡	〃
14	坂ノ松古墳	〃	29	年越山1～3号墳	古墳	44	金地遺跡	弥生
15	住吉山1号墳	〃	30	東崎遺跡	弥生～中世	45	岩村土居城跡	弥生～中世

する高知市高天ヶ原山に所在する高間原古墳群の調査の際に石室から出土したチャートの細石刃核が出土して以来、旧石器遺跡の調査は低調で高知県西部地域で遺物単独の発見例があるのみであった。奥谷南遺跡の調査では、2つの巨岩の前庭部に旧石器人の生活が営まれたことが想定され、周辺には石器の石材となるチャートがみられることなど、遺構と遺物が伴い旧石器時代の生活復元が可能となり高知県の旧石器時代研究の時代を画する遺跡となった。

縄文時代では、最も古い草創期は奥谷南遺跡で確認されている。早期も同じく奥谷南遺跡でのみ確認されており、平椀式や手向山式等の九州系の土器が出土し注目される。南国市以外の物部川流域では香美市の刈谷我野遺跡で厚手の無文土器や押型土器が出土している。前期は引き続き奥谷南遺跡で遺物がみられる程度で遺跡の展開は低調である。中期は高知県全体で遺跡の展開は低調な時期で、南国市でも連綿と続く奥谷南遺跡以外には、祈年遺跡、田村遺跡群で散発的に遺物がみられる程度である。しかし、祈年遺跡、田村遺跡群の存在は、それまでの立地から新期扇状地でも遺跡が展開し始める画期を示唆する可能性が考えられ注目される。

縄文時代後期になると確認されている遺跡数は高知県全体で増加する。南国市でも栄エ田遺跡や田村遺跡群等で多くの遺物が出土している。特に田村遺跡群は新期扇状地の中でも低地に立地し、以前の遺跡の立地から大きく異なっている。また遺物の出土でも、九州系の鐘崎式が多く出土することや、打製石斧、石錘が多く出土しており遺跡の立地とともに生業の変化を窺わせる遺跡となっている。

晩期になると確認されている遺跡数は少なくなる。南国市でも栄エ田遺跡で晚期中葉から後半までの土器が出土している他、田村遺跡群で確認されているのみで、いずれも弥生時代の遠賀川式土器との共伴はなく、縄文から弥生への連続性は確認できない。

弥生時代は遺跡の数が飛躍的に増加する。南国市は早くから弥生時代の遺跡が調査され、高知県で最も弥生時代史研究が進んだ地域と言える。特に物部川右岸の沖積地に立地する田村遺跡群は高知県最大の弥生時代の集落遺跡で前期から後期半ばまで連綿と地域の中心的な集落であり、高知県の弥生時代史研究の中心であった。田村遺跡群の集落が縮小する後期後半はそれまで遺跡の存在が希薄であった古期扇状地である長岡台地上まで弥生集落が展開し増加してゆく。後免駅近くの高知県立高知農業高等学校で発見された東崎遺跡からは多くの鉄器が出土しており、新しい立地である古期扇状地上に遺跡が展開する一因を示唆しているものと考えられる。この時期、規模も大きくなり、遺跡の範囲は直径500m程度の範囲に及んだと考えられる。各遺跡間は遺構が希薄な縁辺部を挟んで連続しており、その中心として東崎遺跡やひびのき遺跡などが存在していると考えられ、東崎遺跡の西方約1.5kmに所在する若宮ノ東遺跡もこの様な遺跡の可能性が考えられる。

古墳時代は、集落遺跡では長岡台地上やその段丘崖下に営まれた弥生時代後期末～古墳時代初頭まで連続するものが多くみられるが、中・後期まで継続するものはみられず、中・後期の集落遺跡は祈年遺跡が調査されるまで状況が明らかでなかった。祈年遺跡では竈付き堅穴建物跡が多く検出され、配置に規則性が看取でき計画的な集落設計の可能性が指摘されている¹。古墳では前期古墳は、高知県西部の宿毛市で3基確認されているのみで、南国市の所在する高知県中央部では確実なものはない。後期になると南国市近辺では古墳群としてのまとまりのある群集墓や土佐三大古墳の明見彦山1号墳、小蓮古墳が確認されている。若宮ノ東遺跡周辺では北方約800mに年越山・坂折山、西方約2.2kmの高天原ヶ山をピークとする山塊には高間原古墳群や狸岩古墳群が確認でき、

2. 歴史的環境

南方約 1.1km には吾岡山、船岡山に群集墓が築かれている。土佐三大古墳の明見彦山 1 号墳は高天原ヶ山の東側の彦山に所在する直径約 14m の円墳で 6 世紀末から 7 世紀初頭に築造されたと考えられており、被葬者は南国市の南部にひろがる平野部の西半を代表する地域首長だった可能性が指摘されている。なお、南国市北部の岡豊町に所在する小蓮古墳は明見彦山 1 号墳より墳丘、石室とも規模が大きく少なくとも高知平野レベルの領域を代表し、地域首長を統合する盟主的存在であったと清家章は指摘している²。

古代、南国市は高知県の中心地であったと言える。国分川流域の比江では土佐国衙跡や国分尼寺に推定されている比江廃寺跡が残り、その西方約 900m には現在でも土佐国分寺が所在している。大化の改新以降、律令制が施行され班田収授のために条里制が整備され、南国市では香長平野と土佐国衙跡周辺国分、久礼田に現在まで条里痕跡と考えられる地割が残されている。しかし、二地域の地割は基軸方向が異なっており、それぞれ別に施工されたと考えられている。香長平野の条里の痕跡は、物部川西岸からひろがり、南国市の平野部の大部分を占め西側は高知市大津付近まで残存している。市ノ坪丸や二ノ坪等の坪地名も残され条里の復元研究が早くから行われており³、香長平野の中に存在する長岡郡と香美郡の N-12° -E とやや東に傾く南北方向の直線的な郡境線が条里の基軸線となっていると考えられている。この基軸線は現在確認されている香長平野の古代官衙関係遺構も規定していると考えられ、官衙関係建物跡の方向は概ね基軸線から誤差の範囲内におさまるものと考えられる。若宮ノ東遺跡が所在する篠原は古代の国郡里制では長岡郡篠原郷にあたり、香長条里の地割の痕跡が現在まで残っている。周辺の古代遺跡では、北側約 700m に野中廃寺跡が所在している。野中廃寺跡には基壇と考えられる高まりが 2ヶ所残存し、現存する規模は北側の高まりは、東西 18m、南北 10m を測る。南側のもは東西 12.5 m、南北 5 m を測り、その多くが削平を受けたと考えられている³。発掘調査が昭和 38 年と平成 3 年に実施されており、瓦が多量に出土しているが、いずれも両基壇部分のみの規模の小さなもので、創建年代等詳細は明らかでなく、出土瓦が平安時代に位置付けられる可能性を指摘するにとどまっている。また野中廃寺跡の北側の坂折山北麓には「続日本紀」慶雲三年(706)二月の条に記載される「祈年幣帛」を行ったとされる祈年神社が鎮座している。祈年幣帛が行われた神社は官社であり、官社は国家から地方に建て与えられた施設で、官社の施設の維持管理は最終的に国司の責任とされ、祭祀には国司自らが幣帛を奉じる。すなわち、国家のための祭祀施設であったと考えられる。国家の地方支配と密接に結びついた施設がこの地域に所在したことは注目される。

中世、鎌倉時代は不明な点が多く、鎌倉幕府によって国ごとに設置された守護の守護所は高知県では現在まで不明である。一方古代以来の国衙は南国市にあり続けており、四国の他の 3ヶ国では国衙と守護所が近接して確認されていることや後続する室町時代では守護代館の田村城館が香長平野に所在していることから南国市内に守護者が所在した可能性が高いと考えられ、鎌倉期においても南国市は古代に引き続き高知県において重要な地域であったと考えられる。幕府により地頭が各地域に置かれ、武士が地域の支配者として成長していくのもこの時期で、香長地域の中では長宗我部氏、香宗我部氏が代表的な存在としてあげられる。長宗我部氏は香宗我部氏に比べ一次資料がなく確かなことは不明であるが、秦能俊が平安末から鎌倉初頭に土佐に入り長岡郡宗我部郷に住したとされており、南北朝期の吸江文書では足利尊氏から長宗我部・香宗我部両氏宛の文書がみられ鎌倉期を通じて両氏は軌を一に在地の有力者となっていたことが窺える。

室町時代になると土佐は初期の一時期を除いて細川京兆家の守護領国となる。細川京兆家は幕府管領職として在京しており、実質の領国支配は細川氏庶流の細川遠州家が康暦二年(1380)に細川頼益が守護代として入国以来、応仁の乱で勝益が永正四年(1507)に退転するまで四代約100年間在国して領国経営を行い、その拠点としての守護代館を物部川右岸の南国市田村に置いた。田村城跡の詳細は不明な点が多いが、古くから復元研究がなされ島田豊寿氏が地形復元による歴史地理学的手法から三重の堀と土塁をそなえた複郭式城郭であったと提唱し通説となっていた。田村地域の発掘調査は、高知空港建設に伴う二度の田村遺跡群の調査や南国市教育委員会による平成16年度からの重要遺跡確認調査等によって行われた。これらの調査から田村城跡が営まれた時期を含む14世紀から16世紀の環溝屋敷群や断片的ではあるが田村城跡に伴う二重の堀跡が検出され内堀の規模がほぼ確定されている。また外堀からは大永年間(1521～1527)の転読札が出土しており細川勝益退去後もしばらくは田村城跡が機能していたことがわかっている。この後、室町幕府の守護両国体制は崩壊し、「七守護」と呼ばれる一条氏や大平氏、本山氏、長宗我部氏等の有力在地国人たちによる群雄割拠の戦国時代となり、最終的に長宗我部氏により土佐統一がなされる。長宗我部氏の拠点であった南国市岡豊町には岡豊城跡が遺され高知県教育委員会、南国市教育委員会の継続的な発掘調査によってその構造が明らかとなり平成20年には国指定史跡となっている。長宗我部氏は豊臣政権により進められた検地を土佐において実施し、長宗我部地検帳を残しており、江戸時代の山内氏を経て現在に伝わり、高知県における地域の土地所有がわかるだけでなく社会構造の解明、旧地名の確定による歴史地理学的景観復元に大きく寄与している。地検帳に記載された南国市の地高は現南国市分約2200町で屋敷地は約3450ヶ所で居住屋敷地は1900ヶ所程度あったと復元されており、若宮ノ東遺跡が所在する南国市篠原地区は長岡郡大桶郷分に記載され、大桶郷分と合わせて地高は237町5反41代1歩で屋敷地は209ヶ所、居住屋敷地は132ヶ所が記されている。地高の半分以上が非在地給人の年貢収取地となっており、長宗我部氏の支配の進んだ地域であったことが窺える。篠原地域では有力な土豪や城跡等は長宗我部地検帳やその他の文献では確認できないが、小字としての的場邸、土居等が残っており戦国時代末には長宗我部氏の支配地となっているがそれ以前は在地有力者が存在していたことが窺わせる。

近世、江戸時代に入ると土佐国の支配は長宗我部氏から山内氏に移り、高知城とその城下町が建設され、古代以来土佐の行政の中心地であった南国市はその地位を高知市に譲ることとなったが、藩政初期の野中兼山による山田堰の建設に伴う舟入川、中井川への導水は南国市域にも大きな影響を及ぼし従来の穀倉地帯としての生産力を更に向上させた。現在の後免町に当たる稲吉には在郷町が営まれ、文化年間(1804～1817)には町家200軒を数えるほど発展したことが伝わっている。遺跡の所在する篠原村は在郷町に近接する地域で、寛保三年(1743)の記録では地高774石、戸数117戸、人口533人と記されている。

近代以降明治になり篠原地区は大桶、明見とともに長岡郡大篠村となり、昭和に香長村、南国市となり現在にいたっている。

註

- 1 2006年 『南国市における大型後期古墳の調査』 高知大学人文学部考古学研究室 P27
- 2 丸山茂 2017年 「八・九世紀の神社造営―官社としての神社の成立とその衰退」 『建築史学第68号』

2. 歴史的環境

3 岡本健児・広田典夫 1963年 『野中廃寺緊急調査報告書』 高知県文化財調査報告書第13集

参考文献

南国市史上巻 1979年 南国市史編纂委員会

地区別小字図集 南国市史資料

大脇保彦 1982年 「土佐の条里」 『高知の研究2』

久家隆芳 2007年 「高知県中央部における弥生～古墳時代の集落について」 『土佐山田史談第31号』 土佐山田史談会

竹崎 仁 2004年 「古代土佐国における物部川流域の歴史地理学的考察」 『土佐山田史談第28号』 土佐山田史談会

2012年 『祈年遺跡Ⅳ』 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

2001年 『奥谷南遺跡Ⅲ』 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

2004年 『田村遺跡群Ⅱ』 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

2015年 『田村遺跡群Ⅲ』 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

2008年 『田村城跡』 南国市教育委員会

2006年 『南国市における大型後期古墳の調査 高知大学考古学調査研究報告第3冊』 高知大学人文学部考古学研究室

2005年 『刈谷我野遺跡Ⅰ』 高知県香美郡香北町教育委員会

第三章 調査成果

第1節 調査の方法と基本層序

1. 調査の方法

試掘確認調査の結果をもとに表土は重機で掘削し、遺構検出及び遺構掘削については人力により掘削した。遺構完掘後、高所作業車により全景写真を撮影し、空中写真測量によって平面図を作成した。その他、必要に応じて断面図、遺物出土状態図を任意の縮尺で作成した。

グリッドの設定は世界測地系に基づく公共座標により100m四方の大グリッド、20m四方の中グリッド、4m四方の小グリッドを設定した。測量は世界測地系第4座標系(IV系)の基準点を使用し、X=64,300m, Y=11,700m(北緯33°34'47", 東経133°37'33", 真北方向角-0°04'10")を原点とし、A1(100mグリッド:大グリッド)を組んだ。大中小グリッドの間は「-」で区切って表記している。このグリッド、座標を使用して遺構の平面図、遺物出土状態等の実測、出土遺物の取り上げを行った。

遺構名は、基本的には検出及び調査順に大調査区毎に連番を付し、調査時に付した遺構名で報告した。竪穴建物跡をST、掘立柱建物跡をSB、柵列跡をSA、土坑跡をSK、井戸跡をSE、溝跡をSD、土器棺墓をSG、性格不明遺構をSX、ピット・柱穴をPの略号としてそれぞれ使用した。STについては、平成28年度調査分(1区と2-1区)で連番として遺構番号を付し、SB・SAは整理作業時に付した。なお、掘立柱建物跡に復元できそうなものを積極的に取りあげた。同じ柱穴を複数の掘立柱建物跡の復元に使用したものもある。

2. 基本層序

基本層序は1区では東壁で、2-1区・2-2区・3区では北壁で、さらに3区では西壁でも確認し図示した。1区の東壁は、第1層は5cm大の礫を少量含む黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂層で表土であり、第1'層は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト層で床土か、第2層は黄色シルトブロックを少量含む黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト層で遺物包含層であり、第2'層は黄色シルトブロックを多く含む黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト層、第3層は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルト層で地山であり、遺構は第3層上面で検出した。第4層は5mm大の礫を少量含む暗褐色(10YR3/4)中粒砂質シルト層、第5層は粗粒砂を含むにぶい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト層、第6層は1～5cm大の円礫を多量に含むにぶい黄褐色(10YR5/4)礫質粗粒砂層、第7層はにぶい黄褐色(10YR4/3)極粗粒砂層、第8層は1～5cm大の円礫を多量に含むにぶい黄褐色(10YR4/3)礫質極粗粒砂層、第9層は1cm大の礫を含む灰黄褐色(10YR4/2)極粗粒砂層、第10層は1～20cm大の円礫を含むにぶい黄褐色(10YR4/3)礫質極粗粒砂層で、すべて地山である。

2-1区の北壁は、第1層は1cm大の礫と炭化物を含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト層で表土であり、第2層は1～3cm大の礫を含む黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト層で遺物包含層であり、第3層は黒褐色(7.5YR2/2)細粒砂質シルト層で土器を含む遺物包含層であり、第4層は褐色(10YR4/4)シルト質細粒砂層で地山であり、第5層は黒褐色(7.5YR3/2)シルト質細粒砂層で地山であり、第6層は0.5～3cm大の礫を多く含む褐色(10YR4/4)シルト質細粒砂層で地山であり、第7層は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルト層で地山である。

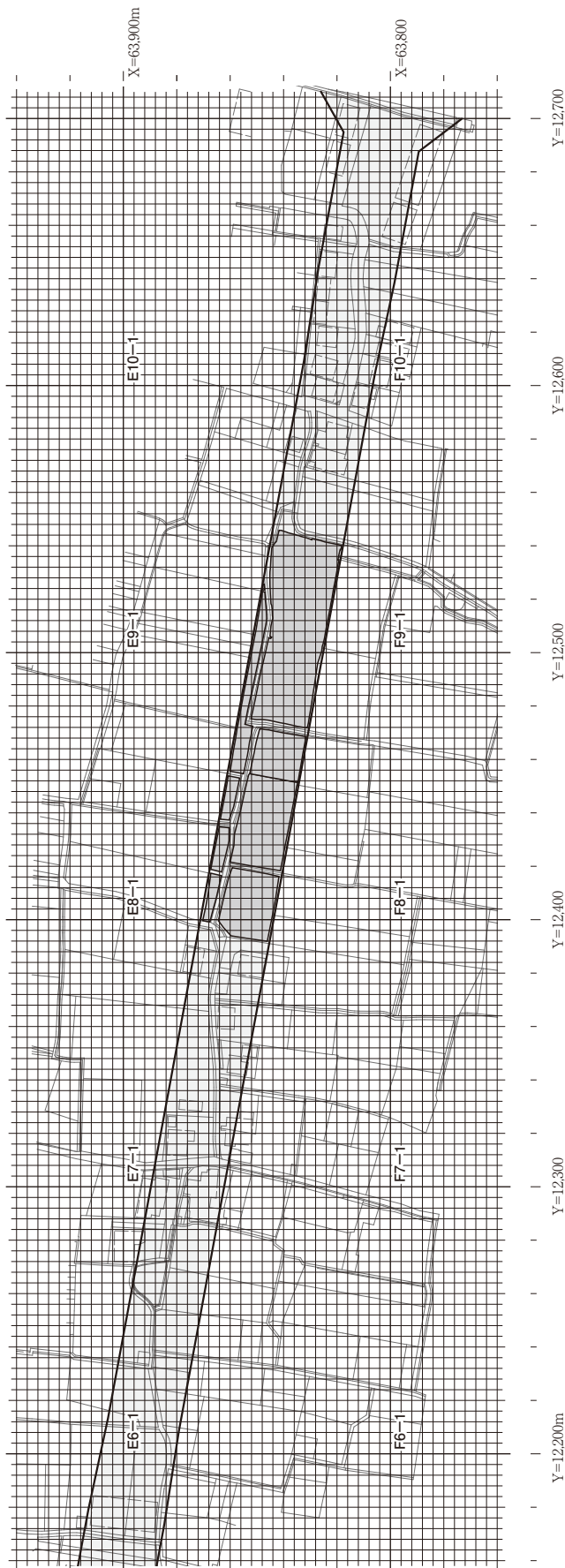


図4 グリッド設定図 (S=1/2, 500)

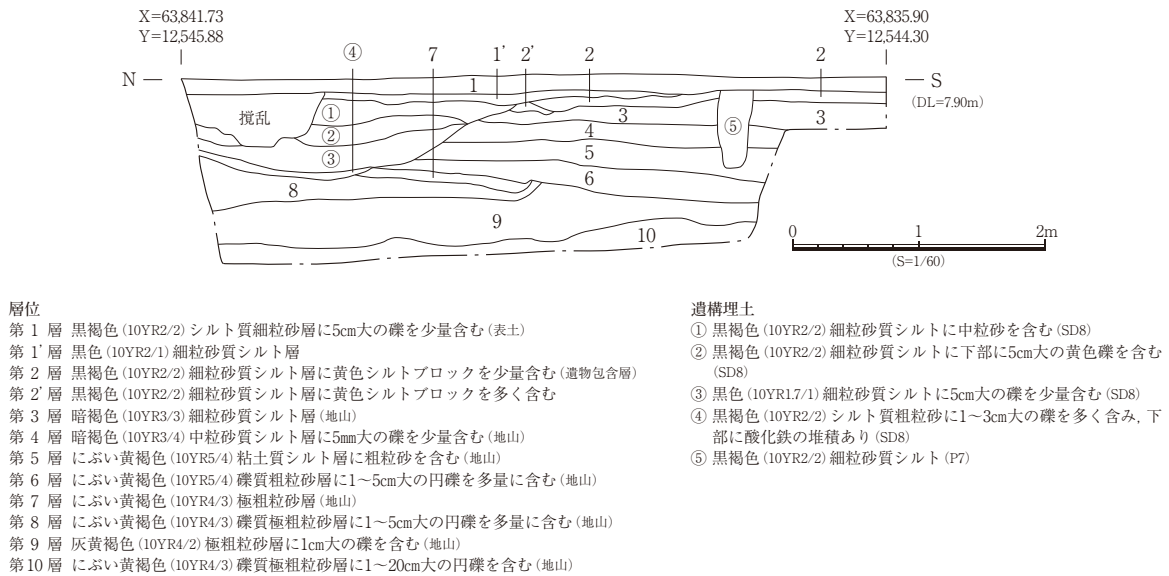
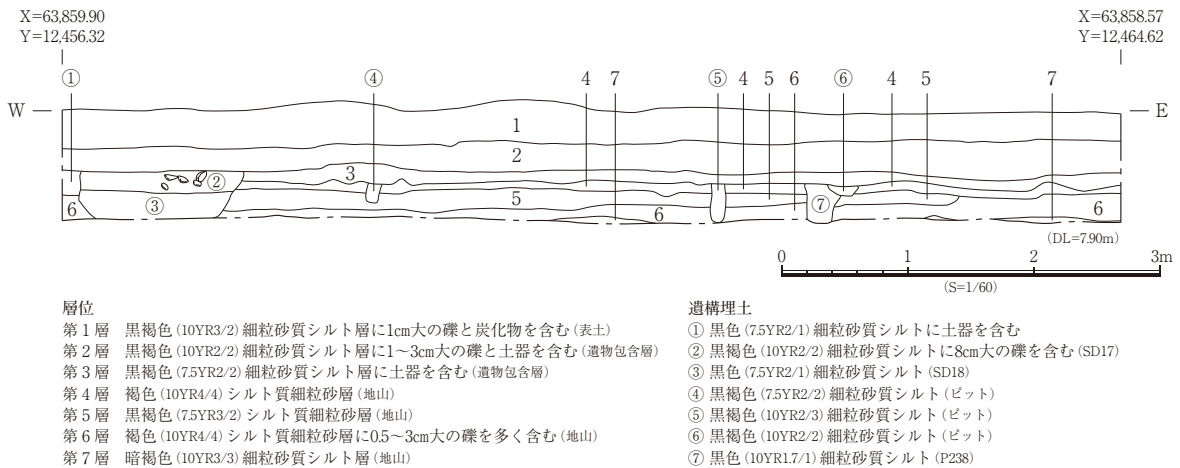


図5 1区 基本層序

2-1 区



2-2 区

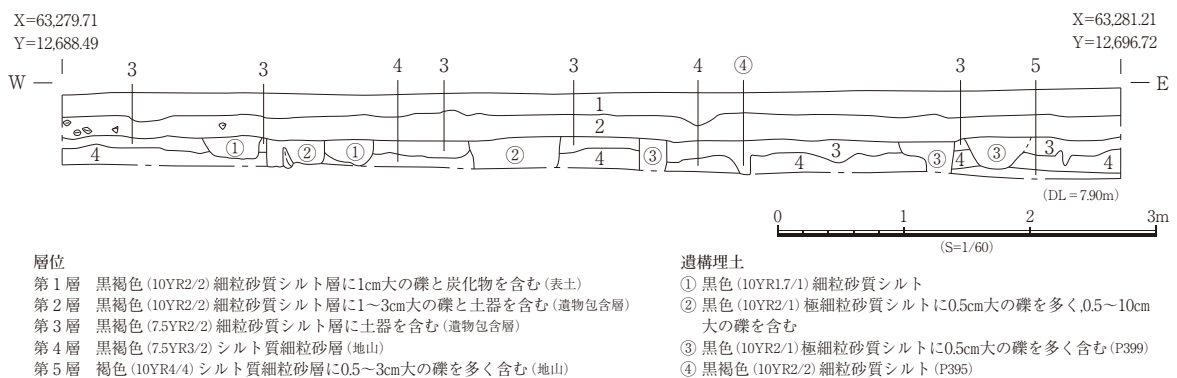
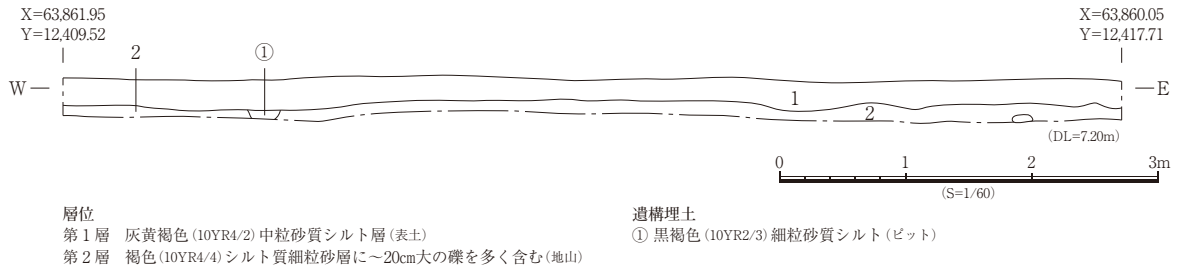


図6 2区 基本層序

第1節 調査の方法と基本層序

北壁



西壁

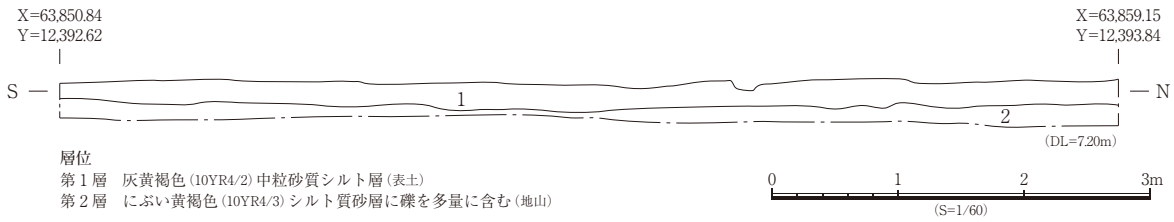


図7 3区 基本層序

2-2区の北壁は、第1層は1cm大の礫と炭化物を含む黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト層で表土であり、第2層は1～3cm大の礫を含む黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト層で遺物包含層であり、第3層は黒褐色 (7.5YR2/2) 細粒砂質シルト層で遺物包含層であり、第4層は黒褐色 (7.5YR3/2) シルト質細粒砂層で地山であり、第5層は0.5～3cm大の礫を多く含む褐色 (10YR4/4) シルト質細粒砂層で地山である。

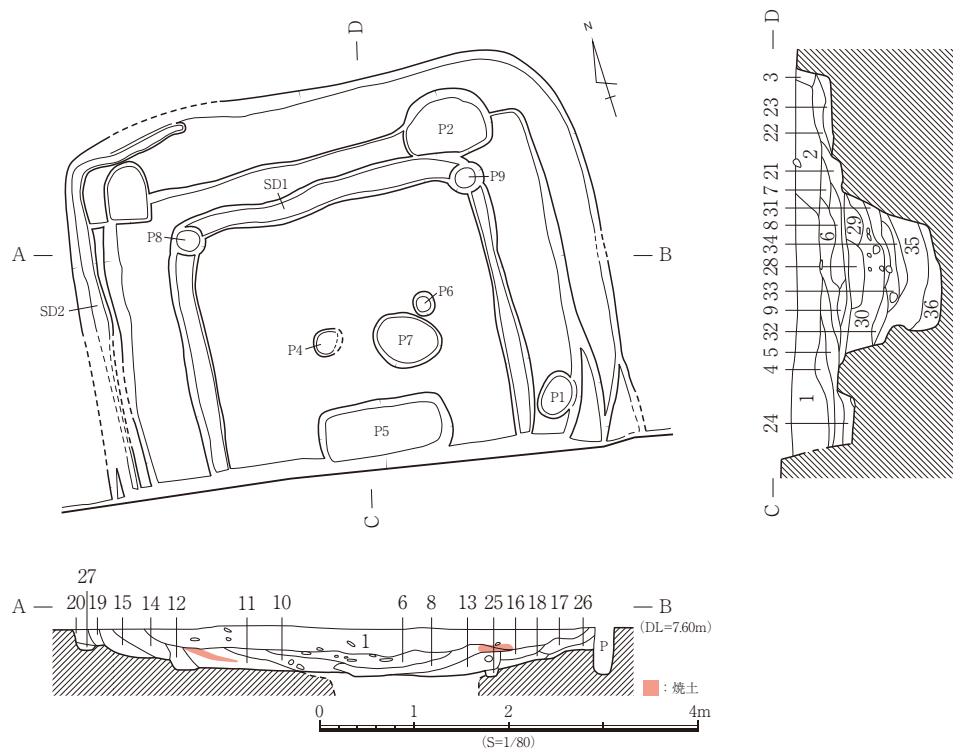
3区の北壁は、第1層は灰黄褐色 (10YR4/2) 中粒砂質シルト層で表土であり、第2層は20cm大以下の礫を多く含む褐色 (10YR4/4) シルト質細粒砂層で地山である。西壁は、第1層は灰黄褐色 (10YR4/2) 中粒砂質シルト層で表土であり、第2層は礫を多量に含むにぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト質砂層で地山である。

第2節 1区

1. ST

ST1

ST1は1区南東部で検出した平面形が隅丸方形の竪穴建物跡であり、調査区外にひろがる。一辺5.6m、床面積は31.3㎡を測る。主軸方向はN-6°-Eである。検出面から床面までの深さは約50cmであり、埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。床面ではベッド状遺構、中央ピット(ST1_P5)、支柱穴(ST1_P8・9)、壁溝(ST1_SD2)、支柱穴を連結する小溝(ST1_SD1)等の遺構を検出した。ベッド状遺構は調査区外へひろがる南辺を除いた各辺で検出していることから全周に巡っていたと推測さ



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに0.5cm大の礫と炭化物と土器を含む
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに0.5cm大の礫を含む
3. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト
4. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに焼土と炭化物を含む
5. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに0.5cm大の礫と炭化物を含む
6. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物を多く含む
7. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに中粒砂と0.5cm大の礫を含む
8. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに焼土と炭化物を多量に含む
9. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物を多量に含む
10. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに焼土と炭化物を多量に含む
11. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに焼土と炭化物を多量、1~3cm大の礫を少量含む
12. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに中粒砂と炭化物を含む
13. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物を多量に含む
14. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに焼土と炭化物を含む
15. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量含む
16. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量含む
17. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト
18. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに中粒砂を少量含む
19. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに中粒砂を少量含む
20. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに中粒砂を少量含む
21. 黒褐色(10YR3/2)中粒砂質シルトに炭化物と1cm大の礫を含む
22. 暗褐色(10YR3/4)中粒砂質シルトに黄色シルトブロックと0.5cm大の礫を含む(ベッド)
23. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと3~5cm大の礫を含む(ベッド)
24. 黒褐色(10YR2/3)中粒砂質シルトに炭化物を多量に含む(ST1_P5)
25. 黒褐色(10YR2/2)粗粒砂質シルトに1cm大の礫を多く含む(ST1_SD1)
26. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと5cm大の礫を含む(ベッド)
27. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに中粒砂を少量含む(ST1_SD2)
28. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに黄色のシルトブロックを多く、炭化物と3~5cm大の礫を少量含む(ST1_P3)
29. 濃い黄褐色(10YR4/3)粗粒砂質シルトに1cm大の礫を多く、10cm大の礫を少量含む(ST1_P3)
30. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに炭化物と5~10cm大の礫を含む(ST1_P3)
31. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに極粗粒砂と1cm大の礫を多く含む(ST1_P3)
32. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに1cm大の礫を少量含む(ST1_P3)
33. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物を多く、粗粒砂を含む(ST1_P3)
34. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに粗粒砂を含む(ST1_P3)
35. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに粗粒砂と1cm大の礫を含む(ST1_P3)
36. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに極粗粒砂と1~3cm大の礫を含む(ST1_P3)

図8 1区 ST1 平面図・断面図

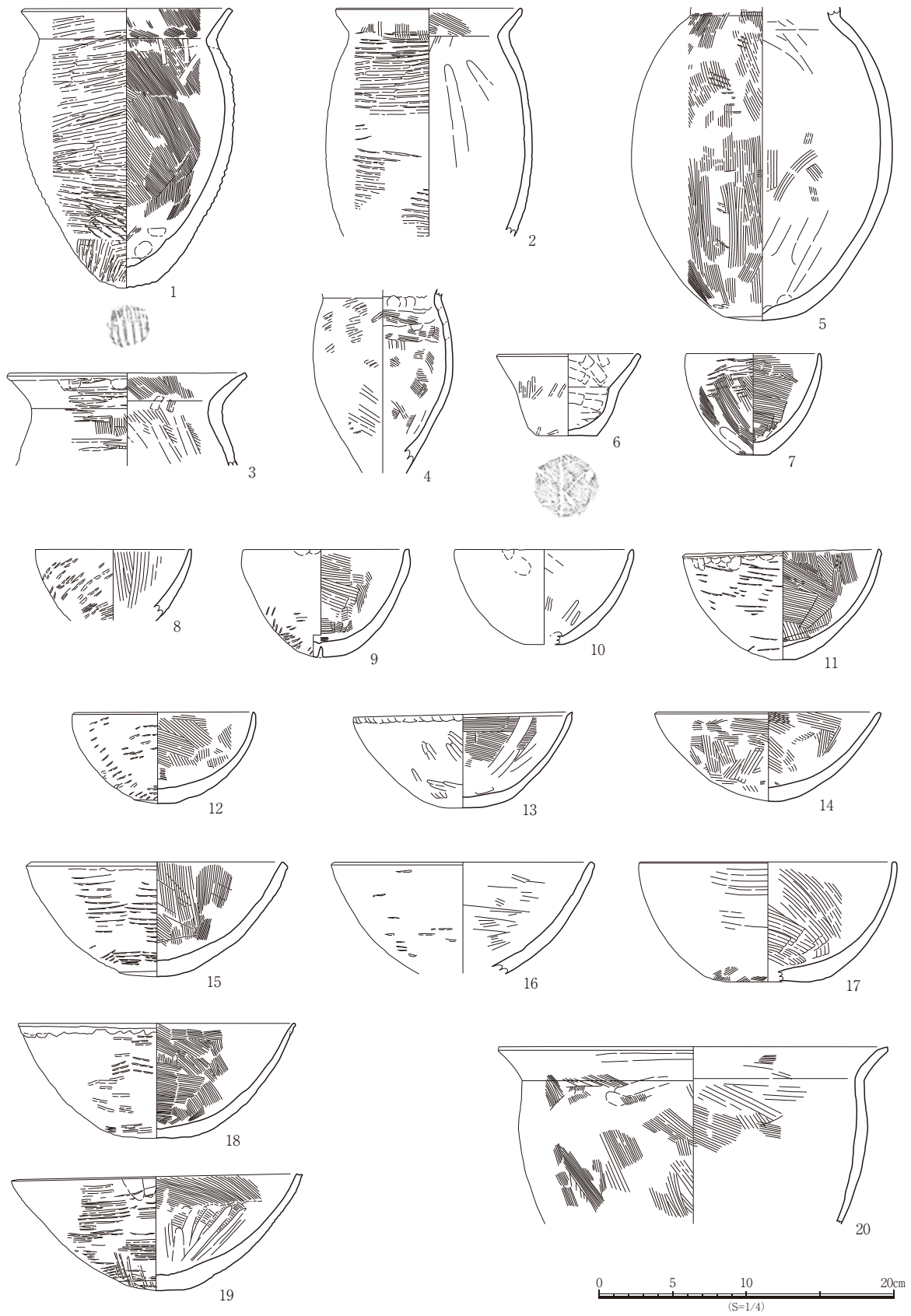


図9 1区 ST1 出土遺物実測図_1

れる。壁溝(ST1_SD2)は西辺と北辺の一部のみの検出である。幅約20cm, 深さ約10cm, 約3.5mを検出した。埋土は中粒砂を少し含む黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。ベッド状遺構は幅約0.8m, 床面との比高差は約10cmである。中央ピット(ST1_P5)は床面中央南寄りで検出した。長軸1.43m, 短軸の検出長は0.59mの隅丸長方形である。床面からの深さは19cmであり, 埋土は炭化物を多量に含む黒褐色(10YR2/3)中粒砂質シルトである。主柱穴は床面の四隅に配置されていたと考えられ, 北西隅のST1_P8は直径約30cmの円形を呈し, 床面からの深さは約51cmを測る。北東隅のST1_P9は長軸38cm, 短軸31cmの楕円形を呈し, 床面からの深さは約46cmを測る。埋土はST1_P8・9とも中粒砂と炭化物を含む黒褐色(10YR3/2)中粒砂質シルトである。主柱穴を連結する小溝(ST1_SD1)は幅16～34cm, 深さ約10cm, 約6.0mを検出した。埋土は黒褐色(10YR2/2)粗粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は, 弥生土器の甕(1～5)・鉢(6～20), 台石(21), 鉄斧(22), 鉄鏃(23)である。1は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し, 口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後, 指頭により成形及び調整する。内面は斜め方向のハケ調整を施す。底部は角の取れた平底であり, 外底面には叩き目が認められる。体部外面は叩き調整後, ナデ調整を施す。内面は全面にハケ調整を施す。二分割で成形される。2は甕である。口縁部はやや屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈する。外面は叩き調整後, タテハケ調整を施し, 内面は斜め方向のハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後, ナデ調整を施す。内面は摩耗のため調整等の観察は困難である。3は甕である。口縁部はやや屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈し, 外面は上胴部からの一連の叩き調整後, ナデ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後, タテハケ調整を疎らに施す。内面はハケ調整後, ナデ調整を施す。4は小型甕である。外面は叩き調整後, ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施し, 底部付近はナデ調整である。肩部内面には幅約1cmの粘土紐接合痕跡が認められる。5は甕の体部である。底部はほぼ丸底であり, 外底面は叩き調整後, ナデ調整である。体部外面は叩き調整後, 全面にタテハケ調整を施す。内面はナデ調整で仕上げ, 一部にはハケメがみられる。また, 内底面には指頭圧痕が顕著に認められる。

6は鉢である。角の取れた平底から体部は直立気味に立ち上がり, 口縁部は大きくひらく。口唇部にはルーズな面取りを施す。体部外面は叩き調整後, ナデ調整を施す。内面にはナデ調整を施す。外底面には葉脈痕跡が認められる。ほぼ完形である。煮沸の用に供されている。7は鉢である。角の取れた平底の底部から体部は内湾気味に外上方へのびる。体部外面は叩き調整後, ハケ調整を施す。内面は全面ハケ調整を施す。8は鉢である。底部は丸底である。体部外面は叩き調整後, ナデ調整を施す。内面は粗いタテハケ調整を施す。9は鉢である。底部は丸底であり, 外底面には直径4mmの未穿孔の円孔がある。外面は叩き調整後, ナデ調整・タテハケ調整を施す。内面は全面ハケ調整を施す。11は鉢である。底部は丸底, 体部は半球形を呈する。外面は叩き調整後, ナデ調整を施す。内面は全面ハケ調整を施す。口縁部全周に煤が付着し, 煮沸の用に供されている。ほぼ完形である。12は浅めの鉢である。底部は丸底を呈する。角を叩くこと及びナデることによって丸底化させる。外底面にもキレツがみられる。体部外面は叩き調整後, ナデ調整を施す。内面上半部はハケ調整を施し, 底部付近はナデ調整を施す。13は鉢である。底部は丸底である。口縁部上端を摘み出し, 凹面状を呈する。体部外面は叩き調整後, 丁寧にナデ調整を施す。内面上半部はヨコハケ調整後ナデ調整, 下半部はナデ調整である。内底面には指頭圧痕がみられる。14は鉢である。体部は内湾気味に大きくひらく。底部はハケ調整により丸底とする。外面はストロークの短いハケ調整を全面に施した後, 下半部にはタテハ

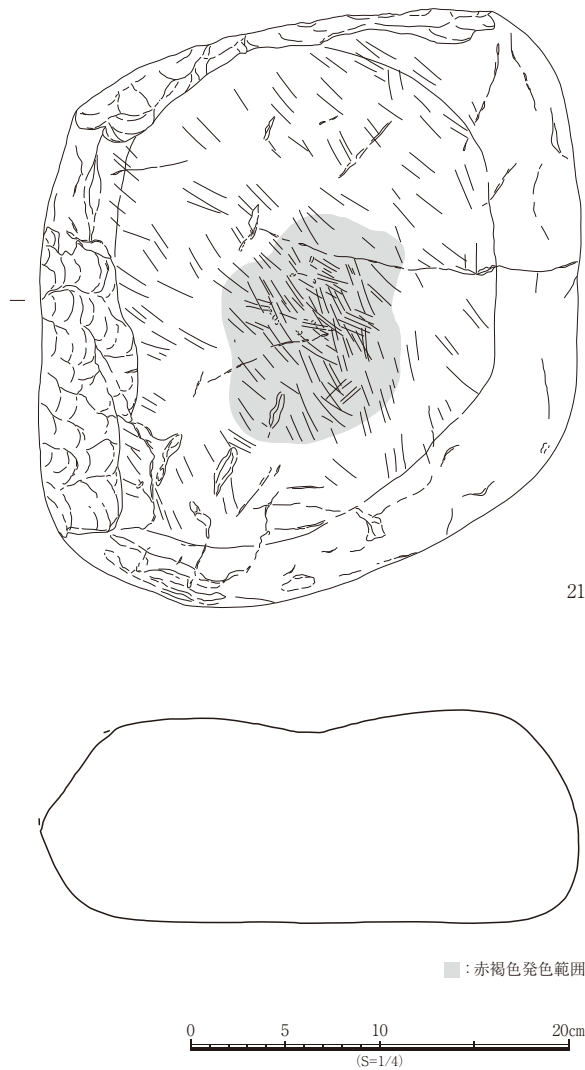


図10 1区 ST1 出土遺物実測図_2

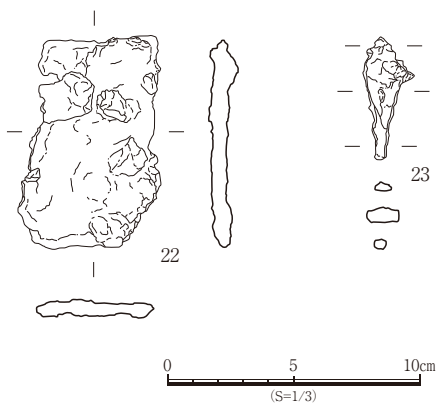


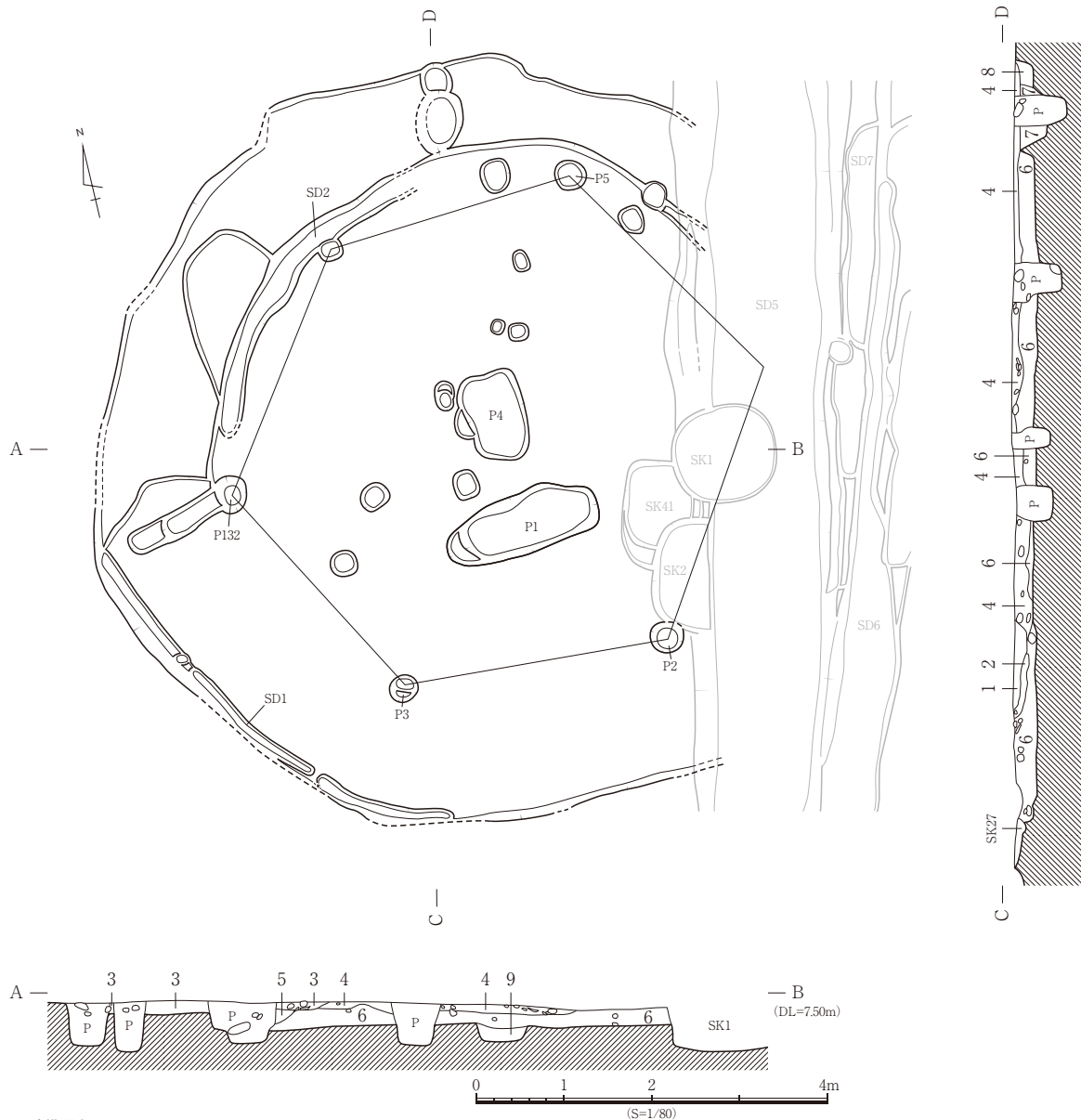
図11 1区 ST1 出土遺物実測図_3

ケ調整を重ねる。口縁部は内外面ともヨコハケ調整である。体部内面はハケ調整及びナデ調整で仕上げ、一部はミガキ状を呈する。ほぼ完形である。15は鉢である。底部は強めのナデ調整により丸底とするものの凹凸は残り、丁寧さに欠ける。口縁端部を摘み上げる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。体部は浅めで腰部と口縁部に傾斜変換点があり、調整・キレットの入り具合の違いと対応している。内面は全面ハケ調整を施す。17は鉢である。平底であり、ヨコハケ調整で角を取る。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は全面粗いハケ調整を施す。18は鉢である。ほぼ丸底となるものの底部と体部の境には鈍い稜が巡る。底部はハケ調整により丸底化を図る。口縁部は尖らせ、内外面ともヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は全面ハケ調整を施す。19は鉢である。体部は叩き調整により角を取り、内底面から押出すことで丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。内底面はナデ調整か。20は鉢である。口縁部は弱く外反させ、口唇部は丸くおさめる。口縁部を含め、内外面ともハケ調整で仕上げる。

21は砂岩製台石である。自然石を利用する。表面の中央部に直径約10cmの凹み(使用痕跡)がある。凹み部分を中心に赤褐色に発色している。裏面も平滑な部分があるが使用によるものではない可能性がある。22は鉄斧か。短辺を内側に折り曲げる。他辺は折り曲げ部で欠損する。23は圭頭形の鉄鎌である。錆膨れするものの鎌身の先端にむかい厚さを減じる。

ST2

ST2は1区東部で検出した竪穴建物跡である。平面形は円形と考えられるが多角形の可能性がある。直径7.1m、床面積は39.5㎡である。主軸方向はN-5°-W(中央ピットの長軸方向による計測)である。検出面から床面までの深さは約34cmであり、埋土は黄色シルトブロックを多く含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。床面ではベッド状遺構、中央ピット(ST2_P1)、支柱穴(P132他)、壁溝(ST2_



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く、1~5cm大の円礫を含む
2. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物を含む
3. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに0.5cm大の黄色礫を多量に含む
4. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を少量、3~5cm大の円礫を多く含む
5. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに5cm大の円礫を含む
6. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む
7. 黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂(ピット)
8. 黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂(ピット)
9. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに中粒砂と5~20cm大の円礫を含む(ST2_P4)

図12 1区 ST2 平面図・断面図

SD1), 支柱穴を連結する小溝等の遺構を検出した。ベッド状遺構は北で検出した。壁溝(ST2_SD1)は南西部のみの検出である。ベッド状遺構が途切れた位置から壁溝が検出されていることに注意しておきたい。ベッド状遺構は幅約1.0m, 床面との比高差は約16cmである。壁溝(ST2_SD1)は幅約20cm, 深さ約10cm, 約6.8mを検出した。埋土は暗褐色(10YR3/3)中粒砂質シルトである。中央ピット(ST2_P1)は床面中央, 僅かに南寄り検出した。長軸1.80m, 短軸0.66mの長楕円形である。床面からの深さは11cmであり, 埋土は中粒砂と炭化物を含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。支柱穴は端部から約1.6m内側に正五角形状に配置されていたと推測される。P87とP132はベッド状遺構直下に掘削されている。ST2_P3は直径約30cmの円形を呈し, 床面からの深さは約27cmを測る。埋土は暗褐色(10YR3/3)中粒砂質シルトである。ST2_P4は床面中央, 僅かに北寄りに位置する土坑である。長軸1.02m, 短軸0.65mの不整隅丸長方形を呈する。床面からの深さは16cmであり, 埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。ST2_P1とともに複合型の燃焼施設を構成する可能性がある。

図示した出土遺物は, 弥生土器の壺(24~38)・甕(39~55)・鉢(56~68)・高杯(69~71)・有孔土器(72), 支脚(73), ミニチュア土器(74~76), 釘(77)である。

24は壺である。直立する頸部から口縁部は外反する。口唇部には面取りを施す。外面はタテハケ調整後, ヨコナデ調整を施す。口縁部内面はヨコハケ調整, 頸部はナデ調整である。25は壺である。頸部から口縁部にかけて弧を描きながら緩やかに外反する。口唇部はハケ状原体により面取りする。頸部外面はタテハケ調整, 内面は斜め方向のハケ調整後, ナデ調整を施す。口縁部内面はヨコハケ調整である。26は壺である。口縁部は大きく外反し, 口唇部には面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整, 頸部はタテハケ調整を施す。内面は摩耗のため調整等の観察は困難である。口縁部はヨコナデ調整・ミガキ調整か。27は壺である。口縁部を外反させ, 口唇部には面取りを施し, 凹面状を呈する。口縁端部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。口縁部外面はタテハケ調整後, ヨコナデ調整を施し, さらに縦方向のミガキ調整を疎らに施す。内面は粗いヨコハケ調整後, ミガキ調整を疎らに施す。28は壺である。口縁部は短く外反し, 口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部の中程は若干膨らむ。底部と体部の境に鈍い稜が巡るもののほぼ丸底を呈する。外面は叩き調整後, ナデ調整及びタテハケ調整を施す。内面はナデ調整で仕上げる。上胴部内面には指頭圧痕が認められる。29は壺である。口縁部は「く」の字状を呈する。底部と体部の境に鈍い稜が巡るもののほぼ丸底を呈する。外底面には叩き目が認められる。体部外面は叩き調整後, タテハケ調整を全面に施す。内面はハケ調整である。煮沸の用に供されている。30は壺である。口縁部は大きく外反する。口縁部上端を摘み上げ, 下端を摘み出す。頸部外面はタテハケ調整, 内面はナデ調整である。口縁部は内外面ともヨコナデ調整であり, ナデ調整の痕跡がみられる。体部外面は右下がりの叩き調整後, タテハケ調整を密に施す。内面は横方向の工具ナデ調整である。31は複合口縁壺である。一次口縁部は「く」の字状を呈し, 二次口縁部は短く内傾する。一次口縁部は内外面とも斜め方向のハケ調整, 二次口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。体部は叩き調整後, 全面にハケ調整を施す。下半部はミガキ調整で仕上げる。内面は全面に斜め方向のハケ調整を施し, 下半部にはミガキ調整を疎らに施す。32は複合口縁壺である。一次口縁部は水平ちかく外反し, 二次口縁部は短く内傾させる。摩耗しており, 調整等の観察は困難である。内外面ともナデ調整か。33は複合口縁壺である。一次口縁部は大きく外反し, 二次口縁部は内傾させる。口唇部には面取りを施す。一次口縁部外面は粗いハケ調整後ヨコナデ調整, 内面はヨコナデ調整を施す。二次口縁部外面は荒れている。斜め方向のハケ調整を施し, 上下に振幅の小さい櫛描

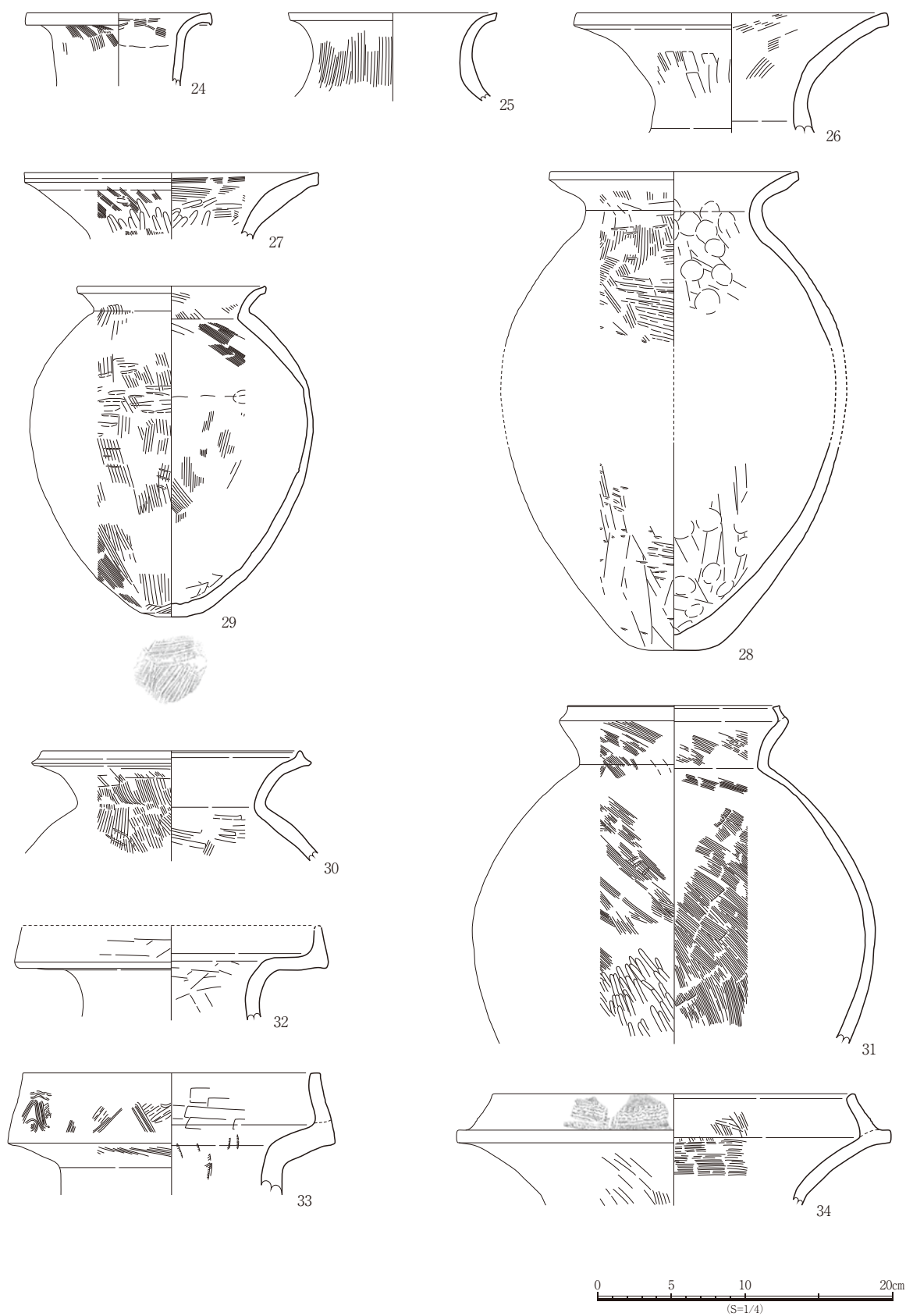


図13 1区 ST2 出土遺物実測図_1

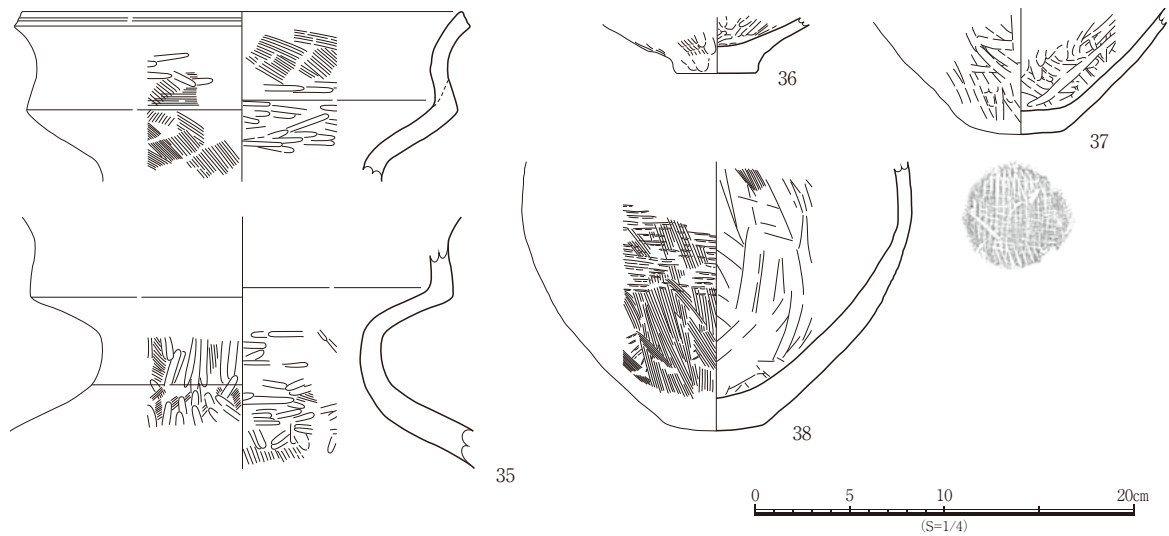


図14 1区 ST2 出土遺物実測図_2

波状文と上下に振幅の大きい櫛描波状文を上下二段に配置する。34は複合口縁壺である。一次口縁部は大きく外反し、二次口縁部は一次口縁部の上端面に接合する。さらに接合部に粘土を貼付し、接合部を補強するとともに屈曲度合いを強調する。二次口縁部は内傾し、口唇部は面取りする。外面には櫛描波状文を2～3単位配置する。全体的にやや摩耗し、調整等の観察は難しい。一次口縁部の外面は、斜め方向のハケ調整、内面はヨコハケ調整を施す。二次口縁部は内外面とも斜め方向のハケ調整後、ナデ調整か。35は大型の複合口縁壺である。短い頸部から一次口縁部は外反し、外端上面に二次口縁部を載せる。二次口縁部は緩やかに外反し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。内外面ともハケ調整後、ミガキ調整を加え仕上げる。外面上胴部から頸部は縦方向のミガキ調整、口縁部は横方向のミガキ調整である。内面は横方向のミガキ調整を基本とする。37は壺の底部である。角の取れた平底を呈するものの外底面は丸みを帯び、底部と体部の境には鈍い稜が巡る。また、外底面には叩き目を格子状に重ねる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整あるいはタテハケ調整を密に施し、残存部では叩き目はほとんど確認できない。内面にはナデ調整を施し、内底面には強く施す。38は壺である。底部は角の取れた平底であり、外底面はハケ調整・ナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は傾斜を境に調整が異なり、変換点(接合部)以下はナデ調整、以上はハケ調整である。

39は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面は粗いヨコハケ調整である。体部は長胴形を呈し、外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はハケ調整であり、一部に砂粒の移動痕跡が認められる。肩部はナデ調整であり、粘土紐接合痕跡がみられる。40は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面はタテハケ調整、内面は斜め方向のハケ調整である。体部は中位に最大径部を持った長胴形である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。上半部は右下がり、下半部は水平の叩き目であり二分割で成形・調整されている。内面は全面に斜め方向のハケ調整を施し、内底面には指頭圧痕がみられる。底部は剥離等により形状は不明ながら平底と推測される。41は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、内面口頸部境に稜が巡る。口縁部外面はタテハケ調整、内面は斜め方向



図15 1区 ST2 出土遺物実測図_3

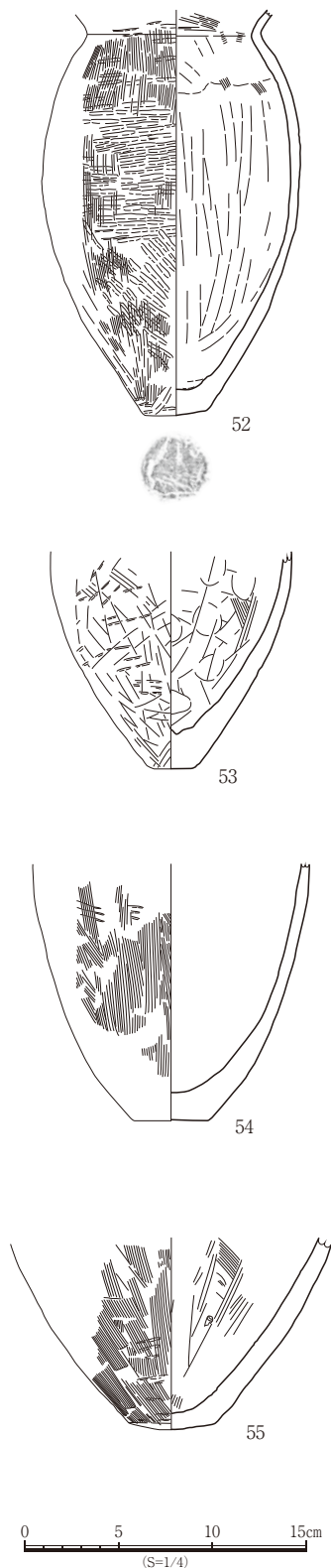


図16 1区 ST2 出土遺物実測図_4

のハケ調整後、端部にはヨコナデ調整を施す。体部は長胴形を呈し、外面は叩き調整後、タテハケ調整を全面に施す。内面上半部は斜め方向のハケ調整、下半部はナデ調整を施す。42は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、端部は水平にひろがる。口縁部外面は叩き調整後、指頭により成形・調整する。内面は斜め方向のハケ調整・ヨコナデ調整で仕上げる。底部外面は荒れており、形状等は不明である。体部は上胴部から中位に最大径部を持つ。外面は叩き調整後、タテハケ調整を全面に丁寧に施す。内面はナデ調整であり、肩部は工具ナデ調整の痕跡が認められる。43は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、端部は大きくひろがる。口縁部外面は叩き調整後、斜め方向のハケ調整を施し、さらにヨコナデ調整で仕上げる。内面は斜め方向のハケ調整、端部はヨコナデ調整を施す。底部はほぼ丸底となり、外底面は軽くナデるものの未調整にちかい。体部は中位に最大径部を有し、全体としてやや張った長胴形を呈する。外面は叩き調整後、全面に丁寧にタテハケ調整を施す。内面はナデ調整を施す。上半部は斜め方向のハケ調整後、ナデ調整を施す。45は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。頸部内面は直立部を持ち、外反する。口縁部外面はヨコナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整後、端部はヨコナデ調整で仕上げる。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を頸部に施す。内面にはナデ調整を施す。47は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部は尖らせる。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は粗いタテハケ調整である。50は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。口縁部外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整・斜め方向のハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整か。内面はナデ調整である。また、肩部に「×」の線刻がみられる。52は甕である。底部は平底で、外底面にはハケ調整を施す。体部は長胴形を呈し、外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。上半部は若干右上がり方向の叩き目、下半部は急な右下がりの叩き目であり、二分割で成形・調整されている。内面は縦方向のナデ調整であり、肩部はハケ調整後ナデ調整である。

56は鉢である。口縁部は指頭により僅かに外反させる。指頭圧痕が顕著であり、口縁端部は波打つ。体部外面は叩き調

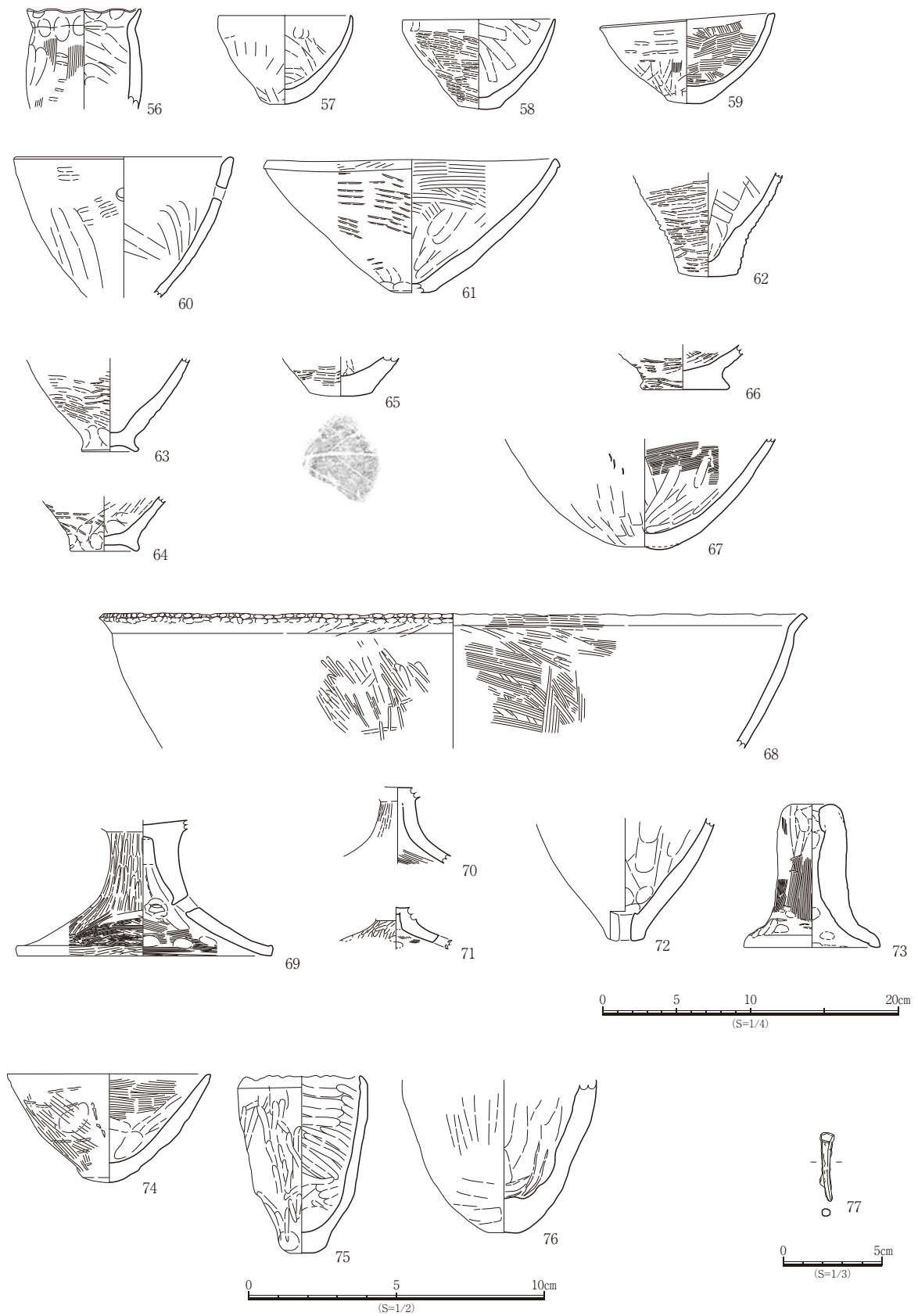


图17 1区 ST2 出土遺物実測図_5

整後、タテハケ調整を施す。内面にはナデ調整を施す。57は鉢である。底部はほぼ丸底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、丁寧にナデ調整を施す。口縁部をひろげた時に生じたキレツが認められる。体部内面にはナデ調整を施す。58は鉢である。底部は角の取れた平底を呈し、外底面にはナデ調整を施す。体部は外上方へのび、口縁部付近で傾きを変える。外面は右下がりの叩き調整後、ナデ調整を施す。一部にはハケ調整がみられる。59は鉢である。底部はほぼ丸底を呈し、ナデ調整により丸底化する。底部から腰部にかけて緩やかに屈曲し、丸みを持って口縁部にいたる。口唇部にはルーズな面取りを施す。体部外面は叩き調整後、下半部はタテハケ調整、上半部はナデ調整で仕上げる。内面は横方向を基調とするハケ調整を全面に施す。60は鉢である。深みのある形態である。口唇部は厚く、丸くおさめる。体部外面は叩き調整後、強い縦方向のナデ調整を施す。内面は縦方向から斜め方向の工具ナデ調整を施し、口縁部は指ナデ調整で仕上げる。また、口縁部には直径8mmの焼成前穿孔が1穴認められる。61は鉢である。断面形は逆三角形を呈する。口唇部はハケ状原体により面取りし、外傾させる。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は右下がりの叩き調整後、ナデ調整を施す。内面上半部はヨコハケ調整後、一部には粗いタテハケ調整を加え、下半部はナデ調整を施す。67は鉢である。底部はナデ調整により丸底とする。外底面には製作時の底部の名残りが認められる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。上半部にはキレツが認められる。内面上半部はヨコハケ調整、下半部はナデ調整で仕上げる。

69は高杯である。中空の脚柱部から裾部は大きくひらき、端部はハケ状原体により面取りを施す。脚柱部外面は縦方向のミガキ調整を施す。内面はナデ調整でしぼり目が認められる。裾部外面は斜め方向から横方向のハケ調整後、縦方向のミガキ調整を施す。内面はヨコハケ調整である。脚柱部と裾部の境には直径1cmの円孔を4方向に穿つと推測される。71は高杯である。杯部内面はミガキ調整で仕上げる。脚柱部は持たず、杯底部外面から裾部が大きくひらく。裾部外面は縦方向のミガキ調整、内面はハケ調整である。裾部には直径0.9cmの円孔を4方向に穿つと推測される。72は有孔土器である。体部外面は器面が荒れており、調整等の観察は困難である。ナデ調整か。内面は縦方向のナデ調整である。底部は平底であり、外底面には焼成前に外側から直径1.1cmの円孔を1穴穿つ。73は支脚である。中空の体部から裾部の破片であり、指から背面が欠損し、本来は2本指をのばしたタイプの支脚と推測される。体部は直立し、裾部はひろがる。体部外面はタテハケ調整、内面にはしぼり目が認められる。裾部外面は叩き調整後、指頭により成形する。内面はナデ調整であり、端部は指押さえで調整する。74はミニチュア土器である。鉢形土器をモデルとする。体部外面は叩き調整後、ハケ調整・ナデ調整を施す。内面上半部はヨコハケ調整、下半部はナデ調整で仕上げる。形態及び製作技法も鉢形土器を忠実に模倣している。75はミニチュア土器である。鉢形土器をモデルとする。外面はハケ調整、ナデ調整、ミガキ調整で仕上げるものの凹凸が激しい。内面は全面に粗いハケ調整を施す。76はミニチュア土器である。鉢形土器をモデルとする。体部外面はハケ調整・ナデ調整を施す。内面はナデ調整を施し、内底面にはしぼり目が認められる。77は鉄釘であり、混入品と考えられる。

ST3

ST3は1区東部で検出した平面形が隅丸長方形の竪穴建物跡と推測される。長軸の検出長は4.0m、短軸の検出長は2.4mを測る。主軸方向はN-3°-Wである。検出面から床面までの深さは約50cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、弥生土器の鉢(78・79)である。

78は鉢である。口唇端部を摘み上げ、口唇部を尖らせる。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。腰部から口縁部にかけて緩やかに屈曲しながらひろがり、キレツが認められる。内面は粗いハケ調整を縦方向に施す。内底面はナデ調整である。79は鉢の底部と考えられる。

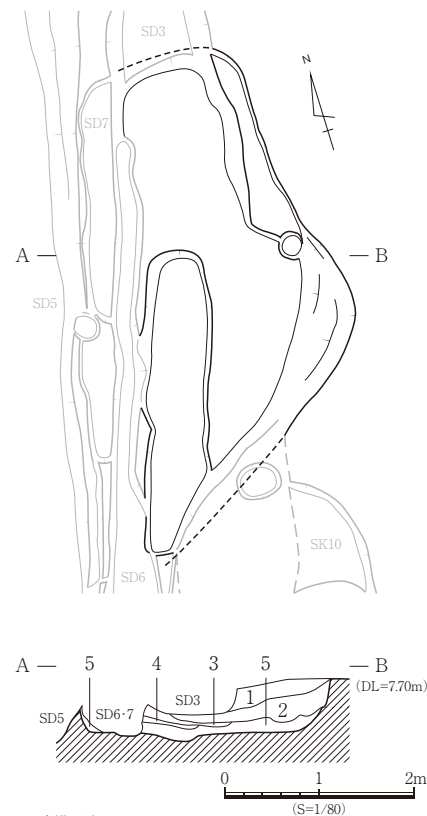
ST4

ST4は1区南東部で検出した平面形が隅丸方形の竪穴建物跡である。長軸4.5m、短軸の検出長は2.8mを測り、床面積は20.2㎡である。主軸方向はN-4°-Eである。検出面から床面までの深さは約24cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。床面では中央ピット(ST4_P1)、支柱穴(ST4_P2・3)、壁溝(ST4_SD1)等の遺構を検出した。壁溝(ST4_SD1)は幅約15cm、深さ約5cmを測る。壁溝は西辺と南辺で約5.7m検出した。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質中粒砂である。中央ピット(ST4_P1)は床面中央、僅かに南寄り検出した。長軸の検出長0.73m、短軸の検出長0.58mの楕円形を呈していたと推測される。床面からの深さは11cmであり、埋土は炭化物を多く含む黒褐色(10YR2/3)シルト質中粒砂である。支柱穴(ST4_P2)は直径約26cmの円形を呈し、床面からの深さは約33cmを測る。埋土は炭化物を多く含む黒褐色(10YR2/3)シルト質中粒砂である。支柱穴(ST4_P3)は直径約30cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約23cmを測る。埋土は炭化物を多く含む黒褐色(10YR2/3)シルト質中粒砂である。

図示した出土遺物は、弥生土器の鉢(80)である。内外面とも荒れる。外面下半部はタテハケ調整、上半部はナデ調整である。内面は縦方向のミガキ調整である。外面には煤が付着する。

ST5

ST5は1区北東部で検出した平面形が隅丸方形の竪穴建物跡である。長軸3.6m、短軸



- 遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに1~5cm大の円礫を含む
 2. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに1~3cm大の円礫を含む
 3. 黒褐色(2.5Y3/2)シルト質細粒砂
 4. 黒褐色(2.5Y3/1)中粒砂
 5. 褐灰色(10YR4/1)粘土質シルト

図18 1区 ST3 平面図・断面図

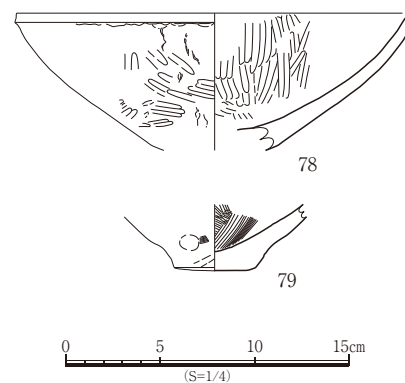
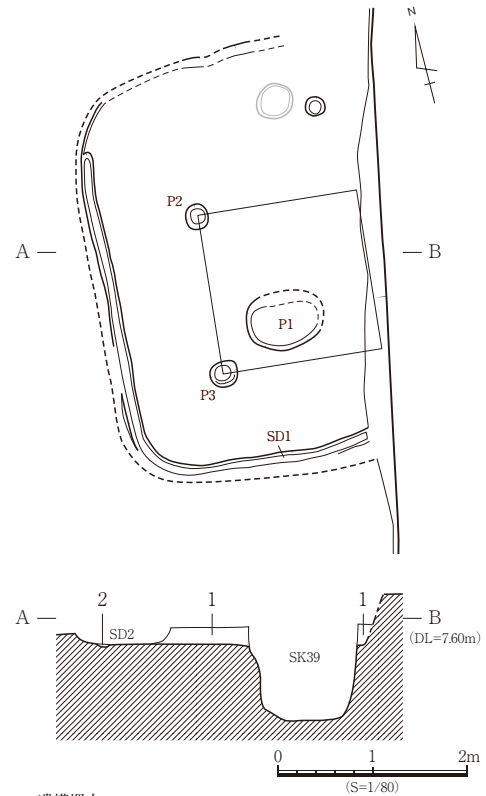


図19 1区 ST3 出土遺物実測図

3.1mを測り、床面積は11.16㎡である。主軸方向はN-91°-Wである。検出面から床面までの深さは約46cmであり、埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルト他である。床面ではピット・溝跡を検出したが、本STに伴うものを特定することは困難である。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(81~88)・甕(89~108)・鉢(109~134)・器台(135)・底部(136)である。

81は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部には面取りを施す。口唇部は上下に僅かに拡張し、全面に刻目を施す。外面はハケ調整を施し、内面はナデ調整・ハケ調整後、ミガキ調整を疎らに施す。82は壺である。頸部は短く、口縁部は大きく外反させる。口唇部は面取りし、上下の振幅の小さい5条1単位の櫛描波状文を施す。さらに竹管文を施した円形浮文を4個貼付する。口縁部内外面は横方向のミガキ調整、頸部内外面は縦方向のミガキ調整を施す。体部外面はハケ調整後、ミガキ調整を施す。内面はハケ調整であり、肩部はナデ調整である。83は壺である。口縁部は大きくひらき、口縁端部に粘土帯を貼付する。口唇部に5条1単位の櫛描波状文、さらに中央部に穿孔した円形浮文を2個1対、4ヶ所に貼付か。口頸部外面は斜め方向のハケ調整を全面に施す。口縁部内面はヨコハケ調整後、縦方向のミガキ調整を施し、頸部はハケ調整後、縦方向のミガキ調整を施す。体部外面はハケ調整後、斜め方向のミガキ調整を施す。肩部内面はヨコハケ調整、上胴部はナデ調整であり、指頭圧痕がみられる。頸胴部境にハケ状原体により斜格子刻みを施した突帯を貼付する。84は壺である。口縁部は大きくひらき、口唇部を拡張する。口唇部外面には6条1単位の櫛描波状文を施す。頸胴部境にハケ状原体により斜格子刻みを施した突帯を貼付する。口頸部外面はハケ調整、内面はハケ調整後、横方向のミガキ調整を密に施す。体部外面はハケ調整後、ミガキ調整を疎らに施す。肩部内面はナデ調整で指頭圧痕が顕著に認められる。上半部はハケ調整である。85は壺である。体部は中位に最大径部を持つ長胴形である。底部はナデ調整により丸底化する。体部外面は叩き調整後、肩部と体部にハケ調整を施す。内面は肩部にヨコハケ調整、中位には斜め方向のハケ調整後、縦方向のナデ調整を施す。腰部はタテハケ調整を施す。三分割により成形する。口縁部は短く直立にちかい。口縁端部を摘み上げ、口唇部を尖らせる。内外面とも斜め方向のハケ調整を施す。肩部に外面からの穿孔が認められる。86は壺である。体部は上胴部に最大径部を持つ。体部外面は叩き調整後、ハケ調整、さらにミガキ調整で仕上げる。ミガキ調整は上半部には密に施し、下半部は疎らである。体部内面はハケ調整後ナデ調整であり、肩部にはヨコハケ調整を施す。



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂に炭化物を多く含む
2. 黒褐色(10YR2/3)シルト質中粒砂(ST4_SD1)

図20 1区 ST4 平面図・断面図

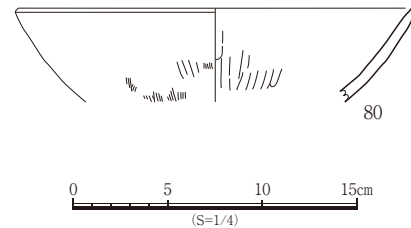
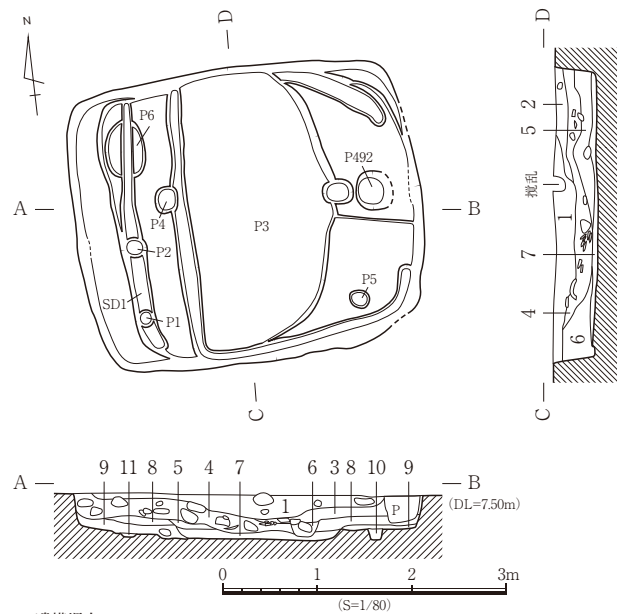


図21 1区 ST4 出土遺物実測図

底部は平底であり、外底面はナデ調整を施す。内底面には指頭圧痕がみられる。87・88は壺である。丸底であり、外面には扁平な不整形の粘土を貼り付ける。体部外面は全面ミガキ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整である。内底面には指頭圧痕がみられる。

89は小型の甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈する。体部は上胴部に最大径部を持つ。底部は角の取れた平底で僅かに上げ底となる。外面は口縁部も含めて、叩き調整後、ナデ調整である。全面にキレツが認められる。底部を小さくするために強いヨコナデ調整を施す。内面は口縁部から肩部はヨコナデ調整、体部から底部は縦方向のナデ調整である。90は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は斜め方向のハケ調整であり、内面は斜め方向から横方向のハケ調整である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。一部にハケメがみられる。内面は斜め方向のハケ調整であり、腰部はナデ調整である。

89同様、底部を小さくするために強いヨコナデ調整を施す。91は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はヨコハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面はナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、上半部はナデ調整、下半部はタテハケ調整を施す。内面上胴部は斜め方向のハケ調整、下半部はタテハケ調整・ナデ調整である。92は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はヨコハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面はナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、上半部はナデ調整、下半部はタテハケ調整を施す。内面はタテハケ調整、底部付近はナデ調整である。93は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、直立気味に立ち上がる。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面は粗いヨコハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面はナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、上半部はナデ調整、下半部はタテハケ調整を施す。内面上半部は斜め方向のハケ調整を施し、下半部はナデ調整である。94は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口唇部は面取りし、外傾させる。口縁部外面は叩き調整後、縦方向の工具ナデ調整で仕上げる。内面はヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は工具ナデ調整・ハケ調整を施す。



遺構埋土

1. 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトに0.5cm大の黄色礫と3~15cm大の円礫を含む
2. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに5cm大の礫を含む
3. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに0.5~5cm大の礫を含む
4. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに3~10cm大の礫と黄色シルトブロックを含む
5. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに粗粒砂と1cm大の礫と黄色シルトブロックを含む
6. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに焼土・炭化物を含む
7. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに炭化物を多量に含む (ST5_P3)
8. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトの下部に炭化物の堆積
9. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂を含む
10. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト (P492)
11. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルト (ST5_SD1)

図22 1区 ST5 平面図・断面図

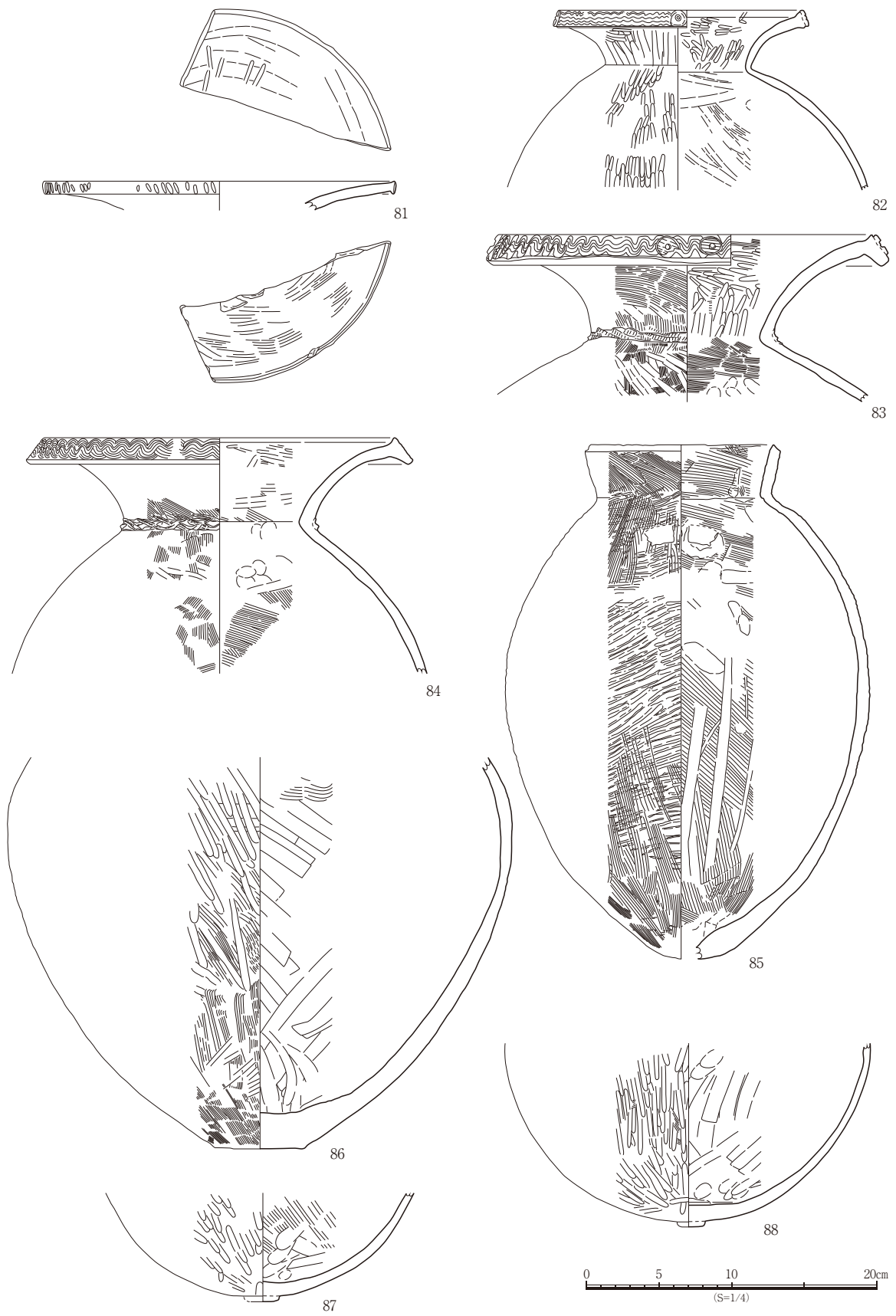


图23 1区 ST5 出土遺物実測図_1



图24 1区 ST5 出土遺物実測図_2

95は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、内面の口頸部境に比較的鋭い稜が巡る。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面は斜め方向のハケ調整を施す。ハケ調整で丸底とする。体部外面は叩き調整後、下半部にはタテハケ調整を施す。内面はタテハケ調整で底部付近はナデ調整である。96は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。粘土紐を加え、長くする。内面はヨコハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面には叩き目がみられる。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を加える。内面は肩部に斜め方向のハケ調整、下半部にはタテハケ調整を施す。体部中位、底面はナデ調整である。97は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面は斜め方向のハケ調整である。内面の口頸部境には鋭い稜が巡る。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、下半部にはタテハケ調整を施す。二分割により成形する。内面はハケ調整を施し、底部付近はナデ調整である。98は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。内面はヨコハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面はナデ調整・ハケ調整で仕上げる。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はヨコハケ調整を施し、底部付近はナデ調整である。99は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整を施す。底部は角の取れた平底であり、外底面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、全面にタテハケ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整を施し、下半部はナデ調整である。100は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。体部は長胴形を呈し、底部はほぼ丸底である。被熱によるものか、全体的に器面が荒れる。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面にはナデ調整を施す。101は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面は斜め方向の粗いハケ調整である。底部はほぼ丸底であり、外底面には叩き目がみられる。体部は長胴形であり、外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はタテハケ調整を施し、底部付近はナデ調整である。二分割により成形する。102は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面は斜め方向の粗いハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面には叩き目がみられる。体部は長胴形を呈し、外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、一部にはハケ調整を加える。内面は粗いタテハケ調整であり、底部付近はナデ調整である。二分割により成形する。103は甕である。口縁部はやや長めの「く」の字状を呈する。口唇部を面取りし、外傾させる。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。粘土紐を追加する。キレツが認められる。内面は斜め方向の粗いハケ調整である。底部はほぼ丸底であり、外底面にはハケ調整を施す。体部は長胴形を呈し、叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整後、縦方向のナデ調整を施す。底部付近はハケ調整で仕上げる。104は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面は斜め方向のハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面には叩き目がみられる。体部は長胴形を呈し、外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はタテハケ調整後、縦方向のナデ調整を施す。二分割により成形する。105は甕である。口縁部はやや長めの「く」の字状を呈する。口唇部を面取りし、外傾させる。口縁部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整を施す。底部は角の取れた平底であり、外底面には叩き目がみられる。体部は中位の

やや張った長胴形を呈する。体部外面は叩き調整後、肩部と底部付近にタテハケ調整を施す。内面は縦方向のナデ調整で仕上げ、肩部にはハケメがみられる。106は甕である。口縁部は直立気味に立ち上がる。口縁部内面はヨコハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面は叩き調整後、ナデ調整を施す。体部は長胴形を呈し、外面は叩き調整後タテハケ調整を全面に施す。内面はナデ調整で仕上げ、肩部にはハケ調整を施す。108は甕の口縁部片である。複合口縁状を呈し、口唇部は丸くおさめる。内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。胎土は在地と考えられるが、器形は外来系である。

109は鉢である。やや深めの器形であり、底部は尖底気味の丸底である。内外面とも斜め方向から縦方向のハケ調整を施す。110は鉢である。底部は角の取れた平底であり、外底面は未調整にちかい。底端部の一部をナデ潰す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。上半部は叩き目を丁寧にナデ消す。内面は不定方向のハケ調整で仕上げる。111は鉢である。ほぼ丸底であり、ナデ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。上半部は下半部よりも丁寧にナデ調整を施すもの

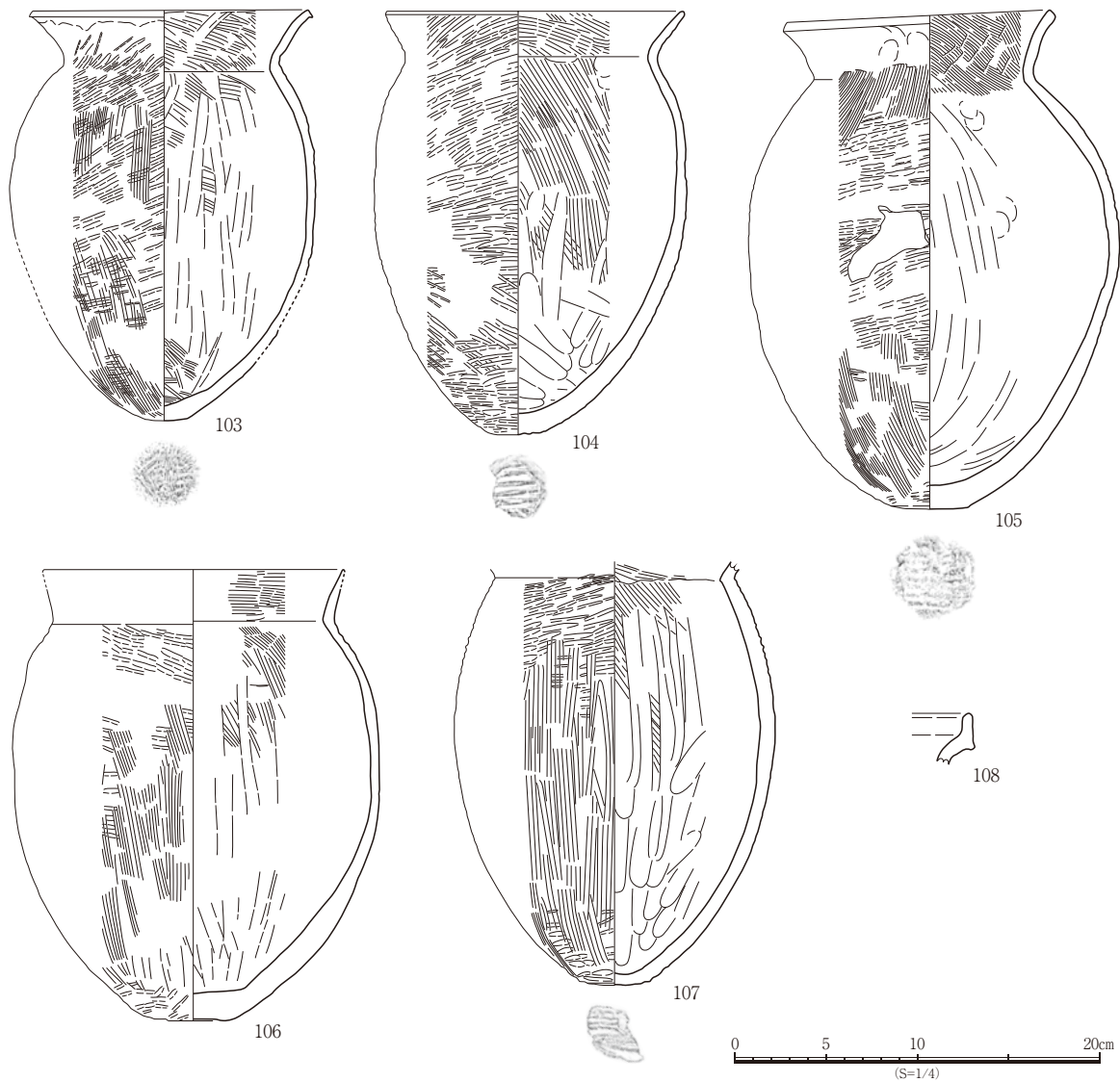


図25 1区 ST5 出土遺物実測図_3

の、キレツが認められる。内面は全面にハケ調整を施す。112は鉢である。ほぼ丸底であり、ナデ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は全面にハケ調整を施す。113は鉢である。底部はハケ調整により尖底から丸底とする。体部外面はタテハケ調整を施す。叩き目は観察できない。内面はナデ調整か。114は鉢である。底部はナデ調整・ハケ調整により丸底とする。体部外面はナデ調整、ハケ調整で仕上げ、キレツが認められる。内面はハケ調整である。115は鉢である。底部は丸底、体部は半球形を呈する。体部外面は叩き調整後、上半部はナデ調整、下半部はタテハケ調整を施す。底端部をハケ調整することで丸底とする。外底面は未調整であり、凹凸がみられる。内面は粗いハケ調整を施す。116は鉢である。丸底である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を丁寧に施す。僅かにキレツがみられる。内面はハケ調整を施す。117は鉢である。平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整で叩き目を消す。キレツが認められる。内面はハケ調整である。118は鉢である。平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面上半部はハケ調整、下半部はナデ調整である。119は鉢である。底部はナデ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。上半部は丁寧に叩き目をナデ消すもののキレツがみられる。内面にはハケ調整を施す。120は鉢である。底部はハケ調整により尖底から丸底とする。体部外面はタテハケ調整を施す。内面はハケ調整で仕上げる。121は鉢である。底部はハケ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。僅かにキレツがみられる。内面はハケ調整及び工具ナデ調整を施す。123は鉢である。底部はナデ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。上半部は下半部よりも丁寧にナデ調整を施す。内面はハケ調整で仕上げる。124は鉢である。底部はナデ調整によりほぼ丸底とする。体部外面はナデ調整で仕上げる。内面はヨコハケ調整後、縦方向のナデ調整を施す。125は鉢である。底部はナデ調整により丸底とするものの、未調整にちかい部分がある。体部外面はタテハケ調整と斜め方向のハケ調整である。内面は斜め方向のハケ調整であり、底部付近はナデ調整である。127は鉢である。底部はナデ調整によりほぼ丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面上半部はハケ調整、下半部はナデ調整である。128は鉢である。底部はナデ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。キレツが認められる。内面上半部はハケ調整、下半部はナデ調整である。全体的に雑な作りである。129は浅めの鉢である。底部は丸底である。外面は底面を含め、全面ハケ調整で仕上げる。内面はナデ調整である。130は鉢である。口唇部にはルーズな面取り、上端部の摘み上げ等がみられる。底部は強いナデ調整等により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。下半部には指頭圧痕が目立つ。内面は斜め方向のハケ調整であり、内底面はナデ調整である。132は鉢である。底部には強いナデ調整を施し、丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。上半部にはキレツが認められる。内面は口縁部はヨコハケ調整、下半部は斜め方向のハケ調整で仕上げる。内底面は凹んでおり、底面を押出した痕跡と考えられる。134は鉢である。全体の器形は甕形土器の体部に似る。底部は円盤状で端部を指頭で摘み出し、上げ底状にする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面上半部はヨコハケ調整、下半部はタテハケ調整である。内底面には指頭圧痕がみられる。当該STから出土している鉢の煮沸率が高いことには注意を払いたい。

135は器台である。粘土帯を貼付し内傾させる。上から二段の竹管文、鋸歯文、口縁部下端に刻目を施す。上面にはヨコハケ調整を施す。

136は底部である。外底面には輪高台状に粘土を付す。内外面ともナデ調整である。器形は壺か。

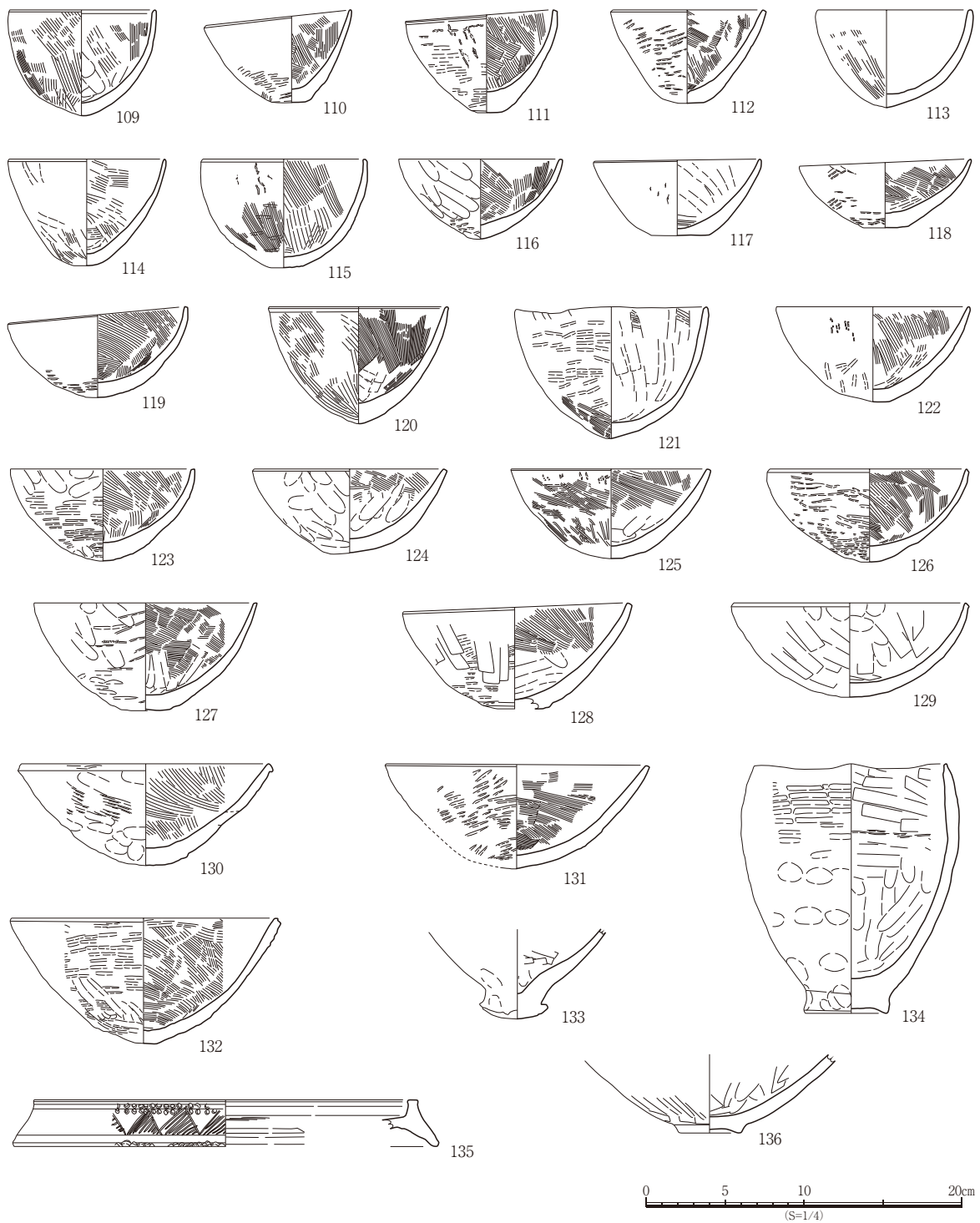


図26 1区 ST5 出土遺物実測図_4

ST6

ST6は1区と2-1区東端部にまたがって検出した平面形が隅丸方形(あるいは多角形)の竪穴建物跡である。2棟の竪穴建物跡が重複している可能性がある。東西の検出長は約8.0m, 南北の検出長は

4.9mを測る。検出面から床面までの深さは約60cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST6_P5)、主柱穴(ST6_P1・6・P56)、壁溝(ST6_SD1・ST6_SD3)、小溝(ST6_SD2・ST6_SD5)等の遺構を検出した。中央ピット(ST6_P5)は長軸1.38m、短軸0.63mの隅丸長方形を呈する。床面からの深さは19cmであり、埋土の上層は炭化物を含む黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトで、下層は黒褐色(10YR2/2)中粒砂質シルトである。壁溝(ST6_SD1)は幅約28cm、深さ約5cmを測る。東辺の一部で約0.9m検出した。壁溝(ST6_SD3)は幅約15cm、床面からの深さ約7cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主柱穴(ST6_P1)は長軸40cm、短軸36cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約38cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。主柱穴(ST6_P6)は、長軸55cm、短軸44cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約54cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。主柱穴(P56)は、長軸29cm、短軸21cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約45cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。小溝(ST6_SD2)は幅約24cm、深さ約11cmを測る。床面からの深さは11cmであり、埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。小溝(ST6_SD5)は幅約40cm、深さ約22cmを測る。床面からの深さは11cmであり、埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。両小溝は一連のものの可能性がある。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(137～139)・甕(140)・鉢(141～145)、ミニチュア土器(146)、紡錘車(147)、砥石(148)である。

137は壺である。頸部外面は斜め方向のハケ調整、内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を全面に施す。内面は斜め方向、横方向のハケ調整を施す。肩部内面はヨコナデ調整を施す。138は壺である。底部はほぼ丸底を呈する。体部外面は叩き調整後、下半部はナデ調整、上半部はハケ調整を施す。内面はハケ調整後、縦方向のナデ調整を加える。内底面には指頭圧痕が認められる。140は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げ、上端部を摘み上げる。体部外面は全面ハケ調整で仕上げ。肩部はタテハケ調整、上胴部以下は斜め方向のハケ調整である。内面は縦方向のナデ調整を施す。142は鉢である。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。全面にキレツが認められる。内面は粗いハケ調整を施す。143は鉢である。底部はナデ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、叩き目を丁寧に消す。内面にはナデ調整を施す。147は紡錘車である。扁平な円盤状を呈し、側面にはルーズな面取りを施す。内外面ともナデ調整で仕上げる。中心部に直径約7mmの円孔を穿つ。ほぼ完形である。148は砂岩製の砥石である。三側面が欠損する。両面と一側面を研面として使用する。一面には叩打痕跡が認められる。幅が狭い研磨痕跡は鉈の刃を研いだ痕跡か。

ST7

ST7は1区南東部で検出した平面形が隅丸長方形の竪穴建物跡である。長軸3.0m、短軸2.4mを測り、床面積は7.2㎡である。主軸方向はN-58°-Eである。検出面から床面までの深さは約17cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質細粒砂他である。床面では中央ピット(P233)、主柱穴(P144・P226)、壁溝(ST7_SD1)等の遺構を検出した。中央ピット(P233)は長軸0.55m、短軸0.40mの楕円形を呈する。床面からの深さは約10cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。壁溝(ST7_SD1)は幅約27cm、床面からの深さ約4cmを測り、埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。全周に巡る。

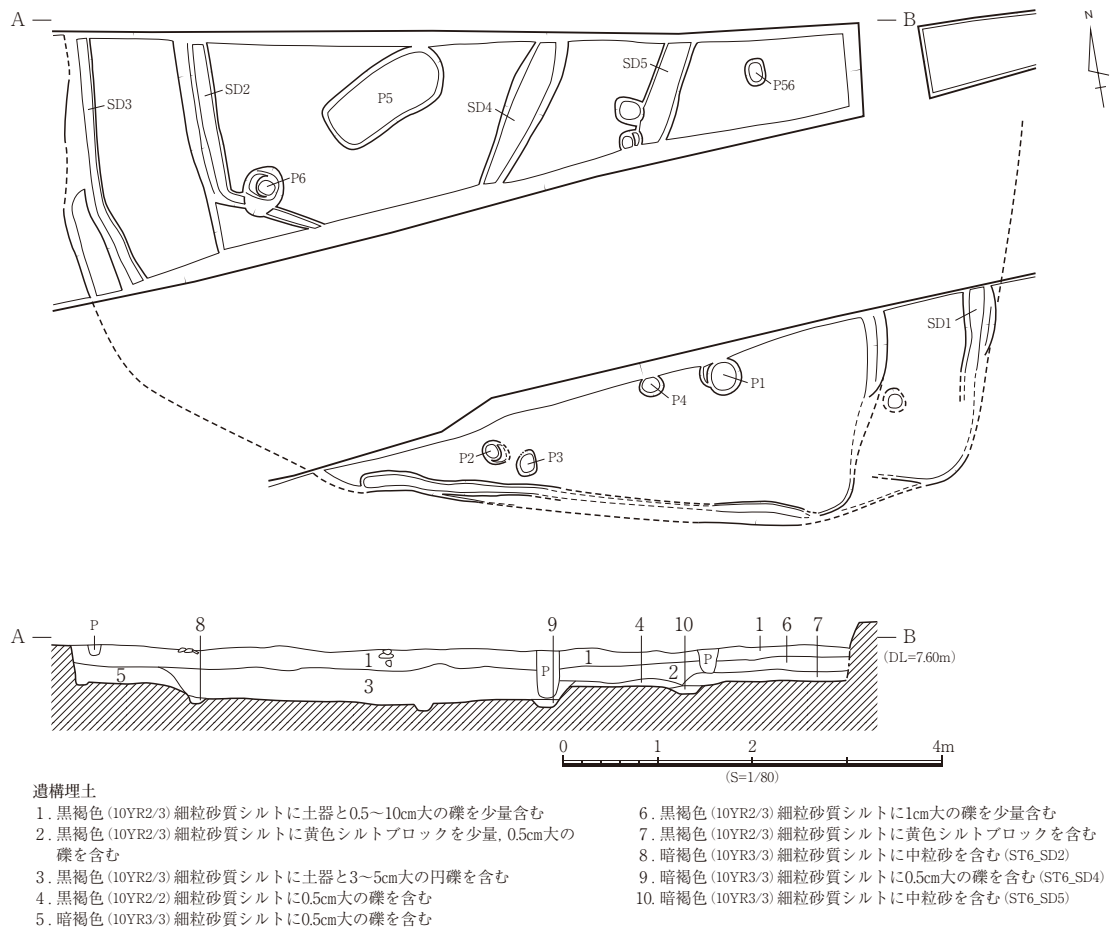


図27 1・2-1区 ST6 平面図・断面図

主柱穴(P144)は、直径20cmの円形を呈し、床面からの深さは約8cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主柱穴(P226)は、直径20cmの円形を呈し、床面からの深さは約3cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(149)・甕(150)である。149は壺である。底部は角の取れた平底である。外底面を含めて、内外面ともナデ調整で仕上げる。150は甕である。底部は平底であり、外底面はナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはナデ調整を施す。

ST8

ST8は1区中央部北寄りで見出した平面形が隅丸方形の竪穴建物跡である。長軸5.0m、短軸4.8mを測り、床面積は24.0㎡である。主軸方向はN-10°-Wである。検出面から床面までの深さは約28cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST8_P13)、主柱穴(ST8_P3・9・14・15)等の遺構を検出した。中央ピット(ST8_P13)は床面中央やや南寄りで検出した。長軸1.23m、短軸0.70mの不整隅丸長方形を呈する。床面からの深さは約9cmであり、埋土は炭化物を少量含む黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主柱穴(ST8_P3)は、直径約30cmの楕円形を呈し、床

面からの深さは約 39 cmを測る。埋土は黄色シルトブロックを含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主柱穴(ST8_P9)は、長軸54cm, 短軸49cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約 27cmを測る。埋土は黄色シルトブロックを含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主柱穴(ST8_P14)は、長軸51cm, 短軸47cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約 35cmを測る。埋土は黄色シルトブロックを

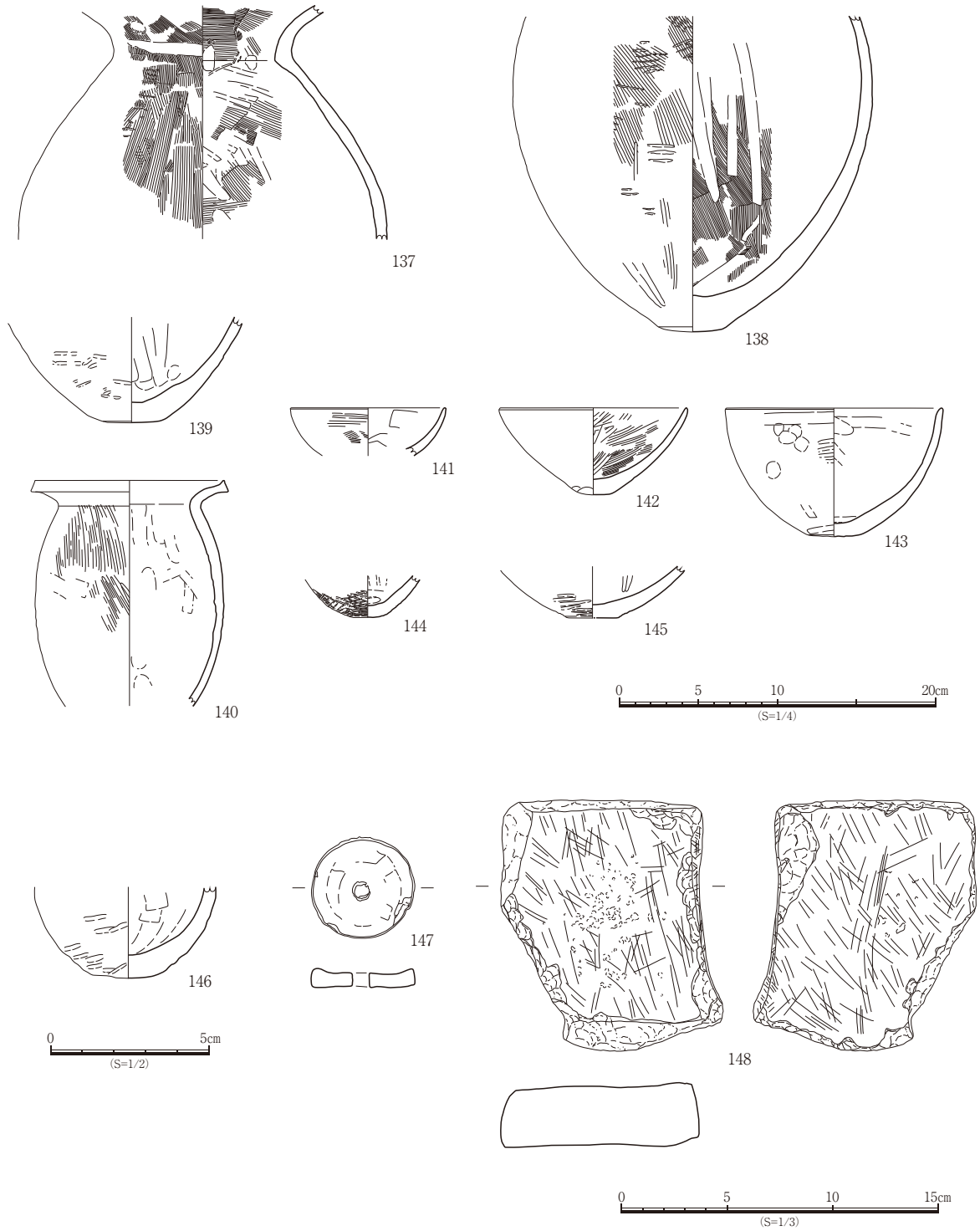


図28 1・2-1区 ST6 出土遺物実測図

含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST8_P15)は、長軸52cm、短軸43cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約39cmを測る。埋土は黄色シルトブロックを含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。また、ST8_P4は床面のほぼ中央部で検出したピットである。長軸47cm、短軸40cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約7cmを測る。埋土は炭化物を含む黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。中央ピットとともに複合型の燃焼施設を構成していた可能性がある。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(151～154)・甕(155・156)・鉢(157～160)、ミニチュア土器(161)、紡錘車(162)である。

151は壺である。口縁部は大きく外反し、口唇部には面取りを施す。外面は斜め方向のハケ調整を施す。内面は口縁部にヨコハケ調整、頸部にはハケ調整後、ナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ハケ調整である。152は壺である。口頸部は直立気味に立ち上がり、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、斜め方向のハケ調整を施す。肩部内面はナデ調整、上胴部はナデ調整である。体部と頸部の境、肩部に粘土帯接合痕跡が認められる。154は壺である。体部は扁球形を呈し、底部は丸底である。外面はハケ調整後、ミガキ調整を丁寧に施す。最大径部付近は横方向、上半部は斜め方向のミガキ調整である。内面はナデ調整、下半部はハケ(ナデ)調整である。

155は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はヨコハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面には叩き目が認められる。体部外面は叩き調整後、下半部はタテハケ調整を施す。内面上半部はハケ調整後ナデ調整を施し、下半部にはナデ調整を施す。

157は鉢である。底部は角の取れた平底であり、外底面はナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を全面に施す。159は鉢である。強いハケ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を全面に施す。

161はミニチュア土器である。鉢形土器をモデルとする。外底面を僅かに凹ませる。内外面ともナデ調整で仕上げる。162は紡錘車である。扁平なやや楕円形状を呈し、中心にむかって厚さが増す。側面はルーズな面取りを施す。内外面ともナデ調整で仕上げる。中心部に直径約7mmの円孔を穿つ。ほぼ完形である。

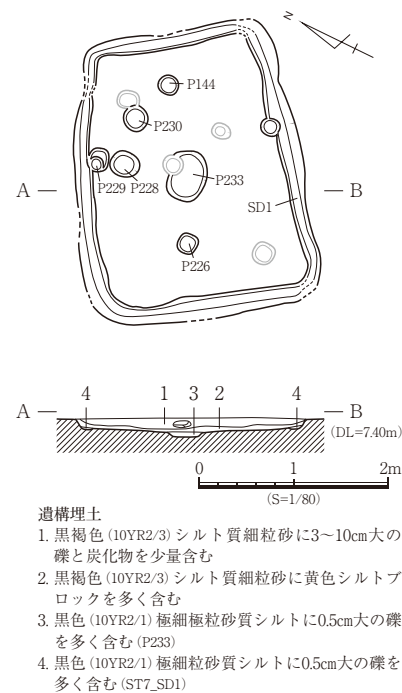


図29 1区 ST7 平面図・断面図

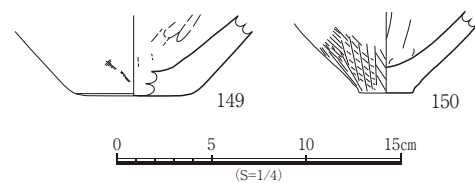
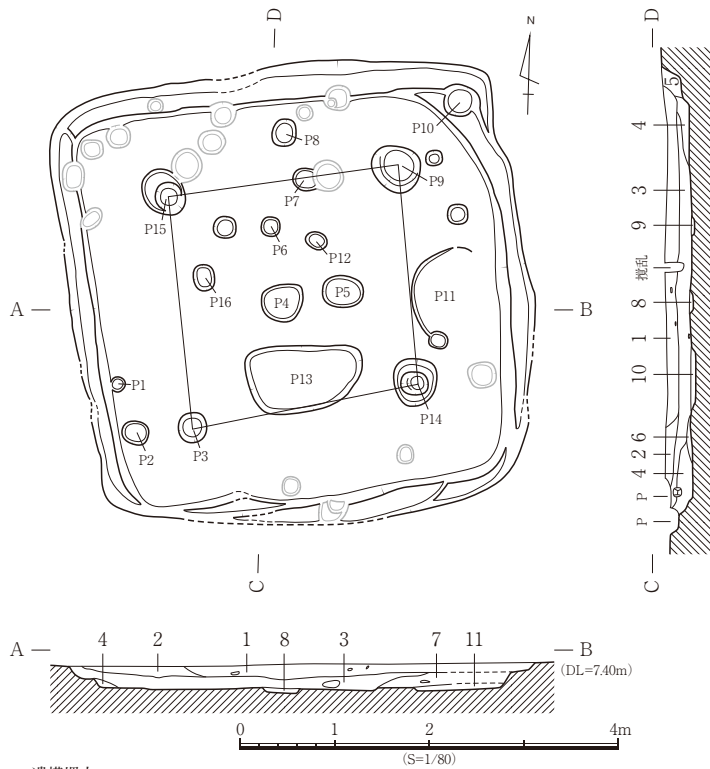


図30 1区 ST7 出土遺物実測図



遺構埋土

1. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに炭化物を少量含む
2. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルト
3. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物と0.3cm大の礫を含む
4. 黒褐色 (7.5YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物と3cm大の礫を少量含む
5. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに炭化物と3cm大の礫を含む
6. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと粗粒砂と3cm大の礫を含む
7. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
8. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物と2cm大の礫を含む (ST8_P4)
9. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物と2cm大の礫を含む (ST8_P6)
10. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに炭化物と3cm大の礫を少量含む (ST8_P13)
11. 黒色 (7.5YR1.7/1) 細粒砂質シルト (ST8_P11)

図31 1区 ST8 平面図・断面図

測る。埋土は暗褐色 (10YR3/3) シルトである。支柱穴 (ST9_P3) は、直径 23 cm の円形を呈し、床面からの深さは約 3cm を測る。浅く支柱穴ではない可能性がある。埋土は黄色シルトブロックを多く含む黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトである。他に床面南東隅に貯蔵穴 (ST9_P4) を伴う。ST9_P4 は長軸 70 cm、短軸約 56 cm の隅丸長方形を呈し、床面からの深さは約 13 cm である。埋土は黄色シルトブロックを多く含む黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺 (163・164)・甕 (165～170)・鉢 (171～173)・高杯 (174・175)、ミニチュア土器 (176) である。

164 は壺である。扁球形の体部から口頸部は外反する。頸部外面はタテハケ調整を施し、内面はヨコハケ調整後、縦方向のミガキ調整を密に施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施し、さらに縦方向のミガキ調整で仕上げる。内面は横方向から斜め方向のハケ調整を施し、底部付近はナデ調整を施す。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。

166 は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には丸みを持った面取りを施す。口縁部は内

ST9

ST9 は 1 区中央部東寄りで検出した平面形が隅丸方形の竪穴建物跡である。長軸 5.0m、短軸 4.4m を測り、床面積は 22.0 m² である。主軸方向は N-3° -E である。検出面から床面までの深さは約 30cm であり、埋土は暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット (ST9_P1)、支柱穴 (ST9_P2・3) 等の遺構を検出した。中央ピット (ST9_P1) は床面中央やや西寄りで検出した。長軸 63 cm、短軸 57cm の不整形を呈する。床面からの深さは約 2 cm とかなり浅い。埋土は炭化物と焼土を含む暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトである。中央ピットの北東部と南東部で焼土跡を検出した。支柱穴 (ST9_P2) は、直径 26cm の円形を呈し、床面からの深さは約 12 cm を

外面ともヨコナデ調整である。体部外面は斜め方向の粗いハケ調整か、叩き後ナデ調整を施したと考えられる。内面はナデ調整であり、幅約2.5cmの粘土帯接合痕跡が認められる。167は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。168は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は横方向から斜め方向のハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はナデ調整で仕上げ、肩部はハケ調整後にナデ調整を施す。169は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはケズリ調整を施す。

171は鉢である。底部はナデ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を施し、内底面にはナデ調整を施す。172は鉢である。口唇部は面取りし、外傾させる。底部は平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、上半部はタテハケ調整、下

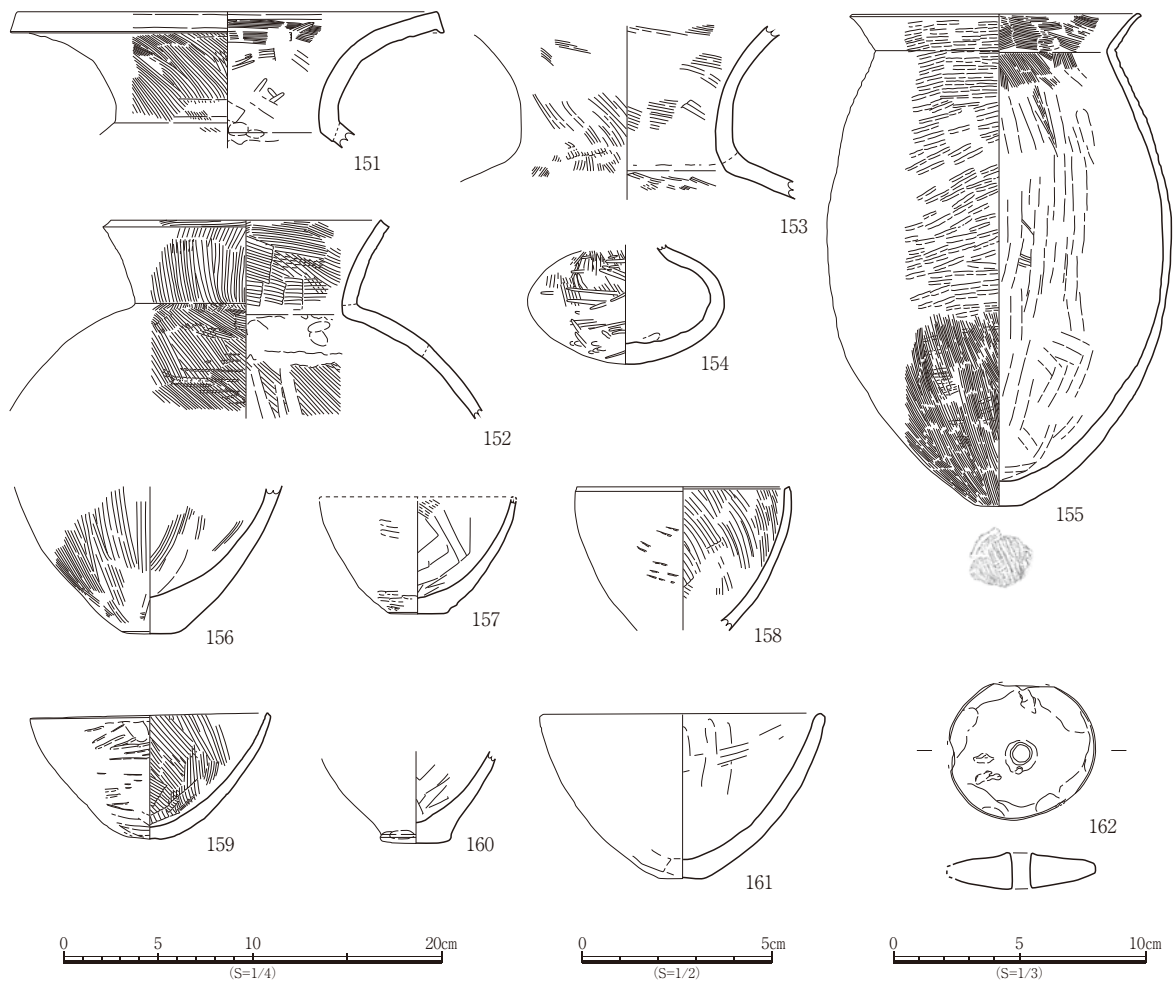


図32 1区 ST8 出土遺物実測図

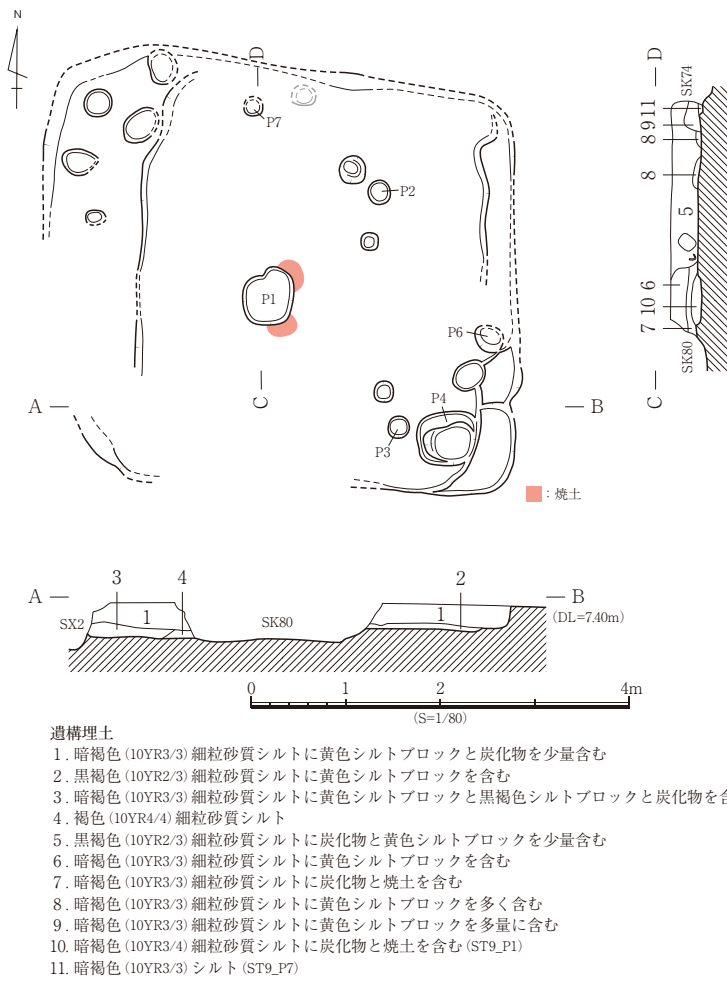


図33 1区 ST9 平面図・断面図

半部はナデ調整で仕上げる。内面は工具ナデ調整, 指ナデ調整を施す。器壁は厚く, 重い。

174は高杯の口縁部である。一次口縁部外面はヨコナデ調整後, 横方向のミガキ調整を疎らに施す。内面はヨコナデ調整である。二次口縁部は大きく外反させ, 口唇部は外側へ尖らせ気味にまるめる。二次口縁部外面は斜め方向のハケ調整後, 横方向のミガキ調整を疎らに施す。内面は斜め方向のハケ調整である。一次口縁部と二次口縁部境には粘土を貼付し, 比較的鋭い稜を巡らせる。175は高杯である。裾部は大きく「ハ」の字形にひろがり, 端部は丸みを持たせる。外面はタテハケ調整後, ミガキ調整を加える。

内面はヨコナデ調整である。直径9mmの円孔を4ヶ所に穿つと推測される。

176はミニチュア土器である。鉢形土器をモデルとする。口縁端部を外反させる。外面はタテハケ調整, 内面はヨコハケ調整を施す。

ST10

ST10は1区中央部で検出した平面形が隅丸方形の竪穴建物跡である。長軸3.1m, 短軸3.0mを測り, 床面積は9.1㎡である。主軸方向はN-68°-Eである。検出面から床面までの深さは約60cmであり, 埋土は黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルト他である。床面ではピット (ST10_P1・2・4) 等の遺構を検出した。ST10_P1は直径26cmの円形を呈し, 床面からの深さは約26cmを測る。埋土は暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトである。ST10_P3は長軸36cm, 短軸32cmの楕円形を呈し, 床面からの深さは約19cmを測る。埋土は黒褐色 (10YR3/2) 中粒砂質シルトである。ST10_P4は長軸40cm, 短軸33cmの楕円形を呈し, 床面からの深さは約23cmを測る。埋土は黄色シルトブロックを含む黒褐色 (10YR3/2) 中粒砂質シルトである。ST10_P1とP3が主柱穴となるか, P4と北側のピットが主柱穴となる可能性がある。2本で

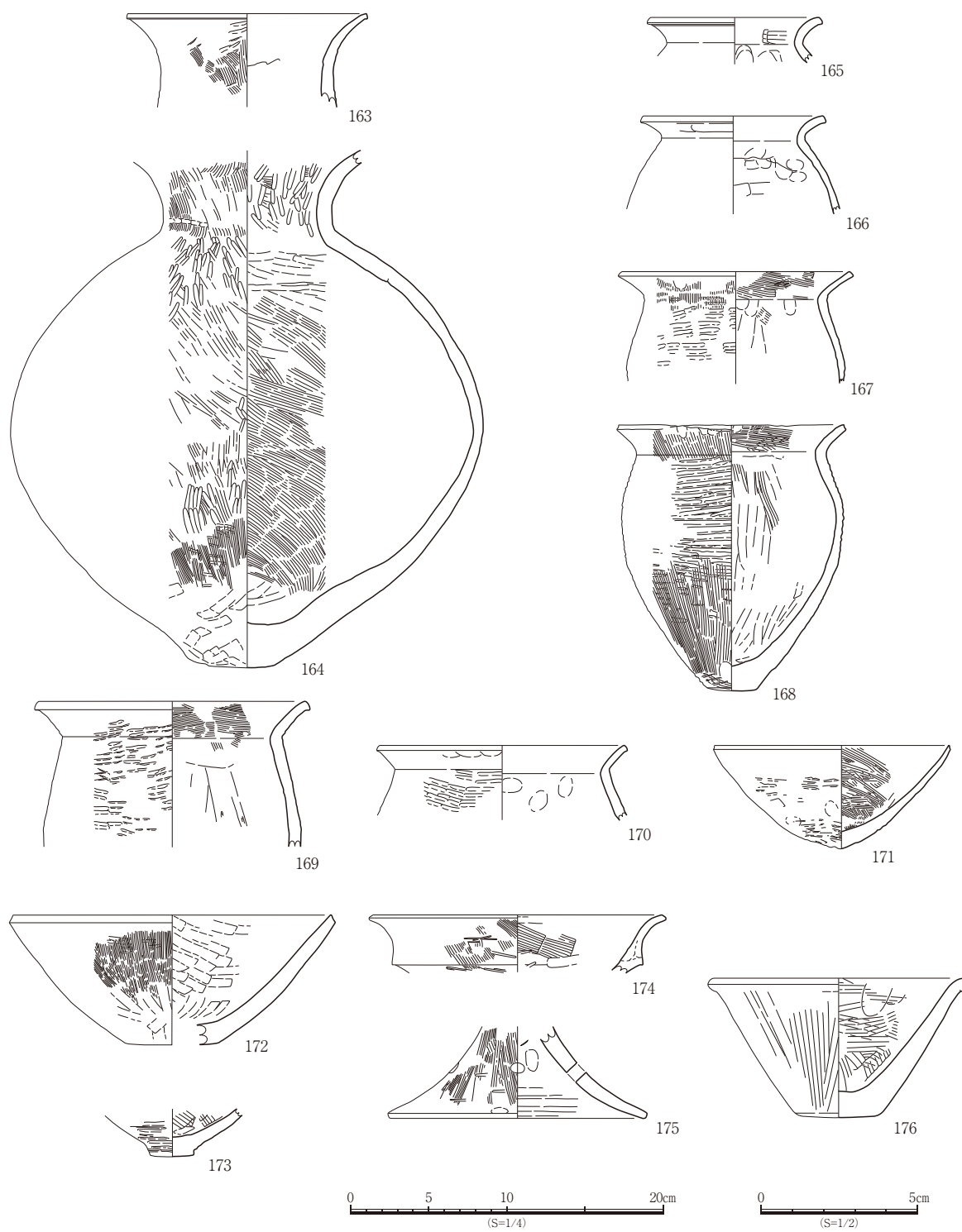
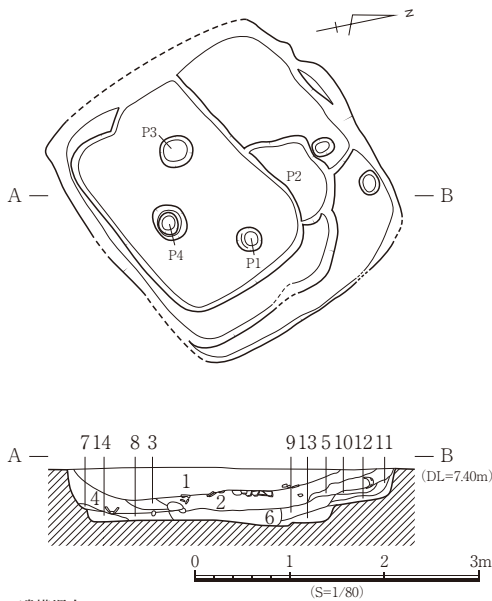


图34 1区 ST9 出土遺物実測図



遺構埋土

1. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を少量含む
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに焼土と炭化物を含み、上部に土器の堆積
3. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに炭化物を少量含む
4. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに炭化物を含む
5. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに炭化物と黄色シルトブロックを少量含む
6. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多量に含む
7. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多量に含む
8. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を少量含む
9. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を少量含む
10. 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
11. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
12. 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む
13. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む (ST10_P2)
14. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量含む

図35 1区 ST10 平面図・断面図

調整後、指頭により成形する。内面は斜め方向のハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面には叩き目が認められる。体部外面は叩き調整後、下半部にタテハケ調整を施す。内面はハケ調整を施し、底面はナデ調整を施す。181は甕である。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面は斜め方向のハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面には叩き目が認められる。体部は長胴形を呈し、外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整であり、肩部はハケ調整後、ナデ調整を施す。二分割成形である。182は甕である。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面は斜め方向のハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、

上部構造を支えていたと考えられる。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕(177~189)・鉢(190~219)である。

177は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面は斜め方向のハケ調整である。体部外面は叩き調整後、下半部にタテハケ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。内底面は凹む。178は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面はタテハケ調整を施す。内面はヨコハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面には叩き目が認められる。叩き目の方向は急な右下がりである。タテハケ調整により角を取る。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を全面に施す。内面はハケ調整を全面に施す。179は甕である。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈する。口縁部は内外面ともナデ調整を施す。底部はほぼ丸底を呈し、外底面には叩き目が認められる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはナデ調整を施す。180は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き

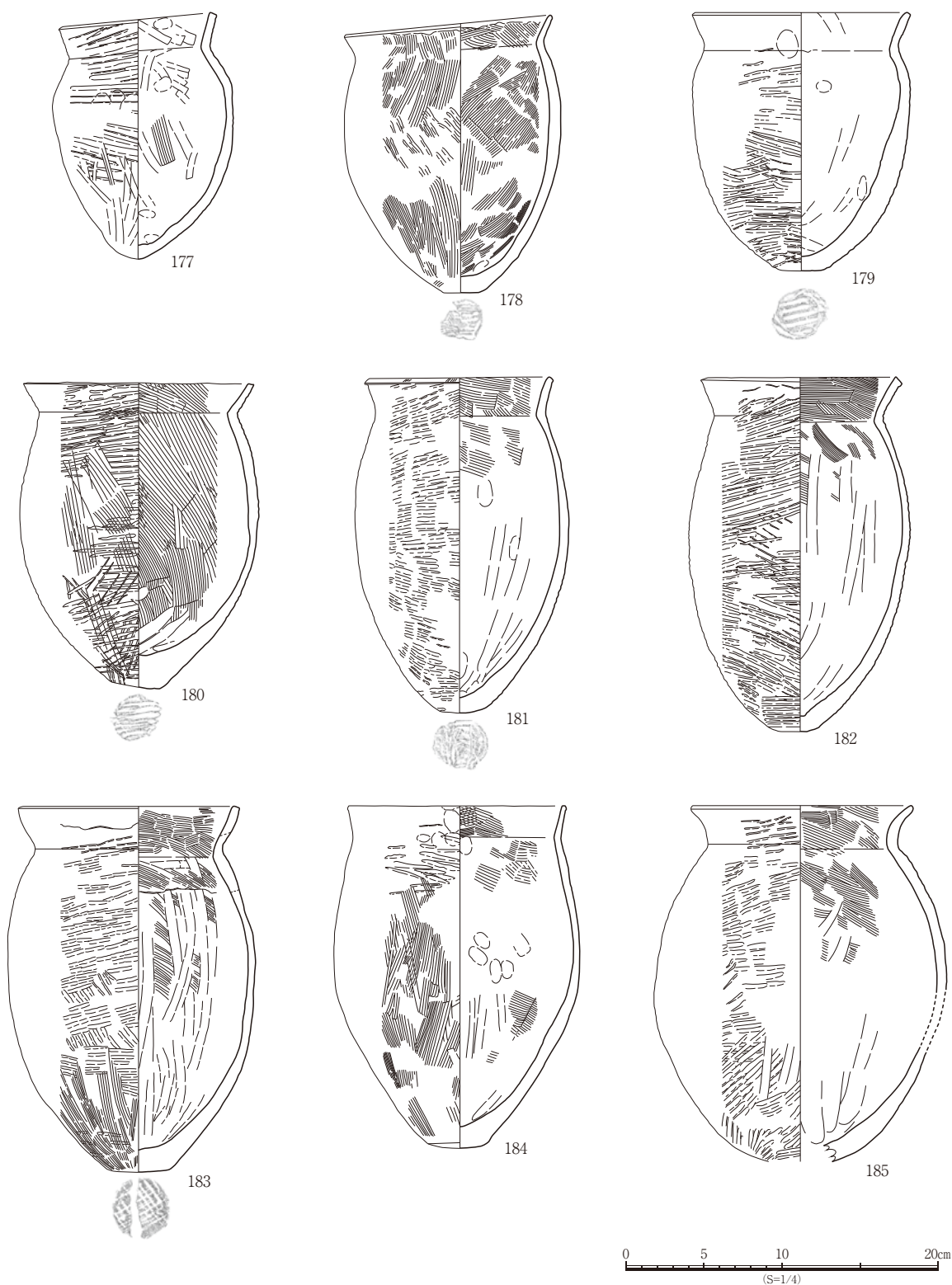


図36 1区 ST10 出土遺物実測図_1

外底面は叩き調整後、ナデ調整である。体部は長胴形を呈し、外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整であり、肩部はハケ調整後ナデ調整を施す。二分割による成形である。181と形態、調整、口唇部の面取り手法で類似する。183は甕である。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈し、内湾気味である。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はヨコハケ調整を施す。底部は角の取れた平底であり、外底面は叩き調整を重ね、ナデ調整で仕上げる。体部外面は叩き調整後、上半部はナデ調整、下半部はタテハケ調整を施す。内面はハケ調整後、上胴部以下には縦方向のナデ調整を施す。184は甕である。口縁部の屈曲度合いはかなり弱く直立する部分もある。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面は横方向から斜め方向のハケ調整を施す。底部はほぼ丸底であるが、底部と体部の境には鈍い稜線が巡る。外底面は叩き調整後、ナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。ハケメの方向は斜め方向から横方向である。内底面は凹む。186は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。底部はほぼ丸底であり、外底面は丁寧にナデる。底部と体部の境には鈍い稜線が巡る。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は摩耗のため、調整等の観察は困難である。ナデ調整か。187は大型の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部は内外面ともヨコハケ調整を施すが、内面と外面とでは原体が異なる。内面の口頸部境の稜は比較的鋭い。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部は長胴形を呈し、外面は叩き調整後、ハケ調整を全面に施す。内面はハケ調整を全面に施す。内底面はナデ調整であり、指頭圧痕が認められる。また、肩部にも指頭圧痕がみられる。188は大型の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面はヨコハケ調整、内面は横方向から斜め方向のハケ調整を施す。内面と外面とでは原体が異なる。内面の口頸部境の稜は比較的鋭い。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を丁寧に施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を全面に施す。底部付近とそれ以上とはハケ調整の原体は異なる。内面上半部はハケ調整後ナデ調整を施し、下半部はナデ調整である。

190は鉢である。底部は平底で片側の端部を押し潰す。外底面には棒状の圧痕がみられる。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整で仕上げる。191は鉢である。外面下半部にはハケ調整を施し、丸底とする。上半部はナデ調整であり、キレッツが認められる。内面はハケ調整を全面に施す。内底面は凹む。193は鉢である。半球形を呈し、口縁部は僅かに内湾する。底部はナデ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、斜め方向のハケ調整を上半部に密に施す。内面はナデ調整で仕上げ、下半部には工具の痕跡がみられる。194は鉢である。底部は平底で片側の端部を押し潰す。外底面は未調整にちかい。体部外面はナデ調整である。内面はナデ調整で仕上げ、内底面には工具の痕跡がみられる。195は鉢である。底部は角の取れた平底であり、ナデ調整により丸底化する。口縁部は内湾させ、口唇部を尖らせる。体部外面は叩き調整後、斜め方向のハケ調整を施す。内面はナデ調整であり、口縁部にはハケ調整を施す。196は鉢である。底部はナデ調整により丸底とする。口縁部は内湾させ、端部をくぼませる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面にはナデ調整を施す。197は鉢である。底部はナデ調整により丸底とするものの、底部と体部の境には鈍い稜線が巡る。体部外面にはナデ調整を施し、腰部までキレッツが認められる。内面はナデ調整であり、口縁部にはハケ調整を施す。198は鉢である。底部は強いナデ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ



図37 1区 ST10 出土遺物実測図_2

調整を施す。内面はナデ調整で仕上げ、下半部には工具の痕跡がみられる。199 は鉢である。底部は強いナデ調整により丸底とし、指頭圧痕が顕著にみられる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整で仕上げ、下半部には工具の痕跡がみられる。200 は鉢である。角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整・強い工具ナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を全面に施す。201 は浅めの鉢である。口唇部にはナデ調整を施し、整える。底部は丸底であり、外底面にはハケ調整を施す。体部外面はナデ調整を施す。内面はハケ調整であり、内底面はナデ調整である。202 は鉢である。口縁端部を僅かに外反させる。底部は平底で片側の端部を押し潰

第2節 1区

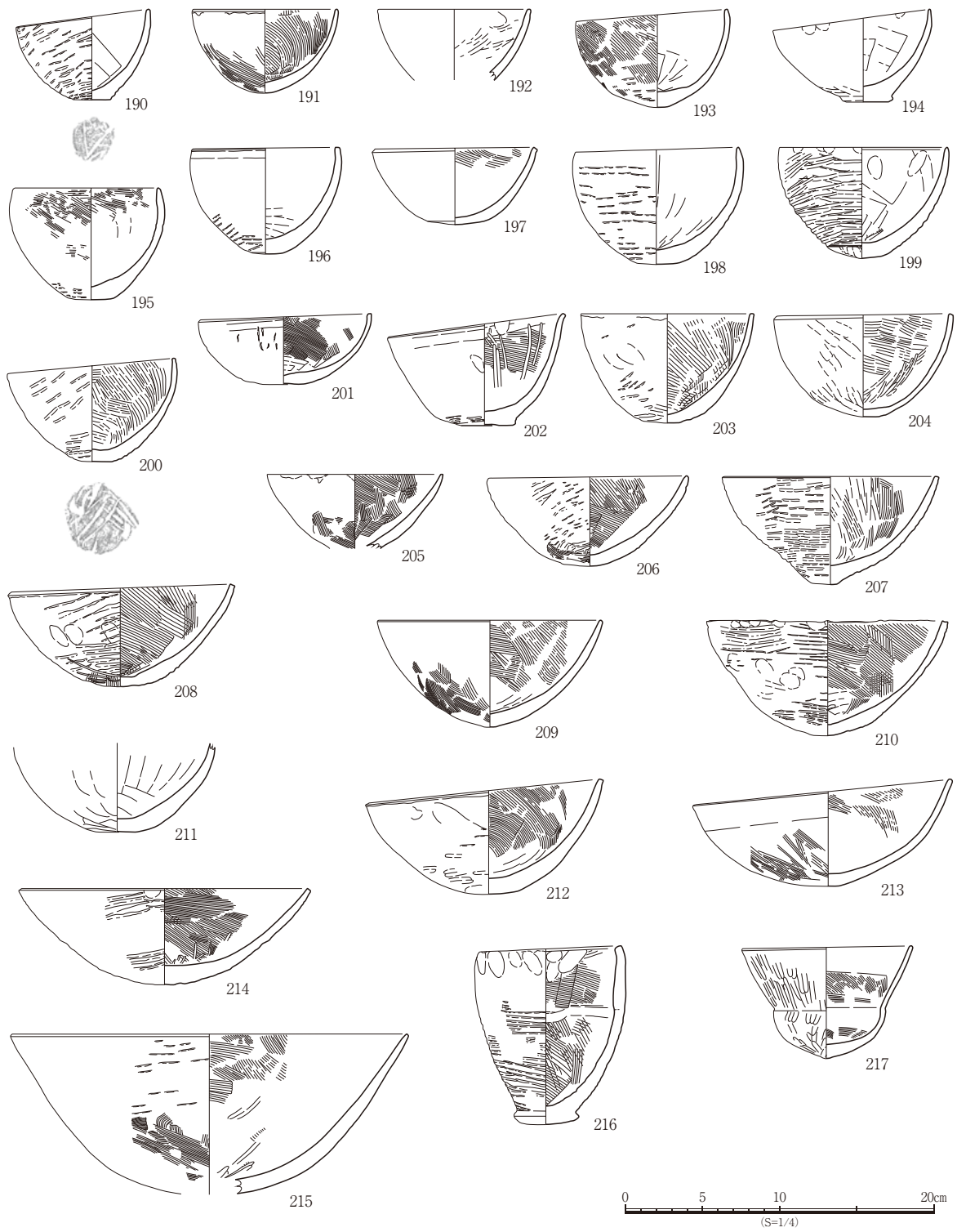
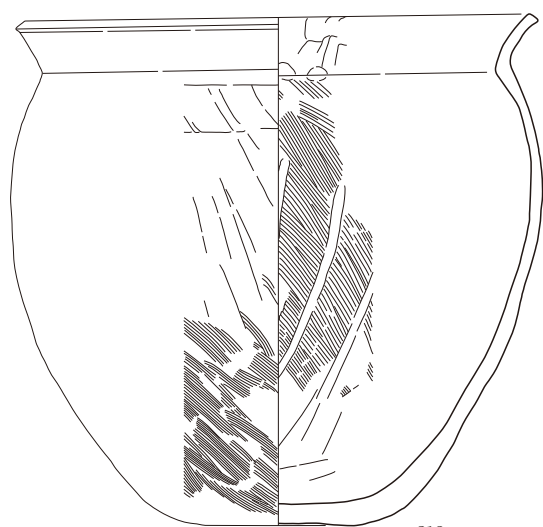
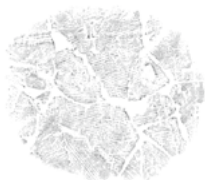


图38 1区 ST10 出土遺物実測图_3



218



219

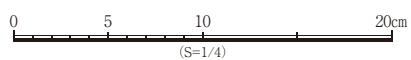
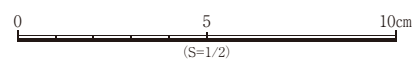
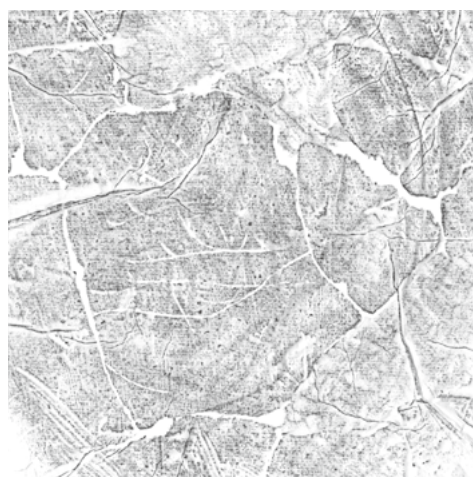
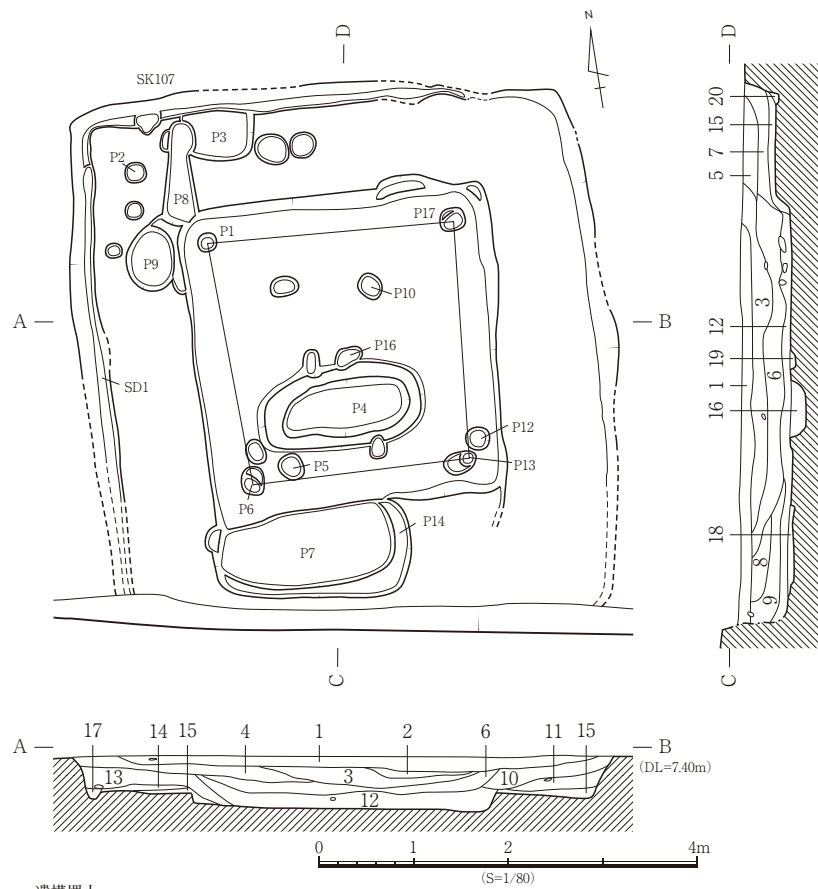


図39 1区 ST10 出土遺物実測図_4



遺構埋土

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を少量含む
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を含む
3. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む
4. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を含む
5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を少量含む
6. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む
7. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を少量含む
8. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多量に含む
9. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を含む
10. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多量に含む
11. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量含む
12. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
13. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
14. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
15. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多量に含む
16. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を含む (ST11_P4)
17. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルト (ST11_SD1)
18. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む (ST11_P7)
19. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を多く含む (ST11_P16)
20. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む (ST11_SD1)

図40 1区 ST11 平面図・断面図

す。外底面には圧痕がみられる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整後、ミガキ調整を施す。内底面にはナデ調整を施す。203は鉢である。外底面は叩き板によるナデ調整を施し、丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を全面に施す。204は鉢である。口唇部は面取りし、外傾させる。底部は工具ナデ調整・指ナデ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は横方向から斜め方向のハケ調整後、ナデ調整を施す。一部はミガキ状となる。内底面はナデ調整で仕上げる。206は鉢である。底部はハケ調整により丸底とする。体

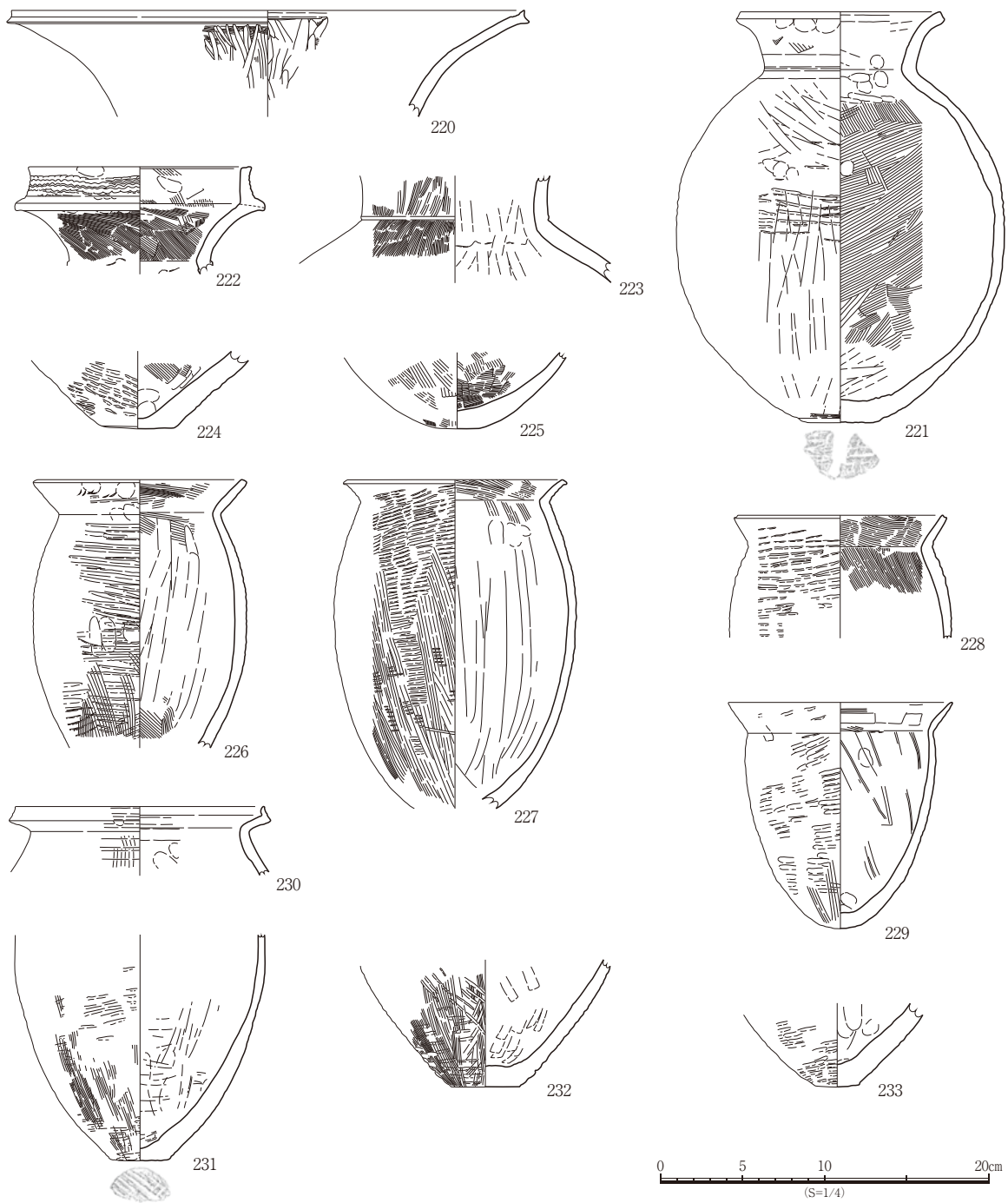


図41 1区 ST11 出土遺物実測図_1

部外面は叩き調整後、ナデ調整である。内面はハケ調整を全面に施す。207は鉢である。底端部をナデること丸みを持たせる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を全面に施す。208は鉢である。底部はハケ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を全面に施す。210は鉢である。底部は強めのハケ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を全面に施す。内面にはリング状に煤が付着し、外面の煤の付着範囲と対応する。211は鉢である。底部はケズリ調整により角を取る。体部外面は叩き調整

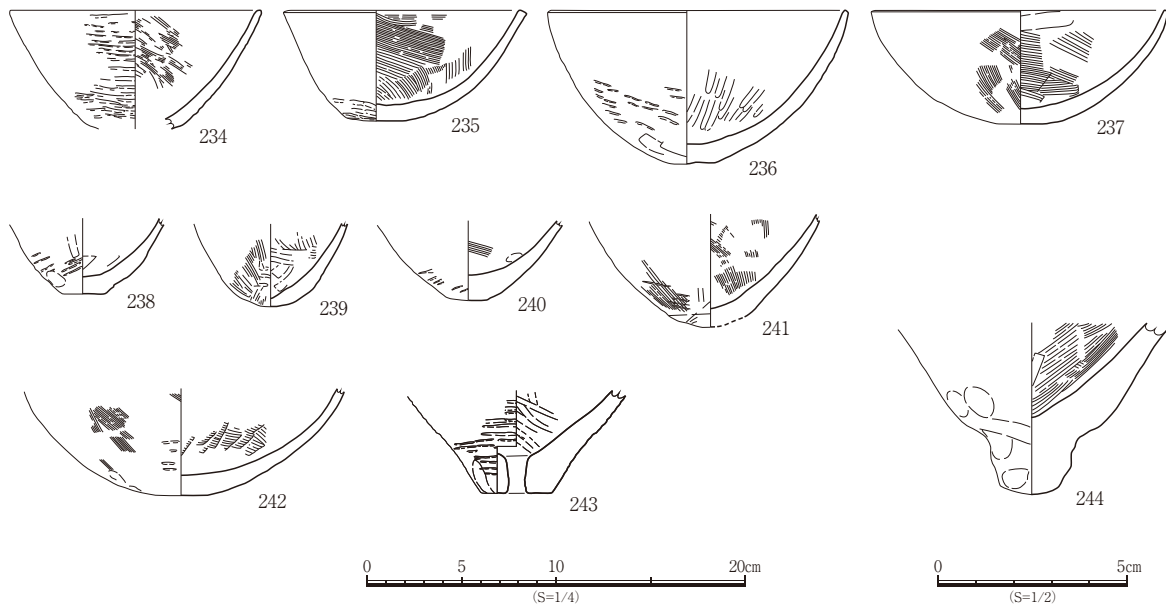


図42 1区 ST11 出土遺物実測図_2

後、ナデ調整を施す。内面は工具ナデ調整である。212は鉢である。底部はナデ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を丁寧に施す。内面はハケ調整であり、内底面にはナデ調整を施す。213は鉢である。底部はナデ調整により丸底とする。体部外面はハケ調整を施し、口縁部はヨコナデ調整を施す。内面は摩耗のため、調整等の観察は困難である。口縁部はハケ調整後、ミガキ調整か。214は浅めの鉢である。外面は荒れており、調整等の観察は困難であるが、叩き調整後、ナデ調整か。内面は斜め方向のハケ調整を施し、内底面から下半部には放射状にミガキ調整を施す。215は鉢である。底部はハケ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、下半部はハケ調整、上半部はナデ調整を施す。内面はハケ調整後、ミガキ調整を比較的密に施す。216はコップ状の鉢である。口縁部は指押さえにより成形する。底部は丸みを持った平底であり、端部は突出する。外底面にはナデ調整を施し、キレツが認められる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整を全面に施す。上胴部の粘土紐接合痕跡を境にハケ調整の方向が異なる。217は小型丸底鉢である。底部は尖り気味の丸底であり、外底面には不整形に粘土が盛り上がる。口縁部は長く直線上に外上方へのび、口唇部は丸くおさめる。外面は縦方向のミガキ調整を全面に密に施す。口縁部はヨコナデ調整後にミガキ調整を施す。内面にはヨコナデ調整及び斜め方向のハケ調整を施す。体部はヨコハケ調整を施し、内底面はハケ調整後、ナデ調整を施す。口縁部と体部の境には凹線が巡る。218は大型の鉢である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はハケ調整・ヨコナデ調整を施す。底部は角の取れた平底であり、ハケ調整・ナデ調整を施す。体部については外面上半部はハケ調整を密に施し、下半部は叩き調整後、ハケ調整を施す。上半部と下半部では異なったハケ原体を使用する。内面は斜め方向のハケ調整後、縦方向のミガキ調整を疎らに施す。底部付近はナデ調整である。また、上胴部には線刻が認められる。219は大型の鉢である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はハケ調整・ヨコナデ調整を施す。底部は角の取れた平底であり、ハケ調整・ナデ調整を施す。体

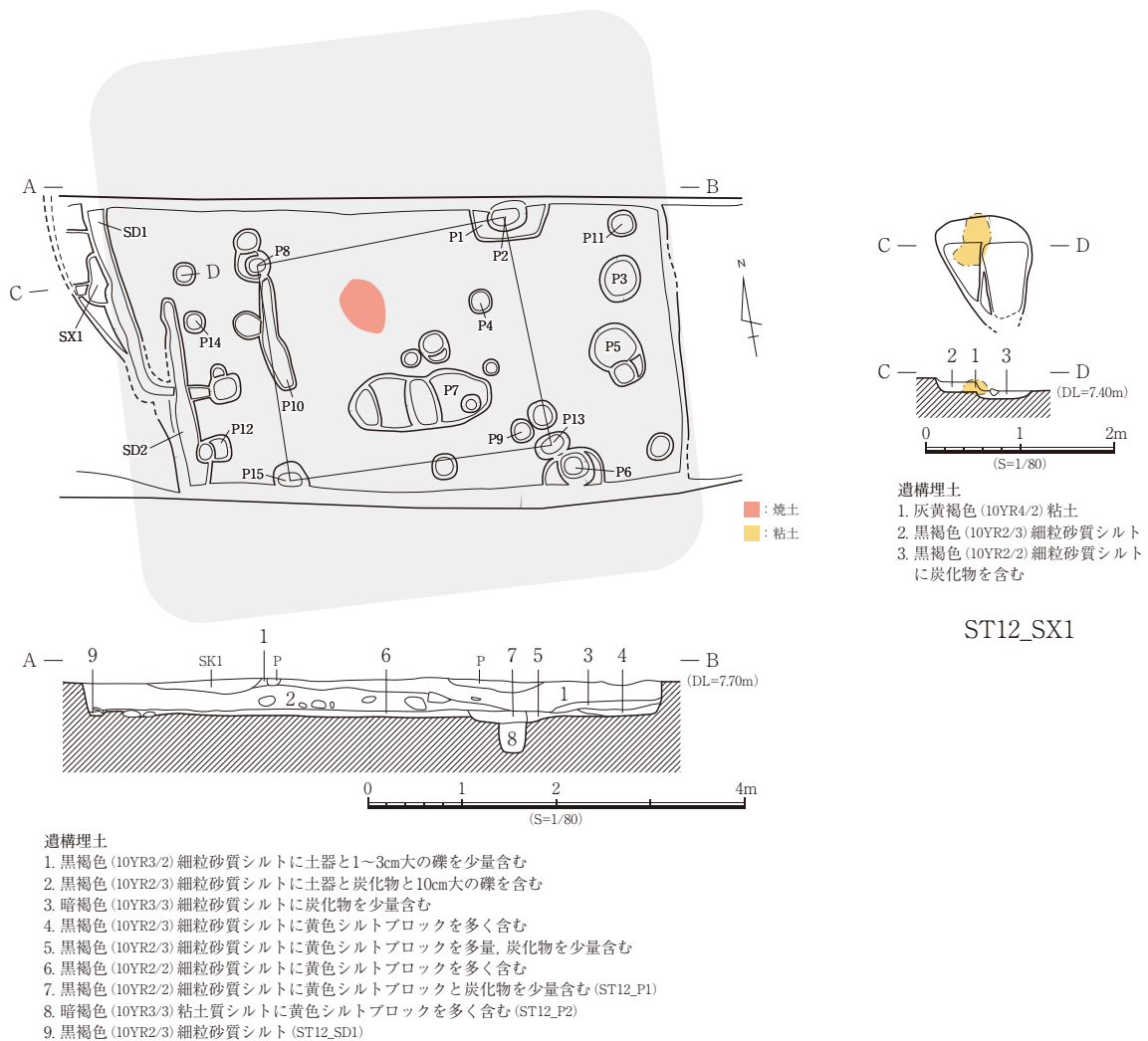


図43 2-1区 ST12 平面図・断面図

部外面上半部は叩き調整後、ハケ調整を密に施し、下半部は叩き調整後、ハケ調整・ナデ調整を施す。上半部と下半部では異なったハケ原体を使用する。内面は斜め方向のハケ調整後、ナデ調整を施す。内底面には指頭圧痕がみられる。

ST11

ST11は1区中央部南端で検出した平面形が隅丸方形の竪穴建物跡である。一辺約5.6m、床面積は31.3㎡である。主軸方向はN-3°-Eである。検出面から床面までの深さは約52cmであり、埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルト他である。床面ではベッド状遺構、中央ピット(ST11_P4)、支柱穴(ST11_P1・6・13・17)等の遺構を検出した。ベッド状遺構は全周で検出しているが南辺はベッド上面と床面との比高差は小さい。壁溝(ST11_SD1)は西辺から北辺にかけて検出した。幅約16cm、ベッド上面からの深さは約2cmである。埋土は黄色シルトブロックを含む暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。検出長は約7.9mである。ベッド状遺構は幅約0.9m、床面との比高差は約19cmである。中央ピット

ト(ST11_P4)は床面中央、南寄りで検出した。長軸1.37m、短軸0.61mの長楕円形である。床面からの深さは88cmであり、かなり深い。埋土は炭化物及び黄色シルトブロックを多く含む黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。中央ピットの周囲に僅かな周堤が認められる。支柱穴は床面の四隅に配置されている。支柱穴(ST11_P1)は直径20cmの円形を呈し、床面からの深さは約14cmを測る。埋土は黄色シルトブロックを多く含む暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST11_P6)は長軸31cm,

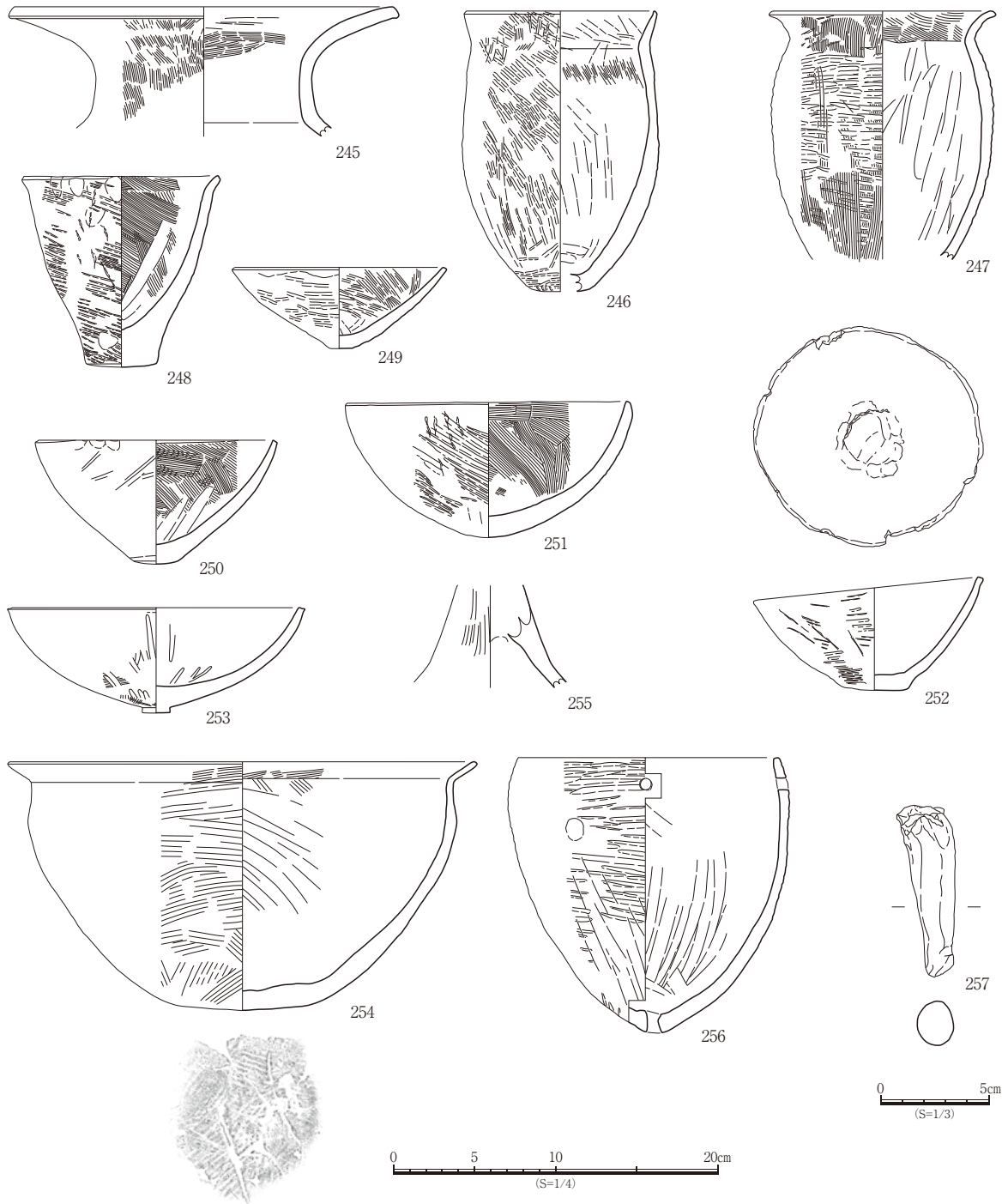


図44 2-1区 ST12 出土遺物実測図

短軸 25cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約 10cmを測る。埋土は黄色シルトブロックを多く含む暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST11_P13)は長軸 35cm, 短軸 23cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約 12cmを測る。埋土は黄色シルトブロックを多く含む暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST11_P17)は直径 27cmの円形を呈し、床面からの深さは約 37cmを測る。埋土は黄色シルトブロックを多く含む暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(220～225)・甕(226～233)・鉢(234～242)・有孔土器(243)、ミニチュア土器(244)である。

220は壺である。口縁部は大きくひらく。口縁部の上端を摘み上げ、下端を摘み出す。口唇部は凹面状を呈する。頸部外面はタテハケ調整、口縁部はヨコハケ調整後、ミガキ調整を密に施す。内面は横方向から斜め方向のハケ調整後、縦方向から斜め方向のミガキ調整を密に施す。221は壺である。頸部は短くひろがり、口縁部を外反させる。口唇部はヨコナデ調整により凹面状を呈する。底部は角の取れた平底であり、外底面には叩き目が認められる。体部はやや長い球形を呈する。外面は叩き調整後、下半部はタテハケ調整を施し、上半部は斜め方向のハケ調整を施す。上半部と下半部のハケ本体は異なる。内面はハケ調整を施す。部位によって施す方向は異なる。また、底部付近にはナデ調整を施す。222は複合口縁壺である。一次口縁部は大きく外反し、端部上面に二次口縁部を貼付する。口唇部には面取りを施し、外面には櫛描波状文を施す。一次口縁部は内外面とも斜め方向のハケ調整を施す。

226は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面はヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、下半部にタテハケ調整を施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。227は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はルーズな面取りを施す。内面の口頸部境には稜が巡る。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形し、内面はヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は縦方向のナデ調整を施し、肩部にはハケメがみられる。229は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈する。口縁部外面は叩き調整後、口頸部境にタテハケ調整を施す。内面はヨコハケ調整を施す。底部は丸底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、下半部にはタテハケ調整を施す。内面にはナデ調整を施す。230は甕である。口縁部を上方へ拡張する。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施し、外面には2条の弱い凹線文が巡る。肩部外面はタテハケ調整後、ヨコハケ調整を施す。内面はヘラケズリ調整である。混入品である。

235は鉢である。口唇部にはルーズな面取りを施す。底部は角の取れた平底であり、片側を潰す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整で、内底面はナデ調整である。236は鉢である。口唇部は丸くおさめる。底部はナデ調整により角を取る。外底面には指頭圧痕が認められ、凹凸がある。体部外面は叩き調整後、下半部にはタテハケ調整、上半部にはナデ調整を施す。内面は摩耗のため調整等の観察は困難であるが、縦方向のミガキ調整・ナデ調整である。237は鉢である。底部はケズリ調整により丸底とする。外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整を全面に施す。242は鉢である。底部はヘラケズリ調整により丸底とする。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はヨコハケ調整であり、内底面にはナデ調整を施す。243は有孔土器である。角の取れた平底であり、外底面はナデ調整を施す。体部は直立気味に立ち上がり、外上方へのびる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は斜め方向の粗いハケ調整である。底部に焼成後に 1

穴、内外面から穿孔する。内面側の方が直径は大きい。244の器形は不明である。底部は指頭により突出させる。図示した天地が正しければ自立しない。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整、タテハケ調整を重ねる。

ST12

ST12は2-1区東部で検出した平面形が隅丸方形の竪穴建物跡と推測される。ST13を切る。長軸5.8～6.1m、短軸の検出長は2.9mを測り、床面積は37.2㎡である。主軸方向はN-4°-Eである。検出面から床面までの深さは約37cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST12_P7)、支柱穴(ST12_P2・8・13・15)、壁溝(ST12_SD2)等の遺構を検出した。壁溝(ST12_SD2)は西辺の一部で検出した。幅約26cm、床面からの深さは約7cmである。埋土は黄色シルトブロックを多く含む暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。検出長は約2.1mである。中央ピット(ST12_P7)は床面中央、南寄りか。長軸1.42m、短軸0.56mの不整長楕円形である。床面からの深さは28cmである。埋土は炭化物を多く含む黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。中央ピットの北西約60cmの位置で焼土跡を検出した。焼土跡は中央ピットとともに複合型の燃焼施設を構成していたと考えられる。支柱穴は床面の四隅に配置されていると推測される。支柱穴(ST12_P8)は長軸38cm、短軸33cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約21cmを測る。埋土は黄色シルトブロックを多く含む暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST12_P13)は長軸40cm、短軸26cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約32cmを測る。埋土は黄色シルトブロックを多く含む暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST12_P15)は長軸36cm、短軸の検出長29cm、床面からの深さは約32cmを測る。埋土は黄色シルトブロックを多く含む暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。ST12_SX1は埋土中で検出した性格不明遺構である。長軸の検出長1.18m、短軸0.64m、検出面からの深さは約29cmを測る。埋土には灰黄褐色の粘土を含む。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(245)・甕(246・247)・鉢(248～254)・高杯(255)・有孔土器(256)、支脚(257)である。

245は壺である。口縁部を大きく外反させ口唇部には面取りを施す。口縁部外面はタテハケ調整後、ヨコナデ調整を加える。内面はヨコハケ調整である。頸部外面はタテハケ調整、内面はヨコナデ調整である。246は甕である。口縁部は屈曲度合の弱い「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面には叩き目が認められる。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面上半部は斜め方向のハケ調整、下半部はナデ調整である。肩部内面には粘土帯接合痕跡が認められる。247は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面頸部直下までヘラケズリ調整を施す。248は鉢である。口縁部を僅かに外反させる。底部は平底で、外底面は叩き調整後、ナデ調整か。体部外面は右下がりの叩き調整後、ナデ調整である。キレットが認められる。内面はハケ調整後、ナデ調整である。全体的に歪む。被熱変色し、煤が付着する。249は鉢である。底部をケズることで丸底化させる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。僅かにキレットが認められる。内面はハケ調整である。内底面にはナデ調整を施す。250は鉢である。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整である。僅かにキレットが認められる。内面はハケ調整である。251は鉢である。外底面をナデることで丸底と

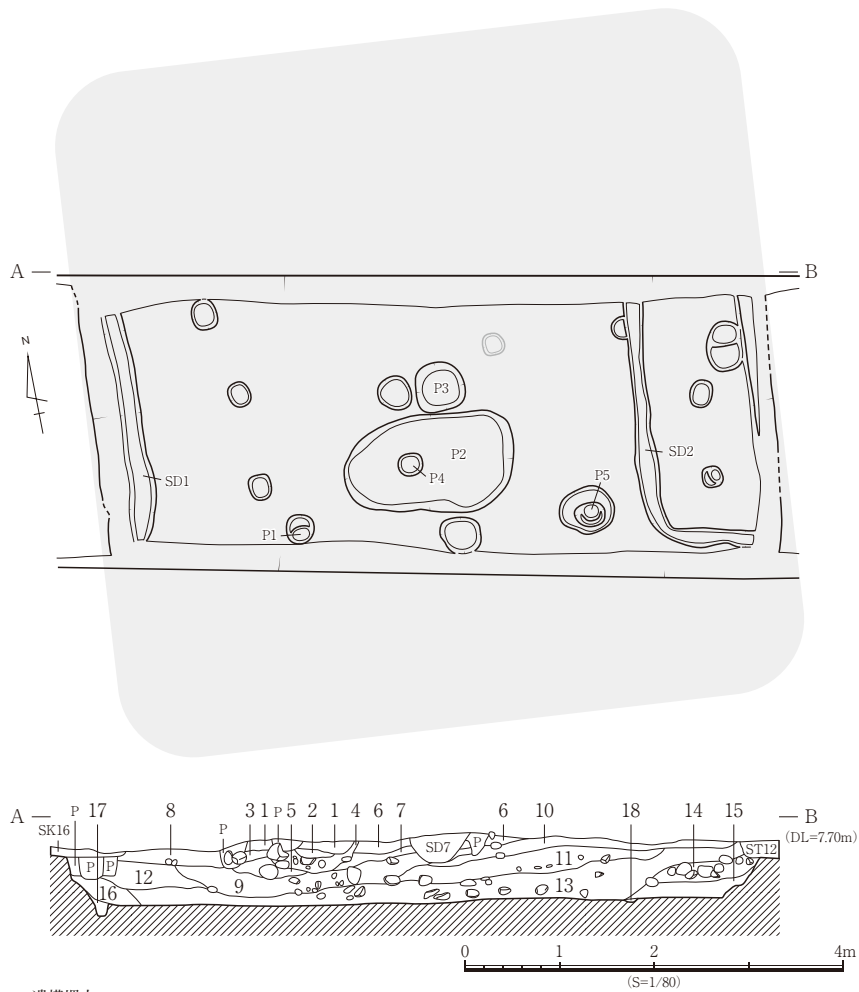
する。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。キレツが認められる。内面にはハケ調整を施す。252は鉢である。底部は角の取れた平底で片側を潰す。外底面はナデ調整である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整であり、一部は工具ナデ調整である。キレツが認められる。内面はナデ調整である。内底面には指頭圧痕が特徴的に並ぶ。ほぼ完形。253は鉢である。口唇部には面取りを施す。底部はボタン状を呈する。体部外面はハケ調整後、ミガキ調整で仕上げる。内面はミガキ調整である。内外面ともミガキ調整は密である。254は鉢である。口縁部は外反させる。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面は叩き調整後、ナデ調整である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整である。内面には工具ナデ調整を施す。255は高杯である。外面には縦方向のミガキ調整を施し、内面はナデ調整・ヨコハケ調整である。256は有孔土器である。外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はナデ調整である。口縁部及び底部に穿孔が認められる。被熱変色し、煤が付着する。257は支脚である。ナデ調整である。被熱変色する。

ST13

ST13は2-1区東部で検出した平面形が隅丸方形の竪穴建物跡と推測される。長軸7.2m、短軸の検出長は2.6mを測り、床面積は51.8㎡である。主軸方向はN-2°-Eである。ST12に切られる。検出面から床面までの深さは約64cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST13_P2)、支柱穴(ST13_P1・5)、壁溝(ST13_SD1)等の遺構を検出した。壁溝(ST13_SD1)は西辺で検出した。幅約27cm、床面からの深さは約9cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。検出長は約2.4mである。中央ピット(ST13_P2)は長軸1.80m、短軸1.04mの不整長方形である。床面からの深さは約16cmである。埋土は焼土と炭化物を含む黒褐色(10YR2/2)中粒砂質シルトである。床面の四隅に配置されていたと推測される。支柱穴(ST13_P1)は直径約30cmの円形を呈し、床面からの深さは約27cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST13_P5)は長軸60cm、短軸50cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約55cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(258～261)・甕(262～266)・鉢(267～271)である。

258は壺である。頸部は短く直立し、口縁部は大きくひろがる。口縁部は摘み上げ、摘み出し、ハケ状原体により凹面状を成す。口縁部外面はタテハケ調整後、ヨコナデ調整である。内面はヨコハケ調整後、ミガキ調整である。頸部内外面はハケ調整後、ミガキ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整及びミガキ調整である。内面は斜め方向のハケ調整・ナデ調整である。259は壺である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は粗いハケ調整後、ナデ調整を施す。260は壺である。頸部は短く直立する。口縁部は外反させ、端部を上方へ拡張し、4条の凹線文を巡らせる。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヨコハケ調整・ヨコナデ調整である。頸部は内外面とも斜め方向のハケ調整である。また、頸部には斜格子の刻目突帯を貼付する。261は壺である。体部は卵倒形を呈する。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、全面にハケ調整を施し、叩き目を丁寧に消す。一部はミガキ状を呈する。内面には全面に斜め方向のハケ調整を施す。幅1.5cmでベンガラ塗布か。被熱変色し、煤が付着する。



遺構埋土

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに2cm大の礫を含む
2. 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂質シルトに2cm大の礫を含む
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
4. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と5~10cm大の礫を多く含む
5. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに0.5cm大の礫を含む
6. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂を含む
7. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに5cm大の礫を少量含む
8. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と1cm大の礫を含む
9. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と5~10cm大の礫を含む
10. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1~5cm大の礫を含む
11. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と1~10cm大の礫を含む
12. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と1~3cm大の礫を多く含む
13. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と5~15cm大の礫を多く含む
14. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに10~20cm大の礫を多く含む
15. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと1~3cm大の礫を少量含む
16. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と1~3cm大の礫を多く含む
17. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに粗粒砂と1cm大の礫を含む (ST13_SD1)
18. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに粗粒砂と1cm大の礫を含む (ST13_SD2)

図45 2-1区 ST13 平面図・断面図

262は甕である。口縁部は短い「く」の字状を呈する。口縁部内外面はヨコナデ調整である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。内面は上胴部以下にヘラケズリ調整を施す。肩部はヨコハケ調整後、縦方向のナデ調整を施す。被熱変色し、煤が付着する。器形・調整に違和感があり、搬入品の可能性がある。263は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取り



图46 2-1区 ST13 出土遺物実測図_1

を施す。口縁部内外面は斜め方向のハケ調整である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は粗い斜め方向のハケ調整である。被熱変色し、煤が付着する。264は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口

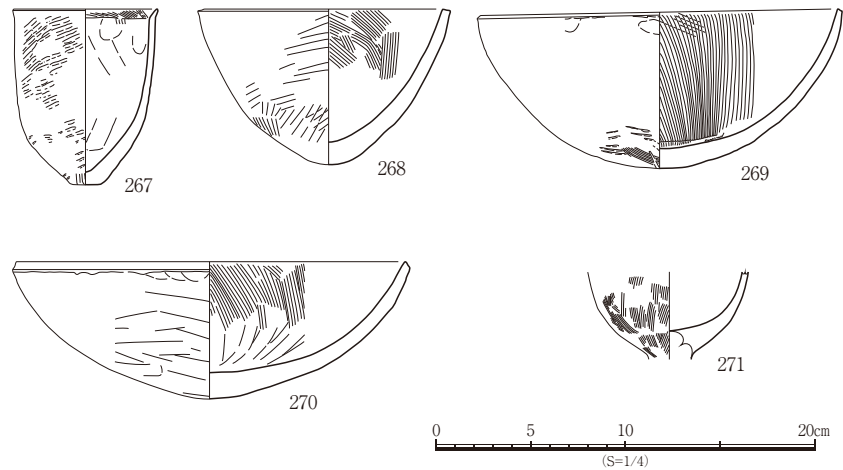
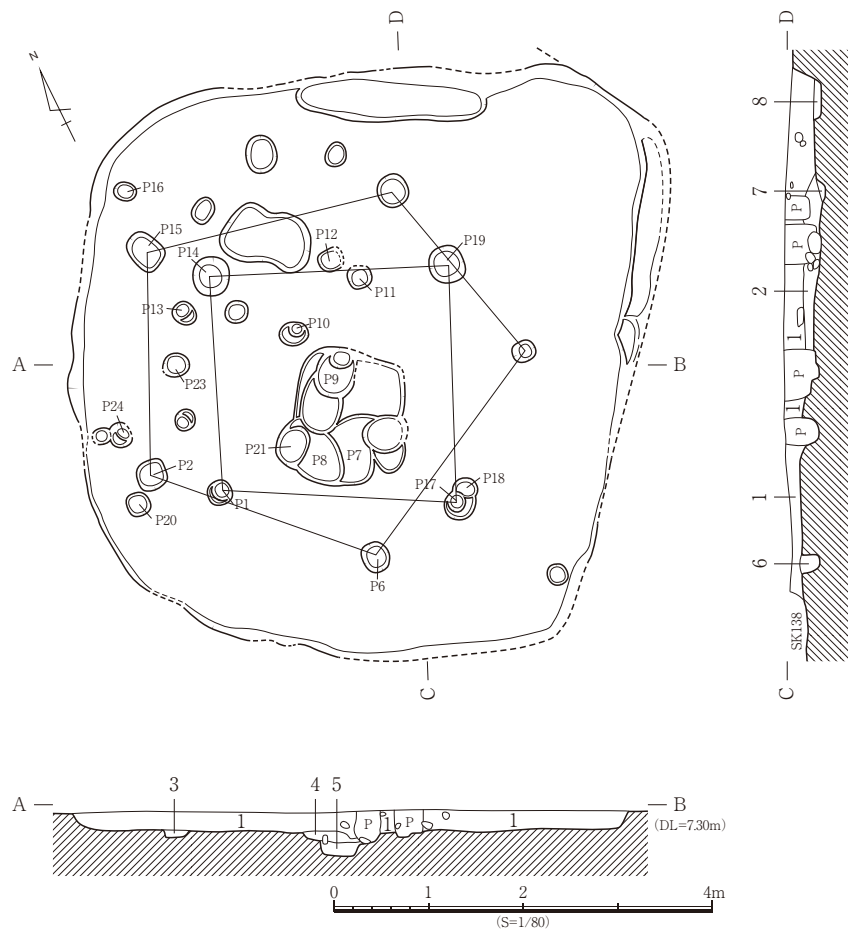


図47 2-1区 ST13 出土遺物実測図_2

縁部外面は叩き調整後、ナデ調整である。内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、粗いハケ調整を施す。キレツが認められる。内面は頸部直下までヘラケズリ調整を施す。265は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面には粗いヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整である。内面は肩部には粗い横方向及び斜め方向のハケ調整、下半部には粗いタテハケ調整・ナデ調整を施す。被熱変色し、煤が付着する。266は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、粗い斜め方向のハケ調整を、内面には粗い斜め方向のハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は縦方向のナデ調整である。器壁は薄い。被熱変色し、煤が付着する。267はコップ形の鉢である。口縁部は外反する。口縁部内面には斜め方向のハケ調整を施す。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整、内面はナデ調整である。被熱変色する。268は鉢である。外底面をナデることにより丸底とする。体部外面は叩き調整後ナデ調整である。キレツが認められる。内面上半部はハケ調整、下半部はナデ調整である。被熱変色し、煤が付着する。269は鉢である。外底面をヘラケズリ調整・ハケ調整により丸底化させる。外底面の一部はミガキ状を呈する。外面は叩き調整後、ナデ調整である。内面には全面にハケ調整を施す。内底面はハケ調整後、ナデ調整を施す。黒斑が認められる。270は鉢である。口縁端部を摘み上げ、外傾させる。外底面をハケ調整により丸底とする。内底面には凹凸が認められる。体部外面は叩き調整後ヨコハケ調整・ヨコナデ調整である。内面は全面にハケ調整を施し、下半部から内底面にはナデ調整を施す。被熱変色する。271は脚付き鉢である。脚部は接合面で剥離し擬口縁となる。外面にはストロークの短いハケ調整を施し、一部はミガキ状を呈する。内面はナデ調整である。

ST14

ST14は1区西部で検出した平面形が隅丸方形の竪穴建物跡である。長軸6.2m、短軸5.8mを測り、床面積は35.9㎡である。主軸方向はN-25°-Eである。検出面から床面までの深さは約32cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット、主柱穴(ST14_P1・14・17・19、ST14_P2・6・15)等の遺構を検出した。主柱穴の組み合わせとして、ST14_P1・14・17・19とST14_P2・6・



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに5~10cm大の礫を多く含む
2. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに炭化物と1cm大の礫と黄色シルトブロックを含む
3. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに1cm大の礫を含む(ST14_P23)
4. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物を少量含む(ST14_P7)
5. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに中粒砂と黄色シルトブロックを含む(ST14_P9)
6. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに炭化物と1cm大の礫と黄色シルトブロックを含む(ST14_P20)
7. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに炭化物と1cm大の礫と黄色シルトブロックを含む(ST14_ピット)
8. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物を少量含む(ST14_ピット)

図48 1区 ST14 平面図・断面図

15の二組の組み合わせが考えられる。前者は四隅に配置され、支柱穴(ST14_P1)は直径約25cmの円形を呈し、床面からの深さは約45cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST14_P14)は直径約40cmの円形を呈し、床面からの深さは約50cmを測る。埋土は炭化物と黄色シルトブロックを含む黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST14_P17)は直径約31cmの円形を呈し、床面からの深さは約50cmを測る。埋土は炭化物と黄色シルトブロックを含む黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST14_P19)は長軸42cm、短軸39cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約36cmを測る。埋土は炭化物と黄色シルトブロックを含む黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。後者は5本で構成されると推定される。支柱穴(ST14_P2)は直径約31cmの円形を呈し、床面からの深さは約11cmを測る。埋土は炭化物と黄色シルトブロックを含む黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主

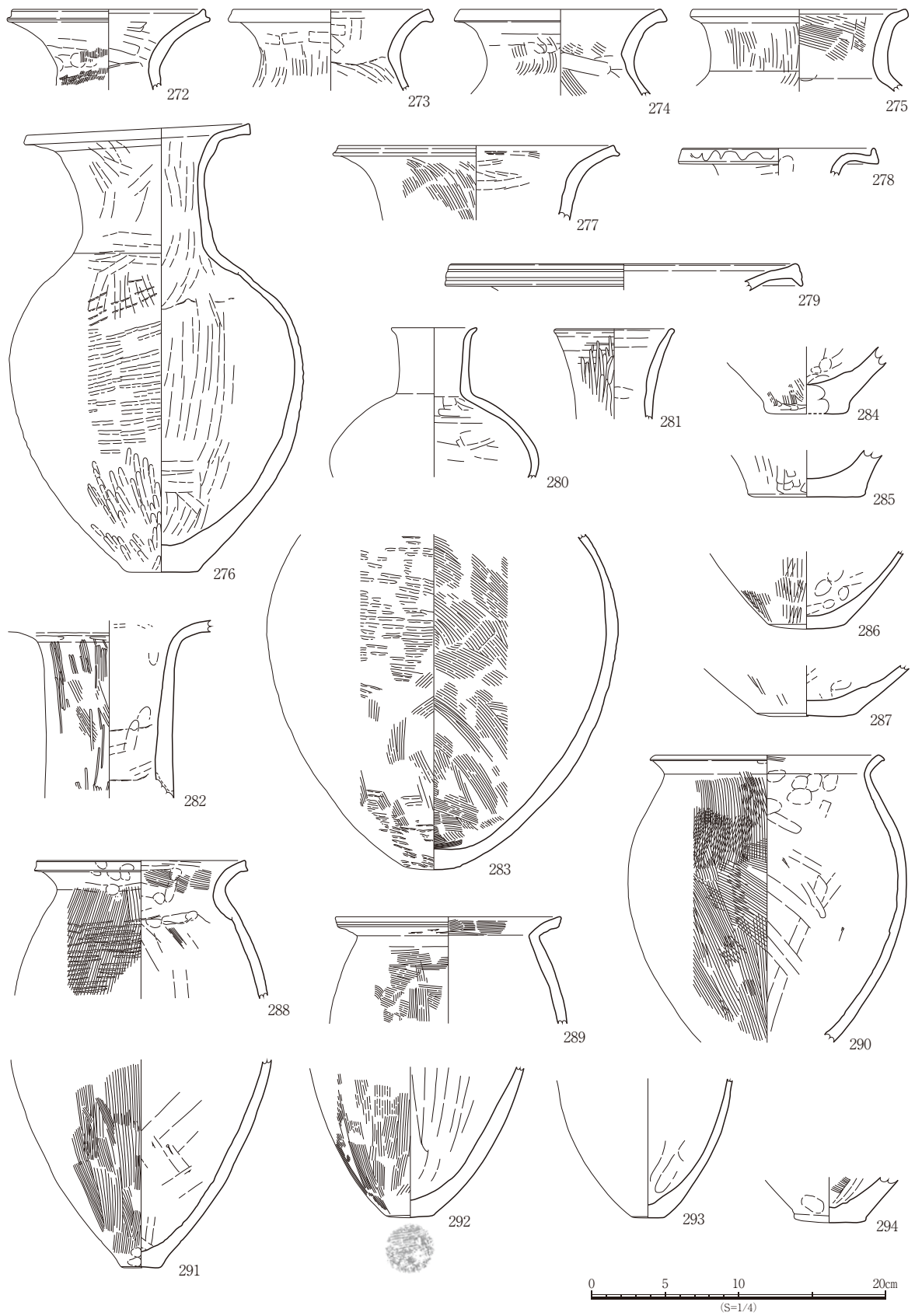


图49 1区 ST14 出土遺物実測図_1

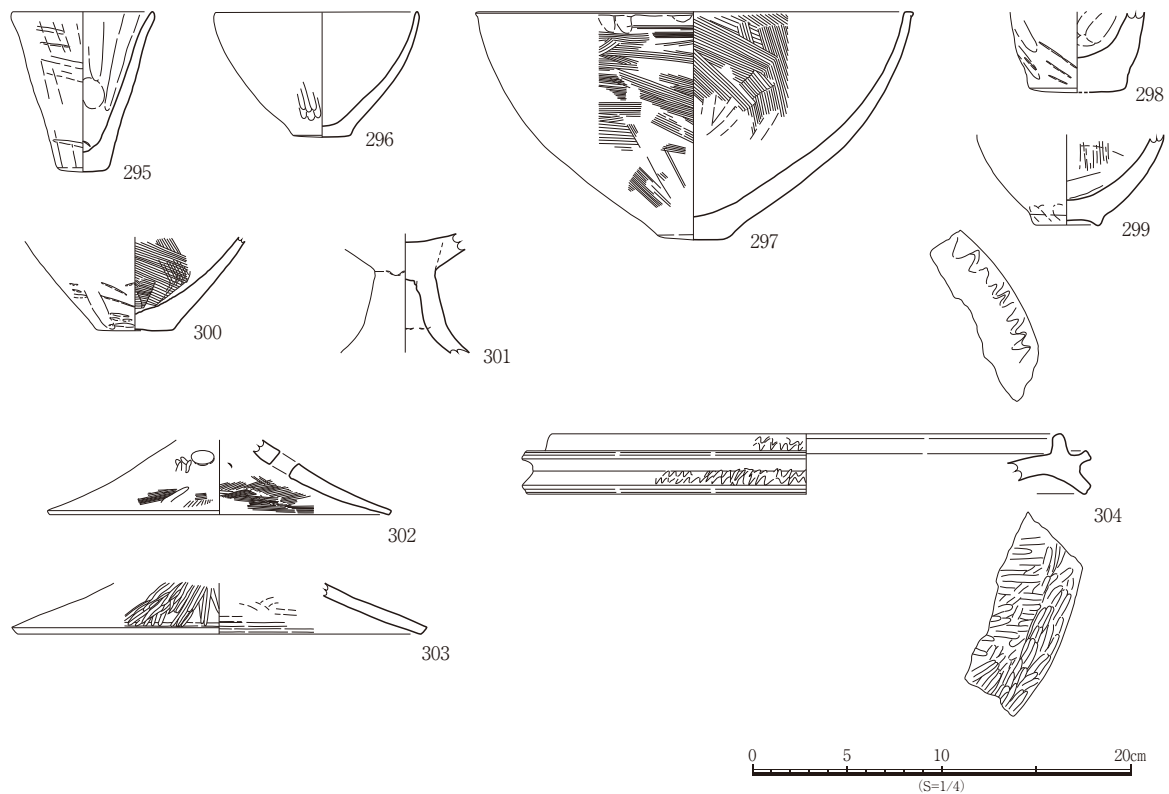


図50 1区 ST14 出土遺物実測図_2

柱穴(ST14_P6)は長軸33cm, 短軸27cmの楕円形を呈し, 床面からの深さは約13cmを測る。埋土は炭化物と黄色シルトブロックを含む黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主柱穴(ST14_P15)は長軸42cm, 短軸32cmの楕円形を呈し, 床面からの深さは約13cmを測る。埋土は炭化物と黄色シルトブロックを含む黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。中央ピットは床面中央で検出したST14_P7・P8・P9・P21が該当するものと考えられるが判然としない。ST14_P7は長軸75cm, 短軸の検出長50cmの楕円形を呈すると推測され, 床面からの深さは約13cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。ST14_P8は長軸74cm, 短軸60cmの楕円形を呈し, 床面からの深さは約7cmを測る。埋土は炭化物と黄色シルトブロックを含む黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。ST14_P9は長軸の検出長50cm, 短軸44cmの楕円形を呈すると推測され, 床面からの深さは約23cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。ST14_P21は長軸42cm, 短軸34cmの楕円形を呈し, 床面からの深さは約12cmを測る。埋土は炭化物と黄色シルトブロックを含む黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主柱穴の組み合わせが2組あることから複数の竪穴建物跡が重複しているものと考えられる。

図示した出土遺物は, 弥生土器の壺(272~287)・甕(288~294)・鉢(295~300)・高杯(301~303)・器台(304), 土師質土器の杯(305), 瓦質土器の羽釜(306・307)である。

272は壺である。口縁部は大きく外反し, 口縁部上端を摘み上げ, 下端を摘み出す。口縁部内外面にはヨコナデ調整を施す。頸部は直立し, 外面はタテハケ調整後ヨコナデ調整, 内面はナデ調整である。273は壺である。頸部から口縁部にかけて緩やかに外反し, 口唇部には面取りを施す。下方にやや拡張させる。口縁部内外面にはヨコナデ調整を施す。頸部外面は粗いタテハケ調整, 内面は粗い斜

め方向のハケ調整を施す。被熱変色する。274は壺である。頸部から口縁部にかけて緩やかに外反し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。下方にやや拡張させる。口縁部外面は叩き調整後ナデ調整、内面はヨコナデ調整である。頸部外面は粗いタテハケ調整、内面は粗い斜め方向のハケ調整後ナデ調整を施し、一部はミガキ状を呈する。275は壺である。口縁部は短く外反し、口唇部にはやや丸みを持たせる。口縁部内外面にはヨコナデ調整を施す。頸部は短く直立気味に立ち上がり、外面には粗いタテハケ調整を、内面には斜め方向のハケ調整を施す。276は壺である。口縁部は大きく外反し、口唇部には面取りを施す。口縁部内外面にはヨコナデ調整を施す。頸部は直立

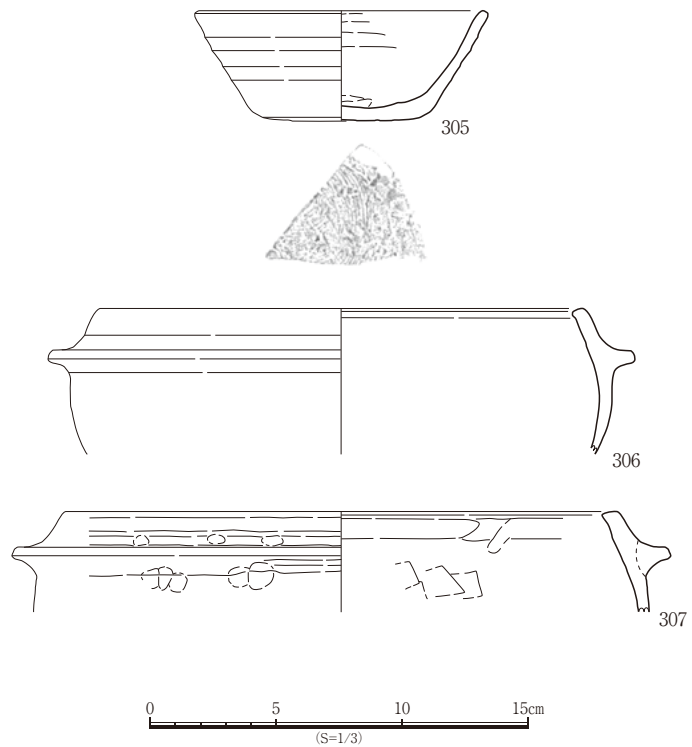


図51 1区 ST14 出土遺物実測図_3

し、外面は叩き調整後ナデ調整、内面はナデ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、下半部に縦方向のミガキ調整を加える。肩部は粗いハケ調整である。内面はタテハケ調整・縦方向のナデ調整である。底部は斜め方向のハケ調整後、ナデ調整である。肩部内面には粘土帯接合痕跡、指頭圧痕が認められる。被熱変色し、煤が付着し、煮沸の用に供されている。277は壺である。口縁端部を摘み出し、口唇部は凹面状を呈する。口縁部内外面にはヨコナデ調整を施す。頸部外面は斜め方向のハケ調整、内面はヨコハケ調整を施す。煤が付着する。278は壺である。口縁部を上方へ拡張し、2条の凹線文・ヘラ描波状文を施す。内外面ともヨコナデ調整を施し、内面の一部はミガキ状を呈する。279は壺である。口縁部を下方へ拡張し、3条の凹線文を巡らせる。内外面ともヨコナデ調整である。280は壺である。頸部は細く直立し、内外面とも摩耗のため調整等の観察は困難である。体部は扁球形から算盤玉形を呈する。外面は摩耗しているがミガキ調整が認められる。内面はヨコハケ調整後ヨコナデ調整である。肩部には指頭圧痕が認められる。281は細頸長頸壺の口縁部である。口唇部は丸くおさめ、内外面ともヨコナデ調整を施す。外面は縦方向のミガキ調整、内面はナデ調整である。282は長頸壺の頸部である。頸部外面は斜め方向のハケ調整後縦方向のミガキ調整、内面はナデ調整である。破断面は擬口縁となる。口縁部は内外面ともヨコナデ調整である。283は壺である。底部は角の取れた平底であり、外底面はナデ調整である。体部外面は叩き調整後ハケ調整である。内面は内底面も含み、全面に斜め方向のハケ調整を施す。284は壺である。底部は直立部を持つ平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はナデ調整である。粘土帯接合痕跡が明瞭に残存する。285は壺である。底部は平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面には縦方向のミガキ調整を施す。内面は摩耗

のため調整等の観察は困難であるもののナデ調整と推測される。被熱変色する。286は壺である。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はナデ調整である。内外面とも、やや摩耗する。287は壺である。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はタテハケ調整後ナデ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。黒斑が認められる。

288は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部は摘み上げ、口唇部は凹面状を成す。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヨコハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はハケ調整である。肩部内面には粘土帯接合痕跡が認められる。被熱変色し、煤が付着する。289は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁端部を摘み上げ、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後ナデ調整、内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後ヨコハケ調整を施し、さらにタテハケ調整を加える。内面は横方向から斜め方向のハケ調整後、ナデ調整を施す。290は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後ヨコナデ調整、内面はヨコハケ調整である。体部外面は全面ハケ調整を丁寧に施す。下地に叩き目があるかどうか不明である。上胴部・下半部にはタテハケ調整を施し、中位には斜め方向のハケ調整を施す。内面は上胴部以下にヘラケズリ調整を施す。肩部はナデ調整である。被熱変色し、煤が付着する。291は甕である。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は全面にタテハケ調整を施す。内面はヘラケズリ調整である。底部にはナデ調整を施す。被熱変色し、煤が付着する。また、斜め白吹き痕跡が認められる。292は甕である。底部は角の取れた平底であり、外底面にはハケ調整を施す。底部と体部の境には鈍い稜が巡る。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は縦方向のナデ調整である。被熱変色し、煤が付着する。293は甕である。底部は角の取れた平底を呈し、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後タテハケ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。内底面は凹む。被熱変色し、煤が付着する。294は甕である。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。端部をナデることで角を取る。体部外面は叩き調整後ナデ調整、内面はハケ調整である。内底面にはナデ調整を施す。

295はコップ形の鉢である。口縁端部を僅かに外反させる。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後タテハケ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。296は鉢である。底部は直立部を持つ平底である。内外面とも摩耗のため、調整等の観察は困難である。297は鉢である。口唇部は面取りする。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面上半部はヨコハケ調整、下半部はタテハケ調整である。内面上半部は縦方向から斜め方向のハケ調整、下半部はナデ調整である。298は鉢である。底部は平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後強いナデ調整、内面はナデ調整である。被熱変色する。299は鉢である。底部は、僅かに上げ底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整であり、僅かにキレツが認められる。内面はハケ調整・ナデ調整である。被熱変色する。300は鉢である。底部は平底であり、外底面はナデ調整か。中央部は僅かに凹む。体部外面は叩き調整後ナデ調整であり、僅かにキレツが認められる。内面はハケ調整である。

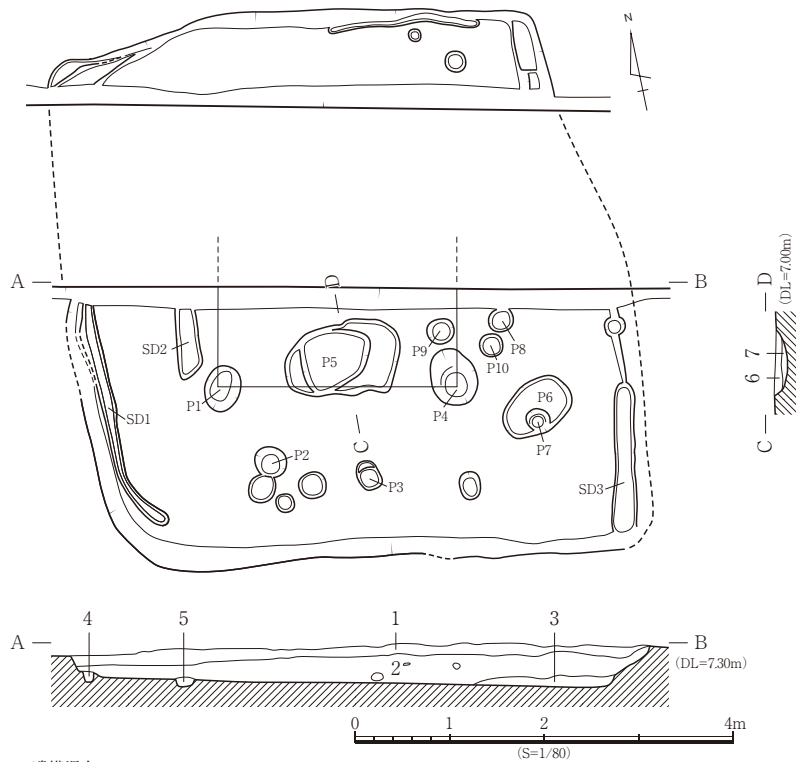
301は分割成形の高杯である。内底面から粘土を充填し、下方から竹管で突き、杯底部をふさぐ。内外面とも摩耗のため、調整等の観察は困難である。杯部の粘土帯接合痕跡は明瞭に残存する。302は高杯である。裾部は大きくひらき、端部にはルーズな面取りを施す。外面は斜め方向のハケ調整後、

縦方向のミガキ調整を密に施す。内面上半部はナデ調整，下半部は横方向から斜め方向のハケ調整である。また，直径1.2cmの円孔を穿つ。被熱変色する。303は高杯である。裾部は大きくひらき，端部には面取りを施す。外面には縦方向のミガキ調整を密に施す。内面はハケ調整後，ヨコナデ調整を施す。304は器台である。壺か。口縁部は内外面ともミガキ調整を施す。内面は摩耗する。口縁端部に粘土帯を貼付し，上下に拡張し，さらに突帯を貼付する。それぞれの端部は平坦面あるいは凹面状を成す。口縁部内面及び口縁端部には櫛描波状文，突帯を挟んで上下にも櫛描波状文を施す。粘土帯接合痕跡が明瞭に残る。

305は土師質土器の杯である。内外面ともロクロナデ調整である。内底面には強いナデ調整を施す。底部の切り離しは回転糸切りである。混入品である。306は瓦質土器の羽釜である。口縁部は内湾し，鏝を貼付する。口縁部外面はヨコナデ調整である。体部外面はナデ調整，内面はヨコナデ調整である。煤が付着する。混入品である。307は瓦質土器の羽釜である。口縁部は内湾し，口唇部には面取りを施す。口縁部には断面形が台形の鏝を貼付する。口縁部外面にはヨコナデ調整を施す。体部外面はナデ調整，内面はヨコナデ調整である。煤が付着する。混入品である。

ST15

ST15は1区北西部と2-1区にまたがって検出した平面形が隅丸方形の竪穴建物跡である。長軸5.8m，短軸5.7mを測り，床面積は33.0㎡である。主軸方向はN-2°-Eである。検出面から床面までの深さは約52cmであり，埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST15_P5)，支柱穴(ST15_P1・4)，壁溝(ST15_SD1・3)等の遺構を検出した。中央ピット(ST15_P5)は床面中央やや南寄りに位置し，長軸1.2m，短軸0.72mの不整楕円形を呈する。床面からの深さは約16cmであり，埋土は黒色(10YR1.7/1)シルトブロックを含む黒色(7.5YR2/1)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR3/2)粘土である。壁溝(ST15_SD1)は幅約20cm，床面からの深さ



遺構埋土

1. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに土器と1~5cm大の礫を少し含む
2. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに土器と1~5cm大の礫を少し含む
3. 黒色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
4. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに中粒砂を含む(ST15_SD1)
5. 黒褐色(10YR2/3)中粒砂質シルト(ST15_SD2)
6. 黒色(7.5YR2/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR1.7/1)シルトブロックを含む(ST15_P5)
7. 黒褐色(10YR3/2)粘土(ST15_P5)

図52 1・2-1区 ST15 平面図・断面図

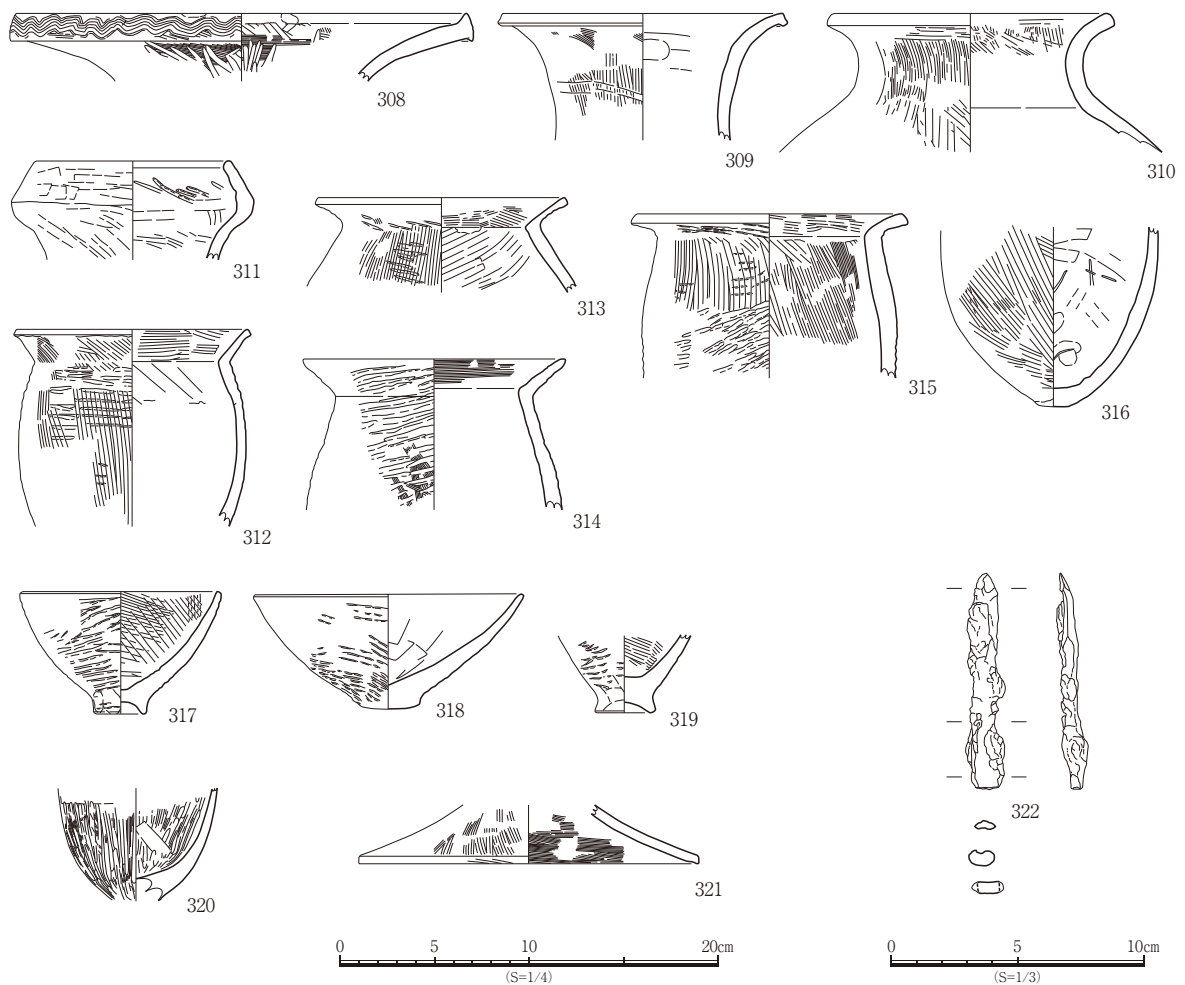


図53 1・2-1区 ST15 出土遺物実測図

約 11 cm を測り、埋土は中粒砂を含む黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトである。西辺で約 4.0m 検出した。壁溝 (ST15_SD3) は幅約 26 cm、床面からの深さ約 11 cm を測り、埋土は黄色シルトブロックを含む黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトである。東辺南部で約 1.6m 検出した。主柱穴 (ST15_P1) は、長軸 48 cm、短軸 38 cm の楕円形を呈し、床面からの深さは約 28 cm を測る。埋土は粗粒砂と炭化物を含む黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトである。主柱穴 (ST15_P4) は、長軸 62 cm、短軸 50 cm の楕円形を呈し、床面からの深さは約 39 cm を測る。埋土は粗粒砂と炭化物を含む黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトである。間仕切りの小溝 (ST15_SD2) を検出した。幅約 24 cm、床面からの深さ約 8 cm を測り、埋土は黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺 (308～311)・甕 (312～316)・鉢 (317～320)・高杯 (321)、鉈 (322) である。

308 は壺である。口唇部はハケ状原体による面取りを施し、上下に僅かに拡張する。5 条 1 単位の櫛描波状文を施す。外面は斜め方向のハケ調整後、縦方向のミガキ調整を施す。内面はヨコハケ調整後、ミガキ調整を施す。309 は壺である。口唇部はハケ状原体による面取りを施し、凹面状を成す。口縁部外面には斜め方向のハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整である。頸部外面は縦

方向のハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整・ナデ調整である。310は壺である。口頸部は緩やかに外反し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。外面は粗い縦方向から斜め方向のハケ調整を施す。311は複合口縁壺である。口唇部には丸みを持たせる。一次口縁部の外面は粗い斜め方向のハケ調整、内面は粗いヨコハケ調整である。二次口縁部の外面はヨコハケ調整、内面はヨコナデ調整である。

312は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体により面取り

を施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、斜め方向のハケ調整を施し、内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はナデ調整である。肩部内面には粘土帯接合痕跡が認められる。313は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、ナデ調整を施し、内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は粗い斜め方向のハケ調整である。314は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、ナデ調整を施し、内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整である。内面もナデ調整を施す。315は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、ナデ調整を施す。僅かにキレツが認められる。内面は粗いヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、肩部にタテハケ調整を施す。内面は粗い斜め方向のハケ調整後、タテハケ調整を重ねる。器壁は厚い。316は甕である。底部はほぼ丸底を呈し、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、斜め方向のハケ調整である。内面はハケ調整であり、底面付近はナデ調整である。また、内底面には指頭圧痕が認められる。

317は鉢である。底部は上げ底である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整である。キレツが認めら

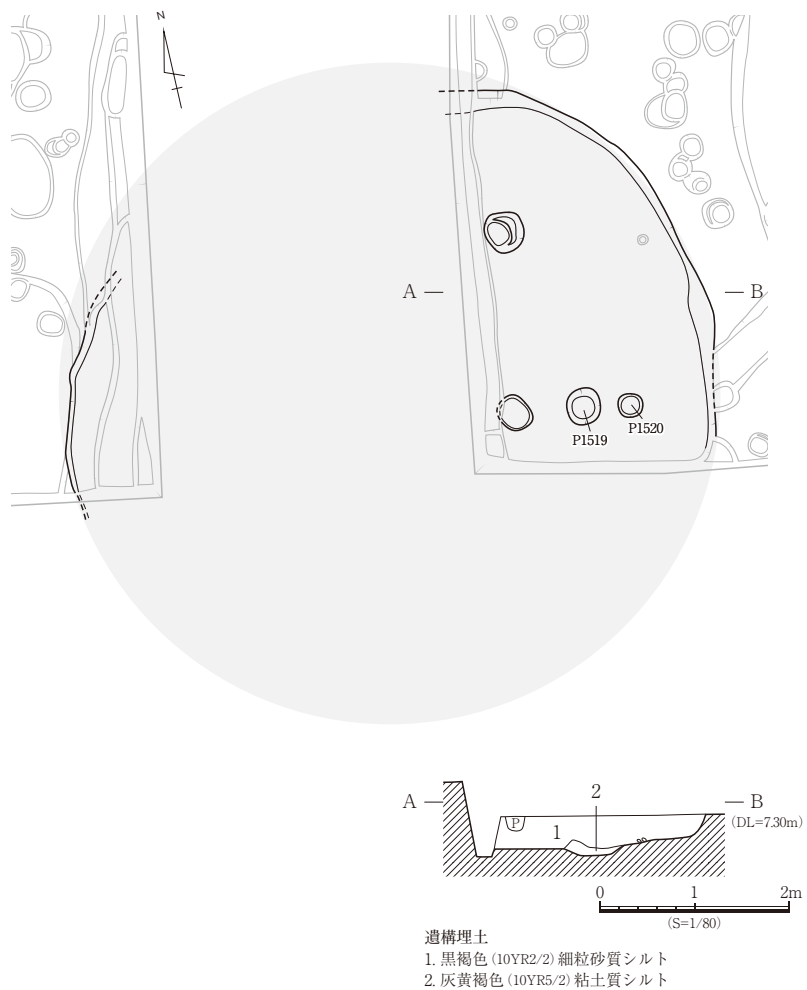


図54 1区 ST16 平面図・断面図

れる。内面は全面にハケ調整を施す。内底面は凹む。318は鉢である。底部は角の取れた平底であり、片側を潰す。外底面はナデ調整であり、端部はナデることにより角をとる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整であり、内面は全面にハケ調整を施す。319は鉢である。底部は上げ底であり、端部を摘み、脚状とする。体部外面は叩き調整後ナデ調整であり、内面はハケ調整である。内底面はナデ調整である。320は脚付鉢である。脚部は欠損する。外面はタテハケ調整後、縦方向のミガキ調整を密に施す。内面は縦方向のミガキ調整を密に施す。精製品である。321は高杯である。裾部は大きくひらき、端部には面取りを施す。外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整である。内面端部付近に弧を描くように煤が付着しており、蓋として使用か。

322は鉄製の鉢である。刃部は反り、縦断面形は緩やかな「S」字状を呈する。鈍い鑄が認められる。横断面形は扁平な長方形を呈する。

ST16

ST16は1区の南西部で検出した竪穴建物跡である。大部分は調査区外となり、南北の検出長は3.9m、東西の検出長は2.2mを測り、直径約7.0mの円形を呈すると推測される。検出面から床面までの深さは約36cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。床面では支柱穴(P1519他)の遺構を検出した。支柱穴(P1519)は直径約39cmの円形を呈し、床面からの深さは約31cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)中粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(323)・鉢(324)である。

323は壺である。角の取れた平底を呈し、外底面には叩き目を重ねる。体部外面には叩き調整後タテハケ調整を施し、内面上半部には斜め方向のハケ調整、下半部にはタテハケ調整を施す。324は鉢である。角の取れた平底を呈し、外底面にはナデ調整を施す。ナデることにより角を取る。体部外面は叩き調整後、ナデ調整である。内面は全面にハケ調整を施す。

ST17

ST17は1区南西部で検出した平面形が円形の竪穴建物跡である。4棟の竪穴建物跡が重複している可能性がある。長軸の検出長8.0m、短軸の検出長7.2mを測り、床面積は50.2㎡である。検出面から床面までの深さは約38cmであり、埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST17_P5か)、壁溝(ST17_SD3, ST17_SD1・5)、支柱穴(ST17_P8・16・27・32他)等の遺構を検出した。これらをあわせて床面では60基のピットを検出しており、図示した組み合わせ以外にも考えられる。

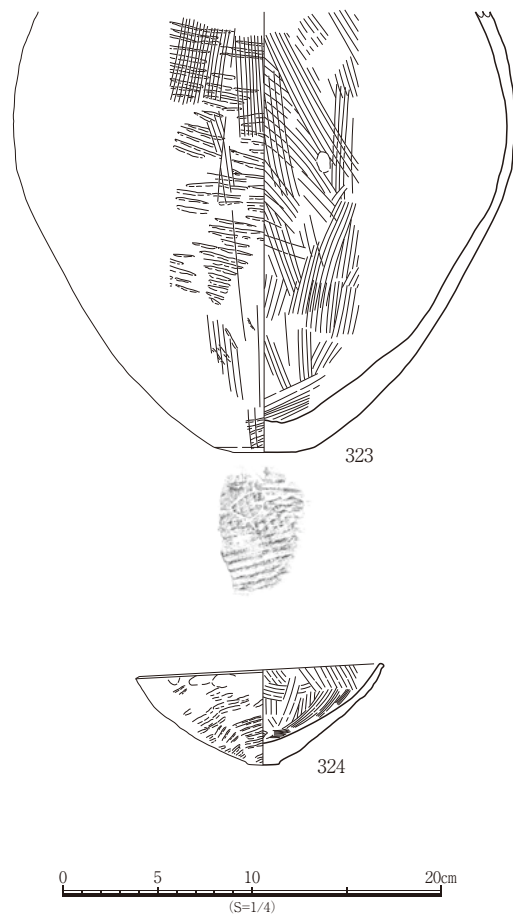
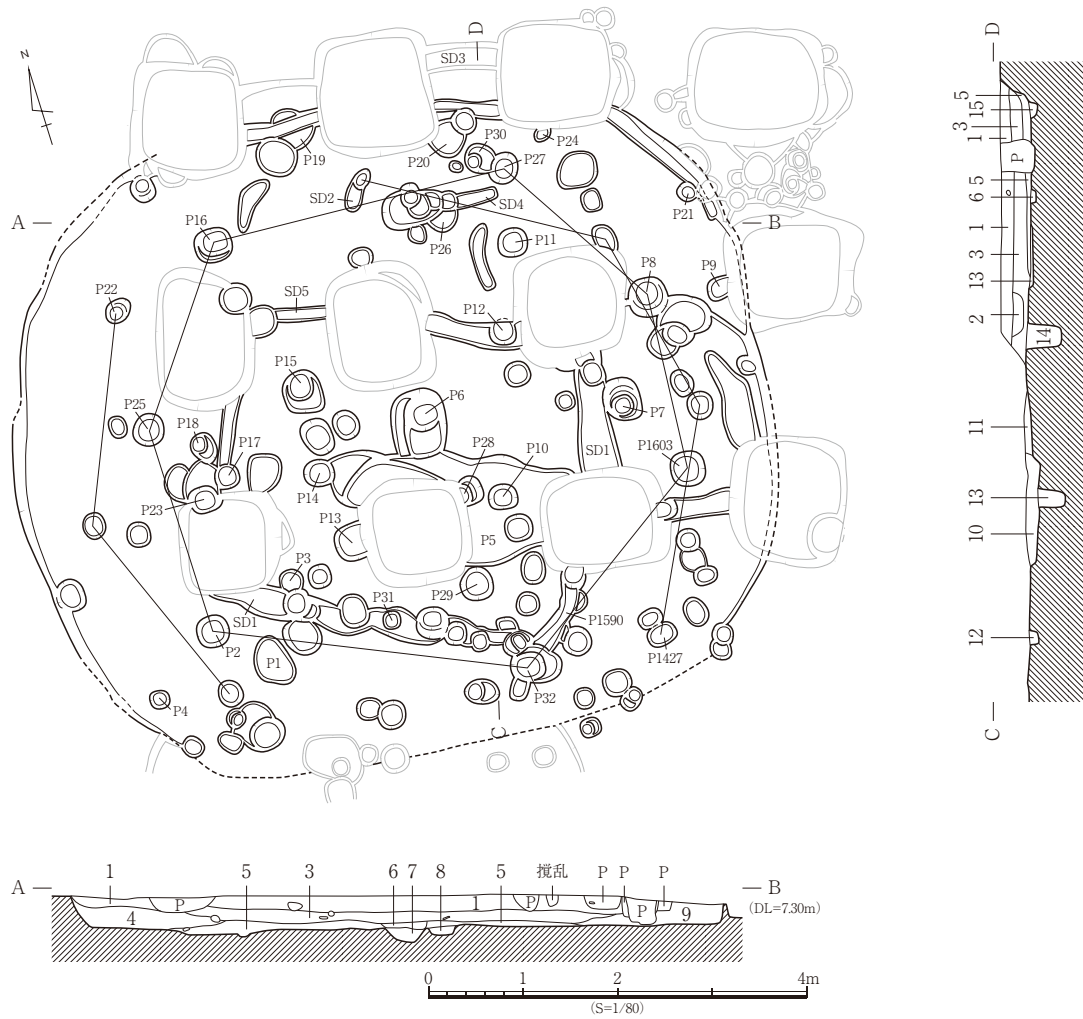


図55 1区 ST16 出土遺物実測図



遺構埋土

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1~3cm大の礫を含む (ST17) 2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト (SD19) 3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1~3cm大の礫を少量含む (ST17) 4. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と1~3cm大の礫を含む (ST17) 5. 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトに中粒砂と1~3cm大の礫と黄色シルトブロックを多く含む (ST17) 6. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに1~3cm大の礫を含む (ST17_ピット) 7. 黒褐色 (10YR3/2) 中粒砂質シルトに1~5cm大の礫を多量に含む (ST17_ピット) 8. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに0.5cm大の礫を含む (ST17_P26) | <ol style="list-style-type: none"> 9. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と1~3cm大の礫を含む (ST17) 10. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1cm大の礫と焼土を少し含む (ST17_P5) 11. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と黄色シルトブロックを多く含む (ST17) 12. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を多く含む (ST17_SD1) 13. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1~5cm大の礫を少し含む (ST17_P10) 14. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルト (ST17_P12) 15. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに0.5cm大の礫を含む (ST17_溝跡) |
|---|---|

図56 1区 ST17 平面図・断面図

中央ピット(ST17_P5)は床面中央やや南寄りに位置し、長軸 1.18m、短軸 0.63mの不整長楕円形を呈する。床面からの深さは約11cmであり、埋土は焼土を少し含む黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。壁溝(ST17_SD3)は幅約23cm、床面からの深さ約6cmを測り、埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。北辺で約0.5m検出した。一方、壁溝(ST17_SD1・ST17_SD5)は一連の溝と考えられ、東西4.0m、南北3.4mの長方形に巡ることから平面形が長方形の竪穴建物跡の存在を示唆する。北辺で検出した壁溝は幅約23cm、床面からの深さ約6cmを測り、埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。円形・多角形・隅丸長方形の竪穴建物跡が重複しているものと推測される。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(325～327)・甕(328・329)・鉢(330～332)、砥石(333)である。

325は壺である。頸部は直立し、口縁部は大きく外反する。口唇部は面取りし、上方へ拡張する。口縁部は内外面ともヨコナデ調整である。頸部外面は斜め方向のハケ調整、内面はヨコナデ調整である。レアな器形である。326は壺である。口唇部を僅かに拡張させ、3条の凹線文を巡らせる。内外面とも摩耗し、調整等不明である。被熱変色する。327は壺である。外面はタテハケ調整である。頸部内面は斜め方向のハケ調整、肩部内面はナデ調整である。328は甕である。口縁部は短い「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後、ナデ調整である。僅かにキレツがみられる。内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整

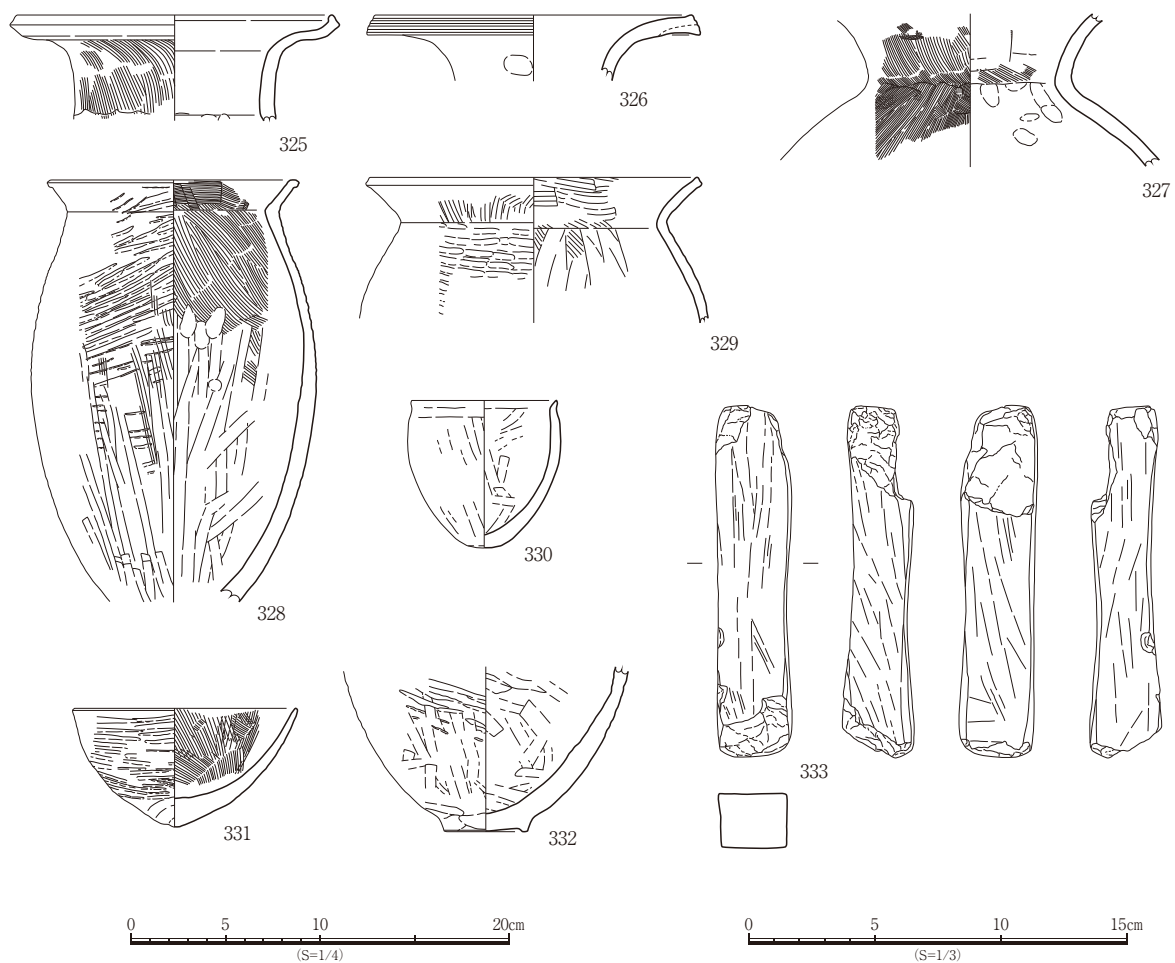


図57 1区 ST17 出土遺物実測図

を施し、内面は上胴部には斜め方向のハケ調整、下半部には縦方向のナデ調整を施す。被熱変色し、煤が付着する。329は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は粗い縦方向のハケ調整、内面は粗いヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整後、縦方向のナデ調整を施す。被熱変色する。

330は鉢である。口縁部は短く外反する。口縁部は内外面ともヨコナデ調整である。底部は丸底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はタテハケ調整、内面はナデ調整である。331は鉢である。底部は尖り気味のほぼ丸底である。指押さえで角を取り丸底とする。体部外面は叩き調整後、ナデ調整(一部にハケメあり)を施す。内面は全面にハケ調整を施す。内底面はナデ調整である。332は鉢である。底端部は指頭により短い脚状に成形し、円周に沿って凹む。外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整である。底部付近にはナデ調整を施す。黒斑がみられる。被熱変色する。333は泥岩製の砥石である。四面とも使い込まれる。

ST18

ST18は1区北西部で検出した平面形が隅丸方形の竪穴建物跡と考えられるが、大部分は調査区外である。長軸の検出長4.6m、短軸の検出長3.3mを測る。主軸方向はN-40°-Eである。検出面から床面までの深さは約28cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。床面ではピット・壁溝(ST18_SD1)を検出した。幅約18cm、床面からの深さ約13cmを測り、約1.3m検出した。埋土は黄色シルトブロックを多く含む黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、土師質土器の杯(334)、平瓦(335)である。

334は土師質土器の杯である。内外面ともロクロナデ調整で仕上げる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。335は平瓦である。凸面は縄叩き痕跡、凹面に

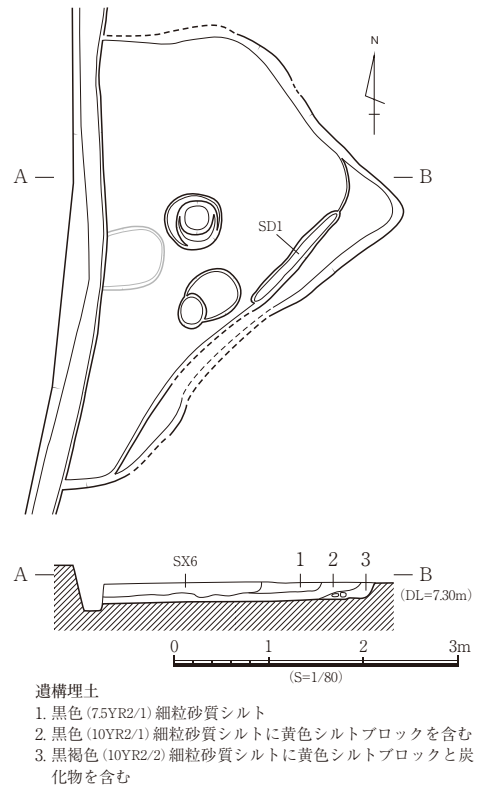


図58 1区 ST18 平面図・断面図

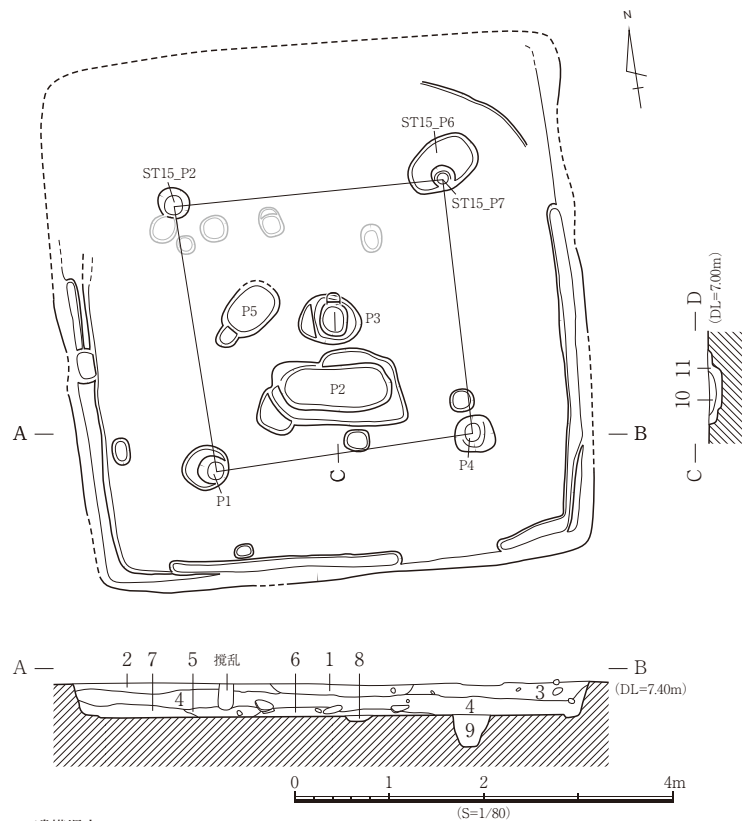


図59 1区 ST18 出土遺物実測図

は布目圧痕が認められる。

ST19

ST19は1区北西部で検出した平面形が方形の竪穴建物跡である。ST15に切られる。長軸の検出長は5.3m, 短軸5.5mを測り, 床面積は30.2㎡である。主軸方向はN-5°-Eである。検出面から床面までの深さは約45cmであり, 埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST19_P2), 壁溝, 支柱穴(ST15_P2・7・ST19_P1・4), ピット等の遺構を検出した。中央ピット(ST19_P2)は床面中央やや南寄りに位置し, 長軸1.34m, 短軸0.68mの不整長楕円形を呈する。床面からの深さは約21cmであり, 埋土は炭化物を含む黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトである。中央ピット(ST19_P2)の北に位置するピット(ST19_P3)とともに複合型の燃焼施設を構成する。ST19_P3は長軸65cm, 短軸52cmの



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに3cm大の礫を含む
2. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに1cm大の礫を含む
3. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
4. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量含む
5. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに0.3cm大の礫を含む
6. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに炭化物を含む
7. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む
8. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト(ST19_ピット)
9. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト(ST19_P4)
10. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに焼土を少量含む(ST19_P2)
11. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに炭化物と10cm大の礫を含む(ST19_P2)

図60 1区 ST19 平面図・断面図

楕円形を呈し, 床面からの深さは約20cmを測る。埋土は中粒砂と炭化物を含む黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。壁溝は南辺, 東辺で検出した。支柱穴は約1.4m内側に入った四隅に配置する。支柱穴(ST15_P2)は, 長軸36cm, 短軸32cmの楕円形を呈し, 床面からの深さは約41cmを測る。埋土は粗粒砂及び炭化物を含む黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST15_P7)は, 直径23cmの円形を呈し, 床面からの深さは約44cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST19_P1)は, 直径49cmの円形を呈し, 床面からの深さは約52cmを測る。埋土は炭化物を含む黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST19_P4)は, 長軸42cm, 短軸38cmの楕円形を呈し, 床面からの深さは約39cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は, 弥生土器の壺(336・337)・甕(338～340)・鉢(341～344), ミニチュア土器(345)である。

336は壺である。口縁部は受け口状を呈し、口唇部は丸みを持つ。口縁部は内外面ともヨコナデ調整である。頸部内面はハケ調整である。煤が付着し、煮沸の用に供されたと考えられる。337は複合口縁壺である。一次口縁端部に二次口縁部を内傾させ貼付する。一次口縁端部は面取りする。斜格子文を施す。二次口縁部の外面には、上から順に上下の振幅の小さい櫛描波状文、振幅の大きい櫛描波状文、

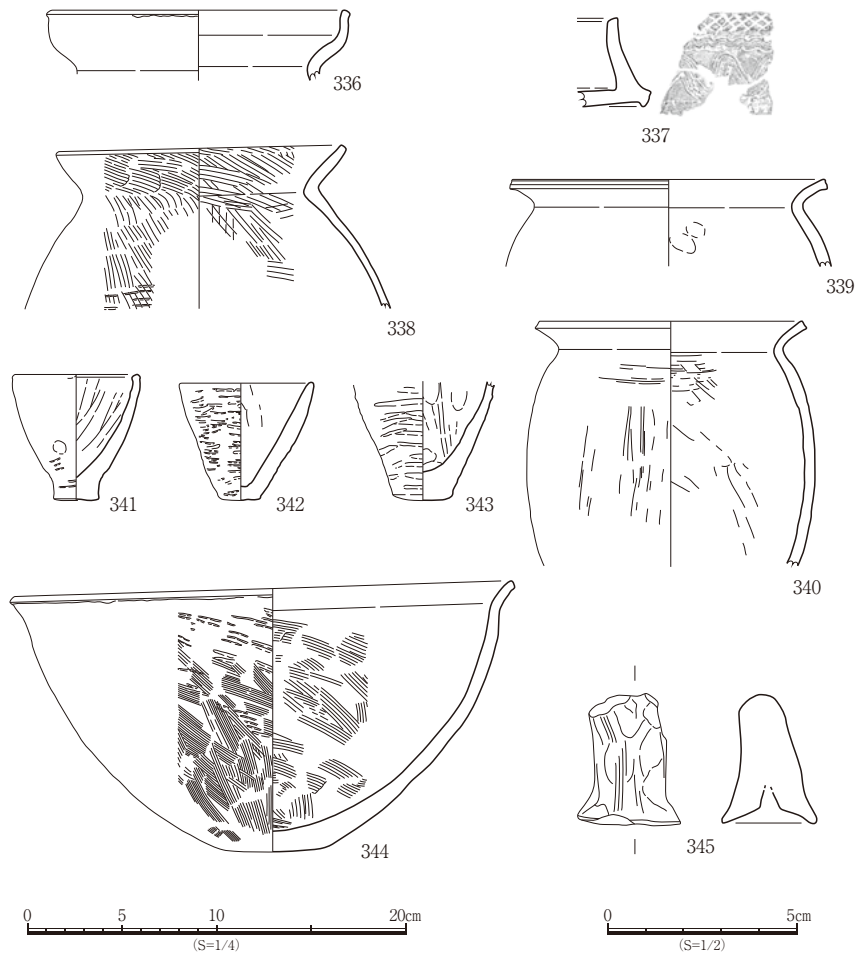


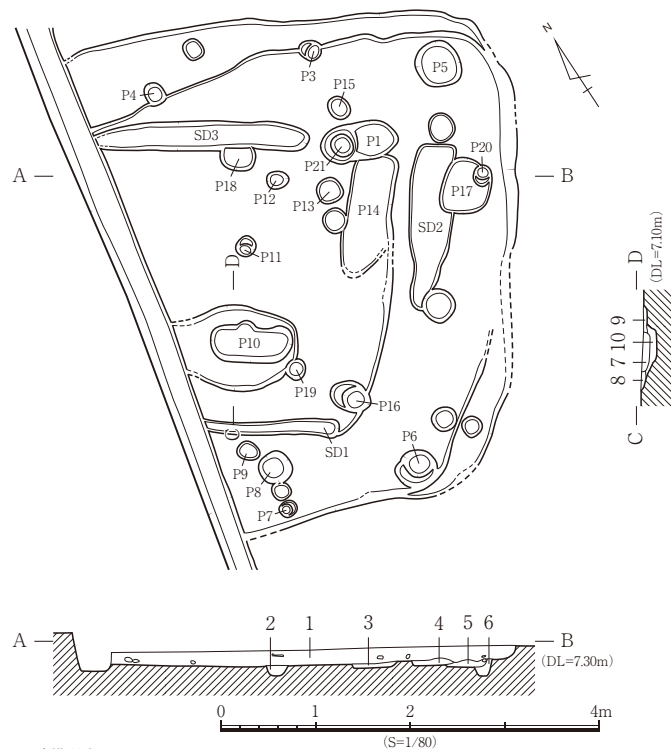
図61 1区 ST19 出土遺物実測図

振幅の小さい櫛描波状文を配置する。一次口縁部の外面はヨコナデ調整後、縦方向のミガキ調整、内面はヨコナデ調整を施す。二次口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。338は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部は内外面とも粗い斜め方向のハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、斜め方向のハケ調整を施す。内面は粗い斜め方向のハケ調整である。頸部はヨコハケ調整である。煤が付着する。339は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施し、1条の沈線文を巡らせる。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヨコハケ調整である。体部外面は横方向の工具ナデ調整、内面は頸部にヨコハケ調整、肩部にナデ調整を施す。被熱変色する。胎土から搬入品と考えられる。340と同一個体か。340は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施し、1条の沈線文を巡らせる。口縁部外面はヨコナデ調整、内面はヨコハケ調整である。体部外面・頸部は横方向の工具ナデ調整、上半部は縦方向の工具ナデ調整である。内面は頸部にヨコハケ調整、肩部にナデ調整、下半部にヘラケズリ調整を施す。被熱変色する。胎土から搬入品と考えられる。339と同一個体か。341は鉢である。底部は直立部を持つ平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整である。キレツがみられる。内面はナデ調整である。342は鉢である。底部は平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整である。内面はナデ調整である。被熱変色する。343は鉢である。底部は平底であり、

外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整である。内面はナデ調整である。被熱変色する。344は大型鉢である。口縁部は僅かに外反させ、口唇部にはルーズな面取りを施す。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、下半部はタテハケ調整、上半部は横方向から斜め方向のハケ調整である。内面は口縁部にヨコナデ調整、体部に全面にハケ調整を施す。被熱変色する。ほぼ完形である。345はミニチュア土器である。指頭により脚を作出する。体部の横断面形は長楕円形を呈する。外面はタテハケ調整を施す。上部は左右にのびる指が欠損するものの、支脚がモデルと考えられる。被熱変色する。

ST20

ST20は1区西端部で検出した一辺約5.4mの隅丸方形を呈した竪穴建物跡である。床面積は29.1㎡であり、主軸方向はN-30°-Eである。検出面から床面までの深さは約25cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット(ST20_P10)、支柱穴(ST20_P21・16)、支柱穴を連結する小溝(ST20_SD1・3)等の遺構を検出した。中央ピット(ST20_P10)は床面中央やや南寄りに位置し、長軸は検出長1.09m、短軸0.91mの不整楕円形を呈する。床面からの深さは約20cmであり、埋土は炭化物を含む黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト等である。支柱穴は内側に入った四隅に配置するものと推測される。支柱穴(ST20_P21)は、直径約20cmの円形を呈し、床面からの深さは約10cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。支柱穴(ST20_P16)は、長軸46cm、短軸33cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約30cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。ST20_SD1は支柱穴(ST20_P16)と南西部の支柱穴を連結する小溝である。幅16cm、床面からの深さ約7cmを測り、埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。ST20_SD3は支柱穴(ST20_P21)と北西部



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに中粒砂と1~3cm大の礫を少量含む
2. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む(ST20_P12)
3. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む(ST20_P14)
4. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む(ST20_SD2)
5. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む(ST20_P17)
6. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト(ST20_P20)
7. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに焼土を多く含む(ST20_P10)
8. 暗褐色(10YR3/3)粘土質シルト(ST20_P10)
9. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト(ST20_P10)
10. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに炭化物を含む(ST20_P10)

図62 1区 ST20 平面図・断面図

の主柱穴を連結する小溝である。幅31cm, 床面からの深さ約8cmを測り, 埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。これらの他にST20_P5, ST20_P6も主柱穴と考えられる。ST20_P5は直径約49cmの不整円形を呈し, 床面からの深さは約16cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。ST20_P6は, 長軸45cm, 短軸40cmの楕円形を呈し, 床面からの深さは約11cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。当該竪穴建物跡の北辺にはテラスがみられることから2棟の竪穴建物跡が重複している可能性がある。そう考えると中央ピット(ST20_P10)についてもテラスと底部のものに分離できる。

図示した出土遺物は, 弥生土器の甕(346~349)・鉢(350), ミニチュア土器(351)である。

346は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は上胴部からの一連の叩き調整後, ナデ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整である。体部外面は叩き調整後, ナデ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整である。底面付近はナデ調整である。被熱変色し, 煤が付着する。白吹き痕跡が認められる。347は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し, 口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後, ナデ調整及びハケ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整である。体部外面は叩き調整後, タテハケ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整である。煤が付着する。348は甕である。底部は角の取れた平底であり, 外底面は叩き調整後, ナデ調整である。体部外面は叩き調整後, タテハケ調整である。内面は上半部に斜め方向のハケ調整, 下半部は斜め方向のハケ調整後, 縦方向のナデ調整である。肩部内面には粘土帯接合痕跡がみられる。被熱変色し, 煤が付着する。349は甕である。底部は丸底であり, 外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後, ナデ調整である。キレツがみられる。内面は斜め方向のハケ調整であり, 底部付近はハケ調整後, ナデ調整である。被熱変色する。350は鉢である。口唇部はハケ状原体により面取りを施す。底部は丸底であり, 外底面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともナデ調整である。外面にはキレツがみられる。口縁部内面には着色が認められる。351は鉢形土器をモデルとするミニチュア土器である。底部は角の取れた平底であり, 外底面にはナデ調整を施す。底部側面には指頭圧痕, 凹凸が認められる。体部は内外面ともナデ調整である。外面にはキレツがみられる。被熱変色する。

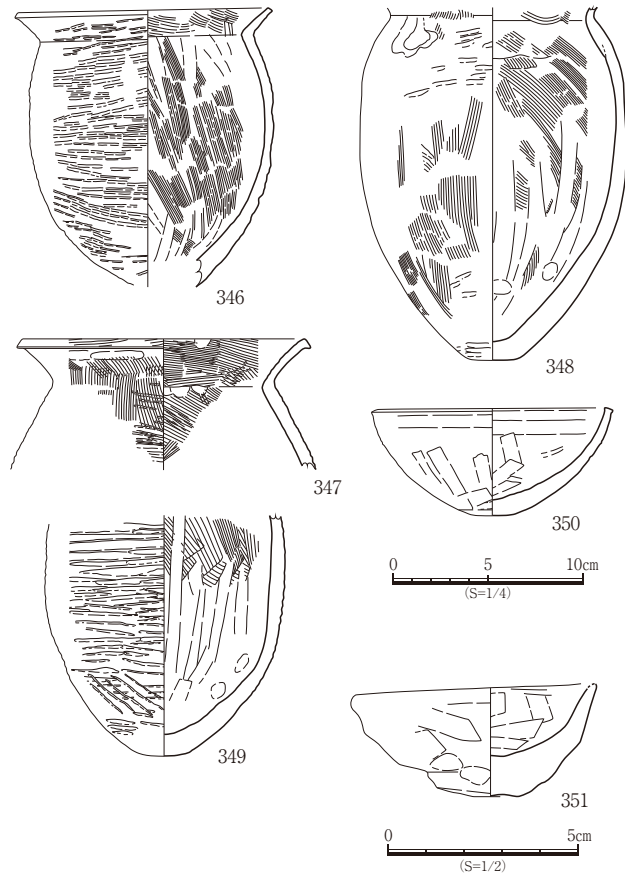


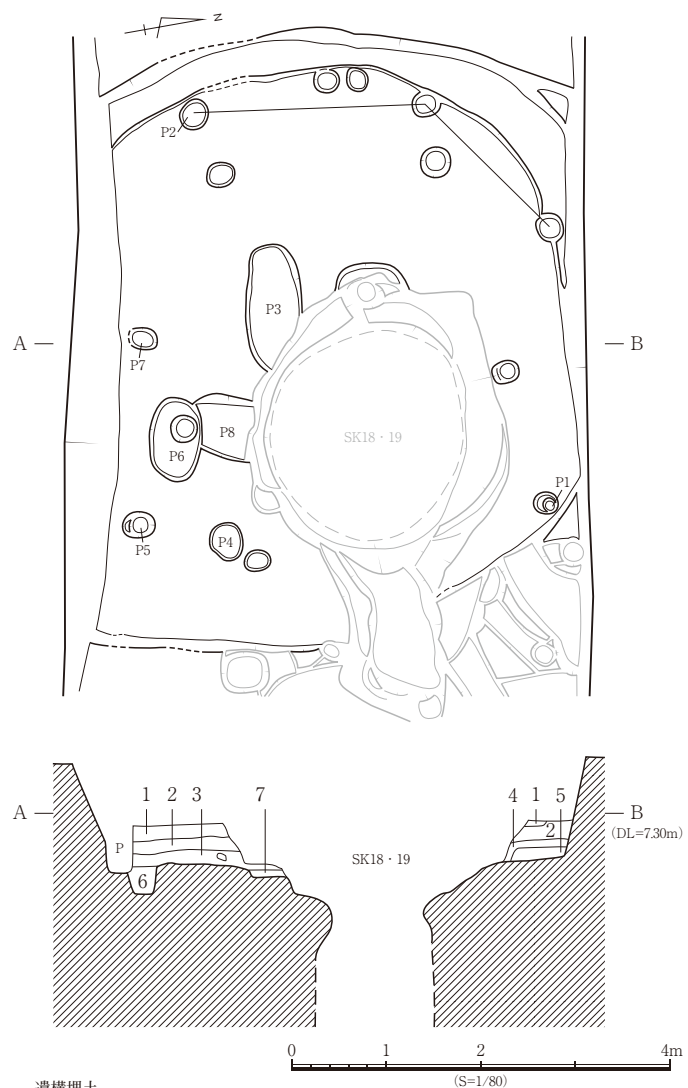
図63 1区 ST20 出土遺物実測図

ST21

ST21は2-1区西部で検出した平面形が円形の竪穴建物跡と推測される。長軸6.6m、短軸の検出長は4.7mを測り、床面積は34.1㎡である。検出面から床面までの深さは約45cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。床面ではピットを16基検出したもののST21の平面プラン等が不明瞭であり、床面中央付近には後世の井戸(SK19)が掘削されていることから中央ピット・主柱穴等を特定することは困難である。ST21_P1は、直径約26cmの円形を呈し、床面からの深さは約29cmを測る。埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。ST21_P5は、長軸35cm、短軸27cmの楕円形を呈し、床面からの深さは約28cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。この2基の規模は他のピットに比較して深く、主柱穴の可能性のあるものの判然としない。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕(352)・鉢(353～356)である。

352は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後、斜め方向のハケ調整を疎らに施す。内面は縦方向のナデ調整である。外面全面に煤が付着する。353は鉢である。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整である。キレツがみられる。内面はナデ調整で、口縁部は粗い斜め方向のハケ調整である。内底面には指頭圧痕が認められる。ほぼ完形である。354は鉢である。ハケ調整により丸底とする。外底面はナデ調整であり凹凸がみられ、未調整にちかい。体部外面は叩き調整後、斜め方向のハケ調整を施す。キレツがみられる。内面はやや摩耗するものの、斜め方向のハケ調整・ナデ調整である。被熱変色する。355は鉢である。口縁部は外反し、口唇部を丸



遺構埋土

1. 黒色(7.5YR1.7/1)細粒砂質シルトに粗粒砂を少量含む
2. 黒色(7.5YR2/1)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
3. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
4. 黒褐色(7.5YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
5. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト
6. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト(ST21_P7)
7. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト(ST21_P3)

図64 2-1区 ST21 平面図・断面図

くおさめる。口縁部外面はハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。内面には粗いヨコハケ調整を施す。底部は平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は粗いタテハケ調整を全面に施す。底部付近はヘラケズリ調整である。内面はナデ調整である。黒斑が認められる。356は脚付鉢である。杯部外面は粗いタテハケ調整、内面は粗いタテハケ調整後、不定方向のミガキ調整を疎らに施す。脚部は「ハ」の字形に大きくひらき、端部は面取りし、凹面状を呈する。外面は斜め方向のハケ調整後、ナデ調整である。内面はナデ調整である。分割成形か。

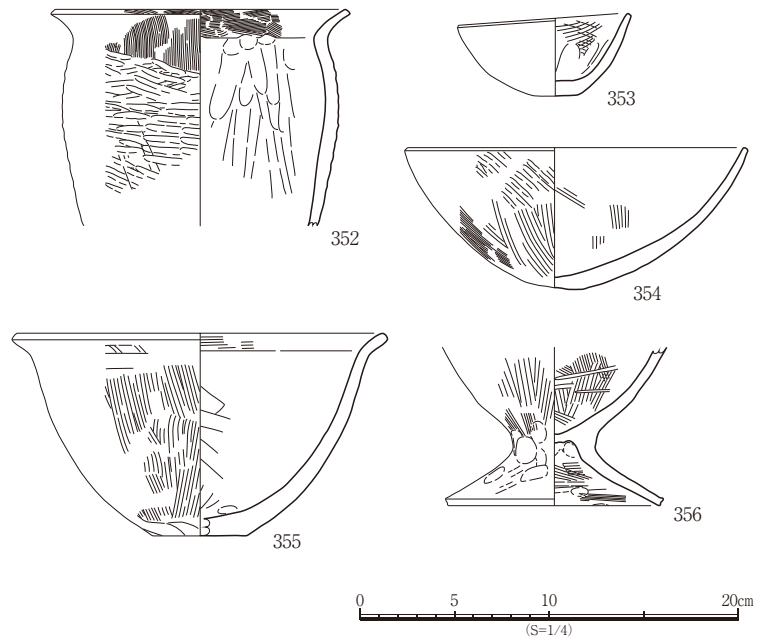


図65 2-1区 ST21 出土遺物実測図

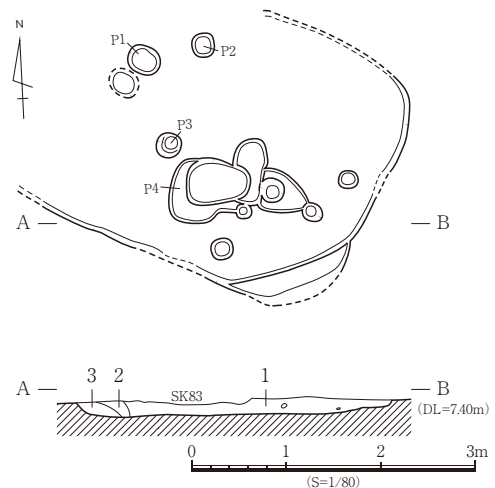
ST22

ST22は1区中央部で検出した竪穴建物跡である。ST9及び多数の土坑に切られており、平面形は隅丸方形を呈すると推測されるが、規模は不明である。長軸の検出長は3.6m、短軸の検出長は2.8mである。主軸方向はN-24°-Eである。検出面から床面までの深さは約18cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。床面ではピットを10基検出したものの主柱穴を特定することは困難である。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(357)・鉢(358~362)である。

357は壺である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。キレッツがみられる。内面はヨコハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面はナデ調整か、凹む。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整である。内面はナデ調整である。肩部内面には粘土帯接合痕跡が認められる。被熱変色し、煤が付着しており、煮沸の用に供されたと考えられる。

358は鉢である。底部は直立部を持つ平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整である。キレッツがみられ



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに0.5cm大の黄色礫を少量含む
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量含む
3. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量含む

図66 1区 ST22 平面図・断面図

る。内面には横方向から斜め方向のハケ調整後、ミガキ調整を疎らに施す。359は鉢である。口唇部はハケ状原体により面取りを施す。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施し、凹む。未調整にちかい。体部外面の上半部はヨコハケ調整、下半部は強いヘラミガキ調整であり、砂粒の移動痕跡が認められる。内面の最終調整は縦方向のミガキ調整である。口縁部内面はヨコハケ調整後、縦方向のミガキ調整である。内面は赤褐色に発色する。黒斑がみられる。360は鉢である。口縁端部を摘み上げ、口唇部は凹面状を呈する。底部は角の取れた平底であり、外底面は叩き調整後、ナデ調整か。体部外面は叩き調整後、ハケ調整・ミガキ調整を施す。僅かにキレツがみられる。内面はハケ調整後、ミガキ調整である。被熱変色する。361は鉢である。口唇部には面取りを施す。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施し、凹む。体部外面は叩き調整後、全面にハケ調整を施す。内面は全面にハケ調整を施す。煤が付着する。362は鉢である。底部は直立部を持つ平底であり、外底面にはナデ調整を施し、葉脈痕跡がみられる。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。キレツがみられる。内面はハケ調整である。

2. SB

SB1

SB1は、調査区南西部で検出した桁行4間(9.00m)、梁行3間(6.00m)の南北棟の総柱の掘立柱建物跡である。床面積は54.0㎡を測る。主軸方向はN-12°-Eであり、香長条里に一致する。各柱穴の掘り方は隅丸方形から隅丸長方形を呈し、一

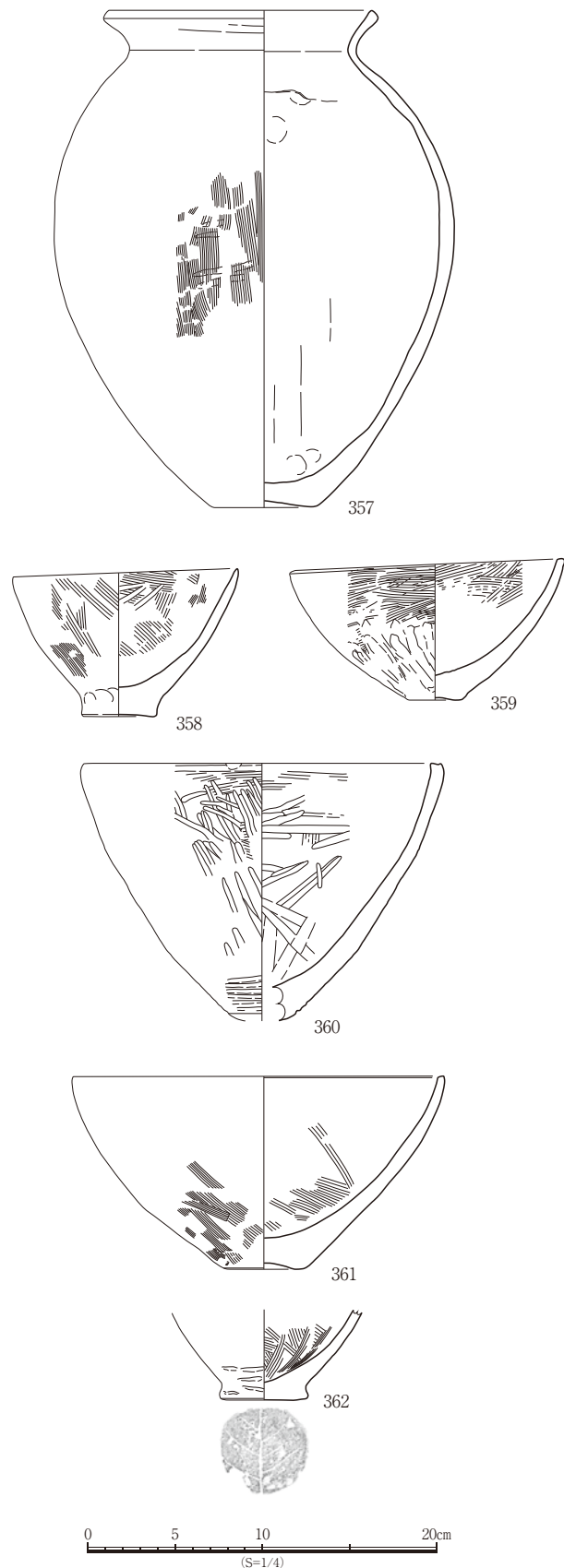


図67 1区 ST22 出土遺物実測図

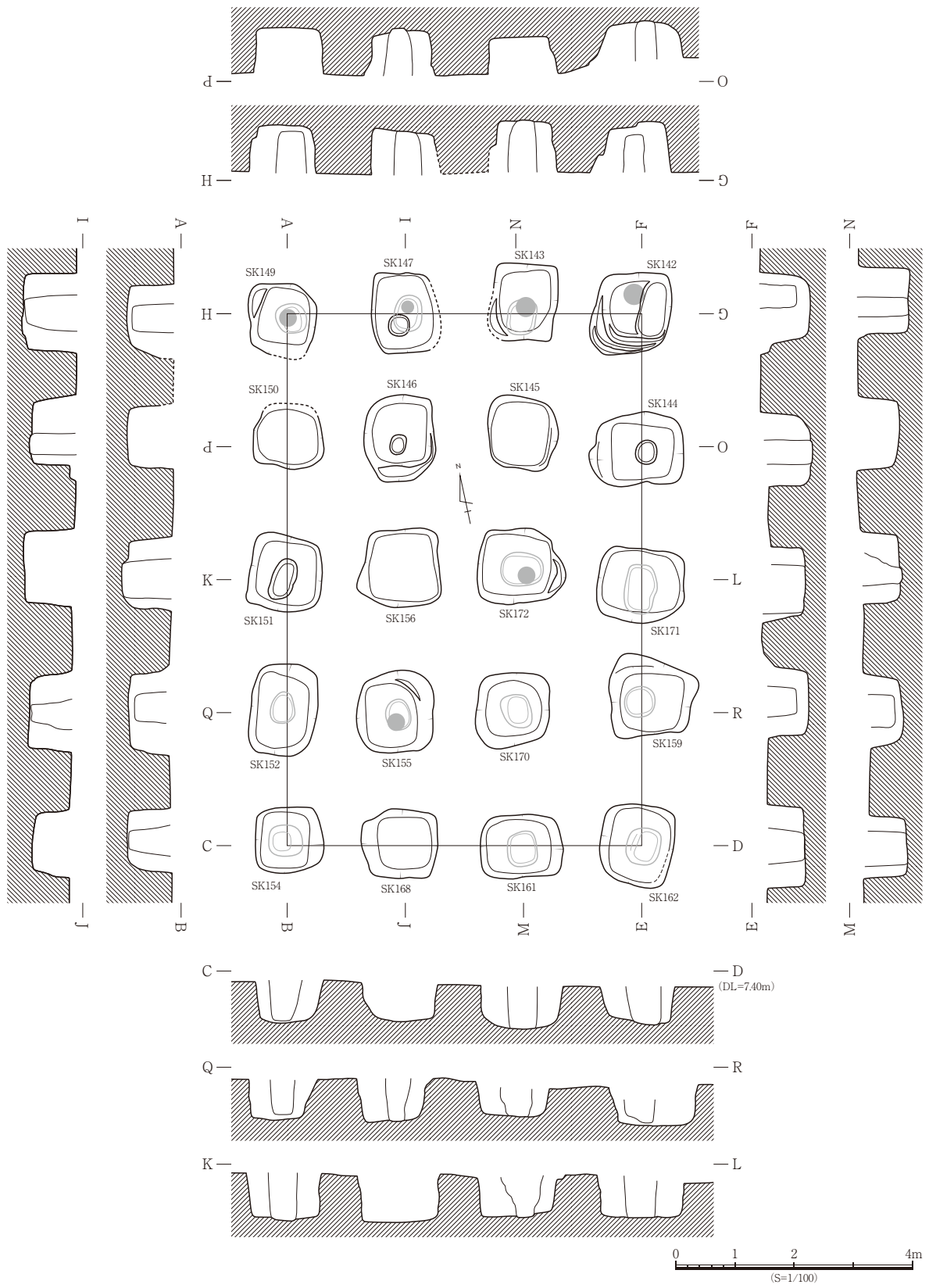


図68 1区 SB1 平面図・エレベーション図

辺は1mを超える(表2を参照)。検出面からの深さは0.48～0.91mを測り、埋土は黒褐色～黒色細粒砂質シルト他である。桁行の柱間寸法は2.10m(7尺)と2.40m(8尺)であり、梁行の柱間寸法は1.80m(6尺)と2.10m(7尺)である。

図示した出土遺物は、緑釉陶器の皿(363)、弥生土器の壺(364・365)・甕(366～371)・底部(372・373)・鉢(374)・蓋(375)、ミニチュア土器(376)、鉄製品(377)である。

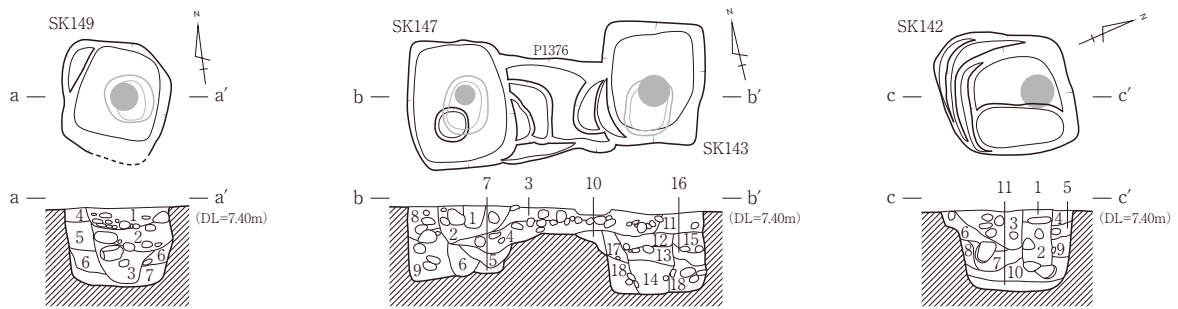
363はSK150から出土した緑釉陶器の皿である。薄い緑色の釉薬を施す。外底面にはケズリ調整を施し、輪高台を貼付する。京都産の可能性がある。364はSK168から出土した弥生土器の複合口縁壺である。一次口縁部は外反させ、端部に内傾する二次口縁部を付加して外面は稜を成す。内外面ともヨコハケ調整・ヨコナデ調整を施す。365はSK142から出土した弥生土器の壺である。口縁部は大きくひらき、端部を上方へ拡張させ、6条1単位の櫛描波状文を施す。口縁部は内外面ともヨコハケ調整、頸部外面はタテハケ調整を施す。SK172から出土した破片と接合した。366はSK144から出土した弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りを施す。外面に叩き調整、内面はハケ調整である。367はSK171から出土した弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。体部外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整である。368はSK172から出土した弥生土器の甕である。口縁部は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により緩やかに外反させる。叩き目がキレツ状を呈する部分がある。口唇部は面を取る。外面は叩き調整である。全体的に摩耗する。369はSK152から出土した弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は僅かに肥厚し面を取る。口縁部内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。370はSK145から出土した弥生土

器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面を取る。体部外面は叩き調整である。内面はハケ調整である。371はSK152から出土した弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。外面は叩き調整後、ナデ調整である。内面はヨコハケ調整である。全体的に摩耗する。372はSK147から出土した弥生土器の底部である。角の取れた平底であり、外底面は叩き調整後、ナデ調整を施す。外面は叩き後ナデ調整、内面はハケ調整である。373はSK144から出土した弥生土器の底部である。ほぼ丸底である。外面はヘラミガキ調整、内面はナ

表2 SB1柱穴計測表

柱穴番号	平面形	法 量		検出面からの深さ(cm)
		長軸(m)	短軸(m)	
SK142	方形	1.45	1.28	70.5～78.4
SK143	方形	1.26	1.08	83.0～88.8
SK144	方形	1.57	1.20	78.0～85.8
SK145	方形	1.17	1.14	60.4～68.9
SK146	方形	1.47	1.19	70.3～78.8
SK147	長方形	1.34	1.12	83.0～91.2
SK149	方形	1.21	1.15	71.3～80.0
SK150	方形	1.17	1.05	73.1～79.1
SK151	方形	1.26	1.14	76.0～86.7
SK152	長方形	1.47	1.13	62.4～69.8
SK154	方形	1.08	1.06	67.4～71.4
SK155	方形	1.37	1.28	69.1～72.0
SK156	方形	1.37	1.15	77.9～83.9
SK159	不整形	1.36	1.17	62.6～70.2
SK161	長方形	1.35	1.00	60.7～69.0
SK162	方形	1.36	1.24	39.5～48.3
SK168	方形	1.28	1.09	53.8～60.1
SK170	方形	1.24	1.20	59.3～63.3
SK171	方形	1.44	1.22	68.5～73.6
SK172	方形	1.49	1.28	61.1～72.6

第2節 1区



遺構埋土 (SK149)

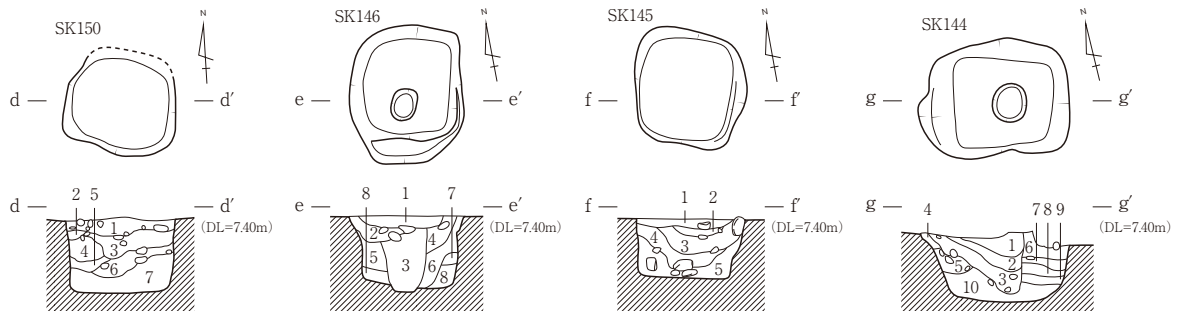
1. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに5~10cm大の礫を含む (柱痕跡)
2. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに5~20cm大の礫を含む (柱痕跡)
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに5~20cm大の礫を含む (柱痕跡)
4. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに3~5cm大の礫を多く含む
5. 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂質シルトに5~10cm大の礫と黄色シルトブロックを含む
6. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに5cm大の礫を多く含む
7. 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂質シルトに粗粒砂と3~5cm大の礫を含む

遺構埋土 (SK142)

1. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルト (柱痕跡)
2. 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルトに5~10cm大の礫を多く含む (柱痕跡)
3. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と5~10cm大の礫を含む
4. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに粗粒砂と3~10cm大の礫を多く含む
6. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに5~10cm大の礫を少量含む
7. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに20cm大の礫を少量含む
8. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに2~10cm大の礫を多量に含む
9. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と5cm大の礫を含む
10. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに5~20cm大の礫を含む
11. 黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルトに3~10cm大の礫を含む

遺構埋土 (SK143・147・P1376)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を含む (P1376)
 2. 黒褐色 (7.5YR2/2) 細粒砂質シルトに5~20cm大の礫を含む (P1376)
 3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と黄色シルトブロックを含む (P1376)
 4. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と5~10cm大の礫を多く含む (P1376)
 5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と1~5cm大の礫を含む (SK147)
 6. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と1~5cm大の礫を少量含む (SK147柱痕跡)
 7. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と1~5cm大の礫を多く含む (SK147)
 8. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と黄色シルトブロックと5~20cm大の礫を多く含む (SK147)
 9. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに粗粒砂と20cm大の礫を多く含む (SK147)
 10. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と5cm大の礫を多く含む (ピット)
 11. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに5~10cm大の礫を多く含む (SK143)
 12. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む (SK143柱痕跡)
 13. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと5cm大の礫を含む (SK143柱痕跡)
 14. 黒褐色 (7.5YR2/2) 細粒砂質シルトに5cm大の礫を含む (SK143柱痕跡)
 15. 黒褐色 (7.5YR3/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を含む (SK143)
 16. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルト (SK143)
 17. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに5cm大の礫を含む (SK143)
 18. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに5~20cm大の礫を多量に含む (SK143)
- ※ 埋土1~5は抜き取り痕か



遺構埋土 (SK150)

1. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を少量含む
2. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに5cm大の礫を含む
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに10cm大の礫を少量含む
4. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと3cm大の礫を含む
5. 黒褐色 (7.5YR3/1) 細粒砂質シルトに3cm大の礫を多く含む
6. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と黄色シルトブロックと3~5cm大の礫を含む
7. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに粗粒砂と3~5cm大の礫を多く含む

遺構埋土 (SK146)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに5cm大の礫を含む
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに5~10cm大の礫と黄色シルトブロックを含む
3. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに粗粒砂と5~8cm大の礫を多く含む (柱痕跡)
4. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに粗粒砂を含む
5. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに中粒砂と5cm大の礫と黄色シルトブロックを含む
6. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに3cm大の礫を少量含む
7. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルト
8. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに粗粒砂と5cm大の礫とにぶい黄褐色シルトブロックを多く含む

遺構埋土 (SK145)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに10cm大の礫を含む
2. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと1~5cm大の礫を含む
3. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに中粒砂を少量含む
4. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルト
5. 黒褐色 (7.5YR2/2) 細粒砂質シルトに粗粒砂と5~15cm大の礫を多く含む

遺構埋土 (SK144)

1. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに3~5cm大の礫を含む (柱痕跡)
2. 黒褐色 (7.5YR3/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトを多量に含む (柱痕跡)
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに10cm大の礫を含む (柱痕跡)
4. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと0.5cm大の礫を含む
5. 黒褐色 (7.5YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含み、5~10cm大の礫を多量に含む
6. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と黄色シルトブロックと3~5cm大の礫を多量に含む
7. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と黄色シルトブロックを含む
8. 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂質シルトに黄色シルトブロックと5cm大の礫を多く含む
9. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに中粒砂と黄色シルトブロックと3cm大の礫を含む
10. にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト質中粒砂に粗粒砂と黄色シルトブロックと1~5cm大の礫を多く含む

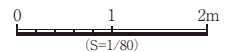
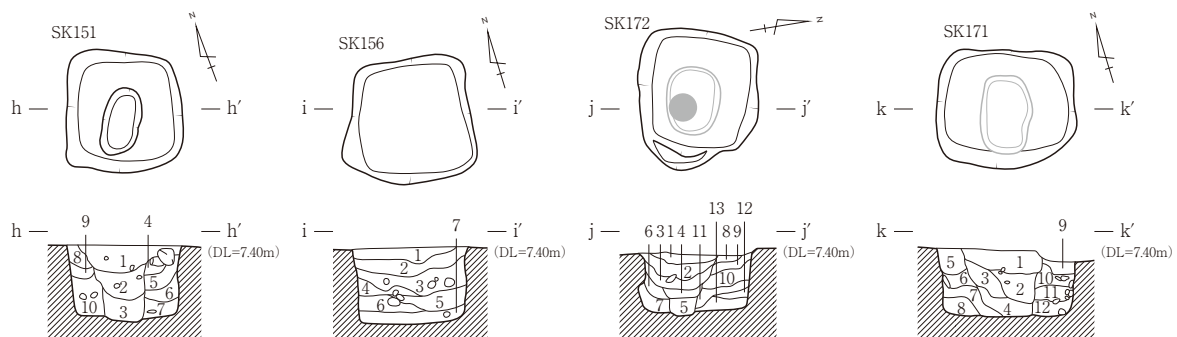


図69 1区 SB1 柱穴断面図_1

デ調整である。374はSK145から出土した弥生土器の鉢である。口縁端部は面を取り、僅かに外方へ摘み出す。口縁部外面にはヨコハケ調整を施す。体部外面は斜め方向のハケ調整、内面はヨコハケ調整後、ヘラミガキ調整を施す。375はSK162から出土した弥生土器の蓋である。天井部は僅かに凹状を成し、端部は突出する。内外面ともナデ調整か。被熱赤変する。376はSK152から出土したミニチュア土器である。平底を呈し、内外面ともナデ調整である。377はSK171から出土した板状の鉄製品であり、基部は欠損する。器形等は不明である。

SB2

SB2は、調査区西部で検出した桁行3間(4.72m)、梁行2間(3.47m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-21°-Eである。柱間寸法は、桁行は1.35~2.10m、梁行は1.70mである。柱穴は直径約30cmの



遺構埋土 (SK151)

1. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を含む (柱痕跡)
2. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに3~5cm大の礫を含む (柱痕跡)
3. 暗褐色 (10YR3/3) 中粒砂質シルトに10cm大の礫を含む (柱痕跡)
4. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに2cm大の礫を含む
5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と3~5cm大の礫を多く含む
6. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに中粒砂と黄色シルトブロックを含む
7. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと10cm大の礫を含む
8. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
9. 黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
10. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と5cm大の礫を多く含む

遺構埋土 (SK156)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を含む
3. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに5~10cm大の礫を含む
4. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 極粗粒砂質シルトに1~5cm大の礫を多量に含む
5. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトににぶい黄褐色極粗粒砂質シルトブロックを含む
6. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに10cm大の礫を少量含む
7. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗粒砂質シルトに1~3cm大の礫を多量に含む

遺構埋土 (SK172)

1. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む (柱痕跡)
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂を含む (柱痕跡)
3. 黒色 (7.5YR1.7/1) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量含む (柱痕跡)
4. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量含む (柱痕跡)
5. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く、3cm大の礫を含む (柱痕跡)
6. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに粗粒砂を少量含む
7. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに5cm大の礫を少量、炭化物を含む
8. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルト
9. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を少量含む
10. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
11. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
12. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と1cm大の礫を少量含む
13. 黒色 (7.5YR1.7/1) 細粒砂質シルトに1~5cm大の礫を含む

遺構埋土 (SK171)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト (柱痕跡)
2. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに3cm大の礫と黄色シルトブロックを少量含む (柱痕跡)
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む (柱痕跡)
4. 黒色 (7.5YR1.7/1) 細粒砂質シルトに中粒砂を少量含む (柱痕跡)
5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと1~3cm大の礫を含む
6. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と1~3cm大の礫と黄色シルトブロックを多く含む
7. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く、1~3cm大の礫を含む
8. 褐色 (10YR4/4) 細粒砂質シルトに中粒砂と黄色シルトブロックと8cm大の礫を含む
9. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を多く、黄色シルトブロックを少量含む
10. 黒色 (7.5YR2/1) 細粒砂質シルトに1~5cm大の礫を多く含む
11. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と黄色シルトブロックを含む
12. 黒褐色 (7.5YR2/2) 細粒砂質シルトに粗粒砂と黄色シルトブロックと1~5cm大の礫を含む

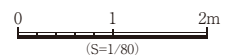


図70 1区 SB1 柱穴断面図_2

円形から不整形円形であり、検出面からの深さは3～42cmである。床面積は15.9㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB3

SB3は、調査区西部で検出した桁行3間(4.70m)、梁行2間(4.00m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-22° -Eである。柱間寸法は、桁行は1.35～1.85m、梁行は1.90mである。柱穴は直径約25cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは1～32cmである。床面積は18.8㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB4

SB4は、調査区西部で検出した桁行4間(7.23m)、梁行3間(5.09m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-72° -Wである。柱間寸法は、桁行は1.50～3.40m、梁行は1.55～3.50mである。柱穴は直径約25cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは3～49cmである。床面積は36.0㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB5

SB5は、調査区西部で検出した桁行4間(7.43m)、梁行2間(3.13m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-73° -Wである。柱間寸法は、桁行は1.45～2.30m、梁行は1.40～1.70mである。柱穴は直径約25cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは3～28cmである。床面積は22.9㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB6

SB6は、調査区西部で検出した桁行2間(4.27m)、梁行2間(3.74m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-8° -Eである。柱間寸法は、桁行は1.70～2.60m、梁行は1.90～3.74mである。柱穴は直径約35cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは2～65cmである。床面積は15.5㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB7

SB7は、調査区南西部で検出した桁行4間(7.27m)、梁行3間(4.49m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-86° -Wである。柱間寸法は、桁行は1.70～2.15m、梁行は1.30～1.65mである。柱穴は直径約40cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは14～63cmである。床面積は31.6㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB8

SB8は、調査区西部で検出した桁行2間(4.37m)、梁行1間(2.66m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-14° -Eである。柱間寸法は、桁行は1.95～2.35m、梁行は2.66mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは6～55cmである。床面積は11.1㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB9

SB9は、調査区西部で検出した桁行3間(5.57 m)、梁行2間(3.92 m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-76° -Wである。柱間寸法は、桁行は1.70～5.50 m、梁行は1.50～2.40 mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは13～56cmである。床面積は21.8㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB10

SB10は、調査区西南部で検出した桁行2間(5.55 m)、梁行2間(3.89 m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-78° -Wである。柱間寸法は、桁行は2.20～3.25 m、梁行は1.90 mである。柱穴は直径約35cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは5～69cmである。床面積は21.5㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB11

SB11は、調査区西部で検出した桁行3間(5.40 m)、梁行2間(5.08 m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-14° -Eである。柱間寸法は、桁行は1.50～2.45 m、梁行は2.60 mである。柱穴は直径約35cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは10～73cmである。床面積は27.4㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB12

SB12は、調査区南西部で検出した桁行3間(5.98 m)、梁行2間(3.85 m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-4° -Eである。柱間寸法は、桁行は1.70～2.50 m、梁行は1.90 mである。柱穴は直径約40 cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは29～75cmである。床面積は23.0㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB13

SB13は、調査区西部で検出した桁行4間(5.82 m)、梁行2間(2.58 m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-73° -Wである。柱間寸法は、桁行は1.60～4.20 m、梁行は1.30 mである。柱穴は直径約25 cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは13～40cmである。床面積は15.0㎡である。

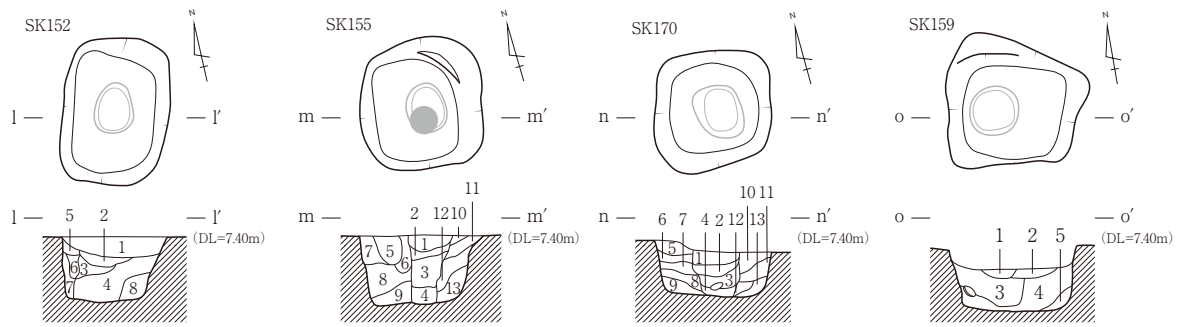
図示した出土遺物はない。

SB14

SB14は、調査区西部で検出した桁行2間(3.57 m)、梁行1間(2.34 m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-77° -Wである。柱間寸法は、桁行は1.50～2.10 m、梁行は2.34 mである。柱穴は直径約30 cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは21～55cmである。床面積は8.3㎡である。

図示した出土遺物はない。

第2節 1区



遺構埋土 (SK152)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに3cm大の礫を少量含む
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに0.5cm大の黄色の礫を含む
3. 黒色 (7.5YR2/1) 細粒砂質シルトに3cm大の礫を少量含む
4. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに5cm大の礫を含む
5. 黒色 (7.5YR1.7/1) 細粒砂質シルト
6. 黒褐色 (7.5YR2/2) 細粒砂質シルトに5cm大の礫と黄色シルトブロックを含む
7. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1cm大の礫と黄色シルトブロックを含む
8. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに5cm大の礫と黄色シルトブロックを含む

遺構埋土 (SK155)

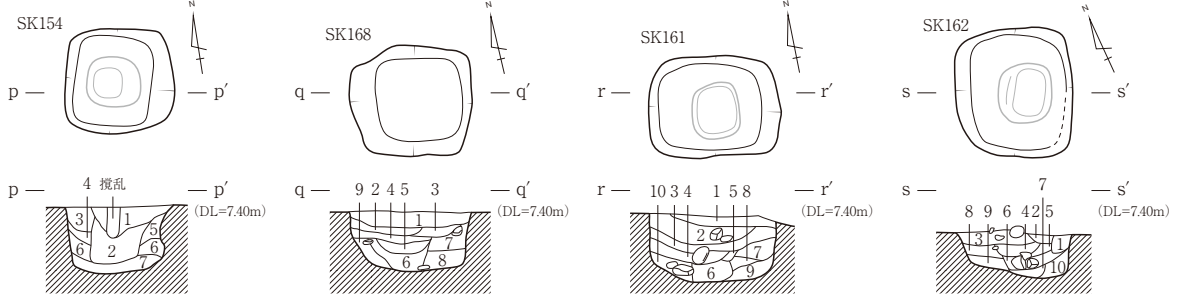
1. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂を含む (柱痕跡)
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに5cm大の礫を含む (柱痕跡)
3. 黒色 (7.5YR2/1) 細粒砂質シルトに中粒砂と3cm大の礫を少量含む (柱痕跡)
4. 黒褐色 (7.5YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂を少量含む (柱痕跡)
5. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を少量含む
6. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と3cm大の礫を多く含む
7. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに5cm大の礫を少量含む
8. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と黒色シルトブロックを含む
9. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と3cm大の礫を多く含む
10. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と3~5cm大の礫を少量含む
11. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂を含む
12. 黒色 (7.5YR2/1) 細粒砂質シルトに中粒砂を少量含む
13. 黒色 (7.5YR1.7/1) 細粒砂質シルトに中粒砂と5cm大の礫を少量含む

遺構埋土 (SK170)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに3cm大の礫を多く含む (柱痕跡)
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量含む (柱痕跡)
3. 黒色 (7.5YR1.7/1) 細粒砂質シルトに中粒砂と10cm大の礫を含む (柱痕跡)
4. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに中粒砂と5cm大の礫を含む (柱痕跡)
5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト
6. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂を含む
7. 黒色 (7.5YR1.7/1) 細粒砂質シルトに中粒砂と3cm大の礫を多く含む
8. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに中粒砂を少量含む
9. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに中粒砂と3cm大の礫を含む
10. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を少量含む
11. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黒色シルトブロックと3cm大の礫を含む
12. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と5cm大の礫を含む
13. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに5cm大の礫を少量含む

遺構埋土 (SK159)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を含む
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに3~5cm大の礫を含む
4. 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルトに1~5cm大の礫を多量に含む
5. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに粗粒砂を含む



遺構埋土 (SK154)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を少量含む
2. 黒色 (7.5YR1.7/1) 細粒砂質シルトに1~3cm大の礫を多く含む (柱痕跡)
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに5cm大の礫を少量含む
4. 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルトに炭化物と5cm大の礫を多く含む
5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1~3cm大の礫を多く、黄色シルトブロックを含む
6. 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルトに1~5cm大の礫を多く含む
7. 黒褐色 (10YR3/2) 粗粒砂質シルトに3~5cm大の礫を多量に含む

遺構埋土 (SK168)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと1cm大の礫を含む
2. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと0.5cm大の礫を含む
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに8cm大の礫を少量含む
4. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
5. 黒色 (7.5YR2/1) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を少量含む (柱痕跡)
6. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と3~5cm大の礫を含む (柱痕跡)
7. 黒色 (7.5YR2/1) 細粒砂質シルトに0.5cm大の礫を含む
8. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と1cm大の礫を含む
9. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに3cm大の礫を少量含む

遺構埋土 (SK161)

1. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を多く含む
2. 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルトに0.5cm大の礫を多く含む
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに0.5cm大の礫を少量含む
4. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに3~5cm大の礫を多く含む
5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト
6. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに中粒砂と0.5~2cm大の礫を少量含む (柱痕跡)
7. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1~3cm大の礫を多く含む
8. 黒褐色 (7.5YR2/2) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を多く含む
9. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに0.5cm大の礫と黄色シルトブロックを含む
10. 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルトに1~3cm大の礫を多量、20cm大の礫を含む

遺構埋土 (SK162)

1. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と黄色シルトブロックを含む
2. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルト
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と1cm大の礫を多く含む
4. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに3~5cm大の礫を多く含む
5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト
6. 黒褐色 (7.5YR2/2) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を多く含む
7. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに3~5cm大の礫を多く含む (柱痕跡)
8. 極暗褐色 (7.5YR2/3) 中粒砂質シルトに1cm大の礫を多量に含む
9. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに0.5cm大の礫を多く、10cm大の礫を含む
10. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに3cm大の礫を少量含む

図71 1区 SB1 柱穴断面図_3

SB15

SB15は、調査区西部で検出した桁行3間(5.48 m)、梁行2間(4.00 m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-9° -Eである。柱間寸法は、桁行は1.80～1.95 m、梁行は2.00 mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは9～28cmである。床面積は21.9㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB16

SB16は、調査区西部で検出した桁行5間(10.04 m)、梁行4間(9.21 m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-70° -Wである。柱間寸法は、桁行は2.15～6.00 m、梁行は1.60～4.10 mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは5～52cmである。床面積は92.0㎡である。

図示した出土遺物は、土師質土器の杯(378)である。P1092 から出土した体部は僅かに内湾気味に立ち上がり、口縁端部は肥厚して短く外反する。微細な金雲母片を含む。外面はロクロ目痕がみられる。内面はヘラ状原体による回転ナデ調整である。底部には回転糸切り痕跡がみられる。

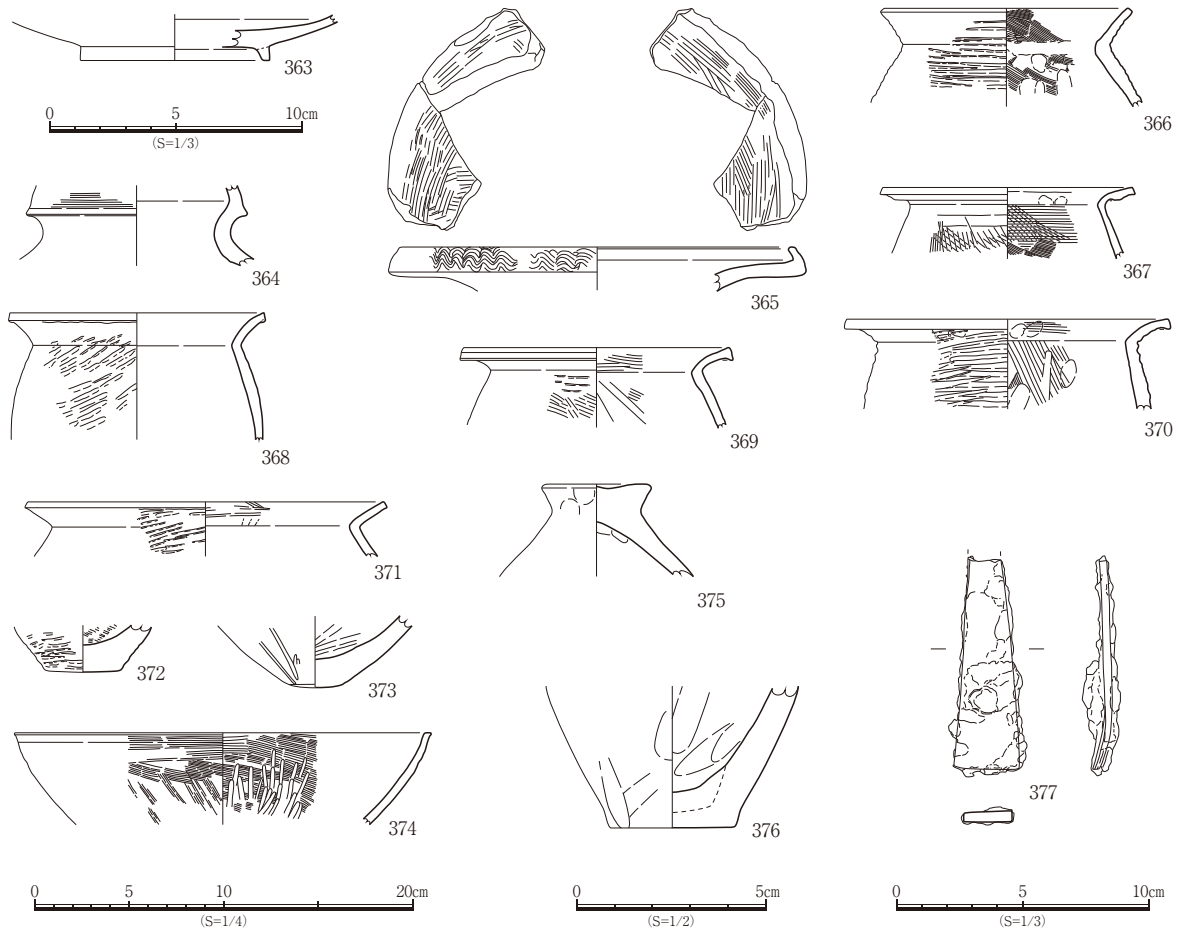


図72 1区 SB1 出土遺物実測図

SB17

SB17 は、調査区西部で検出した桁行3間(5.07 m)、梁行2間(2.52 m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-76° -Wである。柱間寸法は、桁行は1.40～2.10 m、梁行は1.15～1.80 mである。柱穴は直径約25cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは3～33 cmである。床面積は12.7㎡である。

図示した出土遺物はない。

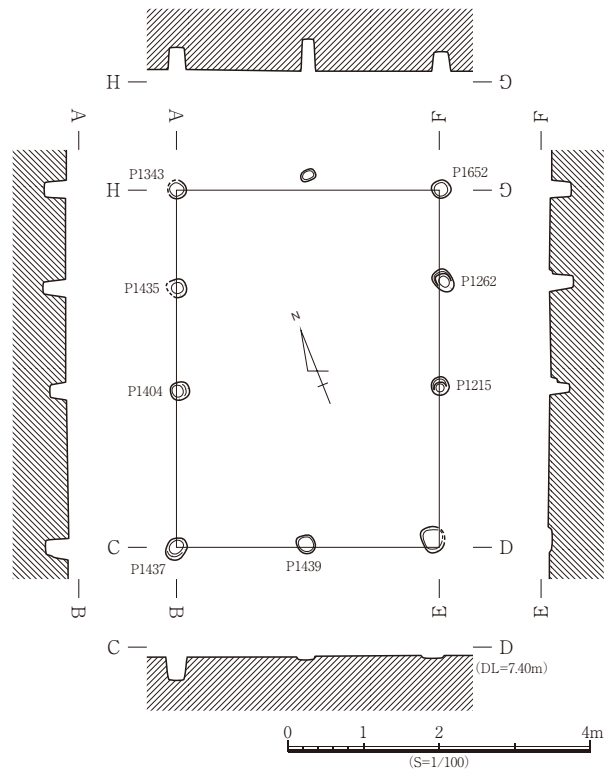


図73 1区 SB2 平面図・エレベーション図

SB18

SB18 は、調査区西部で検出した桁行3間(3.99 m)、梁行2間(3.37 m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-74° -Wである。柱間寸法は、桁行は0.10～2.40 m、梁行は1.50～3.37 mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは5～33 cmである。床面積は18.3㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB19

SB19 は、調査区西部で検出した桁行4間(8.20 m)、梁行3間(5.56 m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-74° -Wである。柱間寸法は、桁行は1.80～3.90 m、梁行は1.80 mである。柱穴は直径約25 cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは9～38 cmである。床面積は45.5㎡である。

図示した出土遺物は、瓦質土器の羽釜(379)、弥生土器の甕(380)である。

379はP727から出土した瓦質土器の羽釜である。口縁部は内傾し、端部は板状原体による調整で面を取る。断面形が三角形の鏝を貼付し、上方は強いヨコナデ調整により僅かに凹状を成す。外面には

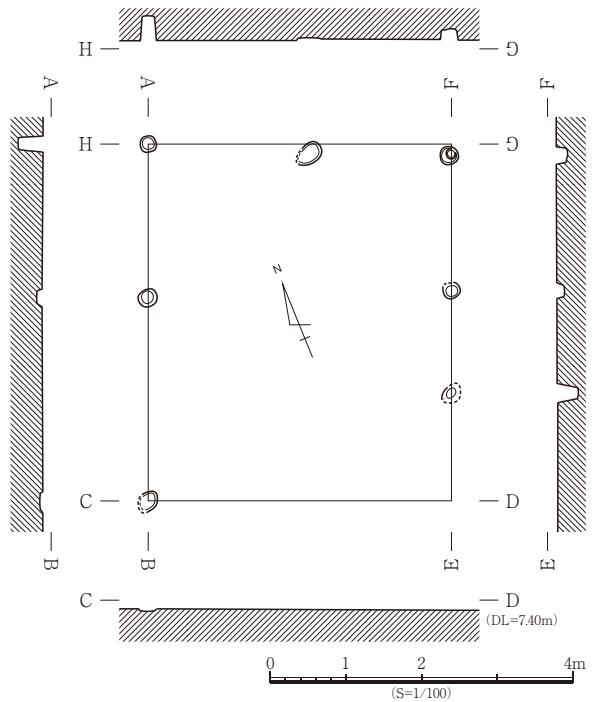


図74 1区 SB3 平面図・エレベーション図

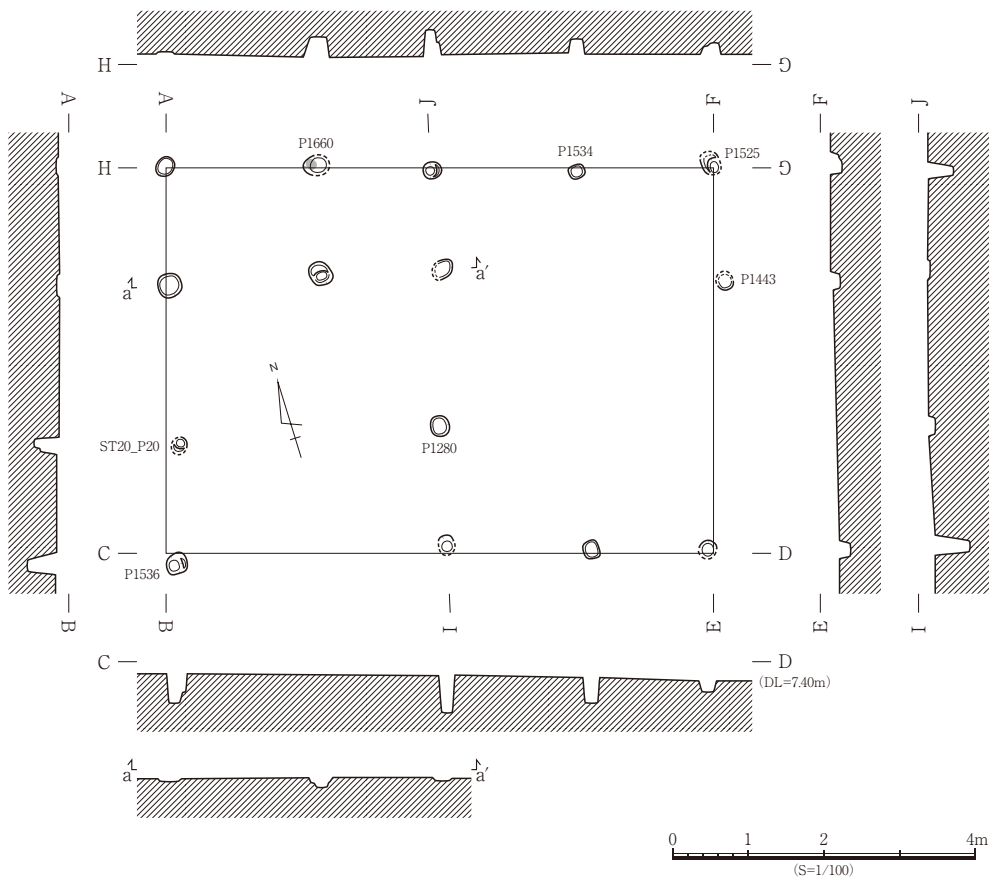


図75 1区 SB4 平面図・エレベーション図

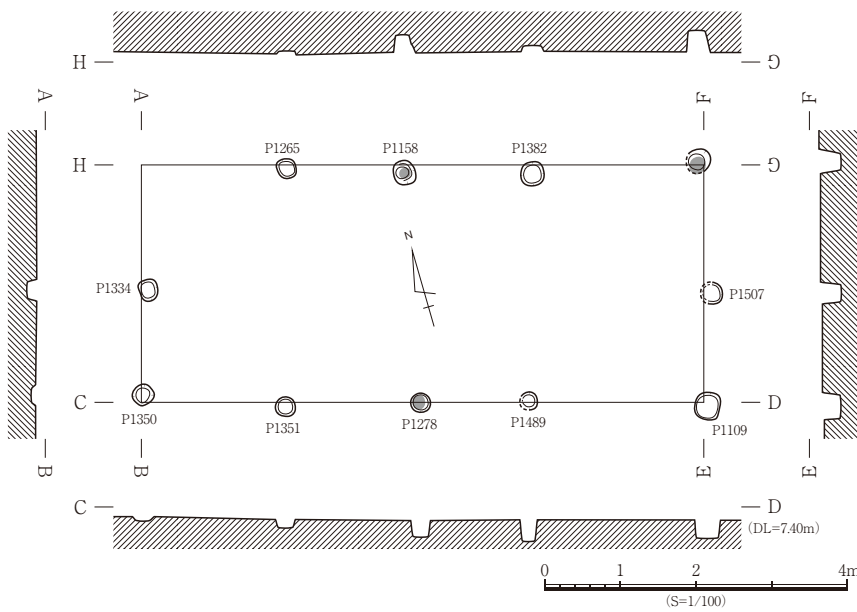


図76 1区 SB5 平面図・エレベーション図

指頭圧痕が認められる。内面はナデ調整である。380はP727から出土した弥生土器の凹線文系の甕である。口縁部は屈曲し、端部は僅かに摘み上げ、摘み出し、凹面状を成す。体部外面はナデ調整、内面はヘラケズリ調整である。

SB20

SB20は、調査区西部で検出した桁行3間(5.70m)、梁行2間(3.62m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-14°-Eである。柱間寸法は、桁行は1.60~3.50m、梁行は1.80mである。柱穴は直径約35cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは3~26cmである。床面積は20.5㎡である。

図示した出土遺物はない。

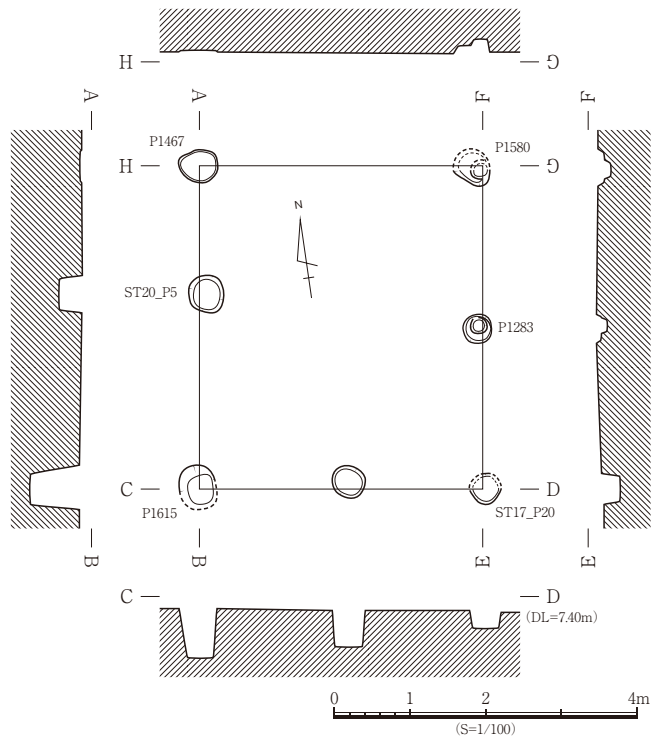


図77 1区 SB6 平面図・エレベーション図

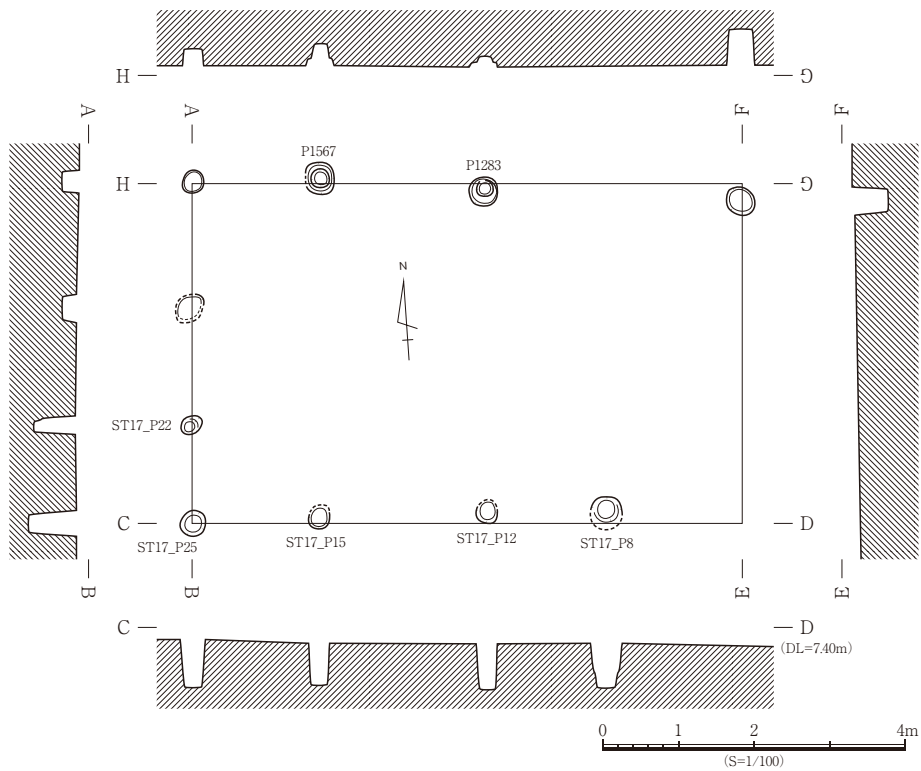


図78 1区 SB7 平面図・エレベーション図

SB21

SB21は、調査区西部で検出した桁行4間(5.37m)、梁行3間(3.99m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-21°-Eである。柱間寸法は、桁行は1.30～2.90m、梁行は1.25～2.60mである。柱穴は直径約25cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは4～23cmである。床面積は20.6㎡である。

図示した出土遺物はない。

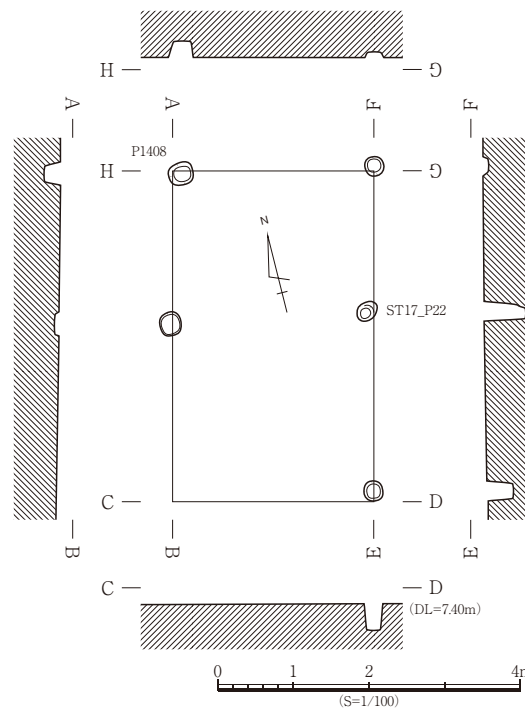


図79 1区 SB8 平面図・エレベーション図

SB22

SB22は、調査区西部で検出した桁行4間(5.03m)、梁行2間(3.28m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-75°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.05～2.80m、梁行は1.45～1.8mである。柱穴は直径約25cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは4～25cmである。床面積は16.0㎡である。

図示した出土遺物はない。

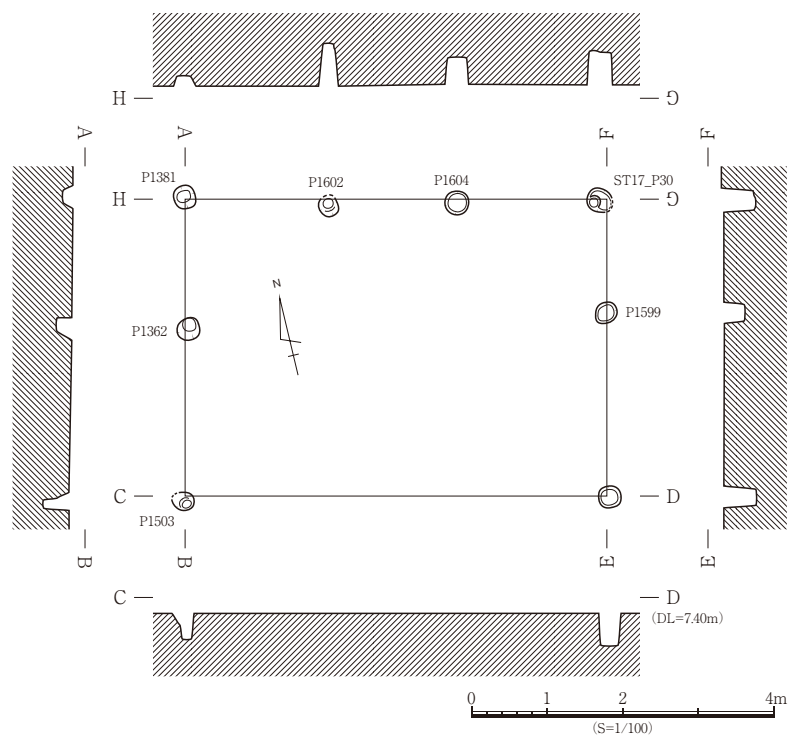


図80 1区 SB9 平面図・エレベーション図

SB23

SB23は、調査区西部で検出した桁行3間(6.62m)、梁行2間(3.74m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-68°-Wである。柱間寸

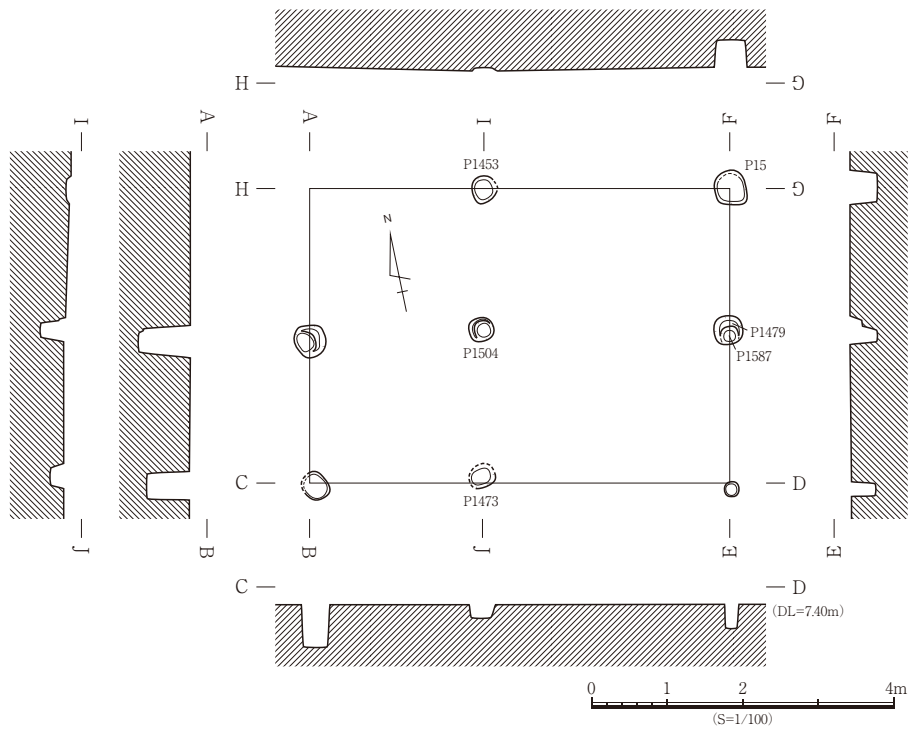


図81 1区 SB10 平面図・エレベーション図

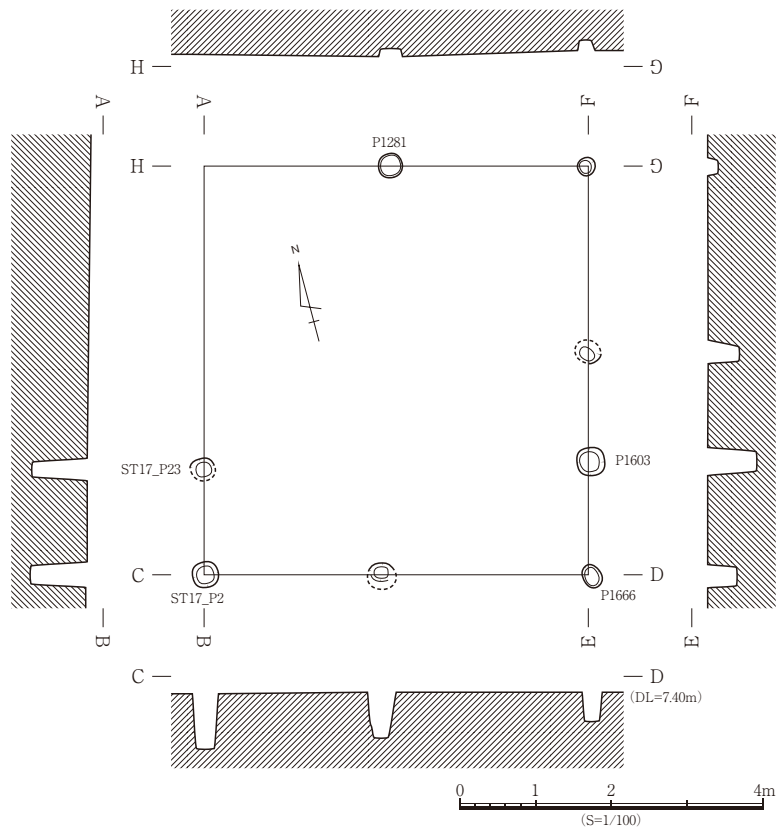


図82 1区 SB11 平面図・エレベーション図

法は、桁行は1.60～2.60 m、
梁行は1.80～1.90mである。
柱穴は直径約40cmの円形か
ら不整円形であり、検出面
からの深さは11～44 cmで
ある。床面積は 24.7 m²で
ある。

図示した出土遺物は、土
師質土器の杯(381・382)、土
錘(383)である。

381はP1135から出土し
た土師質土器の杯である。
底径に比してやや深めの体
部は杯状を呈し、口縁端部
は丸くおさめる。内外面と
も回転ナデ調整である。底
部には回転糸切り痕跡がみ
られる。ほぼ完形である。
382はP1135から出土した
土師質土器の杯である。底
径に比してやや深めの体部
は杯状を呈し、口縁端部は
丸くおさめる。内外面とも
回転ナデ調整である。底部
には回転糸切り痕跡がみ
られる。ほぼ完形である。
383はP1488から出土した
管状土錘である。ほぼ完形
である。

SB24

SB24は、調査区西部で検
出した桁行3間(6.99 m)、梁
行2間(3.65 m)の東西棟の
建物跡である。主軸方向は
N-70°-Wである。柱間寸
法は、桁行は1.80～2.70 m、
梁行は1.60～1.85mである。

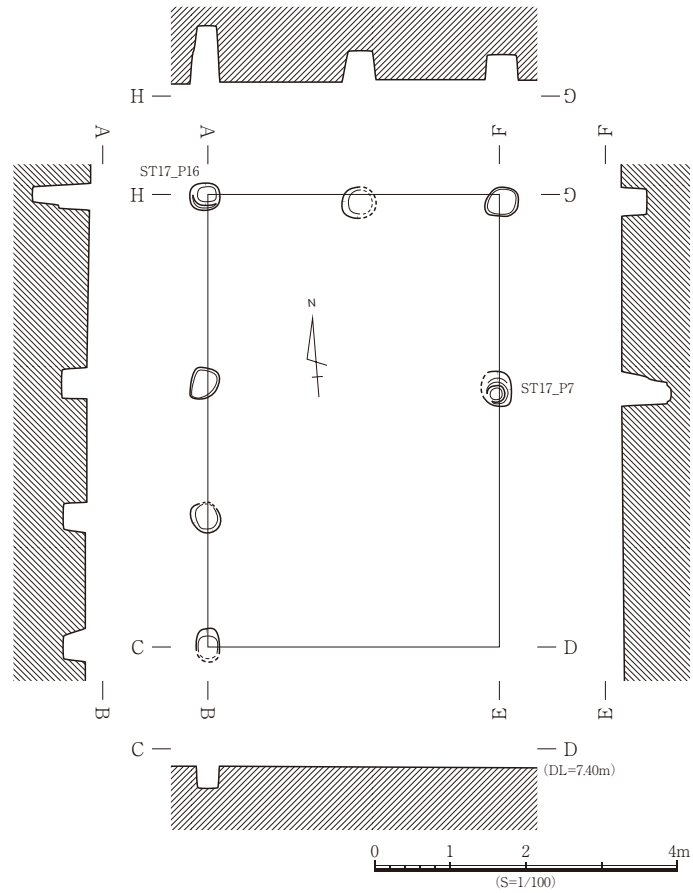


図83 1区 SB12 平面図・エレベーション図

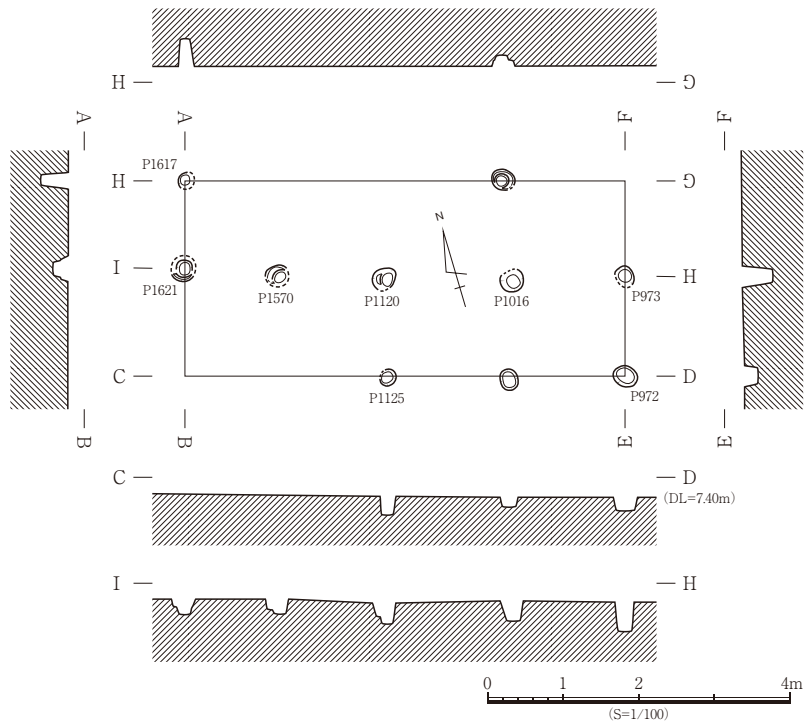


図84 1区 SB13 平面図・エレベーション図

柱穴は直径約35cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは15～43cmである。床面積は24.8㎡である。

図示した出土遺物は、土師質土器の杯(384)である。P1074から出土した。体部は逆梯形状に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整で仕上げ、ロクロ目痕がみられる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。

SB25

SB25は、調査区西部で検出した桁行2間(7.29m)、梁行2間(4.95m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-78°-Wである。柱間寸法は、桁行は3.30～4.00m、梁行は1.85～3.20mである。柱穴は直径約40cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは8～36cmである。床面積は36.0㎡である。

図示した出土遺物はない。

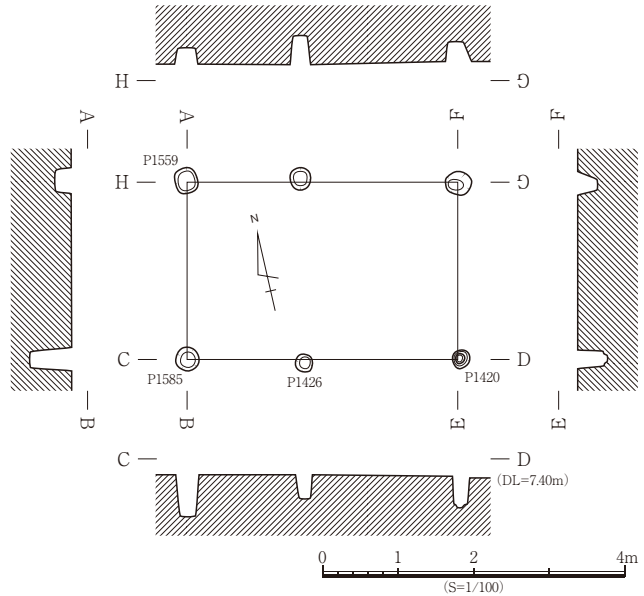


図85 1区 SB14 平面図・エレベーション図

SB26

SB26は、調査区西部で検出した桁行3間(6.59m)、梁行2間(2.74m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-70°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.45～2.50m、梁行は1.5・2.7mである。柱穴は直径約45cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは19～35cmである。床面積は18.0㎡である。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(385)、土錘(386)、弥生土器の体部片(387)である。

385はP961から出土した土師質土器の皿である。内外面とも回転ナデ調整である。底部には回転糸切り痕跡がみられる。386はP1548から出土した管状土錘である。僅かに紡錘形状を呈した円筒形である。完形である。387はP961から出土した弥生土

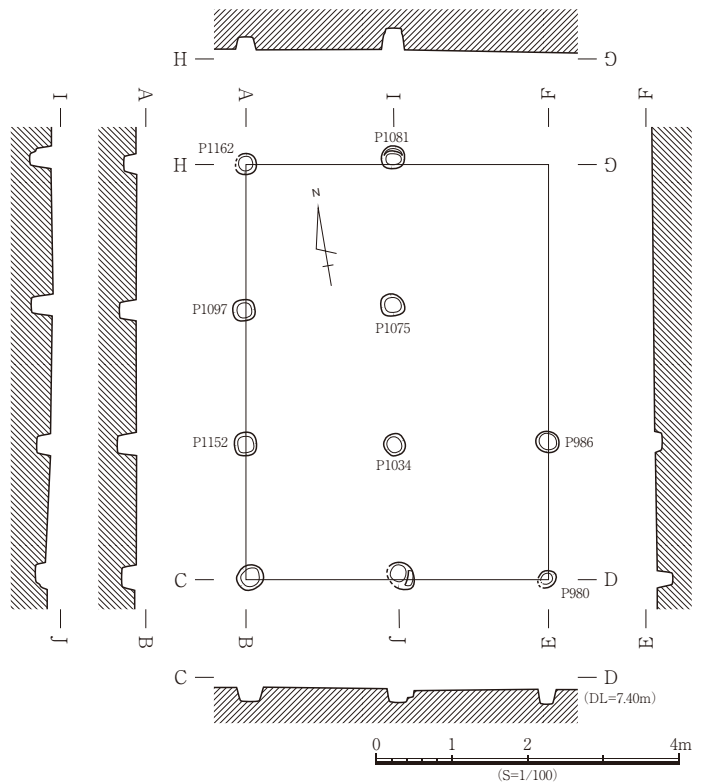


図86 1区 SB15 平面図・エレベーション図

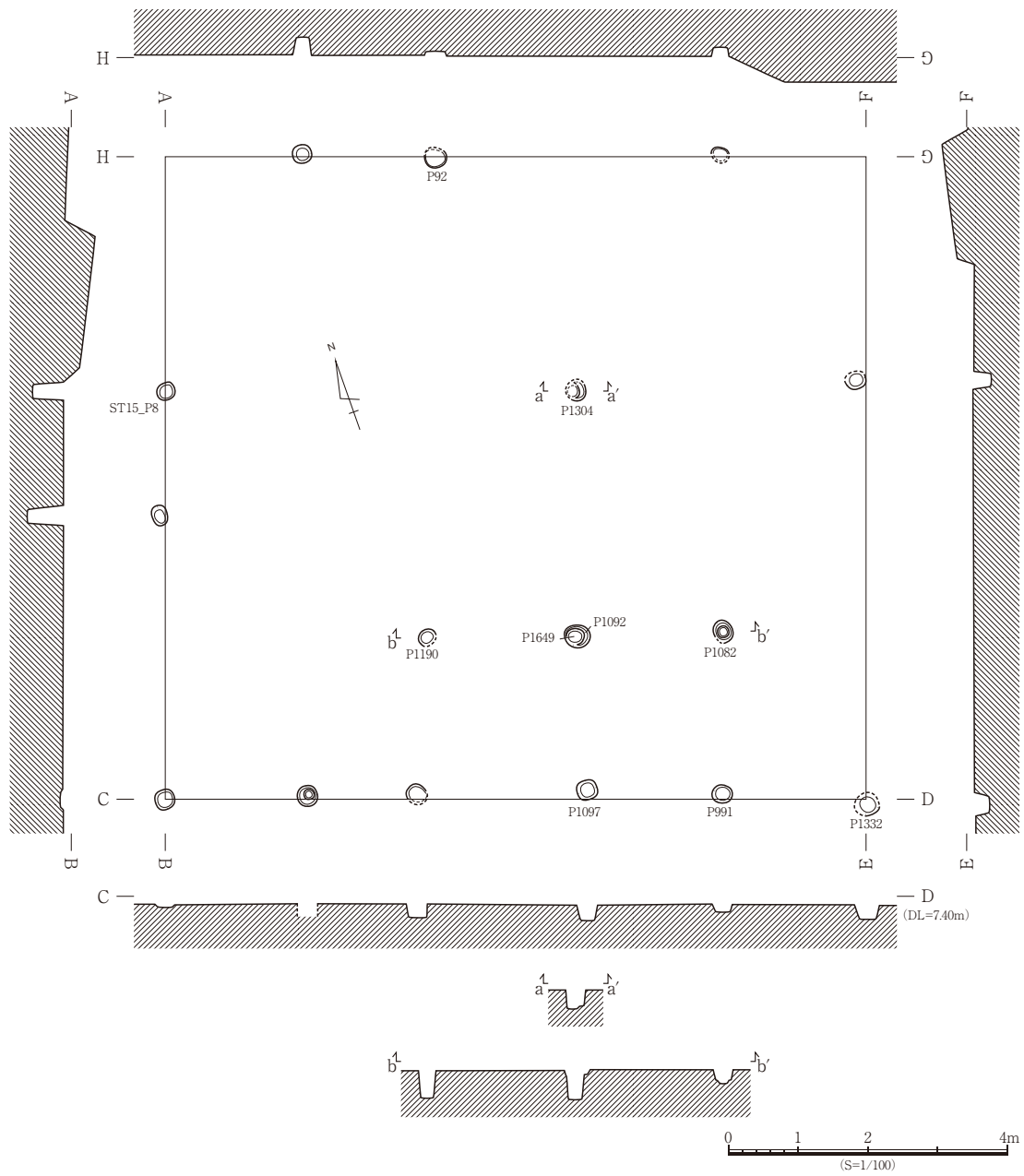


図87 1区 SB16 平面図・エレベーション図

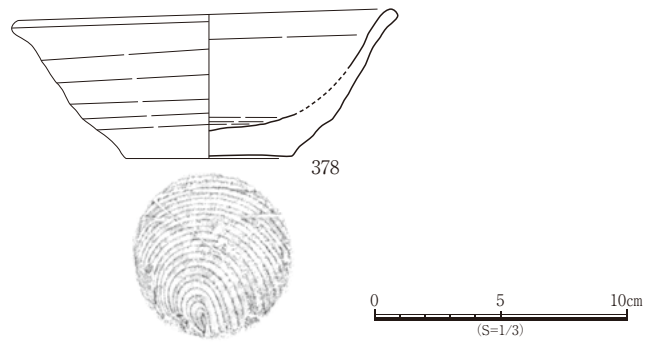


図88 1区 SB16 出土遺物実測図

器の体部片であり、袋状を呈すると考えられる。外面には弧状の線刻が認められる。内面は粗いハケ調整である。外面はナデ調整か。やや磨耗する。

SB27

SB27は、調査区西部で検出した桁行3間(6.79m)、梁行1間(2.33m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-72°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.70~2.70m、梁行は2.33mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは13~36cmである。床面積は15.8㎡である。

図示した出土遺物はない。

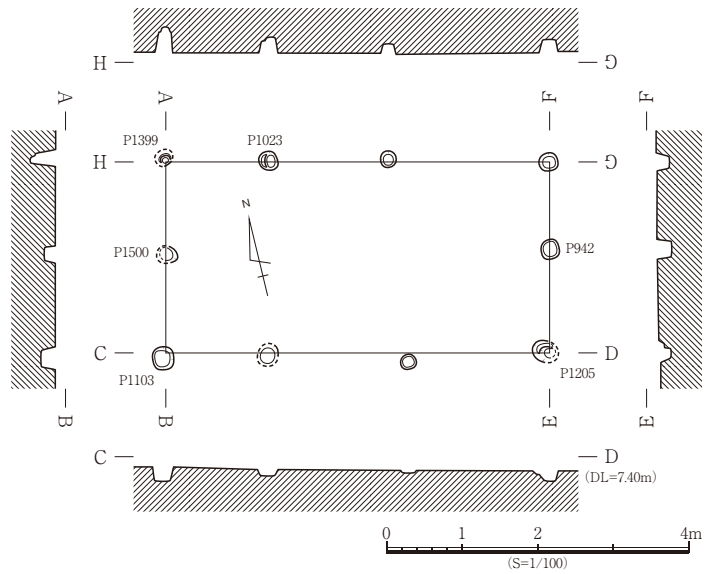


図89 1区 SB17 平面図・エレベーション図

SB28

SB28は、調査区西部で検出した桁行3間(5.11m)、梁行2間(2.65m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-75°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.85~2.90m、梁行は1.25~1.45mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは9~22cmである。床面積は13.5㎡である。

図示した出土遺物はない。

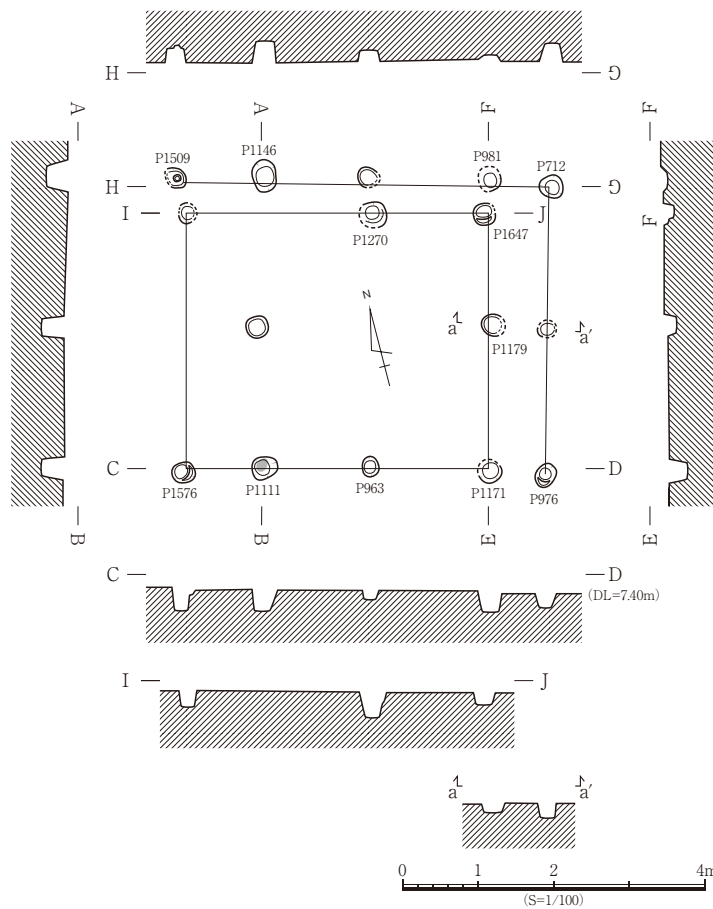


図90 1区 SB18 平面図・エレベーション図

SB29

SB29は、調査区西部で検出した桁行2間(2.77m)、梁行1間(1.72m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-74°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.10~1.55m、梁行は1.72mである。柱穴は直径約

30cmの円形から不整円形であり，検出面からの深さは10～34cmである。床面積は4.7㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB30

SB30は，調査区西部で検出した桁行3間(4.58m)，梁行2間(2.74m)の東西棟である。主軸方向はN-85°-Eである。柱間寸法は，桁行は1.30～1.60m，梁行は1.45～2.74mである。柱穴は直径約25cm

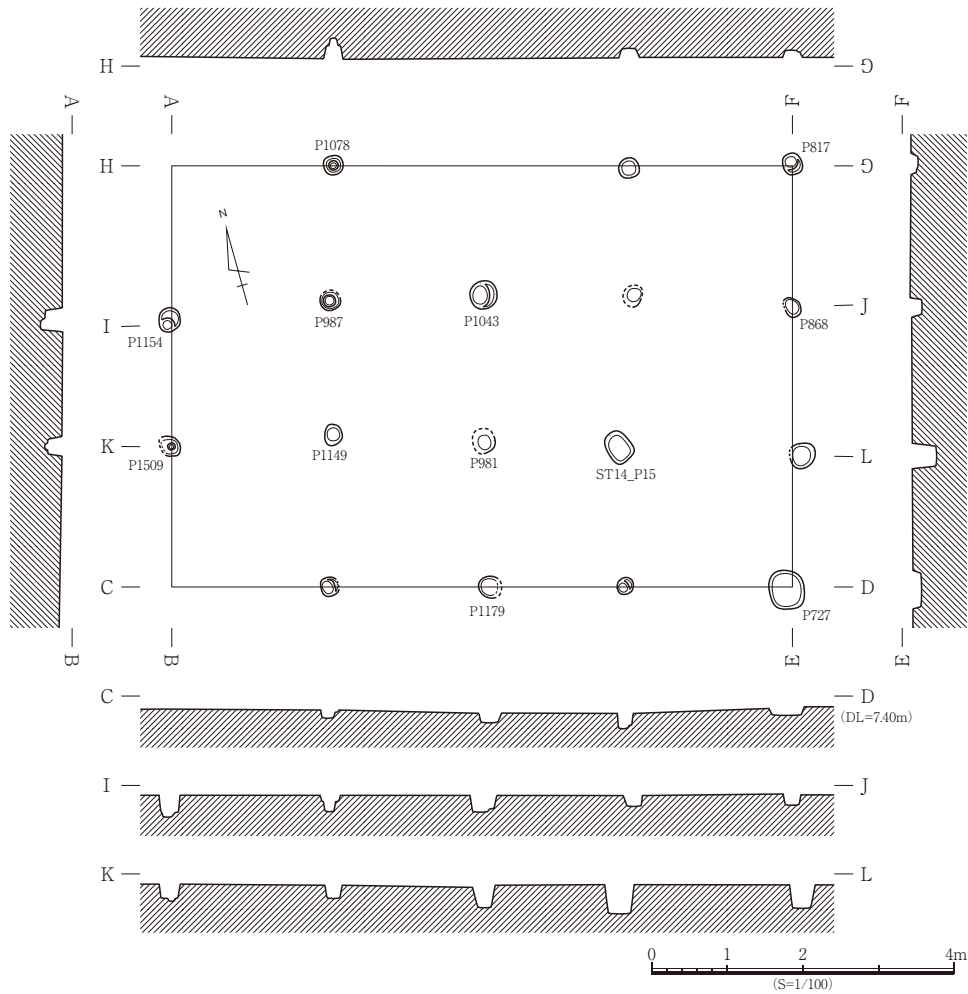


図91 1区 SB19 平面図・エレベーション図

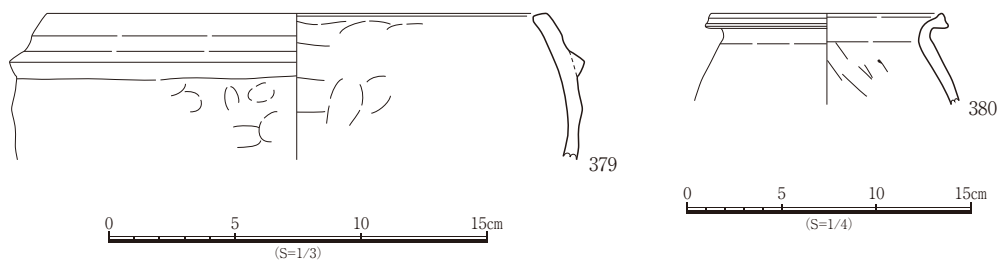


図92 1区 SB19 出土遺物実測図

の円形から不整形円形であり，検出面からの深さは14～43cmである。床面積は12.5㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB31

SB31は，調査区西部で検出した桁行2間(4.88m)，梁行2間(3.30m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-86°-Eである。柱間寸法は，桁行は2.45m，梁行は1.70mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整形円形であり，検出面からの深さは13～47cmである。床面積は16.1㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB32

SB32は，調査区西部で検出した桁行3間(4.14m)，梁行2間(2.99m)，の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-5°-Wである。柱間寸法は，桁行は1.35～1.60m，梁行は1.55mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整形円形であり，検出面からの深さは5～45cmである。床面積は12.3㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB33

SB33は，調査区西部で検出した桁行3間(4.41m)，梁行2間(3.11m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-88°-Eである。柱間寸法は，桁行は1.40・2.95m，梁行は1.50～1.65mである。柱

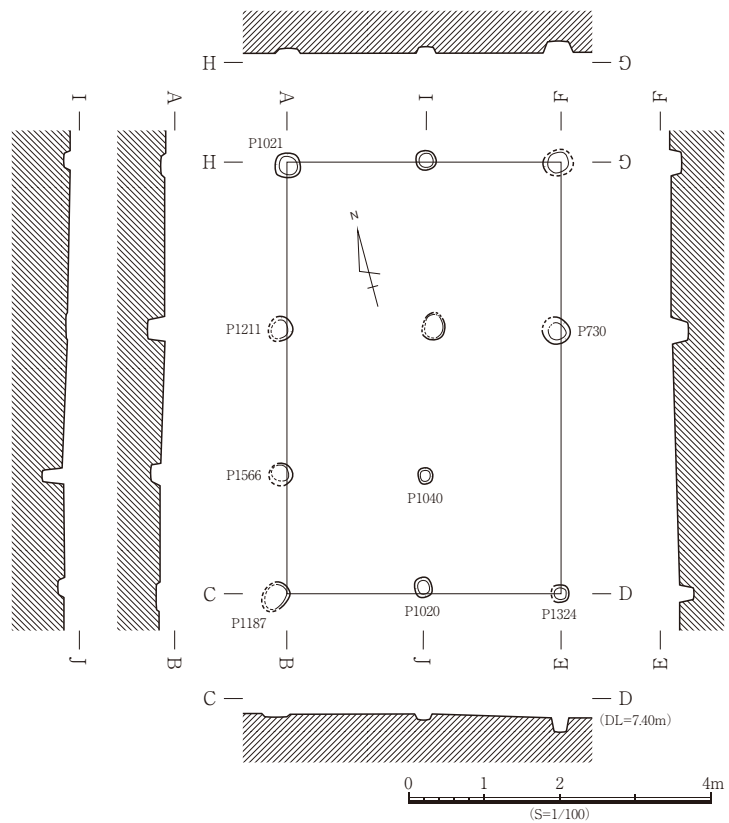


図93 1区 SB20 平面図・エレベーション図

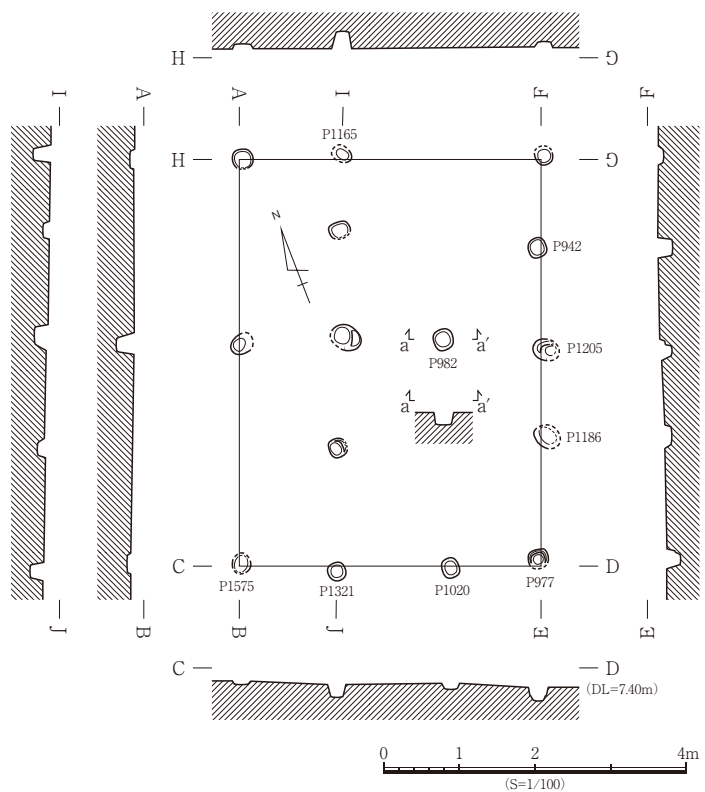


図94 1区 SB21 平面図・エレベーション図

穴は直径約 25 cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは 3～31 cmである。床面積は 13.7 m²である。

図示した出土遺物はない。

SB34

SB34は、調査区西部で検出した桁行3間(7.23m)、梁行2間(4.23m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-78°-Wである。柱間寸法は、桁行は2.25～5.00m、梁行は2.10～2.40mである。柱穴は直径約40cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは5～28cmである。床面積は30.5m²である。

図示した出土遺物はない。

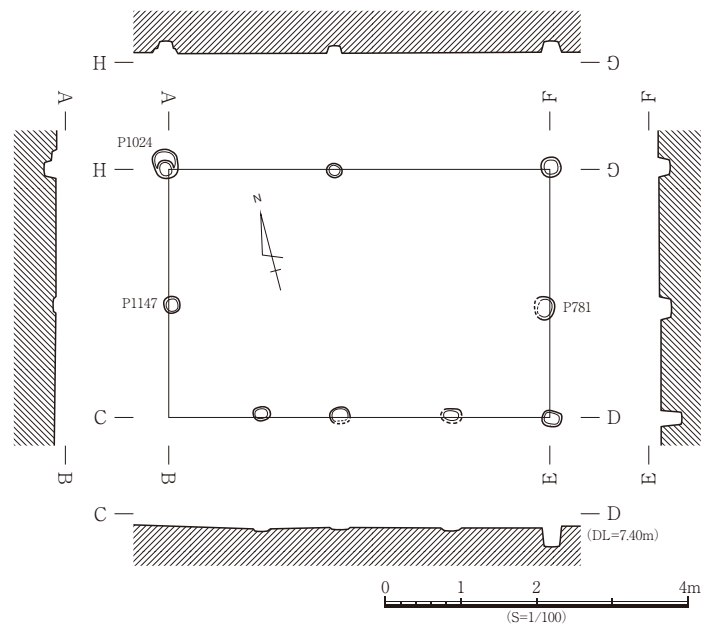


図95 1区 SB22 平面図・エレベーション図

SB35

SB35は、調査区西部で検出した桁行2間(4.55m)、梁行2間(3.61m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-80°-Wである。柱間寸法は、桁行は2.20～4.55m、梁行は1.70～3.61mである。柱穴は直径約35cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは7～26cmである。床面積は16.4m²である。

図示した出土遺物はない。

SB36

SB36は、調査区中央部で検出した桁行2間(4.56m)、梁行1間(2.57m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-80°-Wである。柱間寸法は、桁行は2.15～2.40m、梁行は2.57mである。柱穴は直径約25cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは6～50cmである。床面積は11.7m²である。

図示した出土遺物は、平瓦(388)である。P669から出土した。凸面には縄目痕、凹面には布目圧痕及びケズリ痕跡が認められる。焼成不良である。

SB37

SB37は、調査区中央部で検出した桁行2間(4.62m)、梁行1間(2.12m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-80°-Wである。柱間寸法は、桁行は2.20～2.40m、梁行は2.12mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは11～23cmである。床面積は9.7m²である。

図示した出土遺物は、瓦器の椀(389)、弥生土器の甕(390)・鉢(391)である。

389はP644から出土した瓦器の椀である。体部は大きくひらき気味に立上がり、底部は形骸化した輪高台を貼り付ける。外面には指頭圧痕が認められる。内面はヘラミガキ調整である。390はP696

から出土した弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。体部はあまり張らない長胴形を呈し、底部はほぼ丸底である。口縁部外面は叩き調整後、ナデ調整・タテハケ調整で仕上げ、内面にはヨコハケ調整を施す。体部は叩き調整後、下半部にはタテハケ調整を加える。内面はハケ調整を基本とし、底部付近には指頭圧痕がみられる。391はP696から出土した弥生土器の鉢である。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施し、口唇部にはルーズな面取りを施す。底部はやや突出し、強いナデ調整を施す。外面はナデ調整であり、キレツが認められる。内面はハケ調整である。

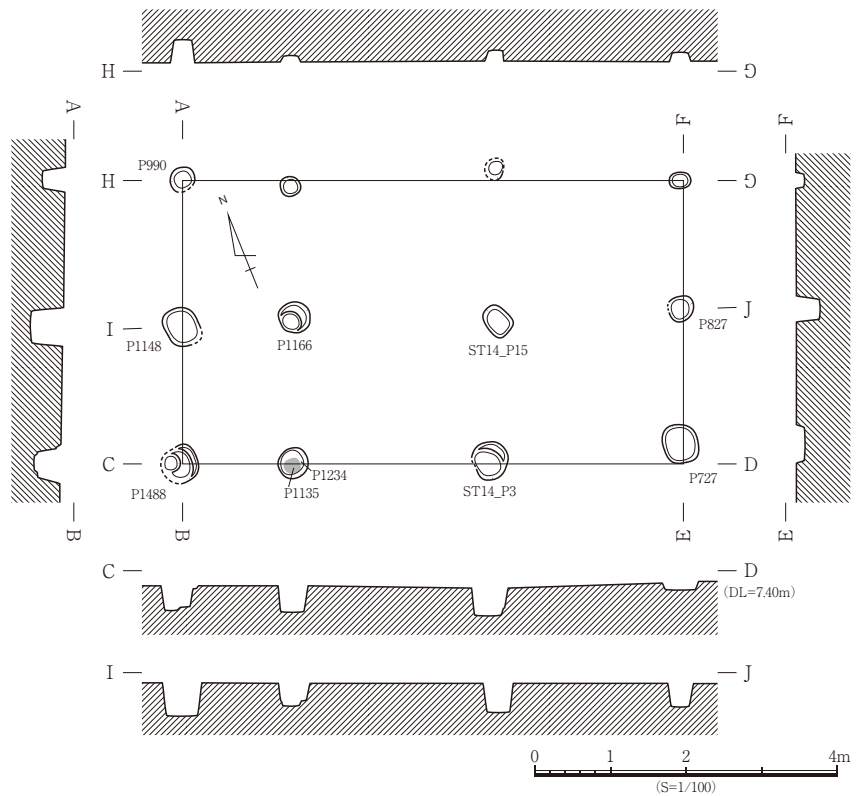


図96 1区 SB23 平面図・エレベーション図

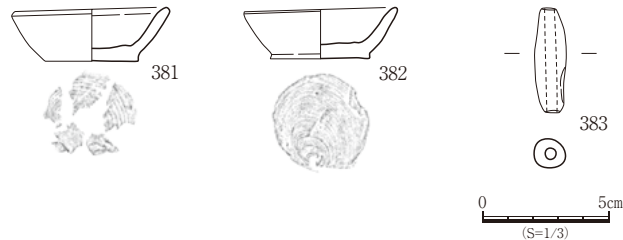


図97 1区 SB23 出土遺物実測図

SB38

SB38は、調査区西部で検出した桁行2間(2.67m)、梁行1間(1.38m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-83°-Eである。柱間寸法は、桁行は1.15~1.50m、梁行は1.38mである。柱穴は直径約25cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは4~41cmである。床面積は3.6㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB39

SB39は、調査区西部で検出した桁行3間(7.03m)、梁行2間(5.42m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-85°-Wである。柱間寸法は、桁行は2.00～4.30m、梁行は2.60～5.42mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは6～39cmである。床面積は38.1㎡である。

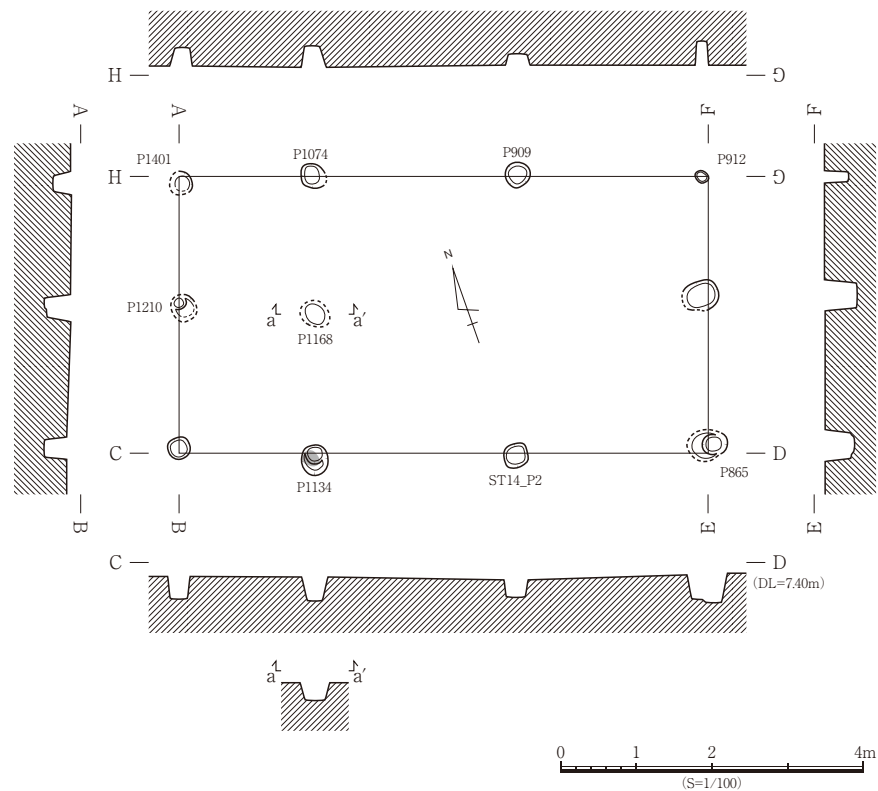


図98 1区 SB24 平面図・エレベーション図

図示した出土遺物は、弥生土器の

鉢(392)である。P815から出土した。口唇部には面取りを施す。内外面ともヘラミガキ調整を密に施す。また、内外面に先端の鋭い金属製の工具により、撥形文等の線刻を施す。

SB40

SB40は、調査区中央部で検出した桁行3間(4.45m)、梁行2間(3.43m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-79°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.10～1.80m、梁行は1.70～1.85mである。柱穴は直径約25cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは2～38cmである。床面積は15.2㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB41

SB41は、調査区中央部で検出した桁行3間(5.91m)、梁行2間(3.85m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-70°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.90～2.25m、梁行は1.85～2.20mである。柱穴は直径約25cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは6～36cmである。床面積は22.7㎡である。

図示した出土遺物はない。

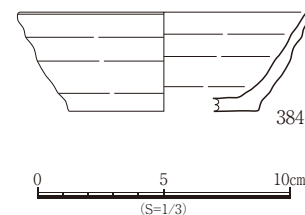


図99 1区 SB24 出土遺物実測図

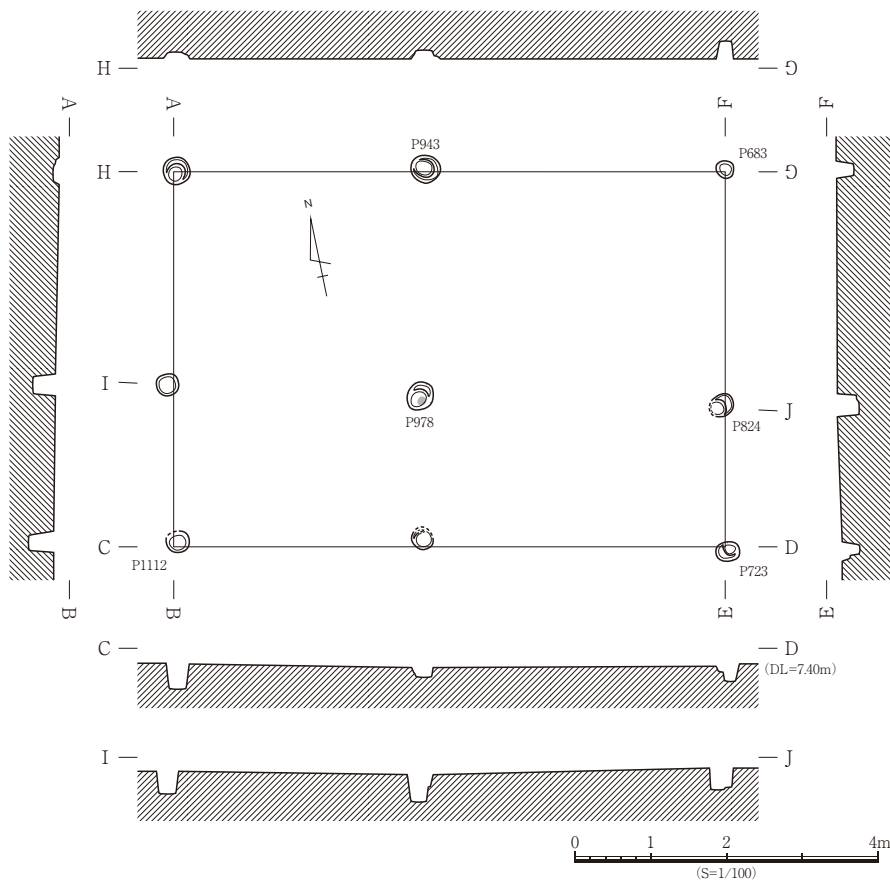


図100 1区 SB25 平面図・エレベーション図

SB42

SB42は、調査区中央部で検出した桁行2間(3.70 m)、梁行1間(2.99 m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-8° -Eである。柱間寸法は、桁行は1.80～1.85 m、梁行は2.99 mである。柱穴は直径約30 cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは15～31cmである。床面積は11.0㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB43

SB43は、調査区中央部で検出した桁行3間(5.79 m)、梁行2間(3.52 m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-76° -Wである。柱間寸法は、桁行は1.75～4.00 m、梁行は1.50～3.52 mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは16～33cmである。床面積は20.3㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB44

SB44は、調査区中央部で検出した桁行3間(6.42 m)、梁行2間(3.66 m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-72° -Wである。柱間寸法は、桁行は1.85～2.65 m、梁行は1.90 mである。柱穴は直径約35cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは10～53cmである。床面積は23.4㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB45

SB45は、調査区中央部で検出した桁行2間(5.30m)、梁行2間(3.64m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-72°-Wである。柱間寸法は、桁行は2.35～5.30m、梁行は1.70～

3.64mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは3～22cmである。床面積は19.2㎡である。

図示した出土遺物はない。

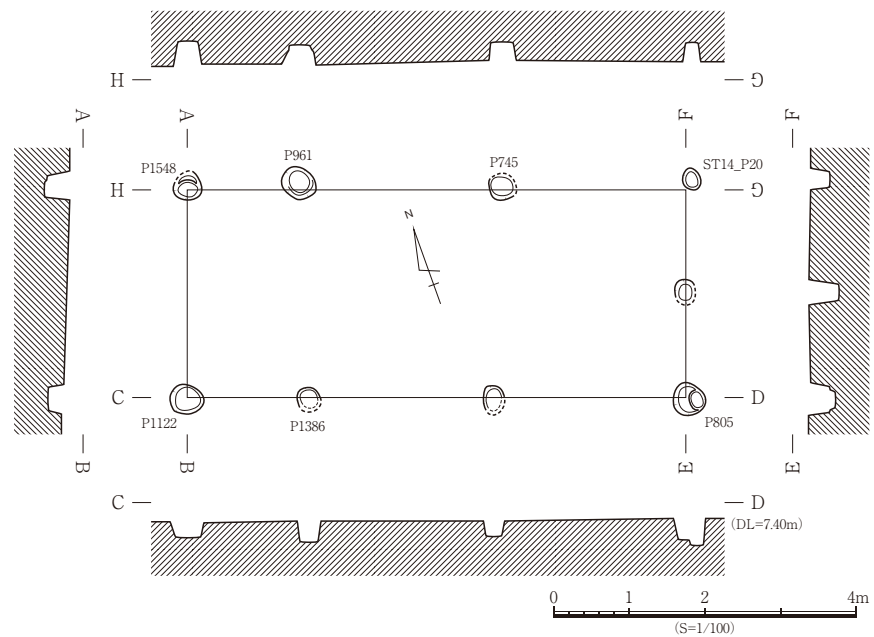


図101 1区 SB26 平面図・エレベーション図

SB46

SB46は、調査区中央部で検出した桁行2間(6.58m)、梁行2間(4.51m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-76°-Wである。柱間寸法は、桁行は2.30～4.25m、梁行は2.05～2.50mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは12～42cmである。床面積は29.6㎡である。

図示した出土遺物は、銭貨(393)である。P240から出土した。面文は「マ」頭通である。

SB47

SB47は、調査区中央部で検出した桁行3間(6.34m)、梁行2間(4.95m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-12°-Eである。柱間寸法は、桁行は1.80～4.20m、梁行は2.45～2.50mである。柱穴は直径約25cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは6～41cmである。床面積は31.3㎡である。

図示した出土遺物はない。

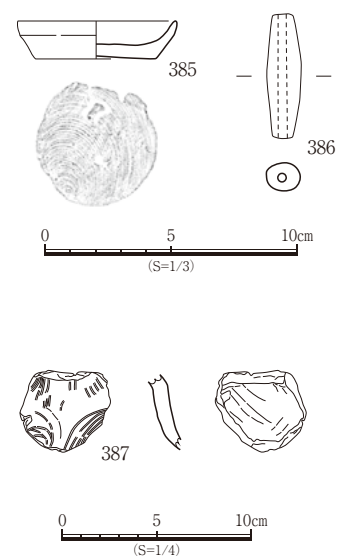


図102 1区 SB26 出土遺物実測図

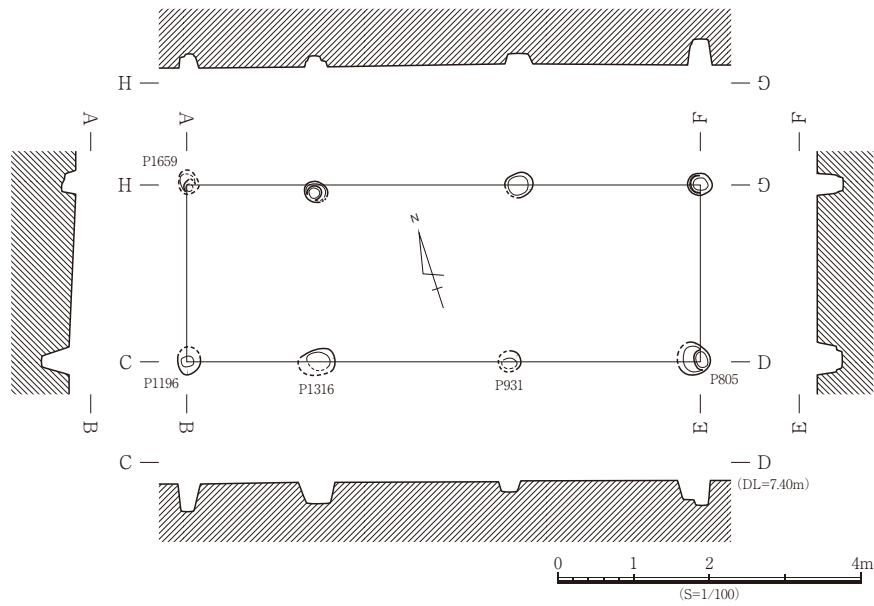


図103 1区 SB27 平面図・エレベーション図

SB48

SB48は、調査区中央部で検出した桁行2間(3.84m)、梁行2間(3.27m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-6°-Eである。柱間寸法は、桁行は1.90m、梁行は1.60~1.70mである。柱穴は直径約40cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは21~45cmである。床面積は12.5㎡である。

図示した出土遺物はない。

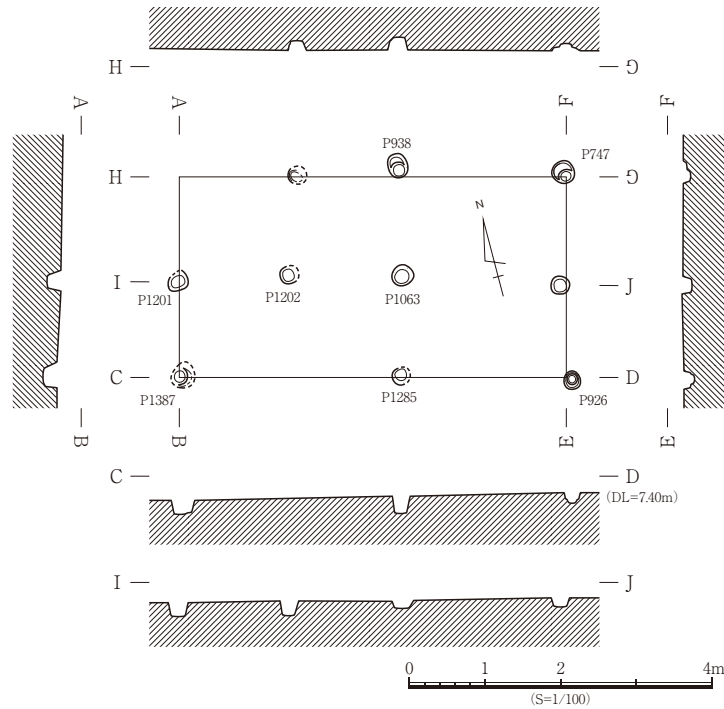


図104 1区 SB28 平面図・エレベーション図

SB49

SB49は、調査区中央部で検出した桁行2間(5.32m)、梁行2間(3.78m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-14°-Eである。

柱間寸法は、桁行は1.70~3.40m、梁行は3.78mである。柱穴は直径約25cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは24~55cmである。床面積は20.1㎡である。

図示した出土遺物は、青磁の皿(394)である。P276から出土した。体部下位に稜を有し、口縁部は外反する。全体的に薄く施釉し、部分的に貫入がみられる。底部は露胎である。見込みにヘラによる

片彫りの劃花文と櫛描きによる屈曲状の文様がみられる。IIB類である。同安窯系。

SB50

SB50は、調査区中央部で検出した桁行3間(6.44m)、梁行1間(3.46m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-10°-Eである。柱間寸法は、桁行は1.65～3.30m、梁行は3.46mである。柱穴は直径約35cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは9～36cmである。床面積は22.2㎡である。

図示した出土遺物はない。

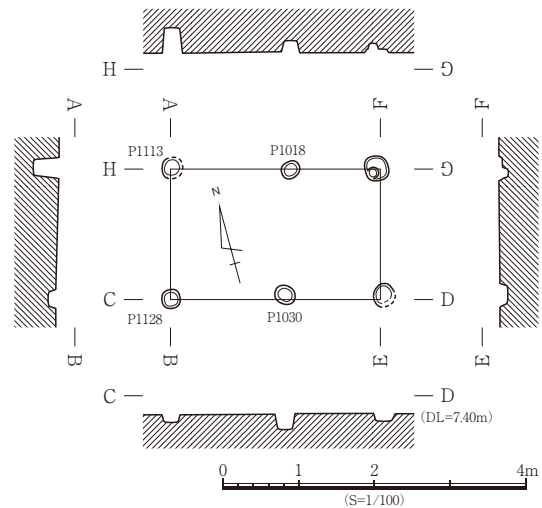


図105 1区 SB29 平面図・エレベーション図

SB51

SB51は、調査区中央部で検出した桁行3間(5.86m)、梁行2間(3.87m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-12°-Eである。柱間寸法は、桁行は1.90～1.95m、梁行は1.70～2.05mである。柱穴は直径約35cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは21～57cmである。床面積は22.6㎡である。

図示した出土遺物は、砥石(395)である。P231から出土した。四角柱状を呈し、四面が使用され、線状の擦痕を認める。二面は摩滅により凹状を成す。両端を欠損する。

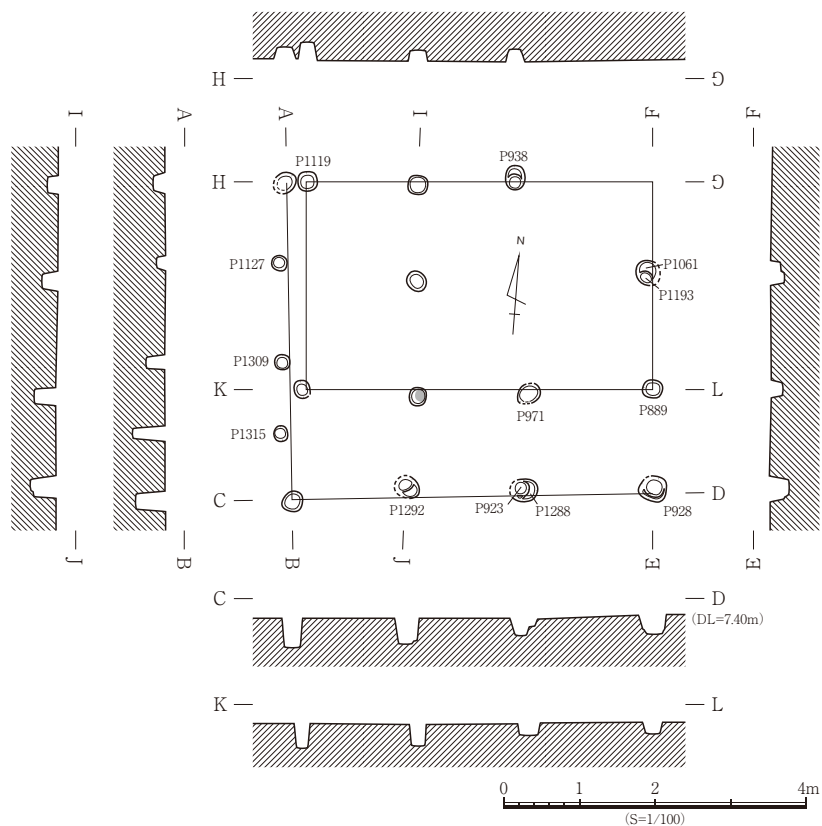


図106 1区 SB30 平面図・エレベーション図

SB52

SB52は、調査区中央部で検出した桁行4間(8.86m)、梁行2間(6.89m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-74°-Wである。柱間寸法は、桁行は2.05~2.60m、梁行は2.45~4.90mである。柱穴は直径約35cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは7~51cmである。床面積は61.0㎡である。

図示した出土遺物はない。

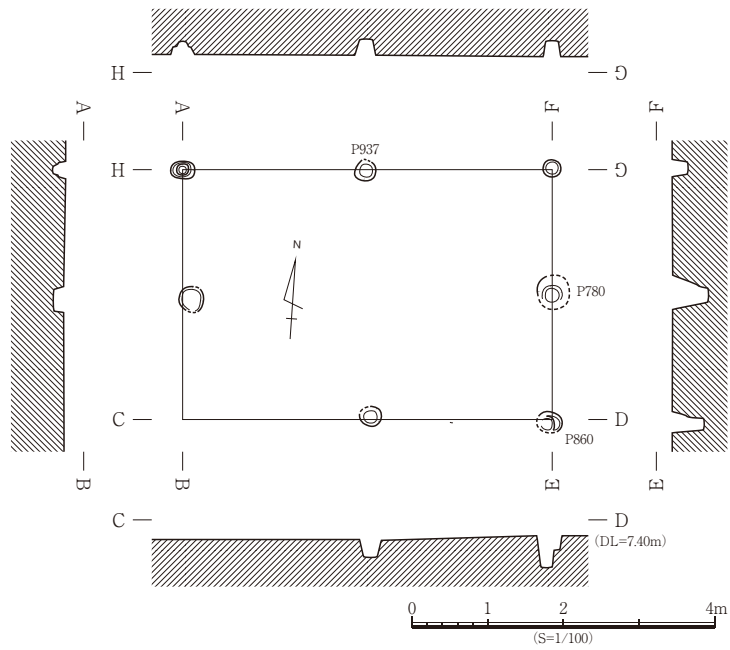


図107 1区 SB31 平面図・エレベーション図

SB53

SB53は、調査区中央部で検出した桁行1間以上(2.32m以上)、梁行1間(3.48m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-9°-Eである。柱間寸法は、桁行は2.30m、梁行は3.48mである。柱穴は直径約50cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは5~23cmである。床面積は4.9㎡である。

図示した出土遺物はない。

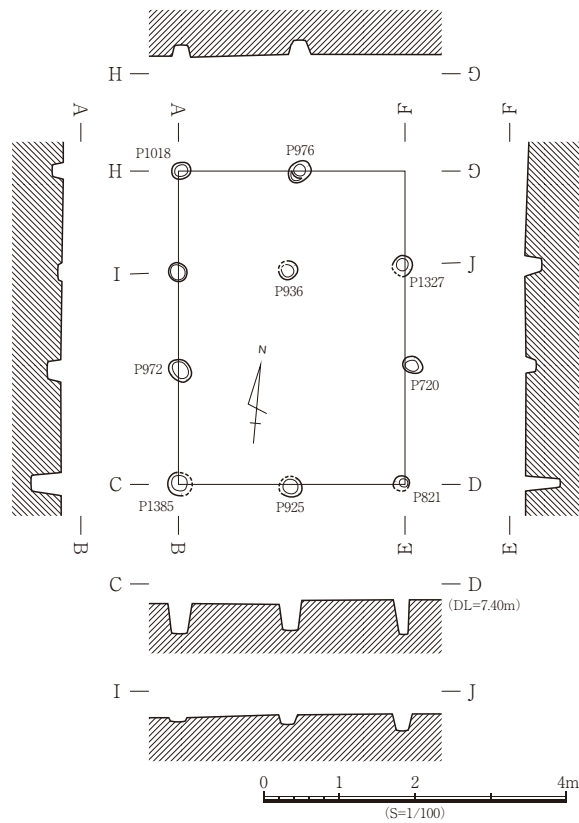


図108 1区 SB32 平面図・エレベーション図

SB54

SB54は、調査区中央部で検出した桁行2間(3.37m)、梁行1間(1.50m)の東西棟の建物跡である。主

軸方向はN-84°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.60～3.30 m、梁行は1.50 mである。柱穴は直径約60cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは23～86cmである。

図示した出土遺物はない。

SB55

SB55は、調査区中央部で検出した桁行3間(7.26 m)、梁行2間(3.83 m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-75°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.95～2.75 m、梁行は1.90～2.00 mである。柱穴は直径約35 cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは13～55cmである。床面積は27.8㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB56

SB56は、調査区中央部で検出した桁行4間(6.11 m)、梁行2間(3.08 m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-10°-Eである。柱間寸法は、桁行は1.20～1.85 m、梁行は1.50～1.60 mである。柱穴は直径約40 cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは24～49cmである。床面積は18.8㎡である。

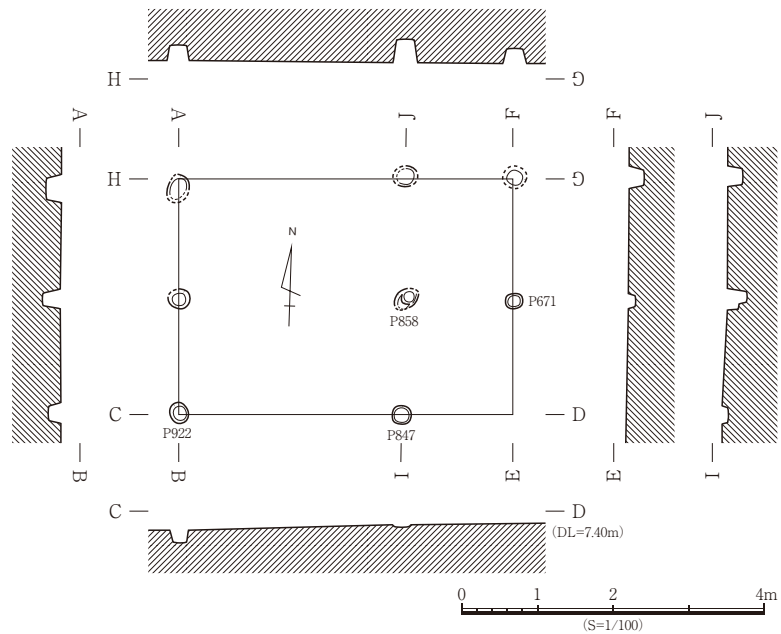


図109 1区 SB33 平面図・エレベーション図

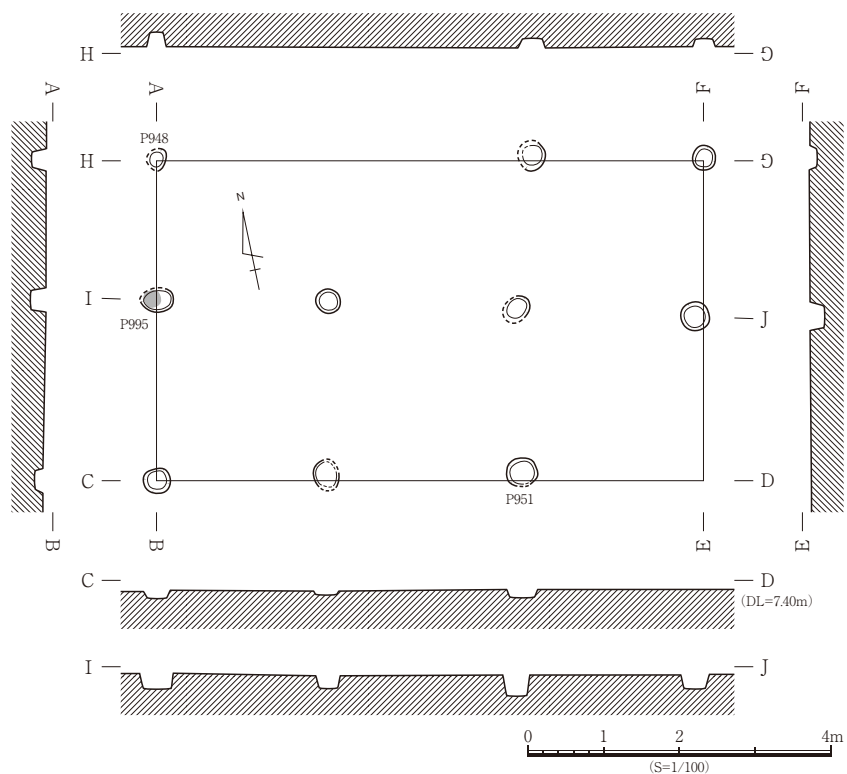


図110 1区 SB34 平面図・エレベーション図

図示した出土遺物は、釘(396)である。P221 から出土した。断面形は四角形を呈する。両端を欠損する。

SB57

SB57は、調査区東部で検出した桁行3間(6.16m)、梁行2間(5.88m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-7°-Eである。柱間寸法は、桁行は2.30~3.55m、梁行は1.85~2.30mである。柱穴は直径約25cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは8~50cmである。床面積は36.2㎡である。

図示した出土遺物はない。

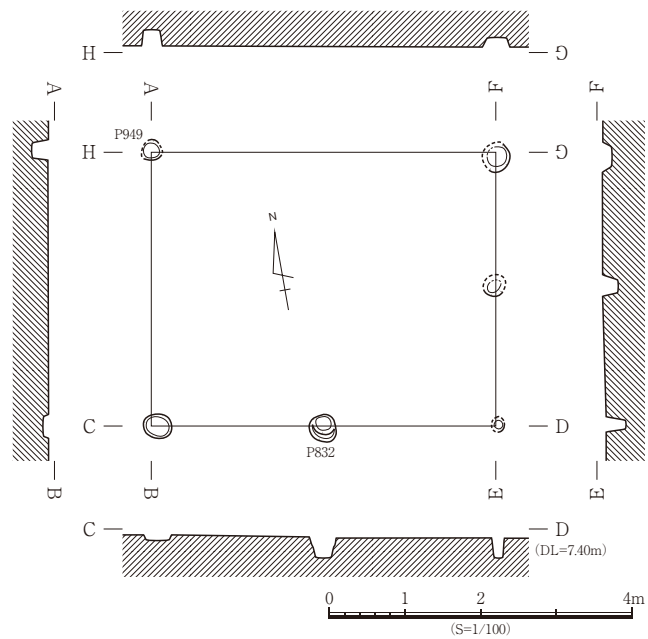


図111 1区 SB35 平面図・エレベーション図

SB58

SB58は、調査区東部で検出した桁行3間(4.72m)、梁行2間(2.08m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-80°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.25~3.45m、梁行は1.25~1.85mである。柱穴は直径約45cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは19~49cmである。床面積は9.8㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB59

SB59は、調査区東部で検出した桁行3間(5.40m)、梁行1間(3.95m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-78°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.50~1.95m、梁行は3.95mである。柱穴は直径約35cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは17~38cmである。床面積は21.3㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB60

SB60は、調査区東部で検出した桁行5間(12.39m)、梁行1間(3.68m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-79°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.90~4.40m、梁行は3.68mである。柱穴は直径約45cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは12~59cmである。床面積は45.5㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB61

SB61は、調査区東部で検出した桁行2間(6.56m)、梁行2間(3.71m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-81°-Wである。柱間寸法は、桁行は2.70~3.75m、梁行は1.60~2.10mである。柱穴は直径約40cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは10~52cmである。床面積は24.3㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB62

SB62は、調査区東部で検出した桁行2間(3.83m)、梁行2間(3.08m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-11°-Eである。柱間寸法は、桁行は1.80~2.05m、梁行は1.45mである。柱穴は直径約35cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは11~50cmである。床面積は11.7㎡である。

図示した出土遺物はない。

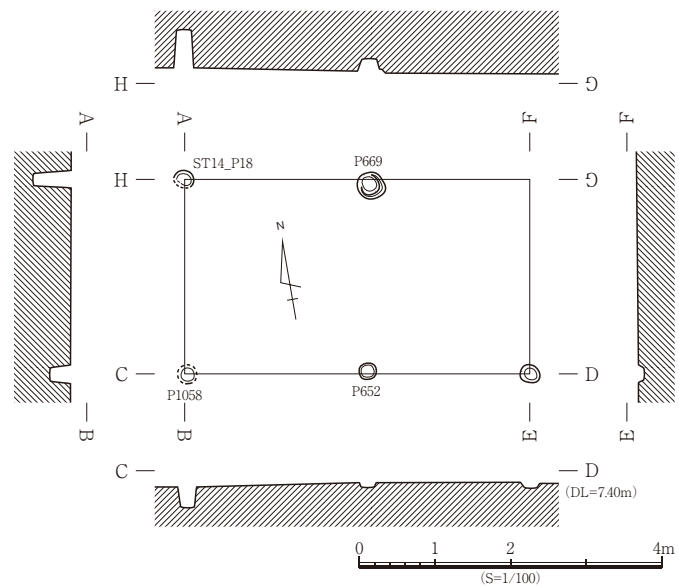


図112 1区 SB36 平面図・エレベーション図

SB63

SB63は、調査区東部で検出した桁行2間以上(2.20m)、梁行2間(5.57m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-6°-Eである。柱間寸法は、桁行は1.50~2.20m、梁行は2.00~3.55mである。柱穴は直径約25cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは17~27cmである。

図示した出土遺物はない。

SB64

SB64は、調査区東部で検出した桁行3間(5.07m)、梁行2間(3.78m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-77°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.25~2.00m、梁行は2.10mである。柱穴は直径約40cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは9~55cmである。床面積は19.1㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB65

SB65は、調査区東部で検出した桁行2間(3.63m)、梁行1間(2.71m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-81°-Wである。柱間寸法は、桁行は3.63m、梁行は1.30~1.40mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは7~44cmである。床面積は9.8㎡である。

図示した出土遺物は、石臼

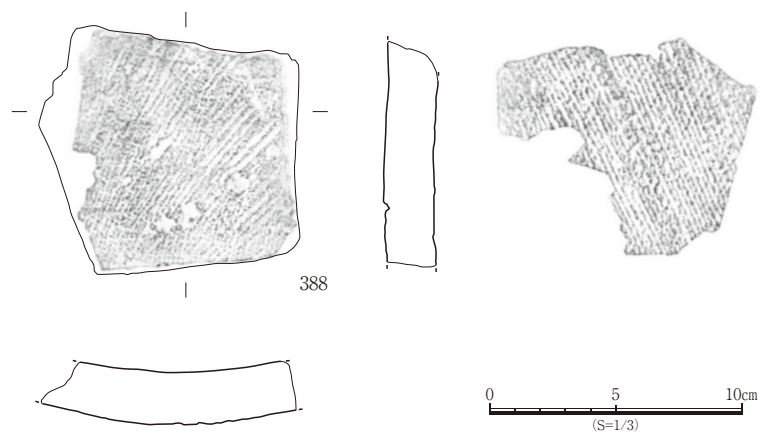


図113 1区 SB36 出土遺物実測図

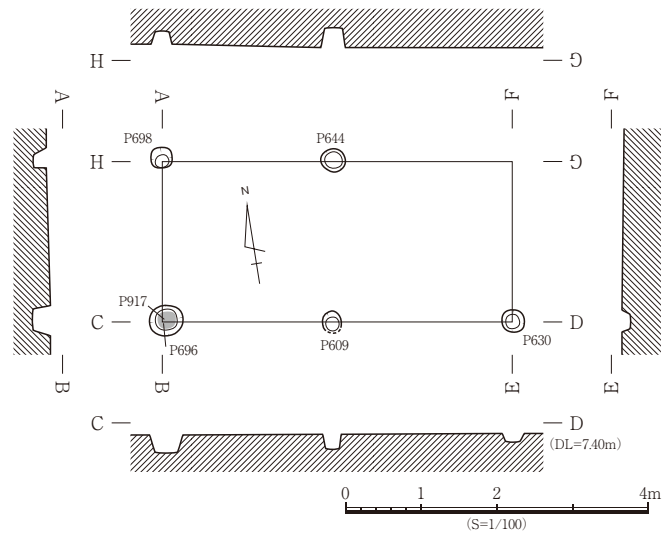


図114 1区 SB37 平面図・エレベーション図

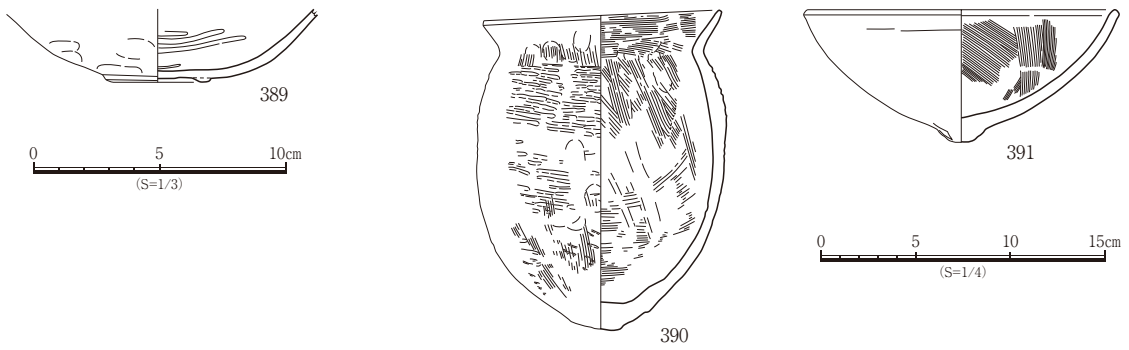


図115 1区 SB37 出土遺物実測図

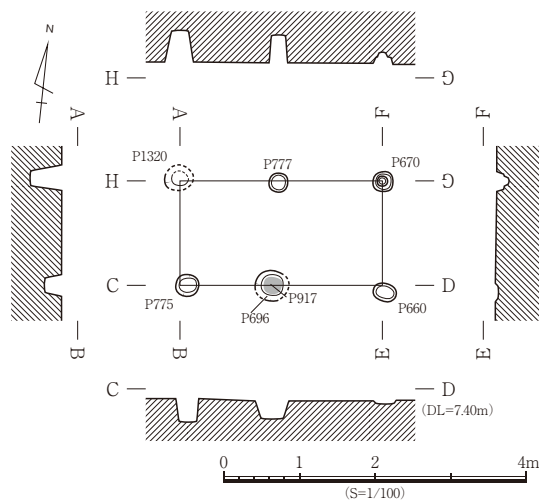


図116 1区 SB38 平面図・エレベーション図

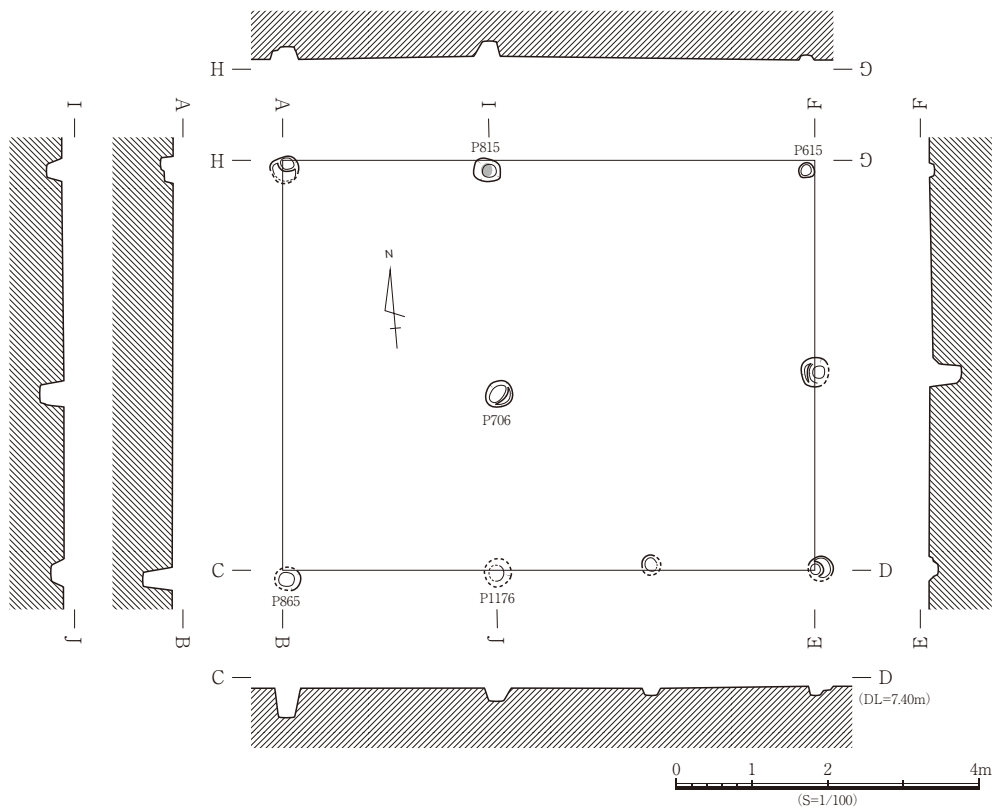
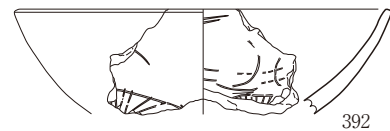


図117 1区 SB39 平面図・エレベーション図

(397)である。P46 から出土した礫臼の下臼である。臼面の摺目は弧状を呈し、副溝は5条が残存している。底面は平滑となる。砂岩製である。



SB66

SB66 は、調査区東部で検出した桁行3間(5.68 m)、梁行2間(3.77 m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-77° -Wである。柱間寸法は、桁行は1.80～1.85 m、梁行は1.90 mである。柱穴は直径約40 cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは25～63cmである。床面積は21.4㎡である。

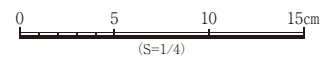


図118 1区 SB39 出土遺物実測図

図示した出土遺物は、土師質土器の杯(398・399)、弥生土器の底部(400)である。

398はP130から出土した土師質土器の杯である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。回転ナデ調整で仕上げられ、内面にロクロ目痕を有し、内底面は凹状を成す。底部には回転糸切り痕跡がみられる。399はP130から出土した土師質土器の杯である。体部下位に稜を有し、内湾気味に立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整であり、内底面は凹状を成す。底部には回転糸切り痕跡がみられる。400はP132から出土した弥生土器の底部である。角の取れた平底であり、外底面はナデ調整を施すものの未調整にちかい。外面は叩き調整後、タテハケ調整である。内面はナデ調整である。

SB67

SB67は、調査区南東部で検出した桁行3間(6.28m)、梁行1間(2.51m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-66°-Eである。柱間寸法は、桁行は1.70~4.60m、梁行は2.50mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは7~34cmである。床面積は13.2㎡である。

図示した出土遺物はない。

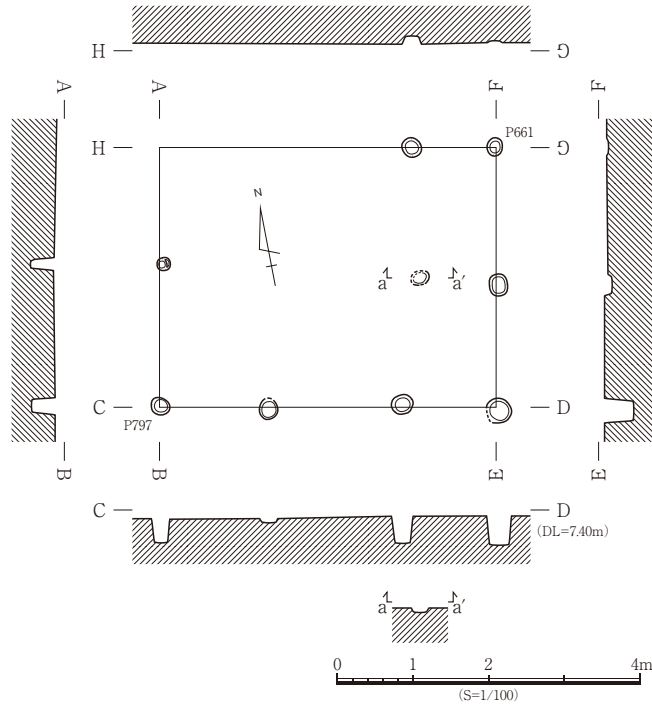


図119 1区 SB40 平面図・エレベーション図

SB68

SB68は、調査区東部で検出した桁行3間(5.42m)、梁行2間(2.67m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-74°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.35~4.05m、梁行は1.25~1.45mである。柱穴は直径約25cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは5~24cmである。床面積は14.4㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB69

SB69は、調査区東部で検出した桁行2間(4.02m)、梁行2間(4.01m)の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-10°-Eである。柱間寸法は、桁行は2.00m、梁行は1.90~2.15mである。柱穴は直径約40cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは3~43cmである。床面積は16.1㎡である。

図示した出土遺物はない。

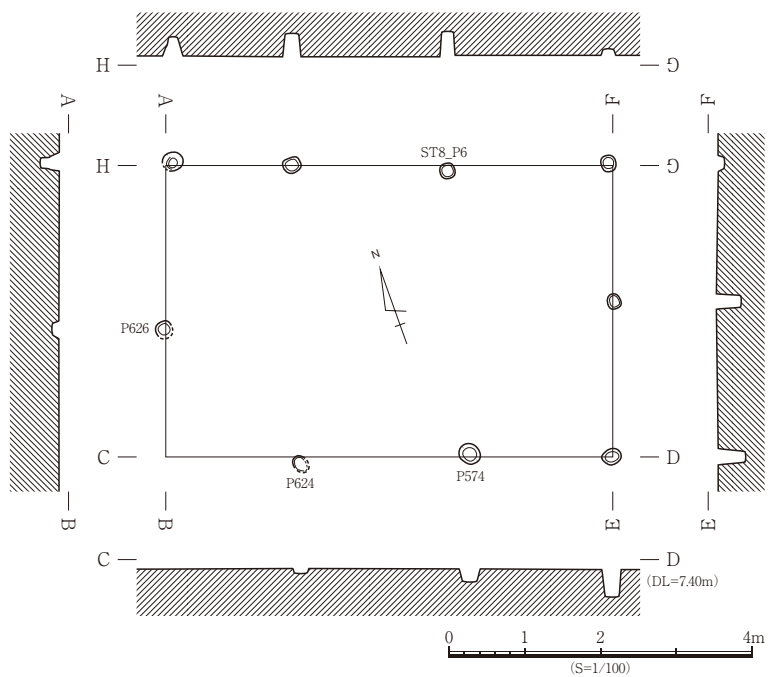


図120 1区 SB41 平面図・エレベーション図

3. SA

SA1

SA1は1区東端部で検出し

た南北方向の柵であり、主軸方向はN-11°-Eである。南方向及び東方向に続くものと推測され、5区で検出した大型掘立柱建物跡等を囲む塀となる。北からSK2・SK6・SK8・SK9・SK11・SK39・SK12で構成され、検出長は約17.7mである。柱間寸法は約3.00m(10尺)である。SK2が北端の柱穴となり、東へ続く。また、SK12以南にも柱穴が続くものと推測される。SK2は長軸1.13m、短軸の検出長0.65mの方形の柱穴と考

えられる。検出面からの深さは約84cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。SK6は長軸1.32m、短軸1.11mの方形の柱穴と考えられる。検出面からの深さは約107cmであり、埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。SK8は長軸1.26m、短軸1.19mの方形の柱穴と考

えられる。検出面からの深さは約92cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。SK9は一辺約1.30mの方形の柱穴と考えられる。検出面からの深さは約111cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。SK11は長軸1.58m、短軸1.18mの長方形の

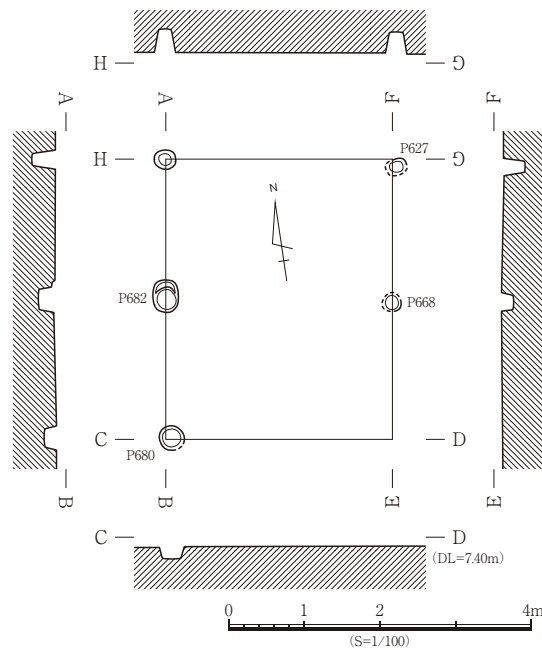


図121 1区 SB42 平面図・エレベーション図

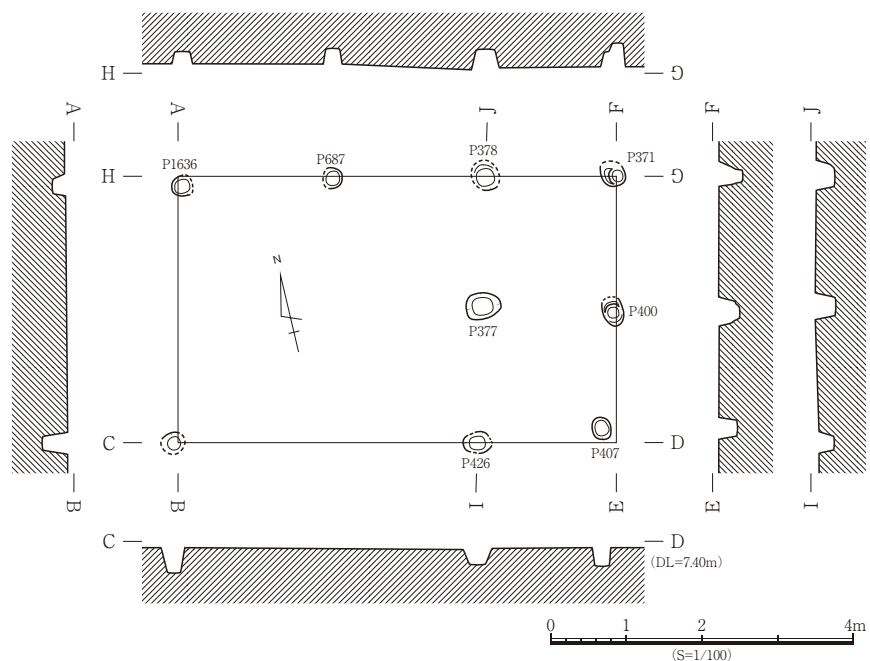


図122 1区 SB43 平面図・エレベーション図

柱穴と考えられる。検出面からの深さは約117cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。SK39は長軸1.17m、短軸1.05mの方形の柱穴と考えられる。検出面からの深さは約96cmであり、埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。SK12は長軸1.30m、短軸の検出長は0.95mの方形の柱穴と考えられる。検出面からの深さは約117cmであり、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は弥生土器の壺(401)・甕(402)・鉢(403)、石包丁(404)である。

401はSK6から出土した弥生土器の壺である。口唇部を上下に拡張し、4条1単位の櫛描波状文を施す。外面はヨコナデ調整、内面はヘラミガキ調整である。化粧土を塗布か。402はSK9から出土した弥生土器の甕である。口縁部は緩やかに外反し、口唇部には面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面

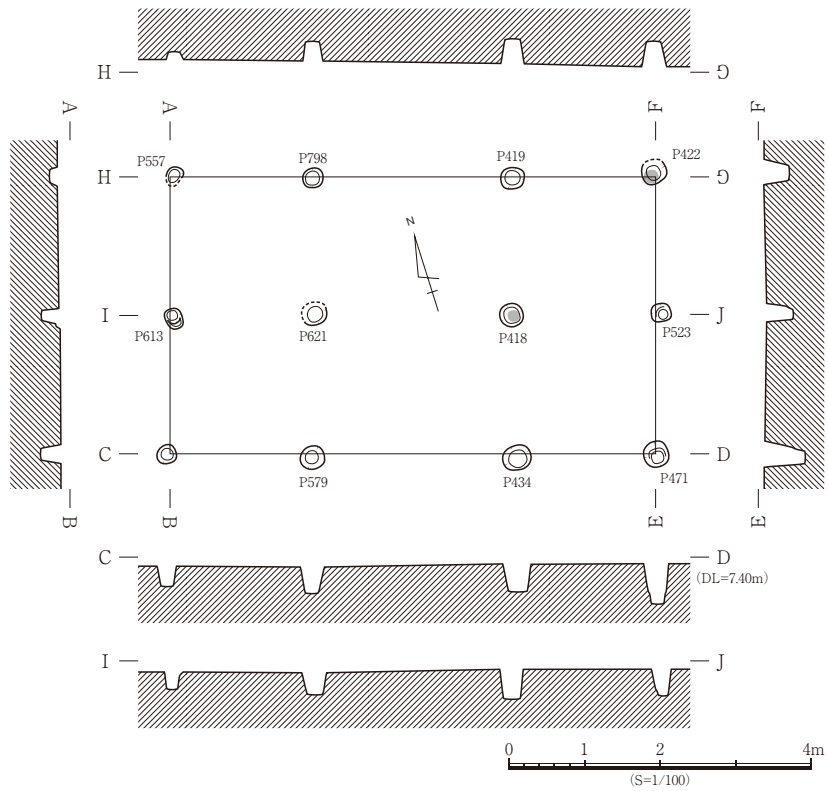


図123 1区 SB44 平面図・エレベーション図

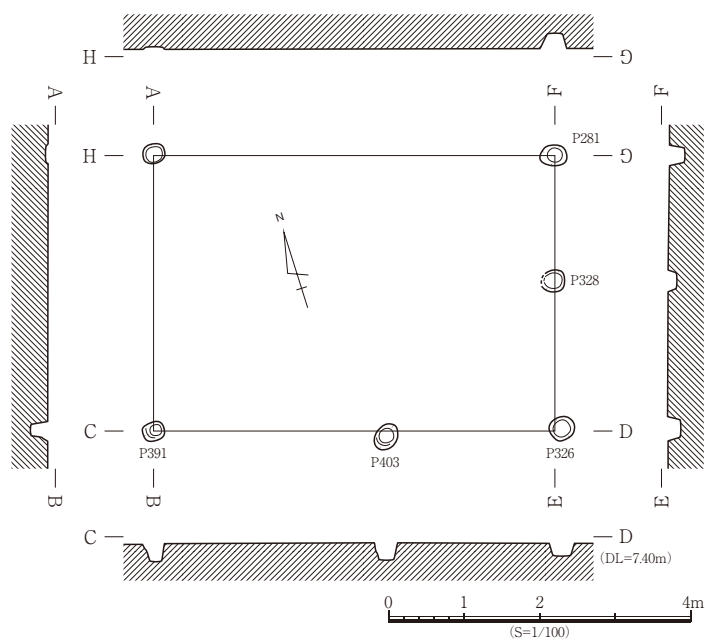


図124 1区 SB45 平面図・エレベーション図

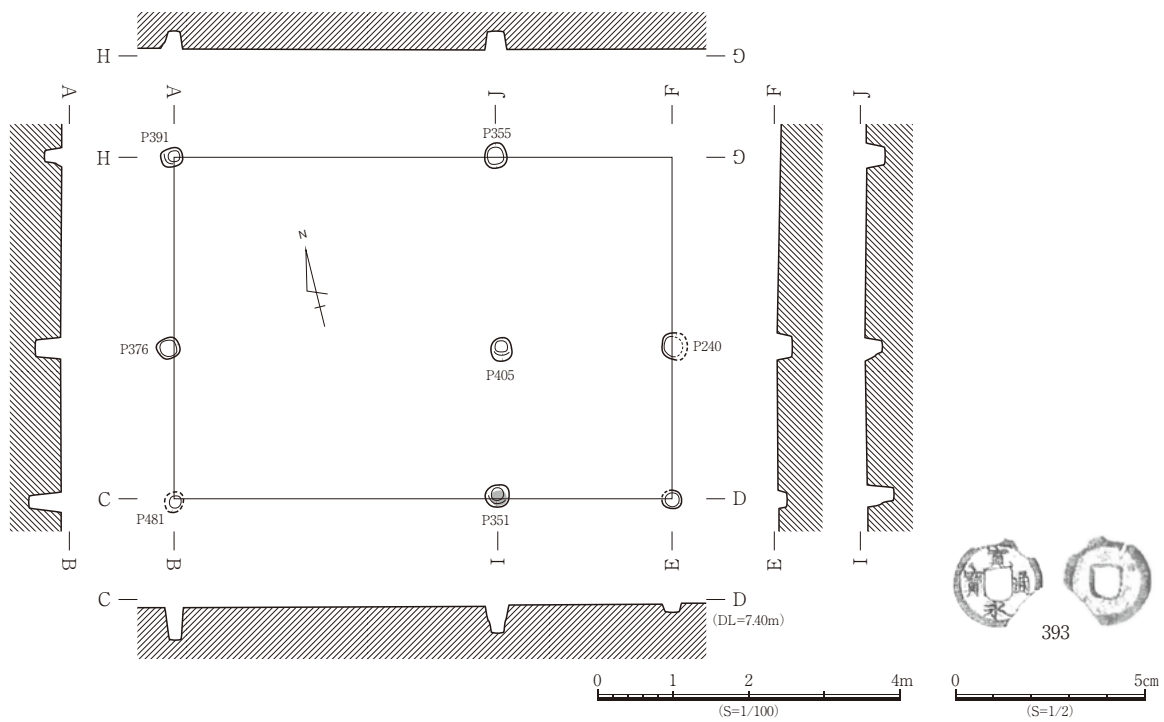


図125 1区 SB46 平面図・エレベーション図

図126 1区 SB46
出土遺物拓影

はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施し、内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。403はSK8から出土した弥生土器の鉢である。底部は突出し、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整である。内面はハケ調整であり、底部付近はナデ調整を施す。404はSK6から出土した片岩製の打製石包丁である。短辺には紐かけ用の抉りを入れる。両面とも主要剥離面を大きく残し、刃部には調整剥離を施す。完形である。

SA2 (付図8)

SA2は1区中央部西寄りで見出した南北方向の柵であり、主軸方向はN-10°-Eである。P718・P753・P786・P791・P830・P880・P895・P998・P1639・2区_P108・2区_P145他で構成され、検出長は約23.8mである。柱間寸法は約1.28～3.16mであり、約1.9mが最も多い。SA3・SA4とはほぼ同じ位置に築かれている。

図示した出土遺物は土師器の盤(405)である。P753から出土した。口縁部は緩やかにひらき、端部は丸くおさめる。底部には直立気味の輪高台を貼り付ける。

SA3 (付図8)

SA3は1区中央部西寄りで見出した南北方向の柵であり、主軸方向の違いにより二分することができる。北半の主軸方向はN-9°-Eであり、P1002・P1229・P1641・2区_P120・2区_P176・2区_P179他で構成され、検出長は約9.5mである。柱間寸法は約1.1～2.7mである。南半の主軸方向はN-15°-Eであり、P705・P739・P778・P787・P843・P893他で構成され、検出長は約12.4mである。柱間寸法は

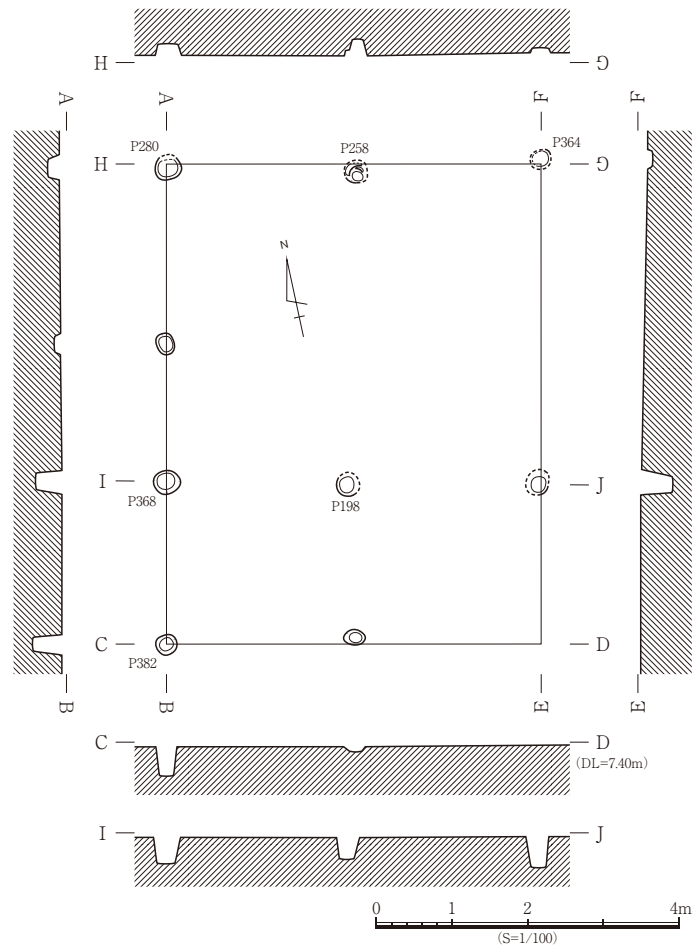


図127 1区 SB47 平面図・エレベーション図

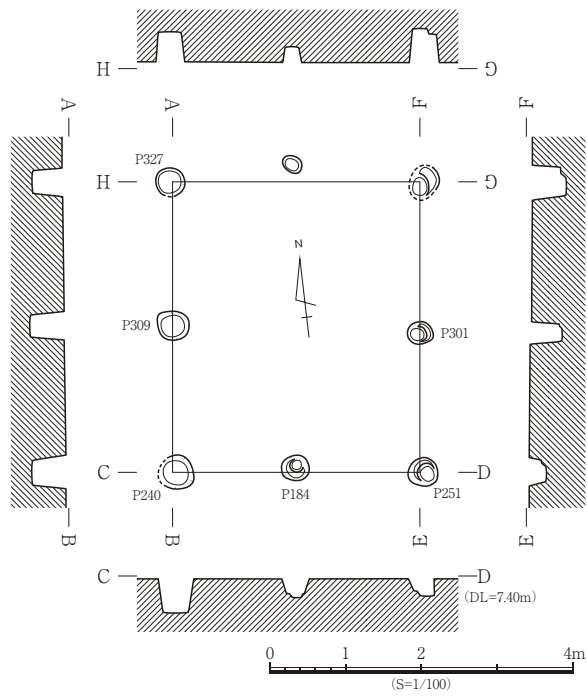


図128 1区 SB48 平面図・エレベーション図

約1.15～1.85mである。両者を合わせた検出長は約21.9mである。SA2・SA4とほぼ同じ位置に築かれている。

図示した出土遺物はない。

SA4 (付図8)

SA4は1区中央部西寄りで検出した南北方向の柵であり、主軸方向の違いにより2分することができる。北半の主軸方向はN-10°-Eであり、P763・P790・P1248・2区_P174他で構成され、検出長は約9.2mである。柱間寸法は約0.85～2.65mである。南半の主軸方向はN-11°-Eであり、P660・P701・P733・P787・P799・P914・P1052他で構成され、検出長は約12.5mである。柱間寸法は約0.9～1.9mである。両者を合わせた検出長は約21.7mである。SA2・SA3とほぼ同じ位置に築かれている。

図示した出土遺物は弥生土器の甕(406)である。P733から出土した。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整であり、底部付近は工具によるナデ調整である。

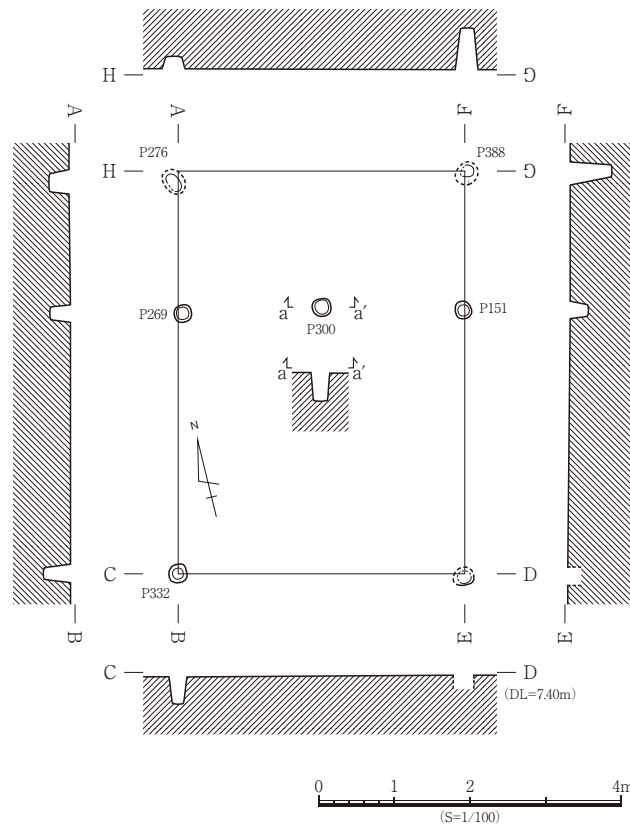


図129 1区 SB49 平面図・エレベーション図

SA5 (付図8)

SA5は1区東部で検出した柵である。南北5間(約10.90m)、東西5間(約12.40m)と推測される。主軸方向はN-14°-Eである。北辺はP205・P244・P282他の6基のピットを検出しており、柱間寸法は約2.25～2.65mである。南辺はP236・P336・P446の3基のピットを検出しており、柱間寸法は約2.45～6.95mである。西辺はP282・P351・P355・P405他の5基のピットを検出しており、柱間寸法は約1.90～2.55mである。東辺はP236他4基のピットを検出しており、柱間寸法は約2.45～4.25mである。

図示した出土遺物はない。

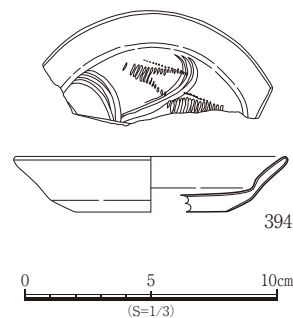


図130 1区 SB49 出土遺物実測図

SA6

SA6は1区東部で検出した柵である。南北4間(約9.00m)、東西4間(約13.70m)と推測される。主軸方向はN-75°-Wである。北辺はP126他の4基のピットを検出しており、柱間寸法は約2.75～4.60mである。南辺はP109・P464他の3基のピットを検出しており、柱間寸法は約2.65～11.05mである。西辺はP302・P333・P464他の4基のピットを検出しており、柱間寸法は約1.8～2.55mである。東辺はP72・P94・P97・P109・P126の5基のピットを検出しており、柱間寸法は約2.05～2.4mである。

図示した出土遺物はない。

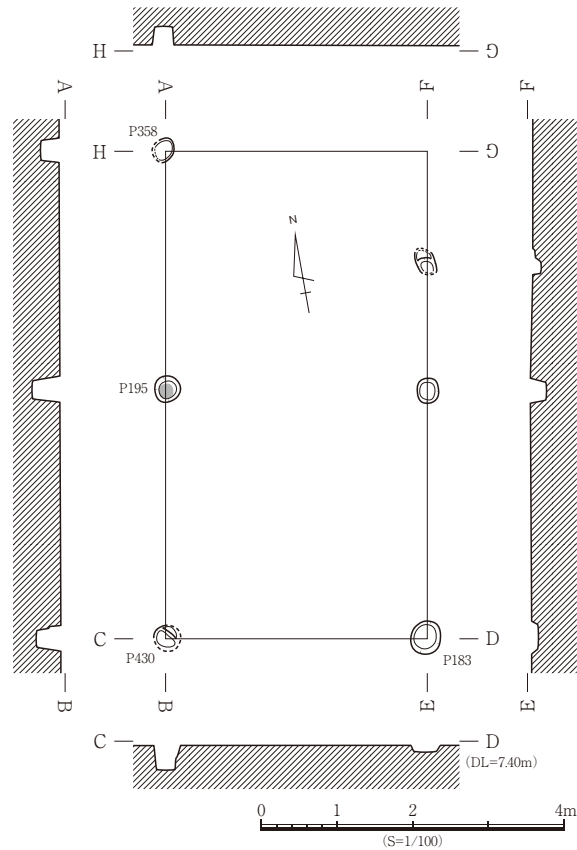


図131 1区 SB50 平面図・エレベーション図

4. SK

SK1

SK1は平面形が長方形の土坑である。長軸2.02m、短軸0.72～0.75mを測り、検出面からの深さは約88cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-10°-Eである。六文銭(407)が出土していることから近世墓と考えられる。

図示した出土遺物は、銭貨(407)である。面文は「ハ」貝寶である。新寛永の可能性もある。また、図示していないが鉄釘が出土している。

SK3

SK3は平面形が長方形の土坑である。長軸1.14m、短軸0.70mを測り、検出面からの深さは約45cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂他である。主軸方向はN-13°-Eである。六文銭(408)・釘が出土していることから近世墓と考えられる。

図示した出土遺物は銭貨(408)である。面文は「コ」頭通, 「ハ」貝寶である。6枚を重ねる。新寛永の可能性もある。

SK4

SK4は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.21m、短軸0.66mを測り、検出面からの深さは約5cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-14°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK5

SK5は平面形が長方形の土坑である。長軸1.82m、短軸0.79mを測り、検出面からの深さは約34cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-10°-Eである。六文銭(409・410)・煙管・木片が出土していることから近世墓と考えられる。

図示した出土遺物は、銭貨(409・410)である。409の面文は「コ」頭通,「ハ」貝寶である。背面上に「文」文字がみられる。新寛永である。410の面文は「コ」頭通,「ハ」貝寶である。背面に刻印がみられる。5枚を重ねる。新寛永の可能性はある。

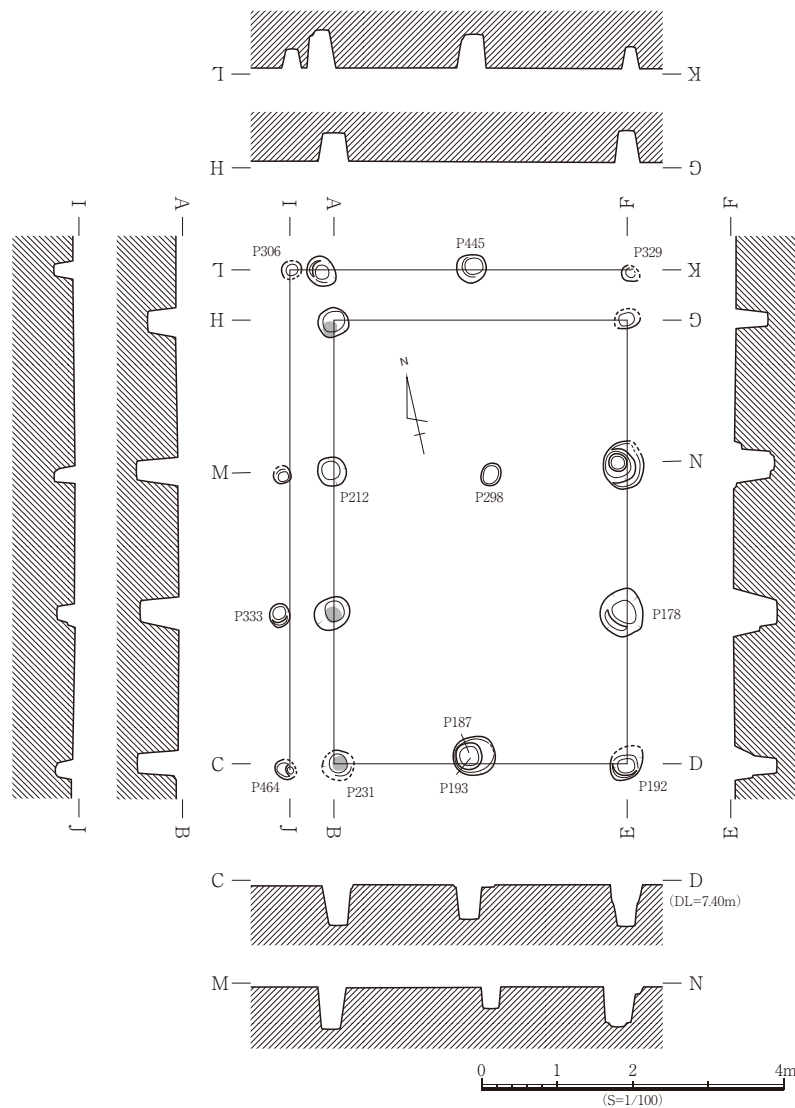


図132 1区 SB51 平面図・エレベーション図

SK10

SK10は平面形が楕円形の土坑である。長軸の検出長は3.82m、短軸2.31mを測り、検出面からの深さは約47cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト他である。主軸方向はN-17°-Eである。

図示した出土遺物は、陶器の碗(411)、磁器の碗(412・413)、陶器の皿(414)・鉢(415)、土師質土器の焜炉(416)、磁器の水滴(417)である。図示した以外に砥石等が出土している。

411は陶器の碗である。

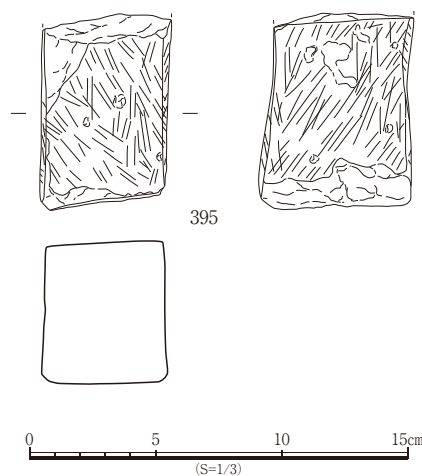


図133 1区 SB51 出土遺物実測図

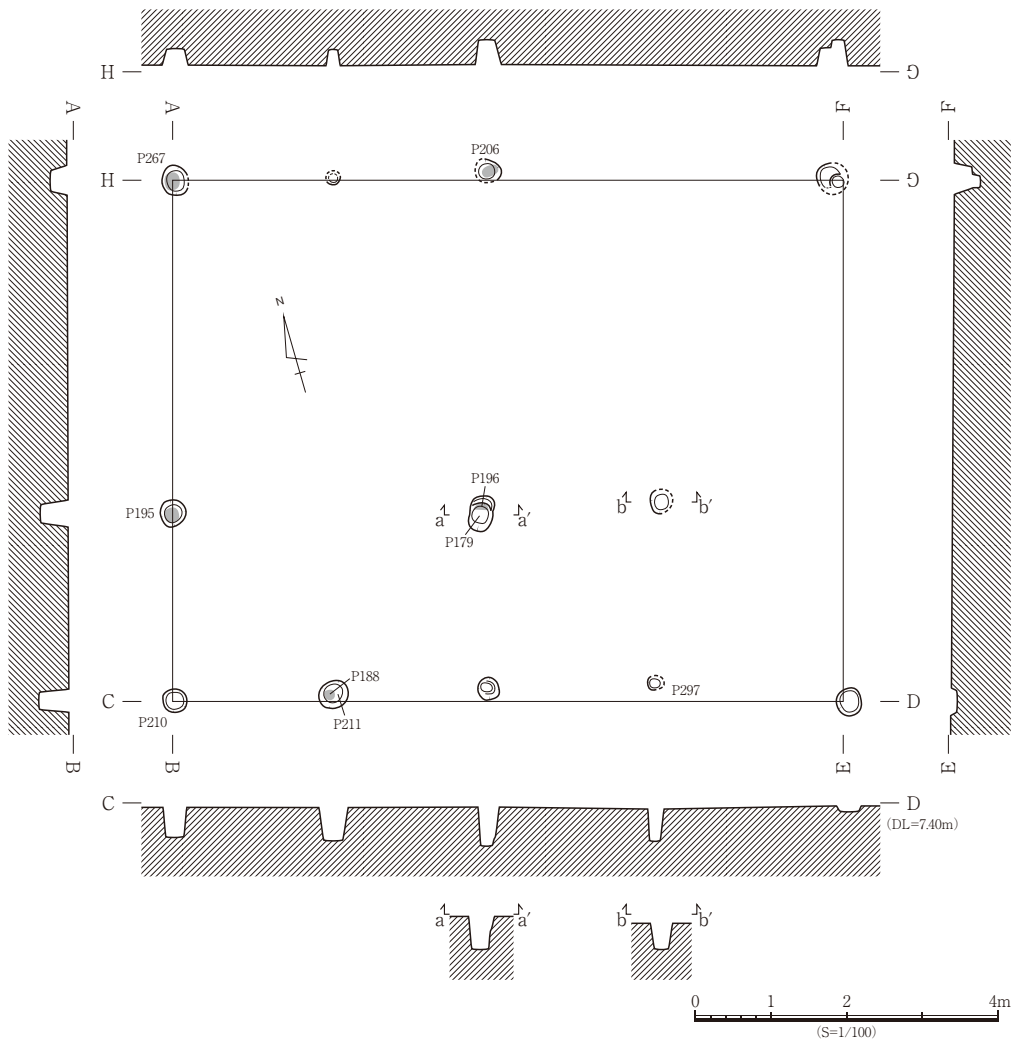


図134 1区 SB52 平面図・エレベーション図

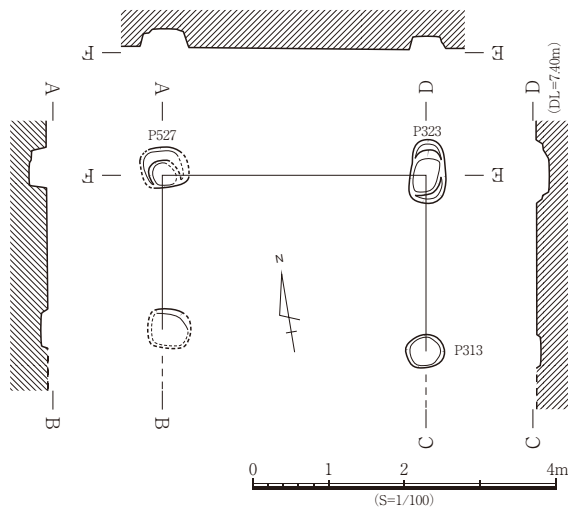


図135 1区 SB53 平面図・エレベーション図

体部下位に稜を有し、口縁部にかけてほぼ垂直に立ち上がる。外面に白濁釉を施釉するものの一部は剥落する。畳付は無釉である。見込みには茶溜り状の凹部がみられる。412は磁器の染付小碗である。透明釉を施釉する。器面に染付文様が描かれる。高台脇に1条、高台外面に二重界線の染付がみられる。畳付には釉剥ぎを施す。見込みに残留遺物焼成痕がみられる。肥前系である。413は磁器の染付碗である。透明釉を施釉する。器面に染付文様が描かれる。高台脇に1条、高台外面に二重界線

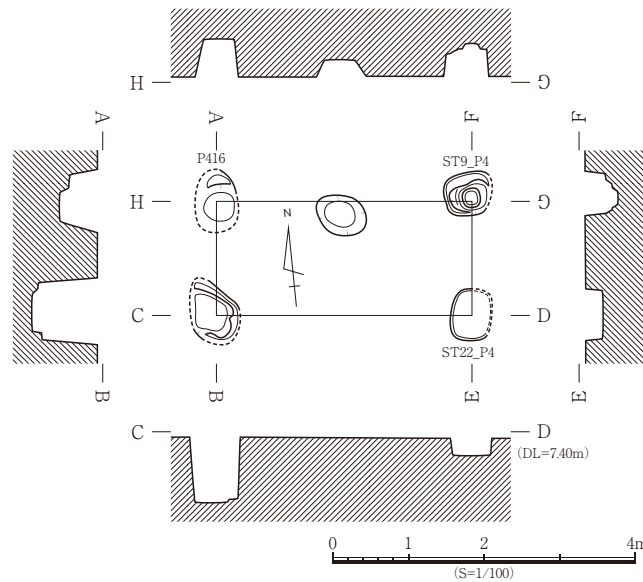


図136 1区 SB54 平面図・エレベーション図

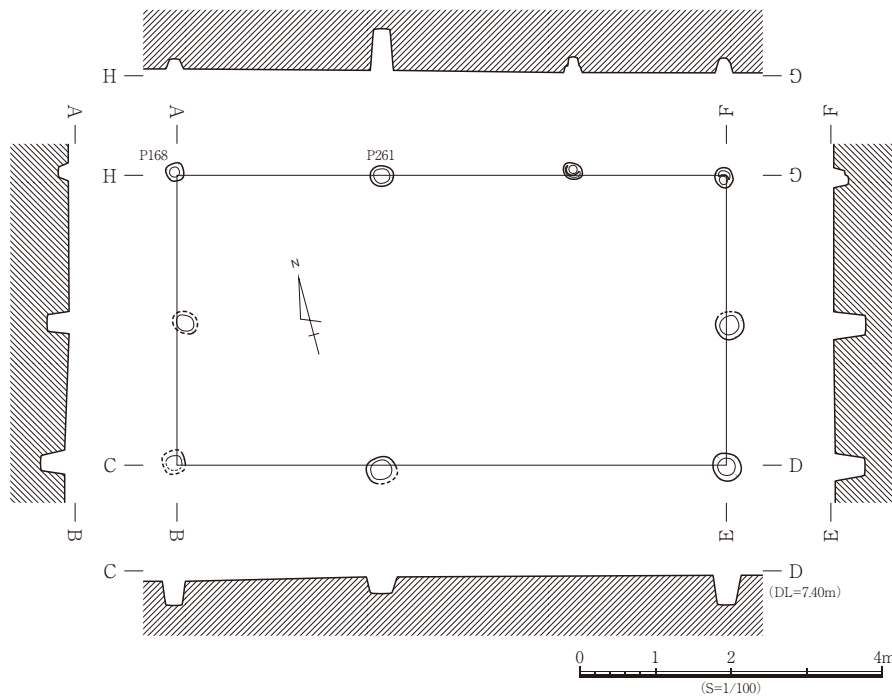


図137 1区 SB55 平面図・エレベーション図

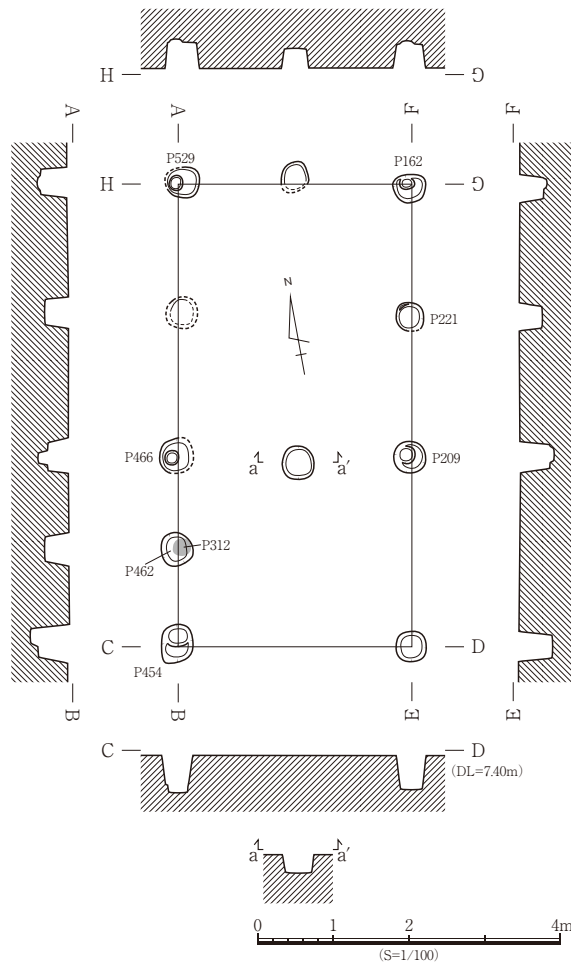


図138 1区 SB56 平面図・エレベーション図



図139 1区 SB56
出土遺物実測図

の染付，高台内に1条の圈線と記号状に崩れた銘がみられる。畳付には釉剥ぎを施す。畳付に粗砂が熔着する。肥前系である。414は陶器の皿である。内面に銅緑釉を施釉する。見込みにハケ状原体による不完全な蛇の目状の釉剥ぎを施す。外面上位に透明釉を施釉し，下位は露胎とする。高台内は兜巾状を呈する。畳付の一部に釉薬が付着する。見込みには重ね焼き痕跡が認められる。内野山窯産である。415は陶器の片口鉢である。口縁部外面は玉縁状に肥厚させる。鉄釉を施釉する。外面下位は露胎となる。内底面には熔着痕が認められる。416は土師質土器の焜炉である。体部は内湾気味に立ち上がり，口縁端部は内側に肥厚させ，上端は面を取る。逆台形状の短脚が1ヶ所残存する。内面にヘラ状原体による回転ナデ調整を施し，指頭圧痕がみられる。口縁端部に煤が付着する。417は磁器の水滴である。胎土は密で白色である。体部は中空で上部に鼠状の装飾を貼り付ける。下部に円孔を焼成前に穿孔する。1～2ヶ所残存している。体部の形状は「栗」を想起させる。

SK14

SK14は平面形が溝状の土坑である。長軸4.87m，短軸0.45～0.90mを測り，検出面からの深さは8～25cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂である。主軸方向はN-83°-Wである。

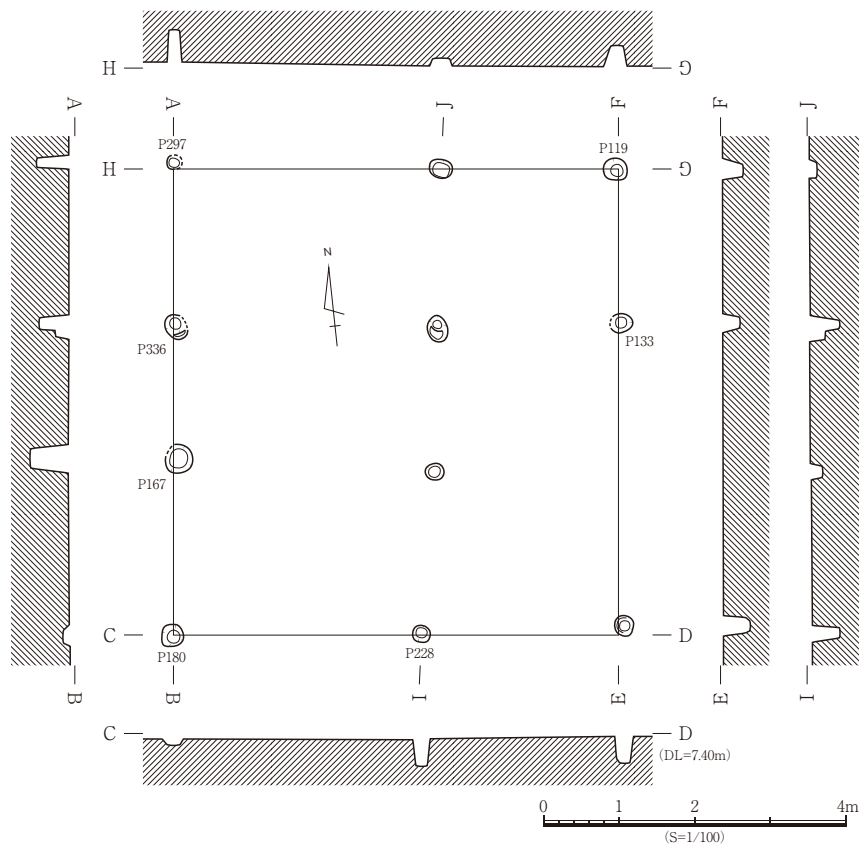


図140 1区 SB57 平面図・エレベーション図

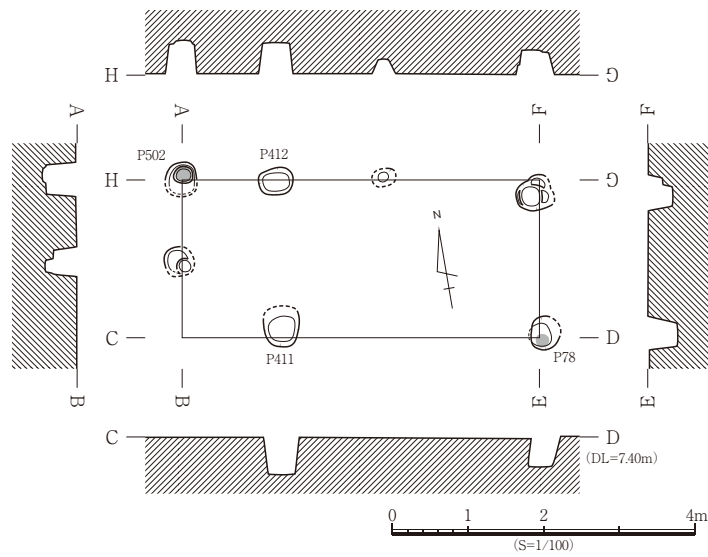


図141 1区 SB58 平面図・エレベーション図

図示した出土遺物はない。

SK15

SK15は平面形が溝状の土坑である。長軸2.99m，短軸1.06mを測り，検出面からの深さは約43cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-27°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK16

SK16は平面形が溝状の土坑である。長軸14.10m，短軸0.28～0.41mを測り，検出面からの深さは約17cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-33°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK17

SK17は平面形が不整円形の土坑である。長軸2.57m，短軸0.89～1.26mを測り，検出面からの深さは2～23cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-82°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK18

SK18は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.13m，短軸0.85mを測り，検出面からの深さは約10cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-13°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK19

SK19は平面形が溝状の土坑である。長軸1.70m，短軸0.40～0.52mを測り，検出面からの深さは約38cmである。埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。主軸方向はN-33°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK20

SK20は平面形が不整円形の土坑である。長軸0.98m，短軸0.52～0.60mを測り，検出面からの深さは約7cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-22°-Eである。

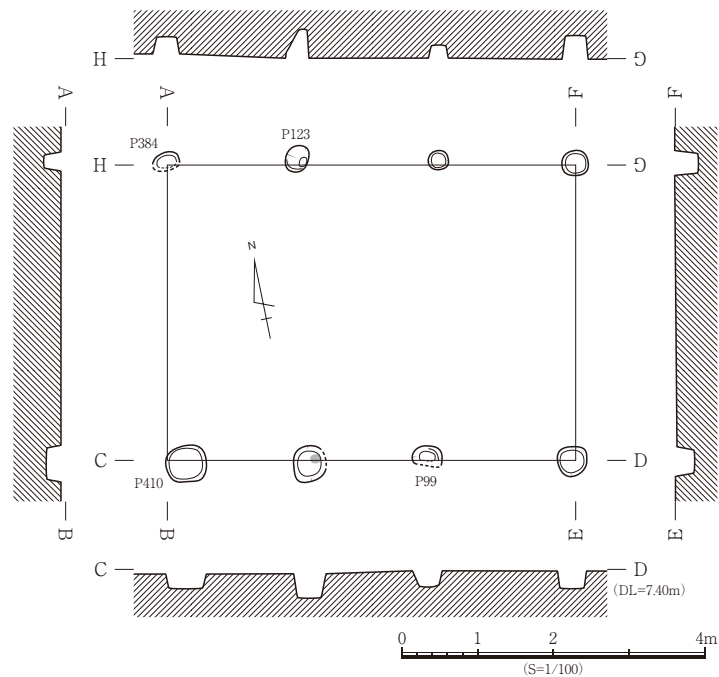


図142 1区 SB59 平面図・エレベーション図

図示した出土遺物はない。

SK21

SK21 は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.88m, 短軸0.73mを測り, 検出面からの深さは約8cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-35°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK22

SK22 は平面形が隅丸方形の土坑である。長軸1.97m, 短軸1.78mを測り, 検出面からの深さは約14cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-10°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK23

SK23 は平面形が方形と推測される土坑である。長軸の検出長は1.75m, 短軸の検出長は1.03mを測り, 検出面からの深さは約11cmである。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂である。主軸方向はN-9°-Wである。

図示した出土遺物はない。

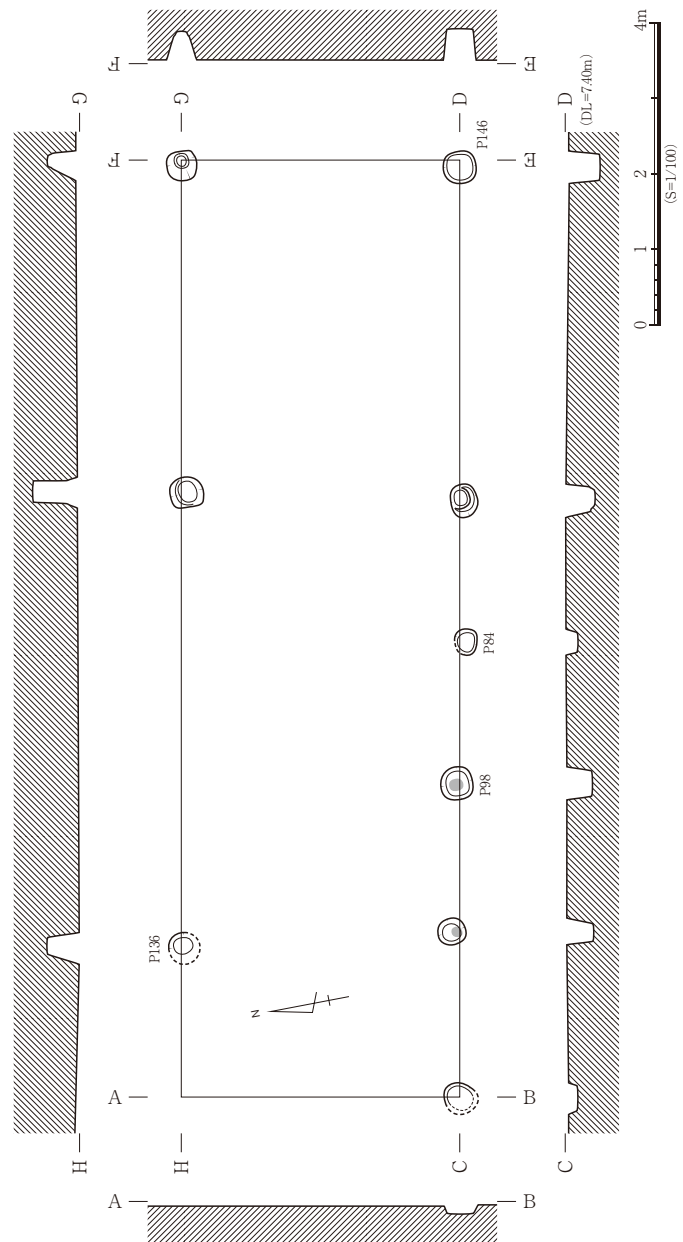


図143 1区 SB60 平面図・エレベーション図

SK24

SK24 は平面形が不整形の土坑である。長軸1.12m, 短軸1.01mを測り, 検出面からの深さは約14cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-2°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK25

SK25 は平面形が楕円形の集石土坑である。長軸1.10m, 短軸1.06mを測り, 検出面からの深さは約18cmである。埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-2°-Eである。

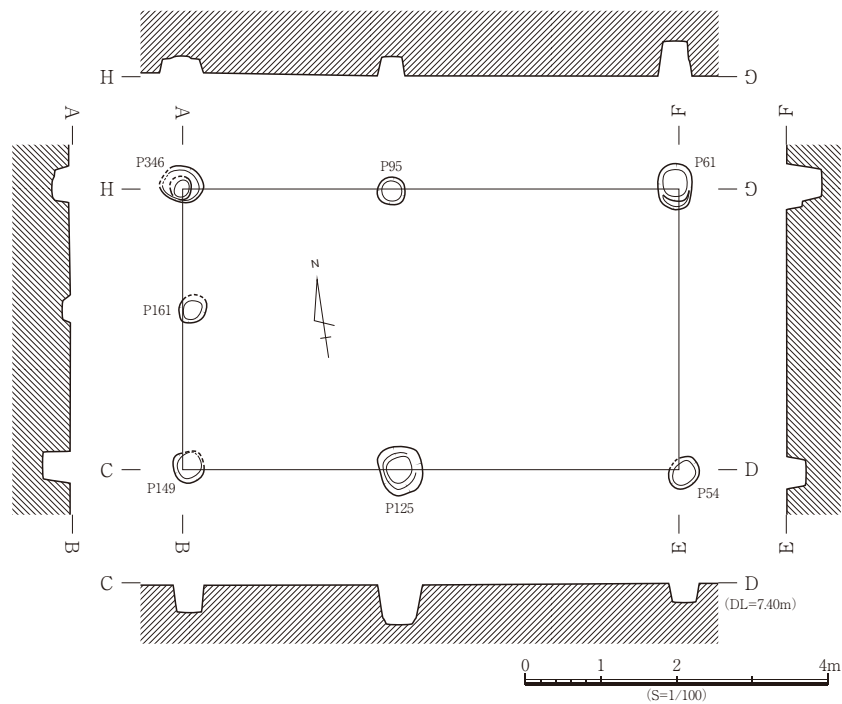


図144 1区 SB61 平面図・エレベーション図

図示した出土遺物はない。

SK26

SK26は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸1.52m，短軸0.41mを測り，検出面からの深さは約8cmを測り，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-75°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK27

SK27は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸の検出長は0.67m，短軸1.06mを測り，検出面からの深さは約6cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-20°-Eである。桶跡が認められる。

図示した出土遺物はない。

SK28

SK28は平面形が円形の土坑である。

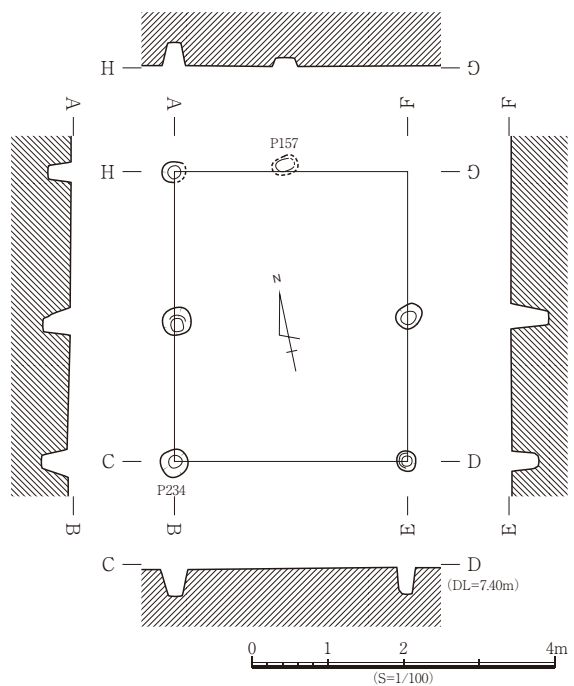


図145 1区 SB62 平面図・エレベーション図

直径約1.00mを測り、検出面からの深さは約50cmである。埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、細粒砂岩製の定形砥石(418)である。四角柱状を呈し、長辺の四面が使用され、線状の擦痕を認める。端部を欠損する。

SK29

SK29は平面形が楕円形と推測される集石土坑である。長軸1.82m、短軸1.70mを測り、検出面からの深さは約40cmを測り、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-20°-Eである。桶跡か。

図示した出土遺物は、白磁の碗(419)、弥生土器の壺(420)である。

419は白磁の碗である。胎土は比較的粗く黒い細粒砂を含む。外面の釉薬は浅黄色がかった灰白色で高台まで施釉し、底面は露胎となる。底部外面及び高台にヘラケズリ状の調整痕がみられる。高台は幅広で削り出しは浅い。見込みには沈線状の小段と融着物がみられる。IV類である。420は複合口縁壺である。口縁部は外反し、端部に内傾する二次口縁部を付加して外面は稜を成す。口縁部内面はヨコハケ調整である。全体的に摩耗する。

SK30

SK30は平面形が不整楕円形の土坑である。長軸0.93m、短軸0.81mを測り、

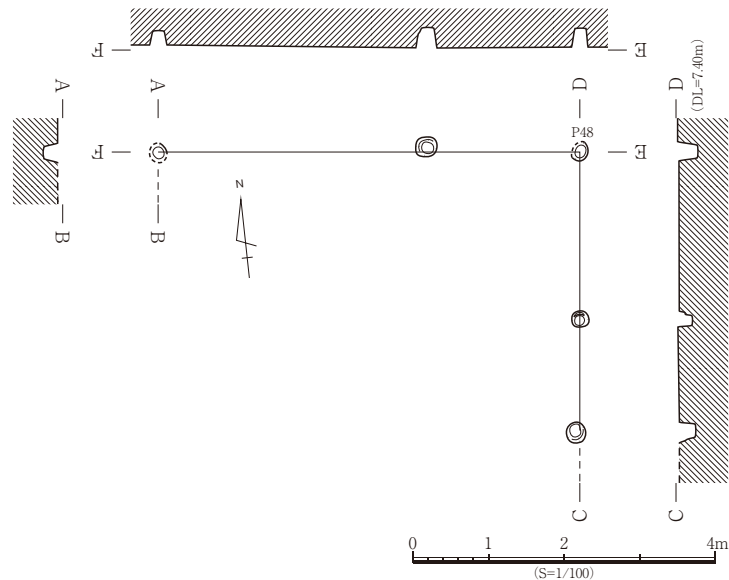


図146 1区 SB63 平面図・エレベーション図

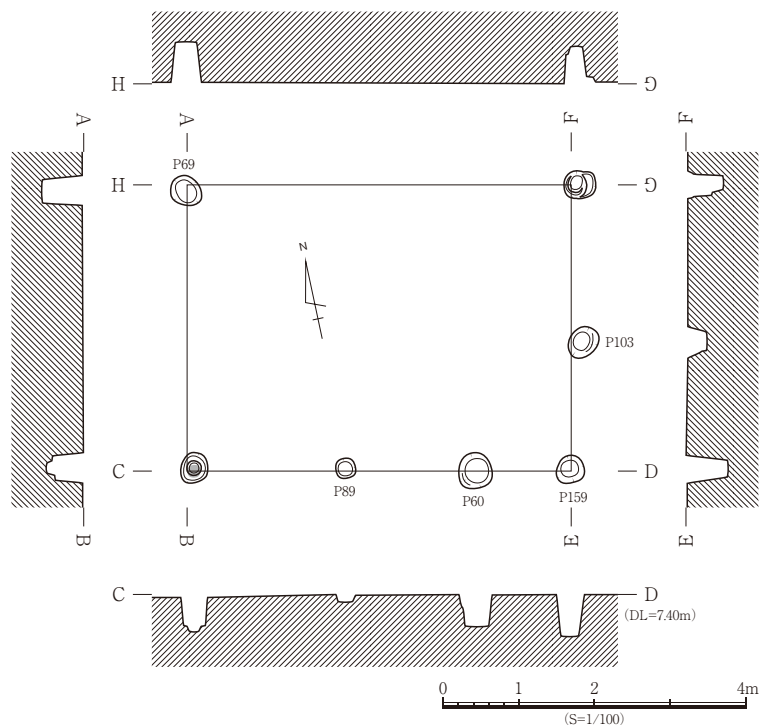


図147 1区 SB64 平面図・エレベーション図

検出面からの深さは約11cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-5°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK31

SK31は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸1.09m, 短軸0.50mを測り, 検出面からの深さは約25cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-70°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK32

SK32は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.37m, 短軸0.96mを測り, 検出面からの深さは約31cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-74°-Wである。

図示した出土遺物はない。

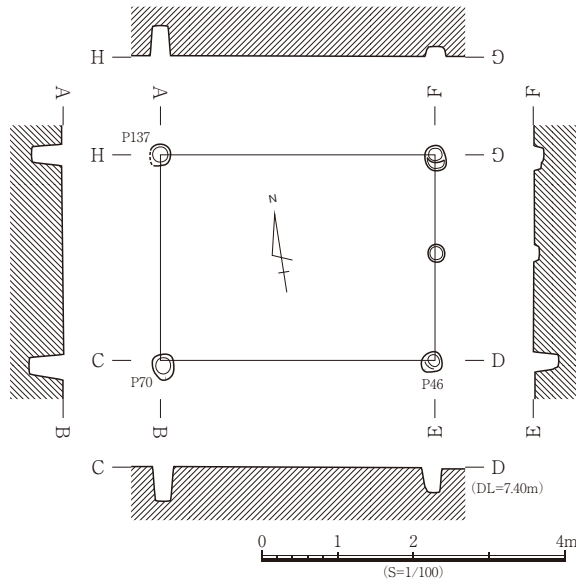
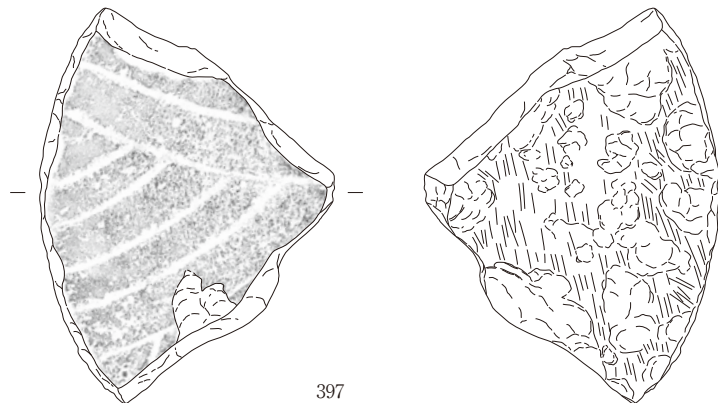


図148 1区 SB65 平面図・エレベーション図

SK33

SK33は平面形が楕円形の土坑である。長軸0.96m, 短軸0.59mを測り, 検出面からの深さは約39cmである。埋土は黒色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-0°-Eである。

図示した出土遺物はない。



SK34

SK34は平面形が楕円形の土坑である。長軸の検出長は1.60m, 短軸1.18mを測り, 検出面からの深さは約34cmである。埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-74°-Wである。

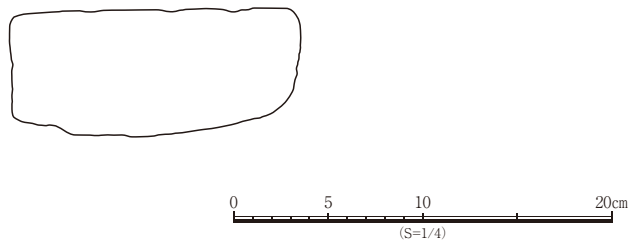


図149 1区 SB65 出土遺物実測図

図示した出土遺物はない。

SK35

SK35は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸の検出長は0.79m，短軸の検出長は0.35mを測り，検出面からの深さは約16cmを測り，埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。主軸方向はN-18°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK36

SK36は平面形が楕円形の土坑である。長軸2.51m，短軸1.53mを測り，検出面からの深さは約59cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-91°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK37

SK37は平面形が楕円形の土坑である。長軸の検出長は0.87m，短軸0.80mを測り，検出面からの深さは約33cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-30°-Eである。

図示した出土遺物はない。

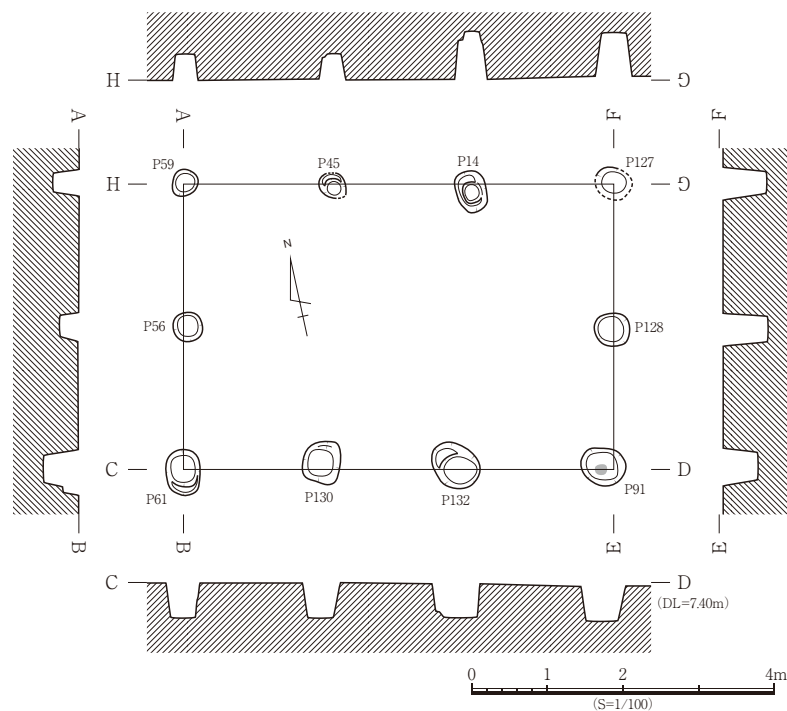


図150 1区 SB66 平面図・エレベーション図

SK38

SK38は平面形が方形の土坑である。長軸1.01m，短軸の検出長は0.76mを測り，検出面からの深さは約16cmである。主軸方向はN-28°-Eである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

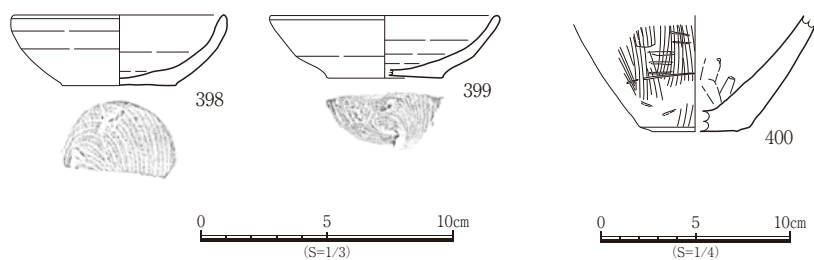


図151 1区 SB66 出土遺物実測図

SK40

SK40は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸の検出長は1.40m，短軸は1.39mを測り，検出面からの深さは約16cmである。埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。主軸方向はN-20°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK41

SK41は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.44m，短軸1.13mを測り，検出面からの深さは約25cmである。埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。主軸方向はN-19°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK42

SK42は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸の検出長は1.06m，短軸0.64mを測り，検出面からの深さは約9cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-2°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK43

SK43は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.42m，短軸0.88mを測り，検出面からの深さは約48cmである。主軸方向はN-80°-Wである。埋土は黒褐色(10YR3/1)礫質極粗粒砂である。

図示した出土遺物はない。

SK44

SK44は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.46m，短

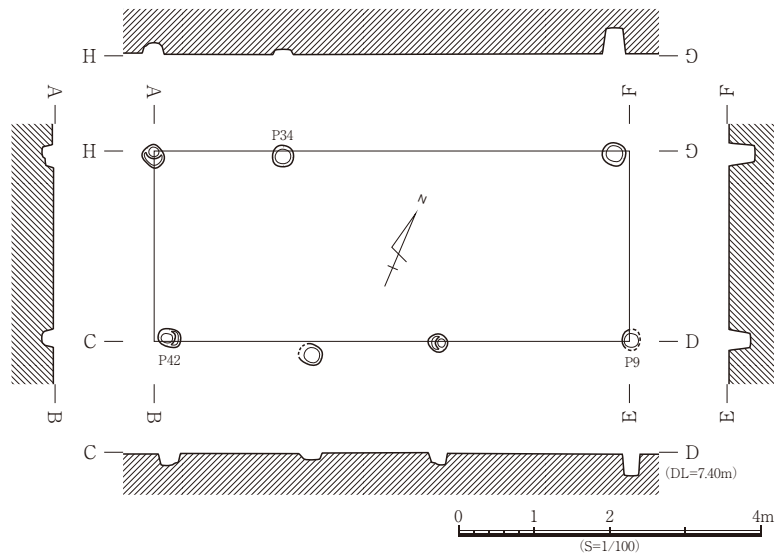


図152 1区 SB67 平面図・エレベーション図

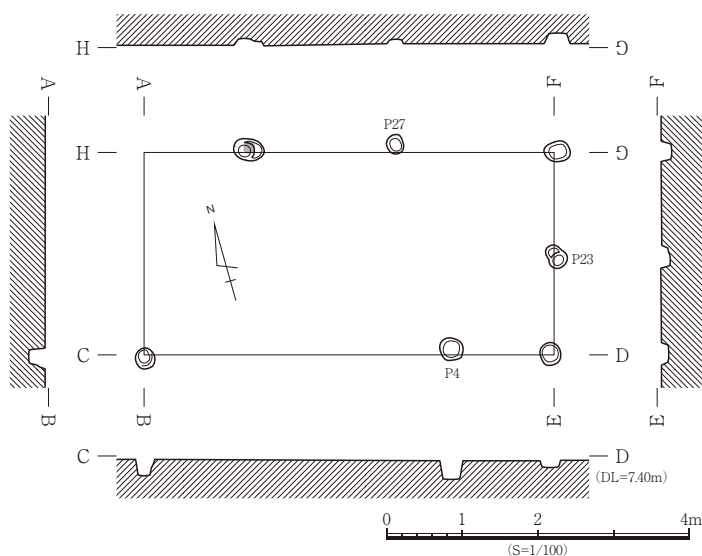


図153 1区 SB68 平面図・エレベーション図

軸の検出長は1.02mを測り、検出面からの深さは約23cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-89°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK45

SK45は平面形が隅丸方形の土坑である。長軸2.50m, 短軸の検出長は0.61mを測り、検出面からの深さは約25cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-75°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK46

SK46は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.44m, 短軸1.00mを測り、検出面からの深さは約23cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-38°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK47

SK47は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸の検出長は1.80m, 短軸の検出長は0.55mを測り、検出面からの深さは約30cmである。主軸方向はN-82°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK48

SK48は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸の検出長は1.75m, 短軸の検出長は0.55mを測り、検出面からの深さは約14cmである。埋土は黄色シルトブロックを多く含む黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-83°-Wである。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(421), 陶器の皿(422)である。

421は土師質土器の皿である。内底中央は回転成形により僅かに凸状を成すが、摩耗により不明瞭である。底部内縁に沈線状痕が認められる。全体的に摩耗する。422は陶器の皿である。高台は外側が屈曲する。内面に銅緑釉を施釉する。見込みに蛇の目状の釉剥ぎを施す。外面上位に透明釉を施釉し、灰白色の釉溜りがみられ、下位は露胎である。見込み及び外面下位に砂目積み痕跡が認められる。内野山窯産である。

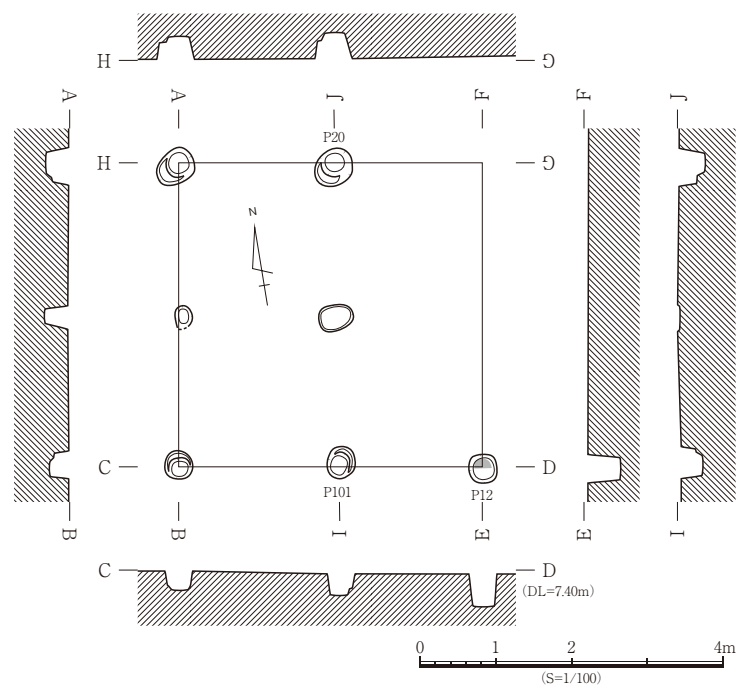


図154 1区 SB69 平面図・エレベーション図

表3 SA1柱穴計測表

柱穴番号	平面形	法量		検出面からの深さ(cm)
		長軸(m)	短軸(m)	
SK2	方形	1.13	(0.65)	84.7
SK6	方形	1.32	1.11	97.3~107.0
SK8	方形	1.26	1.19	91.6~92.5
SK9	方形	1.32	1.28	96.6~111.0
SK11	長方形	1.58	1.18	104.0~117.0
SK12	方形	1.30	(0.95)	104.0~117.0
SK39	方形	1.17	1.05	96.4

SK49

SK49は平面形が楕円形の土坑である。長軸4.88m、短軸1.12~1.52mを測り、検出面からの深さは約36cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-28°-Eである。

図示した出土遺物は、磁器の碗(423)、陶器の皿(424)、土師器の甕(425)、弥生土器の甕(426)、釘(427)である。

423は磁器の碗である。胎土は密で黒い細粒砂を含む。透明釉を施釉し、ピンホールを認める。染付は発色し、黒色を呈する。424は陶器の皿である。内面に白濁釉を施釉し、外面の残存部は露胎である。見込みに砂目積み痕跡がみられる。外面には釉薬が付着する。425は土師器の長胴甕である。チャート・雲母等の細・粗粒砂を含む。口縁部は逆「ハ」の字形に外傾し、端部は面を取る。426は弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体により面取りを施す。口縁部を含め外面はタテハケ調整、内面にはヨコハケ調整を施す。427は釘である。頭部は僅かに逆「L」字形に肥厚する。

SK51

SK51は平面形が楕円形の土坑である。長軸0.94m、短軸0.90mを測り、検出面からの深さは約7cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-30°-Wである。桶跡か。

図示した出土遺物はない。

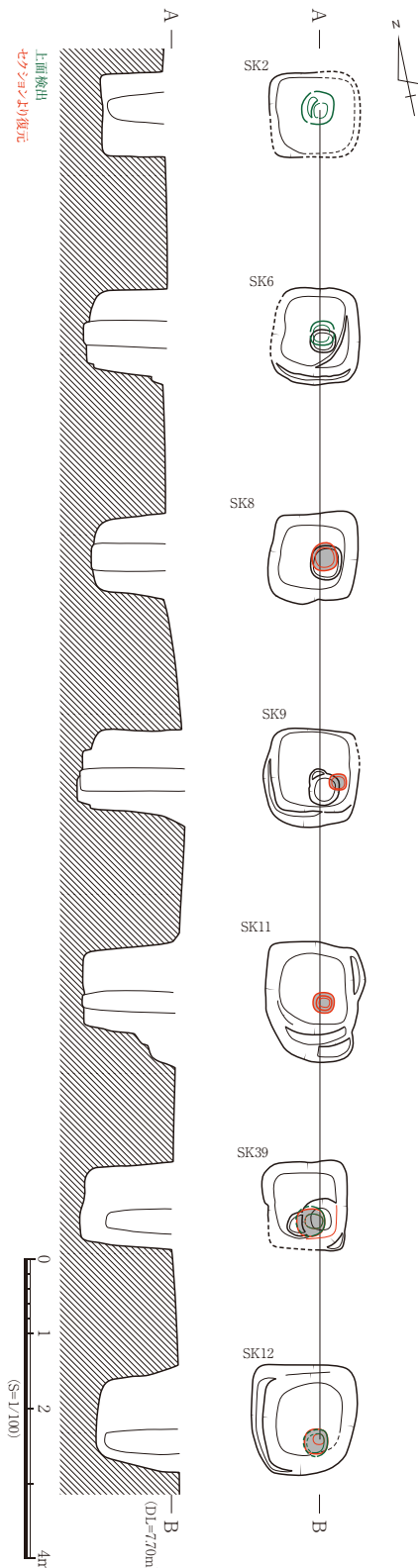
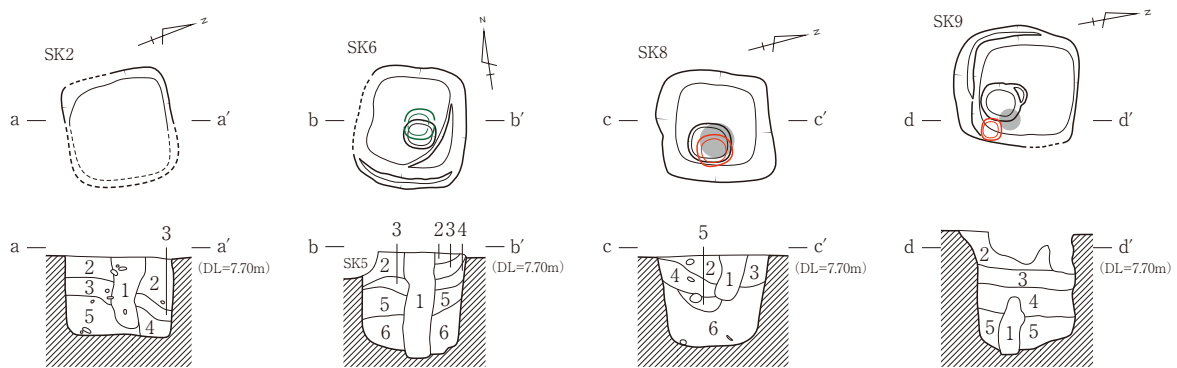


図155 1区SA1
平面図・エレベーション図



遺構埋土 (SK2)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに炭化物と1~5cm大の円礫を含む (柱痕跡)
2. 黒褐色 (10YR2/2) シルト質細粒砂に黄色シルトブロックと炭化物と0.5cm大の礫を含む
3. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに炭化物を多く含む
4. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を含む
5. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに中粒砂と黄色シルトブロックと炭化物と3~5cm大の円礫を含む

遺構埋土 (SK6)

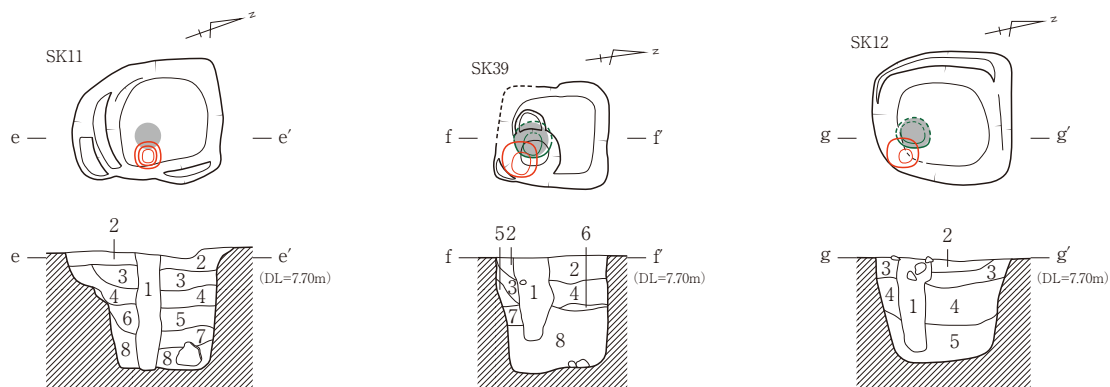
1. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と3~5cm大の礫を含む (柱痕跡)
2. 黒褐色 (10YR2/3) シルト質細粒砂に2~3cm大の礫を含む
3. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに5cm大の礫を少量含む
4. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を含む
5. 黒褐色 (10YR3/2) シルト質細粒砂に黄色シルトブロックと炭化物を含む
6. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む

遺構埋土 (SK8)

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と0.5cm大の礫を含む (柱痕跡)
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と炭化物と5cm大の円礫を含む
3. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む
4. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに中粒砂と炭化物と5~10cm大の円礫を少量含む
5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と炭化物と5~10cm大の円礫を少量含む
6. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに中粒砂と炭化物と黄色シルトブロックを含む

遺構埋土 (SK9)

1. 黒褐色 (10YR2/3) 中粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を含む (柱痕跡)
2. 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルトに黄色シルトブロックと3cm大の礫を少量含む
3. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに炭化物を含む
4. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
5. 黒色 (10YR1.7/1) シルトに中粒砂を含む



遺構埋土 (SK11)

1. 黒褐色 (10YR3/2) 中粒砂質シルトに黄褐色シルトブロックと0.5cm大の礫を少量, 炭化物を含む (柱痕跡)
2. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに10cm大の礫を少量含む
3. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと1cm大の礫を少量含む
4. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに炭化物と1cm大の礫を含む
5. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと炭化物を含む
6. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに炭化物を含む
7. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量含む
8. 黒色 (10YR1.7/1) 中粒砂質シルト

遺構埋土 (SK12)

1. 黒褐色 (10YR3/2) 中粒砂質シルトに黄褐色シルトブロックと0.5cm大の礫を少量含む (柱痕跡)
2. 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルトに黄褐色シルトブロックを多く含む
3. 黒褐色 (10YR2/2) シルト質細粒砂に炭化物を含む
4. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黒褐色 (10YR2/3) ブロック (地山) を含む
5. 黒色 (10YR1.7/1) 中粒砂質シルト

遺構埋土 (SK39)

1. 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂質シルトに中粒砂と3~5cm大の礫と炭化物を含む (柱痕跡)
2. 黒褐色 (10YR2/3) シルト質細粒砂に0.5cm大の礫と炭化物を少量含む
3. 黒褐色 (10YR2/2) シルト質細粒砂に炭化物を少量含む
4. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに炭化物を少量含む
5. 黒褐色 (10YR3/1) シルト質細粒砂
6. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルト
7. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルト
8. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに下部に10cm大の礫を少量含む

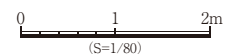


図156 1区 SA1 個別平面図・断面図

SK52

SK52は平面形が長方形の土坑である。長軸1.20m，短軸0.63～0.78mを測り，検出面からの深さは約17cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-65°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK53

SK53は平面形が不整楕円形の土坑である。長軸1.33m，短軸0.97mを測り，検出面からの深さは約14cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-64°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK54

SK54は平面形が楕円形の土坑である。長軸3.00m，短軸1.76mを測り，検出面からの深さは約9cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-10°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK55

SK55は平面形が不整形と推測される土坑である。長軸の検出長は4.54m，短軸の検出長は3.37mを測り，検出面からの深さは21～34cmである。埋土は黄色シルトブロックを多く含む暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-33°-Eである。

図示した出土遺物は，陶器の皿(428)である。内面に銅緑釉を施釉する。外面に透明釉を施釉し，灰白色の釉溜りがみられ，下位には銅緑釉を施釉する。内野山窯産である。

SK56

SK56は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.26m，短軸1.04mを測り，検出面からの深さは約9cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-40°-Eである。

図示した出土遺物はない。

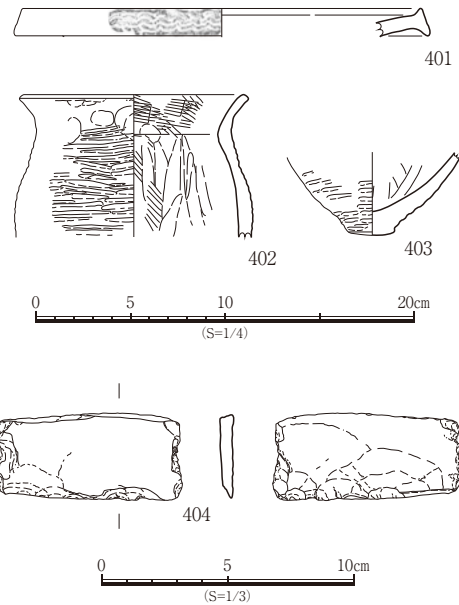


図157 1区 SA1 出土遺物実測図

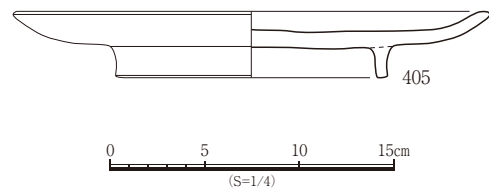


図158 1区 SA2 出土遺物実測図

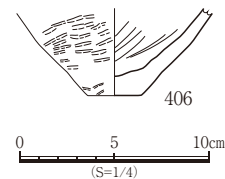


図159 1区 SA4 出土遺物実測図

SK57

SK57は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.44m，短軸0.98mを測り，検出面からの深さは35～69cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-8°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK58

SK58は平面形が隅丸方形と推測される土坑である。長軸の検出長は4.19m，短軸3.95mを測り，検出面からの深さは約12cmである。主軸方向はN-86°-Wである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は，磁器の皿(429)，陶器の皿(430)，炆器の播鉢(431)である。

429は磁器の染付皿である。透明釉を施釉する。見込みに二重界線がみられる。染付は発色し，黒色を呈する。畳付に釉剥ぎを施し，粗砂が熔着する。430は陶器の皿である。高台は外側が屈曲する。内面に銅緑釉を施釉する。見込みに蛇の目状の釉剥ぎを施す。外面上位に透明釉を施釉し，灰白色の釉溜りがみられ，下位は露胎である。431は炆器の播鉢である。体部は逆「ハ」の字形に立ち上がる。口縁部は肥厚し，上方へ拡張する。外縁帯に2条の凹線を施す。器面には回転ナデ調整によるロクロ目痕がみられる。内面に7条1単位の摺目がみられる。

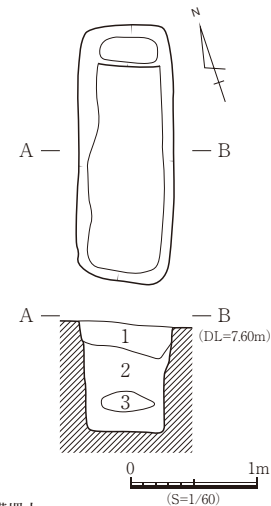
SK59

SK59は平面形が楕円形の土坑である。長軸の検出長は2.93m，短軸の検出長は2.74mを測り，検出面からの深さは約9cmである。埋土は黄色シルトブロックを多く含む暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-5°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK60

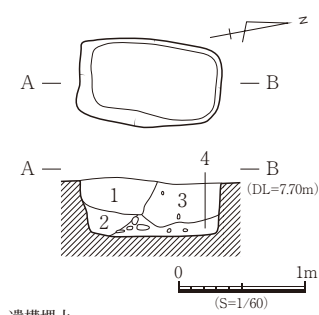
SK60は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.24m，短軸0.70mを測り，検出面からの深さは約14cmである。埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。主軸方向はN-77°-Eである。



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂に2cm大の礫を少量含む
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに炭化物を少量，中粒砂と1～5cm大の円礫を含む
3. 黒褐色(25Y3/2)シルトのブロック



図160 1区 SK1 平面図・断面図・出土遺物拓影



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂に黄色シルトブロックと0.5cm大の礫を多く含む
2. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む
3. 黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂に3cm大の礫を少量含む
4. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに3～10cm大の円礫を含む

図161 1区 SK3 平面図・断面図

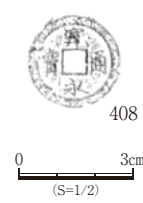


図162 1区 SK3 出土遺物拓影

図示した出土遺物はない。

SK61

SK61は平面形が楕円形の土坑である。長軸 1.37m, 短軸 0.88mを測り, 検出面からの深さは約 11 cmである。埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。主軸方向は N-89° -Eである。

図示した出土遺物はない。

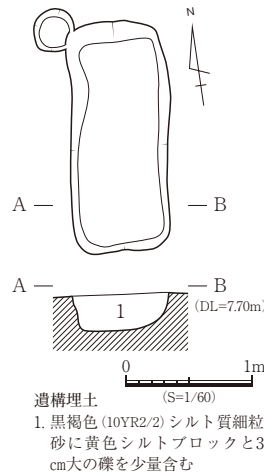


図163 1区 SK5 平面図・断面図

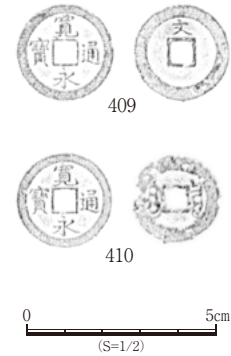


図164 1区 SK5 出土遺物拓影

SK62

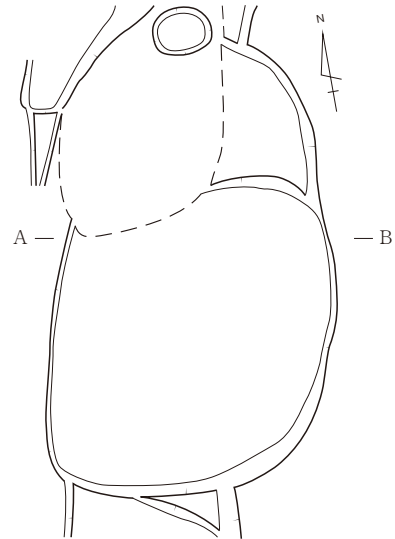
SK62は平面形が隅丸方形と推測される土坑である。長軸 1.05m, 短軸 0.75mを測り, 検出面からの深さは約13cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-64° -Wである。

図示した出土遺物はない。

SK63

SK63は平面形が隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は2.72m, 短軸2.68mを測り, 検出面からの深さは約 14 cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-74° -Wである。

図示した出土遺物はない。



SK64

SK64は平面形が不整長方形と推測される土坑である。長軸 2.21m, 短軸 1.34mを測り, 検出面からの深さは約 30 cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-82° -Eである。

図示した出土遺物はない。

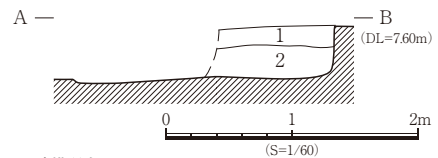


図165 1区 SK10 平面図・断面図

SK65

SK65は平面形が楕円形の土坑である。長軸の検出長は1.26m, 短軸1.06mを測り, 検出面からの深さは約 6 cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-29° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SK66

SK66は平面形が不整隅丸方形の土坑である。長軸7.82m，短軸1.16～2.26mを測り，検出面からの深さは28～46cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)中粒砂質シルトである。主軸方向はN-10° -Eである。

図示した出土遺物は，炆器の鉢(432)である。体部は内傾気味に立ち上がり，孔径1.8cmの穿孔が1ヶ所残存する。口縁端部は内傾気味に面を取る。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面にはハケ調整を施す。ベタ底である。匣鉢の可能性はある。

SK67

SK67は平面形が不整隅丸方形の土坑である。長軸2.08m，短軸1.44mを測り，検出面からの深さは約33cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

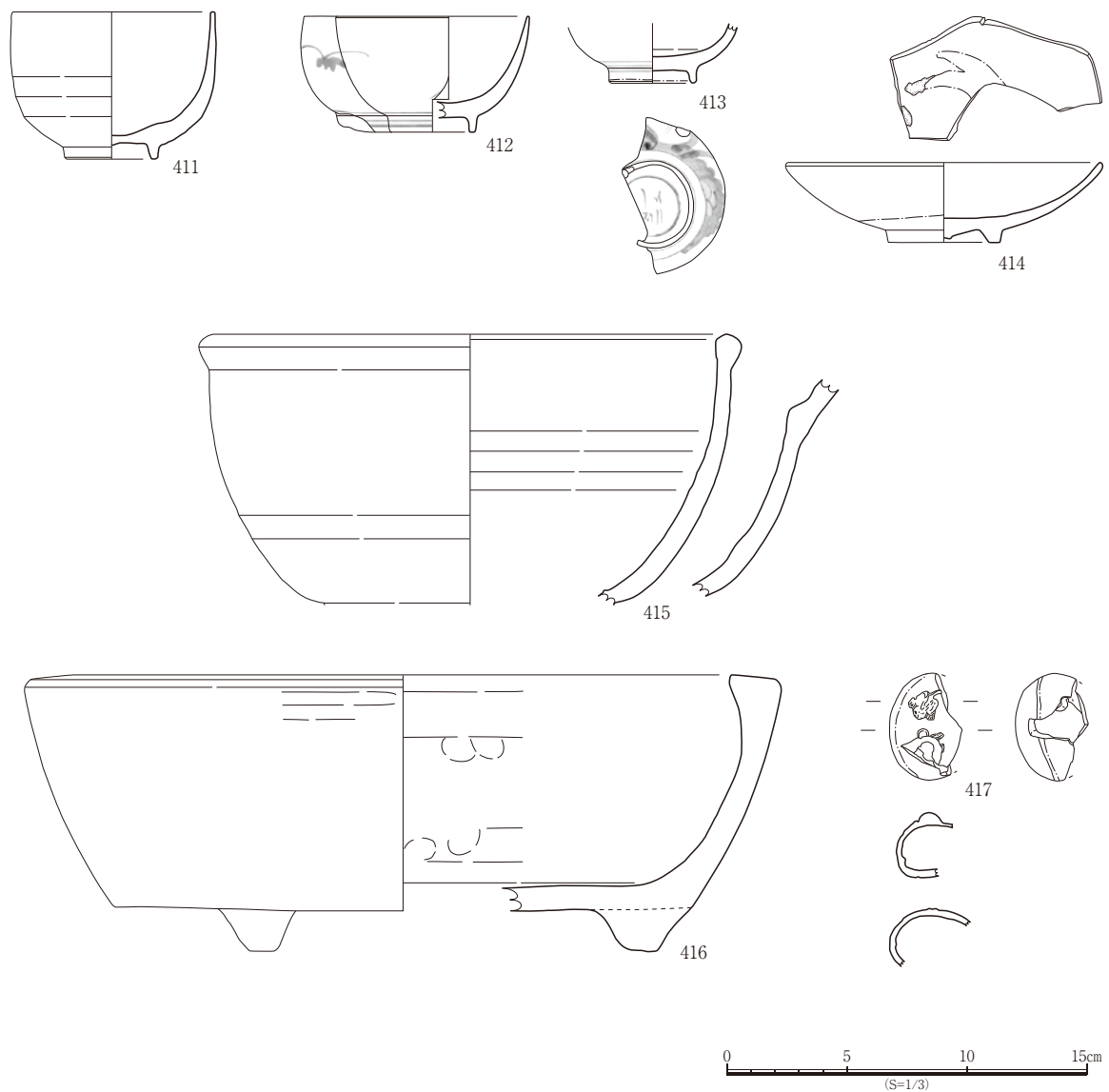


図166 1区 SK10 出土遺物実測図

SK68

SK68は平面形が不整形と推測される土坑である。長軸の検出長は1.23m, 短軸の検出長は0.90mを測り, 検出面からの深さは約8cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-51°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK69

SK69は平面形が楕円形の土坑である。長軸 1.46m, 短軸 0.98mを測り, 検出面からの深さは約 10 cmである。埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。主軸方向はN-32°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK70

SK70は平面形が隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は 1.43m, 短軸 1.14mを測り, 検出面からの深さは約9cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-84°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK71

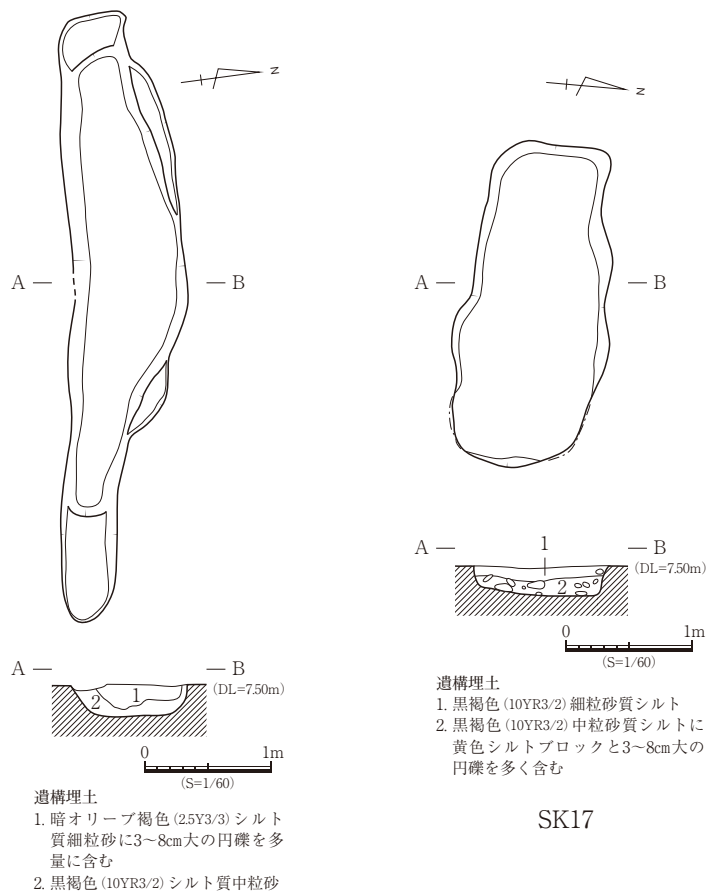
SK71は平面形が楕円形の土坑である。長軸 1.83m, 短軸 1.09mを測り, 検出面からの深さは約 10 cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-13°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK73

SK73は平面形が楕円形の土坑である。長軸 2.41m, 短軸 2.06mを測り, 検出面からの深さは 39 ~ 54 cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-66°-Wである。

図示した出土遺物はない。



SK14

SK17

図167 1区 SK14, SK17 平面図・断面図

土坑である。長軸2.31m, 短軸2.19mを測り, 検出面からの深さは約38cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-14° -Wである。

図示した出土遺物はない。

SK75

SK75は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸 1.89m, 短軸の検出長は 0.91mを測り, 検出面からの深さは約 37 cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-25° -Eである。

図示した出土遺物は, 磁器の折縁皿(433)である。透明釉を施釉し, 貫入がみられる。器面に染付文様が描かれる。高台脇に1条, 高台外面に二重界線, 高台内に1条の圈線が認められる。畳付に釉剥ぎを施す。

SK76

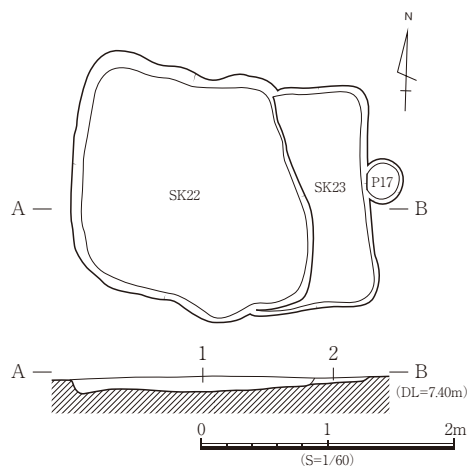
SK76は平面形が楕円形の土坑である。長軸0.84m, 短軸0.79mを測り, 検出面からの深さは約9cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-15° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SK77

SK77は平面形が楕円形の土坑である。長軸0.92m, 短軸0.77mを測り, 検出面からの深さは約8cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-20° -Wである。

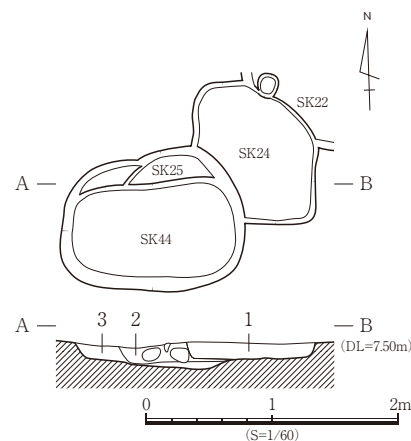
図示した出土遺物はない。



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂(SK22)
2. 暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂(SK23)

SK22・23



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに0.5cm大の黄色礫を多く含む(SK24)
2. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに10~15cm大の円礫を多量に含む(SK25)
3. 黒褐色(10YR2/3)シルト質細粒砂に2cm大の黄色礫を多く含む(SK44)

SK24・25・44

図168 1区 SK22・23, SK24・25・44 平面図・断面図

SK78

SK78は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸の検出長は0.88m，短軸0.86mを測り，検出面からの深さは約5cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-0°である。

図示した出土遺物はない。

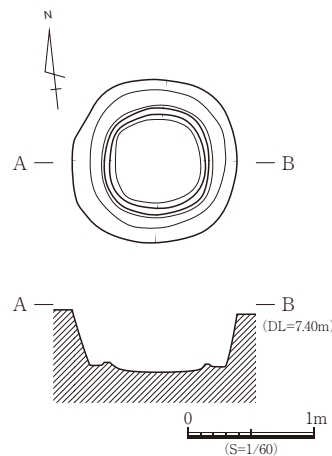


図169 1区 SK28 平面図・エレベーション図

SK79

SK79は平面形が長方形の土坑である。長軸2.38m，短軸1.37mを測り，検出面からの深さは約8cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-17°-Eである。

図示した出土遺物はない。

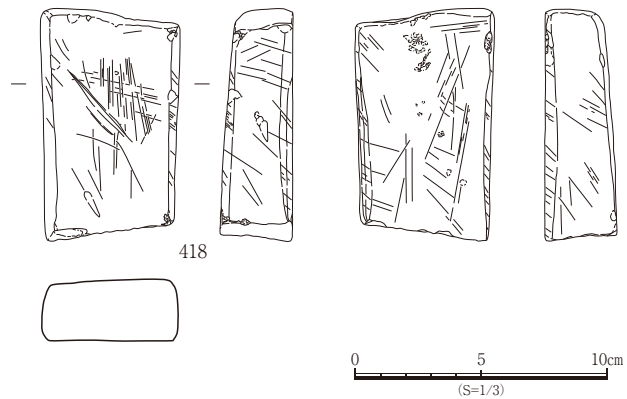


図170 1区 SK28 出土遺物実測図

SK80

SK80が平面形が隅丸方形と推測される土坑である。長軸2.14m，短軸の検出長は2.12mを測り，検出面からの深さは約39cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-5°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK82

SK82は平面形が楕円形の土坑である。長軸2.12m，短軸1.80mを測り，検出面からの深さは約6cmである。主軸方向はN-78°-Eである。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は，瓦質土器の焙烙の把手(434)である。器面の調整は粗雑である。基部は中空の筒状を呈する。

SK83

SK83は平面形が不整形と推測される土坑である。長軸の検出長は2.61m，短軸1.30mを測り，検出面からの深さは約20cmである。主軸方向はN-7°-Eである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SK84

SK84は平面形が隅丸方形の土坑である。長軸 1.86m，短軸 1.83mを測り，検出面からの深さは約 24cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-9° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SK85

SK85は平面形が不整形の土坑である。長軸 2.73m，短軸 2.06mを測り，検出面からの深さは約 75cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SK86

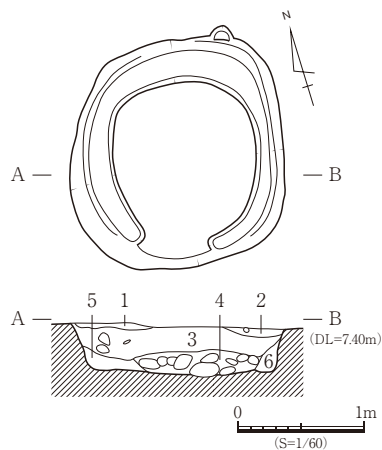
SK86は平面形が方形の土坑である。長軸 1.13m，短軸 1.08mを測り，検出面からの深さは約 19cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-63° -Wである。

図示した出土遺物は，土師質土器の皿(435)である。内外面とも回転ナデ調整で仕上げる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。

SK87

SK87は平面形が不整楕円形の土坑である。長軸 3.67m，短軸 1.80mを測り，検出面からの深さは 25～36cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-41° -Eである。

図示した出土遺物はない。



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/3)シルト質細粒砂に黄色シルトブロックを多く含む
2. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに5cm大の円礫を少量含む
3. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに3cm大の円礫を少量含む
4. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに5～20cm大の円礫を多量に含む
5. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量含む
6. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量含む

図171 1区 SK29 平面図・断面図

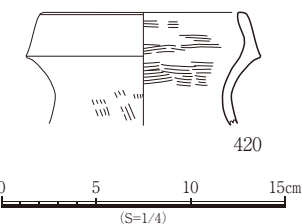
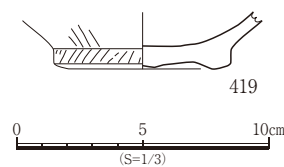


図172 1区 SK29 出土遺物実測図

第2節 1区

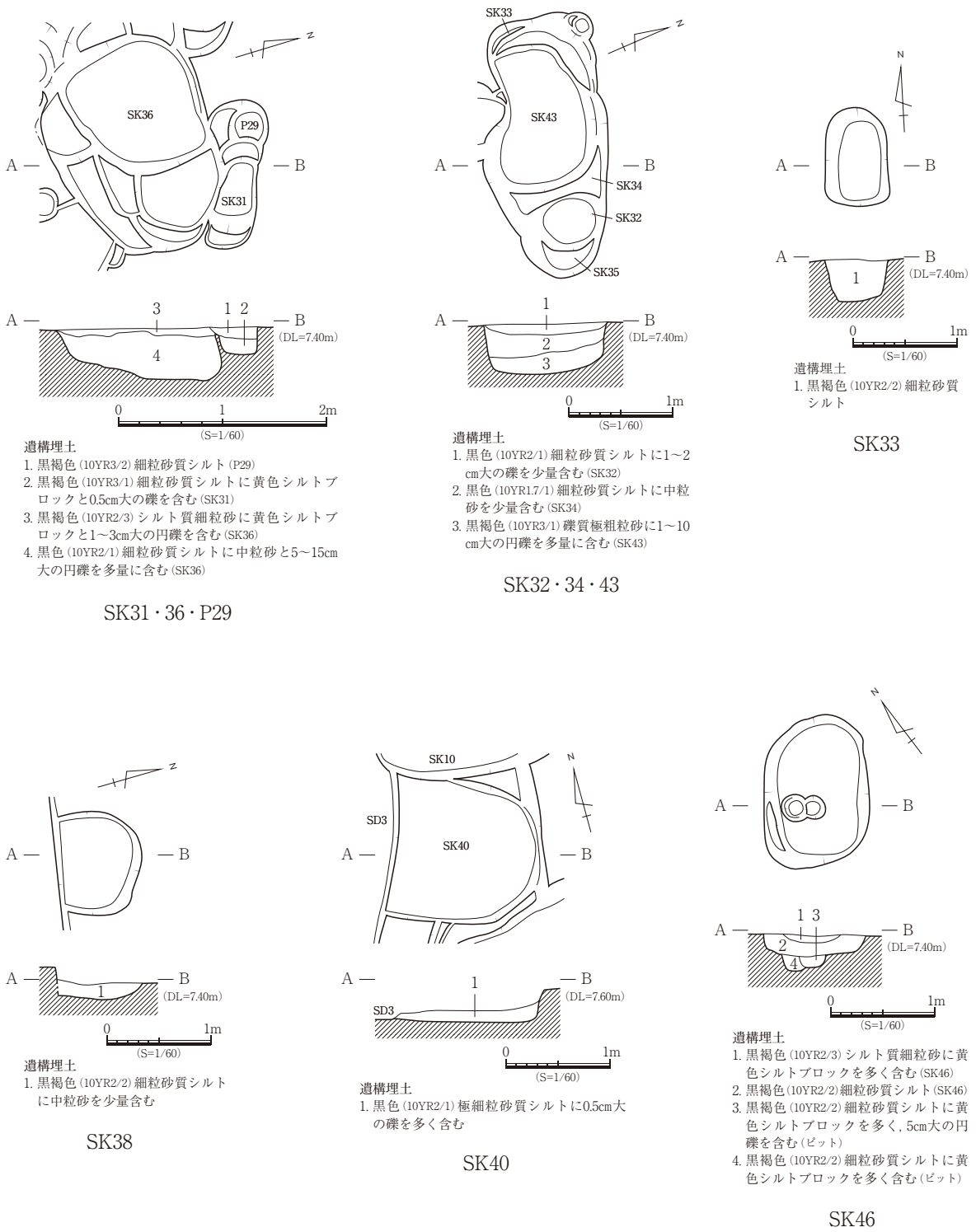


図173 1区 SK31・36・P29, SK32・34・43, SK33, SK38, SK40, SK46 平面図・断面図

SK88

SK88は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸の検出長は1.05m，短軸0.74mを測り，検出面からの深さは約12cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-76°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK89

SK89は平面形が長方形の土坑である。長軸1.32m，短軸0.91mを測り，検出面からの深さは約5cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-81°-Wである。

図示した出土遺物はない。

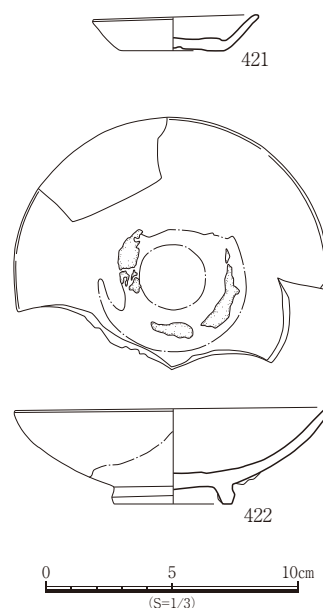


図174 1区 SK48 出土遺物実測図

SK90

SK90は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸2.21m，短軸の検出長は1.00mを測り，検出面からの深さは約30cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-8°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK91

SK91は土坑である。長軸の検出長は1.23m，短軸の検出長は0.25mを測り，検出面からの深さは約27cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-13°-Eである。

図示した出土遺物は，瓦質土器の三足鍋の脚(436)である。一部は面取り状を呈する。付け根部分から剥離する。

SK92

SK92は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸の検出長は1.20m，短軸の検出長は0.47mを測り，検出面からの深さは約23cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-63°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK93

SK93は土坑である。長軸の検出長は0.93m，短軸の検出長は0.52mを測り，検出面からの深さは約16cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-83°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK94

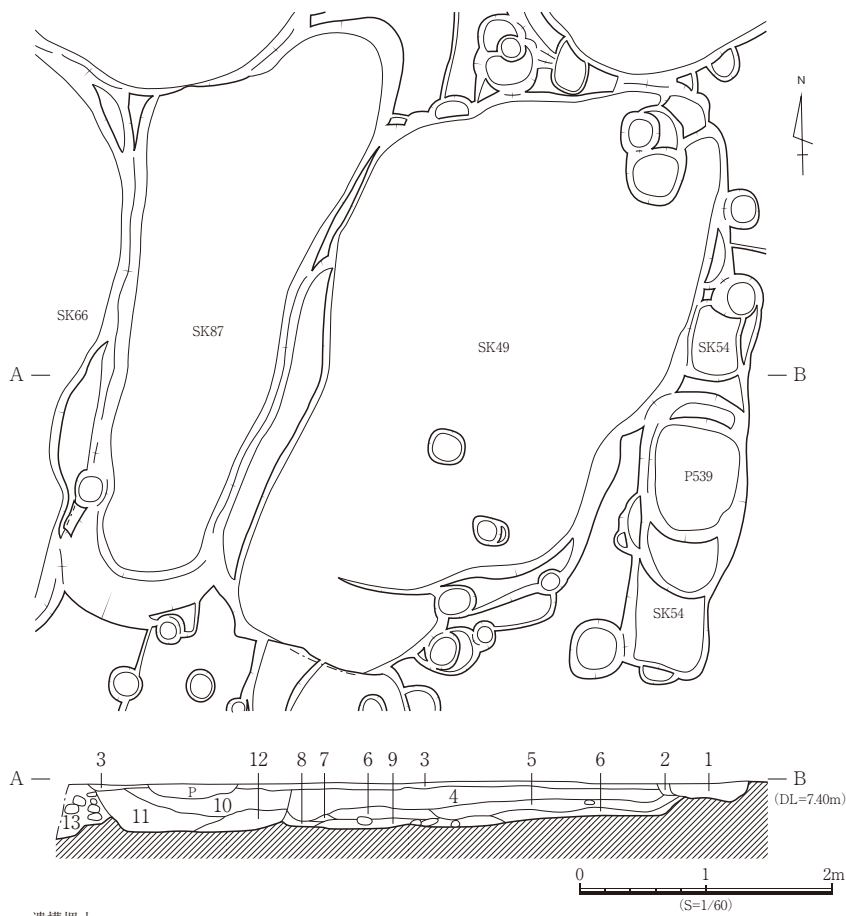
SK94は土坑である。長軸の検出長は0.90m，短軸の検出長は0.19mを測り，検出面からの深さは約15cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-3°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK95

SK95は平面形が不整楕円形の土坑である。長軸4.69m，短軸の検出長は4.24mを測り，検出面からの深さは約35cmである。主軸方向はN-85°-Wである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

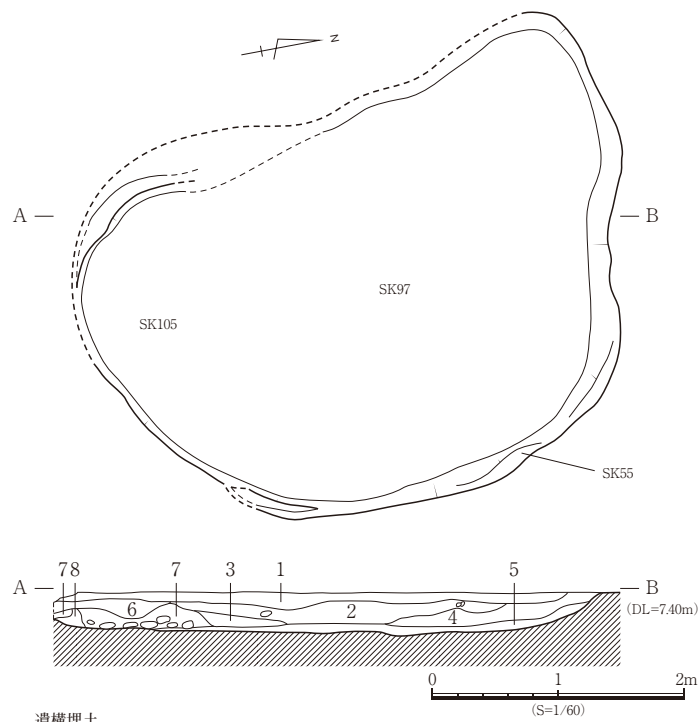
図示した出土遺物は，土師器の椀(437)である。体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は端反り気



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト(SK54)
2. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに0.5cm大の黄色礫を多く含む(SK54)
3. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに0.5cm大の黄色礫を多く含む(SK59)
4. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと5cm大の礫を少量含む(SK49)
5. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに3cm大の礫を少量含む(SK49)
6. 暗褐色(10YR3/4)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む(SK49)
7. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト(SK49)
8. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む(SK49)
9. 暗褐色(10YR3/4)細粒砂質シルトに5~10cm大の礫を多量に含む(SK49)
10. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに中粒砂と1~3cm大の礫を少量含む(SK87)
11. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに5cm大の礫を少量含む(SK87)
12. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと黄色礫を含む(SK87)
13. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに5~15cm大の円礫を多量に含む(SK66)

図175 1区 SK49・54・59・66・87 平面図・断面図



遺構埋土

1. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに0.5cm大の黄色礫を多く含む (SK55)
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに3~5cm大の礫を少量含む (SK97)
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む (SK97)
4. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルト (SK97)
5. 褐色 (10YR4/4) 細粒砂質シルト (SK97)
6. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと中粒砂を多く含む (SK49・SK105の埋土か)
7. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む (SK105)
8. オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 細粒砂質シルト (SK105)

図176 1区 SK49・55・105 平面図・断面図

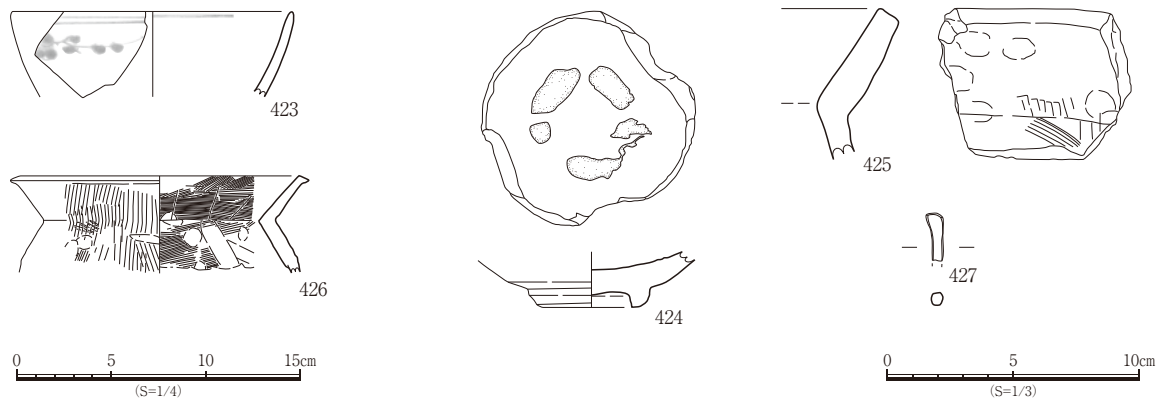
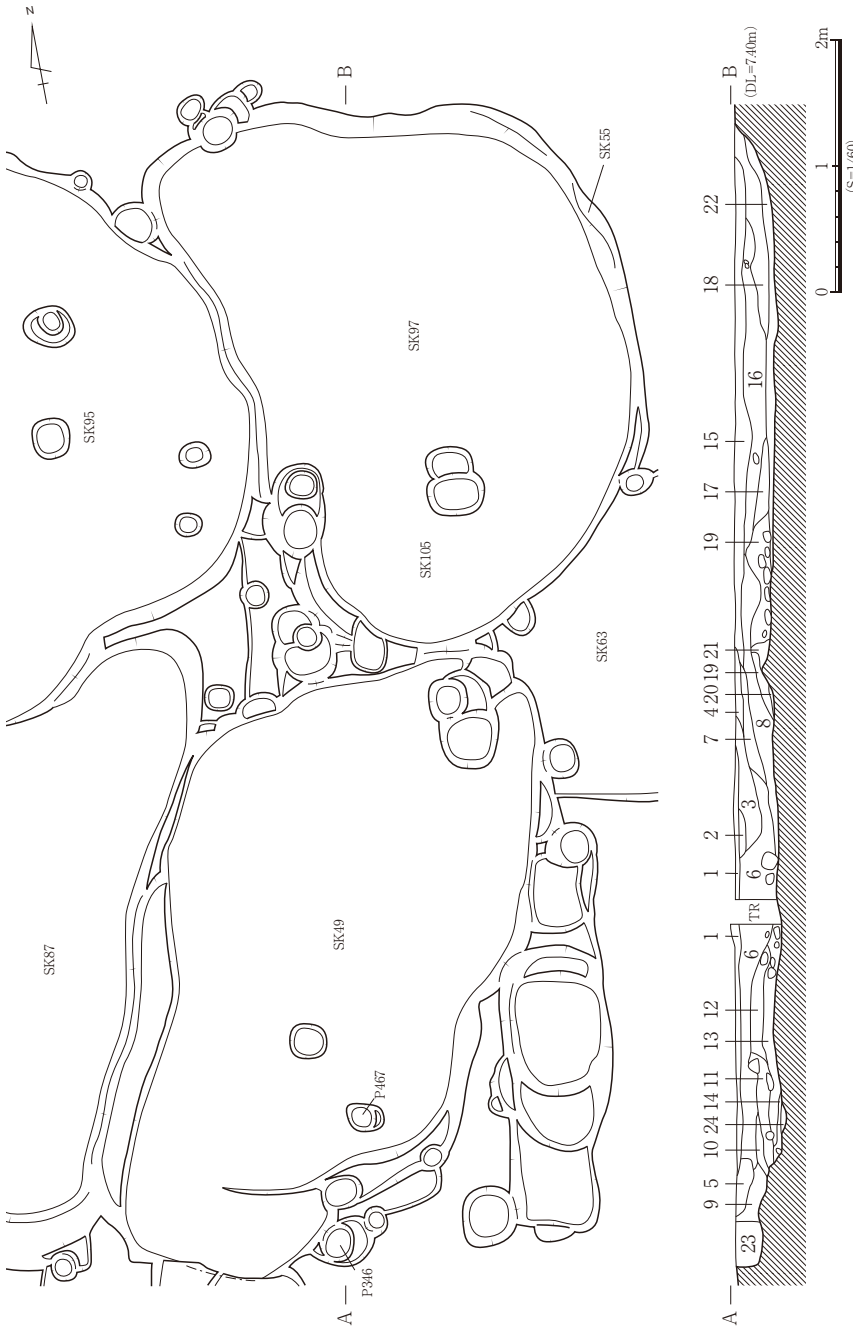


図177 1区 SK49 出土遺物実測図



- 遺構埋土
1. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに0.5cm大の黄色礫を多く含む(SK59)
 2. 黒色(10YR1/7)細粒砂質シルトに土器を含む(SK49)
 3. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに灰色シルトブロックを含む(SK49)
 4. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む(SK49)
 5. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト(SK49)
 6. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに灰白色シルトブロックを多く含む(SK49)
 7. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに1cm大の礫を少量含む(SK49)
 8. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと中粒砂を多く含む(SK49)
 9. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む(SK49)
 10. にぶい黄褐色(10YR5/4)細粒砂質シルトに粗粒砂を含む(SK49)
 11. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに5cm大の礫を少量含む(SK49)
 12. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに3cm大の礫を少量含む(SK49)
 13. 暗褐色(10YR3/4)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む(SK49)
 14. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む(SK49)
 15. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに0.5cm大の黄色礫を多く含む(SK55)
 16. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに3-5cm大の礫を少量含む(SK97)
 17. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む(SK97)
 18. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト(SK97)
 19. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む(SK106)
 20. 褐色(10YR4/4)細粒砂質シルト(SK105)
 21. オリーブ褐色(2.5Y4/6)細粒砂質シルト(SK105)
 22. 褐色(10YR4/4)細粒砂質シルト(SK97)
 23. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む(P346)
 24. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト(P467)

図178 1区 SK49・55・59・97・105・P346 平面図・断面図

味に外反し、端部は肥厚して丸くおさめる。底部の形状は僅かに段を成す。内外面とも回転ナデ調整を施し、外面にはロクロ目痕がみられる。

SK96

SK96は平面形が不整楕円形の土坑である。長軸の検出長は1.58m、短軸1.19mを測り、検出面からの深さは9～25cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-20°-Wである。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(438)である。平底から体部は内湾気味に大きくひろく。内底面にロクロ目痕を有するが、摩耗により不明瞭である。全体的に摩耗する。

SK101

SK101は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.28m、短軸1.01mを測り、検出面からの深さは約21cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

SK102

SK102は平面形が楕円形の土坑である。長軸2.12m、短軸1.02mを測り、検出面からの深さは約33cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-6°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK103

SK103は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.04m、短軸の検出長は0.85mを測り、検出面からの深さは11～28cmである。主軸方向はN-32°-Eである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

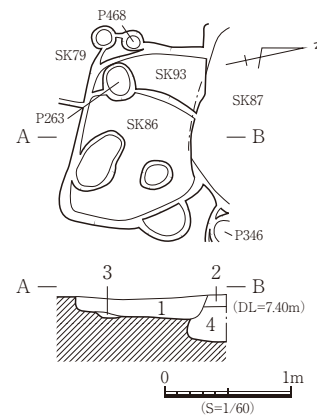
図示した出土遺物はない。

SK105

SK105は土坑である。重複が激しく平面形・規模等不明である。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-32°-Wである。

図示した出土遺物は、土師質土器の杯(439～441)、釘(442・443)である。

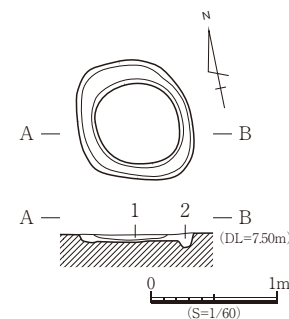
439は土師質土器の杯である。内底中央は回転成



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む(SK86)
2. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに黄褐色シルトブロックを少量含む(SK93)
3. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト(ピット)
4. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに1cm大の礫を少量含む(SK87)

図179 1区 SK86・87・93 平面図・断面図



遺構埋土

1. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト

図180 1区 SK51 平面図・断面図



- 遺構埋土
1. 黒褐色 (10YR3/2) シルト質細粒砂に5~10cm大の円礫を少量に含む (SK92)
 2. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに10~20cm大の円礫を少量に含む (SK53)
 3. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を少量含む (SK60)
 4. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと1cm大の礫を含む (SK59)
 5. 黒褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルトに3~5cm大の礫を少量含む (SK58)
 6. 暗褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに10cm大の礫を少量含む (SK58)
 7. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに3cm大の礫を少量含む (SK95か)
 8. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに3cm大の礫を少量含む (P289 [SK95か])
 9. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに10cm大の礫を少量含む (SK95か)
 10. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を少量含む (SK49)
 11. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと0.5cm大の礫を少量含む (SK95)
 12. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに5~20cm大の礫を多く含む (SK95か)
 13. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多量に含む (SK95か)
 14. 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂質シルト (SK95)
 15. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を多量に、黄色ブロックと5cm大の礫を含む (SK87)
 16. 黒色 (10YR1/7) 細粒砂質シルト (SK87か)
 17. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む (SK87か)
 18. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに中粒砂を少量含む (SK87)
 19. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む (SK87)
 20. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1cm大の礫を少量含む (SK49)

図181 1区 SK53・58・63・64・87・92・95・P289・465 平面図・断面図

形により僅かに凸状を成すが、摩耗のため不明瞭である。底部内縁に沈線状痕が認められる。ほぼ完形である。全体的に摩耗する。440は土師質土器の杯である。体部は僅かに内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施し、外面にはロクロ目痕がみられる。底部には回転糸切り痕跡がみ

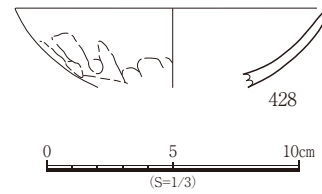
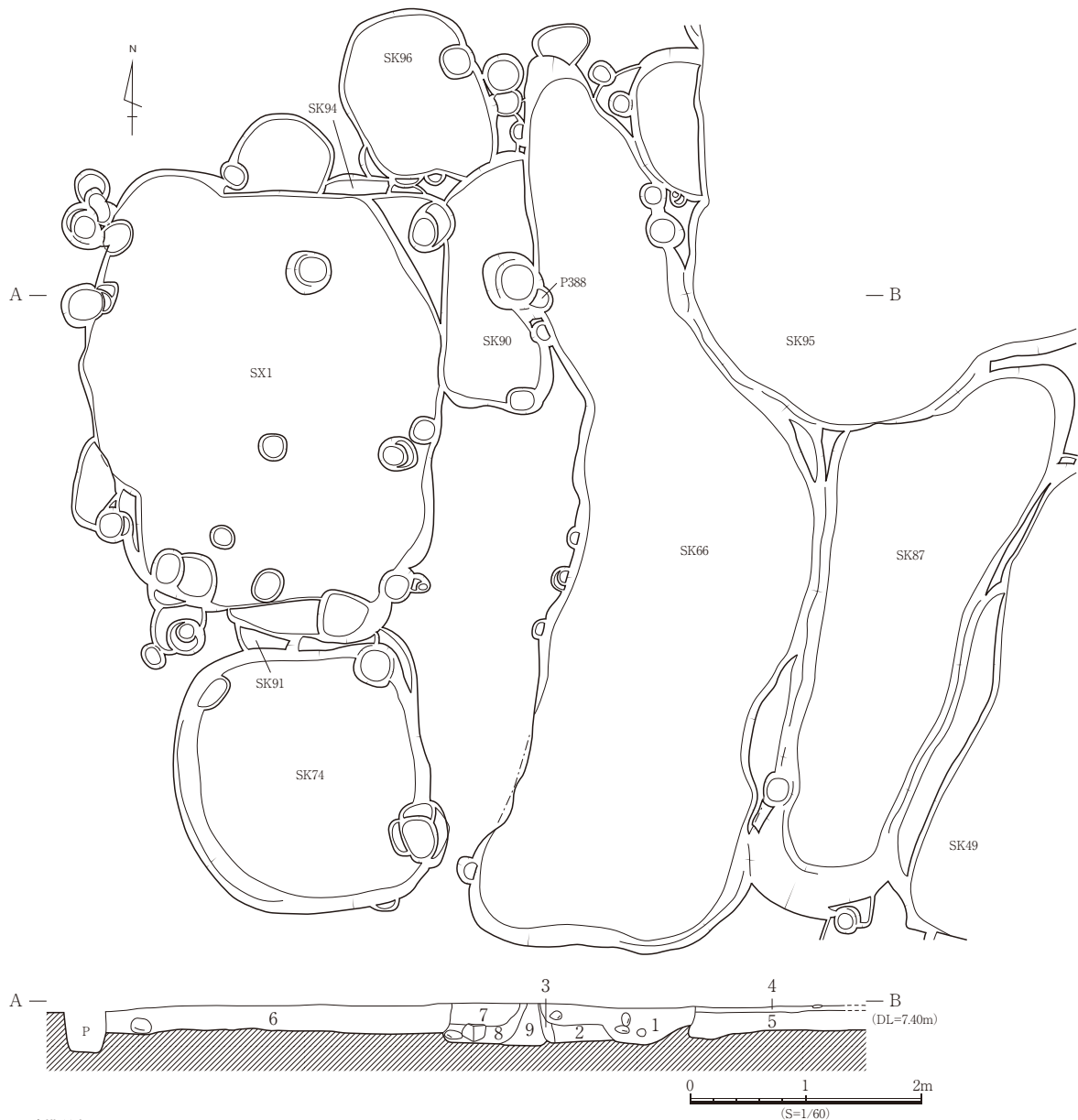


図182 1区 SK55 出土遺物実測図



遺構埋土

- | | |
|---|--|
| 1. 黒色 (10YR2/1) 中粒砂質シルトに1~10cm大の礫を多量に含む (SK66) | 6. 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂質シルトに0.5cm大の黄色礫を含む (SX1) |
| 2. 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルトに粗粒砂と5cm大の礫を少量含む (SK66) | 7. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルト (SK90) |
| 3. 黒褐色 (10YR2/2) 中粒砂質シルトに黄色ブロックを多く含む (SK66) | 8. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに黄色礫を少量含む (SK90) |
| 4. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに黄色礫を少量含む (SK58) | 9. 黒褐色 (10YR2/2) シルト質細粒砂 (P388) |
| 5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに3cm大の礫を少量含む (SK95) | |

図183 1区 SK58・66・90・95・SX1・P388 平面図・断面図

られる。441は土師質土器の杯である。内外面とも回転ナデ調整を施し、外面にはロクロ目痕がみられる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。442は釘である。頭部は僅かに逆「L」字形を呈する。胴部の断面形は四角形を呈する。先端部は欠損する。443は釘である。頭部は僅かに逆「L」字形に肥厚するが、剥離が激しい。胴部の断面形は四角形を呈する。先端部を欠損する。

SK106

SK106は平面形が楕円形の土坑である。長軸2.26m，短軸2.02mを測り，検出面からの深さは約47cmである。主軸方向はN-83°-Eである。埋土は暗褐色(10YR3/4)中粒砂質シルト・黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SK107

SK107は平面形が隅丸方形の土坑である。長軸1.64m，短軸1.13mを測り，検出面からの深さは約31cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-7°-Wである。

図示した出土遺物はない。

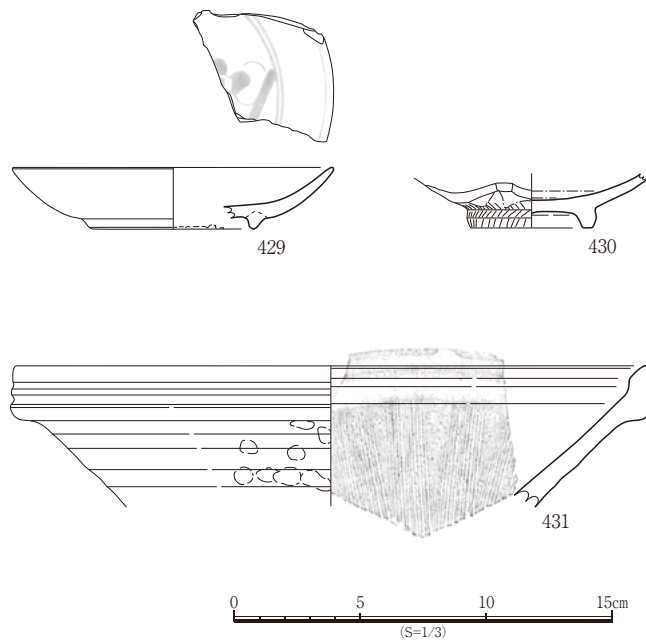


図184 1区 SK58 出土遺物実測図

SK108

SK108は平面形が方形と推測される土坑である。長軸の検出長は1.22m，短軸の検出長は2.17mを測り，検出面からの深さは約7cmである。埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。主軸方向はN-10°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK110

SK110は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.16m，短軸1.00mを測り，検出面からの深さは3.4～11.3cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-1°-Eである。

図示した出土遺物はない。

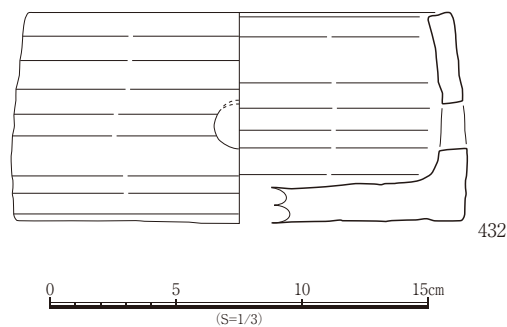
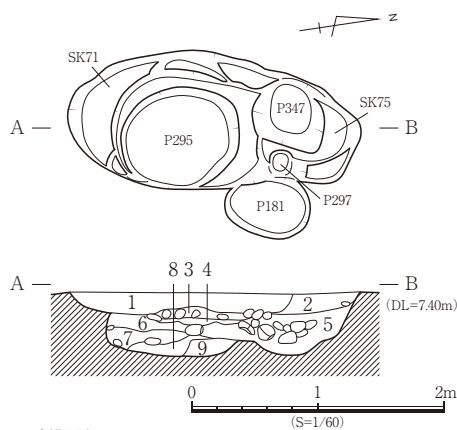


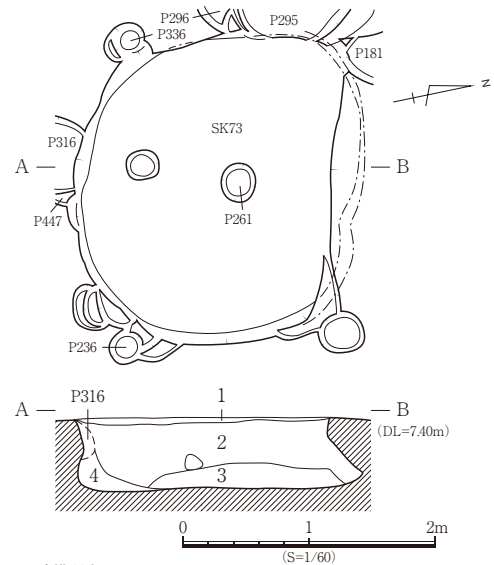
図185 1区 SK66 出土遺物実測図



遺構埋土

1. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルト (SK71)
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト (SK75)
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに5~10cm大の礫を多く含む (SK75)
4. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多量に含む (SK75)
5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに5~15cm大の礫を多量に含む (SK75)
6. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト (P295)
7. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに8~15cm大の礫を含む (P295)
8. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに中粒砂と黄色シルトブロックを多く含む (P295)
9. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多量に含む (SK75)

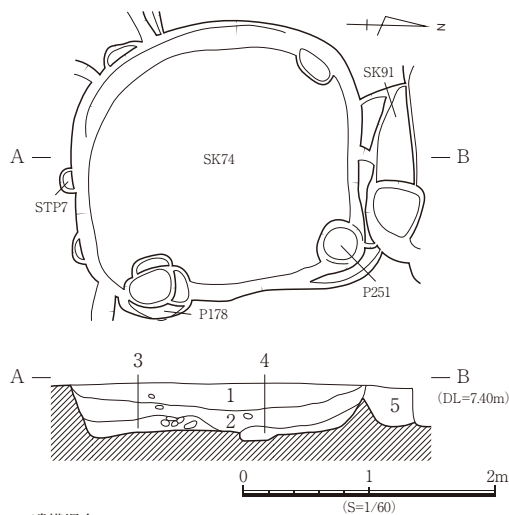
SK71・75・P295



遺構埋土

1. 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂質シルト
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1~5cm大の円礫を含む
3. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに5~10cm大の円礫を多量に含む
4. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに3cm大の礫を少量含む

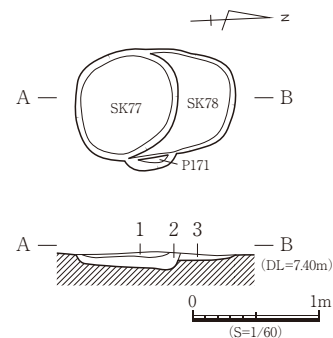
SK73



遺構埋土

1. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに1~2cm大の礫を少量含む (SK74)
2. 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂質シルト (SK74)
3. 黒褐色 (10YR3/2) 中粒砂質シルトに3~10cm大の礫を多量に含む (SK74)
4. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多量に含む (SK74)
5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む (SK91)

SK74・91



遺構埋土

1. 黒褐色 (10YR2/2) シルトに0.5cm大の黄色礫を多く含む (SK77)
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む (SK77)
3. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量含む (SK78)

SK77・78

図186 1区 SK71・75・P295, SK73, SK74・91, SK77・78 平面図・断面図

SK111

SK111 は平面形が不整形の土坑である。長軸2.26m, 短軸1.71mを測り, 検出面からの深さは32~48cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質細粒砂他である。主軸方向はN-60°-Wである。

図示した出土遺物はない。

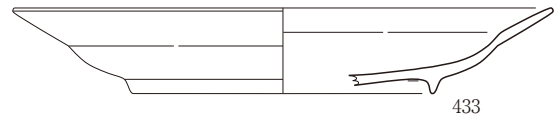


SK112

SK112 は平面形が方形と推測される土坑である。長軸3.76m, 短軸の検出長は2.62mを測り, 検出面からの深さは51~67cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂他である。主軸方向はN-79°-Wである。

図示した出土遺物は, 磁器の皿(444), 轆の羽口(445)である。

444 は磁器の皿である。染付文様を描く。見込みには蛇の目状の釉剥ぎを施す。外面上位に透明釉を施釉し, 灰白色の釉溜りがみられる。下位及び高台は露胎する。445 は轆の羽口である。円筒形を呈し, 入り口側の孔径は3.5 cm, 出口の側孔は径3.0 cmである。鍛冶残滓が熔着する。両端は欠損する。



433

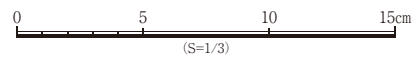
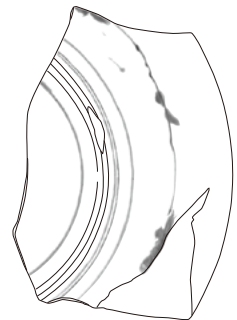


図187 1区 SK75 出土遺物実測図

SK113

SK113 は平面形が不整形と推測される土坑である。長軸5.92m, 短軸の検出長は1.44mを測り, 検出面からの深さは約95 cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-75°-Wである。

図示した出土遺物は, 磁器の碗(446), 丸瓦(447), 弥生土器の壺(448)である。

446 は磁器の碗である。透明釉を施釉し, 貫入・ピンホールがみられる。器面に染付文様を描く。高台脇に1条, 高台外面に二重界線を描く。畳付に重ね焼き痕跡が認められる。447 は丸瓦である。凸面は板状原体によるナデ調整, 玉縁はハケ調整である。凹面には布目圧痕が認められる。448 は弥生土器の壺である。口縁部は大きくひらき, 口唇部は強いヨコナデ調整により面を取り, 僅かに上方へ摘み上げる。口縁端部はヨコナデ調整で仕上げる。口縁部外面はタテハケ調整, 内面はヨコハケ調整である。

SK114

SK114 は平面形が不整形楕円形の土坑である。長軸1.11m, 短軸0.81mを測り, 検出面からの深さは約13cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-76°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK115

SK115は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸の検出長は0.73m，短軸の検出長は0.90mを測り，検出面からの深さは約40cmである。

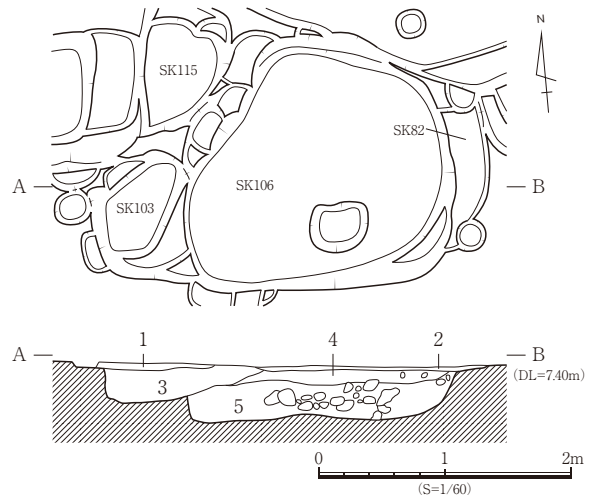
図示した出土遺物はない。

SK117

SK117は平面形が方形と推測される土坑である。長軸の検出長は2.53m，短軸の検出長は2.24mを測り，検出面からの深さは約21cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-79°-Wである。

図示した出土遺物は，須恵器の蓋か(449)・壺(450)である。

449は須恵器の蓋か。天井部は平坦で丸みを帯びる。外面には回転ヘラケズリ調整を施す。焼成不良である。450は須恵器の壺である。口縁部は短く外反し，端部は上方に拡張して面を取る。外面には格子状の叩き目がみられる。内面は荒れる。



- 遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む(SK83)
 2. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに0.5cm大の黄色礫を含む(SK82)
 3. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに0.5cm大の黄色礫と1cm大の礫を少量含む(SK103)
 4. 暗褐色(10YR3/4)中粒砂質シルトに3-5cm大の礫を多く含む(SK106)
 5. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量，5-10cm大の円礫を多量に含む(SK106)

図188 1区 SK82・83・103・106 平面図・断面図

SK118

SK118は平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸2.72m，短軸2.14mを測り，検出面からの深さは約48cmである。埋土は黒褐色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-16°-Eである。

図示した出土遺物は，土師質土器の皿(451)である。内外面とも回転ナデ調整である。底部には回転糸切り痕跡がみられる。口縁部の2ヶ所に灯芯油痕がみられ，灯明皿として使用されている。

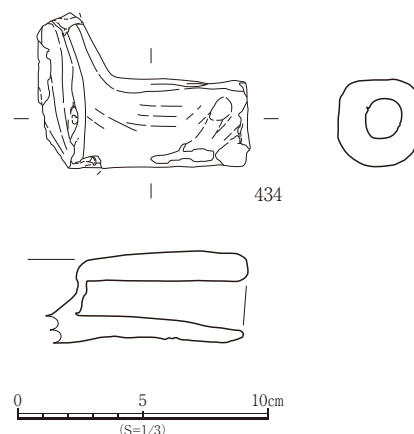


図189 1区 SK82 出土遺物実測図

SK119

SK119は平面形が不整形の土坑である。長軸の検出長は1.87m，短軸0.43mを測り，検出面からの深さは約10cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-74°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK120

SK120 は土坑である。長軸の検出長は 2.03m，短軸の検出長は 0.58m を測り，検出面からの深さは約 22cm である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向は N-82° -W である。

図示した出土遺物はない。

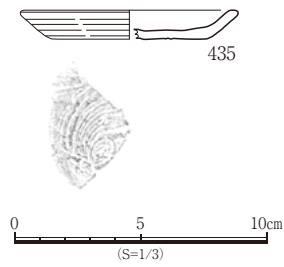


図190 1区 SK86 出土遺物実測図

SK121

SK121 は平面形が楕円形の土坑である。長軸 1.89m，短軸 1.22m を測り，検出面からの深さは約 2cm である。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向は N-5° -E である。

図示した出土遺物はない。

SK122

SK122 は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸の検出長は 1.41m，短軸の検出長は 2.02m を測り，検出面からの深さは約 5cm である。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向は N-82° -E である。

図示した出土遺物はない。

SK123

SK123 は平面形が長方形の土坑である。長軸 3.48m，短軸 1.51m を測り，検出面からの深さは約 43cm である。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向は N-13° -E である。

図示した出土遺物はない。

SK124

SK124 は平面形が方形の土坑である。長軸 1.35m，短軸 1.20m を測り，検出面からの深さは約 12cm である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向は N-27° -E である。

図示した出土遺物はない。

SK125

SK125 は平面形が不整楕円形の土坑である。長軸 3.81m，短軸 1.65～2.00m を測り，検出面からの深さは約 11cm である。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向は N-7° -E である。

図示した出土遺物はない。

SK126

SK126 は平面形が方形と推測される土坑である。長軸の検出長は 1.25m，短軸 1.34m を測り，検出面からの深さは約 17cm である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向は N-81° -W である。

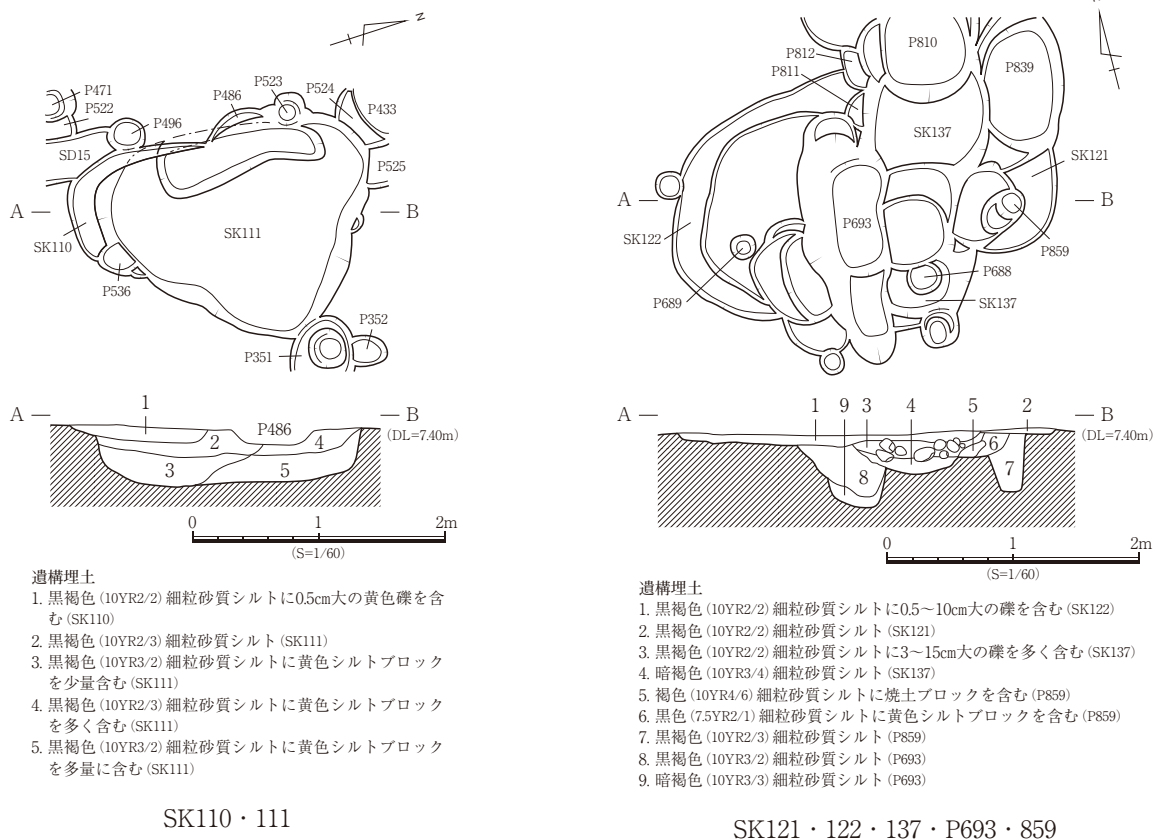
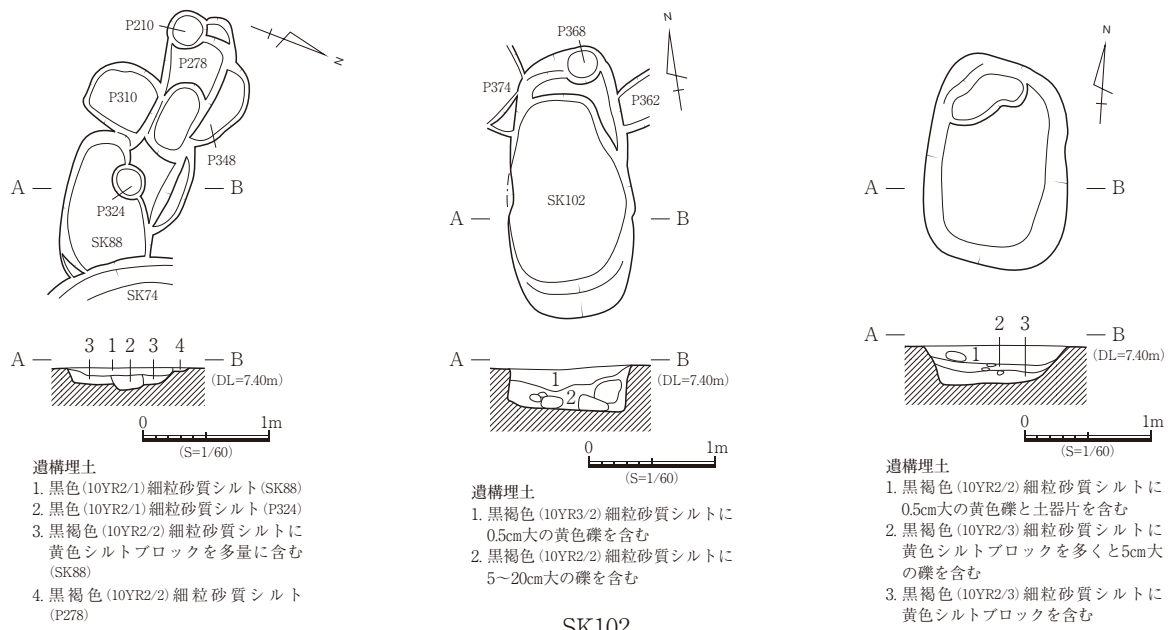


図191 1区 SK88・P278, SK102, SK107, SK110・111, SK121・122・137・P693・859 平面図・断面図

図示した出土遺物はない。

SK127

SK127は平面形が不整円形の土坑である。長軸1.94m，短軸1.91mを測り，検出面からの深さは約9cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-13°-Eである。

図示した出土遺物はない。

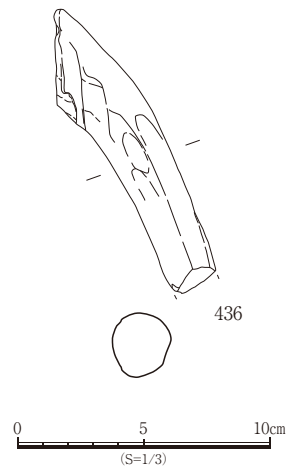


図192 1区 SK91 出土遺物実測図

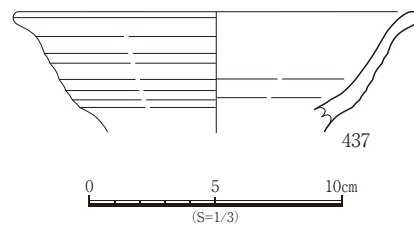


図193 1区 SK95 出土遺物実測図

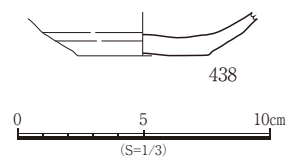


図194 1区 SK96 出土遺物実測図

SK128は平面形が隅丸方形の土坑である。長軸1.76m，短軸の検出長は1.45mを測り，検出面からの深さは約29cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-81°-Wである。

図示した出土遺物は，弥生土器の脚付鉢(452)である。低柱状の脚部は上げ底状を呈し，裾端部は丸くおさめる。体部外面は叩き調整後，タテハケ調整を施す。内面はナデ調整である。また，内底部は深くくぼむ。

SK129

SK129は平面形が不整楕円形の土坑である。長軸3.31m，短軸2.24mを測り，検出面からの深さは約26cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-89°-Wである。

図示した出土遺物は，磁器の皿(453・454)である。

453は近世磁器の皿である。器面に染付文様を描く。見込みに蛇の目状の釉剥ぎを施す。外面に透明釉を施釉し，灰白色の釉溜りがみられ，下位及び高台は露胎となる。454は近世磁器の皿である。やや青みがかかった白濁釉を施

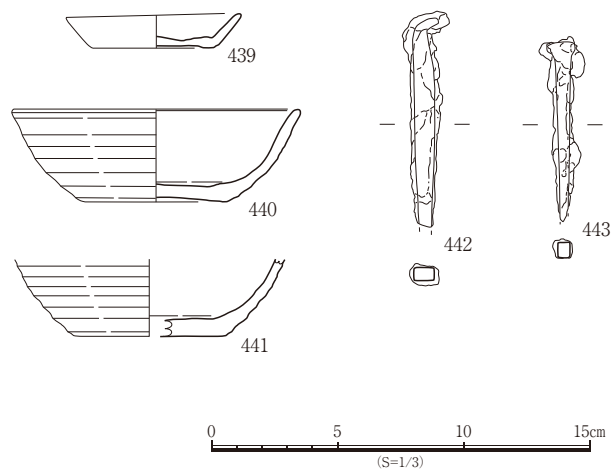


図195 1区 SK105 出土遺物実測図

釉する。見込みに蛇の目状の釉剥ぎを施し、砂目積み痕跡が認められる。畳付に粗砂が熔着する。

SK130

SK130は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.31m，短軸0.88mを測り，検出面からの深さは約7cmである。埋土は黄色シルトブロックを含む黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-79°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK131

SK131は平面形が隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は1.06m，短軸1.57mを測り，検出面からの深さは約19cmである。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-8°-Eである。

図示した出土遺物はない。

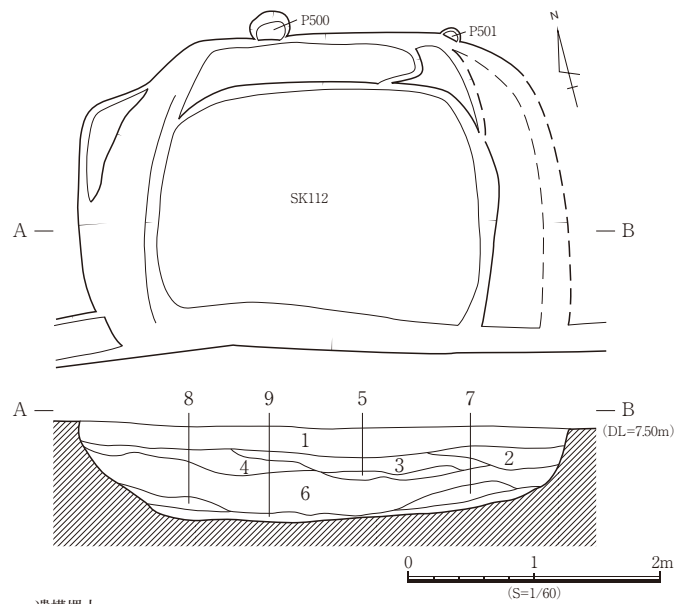
SK132

SK132は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.42m，短軸1.06mを測り，検出面からの深さは約17cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-7°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK133

SK133は平面形が楕円形の土坑である。長軸2.19m，短軸



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂に黄色シルトブロックと0.5~5cm大の礫を含む
2. 黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂に3~5cm大の礫を含む
3. 黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂に黄色シルトブロックを含む
4. 黒褐色(10YR2/3)シルト質細粒砂にハンダと0.5~10cm大の礫を含む
5. 黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂に炭化物を含む
6. 黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂に1cm大の礫を多く、5~10cm大の礫を含む
7. 黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂に0.5cm大の礫を含む
8. 黒色(7.5YR2/1)細粒砂質シルトに0.5cm大の礫を多く含む
9. 黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂に黄色シルトブロックを多く含む

図196 1区 SK112 平面図・断面図

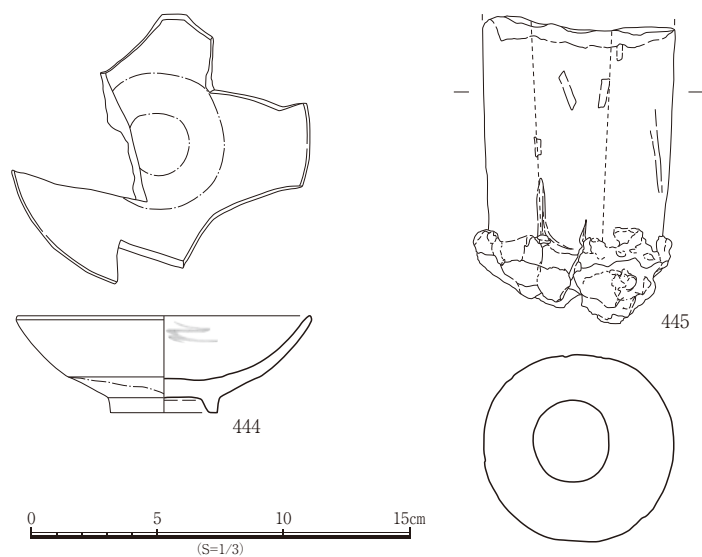
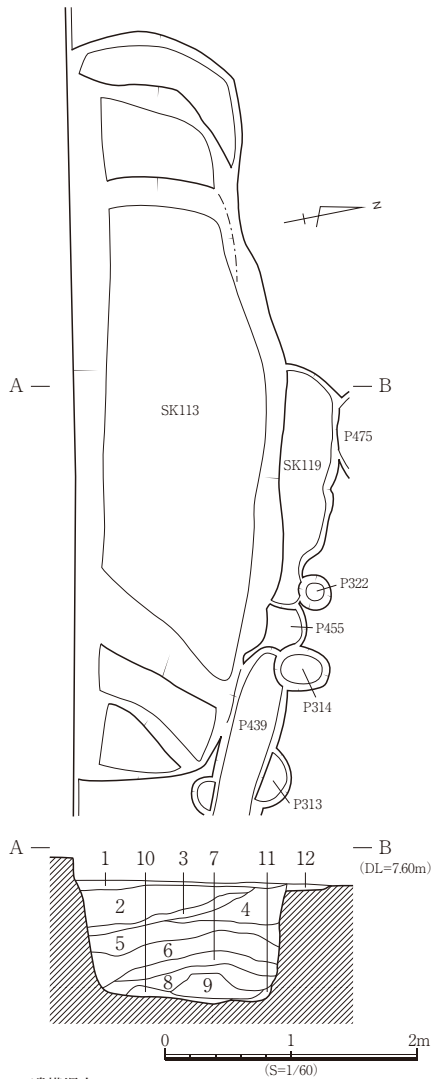


図197 1区 SK112 出土遺物実測図



遺構埋土

1. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルト (SK113)
2. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに3~5cm大の礫を含む (SK113)
3. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと3~5cm大の礫を多く含む (SK113)
4. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1~3cm大の礫を含む (SK113)
5. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに1~5cm大の礫を多く含む (SK113)
6. 黒色 (10YR2/1) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと1cm大の礫を含む (SK113)
7. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと1~3cm大の礫を多く含む (SK113)
8. 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに3cm大の礫を少量含む (SK113)
9. 黄褐色 (10YR5/6) シルト (SK113)
10. 褐色 (10YR4/4) 中粒砂質シルト (SK113)
11. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 中粒砂 (SK113)
12. 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂質シルト (SK119)

図198 1区 SK113・119 平面図・断面図

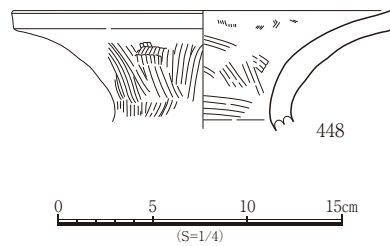
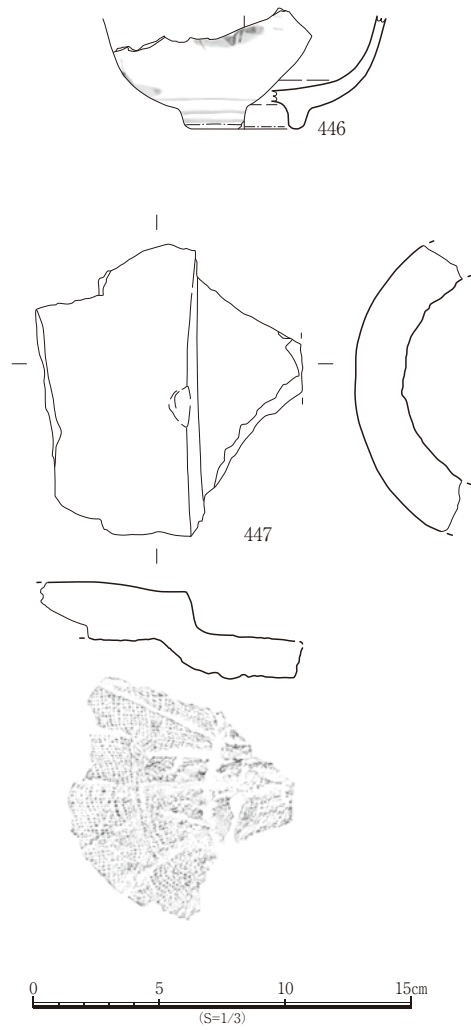


図199 1区 SK113 出土遺物実測図

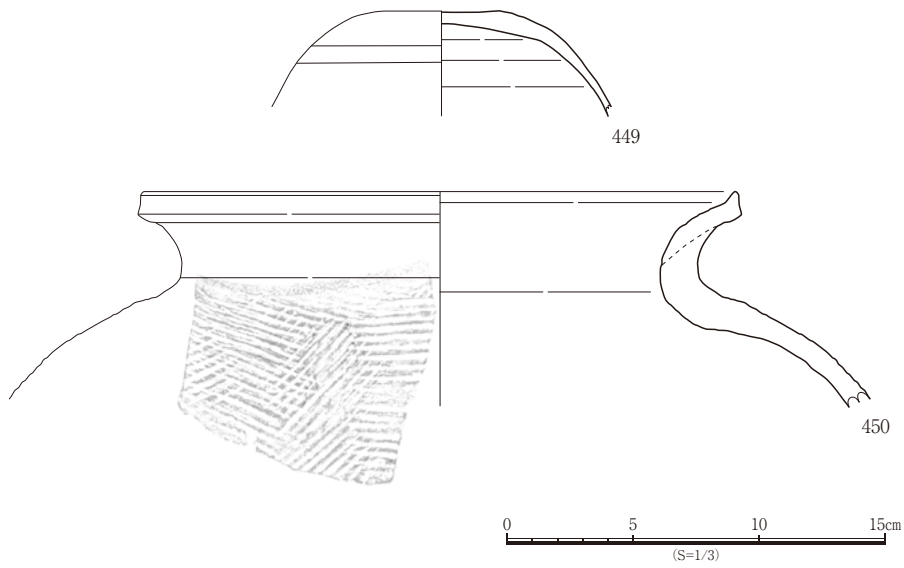
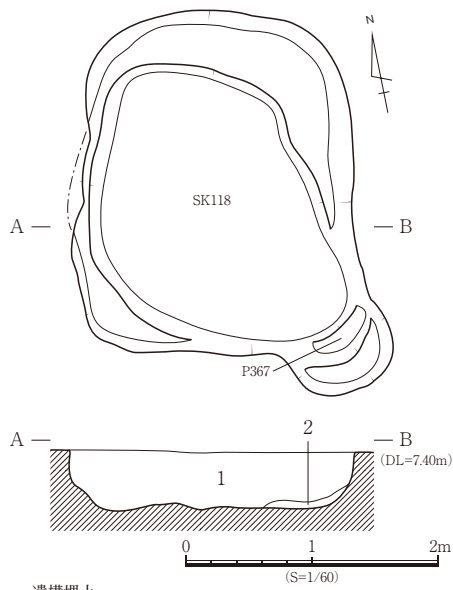


図200 1区 SK117 出土遺物実測図



遺構埋土

1. 黒色 (10YR2/2) 細粒砂質シルトに0.5cm大の礫を多く含む
2. におい黄褐色 (10YR4/3) 粘土質シルトに粗粒砂を含む

図201 1区 SK118 平面図・断面図

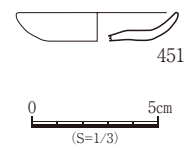
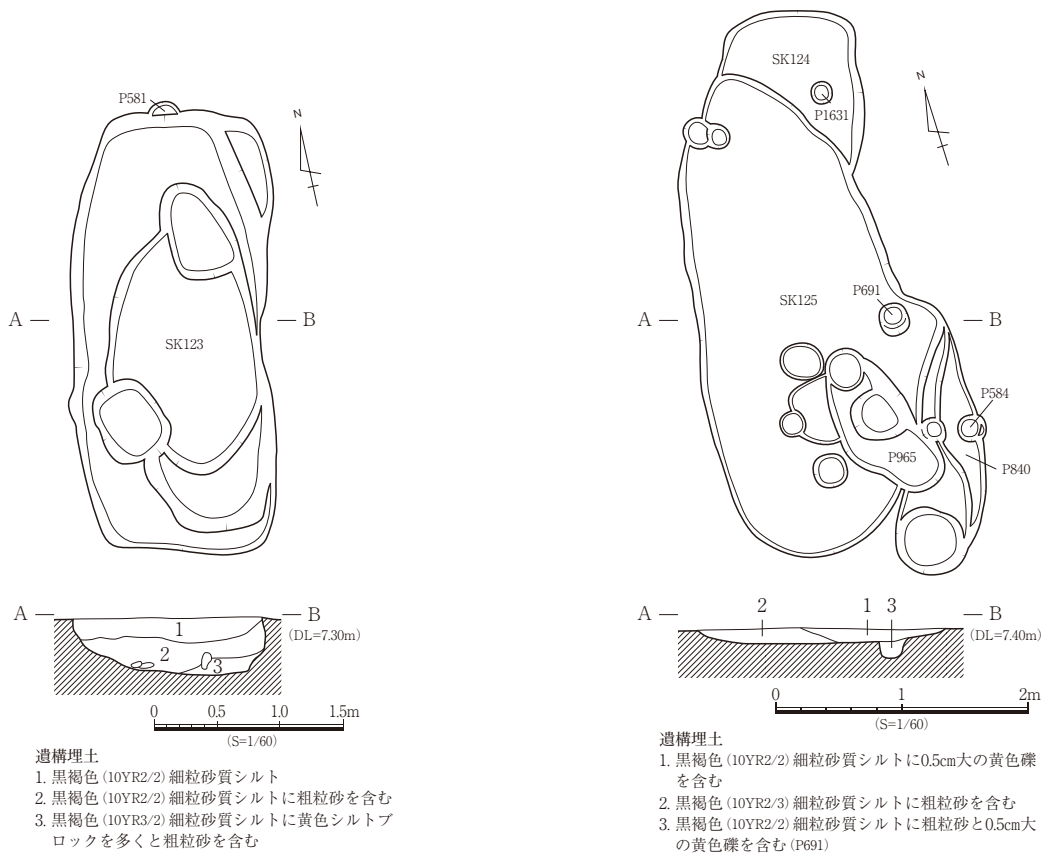
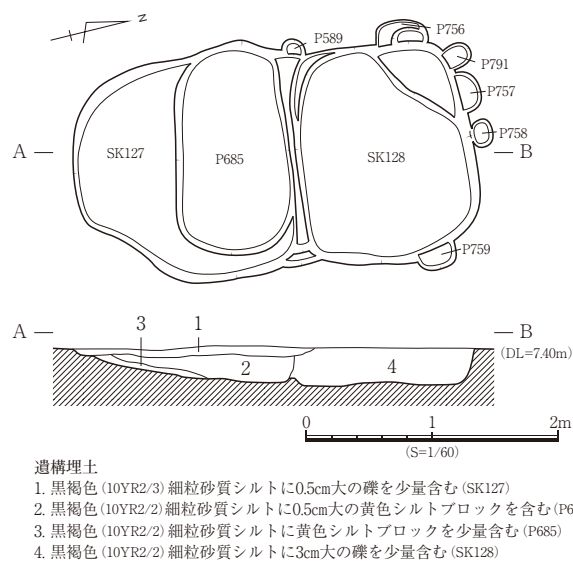


図202 1区 SK118 出土遺物実測図



SK123

SK125・P691



SK127・128・P685

図203 1区 SK123, SK125・P691, SK127・128・P685 平面図・断面図

1.22mを測り、検出面からの深さは約55cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-75°-Wである。

図示した出土遺物はない。

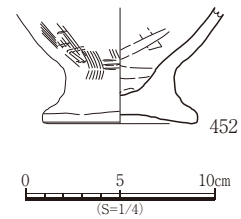


図204 1区 SK128 出土遺物実測図

SK134

SK134は平面形が隅丸方形の土坑である。長軸1.56m, 短軸1.52mを測り、検出面からの深さは約19cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-20°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK135

SK135は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸の検出長は0.98m, 短軸1.07mを測り、検出面からの深さは約10cmである。埋土は黒色(7.5YR2/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-10°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK136

SK136は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.58m, 短軸0.66mを測り、検出面からの深さは約8cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-46°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK137

SK137は平面形が長方形と推測される土坑である。長軸3.12m, 短軸0.90~1.10mを測り、検出面からの深さは約37cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-22°-Eである。

図示した出土遺物はない。

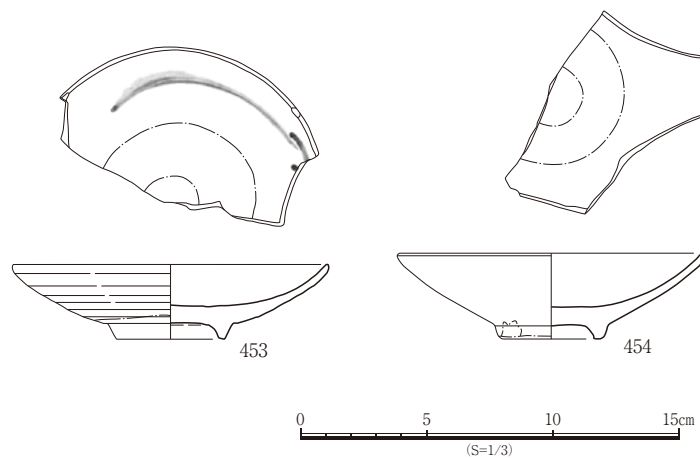


図205 1区 SK129 出土遺物実測図

SK138

SK138は平面形が長方形の土坑である。長軸2.26m, 短軸1.53mを測り、検出面からの深さは約13cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SK139

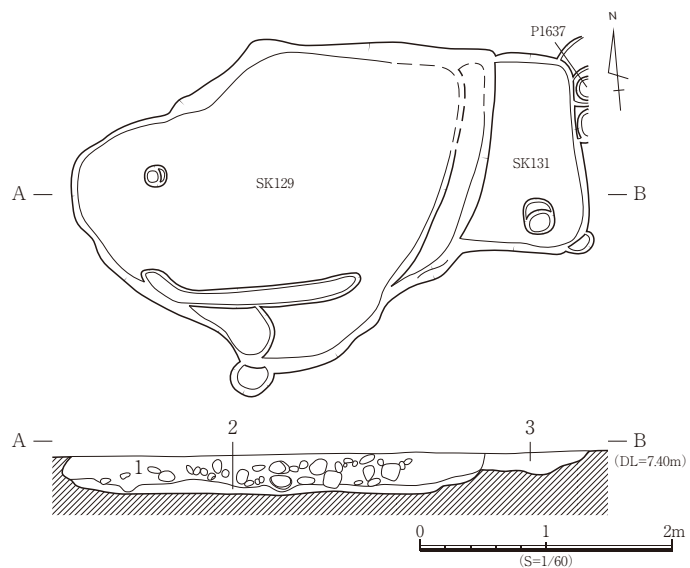
SK139は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.34m、短軸の検出長は0.89mを測り、検出面からの深さは約34cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-13°-Eである。

図示した出土遺物は、刀子(455)である。匕首状を呈し、ほぼ全形が把握できる。

SK140

SK140は平面形が長方形の土坑である。長軸4.81m、短軸2.12mを測り、検出面からの深さは約45cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-16°-Eである。

図示した出土遺物は、土師質土器の杯(456)である。器高に比して大きめの底部から体部は逆「ハ」の字形に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。回転ナデ調整を施し、内外面にロクロ目痕が認められる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。焼成はやや軟質である。



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに5~15cm大の円礫を多量に含む(SK129)
2. 黒褐色(10YR3/2)粘土質シルトに黄色シルトブロックを含む(SK129)
3. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに5~10cm大の円礫を少量含む(SK131)

図206 1区 SK129・131 平面図・断面図

SK141

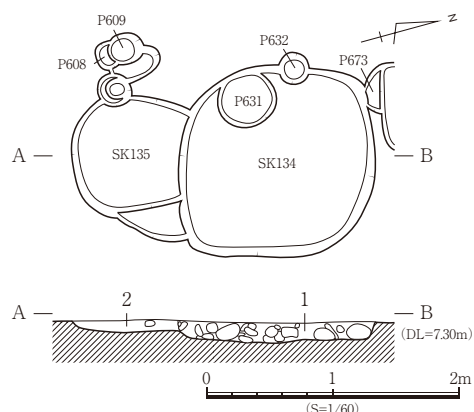
SK141は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.73m、短軸1.36mを測り、検出面からの深さは約16cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-26°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK148

SK148は平面形が方形の土坑である。長軸0.88m、短軸0.87mを測り、検出面からの深さは約11cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN-3°-Eである。

図示した出土遺物はない。



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに粗粒砂と5~15cm大の礫を多く含む(SK134)
2. 黒色(7.5YR2/1)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む(SK135)

図207 1区 SK134・135 平面図・断面図

SK153

SK153は平面形が方形の土坑である。長軸1.81m，短軸1.54mを測り，検出面からの深さは約25cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-27°-Eである。

図示した出土遺物は，土師質土器の杯(457・458)，瓦質土器の羽釜(459)，釘(460・461)である。

457は土師質土器の杯である。底径に比してやや深めの体部は杯状を呈し，口縁端部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整であり，内底面は凹状を成す。底部には回転糸切り痕跡がみられる。458は土師質土器の杯である。底径に比してやや深めの体部は杯状を呈し，口縁端部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整で仕上げる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。459は瓦質土器の羽釜である。緩徐な断面形が三角形の鏝を貼り付ける。460は釘である。胴部の断面形は四角形を呈する。両端は欠損する。461は釘である。頭部は僅かに逆「L」字形に肥厚する。胴部の断面形は四角形を呈する。先端部は欠損する。

SK157

SK157は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸の検出長は1.31m，短軸の検出長は0.80mを測り，検出面からの深さは約29cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-17°-Eである。

図示した出土遺物は，磁器の皿(462)である。透明釉を施し，器面に染付文様を描く。高台脇に1条，高台内に1条の圈線を巡らせる。畳付には釉剥ぎを施す。見込みには砂目積み痕跡が認められる。畳付には粗砂が熔着する。

SK158

SK158は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.53m，短軸の検出長は0.87mを測り，検出面からの深さは約7cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-45°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK160

SK160は土坑である。長軸の検出長は0.40m，短軸0.73mを測り，検出面からの深さは約12cmであ

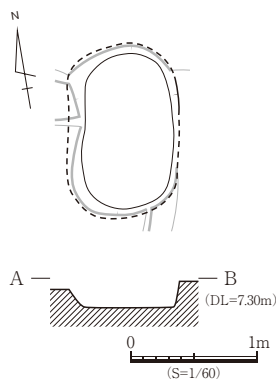


図208 1区 SK139
平面図・エレベーション図

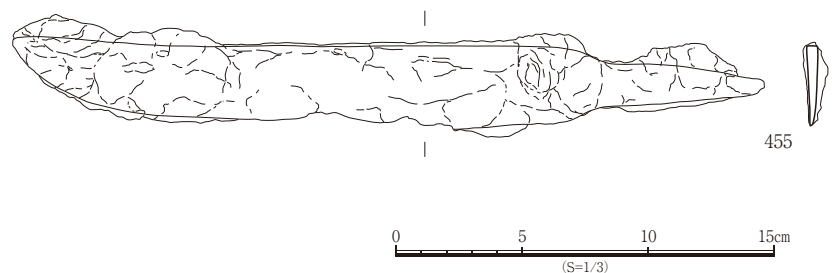


図209 1区 SK139 出土遺物実測図

る。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-80°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK166

SK166は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸の検出長は1.00m, 短軸0.81mを測り, 検出面からの深さは約9cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SK167

SK167は平面形が楕円形の土坑である。長軸の検出長は1.39m, 短軸の検出長は1.40mを測り, 検出面からの深さは約9cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN-4°-Eである。

図示した出土遺物はない。

ハンダSK1

ハンダSK1は平面形が円形の土坑である。長軸1.22m, 短軸1.13mを測り, 検出面からの深さは約42cmである。

図示した出土遺物はない。

ハンダSK2

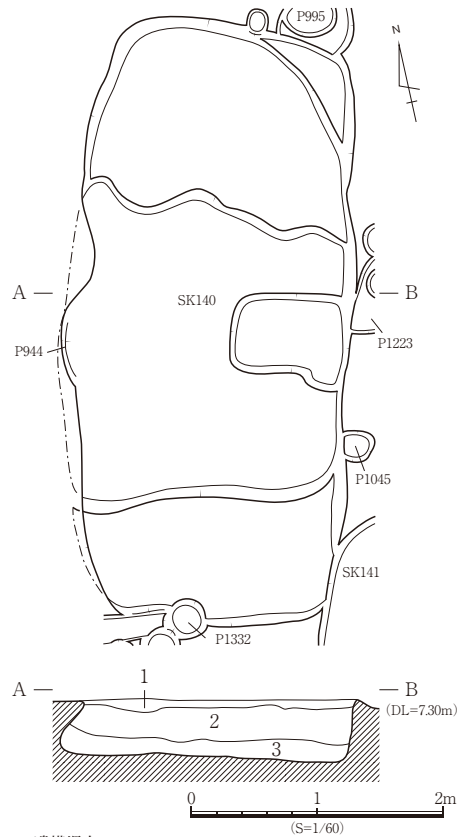
ハンダSK2は平面形が隅丸方形の土坑である。長軸1.40m, 短軸1.30mを測り, 検出面からの深さは約40cmである。主軸方向はN-20°-Eである。

図示した出土遺物はない。

5. SD

SD1

SD1は1区東端で検出した南北方向の溝跡である。幅約36cm, 検出面からの深さは約13cmであり, 埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。検出長は約0.8mである。主軸方向はN-8°-Eである。1区東端は複数の同じ方向の溝



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト
2. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと0.5~15cm大の礫を多く含む
3. 黒褐色(7.5YR2/2)細粒砂質シルトに粗粒砂と黄色シルトブロックと1~10cm大の礫を多く含む

図210 1区 SK140 平面図・断面図

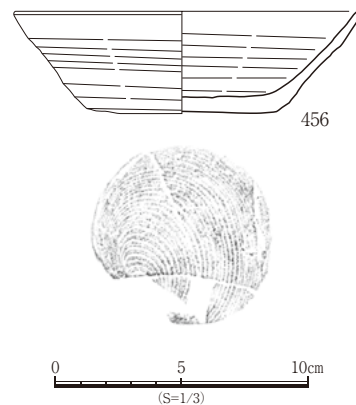


図211 1区 SK140 出土遺物実測図

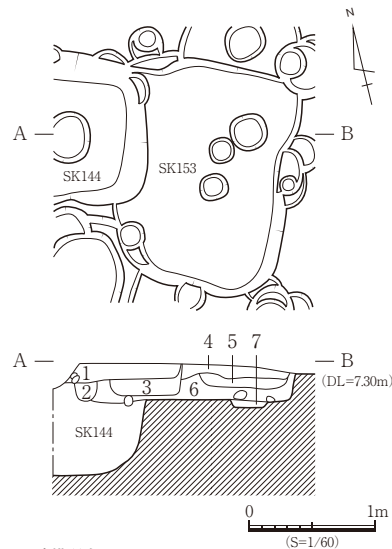
跡が繰り返し掘削されている。現在も水路が存在し、土地区画を踏襲していることを示している。
図示した出土遺物はない。

SD2

SD2は1区東端で検出した南北方向の溝跡である。幅約103cm, 検出面からの深さは約15cmであり, 埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂である。検出長は約3.9mである。主軸方向はN-0°である。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕(463)・鉢(464)である。

463は弥生土器の甕である。外面は叩き調整後, タテハケ調整を施す。叩き調整は三分割で行われている。内面は不定方向のハケ調整である。464は弥生土器の鉢である。手捏ね成形である。



- 遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに0.5cm大の礫を含む(P1272)
 2. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに中粒砂を含む(P1443)
 3. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量含む(P1434)
 4. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物和黄色シルトブロックを少量含む(P1139)
 5. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに炭化物を含み, 黄色シルトブロックを少量含む(P1546)
 6. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに炭化物を含み, 黄色シルトブロックを多く含む(SK153)
 7. 黒褐色(7.5YR2/2)細粒砂質シルト(ピット)

図212 1区 SK153・P1139・1272・1434・1443・1546
平面図・断面図

SD3

SD3は1区東端で検出した南北方向の溝跡である。幅55～145cm, 検出面からの深さは約33cmであり, 埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂他である。検出長は約21.4mである。主軸方向はN-15°-Eである。

図示した出土遺物は、磁器の皿(465)・弥生土器の甕(466)である。

465は磁器の皿である。白濁釉を施釉する。見込みに板状原体による蛇の目状の釉剥ぎを施す。外面下位及び高台は露胎である。見込みには砂目積み痕跡がみられる。466は弥生土器の甕である。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈し, 口唇部には面取りを施す。口縁部外面はタテハケ調整, 内面はヨコハケ調整である。胴部外面

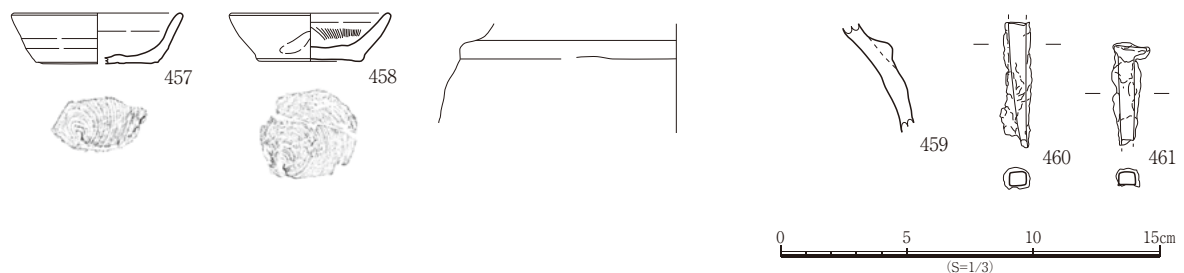


図213 1区 SK153 出土遺物実測図

は叩き調整後, ナデ調整を施し, 内面はナデ調整である。

SD4

SD4は1区東端で検出した南北方向の溝跡である。幅約32cm, 検出面からの深さは約17cmであり, 埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。検出長は約2.7mである。主軸方向はN-6° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SD5

SD5は1区東端で検出した南北方向の溝跡である。SD3・6に切られる。SD8と一連の溝跡と考えられる。幅132~201cm, 検出面からの深さは12~63cmであり, 埋土は黒褐色(10YR2/2)中粒砂質シルト他である。検出長は約24.1mである。主軸方向はN-12° -Eである。

図示した出土遺物は, 須恵器の蓋(467・468), 土錘(469)である。

467は須恵器の蓋である。天井部に擬宝珠様の摘みを貼り付ける。口縁部内面にかえりを有する。天井部外面には幅の狭い回転ヘラケズリ調整を施す。天井部を除く外面・内面には回転ナデ調整を施す。468は須恵器の蓋である。口縁部内面に断面形が鋭い三角形のかえりを有する。天井部外面には回転ヘラケズリ調整か。口縁部外面・内面には回転ナデ調整を施す。469は管状土錘である。円筒形を呈し, 両端に面取りを施す。ほぼ完形である。

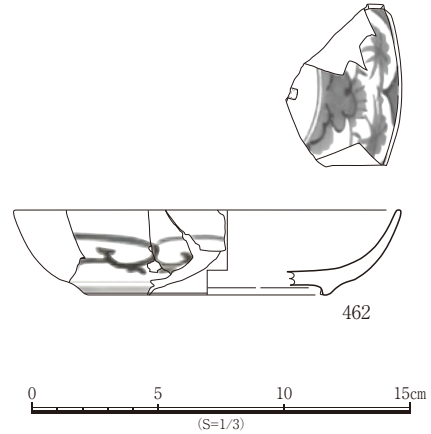


図214 1区 SK157 出土遺物実測図

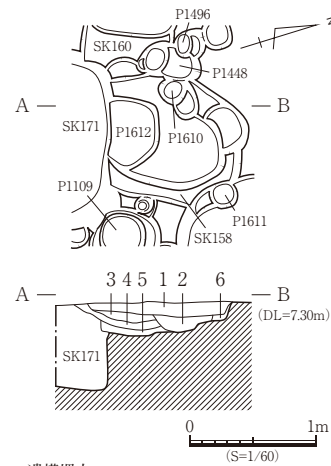
SD6

SD6は1区東端で検出した南北方向の溝跡である。SD5を切り, SD3に切られる。幅32~78cm, 検出面からの深さは約28cmであり, 埋土は暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト他である。検出長は約24.1mである。主軸方向はN-17° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SD7

SD7は1区東端で検出した南北方向の溝跡である。SD3・6に切られる。幅約34cm, 検出面からの深さは12~24cmであり, 埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。検出長は約2.6mである。主軸方向はN-16°



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト(SK160)
2. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト(P1610)
3. 黒褐色(7.5YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む(P1612)
4. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに炭化物を少量含む(P1612)
5. 暗褐色(10YR3/4)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む(P1612)
6. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量含む

図215 1区 SK158・160・P1610・P1611・P1612 平面図・断面図

Eである。

図示した出土遺物はない。

SD8

SD8は1区東端で検出した東西方向の溝跡である。SD5と一連の溝跡と考えられる。幅188～232cm, 検出面からの深さは22～44cmであり, 埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂他である。検出長

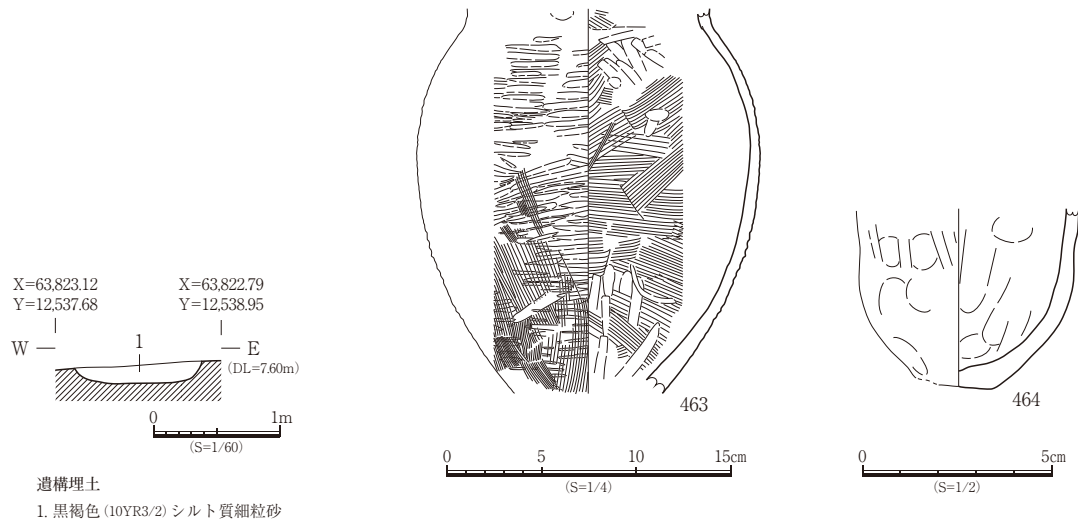


図216 1区 SD2 断面図

図217 1区 SD2 出土遺物実測図

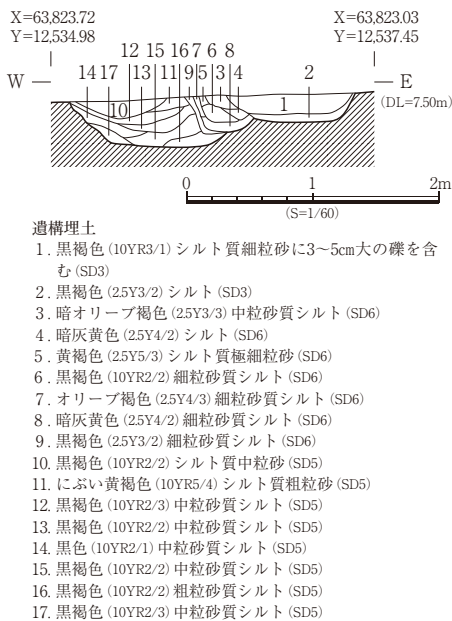


図218 1区 SD3・5・6 断面図

図219 1区 SD3 出土遺物実測図

- 遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂に3～5cm大の礫を含む(SD3)
 2. 黒褐色(25Y3/2)シルト(SD3)
 3. 暗オリーブ褐色(25Y3/3)中粒砂質シルト(SD6)
 4. 暗灰黄色(25Y4/2)シルト(SD6)
 5. 黄褐色(25Y5/3)シルト質極細粒砂(SD6)
 6. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト(SD6)
 7. オリーブ褐色(25Y4/3)細粒砂質シルト(SD6)
 8. 暗灰黄色(25Y4/2)細粒砂質シルト(SD6)
 9. 黒褐色(25Y3/2)細粒砂質シルト(SD6)
 10. 黒褐色(10YR2/2)シルト質中粒砂(SD5)
 11. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト質粗粒砂(SD5)
 12. 黒褐色(10YR2/3)中粒砂質シルト(SD5)
 13. 黒褐色(10YR2/2)中粒砂質シルト(SD5)
 14. 黒色(10YR2/1)中粒砂質シルト(SD5)
 15. 黒褐色(10YR2/2)中粒砂質シルト(SD5)
 16. 黒褐色(10YR2/2)粗粒砂質シルト(SD5)
 17. 黒褐色(10YR2/3)中粒砂質シルト(SD5)

は約5.4mである。主軸方向はN-77° -Wである。

図示した出土遺物はない。

SD9

SD9は1区北東部で検出した東西方向の溝跡である。幅約47cm, 検出面からの深さは約26cmであり, 埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。検出長は約9.2mである。主軸方向はN-86° -Wである。

図示した出土遺物は, 土玉(470)である。偏球形を呈する。焼成前に穿孔する。ほぼ完形である。

SD10

SD10は1区北辺で検出した東西方向の溝跡であり, 現況の畦道・水路と並走する。幅38~118cm, 検出面からの深さは7~32cmであり, 埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。検出長は約56.7mである。主軸方向はN-84° -Eである。

図示した出土遺物は, 土師質土器の皿(471)である。内外面とも回転ナデ調整を施し, 内底面は凹状を成す。また, 底部内縁に凹線状痕跡が認められる。外底面の体部境は界線状を呈する。底部には回転糸切り痕跡がみられる。

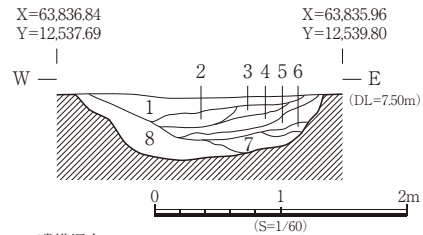
SD11

SD11は1区東部で検出した東西方向の溝跡である。幅約17cm, 検出面からの深さは約3cmであり, 埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。検出長は約4.3mである。主軸方向はN-72° -Wである。

図示した出土遺物はない。

SD12

SD12は1区東部南端で検出した南北方向の溝跡である。幅約36cm, 検出面からの深さは約12cmであり, 埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。検出長は約3.1mである。主軸方向はN-30° -Wである。



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2)中粒砂質シルト
2. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト
3. 暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂
4. 黒褐色(10YR2/2)シルト質中粒砂
5. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト
6. 黒褐色(10YR2/3)シルト質中粒砂に黄色シルトブロックを多く含む
7. 黒褐色(10YR2/2)シルト質中粒砂に3cm大の円礫を少量含む
8. 黒色(10YR2/1)シルト質中粒砂に3cm大の円礫を少量含む

図220 1区 SD5 断面図

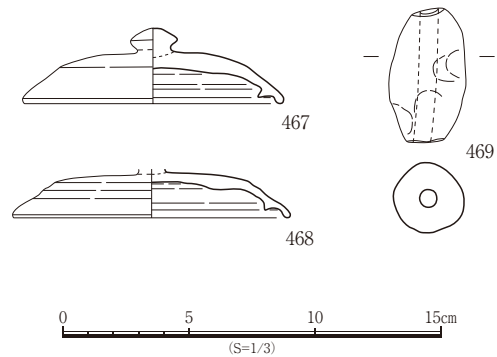
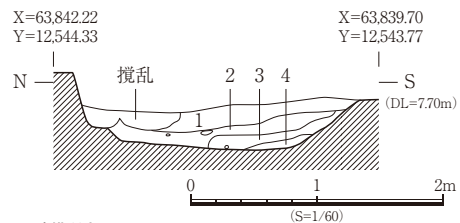


図221 1区 SD5 出土遺物実測図



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂
2. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト
3. 黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂
4. 黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂に黄色シルトブロックを含む

図222 1区 SD8 断面図

図示した出土遺物はない。

SD13

SD13は1区中央部で検出した南北方向の溝跡である。SD15と並走する。幅42～70cm, 検出面からの深さは2～15cmであり, 埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。検出長は約4.9mである。主軸方向はN-10° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SD14

SD14は1区中央部で検出した東西方向の溝跡である。SD18と接続か。幅約48cm, 検出面からの深さは2～21cmであり, 埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。検出長は約9.6mである。主軸方向はN-88° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SD15

SD15は1区中央部で検出した南北方向の溝跡である。SD13と並走する。幅約47cm, 検出面からの深さは約7cmであり, 埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。検出長は約2.3mである。主軸方向はN-16° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SD16

SD16は1区西部南端で検出した南北方向の溝跡である。SD17と並走する。幅約41cm, 検出面からの深さは約13cmであり, 埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。検出長は約2.6mである。主軸方向はN-53° -Eである。

図示した出土遺物は, 弥生土器の甕(472)である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面はナデ調整, 内面はハケ調整である。体部外面は叩き調整後, 斜め方向のハケ調整を施し, 内面は斜め方向のハケ調整である。全体的に摩耗する。

SD17

SD17は1区西部南端で検出した南北方向の溝跡であ

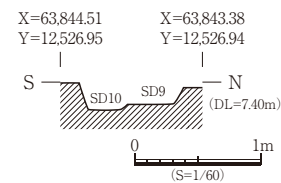


図223 1区 SD9 エレベーション図

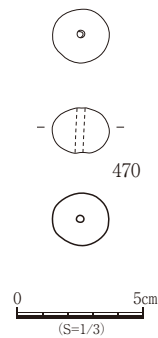
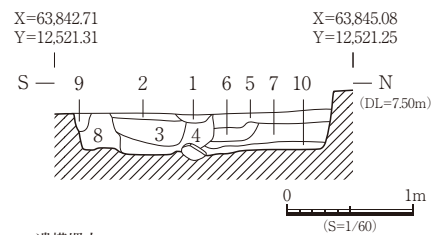


図224 1区 SD9 出土遺物実測図



- 遺構埋土
1. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト(SD10)
 2. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト(SD10)
 3. 黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト(SD10)
 4. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに中粒砂を含む(SD10)
 5. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに0.5cm大の黄色礫を少量含む(ST6)
 6. 黒色(10YR2/1)粘土質シルトに中粒砂を少量含む(ST6)
 7. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに中粒砂を少量含む(ST6)
 8. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む(ST6)
 9. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト(ST6)
 10. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む(ST6)

図225 1区 SD10 断面図

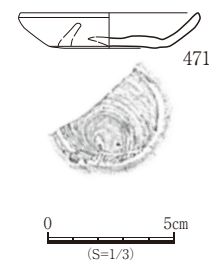


図226 1区 SD10 出土遺物実測図

る。SD16と並走する。幅約56cm, 検出面からの深さは約24cmであり, 埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。検出長は約1.5mである。主軸方向はN-30°-Eである。

図示した出土遺物はない。

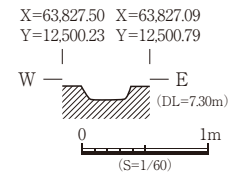


図227 1区 SD16 エレベーション図

SD18

SD18は1区南西部で検出した南北方向の溝跡である。SD14と接続か。幅45～60cm, 検出面からの深さは約11cmであり, 埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。検出長は約7.0mである。主軸方向はN-60°-Eである。

図示した出土遺物は, 土師器の羽釜(473)である。口縁部からやや下がった位置に鏝を貼り付ける。外面には指頭圧痕がみられる。炆器状に焼締まる。搬入品の可能性がある。

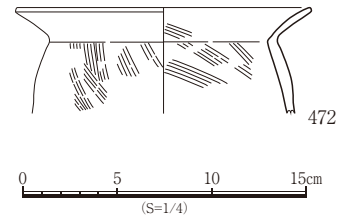


図228 1区 SD16 出土遺物実測図

SD19

SD19は1区南西部で検出した南北方向の溝跡である。幅31～51cm, 検出面からの深さは約21cmであり, 埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。検出長は約2.0mである。主軸方向はN-62°-Eである。

図示した出土遺物はない。

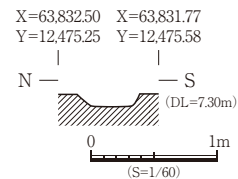


図229 1区 SD18 エレベーション図

6. SE

ST1_P3(井戸)

ST1_P3はST1の床面で検出した井戸跡である。長軸1.96m, 短軸1.64mの楕円形を呈する。検出面からの深さは約1.8mであり, 埋土は炭化物を含む黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト, 中粒砂を含む黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト, 極粗粒砂を含む黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。ST1を切っている可能性がある。

図示した出土遺物は, 弥生土器の壺(474～483)・甕(484～488)・底部(489・490)・鉢(491～493)・高杯(494・495)である。

474は長頸壺である。口縁部は直立した頸部から大きくひらく。口唇部は強いヨコナデ調整により凹面状を成す。また, 口唇部にはハケ状原体により刻目が5ヶ所確認できる。胴部は中位に最大径部を持ち, やや長胴である。底端部はやや丸みを持つ平底である。外面は叩き調整後, タテハケ調整を施す。胴部中位のハケメは斜め方向である。ミガキ状を呈する部分がみられる。胴部内面下半はヘラケズリ調整である。外底面にはナデ調整を施す。煤の付着状況から煮沸の用に供されている。残存率は良好であり, ほぼ全形が把握できる。475は壺である。口縁部は内傾気味の頸部から大きくひらく。

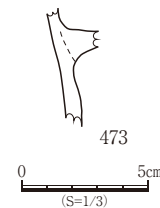


図230 1区 SD18 出土遺物実測図

口唇部は上方へ拡張し、ヨコナデ調整を施す。胴部は中位に最大径部を有し、偏球形を呈する。底部は角の取れた平底である。外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。胴部上半は斜め方向のハケ調整である。底部付近にはナデ調整を施す。外底面にはナデ調整を施す。内面はハケ調整・ナデ調整である。胴部は穿孔の可能性がある。煤の付着状況から煮沸の用に供されている。残存率は良好であり、ほぼ全形が把握できる。476は壺である。口縁部は緩やかにひらき、口唇部には面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整を施し、内面はハケ調整を施す。頸部外面はタテハケ調整、内面はナデ調整である。477は壺である。口縁部

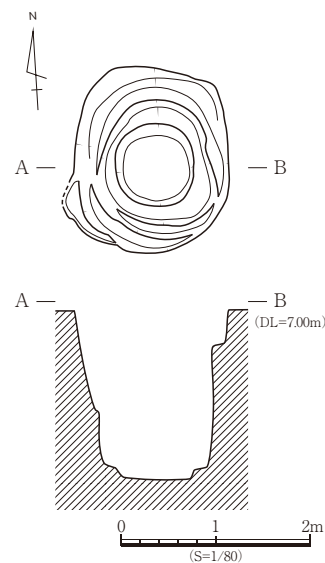


図231 1区 ST1_P3(井戸) 平面図・エレベーション図

は緩やかにひらき、口唇部はヨコナデ調整により摘み出し、僅かに凹面状を呈する。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施し、内面はナデ調整痕がみられる。外面のタテハケ調整及びナデ調整でミガキ状を呈する部分がある。頸部内面にはしぼり目がみられる。頸胴部境には粘土帯接合痕跡が認められる。478は壺である。短く直立した頸部から口縁部は大きくひらく。口唇部は僅かに上下に拡張し、強いヨコナデ調整により凹面状を成す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。頸部外面はタテハケ調整、内面はヨコナデ調整である。479は壺である。口縁部は頸部から大きくひらき、口唇部には面取りを施し、僅かに凹面状を呈する。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。肩部外面はタテハケ調整を施し、一部はミガキ状を呈する。内面は横方向のナデ調整・ハケ調整であり、粘土帯接合痕跡がみられる。480は壺である。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は工具ナデ・指ナデ調整である。内底面には指頭圧痕がみられる。481は壺である。胴部は玉葱状を呈し、底部は角の取れた平底である。外面は全面タテハケ調整を密に施す。内面は上半部は斜め方向のハケ調整、下半部はヘラケズリ調整である。また、上半部には粘土帯接合痕が認められ、幅約2.5cmの粘土帯を積み上げていると推測される。外底面はナデ調整を雑に施す程度である。482は細頸長頸壺の胴部と考えられる。偏球形を呈し、底部は狭小な平底である。外面上半部は斜め方向のヘラミガキ調整、下半部は縦方向のヘラミガキ調整をそれぞれ密に施す。外底面はナデ調整である。内面上半部はナデ調整、下半部はハケ調整を施す。内底面は盛り上がる。また、内面最大径部で上半部と下半部を接合する。483は壺である。偏球形を呈し、底部は僅かに平らな部分を残すものの丸底である。全体的に摩耗しており、調整等の観察はやや困難である。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整か。また、482と同様に内面最大径部で上半部と下半部を接合する。細頸長頸壺の胴部か。484は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状か。胴部は中上位が僅かに膨らむものの全体的にスリムである。底部は僅かに直立部を持つ平底である。口縁部は内外面ともヨコナデ調整である。体部外面は右下がり方向の叩き調整後、タテハケ調整である。内面はナデ調整である。外底面にはナデ調整を施す。485は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口

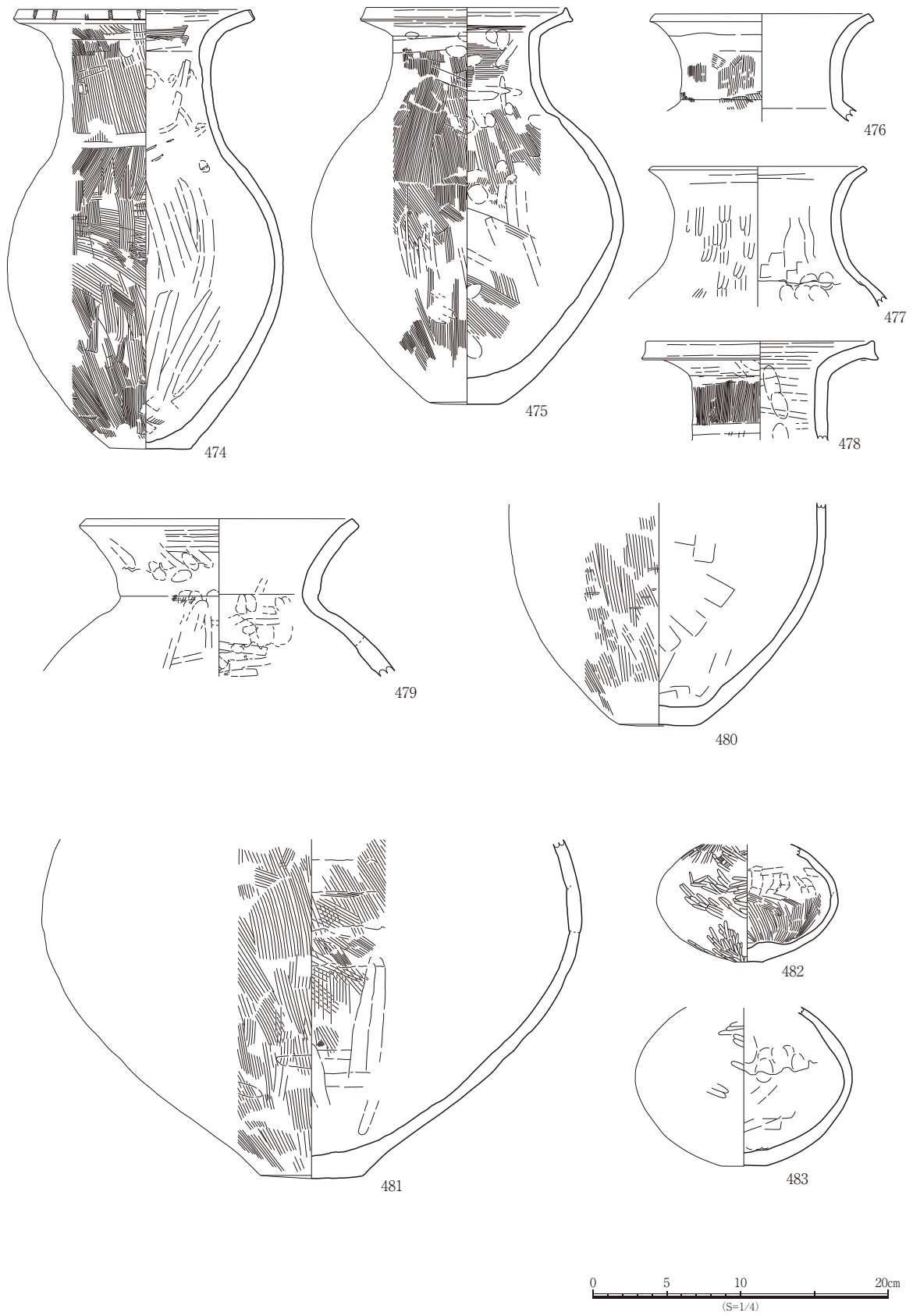


図232 1区 ST1_P3(井戸) 出土遺物実測図_1

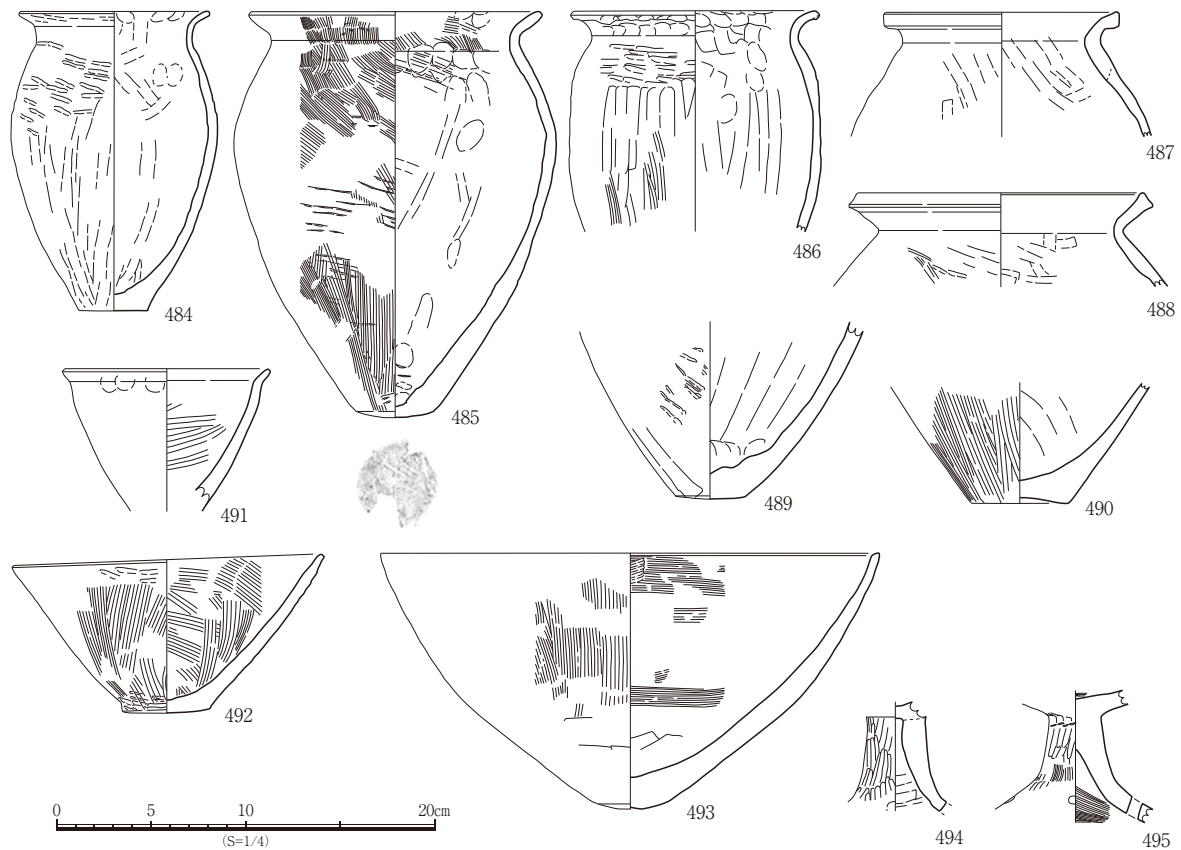


図233 1区 ST1_P3(井戸) 出土遺物実測図_2

唇部はハケ状原体により面取りを施す。上胴部に最大径部を持ち、底部は角の取れた平底であり、僅かに突出する。外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。肩部内面は粗い斜め方向のハケ調整、下半部はナデ調整である。内底部付近には爪による圧痕が多数みられる。外底面にはハケ調整を施す。また、胴部に穿孔が認められる。486は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し、口唇部は粘土帯を折返して僅かに肥厚させる。口縁部は上胴部からの一連の叩き調整を施し、指頭により成形する。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はナデ調整であり、一部に砂粒の移動痕跡が認められる。487は甕である。口縁部を短く水平に外反させ、口唇部には面取りを施す。外面はナデ調整である。内面は頸部付近までヘラケズリ調整を施す。488は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は強いヨコナデ調整により上下に僅かに拡張し、凹面状を成す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整である。体部外面はやや粗いハケ調整、内面は肩部までヘラケズリである。489は弥生土器の底部である。角の取れた平底であり、外底面はナデ調整により平滑に仕上げる。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はナデ調整であり、内底面は凹凸が激しくしぼり目状を呈する。490は弥生土器の底部である。上げ底状を呈し、外底面にはナデ調整を施す。体部外面はタテハケ調整を密に施し、内面は工具ナデ調整である。

491は鉢である。口縁部は短く外反する。全体的に摩耗しており、調整等の観察は困難である。外面はナデ調整でキレツがみられる。内面は粗いヨコハケ調整を施す。492は鉢である。体部は逆「ハ」の字形にひらく。底部は平底で僅かに円盤状を成す。外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面

はハケ調整である。493は鉢である。体部は丸みを持ち、外上方へのびる。底部は角の取れた平底である。外面はナデ調整・ハケ調整であり、キレツが認められる。内面はナデ調整である。494は弥生土器の高杯の脚部である。中空である。外面は縦方向のヘラミガキ調整を密に施す。内面に工具によるヨコナデ調整を施し、しほり目が認められる。脚上端部に粘土盤を充填する。また、孔径0.9cmの円孔が1ヶ所残存している。495は弥生土器の高杯の脚部である。脚部は短く中空であり、裾部は大きくひらく。裾部に孔径0.7cmの円孔が2ヶ所残存しており、本来は4ヶ所穿たれていると推測される。外面はハケ調整後、縦方向のヘラミガキ調整を施す。脚部内面は工具ナデ調整、裾部はハケ調整である。杯部の内面はナデ調整である。

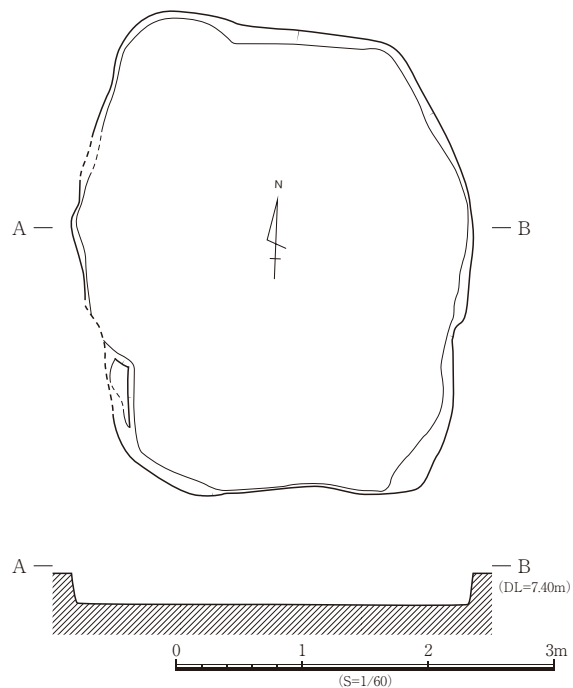


図234 1区 SX1 平面図・エレベーション図

7. SX

SX1

SX1は調査区中央北寄りで検出した不整楕円形の遺構である。長軸3.60m、短軸3.00mを測り、検出面からの深さは14cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、土師質土器の杯(496)、須恵器の椀(497)である。

496は土師質土器の杯である。口縁部は逆「ハ」の字形に屈曲し、端部は丸状に面を取る。内外面とも回転ナデ調整を施し、内底面にロクロ目痕がみられる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。497は須恵器の椀である。円盤状高台を貼り付ける。内外面とも回転ナデ調整を施す。底部には静止糸切り痕跡がみられる。

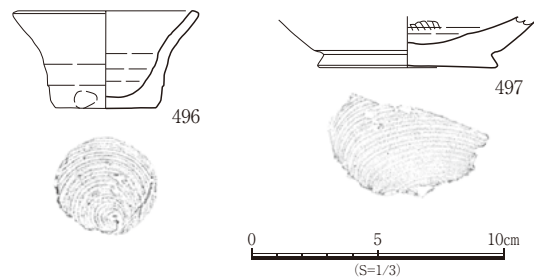


図235 1区 SX1 出土遺物実測図

SX2

SX2は調査区中央で検出した遺構である。長軸の約5.20m、短軸約2.50mを測り、検出面からの深さは500cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

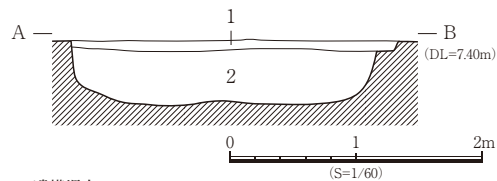
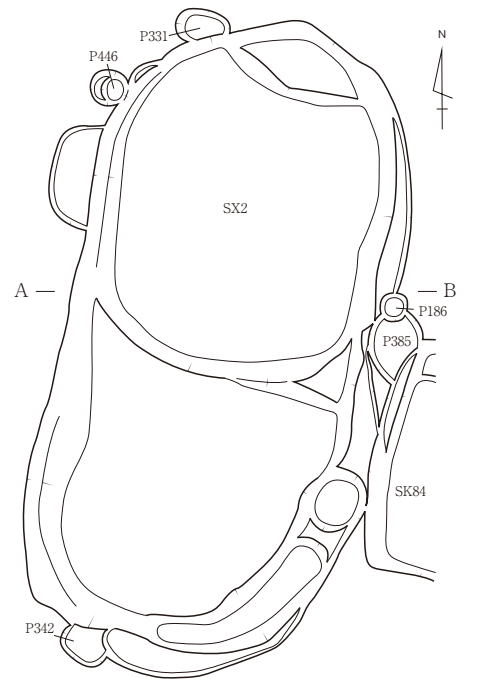
図示した出土遺物はない。

SX4

1区南西部で検出した遺構である。SX7に切られる。長軸の検出長は4.50m、短軸の検出長は2.90mを測り、検出面からの深さは20cmを測る。平面形は楕円形と推測される。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、土師質土器の杯(498)、弥生土器の鉢(499)である。

498は土師質土器の杯である。内外面とも回転ナデ調整を施し、内外面にロクロ目痕がみられる。内底面は凹状を成す。底部には回転糸切り痕跡がみられる。499は弥生土器の鉢である。底部は角の取れた狭小な平底を呈する。内外面ともナデ調整である。



遺構埋土
 1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト
 2. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに5~20cm大の円礫を多量に含む

図236 1区 SX2 平面図・断面図

SX6

SX6は調査区北西部で検出した方形の遺構である。長軸3.10m、短軸の検出長は1.60mを測り、検出面からの深さは12cmを測る。

図示した出土遺物は、磁器の皿(500)、土師質土器の杯(501)、砥石(502)である。

500は磁器の皿である。青磁釉を施釉し、外面にピンホールがみられる。見込みには蛇の目状の釉剥ぎを施す。外面下位及び高台は露胎である。見込みに重ね焼き痕跡が認められる。高台内に粗砂が付着する。501は土師質土器の杯である。内外面とも回転ナデ調整で仕上げ、ロクロ目痕が認められる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。502は細粒砂岩製の定形砥石である。四角柱状(矩形)を呈する。長辺の四面が研磨され、線状の擦痕を認める。使用面は摩滅により凹状に湾曲する。端部及び一部は欠損する。

SX7

SX7は1区南西部で検出した遺構である。SX5を切る。長軸の検出長は6.80m、短軸の検出長は6.30mを測り、検出面からの深さは35cmを測る。平面形は隅丸長方形を呈していると推測されるものの、他の遺構と重複している可能性も考えられる。埋土は黒色(7.5YR1.7/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は、土師質土器の杯(503・504)、白磁の碗(505)、瓦質土器の鍋(506)、弥生土器の壺(507)・鉢(508)、鉄鏟(509)である。

503は土師質土器の杯である。内外面とも回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切り痕跡がみられる。全体的に摩耗する。504は土師質土器の杯である。回転ナデ調整で仕上げ、内外面にロクロ目痕がみられる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。505は白磁の碗である。見込みに沈線状の小段が

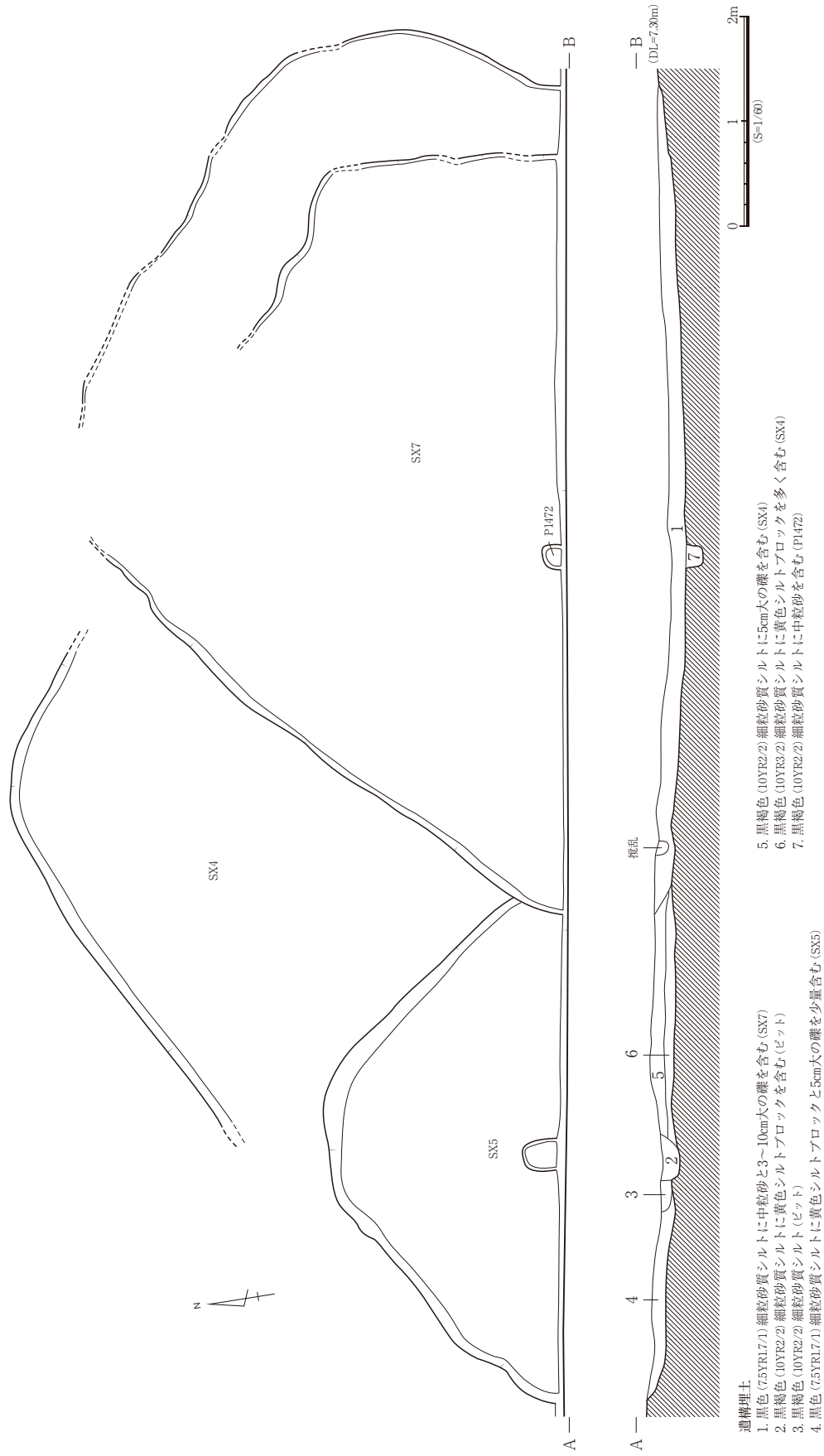


図237 1区 SX4・5・7 平面図・断面図

認められる。底部は平底である。Ⅸ類か。506は瓦質土器の鍋である。口縁端部は僅かに外方へ張り出し、面を取る。外面には指頭圧痕がみられる。507は弥生土器の直口壺である。体部は偏球形を呈し、頸部は外傾気味に立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。底部は丸底である。外面はハケ調整後、ヘラミガキを密に施す。頸部内面は斜め方向の粗いハケ調整、胴部内面は丁寧なハケ調整を施す。肩部内面に粘土帯接合痕がみられる。508は弥生土器の鉢である。体部は半球形を呈し、底部は丸底である。口唇部にはルーズな面取りを施す。外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、内面はヨコハケ調整・ナデ調整である。509は鉄鏝の茎か。断面形は四角形を呈する。先端部を欠損する。

8. P

510はP21から出土した弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、長い。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はヨコハケ調整である。511はP21から出土した弥生土器の大型の甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整であり、内面はナデ調整である。512はP51から出土した弥生土器の広口壺である。口縁部は大きくひらき、端部は上方に拡張し5条1単位の上下の振幅の小さい櫛描波状文を施す。外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整である。513はP80から出土した弥生土器の甕である。口縁部は緩やかに外反し、端部にはルーズな面取りを施す。口縁部内面はナデ調整、外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。514はP135から出土した弥生土器の壺である。口唇部を拡張して竹管文を施す。全体的に摩耗する。515はP160から出土した弥生土器の甕である。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈する。胴部は長胴であり、あまり張らない。底部は丸みを帯びた平底である。口縁部外面は叩き調整後、指頭により成形する。内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を下半部に密に施す。内面はナデ調整である。516はP278から出土した弥生土器の壺である。底部は角の取れた平底であり、外底面はナデ調整である。外面はハケ調整・ヘラミガキ調整であり、内面はナデ調整である。内底面は凹凸が激しい。517はP314から出土した弥生土器の甕である。口縁部は屈曲度合いの弱

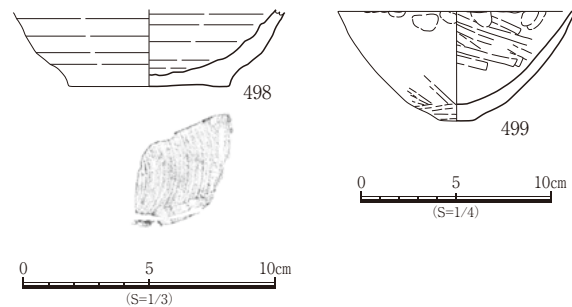


図238 1区 SX4 出土遺物実測図

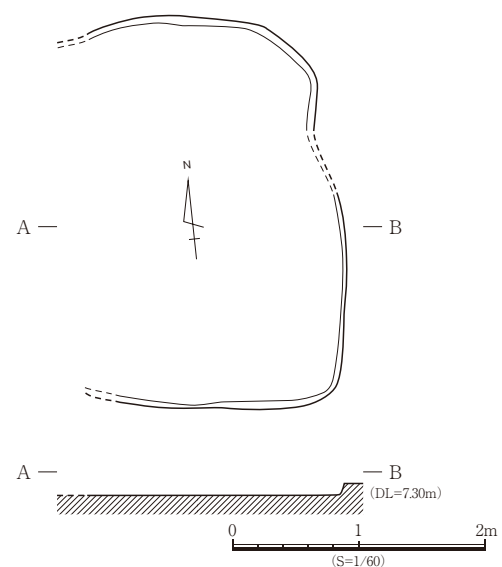


図239 1区 SX6 平面図・エレベーション図

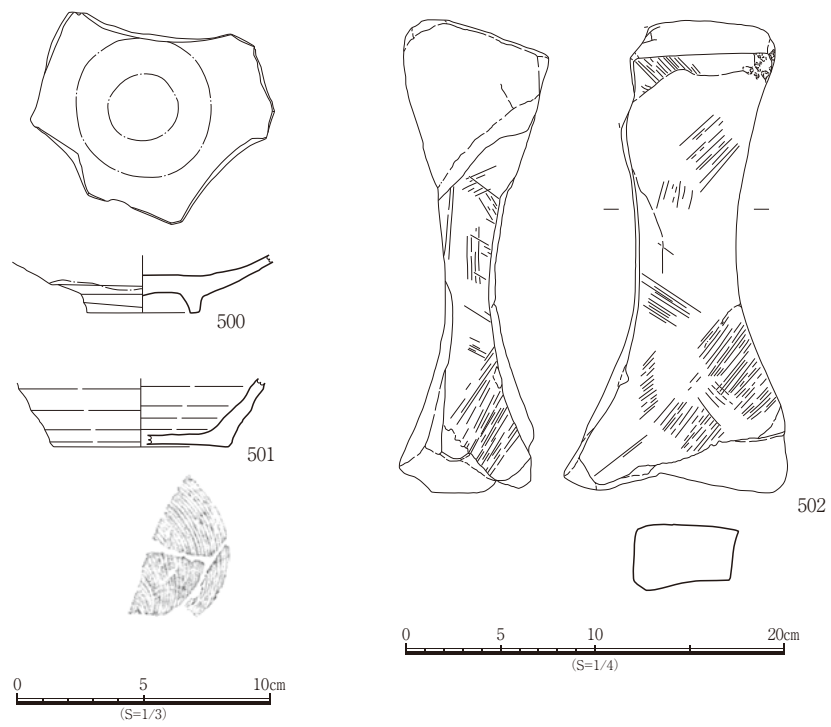


图240 1区 SX6 出土遺物実測図

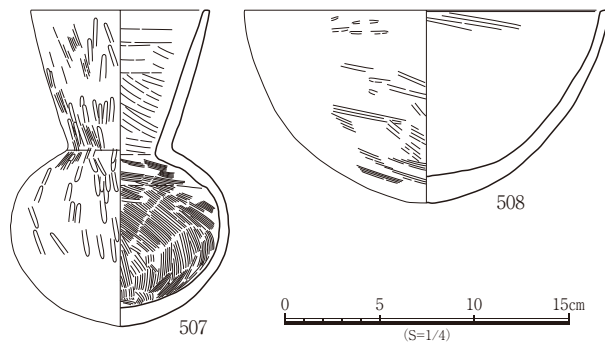
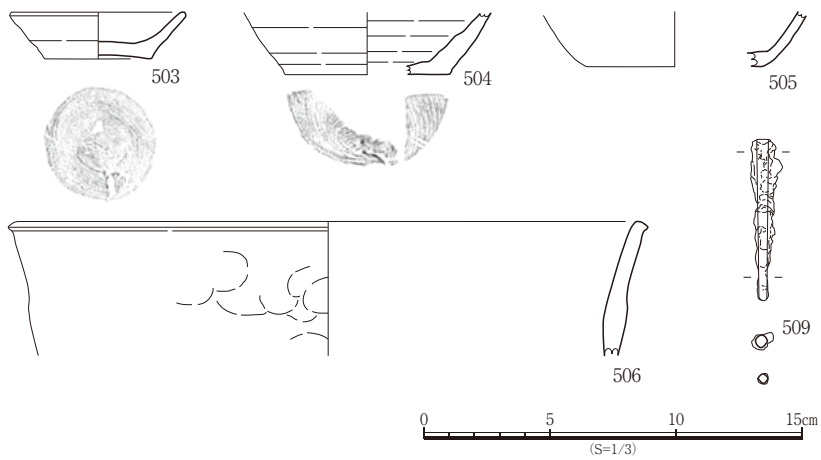


图241 1区 SX7 出土遺物実測図

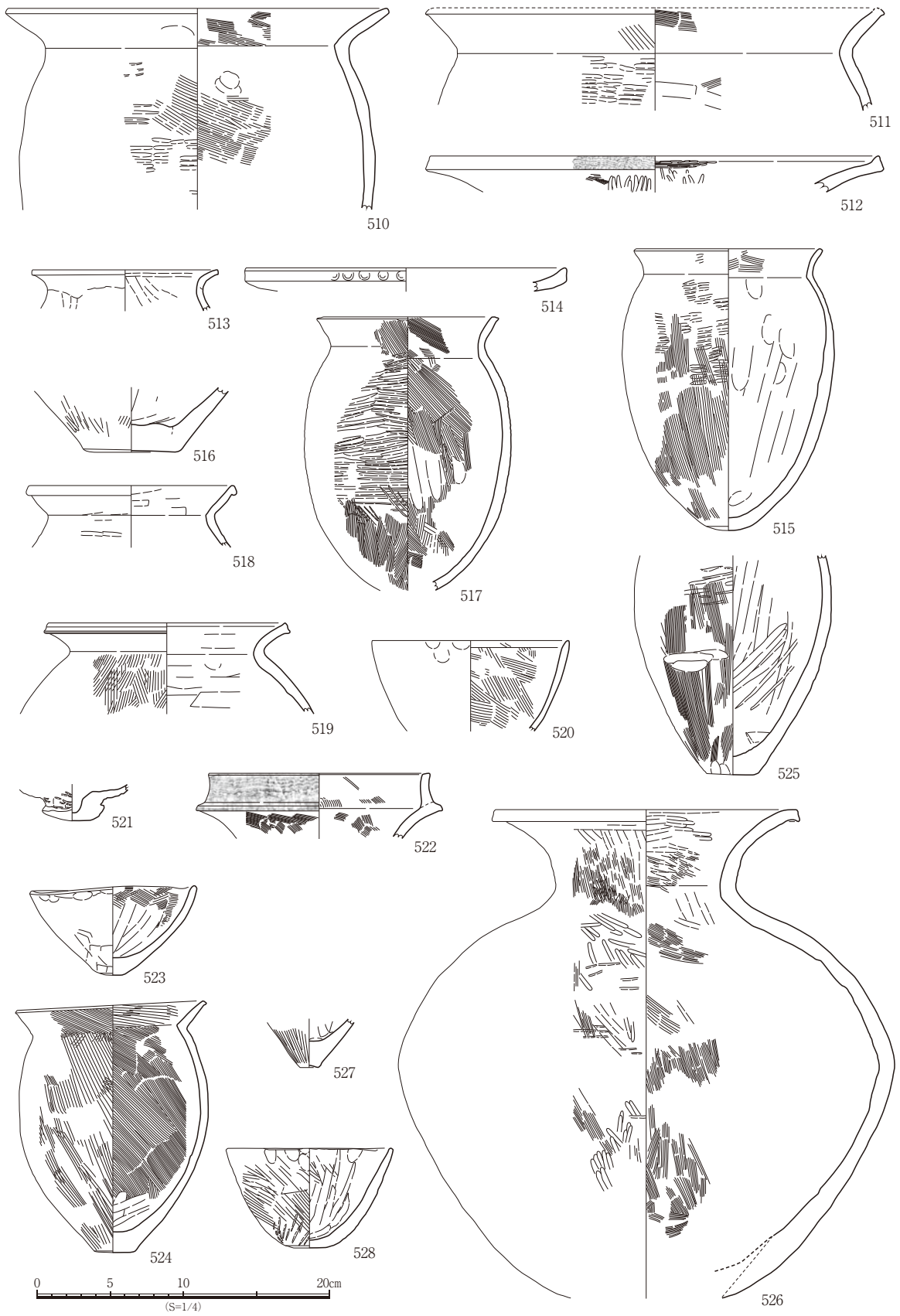


图242 1区 P 出土遺物実測図_1

い「く」の字状を呈する。口縁部外面はタテハケ調整, 内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後, タテハケ調整を施す。内面は全面ハケ調整である。518はP386から出土した弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し, 口唇部には面取りを施す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。体部外面は叩き後ナデ調整を施し, 内面はナデ調整である。519はP427から出土した弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し, 端部を摘み上げ, 摘み出し, 凹面状と成す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整である。体部外面はタテハケ調整, 内面は横方向のヘラケズリ調整である。520はP447から出土した弥生土器の鉢である。外面はナデ調整でキレツがみられる。内面はハケ調整である。521はP469から出土した弥生土器の底部である。底部は突出し, 外底面はナデ調整を施す。また, 内底面は円孔状の凹部がみられる。体部外面は叩き調整後, ナデ調整を施す。内面はナデ調整である。522はP534から出土した弥生土器の複合口縁壺である。口縁部は外反し, 内傾気味の二次口縁部を付加して口唇部は面を取る。また, 外面には6~7条1単位の櫛描波状文を施す。口縁部外面はハケ調整, 内面にヨコナデ調整である。523はP543から出土した弥生土器の鉢である。体部は外上方へのび, 口縁部付近で直立する。口縁端部は丸くおさめる。底部はほぼ丸底である。外面はナデ調整, 内面はハケ調整後, ナデ調整を施す。524はP605から出土した弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し, 口唇部には面取りを施す。平底で, 外底面にはナデ調整を施す。口縁部外面は斜め方向のハケ調整, 内面はヨコハケ調整である。体部外面はハケ調整, 内面は斜め方向のハケ調整である。525はP605から出土した弥生土器の甕である。平底であり, 外底面はナデ調整により平滑に仕上げる。体部外面は叩き調整後, タテハケ調整を施す。内面はナデ調整である。526はP647から出土した弥生土器の壺である。口縁部は大きく外反し, 口唇部は面取りを施し, 下方に拡張する。体部は偏球形を呈する。口縁部内面はヘラミガキを施す。頸部外面はタテハケ調整, 内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後, ハケ調整, さらにヘラミガキ調整で仕上げる。内面はハケ調整である。527はP1518から出土した弥生土器の底部である。底部は狭小で上げ底状を成す。外面はタテハケ調整, 内面はナデ調整である。小型の鉢か。528はP1565から出土した弥生土器の鉢である。底部はほぼ丸底である。口縁部は指頭によりうすく作出する。外面は叩き調整後, ハケ調整を施す。内面はハケ調整後, ナデ調整を施す。529はP105から出土した土師質土器の皿である。内外面とも回転ナデ調整で仕上げる。内底中央は回転成形により僅かに凸状を成すが, 摩耗により不明瞭である。底部内縁に沈線状痕がみられる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。全体的に摩耗する。完形である。530はP105から出土した土師質土器の皿である。内外面とも回転ナデ調整で仕上げる。内底中央は回転成形により僅かに凸状を成すが, 摩耗により不明瞭である。底部内縁に沈線状痕がみられる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。全体的に摩耗する。531はP105から出土した土師質土器の杯である。体部は僅かに内湾気味に立ち上がり, 口縁端部は丸くおさめる。底部は形骸化した矮小な高台状を呈する。内外面とも回転ナデ調整である。底部には回転糸切り痕跡がみられる。532はP406から出土した瓦質土器の羽釜である。口縁部は内傾し, 端部は面を取る。断面形が歪な直角三角形の鏝を貼付し, 上方は強いヨコナデ調整により僅かに凹状を成す。外面には指頭圧痕がみられ, 内面はナデ調整である。533はP427から出土した土師質土器の皿である。内外面とも回転ナデ調整であり, 内底中央は凹状を成す。内底面には「の」の字状のナデ調整を施す。底部には回転糸切り痕跡がみられる。534はP436から出土した土師質土器の皿である。内外面とも回転ナデ調整である。底部には回転糸切り痕跡がみられる。535はP726から出土した土師質土器の皿である。体部は直立気味に立ち上がる。内



图243 1区 P 出土遺物実測図_2

外面とも回転ナデ調整である。底部には回転糸切り痕跡がみられる。536はP911から出土した土師質土器の杯である。体部はやや深めに斜上し、口縁端部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整である。底部には回転糸切り痕跡がみられる。外面に煤が付着する。537はP699から出土した土師器の甌の把手である。断面形は隅丸長方形状を呈する。外面に煤が付着する。538はP1434から出土した土師質土器の杯である。底径に比してやや深めの体部は杯状を呈し、口縁端部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整である。底部には回転糸切り痕跡がみられる。539はP1546から出土した土師質土器の杯である。体部は屈曲し、口縁部にかけて直立気味に立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整である。底部には回転糸切り痕跡がみられる。540はP1145から出土した土師質土器の杯である。体部は逆梯形状を呈して、口縁部は僅かに外反する。内外面とも回転ナデ調整であり、ロクロ目痕がみられる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。内外面にタールが付着。541はP890から出土した瓦質土器の三足羽釜の脚である。外面には板状原体によるナデ調整を施す。胴部と接合する脚部に粘土帯を貼付する。脚部の断面形は歪な円形状を呈する。外面に煤が付着する。付け根部分から剥離する。542はP1606から出土した土師質土器の杯である。体部は僅かに内湾気味に立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整であり、内底面は回転成形により僅かに凹状を成す。底部には回転糸切り痕跡がみられる。543はP1606から出土した土師質土器の杯である。体部は僅かに内湾気味に立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整である。底部には回転糸切り痕跡がみられる。544はP1606から出土した土師質土器の杯である。体部中位から口縁部にかけてひらき気味に立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整であり、内底中央は回転成形により扁平状に突出する。底部外縁は丸みを帯びる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。545はP1606から出土した土師質土器の杯である。体部中位から口縁部にかけてひらき気味に立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整であり、内底中央は回転成形により扁平状に突出する。底部には回転糸切り痕跡がみられる。546はP1606から出土した土師質土器の杯である。体部は逆梯形状を呈して、口縁部は僅かに外反する。内外面とも回転ナデ調整であり、ロクロ目痕がみられる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。ほぼ完形である。547～550はP1606から出土した土師質土器の杯である。体部は逆梯形状を呈し、口縁端部は丸状に面を取る。内外面とも回転ナデ調整であり、ロクロ目痕がみられる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。550は底部外縁に強い回転ナデ調整を施す。551はP1606から出土した土師質土器の杯である。体部は逆梯形状を呈し、口縁端部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整であり、ロクロ目痕がみられる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。552はP1606から出土した土師質土器の杯である。内外面とも回転ナデ調整であり、外面にロクロ目痕がみられる。底部外縁に強い回転ナデ調整を施し、体部は屈曲して立ち上がる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。553はP1606から出土した土師質土器の杯である。口縁部は僅かに外反する。内外面とも回転ナデ調整であり、ロクロ目痕が認められる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。554はP278から出土した白色泥岩製の砥石である。側面を含む四面が使用され、線状の擦痕を認める。断面形は五角形を呈する。555はP1481から出土した泥質片岩製の石包丁である。長方形状を呈し、一端に抉りを入れる。周縁に調整痕が認められ、刃部の一部を研磨する。完形である。556はP782(欠番)から出土した磨製石包丁である。背部は磨き、両面とも剥離面を残し、軽く磨く程度である。刃部は両面とも磨き、片刃とする。孔は4ヶ所を認め、1ヶ所は未貫通である。穿孔は両面から行っている。完形である。557はP1026から出土した細粒砂岩製の砥石である。側面を含む三面が使用され、線状の擦痕を認める。使用面に敲打痕がみられる。558はP1546から出土した管状土錘で

ある。僅かに紡錘形状を呈した円筒形を呈する。完形である。559はP1291から出土した圭頭形の鉄鏃である。鏃身は薄く左右非対称である。また、上方に曲げられている。木質が付着。茎部の断面形は長方形を呈する。560はP427から出土した刀子か。先端は幅広くなり、厚さは均一である。茎部を欠損する。

9. 遺構外出土遺物

図示した出土遺物は、弥生土器の壺・甕・鉢、土師器の高杯、須恵器の杯・壺か、土師質土器の皿・杯、瓦質土器の羽釜・三足鍋、白磁の碗、青磁の碗、陶器の皿・碗・卸し皿、磁器の皿・碗・蓋、土錘、丸瓦、石包丁、砥石、釘、耳環である。

561は1層から出土した瓦質土器の羽釜である。口縁部は強めに内傾し、端部は面を取る。断面形が歪な三角形の鏝を貼付し、上方は強いヨコナデ調整により僅かに凹状を成す。内外面は板状原体によるナデ調整である。562は1層から出土した磁器の染付碗である。透明釉を施釉する。外面に

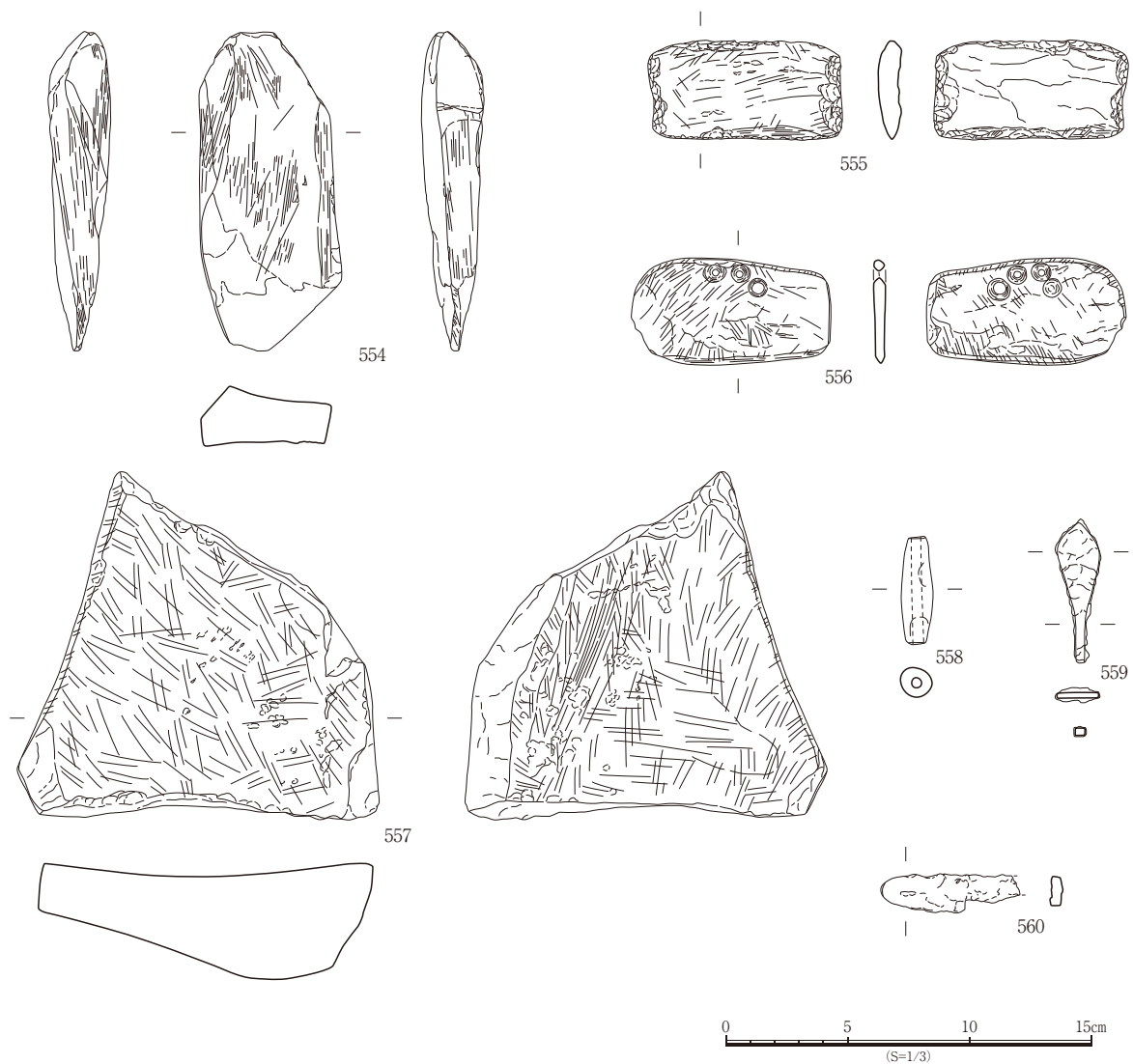


図244 1区 P 出土遺物実測図_3

網目文を描く。高台脇に1条, 高台外面に二重界線を巡らせる。暈付には釉剥ぎを施し, 粗砂の熔着が認められる。見込みに重ね焼き痕跡がみられる。563は1層から出土した磁器の染付碗である。透明釉を施釉し, 貫入が認められる。染付文様, 高台外面に二重界線を施す。暈付には釉剥ぎを施す。564は1層から出土した磁器の皿である。内面に銅緑釉を施釉し, 貫入・ピンホール及び緑灰色の釉溜りがみられる。見込みには蛇の目状の釉剥ぎを施す。外面には透明釉を施釉し, 暈付及び高台内は露胎である。内野山窯産である。565は2層から出土した弥生土器の壺である。頸部は緩やかに外傾し, 口縁部を短く外反させ, 端部は僅かに肥厚して面を取る。口縁部内外面はヨコナデ調整で仕上げる。頸部外面はタテハケ調整, 内面はヨコハケ調整である。566は2層から出土した弥生土器の壺である。口縁部は大きくひらき, 二次口縁部を付加していたものの剥離している。口唇部には4条1単位の櫛描波状文を施す。また, 二次口縁部にも櫛描波状文がみられる。内外面ともナデ調整か。二重口縁壺の可能性ある。567は2層から出土した弥生土器の二重口縁壺である。二次口縁部外面には竹管文を施した円形浮文を貼付する。内外面とも縦方向のヘラミガキ調整で仕上げる。雲母片等の細粒砂を含み, 搬入品の可能性がある。568は2層から出土した弥生土器の壺の底部である。外底面にボタン状の粘土盤を貼付する。外面はナデ調整であり, 強く施された部分がある。内面はヘラミガキ調整である。569は2層から出土した弥生土器の壺である。体部は長胴形を呈し, 底部はほぼ丸底である。外面は叩き調整後, タテハケ調整を施す。外底面は叩き調整を重ねる。内面はハケ調整を施し, 底部付近はナデ調整である。570は2層から出土した弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し, 口唇部には面取りを施す。口縁部を含めて外面はタテハケ調整である。口縁部内面はヨコハケ調整, 体部はストロークの短いハケ調整を不定方向に施す。白吹き痕跡がみられる。571は2層から出土した弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。内面は口縁部を含めてヨコハケ調整を施す。572は2層から出土した弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し, 口唇部には面取りを施す。底部は平底であり, 外底面はナデ調整により平滑に仕上げる。外面は口縁部も含め, 斜め方向のハケ調整であり, 底部付近には叩き目がみられる。口縁部内面は斜め方向のハケ調整, 体部は斜め方向のハケ調整であり, 下半部はナデ調整を施す。573は2層から出土した弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し, 端部を上方に摘み上げ, 凹線状を成す。口頸部境に強いヨコナデ調整を施す。内外面ともナデ調整である。574は2層から出土した弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈し, 口唇部にはハケ状原体により面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後, ハケ調整・ナデ調整, 内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後, ハケ調整である。内面はナデ調整である。575は2層か

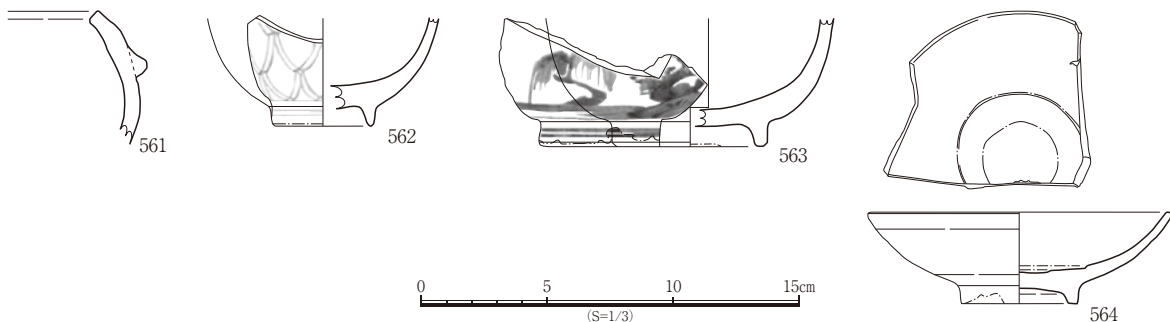


図245 1区 1層 出土遺物実測図

ら出土した弥生土器の鉢である。体部は卵形状を呈し、口縁部は僅かに外反する。底部はほぼ丸底であり、外底面に叩き目がみられる。外面はタテハケ調整, 内面はナデ調整である。576は2層から出土した弥生土器の鉢である。体部はコップ状を呈し、底部は平底。外底面には叩き目がみられる。外面は叩き調整後, ナデ調整であり, 内面はナデ調整である。577は2層から出土した弥生土器の鉢である。底部はやや突出した平底であり、外底面にはナデ調整を施す。外面にナデ調整, 内面はハケ調整である。578は2層から出土した弥生土器の壺である。端部は端反り気味に外反する。外面に斜め方向の

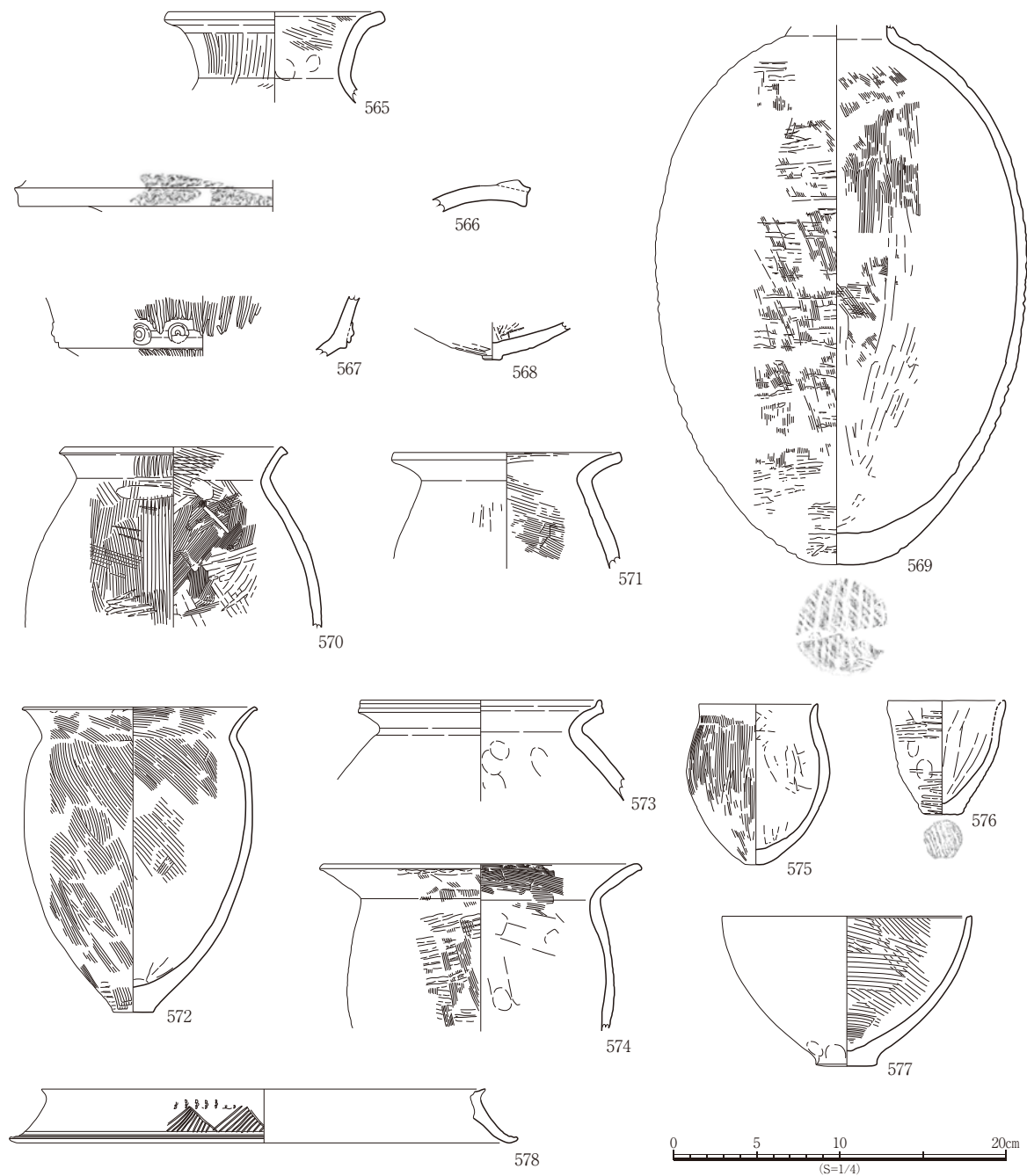


図246 1区 2層 出土遺物実測図_1

第2節 1区

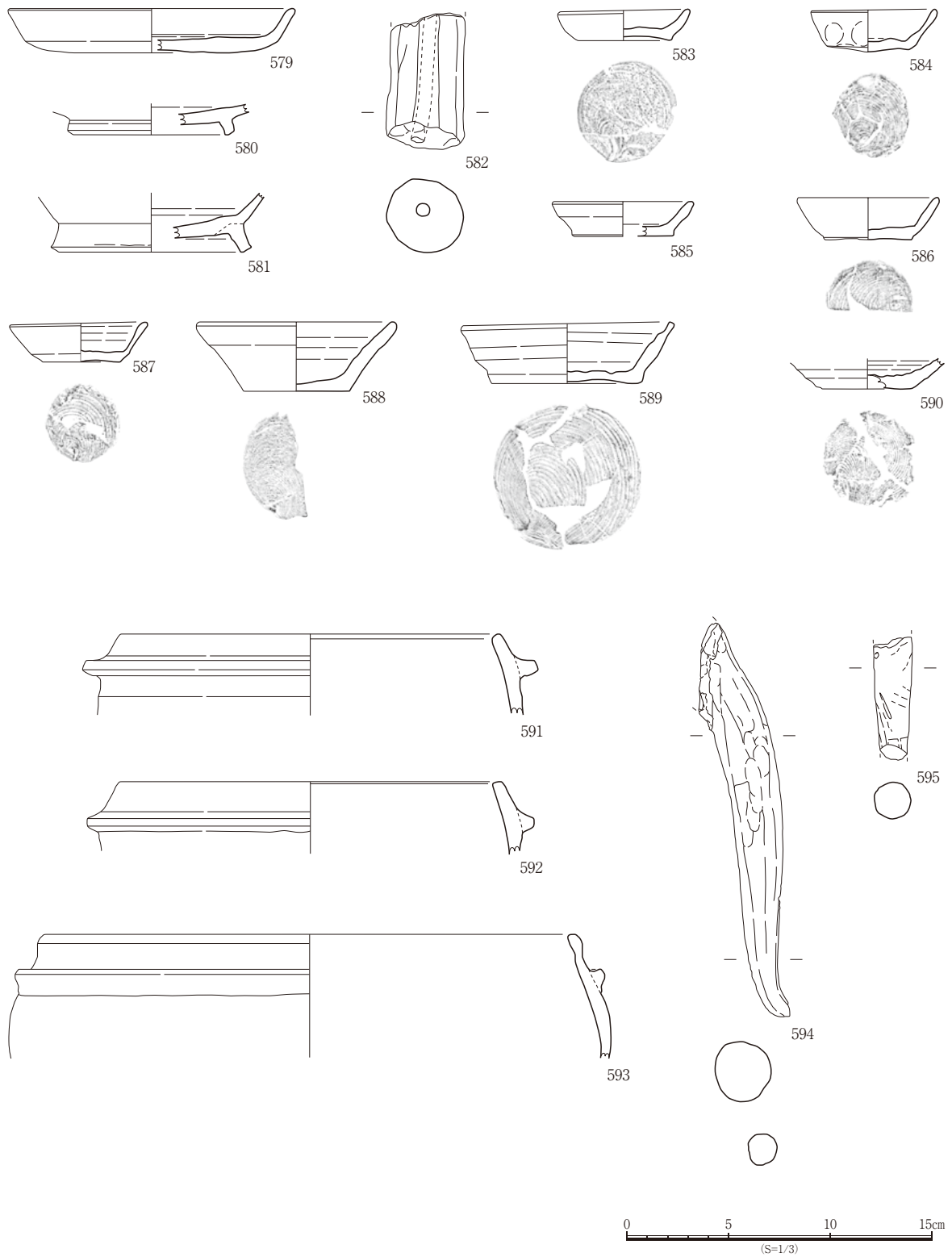


图247 1区 2層 出土遺物実測图_2

短沈線を充填した鋸歯文・列点文を配置する。端部外面は強いヨコナデ調整により、凹線状を成す。内面はヨコナデ調整である。接合面で剥離する。579は2層から出土した須恵器の杯である。口縁端部は僅かに外反気味に丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整である。外底面に同心円状の当て具痕が認められる。やや焼成不良である。580は2層から出土した須恵器の杯である。回転ナデ調整を施す。底面外縁端部に外傾する断面形が方形状の輪高台を貼り付ける。内外面に僅かに自然釉が付着する。581は2層から出土した須恵器の壺か。回転ナデ調整を施

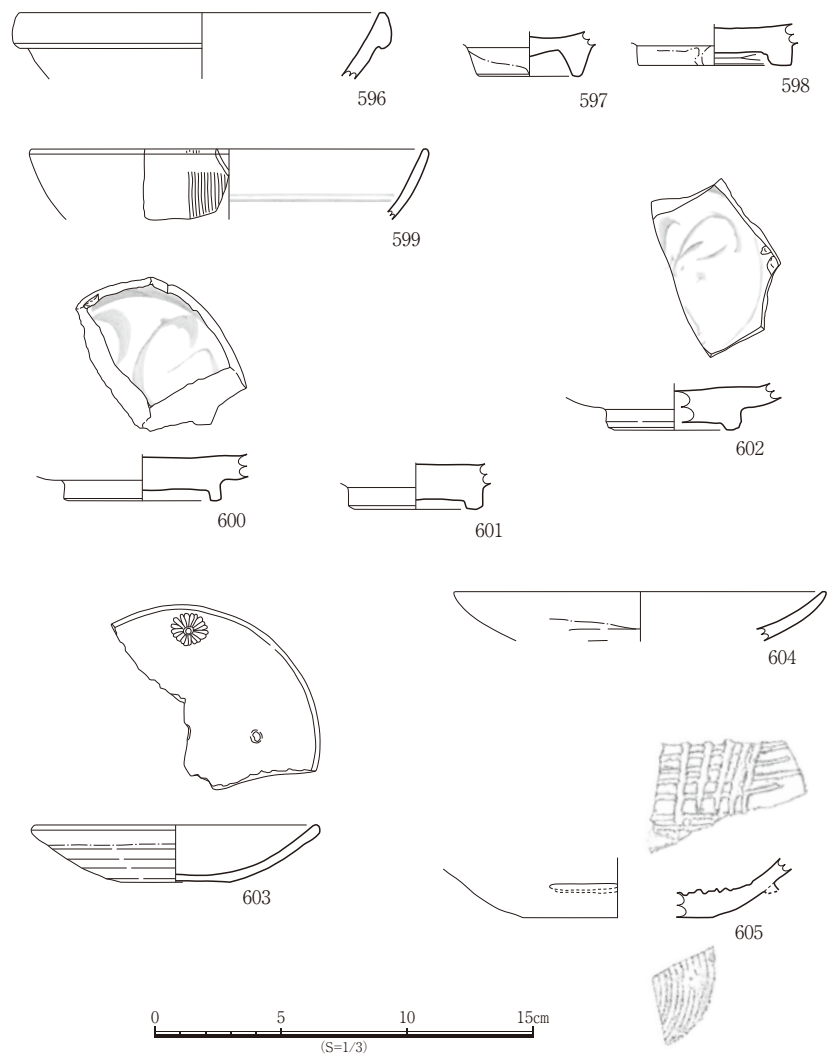


図248 1区 2層 出土遺物実測図_3

す。底面外縁端部に「ハ」の字形に外傾するやや高めの輪高台を貼り付ける。やや焼成不良であり、全体的に摩耗する。582は2層から出土した土師器の高杯である。芯を用いて成形し、十面に面取りする。583は2層から出土した土師質土器の皿である。内底面は回転成形により僅かに口クロ目状を成すが、摩耗により不明瞭である。外底面は僅かに凹状を成す。底部には回転糸切り痕跡がみられる。全体的に摩耗する。584は2層から出土した土師質土器の杯である。体部はやや深めに立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。回転ナデ調整であり、内底面は回転成形により僅かに凹状を成す。底部には回転糸切り痕跡がみられる。585は2層から出土した土師質土器の杯である。体部は僅かに稜を有して立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。回転ナデ調整を施す。底部は形骸化した円盤状高台様を成し、外底面には回転糸切り痕跡がみられる。586は2層から出土した土師質土器の杯である。体部は逆梯形状に立ち上がる。回転ナデ調整を施す。底部には回転糸切り痕跡がみられる。全体的に摩耗する。587は2層から出土した土師質土器の杯である。回転ナデ調整を施す。内底面に粘土盤を貼り付け、外底面には回転糸切り痕跡がみられる。588は2層から出土した土師質土器の杯である。体部は逆「ハ」

の字形にひらき、口縁端部は丸くおさめる。回転ナデ調整を施し、内外面にロクロ目痕が認められる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。589は2層から出土した土師質土器の杯である。体部は逆梯形状に立ち上がり、口縁端部は小さく面を取る。回転ナデ調整を施し、内外面にロクロ目痕がみられる。底部は形骸化した円盤状高台様を成し、外底面には回転糸切り痕跡がみられる。590は2層から出土した土師質土器の杯である。回転ナデ調整を施し、内外面にロクロ目痕がみられる。底部には回転糸切り痕跡がみられる。591は2層から出土した瓦質土器の羽釜である。口縁部は内傾し、口縁端部は面を取る。比較的確然とした鏝を貼付し、下方は強いヨコナデ調整により凹状を成す。全体的に摩耗する。592は2層から出土した瓦質土器の羽釜である。口縁部は内傾し、端部

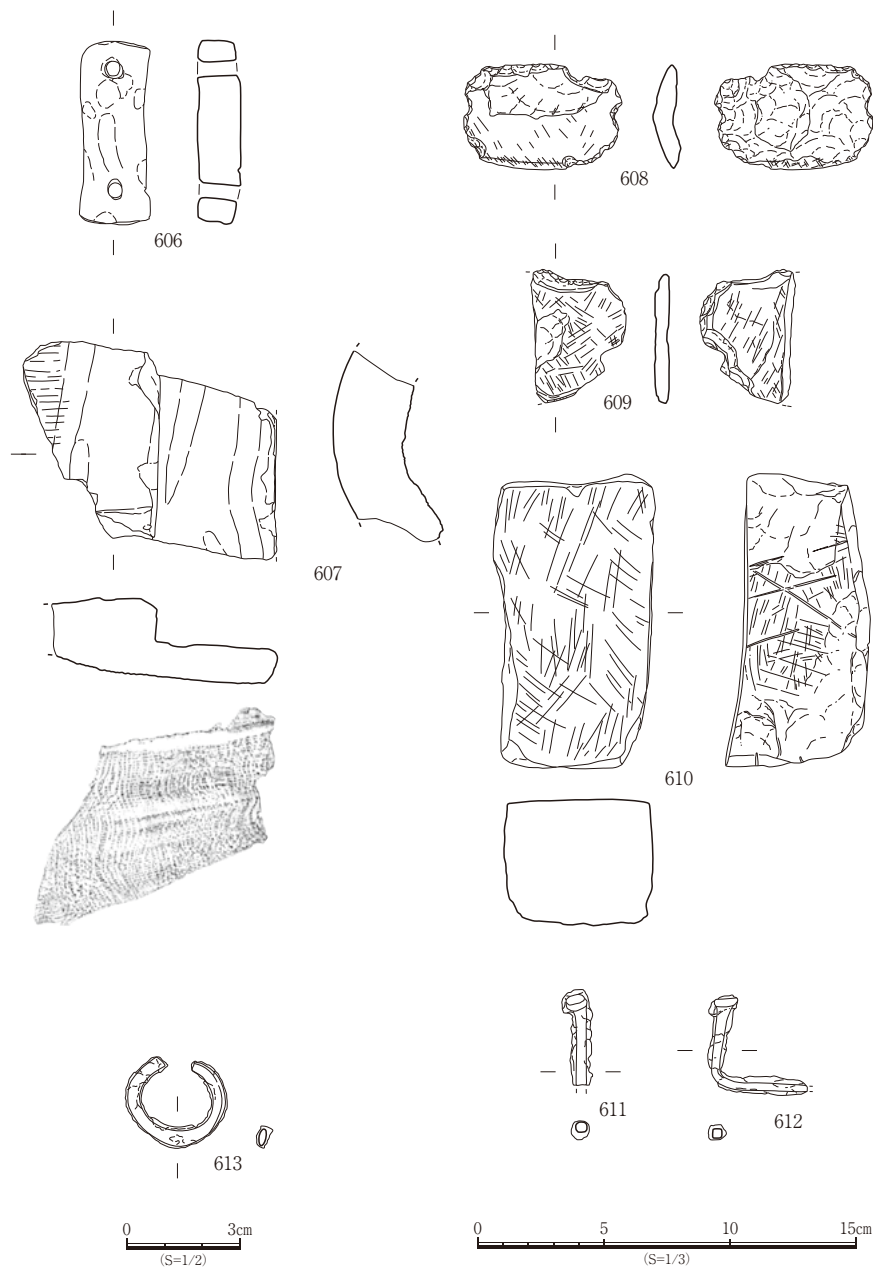


図249 1区 2層 出土遺物実測図_4

は面を取る。鏝を貼り付ける。外面に煤が付着する。593は2層から出土した瓦質土器の羽釜である。口縁部は内傾し、端部は肥厚して面を取る。胴部は丸みを帯びる。断面形が方形の鏝を貼付し、上方は強いヨコナデ調整により凹状を成す。594は2層から出土した瓦質土器の三足鍋の脚である。脚端部は如意状に外反。断面形は歪な円形状を呈する。ナデ調整を施す。付け根部分から剥離する。搬入品の可能性がある。595は2層から出土した瓦質土器の三足鍋の脚である。断面形は円形を呈する。596は2層から出土した白磁の碗である。口縁部は玉縁で、釉の二重がけ部分に小さな気泡がみられる。黄色味を帯びた灰白色の釉薬を薄く施釉する。胎土は粗く黒い砂粒を含む。IV類である。597は2層から出土した白磁の碗である。灰白色の釉薬を施釉する。高台は露胎である。胎土は密で黒い細粒砂を含む。598は2層から出土した白磁の碗である。釉薬は透明釉であり、削り出しの高台の一部にも施釉する。599は2層から出土した同安窯系の青磁の碗である。残存部全面に施釉し、ピンホールがみられる。内面に二条の沈線、外面に櫛目状文を施す。600は2層から出土した龍泉窯系の青磁の碗である。残存部全面に施釉。見込みには草花文を描き、体部境に沈線状の段を有する。削り出し高台内に熔着・剥離痕が認められる。胎土はやや粗く灰白色を呈する。601は2層から出土した青磁の碗である。残存部外面に施釉し、削り出し高台内は露胎である。見込みには飛雲状文を描き、体部境に沈線状の段を有する。胎土はやや粗く黒い細粒砂を含む。焼成不良である。602は2層から出土した龍泉窯系の青磁の碗である。畳付を含む残存部外面に施釉し、貫入がみられる。見込みには草花文を描く。削り出し高台内に熔着がみられ、赤茶色に発色する。胎土はやや粗く黒い細粒砂を含む。603は2層から出土した陶器の皿である。外面は回転ヘラケズリ調整を施す。内面及び口縁部外面に施釉し、貫入がみられる。内面には菊花文状の浮文を施す。外面には火襷、内面に重ね焼き痕跡が認められる。信楽系灯明皿であり、19C前半と考えられる。604は2層から出土した陶器の皿である。内面には銅緑釉、口縁部外面には透明釉を施釉し、下位は露胎である。体部外面に重ね焼き痕跡が認められる。内野山窯産である。605は2層から出土した陶器の卸し皿である。灰釉を施釉する。内底面に卸し目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。外面には重ね焼き痕跡がみられる。606は2層から出土した双孔棒状土錘である。

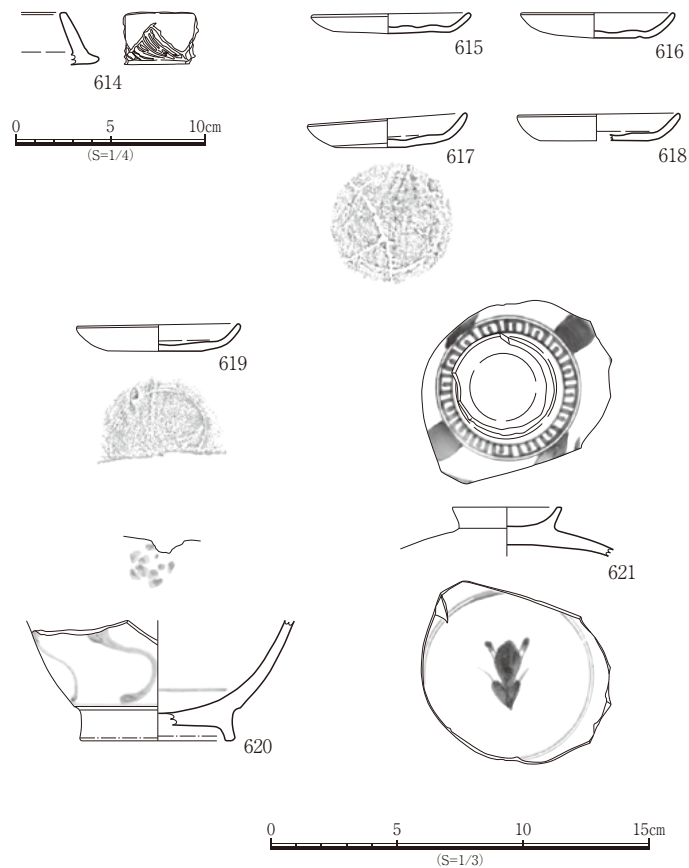


図250 1区 遺構外出土遺物実測図

丸みを帯びた直方体状を呈し、両端面に孔径0.6cmの穿孔が認められる。県内の出土例は僅少である。607は2層から出土した丸瓦である。玉縁端は面を取る。凸面には縄目痕、凹面には布目圧痕が認められる。608は2層から出土した砂岩製の打製石包丁である。長方形状を呈し、両端に抉りをいれる。刃部のみ研磨する。609は2層から出土した頁岩製の磨製石包丁である。610は2層から出土した白色泥岩製の砥石である。歪な四角柱状に加工する。二面が使用され、一面は摩滅により凹状を成す。鋭利な線刻状の痕跡を数条認め、鉄製品の研磨に用いた可能性がある。611は2層から出土した釘である。頭部は僅かに逆「L」字形を呈する。胴部の断面形は隅丸方形であり、先端部を欠損する。612は2層から出土した釘である。頭部は僅かに逆「L」字形を呈する。胴部の断面形は四角形を呈する。613は2層から出土した青銅製の耳環である。614は弥生土器の複合口縁壺である。一次口縁部と二次口縁部の接合部を突出させる。内面はヨコハケ調整であり、口縁部外面に粗雑な複合鋸歯文を描く。615～619は土師質土器の皿である。回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切り痕跡がみられる。616以外のものでは口縁部の1ヶ所あるいは2ヶ所に灯芯油痕がみられ、灯明皿として使用されていたと考えられる。620は陶器の碗である。やや粗い陶質の胎土。透明釉を施釉し、ピンホールがみられる。器面に規則的な染付文様、見込みには染付文様と1条の界線、高台脇に1条の界線を施す。高台は腰輪高台状を呈し、豊付に釉剥ぎを施す。瀬戸・美濃産の可能性ある。621は磁器の染付蓋か。透明釉を施釉し、貫入がみられる。外面に染付文様、内面に染付文様と二重界線を施す。輪状の摘み部は僅かに内湾気味に立ち上がり、二重界線を巡らせる。肥前系の望科碗の蓋の可能性ある。

第3節 2区

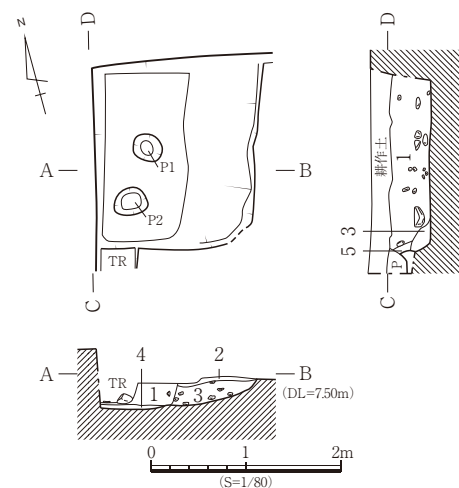
1.ST

ST23

ST23は平面形が隅丸方形と推測される竪穴建物跡である。長軸の検出長1.88m、短軸の検出長1.68mである。検出面からの深さは約33cmであり、東肩の傾斜は緩い。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-18°-Eである。大部分は調査区外である。

図示した出土遺物は弥生土器の壺(622)・甕(623~627)・鉢(628~630)、台石(631)である。

622は壺である。ほぼ丸底であり、外底面にはナデ調整を施す。外面は叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。623は小型の甕である。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈する。底部は強いナデ調整により丸底化させる。外面は口縁部を含め、叩き調整後ハケ調整を施す。内面はハケ調整・ナデ調整で仕上げ、底面付近には指頭圧痕がみられる。624は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。内外面ともハケ調整を施す。体部は球形を呈する。外面は叩き調整後、ハケ調整を比較的密に施す。内面は上半部に斜め方向のハケ調整、下半部はナデ調整である。また、体部下半には穿孔が認められる。625は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。外面は上胴部からの一連の叩き調整後、ハケ調整を加え、内面はハケ調整で仕上げる。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、内面はハケ調整であり、下半部はナデ調整である。底部はほぼ丸底である。626は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。外面は叩き調整後ハケ調整、内面はハケ調整である。底部は角の取れた平底であり、外底面はハケ調整を施す。体部は中位がやや膨らむ長胴形を呈し、外面は叩き調整後タテハケ調整、内面はハケ調整・ナデ調整である。627は甕の底部である。ほぼ丸底であり、外底面はナデ調整により平滑に仕上げる。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を施し、内面はハケ調整・ナデ調整を施す。内底面には指頭圧痕がみられる。628は鉢である。角の取れた平底であり、強いナデ調整により丸底化させる。外底面はナデ調整である。外面は叩き調整後、ハケ調整である。内面はナデ調整である。629は鉢である。体部は半球形を呈し、外面はハケ調整を密に施す。内面は上半部にハケ調整、下半部はナデ調整である。底部は丸底であり、外底面はハケ調整・ナデ調整を施す。630は大型の鉢である。口縁部は短く外反させる。底部はほぼ丸底であり、外底面は叩き調整後、ナデ調整である。体部外面は叩き調整後、ハケ調整・ナデ調整を施す。内面はハケ調整・ナデ調整である。631は砂岩製の台石である。打ち欠いており、形・大きさを調整している可能性がある。平滑となる部分、線状の擦痕が認められる。



遺構埋土

1. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに炭化物を少量、土器と0.5~30cm大の礫を多く、黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトを斑に少量含む
2. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに土器片と0.5~5cm大の礫を含む
3. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに0.5~8cm大の礫を多くと褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトを粒状に含む
4. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに0.5~4cm大の礫と褐色(10YR4/4)細粒砂を多く含む
5. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトを粒状に含む

図251 2-3区 ST23 平面図・断面図



图 252 2-3区 ST23 出土遺物実測図

ST24

ST24は調査区の北西部で検出した竪穴建物跡である。SK32に切られる。大部分は調査区外へひろがる。主軸方向はN-44°-Eである。平面形は隅丸方形もしくは多角形を呈するものと推測される。検出面から床面までの深さは約51cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。南東部で残存率の高い、大型の鉢が出土した。鉢の底面は床面から約25cm、正位の状態出土した。また、口縁部付近で自然礫が出土した。この礫は入れられたものか、偶然入り込んだものかは不明である。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(632・633)・甕(634・635)・鉢(636~640)、ミニチュア土器(641)、叩石(642)、平瓦(643)である。

632は壺の口縁部である。上方へ拡張させ、断面形は三角形状を呈する。頸部外面はタテハケ調整、内面は斜め方向のハケ調整である。633は壺の口縁部片である。口唇部は上方へ拡張させ、ハケ状原体により面取りを施す。内外面ともヨコナデ調整を施し、内面にはミガキ調整を加える。634はST24_P1から出土した甕の口縁部片である。口唇部は面取りし、下端を摘み出す。外面はタテハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。内面はヨコハケ調整である。被熱変色し、煤が付着する。635は甕の口頸部片であり、屈曲度合いは弱い。外面は頸部から口縁部まで右上がりの一連の叩き調整を施し、口縁部は指頭により成形する。内面は斜め方向のハケ調整を施す。636は鉢である。底部は角の取れた平底である。体部は半球形を呈する。口縁部は丸くおさめ、やや波打つ。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。腰部に僅かに叩き目が認められる程度である。叩き調整を施していたとすれば、かなり丁寧にナデ消されている。内面は横方向から斜め方向のハケ調整を施す。637は鉢である。底部は角の取れた平底である。口縁部は尖らせる部分もあれば丸くおさめる部分もあり、総じて器壁は厚い。外面は叩き調整後、縦方向のナデ調整を施す。内面はハケ調整である。638は鉢である。口唇部は面取りされ、外端部に粘土がはみ出る。内外面ともに斜め方向のハケ調整を施す。内面は平滑に仕上げる。639はST24_P2から出土した脚付鉢である。脚部は低く、「ハ」の字形にひらき、端部はヨコナデ調整により尖らせる。脚部外面は縦方向のミガキ調整を密に施し、内面にはヨコナデ調整を施す。また、鉢部内面にはミガキ調整を施す。640は外反口縁の鉢である。体部は球形を呈し、

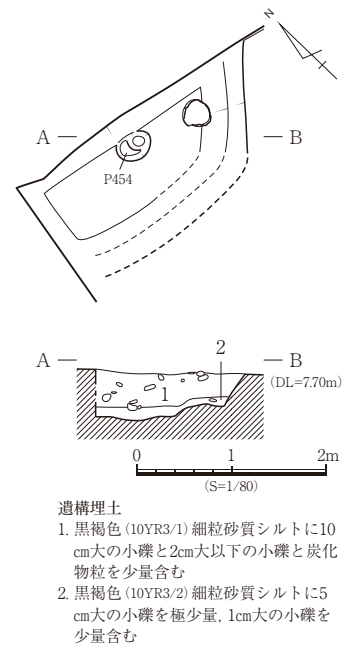


図253 2-4区 ST24 平面図・断面図

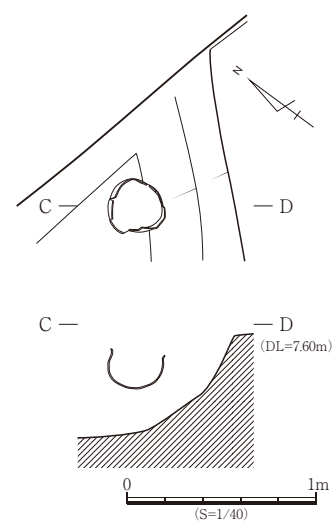


図254 2-4区 ST24 遺物出土状態図・エレベーション図

丸底である。外面は叩き調整後、縦方向のミガキ調整及びナデ調整で仕上げる。下半部のミガキ調整及びナデ調整は特に密に施され、ほとんどの叩き目は消されている。口縁部は体部からの一連の叩き調整後、指頭により成形し、注口が付されていた可能性がある。内面下半部はナデ調整、上半部は工具によるナデ調整である。641はミニチュア土器である。手捏ね成形と考えられるが、外面には叩き目と思われる痕跡が認められる。口縁部は指頭で摘み成形する。内面にはしほり目がみられる。器壁は厚い。642は砂岩製の叩石である。主として側面に敲打痕跡が認められる。完存である。643は平瓦片である。凸面には縄叩き痕跡、凹面には布目圧痕が認められる。混入品である。

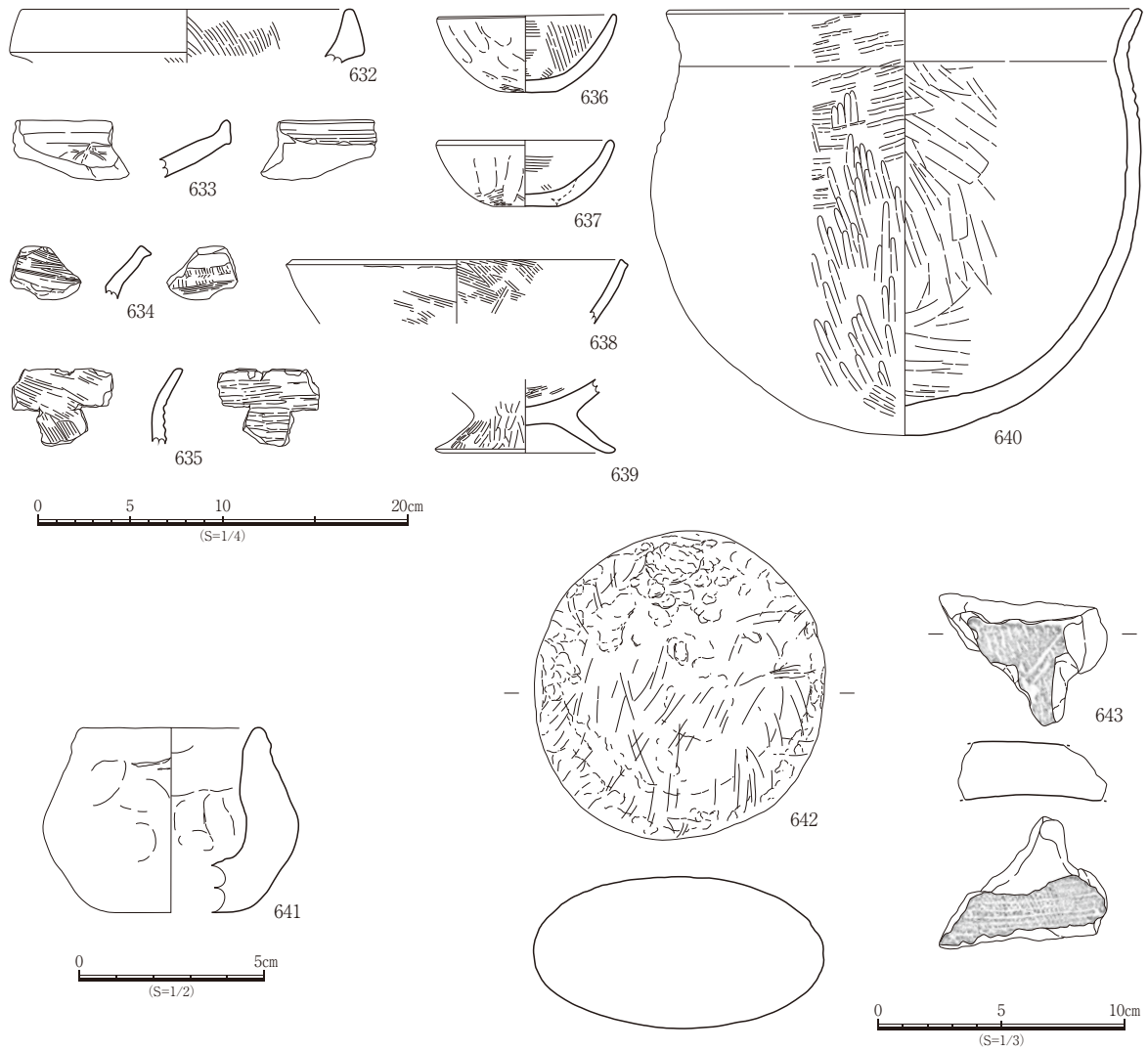


図 255 2-4区 ST24 出土遺物実測図

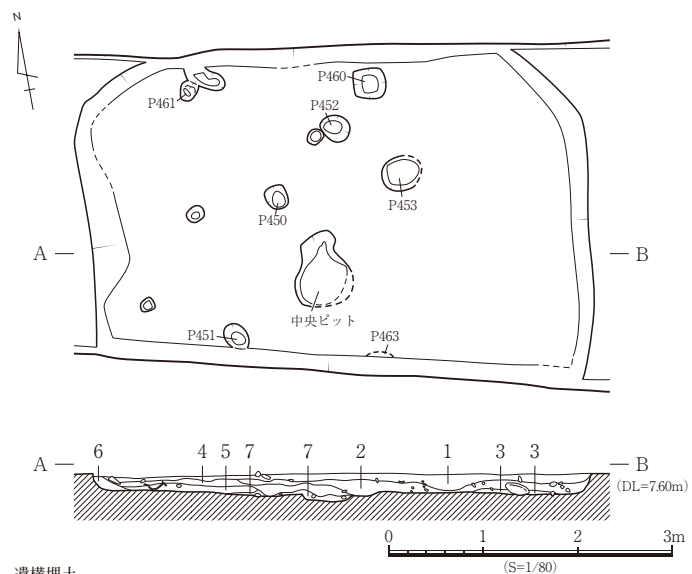
ST25

ST25は調査区の東部で検出した竪穴建物跡である。ST26と重複する。ST26を切るものと考えられるが検討の余地がある。東西方向は5.42mを測ることから一辺約5.4mの隅丸方形を呈するものと推測される。床面積は28.0㎡である。主軸方向はN-6°-Eである。検出面からの深さは約29cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット、ピットを検出した。中央ピットは床面中央で検出した平面形が瓢箪形の土坑である。主柱穴を確定することは難しく、P453が北東部の主柱穴である可能性がある。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(644~646)・甕(647~660)・底部(661~665)・鉢(666~684)・高杯(685~687)・器台(688)、ミニチュア土器(689)、黒色土器の椀(690)、須恵器の壺(691)、土師器の甕(692)、石包丁(693・694)、鉄製品(695)である。

644は壺の口縁部である。口唇部は凹面状を呈し、ハケメが認められる。外面はタテハケ調整後、口縁端部付近はヨコナデ調整を施す。内面は横方向のミガキ調整を施す。645は壺の口縁部である。口唇部は凹面状を呈し、2条の沈線が認められる。外面はヨコナデ調整後、タテハケ調整を施す。指頭圧痕が認められる。内面は、ハケ調整・ナデ調整後、縦方向のミガキ調整を施す。646は複合口縁壺の口縁部である。二次口縁部はやや内傾気味となる。外面には5条1単位の櫛描波状文を施す。内面はハケ調整である。

647は小型の甕である。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈する。体部は球形を指向し、丸底である。ナデ調整により丸底とする。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。叩き調整は2~3回に分割して行われる。口縁部は体部からの一連の叩き調整を施し、指頭により成形する。内面の上半部はハケ調整、下半部はナデ調整である。残存率は良好である。648は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りされる。体部の最大径部を上胴部に持つ。底部は角の取れた平底であり、外底面にはハケ調整を施す。ハケ調整により角を取る。外面は叩き調整後、口縁部から肩部及び下半部にタテハケ調整を比較的密に施す。



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト
2. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに~8cmの礫と褐色(10YR4/1)極細粒砂質シルトを斑に少量含む
3. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト
4. 黒色(2.5Y2/1)細粒砂質シルト
5. 黒色(10YR1.7/1)極細粒砂質シルトに褐色(10YR4/4)細粒砂質シルト(地山)を少量含む
6. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに~10cmの礫を含む
7. 黒色(10YR1.7/1)粘土質強めの細粒砂質シルト

図256 2-4区 ST25 平面図・断面図

口縁部外面は丁寧にハケ調整が施され、叩き目を観察することはできない。体部は内外面とも上半部のハケメは粗く、下半部のハケ調整とは原体が異なっている。内面の肩部に粘土紐接合痕跡が認められる。649は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部は面取りする。外面は口縁端部まで体部からの一連の叩き調整後、タテハケ調整を施す。口縁部内面は斜め方向から横方向のハケ調整を施す。肩部内面には指頭圧痕が多数みられる。また、粘土紐接合痕跡が認められる。650は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。外面は叩き調整後、頸部のみにタテハケ調整を施す。口縁部はナデ調整で仕上げられ、叩き目の痕跡は認められない。口頸部内面には横方向のハケ調整を施し、口頸部境の稜は比較的立つ。肩部内面はナデ調整が施され、指頭圧痕が目立つ。651

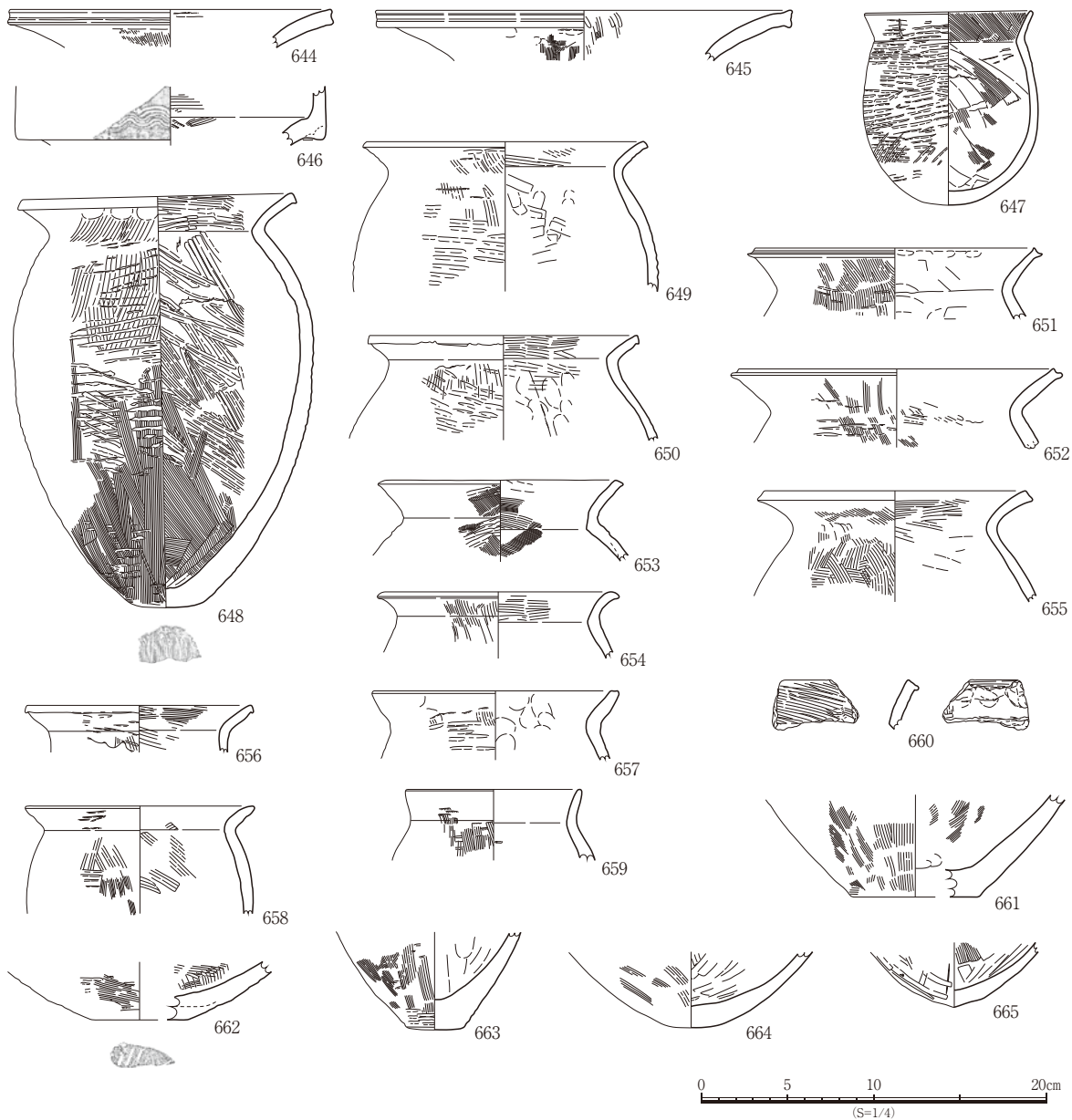


図257 2-4区 ST25 出土遺物実測図_1

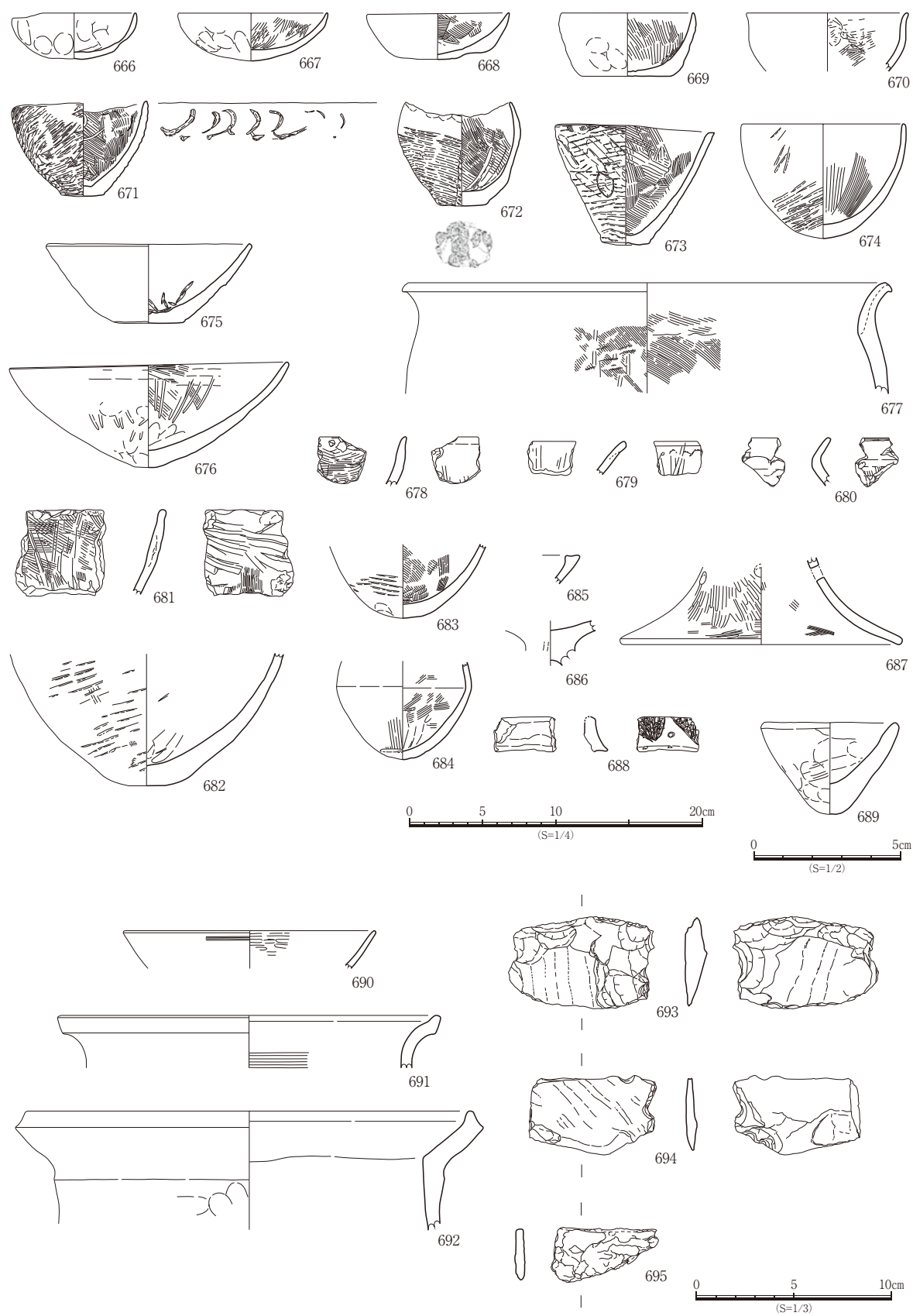


図258 2-4区 ST25 出土遺物実測図_2

は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口唇部上端を摘み上げ、下端を摘み出す。外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はナデ調整である。652は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口唇部上端を摘み上げ、下端を摘み出す。外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面はハケ調整・ナデ調整である。653は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。外面は口縁端部まで一連の叩き調整を施し、口縁部は縦方向から斜め方向のハケ調整を密に施す。肩部にもハケメがみられる。654は甕である。口縁部はやや屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈し、口縁部上面を面取りし、外方へ摘み出す。外面は叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。口縁部内面には横方向のハケ調整、体部内面にはナデ調整を施す。655は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部下端を摘み出し、口唇部は弱い凹面状を呈する。外面はストロークの短いハケ調整を不定方向に施す。口縁部内面には横方向から斜め方向のハケ調整を施す。内面頸部直下まで横方向から斜め方向のケズリ調整を施す。656は甕である。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。外面は口縁端部まで体部からの一連の叩き調整を施し、指頭により成形する。体部は叩き調整後、タテハケ調整を施す。657はST25_P5から出土した甕である。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈し、口唇部にはルーズな面取りを施す。外面は叩き調整後、口縁部は指頭により成形する。内面はナデ調整である。658は甕である。口縁部は短い「く」の字状を呈し、口唇部は丸くおさめる。外面は口縁端部まで体部からの一連の叩き調整後、口縁部は指頭により成形する。体部は叩き調整後、ハケ調整を施す。ハケ調整の原体には二種類認められるが、一つはナデ調整の可能性がある。体部内面には斜め方向のハケ調整を施し、原体が器面に入り込む。659は甕である。口縁部は外反度合いの弱い「く」の字状を呈し、口唇部は丸くおさめる。外面は叩き調整後、口縁部はヨコナデ調整、体部はタテハケ調整を密に施す。口縁部内面はヨコナデ調整、体部内面は横方向のケズリ調整を施す。660はST25_P9から出土した甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部にはハケ状原体により面取りを施す。外面は叩き調整後、指頭により成形する。内面は斜め方向のハケ調整である。661は壺の底部である。外底面が平滑な平底である。外面はタテハケ調整を密に施す。叩き目は認められない。内面は斜め方向のハケ調整後、ナデ調整を施す。底面付近に弱い指頭圧痕がみられる。662は壺の底部か。角の取れた平底であり、外底面には叩き目がみられる。外面は叩き調整後、横方向から斜め方向のハケ調整を施す。内面は底部付近には蜘蛛の巣状にハケ調整を施し、内底面にもハケメが認められる。663は甕の底部である。平底であり、外底面を平滑に仕上げる。外面は叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。内面にはナデ調整を施す。664は底部である。外面のナデ調整と内底面からの押出しにより丸底とする。内面はハケ調整後、底面付近にはナデ調整を施す。665はST25_P9から出土した壺の底部である。外面のナデ調整と内底面からの押出しにより丸底とする。外面にみられるキレツは丸底とする時に生じたと考えられる。内面は一部にハケメがみられるが、縦方向のナデ調整で仕上げる。特徴的な調整痕が認められる。また、外面にはキレツが認められる。

666は皿状鉢である。外面全面に指頭圧痕が認められる。内面はナデ調整を施し、外面同様、指頭圧痕が認められる。667は皿状鉢である。外面全面に指頭圧痕がみられる。内面は粗いタテハケ調整を施す。ハケメは内底面にもみられる。外面にはキレツが認められる。668は鉢である。角の取れた大きめの平底である。口唇部は尖らせ気味におさめる。外面全面にキレツが認められる。内面は斜め方向のハケ調整、底面付近はナデ調整である。未成品の可能性もある。669は鉢である。角の取れた大きめの平底である。外面はナデ調整でキレツがみられる。内面は斜め方向のハケ調整を施す。670

は鉢である。口縁部はヨコナデ調整で短く外反させる。外面はナデ調整、内面は横方向から斜め方向のハケ調整である。671は鉢である。外面は底部から口縁端部まで一連の叩き調整を施す。内面は底部から口縁部まで1ストロークのハケ調整を全面に施す。また、口縁部内面には先端が丸い工具を用いて「へ音記号」の様な線刻を7つ横に並べる。ほぼ完存である。672は鉢である。平底であり、外底面には2ヶ所抉られたような痕跡がある。外面は右下がりの叩き調整を施し、口唇部を摘み尖らせるとともに口縁部を内湾させる。内面は斜め方向のハケ調整を施し、部分的にナデ調整を加える。全体的につくりは雑である。673は口径に対して深いタイプの鉢である。平底で、外底面中央に僅かな凹みが認められる。口唇部にはルーズな面取りが施され、僅かに摘み出す。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。上半部にはナデ調整が1条巡る。内面は斜め方向のハケ調整を全面に施す。ほぼ完存である。674は鉢である。底端部をナデることで丸底とする。外面は口縁端部まで一連の叩き調整を施し、上半部は指頭により成形する。口唇部は尖らせる。内面はタテハケ調整を密に施す。全体的に歪む。675は鉢である。角の取れた平底から外上方へ直線的に立ち上がる。内外面とも摩耗している。内外面ともナデ調整か。内底面に工具痕跡が認められる。676は鉢である。口縁部は大きくひらき、口唇部は尖らせ気味におさめる。底部は端部を強くナデることで丸底化を目指す。外面下半部はナデ調整後にミガキ調整を施し、上半部にはナデ調整を施す。内面はハケ調整あるいはナデ調整後ミガキ調整を加える。口縁部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。677は大型の鉢である。口縁部を緩やかに外反させ、口唇部には面取りを施す。外面は叩き調整後、斜め方向のハケ調整を施し、さらに縦方向のミガキ調整を加える。内面にはハケ調整を密に施す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。678は鉢である。口縁部はヨコナデ調整により、僅かに外反させ、口唇部は尖らせ気味におさめる。外面はハケ調整後、ミガキ調整か。内面はヨコハケ調整である。679はST25_P4から出土した鉢と考えられる口縁部片である。外面はヨコナデ調整後、ミガキ調整を疎らに施す。内面はヨコナデ調整後、縦方向のナデ調整を加える。680は鉢である。口縁部はヨコナデ調整を施し、「く」の字状を呈する。外面はタテハケ調整、内面はナデ調整であり、指頭圧痕が認められる。小型甕か。681は鉢である。口唇部は丸くおさめる。口縁部付近の外面は叩き板による横方向のナデ調整、上半部はタテハケ調整を施す。内面は横方向から斜め方向のハケ調整後、縦方向のナデ調整を疎らに施す。682は鉢である。内底面からの押し出し及び外底端部をナデることで丸底とする。外面は叩き調整後、ハケ調整・ナデ調整を施す。内面は摩耗のため観察が困難であるが、内底面に工具の静止痕跡が認められる。683はST25_P9・P459から出土した鉢である。底端部を強くナデることで丸底とする。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。キレツがみられる。内面は横方向から斜め方向のハケ調整を密に施す。内底面には工具の静止痕跡が認められる。684は中央ピットから出土した鉢である。口縁部は欠損するものの短く外反すると推測される。丸底であり、上胴部に最大径部を持つ。全体的に摩耗しており調整等の観察は困難である。外面下半部にはタテハケ調整を施す。内面上半部にはストロークの短いハケ調整を不定方向に施す。下半部はナデ調整である。

685は高杯の口縁部片である。口唇部は上面をむき肥厚させ凹面状となる。内外面とも摩耗のため調整等の観察は困難である。686は高杯の杯部から脚部の破片である。杯部は内外面ともミガキ調整を施す。脚部内面はナデ調整である。687は高杯の脚裾部である。「ハ」の字形に大きくひらき、端部は丸くおさめる。外面は縦方向のミガキ調整、端部付近は横方向のミガキ調整を施す。内面裾部は横方向のハケ調整を施す。また、脚部と裾部の境付近に円孔を4ヶ所に穿たれていると推測される。688

は器台の口縁部片と考えられる。ヨコナデ調整で仕上げる。外面には複合鋸歯文と竹管文を交互に配置するものと推測される。擬口縁となる。689はミニチュア土器である。手捏ね成形で、指頭圧痕が顕著に残る。690は内黒タイプの黒色土器の椀である。内面には横方向のヘラミガキ調整を比較的密に施す。691は須恵器の壺である。口縁部は上方に拡張し、口唇部は丸くおさめる。内外面とも回

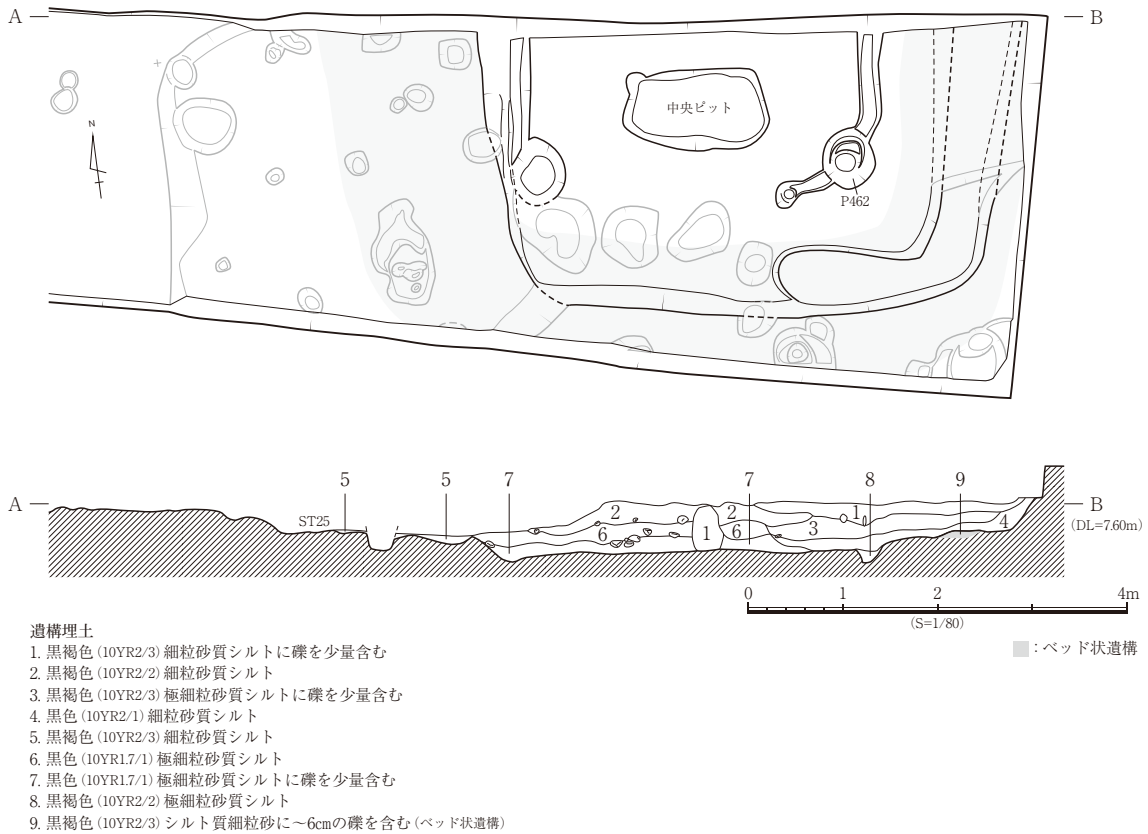


図259 2-4区 ST26 平面図・断面図

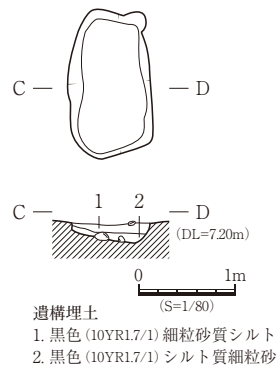


図260 2-4区 ST26_中央ピット 平面図・断面図

転ナデ調整である。混入品である。692は土師器の甕である。口縁端部を上方へ摘み上げ、口唇部は凹面状を呈する。内外面ともヨコナデ調整を施す。外面のヨコナデ調整は強い。混入品である。693は頁岩製の打製石包丁である。両面とも主要剥離面を大きく残す。一部、表皮が残る。周囲に調整剥離を施し、刃部、背部を成形する。短辺には紐かけ用の抉りを入れる。ほぼ完存である。694は頁岩製の打製石包丁の未成品である。表面は主要剥離面、裏面は表皮である。一方の短辺には紐かけ用の抉りを入れる。縁辺の調整剥離は一部を除いてみられない。695は鉄製品である。平面形は直角三角形

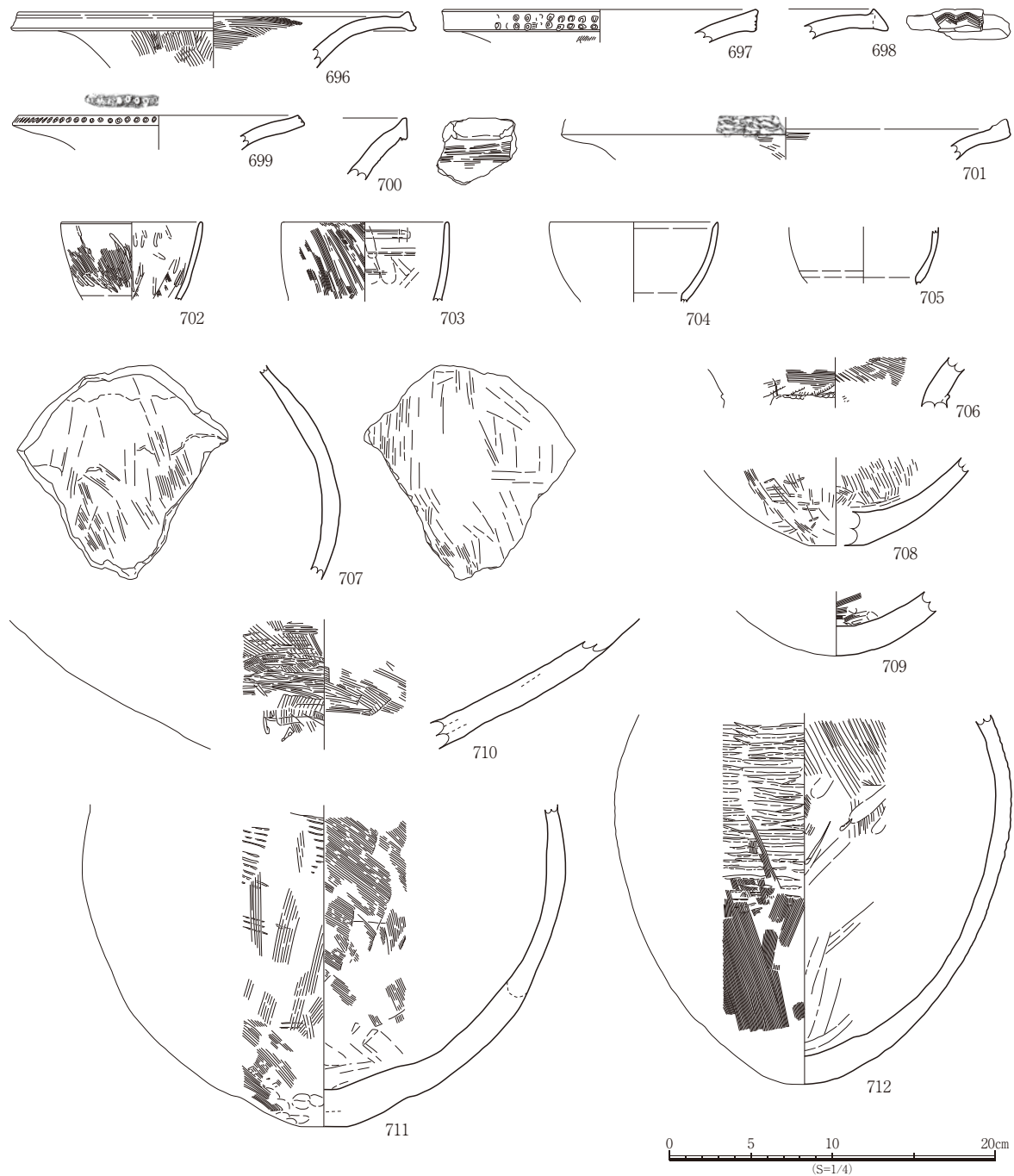


図261 2-4区 ST26 出土遺物実測図_1

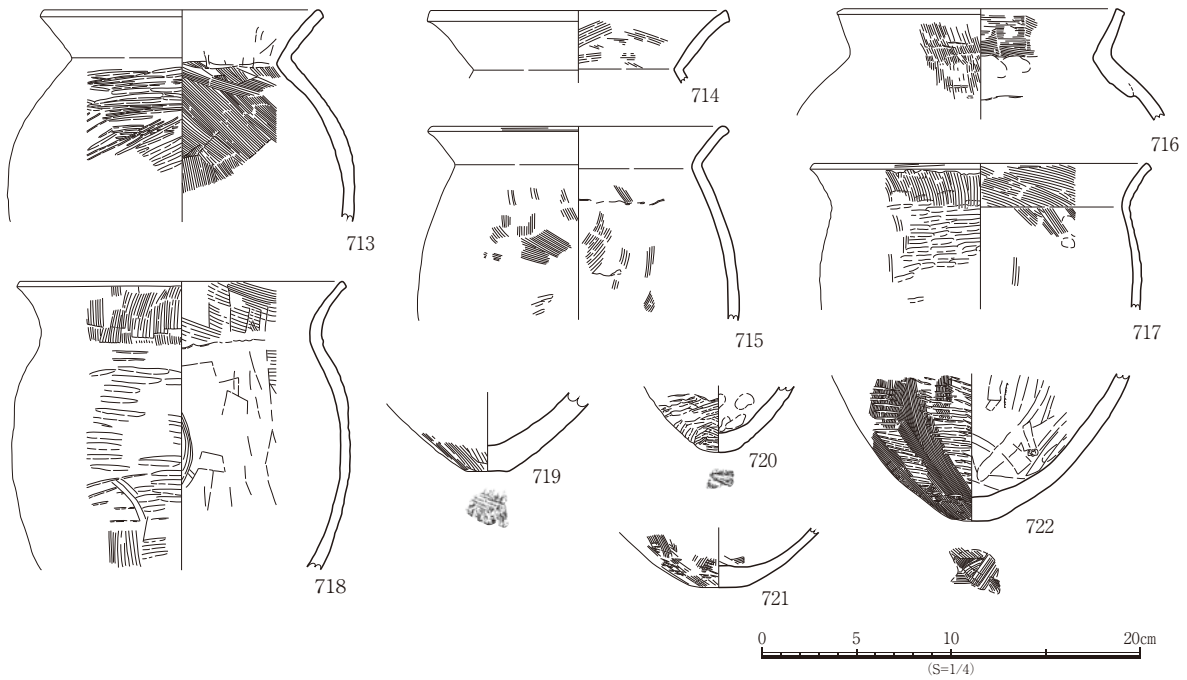


図262 24区 ST26 出土遺物実測図_2

状を呈する。全体的に錆の付着は少なく、欠損部を除くと本来の形状を保持しているものと考えられる。混入品か。

ST26

ST26は調査区の東部で検出した竪穴建物跡である。ST25と重複する。ST25に切られるものと考えられるが検討の余地がある。周囲にベッド状遺構が巡っているものと考えられ、ベッド状遺構を含めると一辺約7.2mの隅丸方形を呈するものと推測され、ベッド状遺構上面から床面までの深さは約36cmである。床面積は30.2㎡である。主軸方向はN-16°-Eである。

埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト、黒色(10YR1.7/1)極細粒砂質シルト他である。床面では中央ピット、支柱穴、小溝を検出した。中央ピットは床面のやや南よりに位置する。長軸150cm、短軸86cmの隅丸長方形を呈し、検出面からの深さは約16cmである。埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。支柱穴は南西部と南東部(P462)に位置することから四隅に支柱穴を配置する構造を持つと推測される。P462は長軸66cm、短軸55cm、床面からの深さは直径約60cm、南西部のピットは長軸73cm、短軸58cm、床面からの深さは直径約43cmであり、相対的に規模が大きい。小溝は2条検出した。南北方向の小溝で支柱穴間を連結すると推測される。小溝1は、幅約20cm、床面からの深さは約23cmである。小溝2は、幅約20cm、床面からの深さは直径約4cmであり、床面の西際に位置し、いわゆる壁溝である。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(696～712)・甕(713～722)・鉢(723～739)・有孔土器(740)・高杯(741・742)・器台(743～747)、支脚(748)、ミニチュア土器(749・750)、磨石(751)、鉈(752)、土師器の杯(753～755)、スラグ(756)である。

696は中央ピットから出土した壺の口縁部である。口縁上端を摘み上げ、下端には粘土紐を貼り付けることで拡張させる。口唇部は強いヨコナデ調整により凹面状を呈する。外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整を施す。また、外面にはキレッツが認められる。697は壺の口縁部である。口唇部はヨコナデ調整により僅かに拡張させ、二段の竹管文を施す。外面はタテハケ調整後、ミガキ調整を施す。内面はナデ調整か。698はST26_P1から出土した壺の口縁部片である。口唇部は粘土紐の貼付により上下に拡張させ、5条1単位の櫛描波状文を施す。外面はタテハケ調整、口縁部はヨコハケ調整を施す。内面はヨコハケ調整である。699は壺の口縁部である。口唇部には竹管文を施す。摩耗のため、調整等の観察は困難である。700は壺の口縁部である。口唇部は摘み上げ、強いヨコナデ調整により上下に僅かに拡張させる。外面はヨコハケ調整・ヨコナデ調整、内面はヨコナデ調整である。701は壺の口縁部である。口唇部は上端に粘土紐を貼付し拡張させていたものの剥離し、擬口縁となる。口

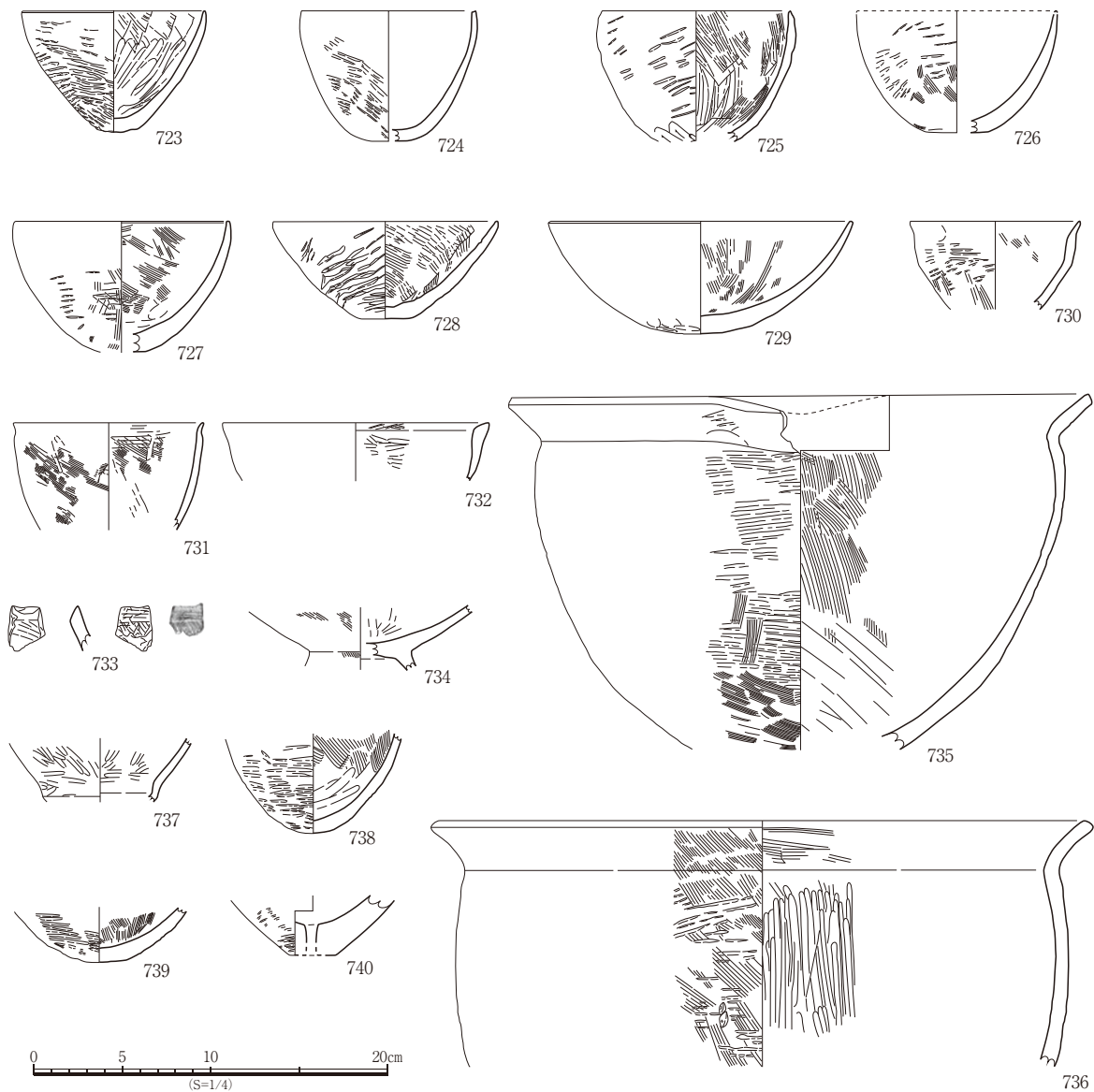


図263 2-4区 ST26 出土遺物実測図_3

第3節 2区

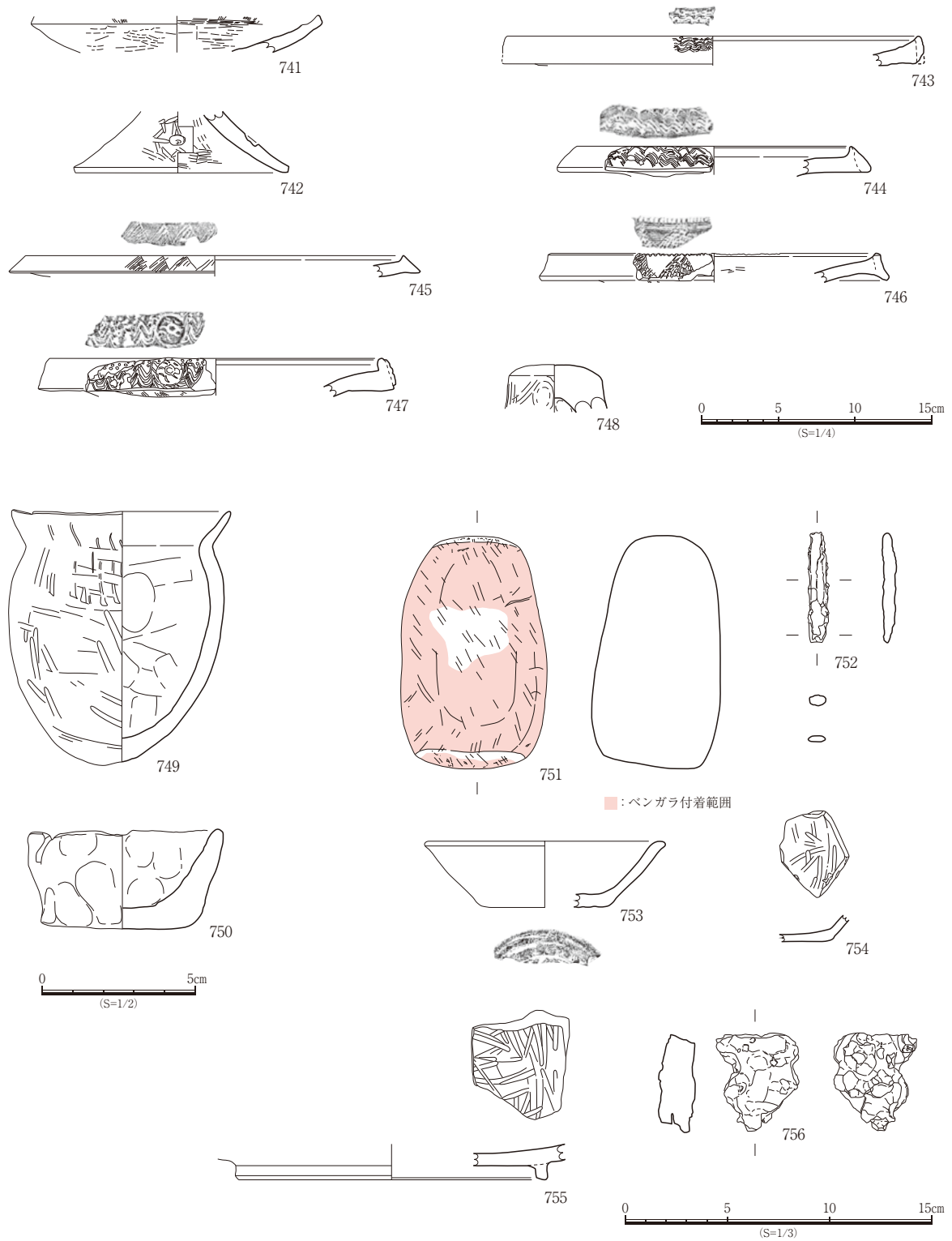


図264 2-4区 ST26 出土遺物実測図_4

唇部には上下の振幅の小さい櫛描波状文を施す。外面は粗いヨコハケ調整後、ナデ調整であり、内面は粗いヨコハケ調整かヨコナデ調整である。702は壺の口縁部である。口縁部はあまりひらかず、直立気味に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。外面は斜め方向のハケ調整後、ミガキ調整を疎らに施す。内面はヨコナデ調整後、ミガキ調整を施す。口縁部内外面にはヨコナデ調整を施す。搬入品か。703は壺の口縁部である。内湾気味に直立し、口唇部は丸くおさめる。外面は縦方向から斜め方向のハケ調整を密に施す。内面はヨコハケ調整・ナデ調整を施す。704は床面から出土した壺の口縁部である。内湾気味に立ち上がり、口唇部は尖らせる。内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。全体的にシャープなつくりである。胎土等から搬入品と考えられる。705は壺である。内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。胎土等から搬入品である。706は壺の頸部である。外面はヨコハケ調整、内面は斜め方向のハケ調整を施す。頸部と体部の境に刻目突帯を貼付する。剥離、欠損部分もあるものの斜格子の刻目が施されていたと推測される。707は中央ピットから出土した壺の体部である。外面はタテハケ調整、内面肩部はナデ調整、体部はタテハケ調整である。内面には粘土紐接合痕跡が認められる。胎土は仁淀川流域のものと推測される。708は床面から出土した壺の底部である。平らな部分の残る丸底である。外面は叩き調整後、ハケ調整・ナデ調整を施す。内面はタテハケ調整、内底面にはナデ調整を施す。709は中央ピットから出土した壺の底部である。丸底を呈する。外面はハケ調整・ナデ調整を施す。内面は横方向のハケ調整を施し、内底面は不定方向のハケ調整を施し、指頭圧痕が認められる。710は大型壺の底部である。外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。底部付近はハケ調整後、ナデ調整である。一部に砂粒の移動痕跡がみられる。内面は斜め方向のハケ調整である。711は中央ピットから出土した壺である。ほぼ丸底となるものの底部と体部の境は凹み、両者は意識されている。外底面はナデ調整により平滑となる。外面は叩き調整後、タテハケ調整を比較的密に施す。上部にはミガキ状を呈する部分がみられる。内面は斜め方向のハケ調整を密に施し、底部付近はナデ調整を施す。断面の観察から幅約5cmの粘土帯を積み上げている。712は床面から出土した壺である。胴部中位が最大径部となる長胴形を呈する。底部はナデ調整により丸底とする。外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。下半部はタテハケ調整及びナデ調整を密に施し、叩き目はみられない。内面については肩部は粗いハケ調整、中位はケズリ調整、下半部はナデ調整である。内底面には指頭圧痕が認められる。

713は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。肩部は水平方向の叩き調整、体部は右上がりの叩き調整である。内面は斜め方向のハケ調整を密に施す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整であり、外面にはキレツが認められる。714は甕の口縁部である。間延びした「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。全体的に摩耗する。外面はナデ調整、内面は斜め方向のハケ調整である。715は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁部から肩部外面はヨコナデ調整である。体部外面は横方向から斜め方向のハケ調整を密に施す。一部に叩き目がみられる。口縁部内面はハケメ状に見えるヨコナデ調整、肩部内面はナデ調整、体部は斜め方向のハケ調整である。また、外面には斜め白吹き痕跡が認められる。716は甕の口縁部である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。外面は叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。口縁部内面はヨコハケ調整、体部はナデ調整である。肩部内面には粘土帯接合痕跡がみられる。717はST26_P1から出土した甕である。口縁部は緩やかに外反し、口唇部はハケ状原体による面取りを施す。口縁部内面は斜め方向のハケ調整を密に施す。外面は体部から口縁端部まで一連の叩き調整後、タテハケ調整を施す。口縁部の

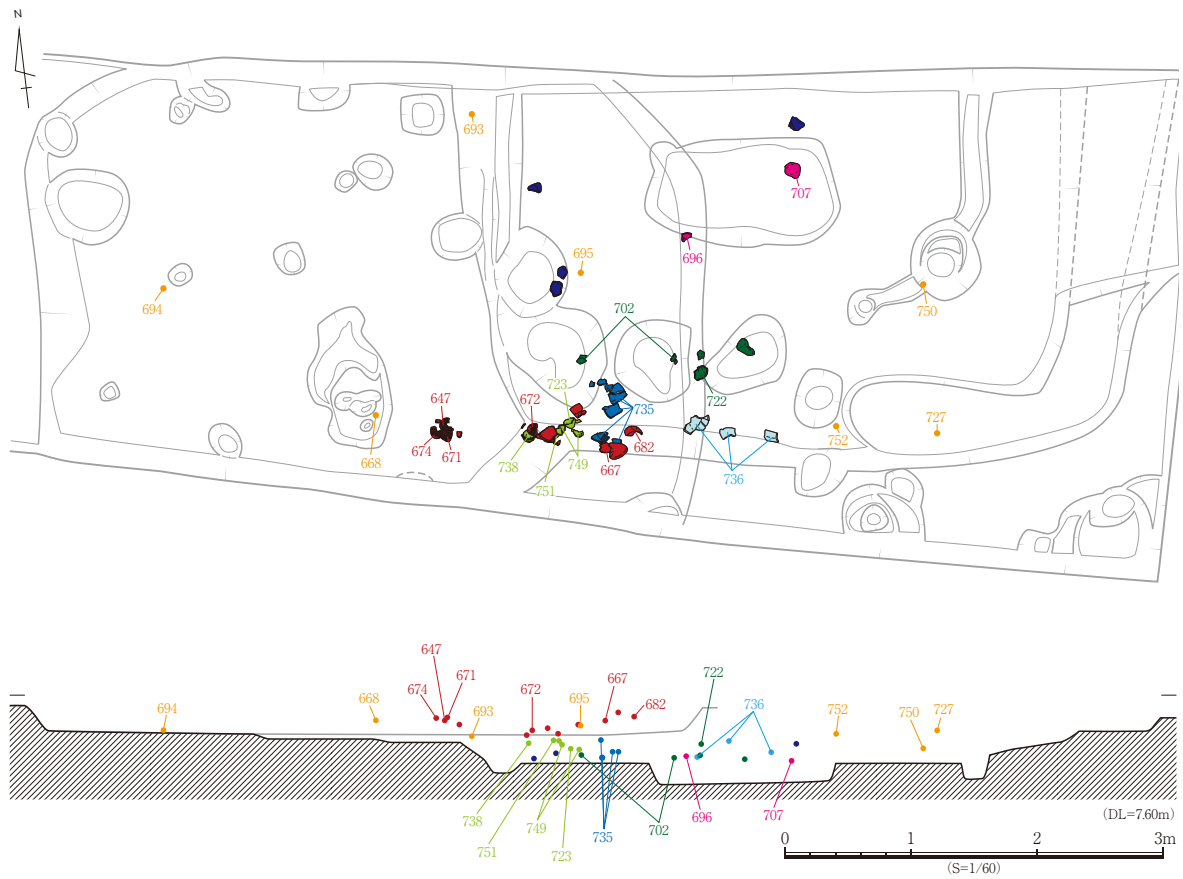


图265 2-4区 ST25·26 遺物出土状態図

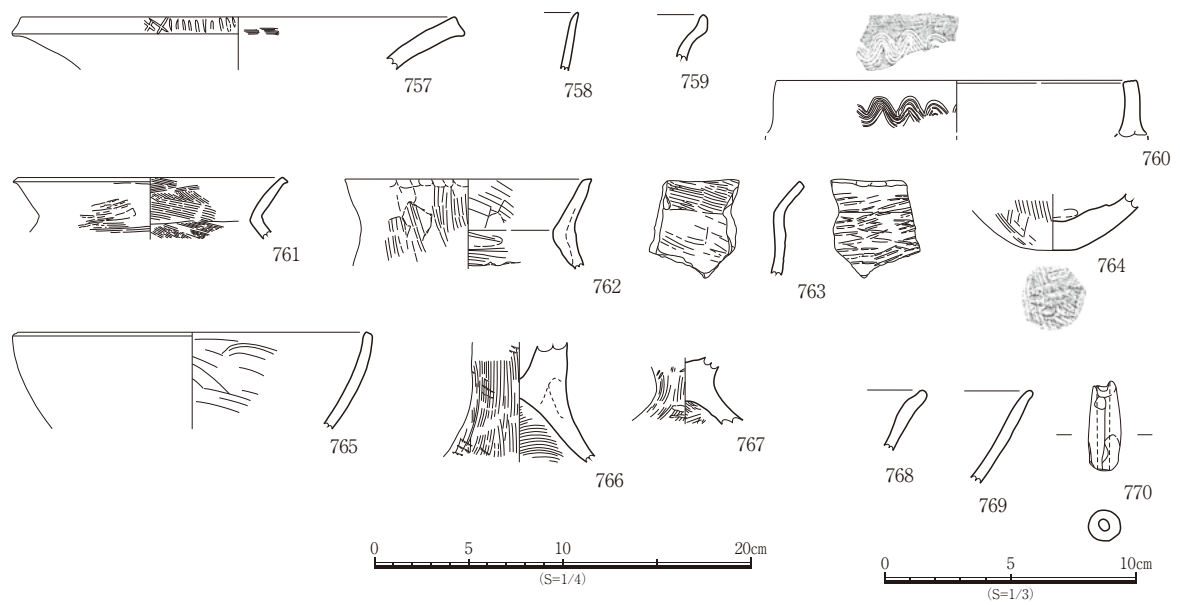


图266 2-4区 ST25·26 出土遺物実測図

タテハケ調整は密である。内面は斜め方向のハケ調整後、ナデ調整を施し、肩部には指頭圧痕がみられる。718は甕である。口縁部は緩やかに外反し、口唇部には面取りを施す。外面は水平方向の叩き調整を施し、下半部にはハケ調整を加える。口縁部外面はタテハケ調整を密に施す。内面の最終調整はナデ調整であり、一部にハケメがみられる。口縁部は横方向から斜め方向のハケ調整を密に施す。719はST26_P1から出土した甕の底部である。平底を呈し、外底面はハケ調整後、ナデ調整を施す。外面は粗いタテハケ調整、内面はナデ調整である。720は中央ピットから出土した甕の底部である。外面は叩き調整後、ナデ調整、外底面は叩き調整である。内面はナデ調整であり、指頭圧痕がみられる。721は甕の底部である。角の取れた平底を呈し、外底面はハケ調整後、ナデ調整を施す。外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整・ナデ調整である。722は甕の底部である。外底面はハケ調整を施し、丸底化させる。外面は水平方向の叩き調整後、タテハケ調整を疎らに施す。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。内底面付近には指頭圧痕が認められる。

723は鉢である。体部は底部から外上方へのび、上半部は若干丸みを帯び、口唇部は尖らせる。外面は叩き調整後、上半部は指頭により膨らませる。キレツはこの部位にみられることから叩き調整後に内側から押出すことで生じたと推測される。口縁部付近内面は工具ナデ調整、体部は縦方向のナデ調整で仕上げる。外底面は未調整と考えられ、製作時に下にあったものの圧痕がみられる。724は床面から出土した鉢である。口唇部は「M」字状を呈する。底部はナデ調整により丸底とする。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。口縁部外面にはキレツが認められ、若干膨らませる部位と一致する。725は鉢である。外底面を削ることで丸底とする。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。底部付近は水平方向の叩き調整、上半部は右上がり方向の叩き調整である。内面は縦方向から斜め方向の工具ナデ調整を二段施す。726は鉢である。底部は平らな部分が残る丸底である。外面は右上がりの叩き調整後、ナデ調整を施し、下半部にはハケメがみられる。内面はナデ調整で平滑に仕上げる。727は鉢である。半球形を呈し、底部は丸底と推測される。外面は叩き調整後ナデ調整であり、下半部にはハケメがみられる。上半部にはキレツが認められる。内面は斜め方向のハケ調整である。内底面はナデ調整であり、弱い指頭圧痕がみられる。728は鉢である。角のとれた平底から体部は外上方へのびる。外面は右上がり方向の叩き調整後、ナデ調整を施す。外底面はナデ調整か、比較的平滑である。内面は斜め方向から横方向のハケ調整である。729は鉢である。底部はナデ調整により丸底とする。外面はナデ調整、内面は斜め方向のハケ調整である。730は鉢である。口縁部を指頭により短く外反させ口唇部は尖らせる。外面は叩き調整後、ハケ調整を施す。内面はハケ調整・ナデ調整である。731は鉢である。口縁部を指頭により短く外反させ口唇部は尖らせる。外面は斜め方向のハケ調整、内面は斜め方向のハケ調整後、ナデ調整を施す。732は鉢である。口縁部を外反させ、内面には斜め方向のハケ調整を施す。外面は叩き調整後ナデ調整、内面は横方向のミガキ調整か。733は鉢である。口縁部は断面形が三角形を呈する。外面はヨコナデ調整、内面は斜め方向の粗いハケ調整である。外面には鋭利な工具により線刻が施される。鋸歯文か。734は脚付鉢である。脚部は「ハ」の字形にひらく。外面はハケ調整後、ミガキ調整を施す。内面はミガキ調整で仕上げる。735は片口鉢である。口縁部を外反させ、指頭により注ぎ口を作り出す。底部は欠損するもののハケ調整により丸底としていたと推測される。外面は叩き調整後、下半部には斜め方向のハケ調整を密に施す。口縁部内面は横方向から斜め方向のハケ調整を施す。上半部内面はタテハケ調整、下半部はハケ調整後、ナデ調整を施す。残存率は良好である。736は鉢である。口縁部を外反させ、口唇部には面取りを施す。外面は体部

から口縁部上端まで一連の叩き調整後、斜め方向のハケ調整を施す。口縁部内面は斜め方向のハケ調整、体部は縦方向のミガキ調整を密に施す。注ぎ口が付されていた可能性がある。737は小型丸底鉢である。口縁部は体部から屈曲し大きくひらく。内外面ともミガキ調整を密に施す。精製品であり、搬入品の可能性がある。738は鉢である。底部は外底面から端部にナデ調整を施すことによりほぼ丸底となる。外面は叩き調整後ナデ調整を施し、上半部を中心にキレッツが認められる。体部の屈曲部より上部とキレッツが認められる範囲は一致する。内面は斜め方向のハケ調整後、ナデ調整を施す。739は中央ピットから出土した鉢の底部である。外底面及び底端部をナデ調整により丸底とする。外底面には強いナデ調整による痕跡が認められる。外面は水平方向の叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は縦方向から斜め方向のハケ調整を施し、内底面はナデ調整を施す。740は有孔土器である。底部は角のとれた平底であり、外底面にはナデ調整を施す。外面は水平方向の叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は不定方向のハケ調整である。孔は焼成前穿孔で底面の中央に1ヶ所であり、下から穿孔する。741は皿状を呈し、外端部上面に剥離痕跡があり、ハケメがみられ接合箇所の剥離防止を図っている。この部分は擬口縁となっている。また、下面にも剥離痕跡があり、器台としたものの高杯の可能性がある。外面はストロークの短いハケ調整後ミガキ調整か。内面は剥離・摩耗のため調整等の観察は困難である。742は床面から出土した高杯の脚裾部である。「ハ」の字形に大きくひらき、端部は面取りされる。外面はタテハケ調整後、ミガキ調整を密に施す。脚部内面は斜め方向のハケ調整後にナデ調整、裾部は横方向のハケ調整を施す。また、外面から竹管状のものを使用した未穿孔の円孔がみられる。接点はないものの同一個体とみられる破片にも上述と同様の未穿孔の円孔が認められる。743は器台の口縁部である。口縁端部に粘土紐を貼付し、口唇部を拡張し、櫛描波状文を施す。下端は剥離し、擬口縁となる。内外面とも器面の剥離が著しく、調整等の観察は困難である。内面はミガキ調整か。744は器台の口縁部である。口唇部を上方へ拡張し、4条1単位の櫛描波状文を上下二段に配置する。内外面ともヨコナデ調整を施し、内面にはナデ痕跡がみられる。また、外面にはキレッツが認められる。745は器台の口縁部である。口唇部を上下に拡張し複合鋸歯文を描く。鋸歯文は鋭利な工具で隙間なく連続させ、右上から左下の直線を充填させる。外面はヨコナデ調整、内面は摩耗のため調整等の観察は困難である。746は器台の口縁部である。口縁端部に粘土紐を貼付し、口唇部を拡張させ、複合鋸歯文を描く。また、口唇部上端に刻目を施す。内外面ともヨコナデ調整、ハケ調整である。747は器台の口縁部である。口縁端部に粘土紐を貼付し、口唇部を上方へ拡張させる。口唇部には上下二段の刺突文、4条1単位の櫛描波状文、円形浮文を配置する。円形浮文は中央に竹管文、その周囲に竹管を傾けて押捺した弧状の文様を巡らせる。外面は斜め方向のハケ調整後、ミガキ調整を施す。内面はナデ調整か。748は支脚であ

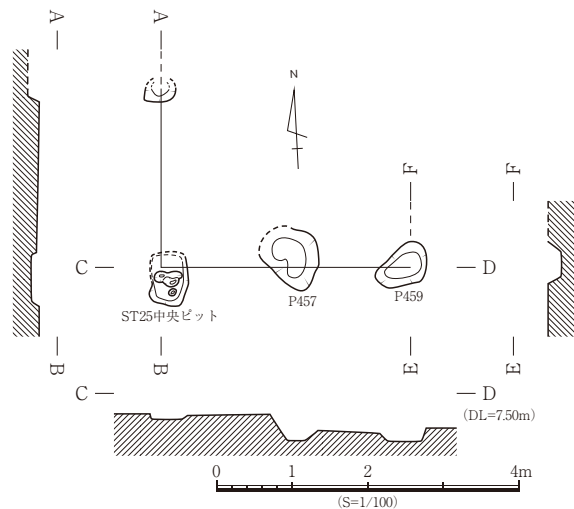


図267 2区 SB1 平面図・エレベーション図

る。天井部は凹凸があり、何かの圧痕が多数認められる。体部外面は叩き目とかなり強い指頭圧痕等がみられる。また、指頭圧痕内には指紋が明瞭に残る。内面はナデ調整である。器高の低いタイプと考えられる。一部は被熱により変色する。749はミニチュア土器である。「く」の字状口縁の甕形土器がモデルである。外面はナデ調整・ミガキ調整等で仕上げる。植物の繊維状のもので施した縦方向の調整痕跡がみられる。内面はナデ調整である。750はミニチュア土器である。鉢形土器がモデルであ

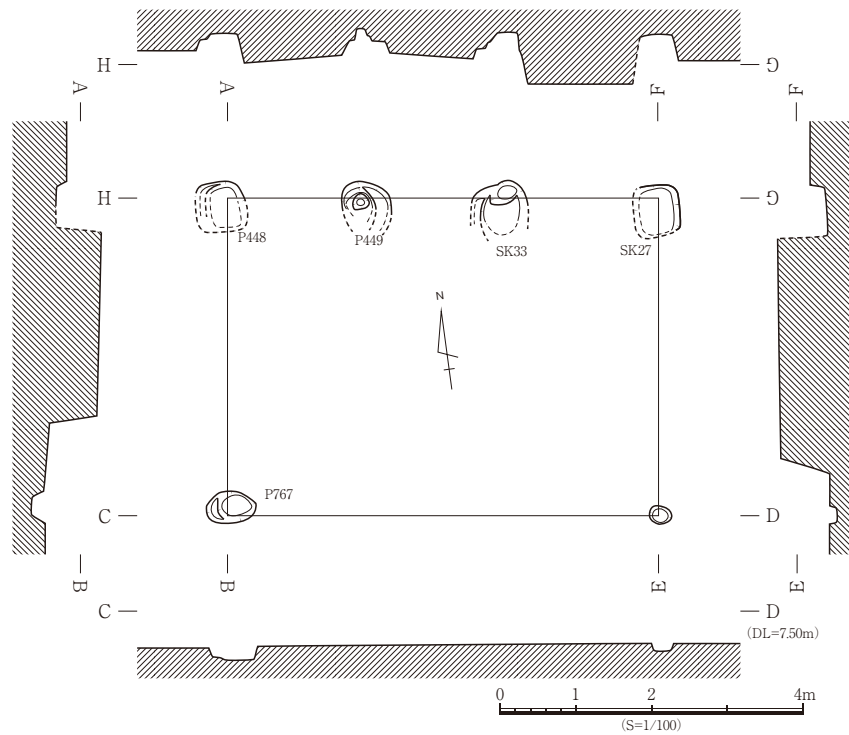


図268 2区 SB2 平面図・エレベーション図

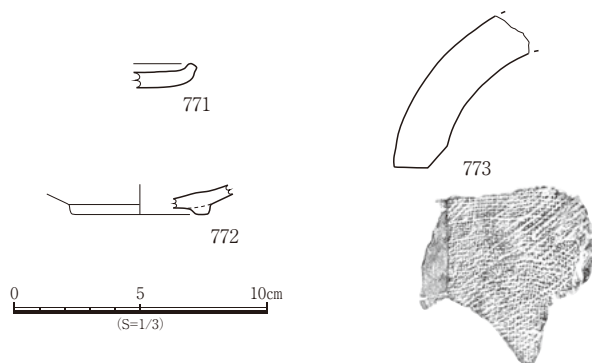


図269 2区 SB2 出土遺物実測図

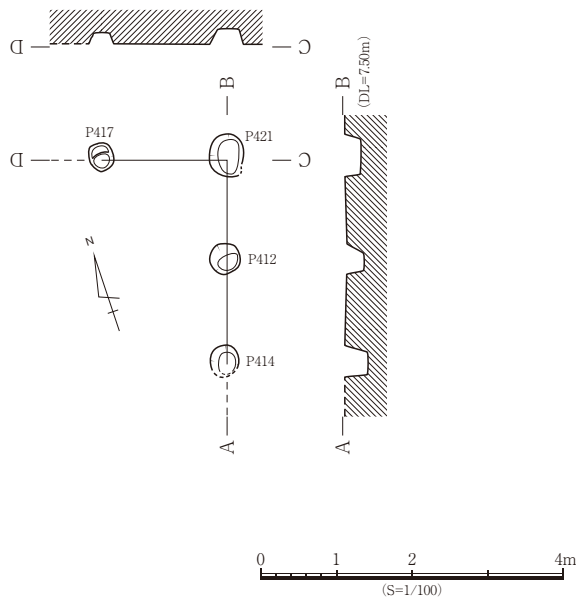


図270 2区 SB3 平面図・エレベーション図

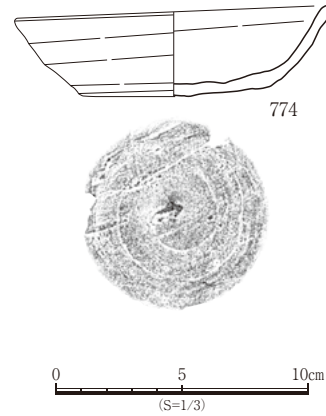


図271 2区 SB3 出土遺物実測図

る。平底である。体部は手捏ねで成形される。キレツが認められる。751は砂岩製の磨石である。細長い自然石の上下端をベンガラが精製に使用する。ベンガラが付着した手で持った時にベンガラが側面に付着する。完存である。752は鉤である。両端は欠損する。幅0.8cmと細身である。横断面形は扁平な長方形を呈する。裏すきが認められる。753は土師器の杯である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部を外反させる。内外面ともヨコナデ調整である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。混入品である。754は土師器の杯である。底部は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。外面はヨコナデ調整、内面はヨコナデ調整後、ミガキ調整を施す。赤色塗彩である。混入品である。755は土師器の杯Bである。外端部の内側に断面形が長方形の高台を付す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。内底面は回転ナデ調整後、ミガキ調整を施す。混入品である。756はスラグである。上面は付着物も少なく凹凸も少ない。一方、下面は流動滓等の付着がみられ、凹凸が激しい。また、気泡、白色部分等がみられる。混入品である。

他にST25・26のいずれかに属する遺物、弥生土器の壺(757～760)・甕(761～764)・鉢(765)・高杯(766・767)、土師器の皿(768)・杯か(769)、土錘(770)を図示した。757は壺である。口唇部は面取りされ、僅かに拡張する。斜格子文と縦方向の刻目を施す。外面は摩耗のため調整等の観察は困難である。内面はヨコハケ調整である。758は壺の口縁部片である。内外面ともヨコナデ調整で仕上げ、口唇部を尖らせる。胎土には雲母片を少量含むこと等から搬入品と考えられる。759は壺の口縁部片である。口縁部を上方へ拡張させ、口唇部を丸くおさめる。口唇部外面には竹管文を施す。内外面ともヨコナデ調整か。760は複合口縁壺の二次口縁部であり、破断面は擬口縁となる。口唇部はハケ状原体により平坦面と成す。内外面ともヨコナデ調整である。外面には4条1単位の櫛描波状文を施す。761は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部は叩き調整後、指頭により作出する。内面は斜め方向のハケ調整を施す。762は甕である。口縁部は屈曲度合が弱い「く」の字状を呈する。口縁端部を摘み出し、口唇部は平坦面から凹面状を呈する。外面はタテハケ調整を施す。口縁

部内面は斜め方向のハケ調整後、ナデ調整を加える。肩部内面はヨコハケ調整である。また、肩部内面には粘土帯接合痕跡が認められる。763は甕である。口縁部は屈曲度合が弱い「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。外面は口縁端部まで体部から一連の叩き調整を施し、口縁部は指頭により作出する。内面は斜め方向のハケ調整である。764は甕の底部である。外底面・端部を不定方向のハケ調整・ナデ調整により丸底とする。外面はタテハケ調整・ナデ調整であり、叩き目はみられない。内面はナデ調整である。765は鉢である。口唇部はハケ状原体によりルーズな面取りを施す。内外面ともナデ調整である。外面にベンガラを塗布か。766は高杯である。短い中実部から裾部は「ハ」の字形にひろがる。外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。裾部内面はヨコハケ調整である。支脚の可能性があり、その場合は天地逆か。767は高杯である。短い中実部から裾部は「ハ」の字形にひろがる。外面はタテハケ調整後、ミガキ調整を施す。脚部内面はハケ調整である。また、頂部は接合部で剥離し、擬口縁となる。768は土師器の皿である。内外面とも回転ナデ調整であり、口縁部を折り込む。混入品である。769は土師器の杯か。内外面とも回転ナデ調整を施し、口縁部を僅かに外反させる。770は管状土錘である。両端を欠損する。混入品である。

2.SB

SB1

SB1は、2-4区で検出した桁行1間(2.40m)、梁行2間(3.30m)以上の南北棟の建物跡である。主軸方向はN-3°-Eである。柱間寸法は、桁行は2.40m、梁行は1.50・1.80mである。柱穴は長軸約70cm、短軸約50cmの不整形を呈する。ST26の床面で検出したため、検出面からの深さは10.6～17.2cmとなる。埋土は、黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

SB2

SB2は、2-3区・2-4区・3区にまたがって検出した桁行3間(5.70m)、梁行1間(4.20m)の東西棟の建物跡である。主軸方向はN-82°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.80～5.70m、梁行は4.20mである。3

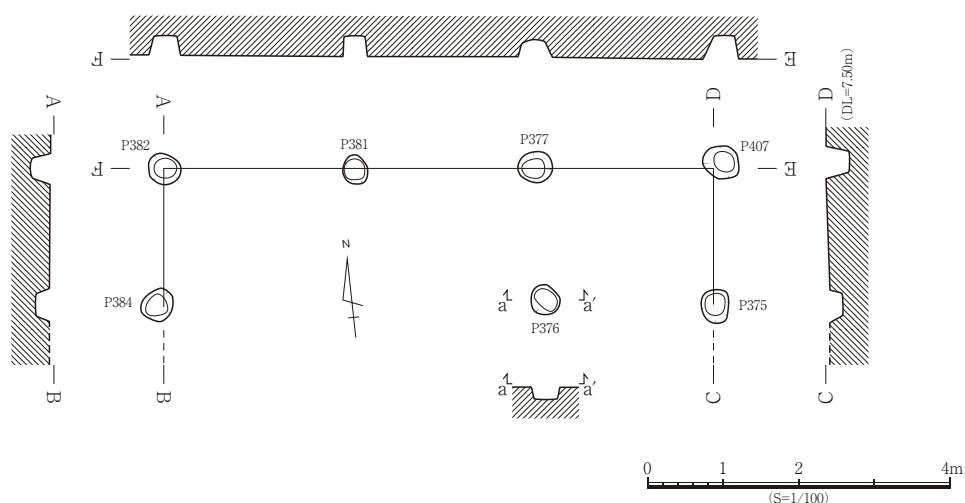


図272 2区 SB4 平面図・エレベーション図

区は他の調査区に比べ後世の削平を受けているため、柱穴の平面形・規模が異なっている。本来は一辺約0.6mの隅丸方形を呈していたものと推測される。検出面からの深さは10.2～40.1cmである。床面積は23.9㎡である。埋土は、黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト、暗褐色(10YR3/4)シルト質砂、黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は、土師器の盤(771)・椀(772)、丸瓦(773)である。771は土師器の盤である。2-4区のP449から出土した。内面は摩耗のため、調整等の観察は困難である。外面はヨコナデ調整であり、一部はミガキ状となっている。772は土師器の椀である。3区のP767から出土した。外底面に断面形が方形の高台を付す。摩耗のため調整等の観察等は困難である。773は丸瓦である。2-4区のP448か

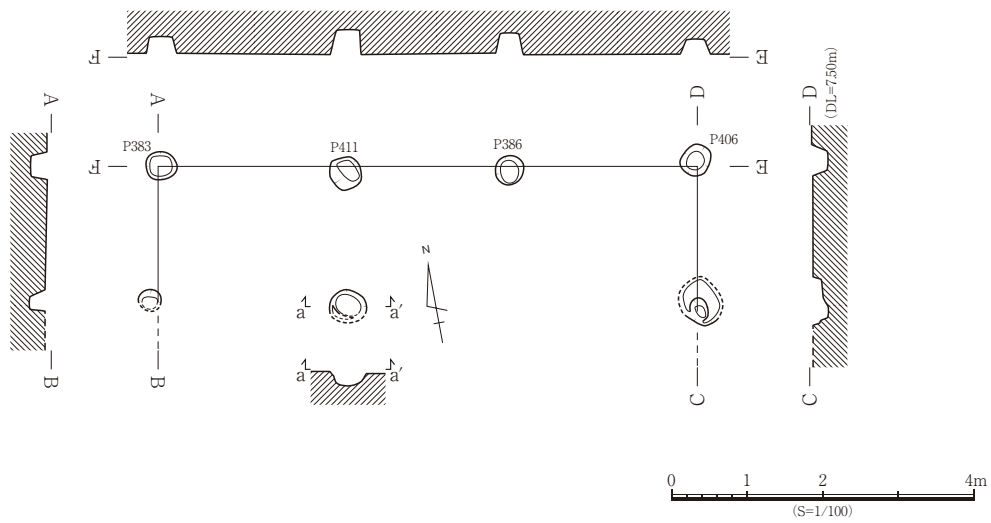


図273 2区 SB5 平面図・エレベーション図

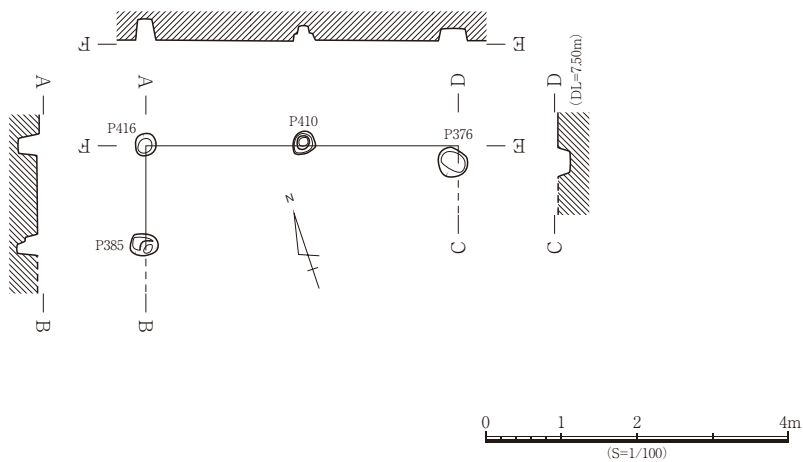


図274 2区 SB6 平面図・エレベーション図

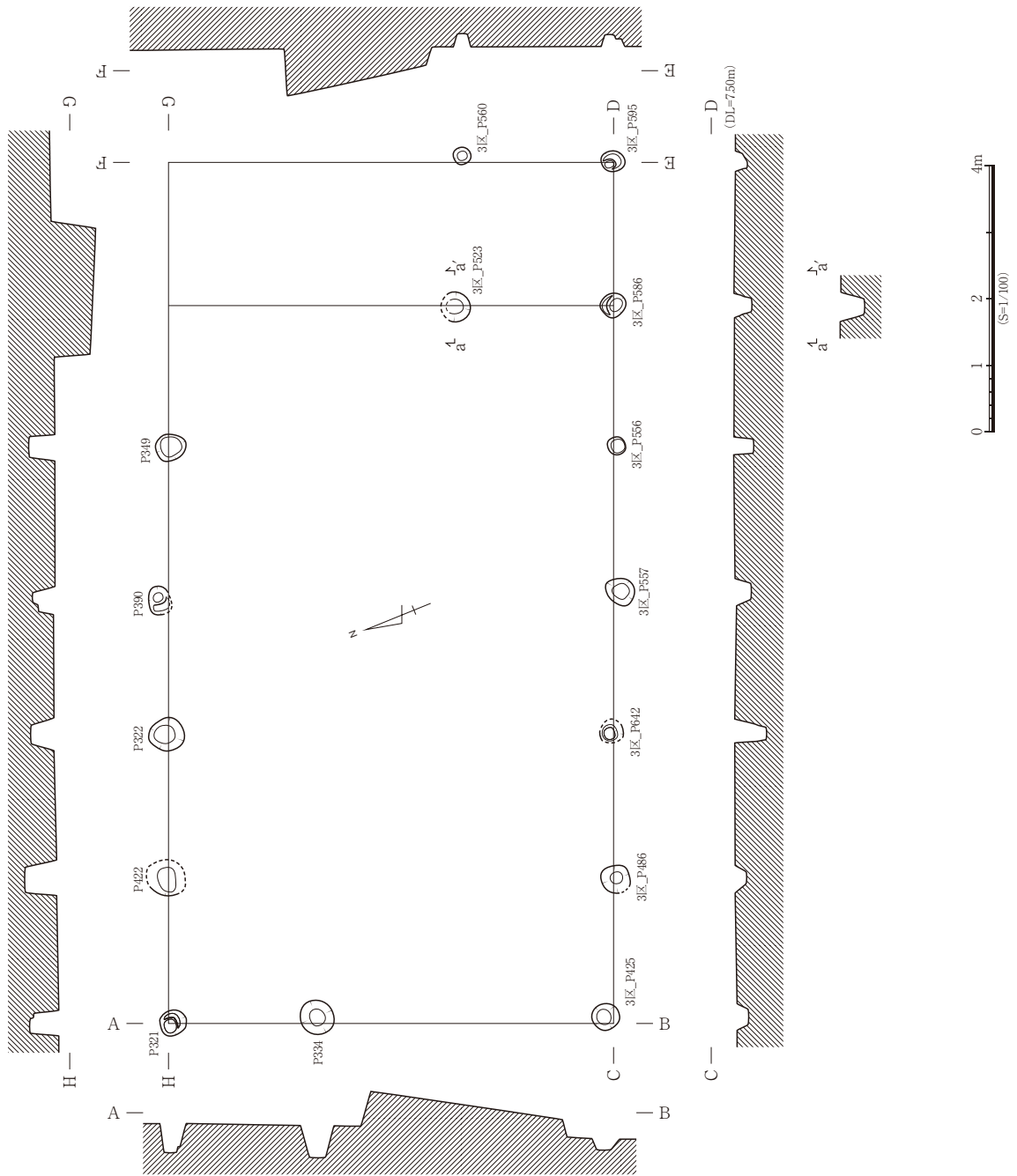


図275 2区 SB7 平面図・エレベーションシヨソ図

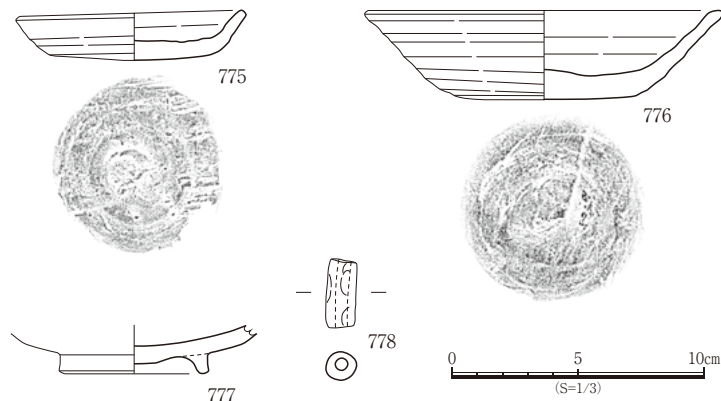


図276 2区 SB7 出土遺物実測図

ら出土した。凸面はナデ調整である。凹面は布目圧痕が残り、コビキ痕A類が認められる。側面及び凹面縁辺は面取りされる。

SB3

SB3は2-3区で検出した桁行2間(2.70m)以上、梁行1間(1.60m)以上の南北棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は、桁行1.35m、梁行1.65mである。柱穴は直径約40cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは14～30cmである。主軸方向はN-18°-Eである。

図示した出土遺物は、土師器の杯(774)である。774は2-3区のP421から出土した。体部は斜め上方へ立ち上がり、口縁端部は丸くおさめて、内面は僅かに面を取る。回転ナデ調整を施し、内外面にロクロ目痕がみられる。外底面には板状の圧痕が認められる。外底面には回転ヘラ切り痕跡がみられる。

SB4

SB4は2-3区で検出した桁行3間(7.26m)、梁行1間(1.83m)以上の東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は、桁行2.40・2.50m、梁行1.80・1.90mである。柱穴は直径約40cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは16～31cmである。主軸方向はN-83°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SB5

SB5は2-3区で検出した桁行3間(7.13m)、梁行1間(1.91m)以上の東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は、桁行2.10・2.50m、梁行1.80・2.00mである。柱穴は直径約40cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは16～33cmである。主軸方向はN-79°-Wである。

図示した出土遺物はない。

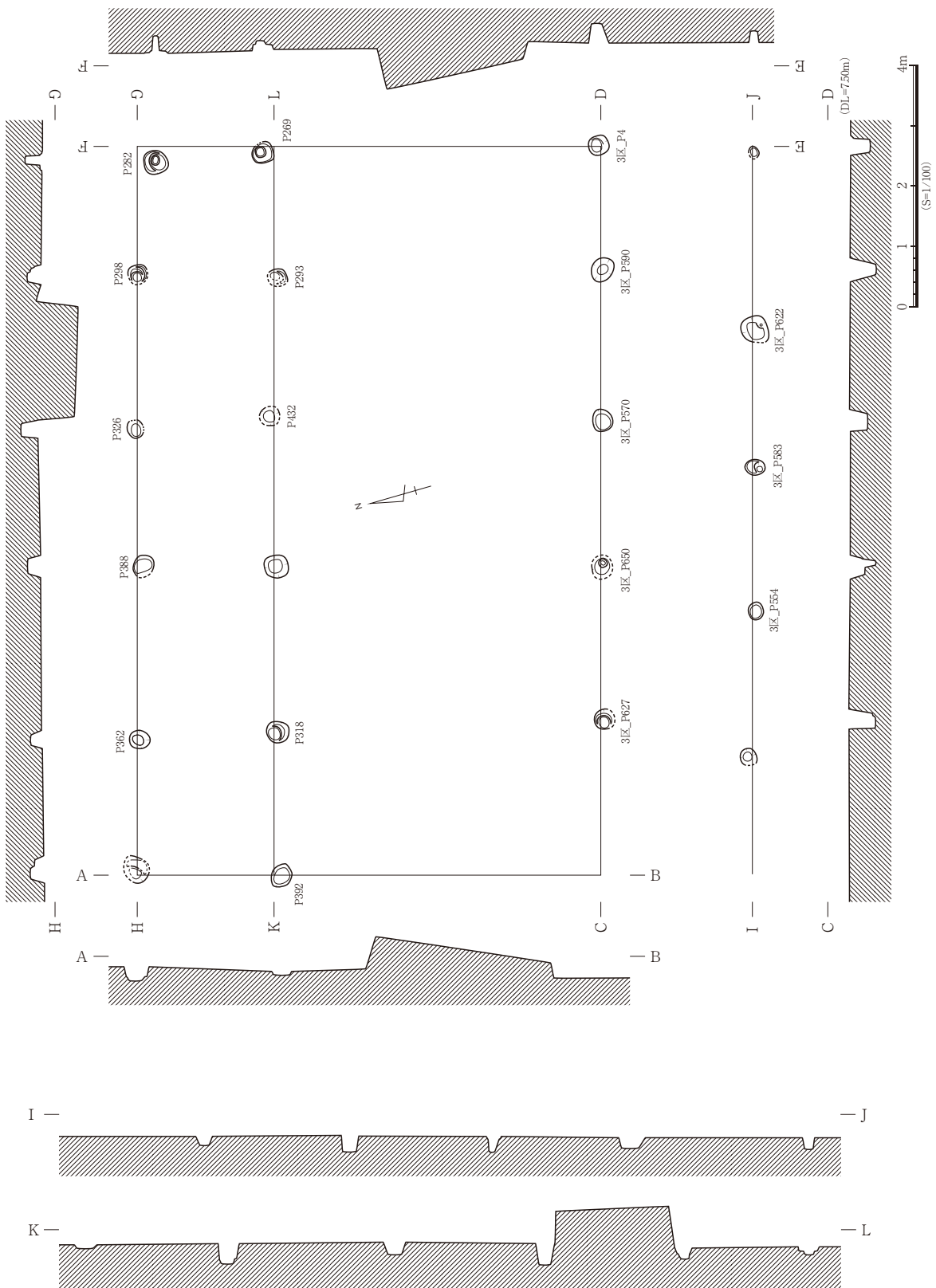


図277 2区 SB8 平面図・エレベーションシヨン図

SB6

SB6は2-3区で検出した桁行2間(4.13m)、梁行1間(1.38m)以上の東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は、桁行1.90・2.00m、梁行1.35mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは16～27cmである。主軸方向はN-71°-Wである。

図示した出土遺物はない。

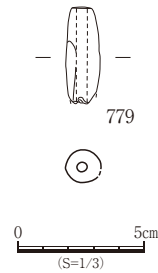


図278 2区 SB8 出土遺物実測図

SB7

SB7は2-3区と3区にわたって検出した桁行6間(12.92m)、梁行3間(6.67m)の東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は、桁行2.05～2.30m、梁行2.20～4.30mである。柱穴は直径約50cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは17～47cmである。床面積は86.1㎡である。主軸方向はN-67°-Wである。

図示した出土遺物は、土師器の皿(775)・杯(776)・椀(777)、土錘(778)である。775は土師器の皿である。2-2区のP322から出土した。体部は短く斜め上方へ立ち上がり、口縁端部は稜を持つ。回転ナデ調整を施し、内外面にロクロ目痕がみられる。内底中央には「の」の字状のナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡がみられる。精選された胎土である。776は土師器の杯である。2-2区のP322から出土した。体部は緩やかに斜め上方へ立ち上がり、口縁部は端反り気味に外傾して内面は僅かに面を取る。回転ナデ調整を施す。内外面にロクロ目痕がみられる。内底中央は凸状を成す。底部の切り離しはヘラ起こしである。精選された胎土である。777は土師器の椀である。3区のP642から出土した。回転成形により外底面は凸状を成す。外底面に輪高台を貼り付ける。精選された胎土である。778は土錘である。3区のP556から出土した。僅かに傾く円筒形を呈し、両端には面取りを施す。中空部は楕円形状を呈し、孔径は5mmである。側部には圧痕が認められる。

SB8

SB8は2-1区と2-2区と3区にわたって検出した桁行5間(12.09m)、梁行2間(7.68m)の東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は、桁行2.00～2.85m、梁行1.75・2.40mである。柱穴は直径約40cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは6～43cmである。床面積は92.8㎡である。主軸方向はN-73°-Wである。

図示した出土遺物は土錘(779)である。3区のP650から出土した。中位が僅かに膨らんだ円筒形を呈する。孔径は4mmである。欠損する。

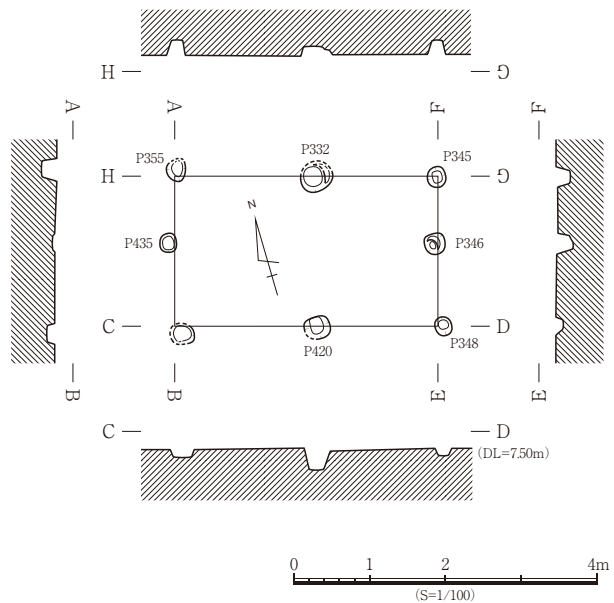


図279 2区 SB9 平面図・エレベーション図

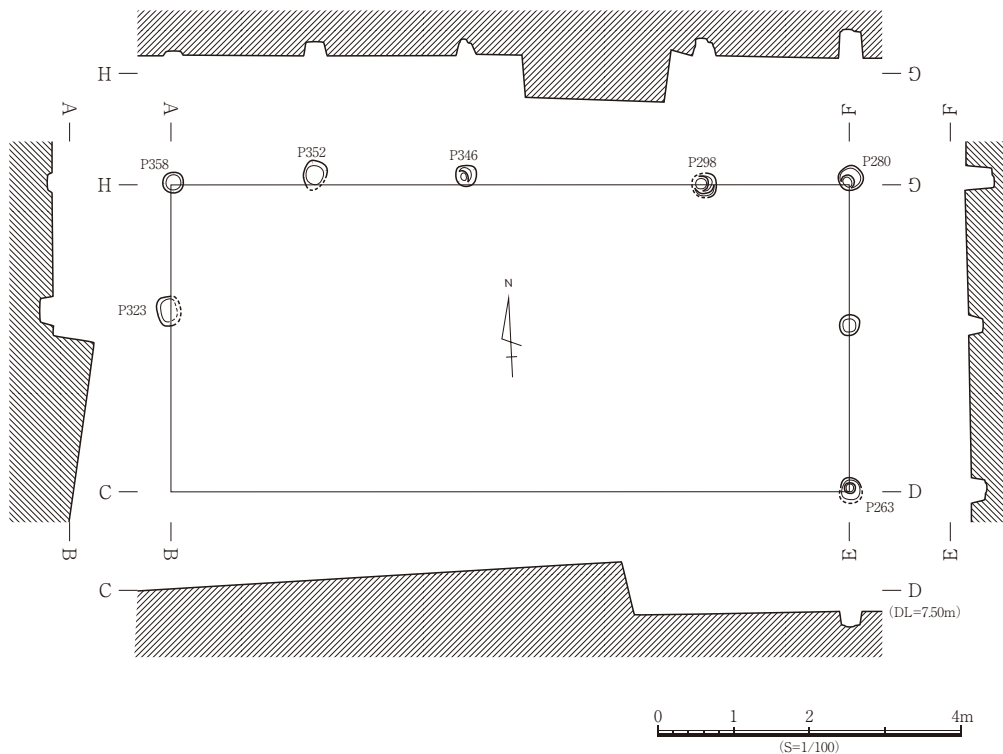


図280 2区 SB10 平面図・エレベーション図

SB9

SB9は2-2区で検出した桁行2間(3.48m), 梁行2間(1.98m)の東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は、桁行1.65～1.80m, 梁行0.90～1.20mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは3～25cmである。床面積は6.8㎡である。主軸方向はN-73°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SB10

SB10は2-1区と2-2区にわたって検出した桁行4間(8.97m), 梁行2間(4.05m)の東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は、桁行1.85～3.10m, 梁行1.70～2.15mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは6～37cmである。床面積は36.3㎡である。主軸方向はN-87°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SB11

SB11は2-1区と2-2区にわたって検出した桁行4間(8.69m)以上, 梁行1間(2.17m)以上の東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は、桁行1.75～2.50m, 梁行2.05～2.25mである。柱穴は直径約40cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは14～46cmである。主軸方向はN-85°-Wである。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(780), 土錘(781), 土師器の椀(782)である。780は土師質土器の皿である。2-1区のP256から出土した。口縁部は僅かに端反り気味に外反し、端部は丸くおさめる。

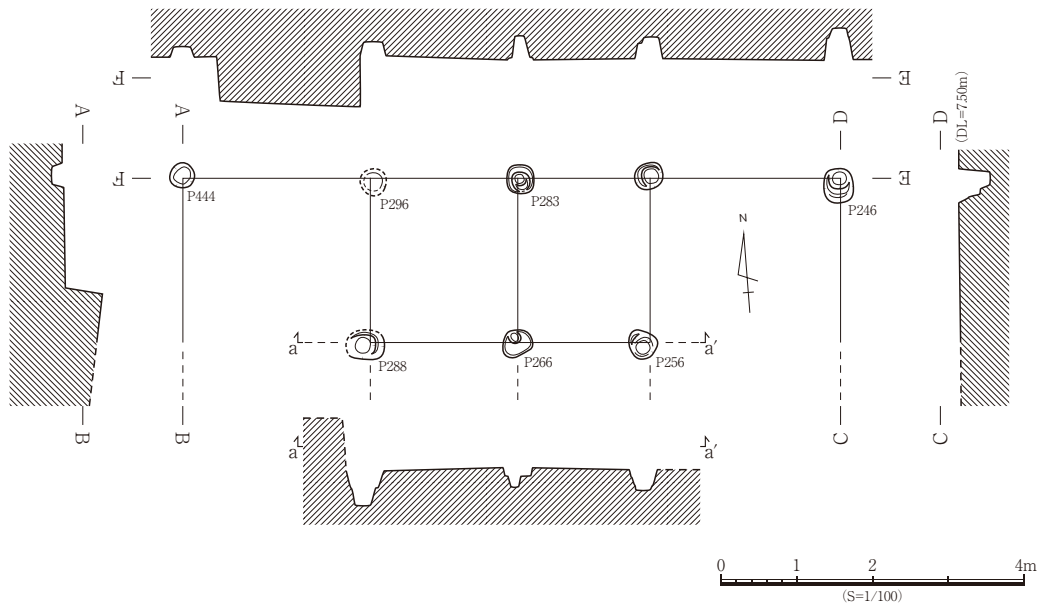


図281 2区 SB11 平面図・エレベーション図

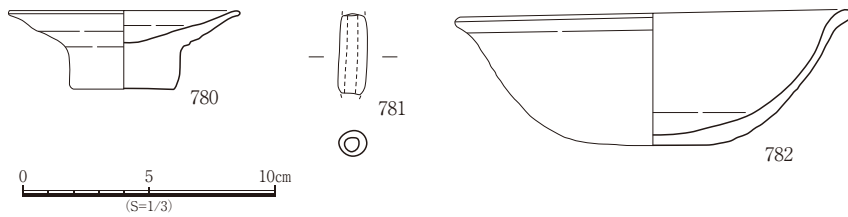


図282 2区 SB11 出土遺物実測図

回転ナデ調整で仕上げ，内面にはヘラミガキ調整を施す。柱状高台であり，外底面の切り離し痕跡をナデ消す。精選された胎土である。781は土錘である。2-1区のP256から出土した。円筒形を呈する。孔径は6mmである。782は土師器の椀である。2-1区のP296から出土した。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は端反り気味に外反して端部は僅かに肥厚する。回転ナデ調整を施し，外面にはロクロ目痕がみられる。内面にはヘラミガキ調整を施す。外底面には輪高台の剥離痕が認められる。精選された胎土である。

SB12

SB12は2-1区で検出した桁行2間(5.21m)，梁行2間(3.49m)の東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は，桁行2.45～5.20m，梁行1.55～1.80mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり，検出面からの深さは10～38cmである。床面積は18.1㎡である。主軸方向はN-85°-Wである。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(783)，須恵器の椀(784)である。783は2-1区のP279から出土した土師質土器の皿である。底径に比して体部は浅い。回転ナデ調整で仕上げ，外底面には回転糸切り痕跡がみられる。精選された胎土である。784は2-1区のP272から出土した須恵器の椀である。外面には回転ヘラナデ調整を施す。体部は内湾気味に立ち上がり，外面端部に僅かに外傾する非正円形状の輪高台を貼り付ける。精選された胎土である。

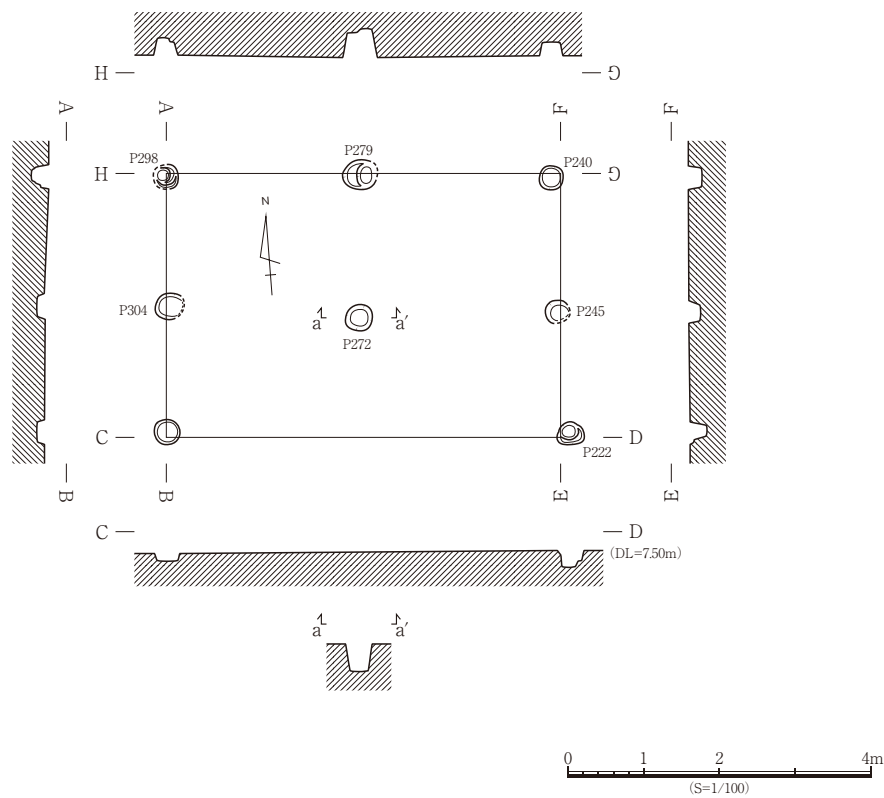


図283 2区 SB12 平面図・エレベーション図

SB13

SB13は2-1区で検出した桁行2間(5.56m), 梁行2間(2.85m)の東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は, 桁行2.30・3.25m, 梁行1.20・1.40mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり, 検出面からの深さは5~27cmである。床面積は15.8㎡である。主軸方向はN-75° -Wである。

図示した出土遺物はない。

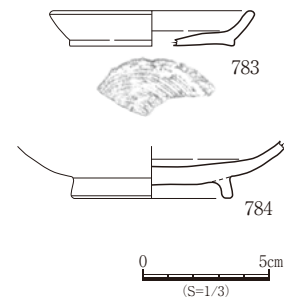


図284 2区 SB12 出土遺物実測図

SB14

SB14は2-1区で検出した桁行3間(5.54m), 梁行2間(2.80m)の東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は, 桁行1.40~2.35m, 梁行1.40・1.45mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり, 検出面からの深さは12~33cmである。床面積は15.5㎡である。主軸方向はN-77° -Wである。

図示した出土遺物は須恵器の椀(785)である。2-1区のP226から出土した。外底面にやや内湾気味で細身の輪高台を貼り付ける。高台内にはヘラナデ調整を施す。

SB15

SB15は2-1区で検出した桁行2間(3.84m), 梁行2間(2.55m)の東西棟の掘立柱建物跡である。柱間

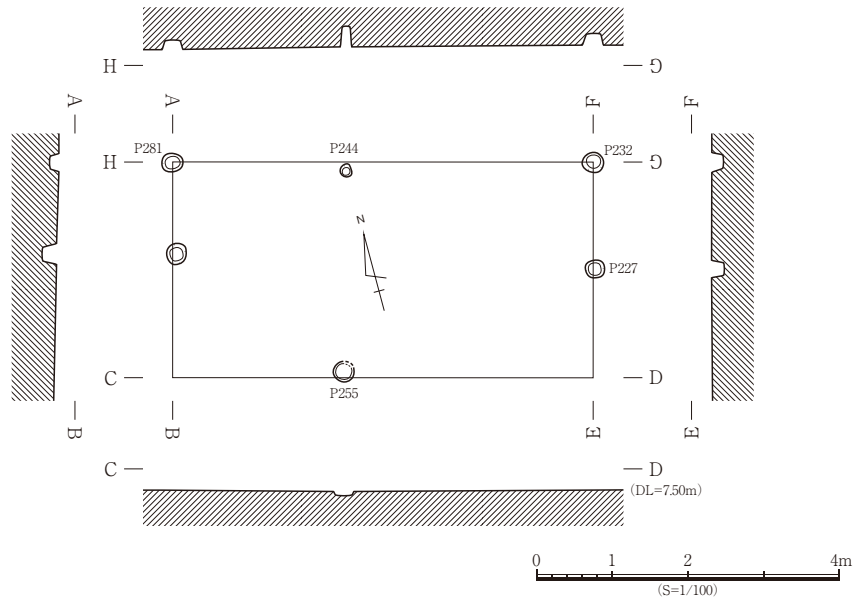


図285 2区 SB13 平面図・エレベーション図

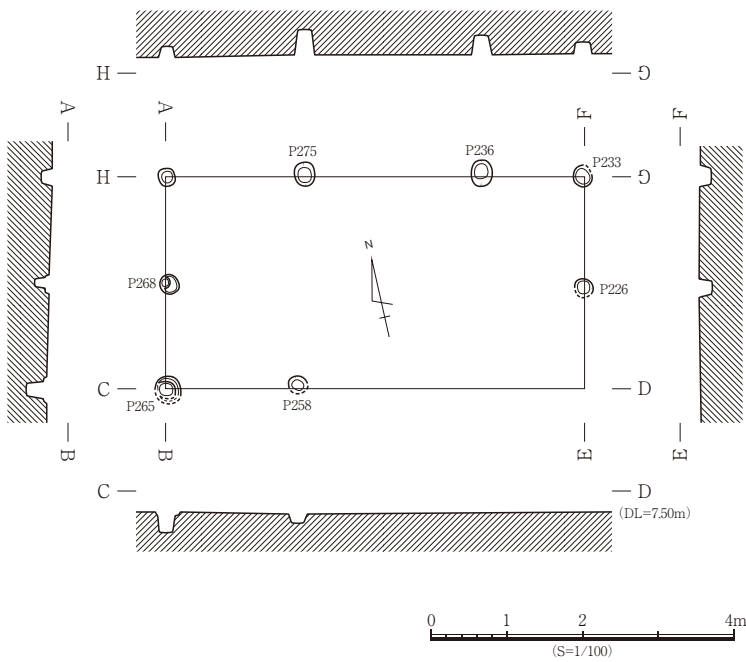


図286 2区 SB14 平面図・エレベーション図

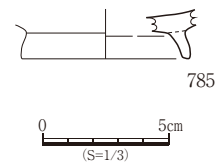


図287 2区 SB14 出土遺物実測図

寸法は、桁行1.70・2.15m，梁行1.10・1.45mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり，検出面からの深さは15～58cmである。床面積は9.7㎡である。主軸方向はN-75°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SB16

SB16は2-1区で検出した桁行3間(4.58m)以上，梁行1間(1.23m)以上の東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は，桁行1.30・1.60m，梁行1.20mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり，検出面からの深さは6～38cmである。主軸方向はN-78°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SB17

SB17は2-1区と1区にわたって検出した桁行3間(7.39m)，梁行1間(4.31m)の東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は，桁行1.85～3.05m，梁行4.31mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり，検出面からの深さは20～33cmである。床面積は31.8㎡である。主軸方向はN-74°-Wである。

図示した出土遺物は平瓦(786)である。2-1区のP59から出土した。凸面に縄目痕，凹面に布目圧痕が認められる。精選された胎土である。

SB18

SB18は2-1区と1区にわたって検出した桁行3間(6.73m)，梁行1間(4.36m)の東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は，桁行1.90～2.90m，梁行4.36mである。柱穴は直径約40cmの円形から不整円形であり，検出面からの深さは23～40cmである。床面積は29.3㎡である。主軸方向はN-76°-Wである。

図示した出土遺物は土師器の杯(787)である。2-1区のP58から出土した。体部は逆「ハ」の字形に立ち上がり，口縁部は僅かに端反り気味に外反して端部は丸くおさめ

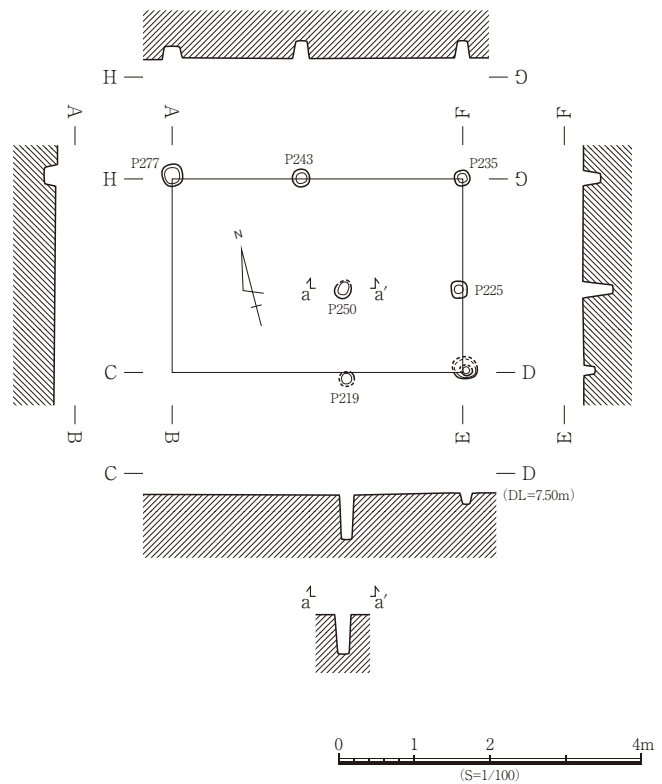


図288 2区 SB15 平面図・エレベーション図

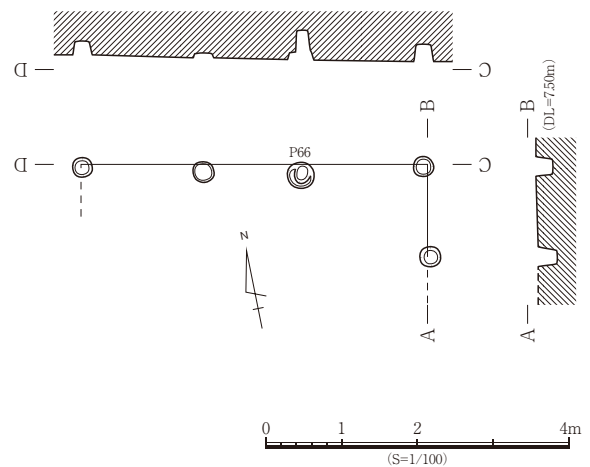


図289 2区 SB16 平面図・エレベーション図

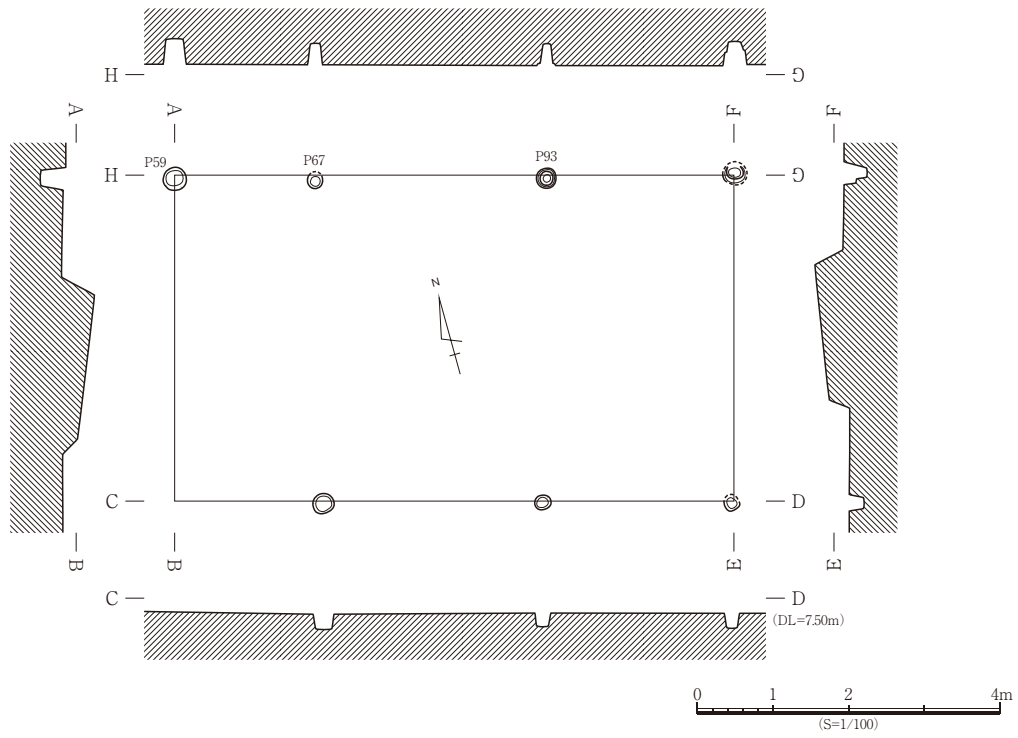


図290 2区 SB17 平面図・エレベーション図

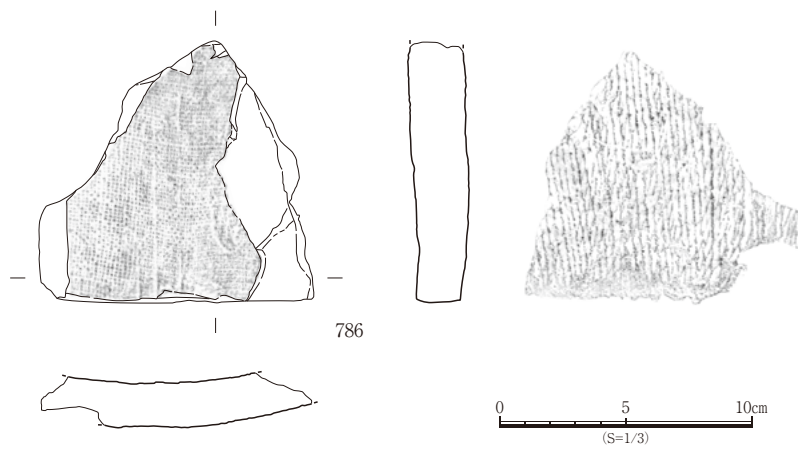


図291 2区 SB17 出土遺物実測図

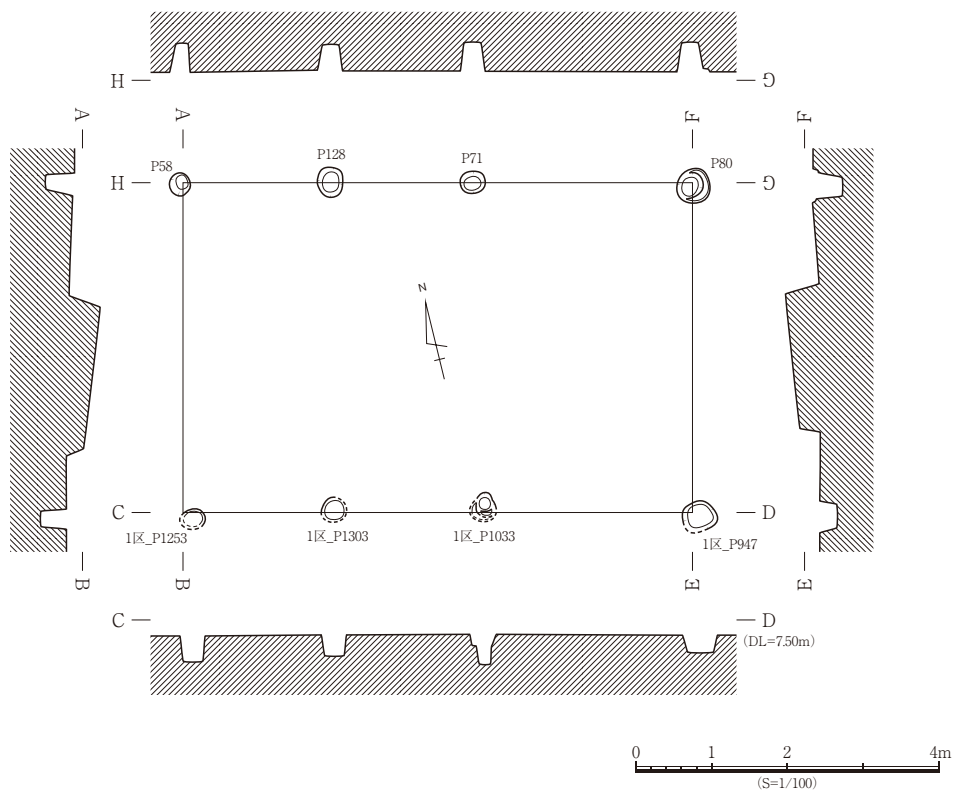


図292 2区 SB18 平面図・エレベーション図

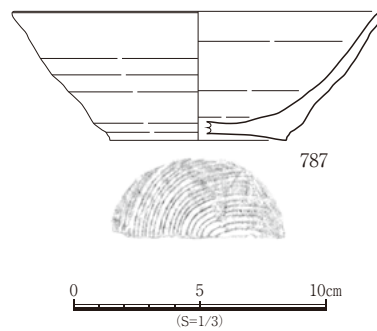


図293 2区 SB18 出土遺物実測図

る。回転ナデ調整を施し、外面にはロクロ目痕がみられる。底部は形骸化した円盤状高台を貼付し、外底面には回転糸切り痕跡がみられる。精選された胎土である。

SB19

SB19は2-1区と1区にわたって検出した桁行3間(6.11m)、梁行1間(4.18m)の東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は、桁行1.95～3.80m、梁行4.18mである。柱穴は直径約30cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは8～63cmである。床面積は25.5㎡である。主軸方向はN-72°-Wである。図示した出土遺物はない。

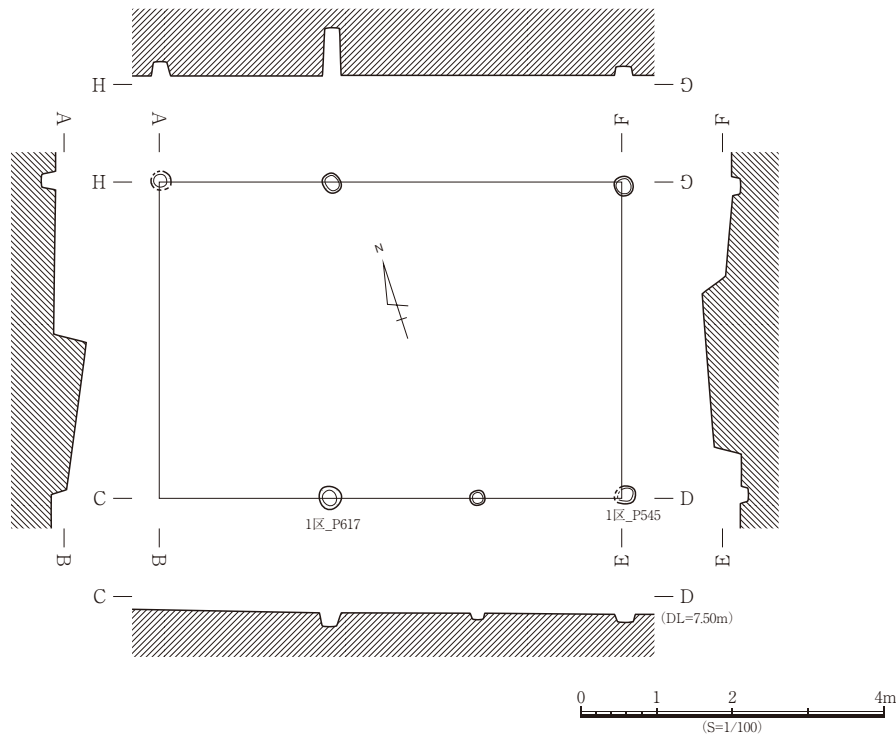


図294 2区 SB19 平面図・エレベーション図

SB20

SB20は2-1区と1区にわたって検出した桁行4間(9.14m)、梁行4間(6.61m)の東西棟の掘立柱建物跡である。柱間寸法は、桁行1.85～4.20m、梁行1.75・1.85mである。柱穴は直径約40cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは15～44cmである。床面積は60.4㎡である。主軸方向はN-78°-Wである。

図示した出土遺物はない。

3.SA

SA1 (付図9)

SA1は2-1区と2-2区にわたり検出した東西方向の柵である。主軸方向はN-77°-Wであり、24.2mにわたり検出した。P247・295・369・371・389・391・427他12基のピットで構成される。柱間寸法は1.70～3.50mとばらつきがみられるとともに中軸からずれるものもある。

図示した出土遺物はない。

SA2 (付図9)

SA2は2-1区と2-2区にわたり検出した東西方向の柵であり、SA1と並行する。主軸方向はN-77°-Wであり、25.5mにわたり検出した。P224・229・270・292・311・319・340・344・350他12基のピットで構成される。柱間寸法は1.75～

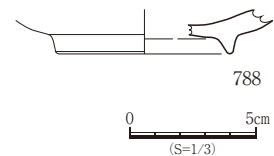


図295 2区 SA2 出土遺物実測図

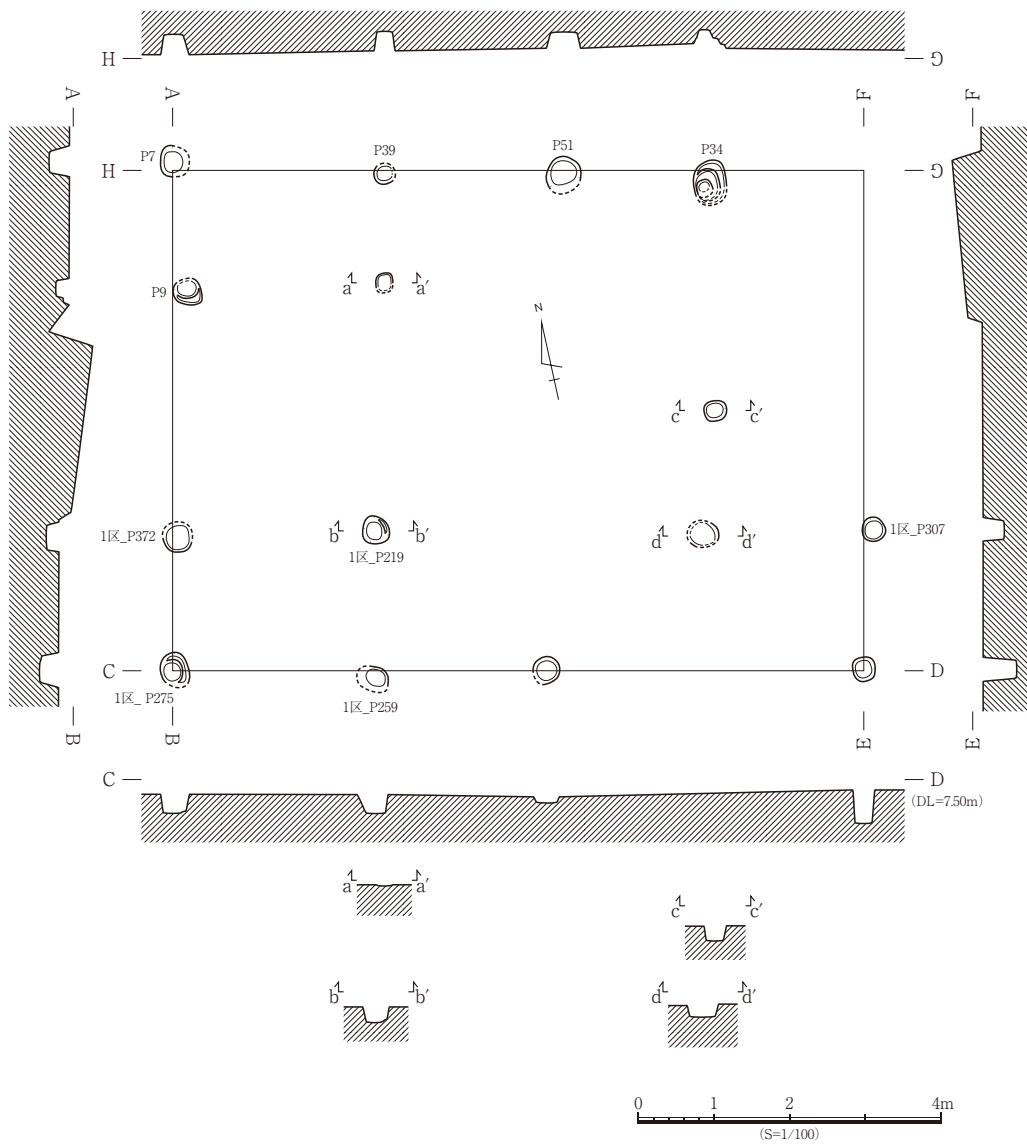


図296 2区 SB20 平面図・エレベーション図

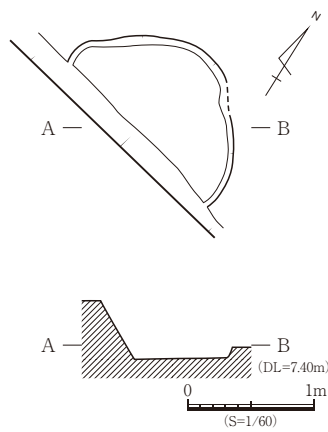


図297 2区 SK8 平面図・エレベーション図

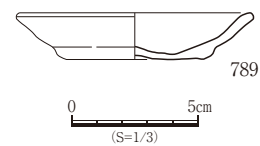


図298 2区 SK8 出土遺物実測図

3.80mとばらつきがみられるとともに中軸からずれるものもある。

図示した出土遺物は、土師器の杯(788)である。2-1区 P229 から出土した。外面端部に断面形が三角形の輪高台を貼り付ける。

SA3 (付図9)

SA3は2-2区で検出した東西方向の柵である。主軸方向はN-77° -Wであり、13.3mにわたり検出した。P338・342他4基のピットで構成される。柱間寸法は2.05・2.10mか。

図示した出土遺物はない。

SA4 (付図9)

SA4は2-2区で検出した東西方向の柵である。主軸方向はN-77° -Wであり、11.6mにわたり検出した。P314・333・438他7基のピットで構成される。柱間寸法は1.75～2.25mである。

図示した出土遺物はない。

4.SK

SK1

SK1は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸1.74m、短軸の検出長は0.68mを測り、検出面からの深さは13cmである。主軸方向はN-53° -Wである。

図示した出土遺物はない。

SK2

SK2は平面形が円形の土坑である。長軸0.92m、短軸0.82mを測り、検出面からの深さは22cmである。

図示した出土遺物はない。

SK3

SK3は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.74m、短軸0.69mを測り、検出面からの深さは8cmである。主軸方向はN-81° -Wである。

図示した出土遺物はない。

SK4

SK4は平面形が楕円形の土坑である。長軸0.93m、短軸0.72mを測り、検出面からの深さは20cmである。主軸方向はN-72° -Eである。

図示した出土遺物はない。

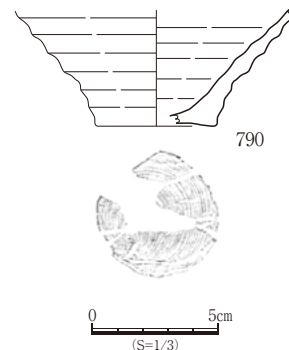


図299 2区 SK18 出土遺物実測図

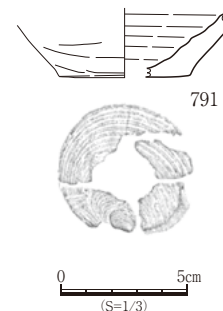


図300 2区 SK19 出土遺物実測図

SK5

SK5は平面形が楕円形の土坑である。長軸の検出長は1.00m、短軸0.58mを測り、検出面からの深さは14cmである。主軸方向はN-73°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK7

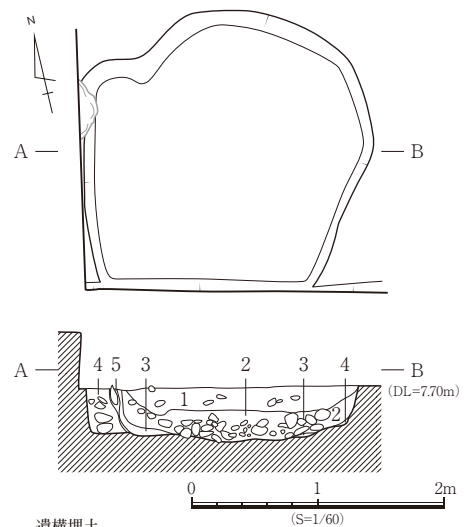
SK7は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸1.05m、短軸の検出長は0.52mを測り、検出面からの深さは6cmである。主軸方向はN-69°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK8

SK8は平面形が隅丸方形と推測される土坑である。長軸の検出長は0.88m、短軸の検出長は0.77mを測り、検出面からの深さは12cmである。主軸方向はN-32°-Wである。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(789)である。2-1区のSK8から出土した。体部はひらき気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。精選された胎土である。



- 遺構埋土
1. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質砂
 2. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト質砂
 3. ハンダ(明褐色(7.5YR5/8))
 4. ハンダ(黄褐色(10YR5/6))
 5. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト

図301 2区 SK32 平面図・断面図

SK9

SK9は平面形が方形の土坑である。長軸1.43m、短軸の検出長は1.34mを測り、検出面からの深さは17cmである。主軸方向はN-16°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK10

SK10は平面形が長方形の土坑である。長軸1.69m、短軸0.61mを測り、検出面からの深さは15cmである。主軸方向はN-21°-Wである。

図示した出土遺物はない。

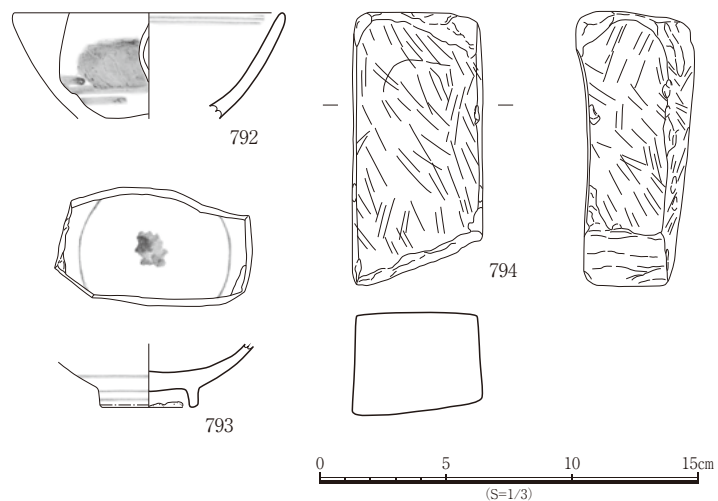


図302 2区 SK32 出土遺物実測図

SK12

SK12は平面形が方形の土坑である。長軸2.70m、短軸の検出長は0.96mを測り、検出面からの深

さは20cmである。主軸方向はN-12° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SK13

SK13は平面形が隅丸方形の土坑である。長軸2.64m、短軸の検出長は1.75mを測り、検出面からの深さは39cmである。主軸方向はN-85° -Wである。

図示した出土遺物はない。

SK15

SK15は平面形が方形と推測される土坑である。長軸の検出長は0.79m、短軸0.63mを測り、検出面からの深さは7cmである。主軸方向はN-3° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SK16

SK16は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸1.16m、短軸の検出長は0.25mを測り、検出面からの深さは8cmである。主軸方向はN-80° -Wである。

図示した出土遺物はない。

SK17

SK17は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸1.54m、短軸の検出長は0.89mを測り、検出面からの深さは37cmである。主軸方向はN-14° -Eである。

図示した出土遺物はない。

SK18

SK18は平面形が隅丸方形と推測される土坑である。長軸3.34m、短軸3.40mを測り、検出面からの深さは39～56cmである。主軸方向はN-20° -Eである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(790)である。2-1区のSK18から出土した。小径の底部から体部は逆「ハ」の字形に立ち上がる。回転ナデ調整を施し、内外面にはロクロ目痕がみられる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。精選された胎土である。

SK19

SK19は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸4.43m、短軸3.56mを測り、検出面からの深さは342cmである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(791)である。2-1区のSK19から出土した。内外面とも回転ナデ調整を施し、内

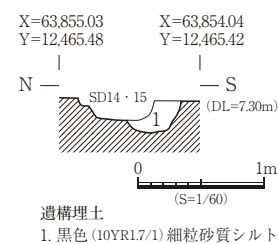


図303 2区 SD12 断面図

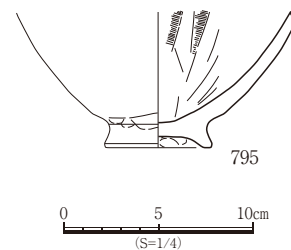


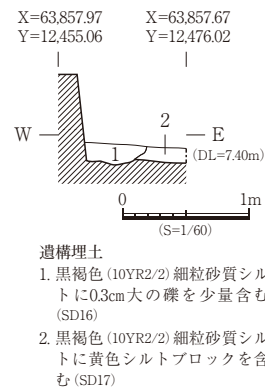
図304 2区 SD12 出土遺物実測図

面にはロクロ目痕がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。精選された胎土である。

SK20

SK20は平面形が溝状の土坑である。長軸の検出長は1.40m, 短軸 0.52mを測り, 検出面からの深さは 20 cmである。主軸方向はN-60° -Eである。

図示した出土遺物はない。



SK21

SK21は平面形が楕円形の土坑である。長軸 1.39m, 短軸 0.64mを測り, 検出面からの深さは 20 cmである。主軸方向はN-22° -Eである。

図示した出土遺物はない。

図305 2区 SD16・17 断面図

SK22

SK22は平面形が楕円形と推測される土坑である。長軸の検出長は 1.28m, 短軸の検出長は 0.52mを測り, 検出面からの深さは 11cmである。主軸方向はN-83° -Wである。

図示した出土遺物はない。

SK23

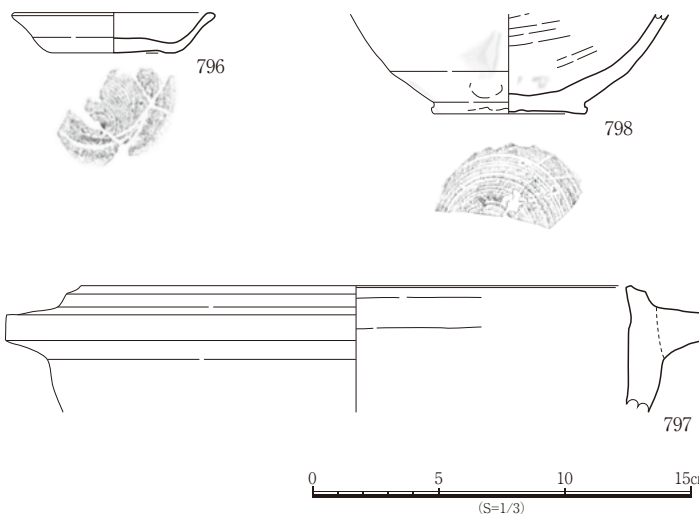
SK23は平面形が隅丸方形と推測される土坑である。長軸の検出長は 0.81m, 短軸 0.77mを測り, 検出面からの深さは 11cmである。主軸方向はN-85° -Wである。

図示した出土遺物はない。

SK24

SK24は平面形が不明の土坑である。長軸の検出長は 1.02m, 短軸の検出長は0.25mを測り, 検出面からの深さは 9cmである。

図示した出土遺物はない。



SK25

SK25は平面形が不明の土坑である。長軸の検出長は 0.57m, 短軸の検出長は0.44mを測り, 検出面からの深さは

図306 2区 SD16 出土遺物実測図

4cmである。

図示した出土遺物はない。

SK26

SK26は平面形が不整形の土坑である。長軸0.52m，短軸の検出長は0.28mを測り，検出面からの深さは3cmである。

図示した出土遺物はない。

SK30

SK30は平面形が溝状の土坑である。長軸1.37m，短軸0.27mを測り，検出面からの深さは11cmである。主軸方向はN-65°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK32

SK32は2-4区西端部で検出したハンダ土坑である。SK32が最も新しく，他に1基あるいは2基のハンダ土坑がほぼ同位置に構築されていたと推測されるものの，SK32以外の土坑の形態・規模等については不明である。SK32の内法は直径約1.8m，明褐色のハンダを掘り方内に貼り付け構築する。埋土は，大きく二層に分けることができ，上層はにぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質砂，下層は灰黄褐色(10YR4/2)シルト質砂である。廃棄時に壊されたと推測される。SK32に切られたハンダ土坑には黄褐色のハンダが用いられ，壁のハンダ内には河原石が積み上げられていたことが断ち割りの断面観察から判明した。

図示した出土遺物は，SK32から出土した磁器の碗(792・793)，砥石(794)である。792は磁器の碗である。外面には呉須で文様を描く。口縁部内面には2条の圈線が巡る。793は磁器の碗である。外面は蓮弁状を呈する。腰部に1条，高台に2条の圈線が巡る。畳付には釉剥ぎを施し，高台内の3ヶ所に離れ砂が付着する。見込みにコンニャク印版を施す。794は砥石である。直方体に加工され，側面には加工痕跡が認められる。二面を使用する。一部，欠損する。

5.SD

SD7

SD7は2-1区東寄りで検出した溝跡である。南北方向ともに調査区外へのびる。幅48～62cm，検出面からの深さは約23cmであり，埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトである。検出長は約3.8mである。主軸方向はN-26°-Wである。1区SD12に接続する可能性がある。

図示した出土遺物はない。

SD8

SD8は2-1区中央部で検出した溝跡である。南北方向ともに調査区外へのびる。幅34～62cm，検出面からの深さは約15cmであり，埋土は黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂である。検出長は約1.9mであ

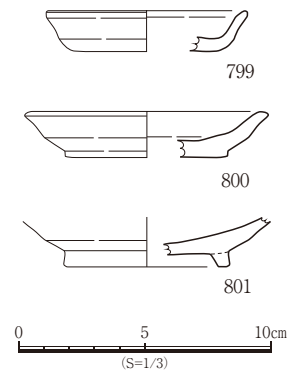


図307 2区 SD17 出土遺物実測図

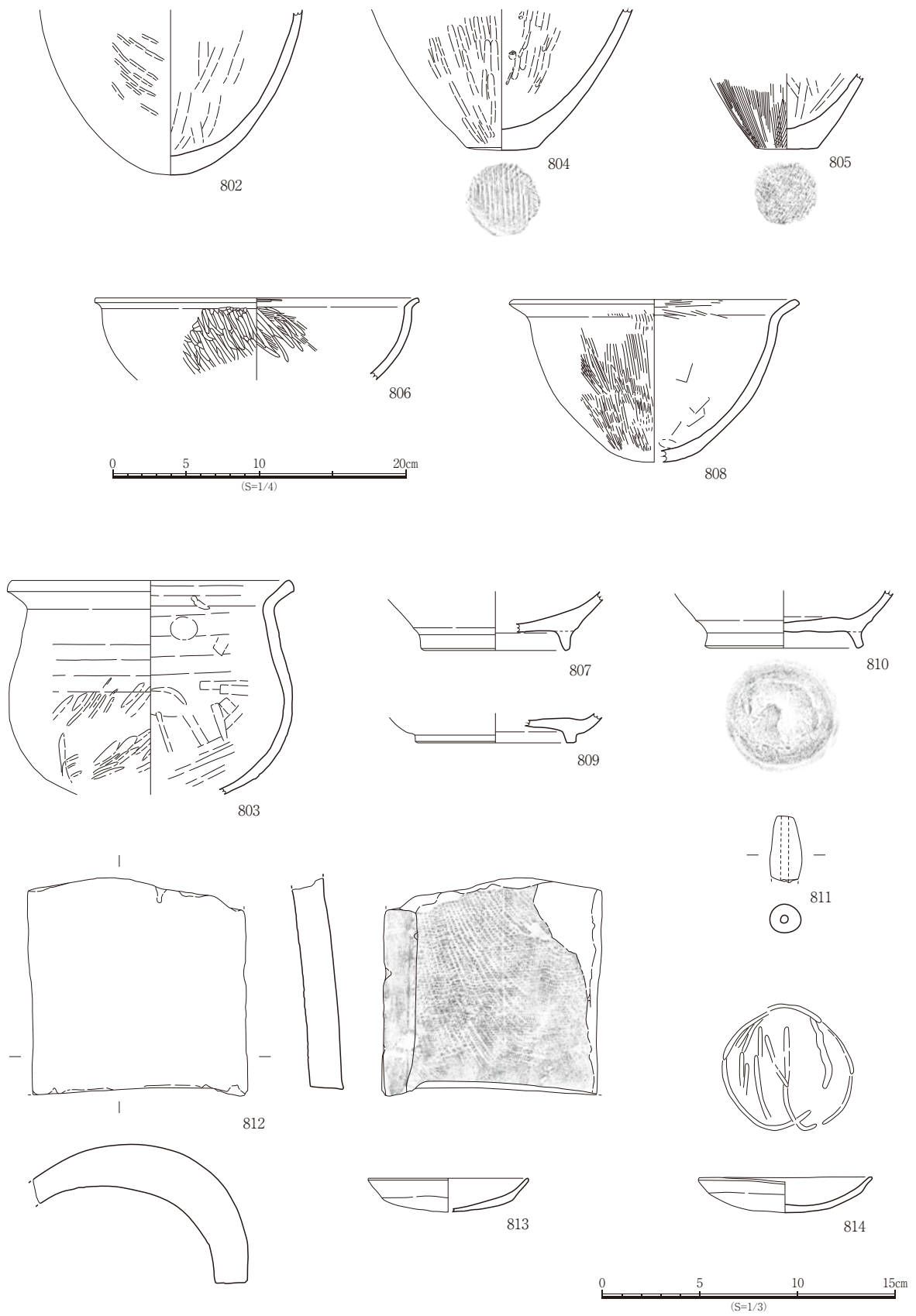


図308 2区 P 出土遺物実測図_1

る。主軸方向はN-26° -Wである。SD7と並行する。

図示した出土遺物はない。

SD12

SD12は2-1区で検出した北東方向から南西方向の溝跡である。幅36～46cm, 検出面からの深さは約29cmであり, 埋土は黒色(10YR1.7/1)極細粒砂質シルトである。検出長は約12.5mである。主軸方向はN-67° -E, N-75° -Eである。

図示した出土遺物は弥生土器の脚付鉢(795)である。体部は丸みを帯びて立ち上がり, 底部は指頭により脚部を作出する。外面は叩き調整後, ナデ調整を施す。脚部付近はハケ調整である。内面はヨコハケ調整後, 縦方向のナデ調整を施す。

SD16

SD16は2-1区西端部で検出した南北方向の溝跡である。幅20～57cm, 検出面からの深さは約14cmであり, 埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。検出長は約4.8mである。主軸方向はN-9° -Eである。

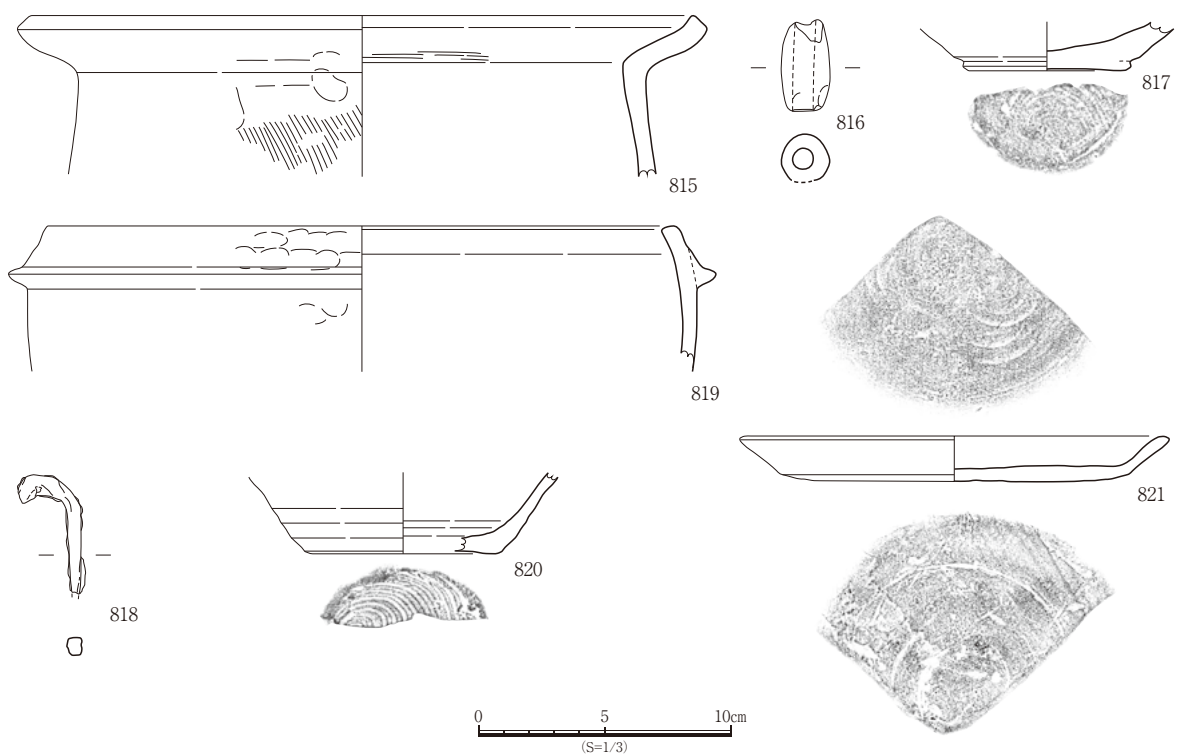


図309 2区 P 出土遺物実測図_2

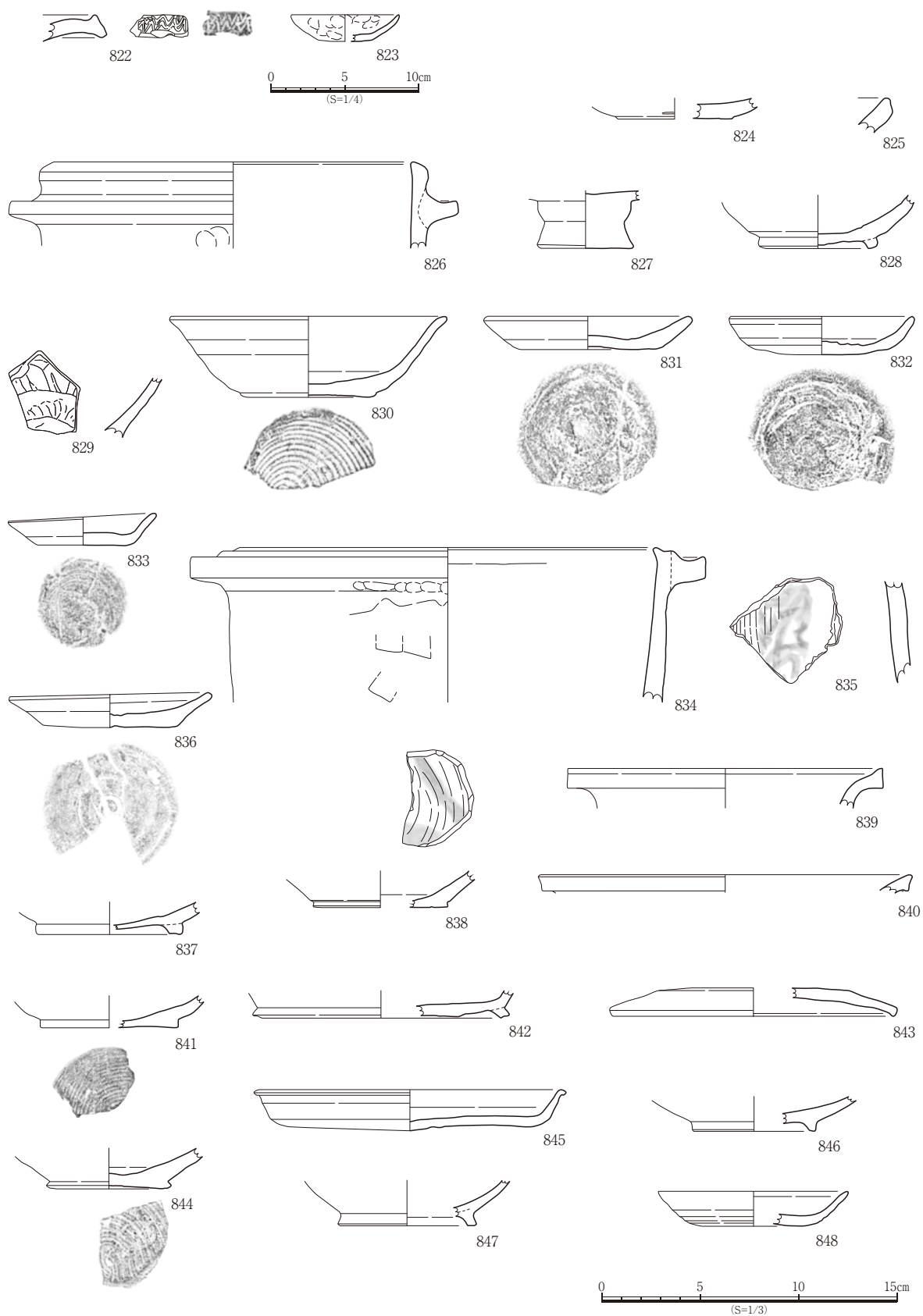


図310 2区 遺構外出土遺物実測図_1

図示した出土遺物は土師質土器の皿(796), 土師器の羽釜(797), 須恵器の椀(798)である。796は土師質土器の皿である。口縁部は僅かに外反し, 端部は丸くおさめる。回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。精選された胎土である。797は土師器の羽釜である。口縁部内面はヨコナデ調整を施すことにより僅かに凹状を呈し, 端部は有稜の凹面状を成す。鏝を貼付する。胎土に雲母片等の細粒砂を含む。798は須恵器の椀である。体部は稜を持って内湾気味に立ち上がる。回転ナデ調整を施す。円盤状高台を呈し, 外底面には回転糸切り痕跡がみられる。

SD17

SD17は2-1区西端部で検出した南北方向の溝跡である。幅約159cm, 検出面からの深さは約7cmであり, 埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。検出長は約4.1mである。主軸方向はN-16°-Eである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(799)・皿(800), 土師器の椀(801)である。799は土師質土器の杯である。体部は緩やかに立ち上がり, 口縁部は僅かに外反して端部は丸くおさめる。回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。精選された胎土である。800は土師質土器の皿である。体部は僅かに稜を持って立ち上がり, 口縁端部は端反り気味に丸くおさめる。回転ナデ調整を施す。底部は形骸化した円盤状高台を呈し, 切り離し痕跡は不明瞭である。精選された胎土である。801は土師器の椀である。外底面に断面形が矩形状の輪高台を貼り付ける。精選された胎土である。

SD18

SD18は2-2区西端部で検出した南北方向の溝跡である。幅116～127cm, 検出面からの深さは約24cmであり, 埋土は黒色(10YR1.7/1)極細粒砂質シルトである。検出長は約4.2mである。主軸方向はN-12°-Eである。1区のSD7と一連の溝である可能性が高く, 規模・方位等から区画溝と推定される。SD16・17とも重複していることから土地区画が踏襲されていたと考えられる。

図示した出土遺物はない。

6.P

802は2-1区のP12から出土した弥生土器の甕の底部である。ほぼ丸底である。体部外面は叩き調整後, ナデ調整か。内面はナデ調整である。803は2-1区のP61から出土した土師器の甕である。体部は下膨れ, 口縁部を短く屈曲させる。体部外面は下半部には斜め方向の叩き目がみられ, 上半部はヨコナデ調整である。内面はヨコナデ調整で仕上げる。804は2-1区のP81から出土した弥生土器の甕である。平底であり, 外底面には叩き目がみられる。下胴部外面は叩き調整後, 粗いハケ調整を施し, 内面はヘラケズリ調整である。805は2-1区のP119から出土した弥生土器の底部である。平底であり, 外底面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後, タテハケ調整を施す。内面はナデ調整であり, 砂粒の移動痕跡がみられる。806は2-1区のP172から出土した弥生土器の鉢である。口縁部を短く外反させる。体部外面はヘラミガキ調整を密に施す。内面はヨコハケ調整後, ヘラミガキ調整を施す。807は2-1区のP194から出土した土師器の杯である。回転ナデ調整を施す。底部に細身の輪高台を貼付する。精選された胎土である。808は2-1区のP197から出土した弥生土器の鉢である。口縁部は短く外反する。底部は角の取れた平底であり, ナデることで丸底化させる。体部外面はタテハケ調整,

内面は工具ナデ調整である。809は2-1区のP204から出土した須恵器の杯である。回転成形により底部内縁は凹線状を成す。外面端部に僅かに外傾する断面形が矩形状の輪高台を貼り付ける。精選された胎土である。810は2-1区のP205から出土した土師器の杯である。回転ナデ調整を施す。底部外縁端部に外傾する輪高台を貼付する。外底面には回転ヘラ切り痕跡がみられる。精選された胎土である。811は2-1区のP207から出土した土錘である。歪な紡錘形状の円筒形を呈する。孔径は4mmである。

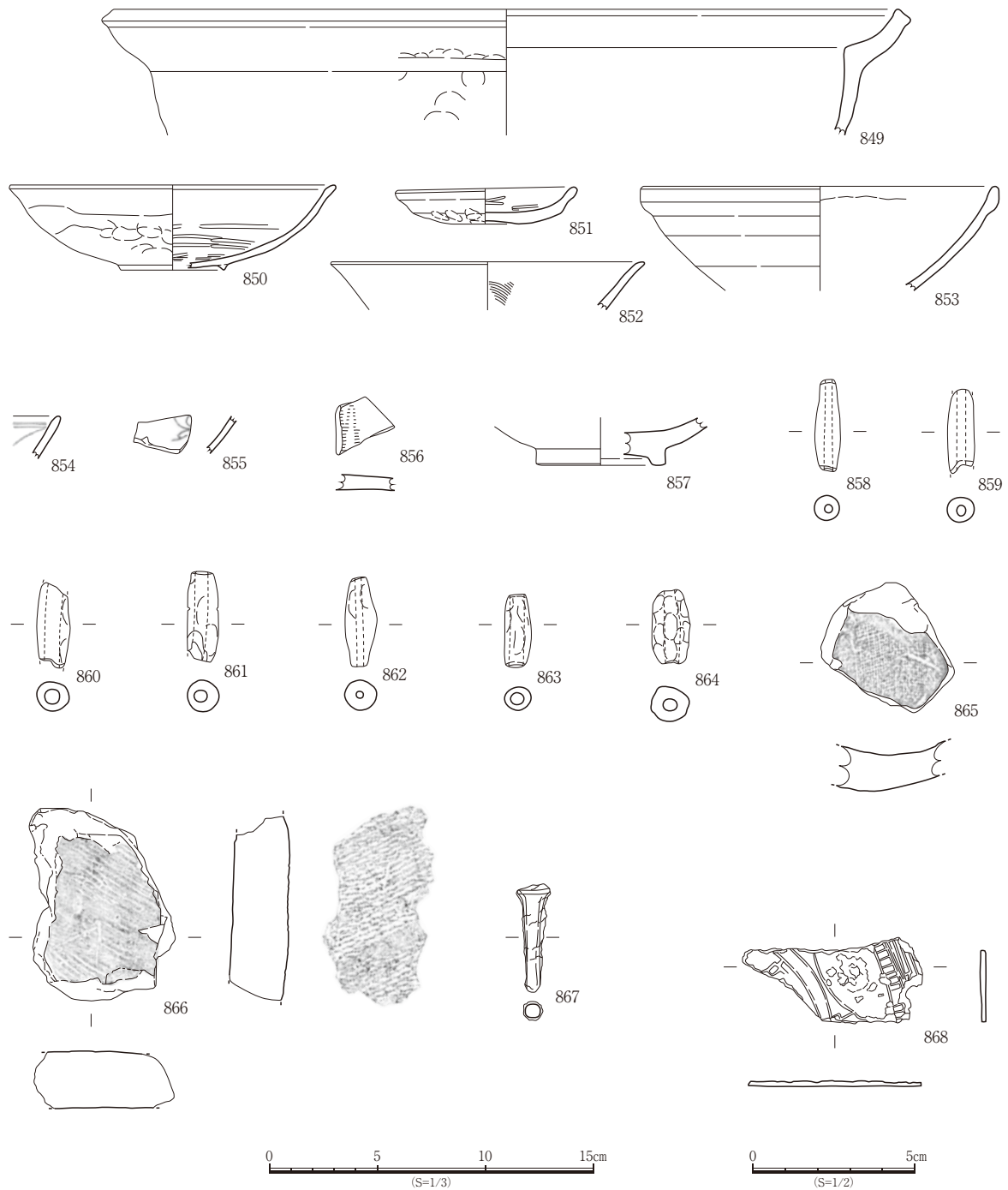


図311 2区 遺構外出土遺物実測図_2

る。812は2-1区のP218から出土した丸瓦である。凸面にはナデ調整を施す。凹面には布目圧痕・緩弧線(コビキA)がみられる。813は2-1区のP271から出土した瓦器の皿である。体部は有稜を成し、口縁端部は丸くおさめる。底部は丸みを帯びて底面中央は凹状を成す。口縁部にはヨコナデ調整を施し、底部には指頭圧痕がみられる。精選された胎土である。814は2-1区のP271から出土した瓦器の皿である。体部は有稜を成し、口縁部は僅かに外反して端部は丸くおさめる。口縁部にはヨコナデ調整を施す。底部には指頭圧痕がみられ、丸みを帯びる。内底面に粗略な暗文を施す。外底面にヘラ状原体による沈線状痕が認められる。精選された胎土である。815は2-2区のP310から出土した土師器の甕である。直立気味の胴部から口縁部は僅かに肥厚して屈曲し、端部は若干拡張して凹面状を成す。外面はタテハケ調整、口縁部はヨコナデ調整である。816は2-2区のP315から出土した土錘である。楕円形状の円筒形を呈し、側部に圧痕が認められる。孔径は8mmである。817は2-2区のP357から出土した土師器の杯である。体部・底部境に沈線状痕が認められる。底部は形骸化した円盤状高台を呈し、外底面には回転糸切り痕跡がみられる。精選された胎土である。819は2-3区のP400から出土した瓦質土器の羽釜である。口縁部は内傾し、端部は面を取る。断面形が三角形の鏝を貼付する。口縁部は回転ナデ調整を施す。精選された胎土である。820は2-3区のP401から出土した土師器の杯である。体部は斜め上方に立ち上がる。回転ナデ調整を施し、外面にはロクロ目痕がみられる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。精選された胎土である。

P456

2-4区西部で検出した楕円形のピットである。長軸0.49m、短軸0.28m、検出面からの深さは12cmである。埋土は、黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は須恵器の皿(821)である。口縁部は底部から外上方へ立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。全体的に摩耗するものの、内外面ともヨコナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。内底面には当て具痕跡がみられる。

7. 遺構外出土遺物

図示した出土遺物は、弥生土器の鉢・器台、土師器の皿・杯・椀・甕・羽釜、須恵器の皿・杯・椀・蓋・壺、緑釉陶器の碗、土師質土器の杯、瓦質土器の鍋、瓦器の皿・椀、白磁の碗、青磁の皿・碗、土錘、瓦、石包丁、勾玉、釘、銅鏡である。

822は弥生土器の器台である。口唇部を上下に拡張させ、三角形を呈する櫛描波状文を施す。内外面ともナデ調整を施す。823は弥生土器の皿状鉢である。手捏ね成形である。824は土師器の椀である。外底面にかなり扁平な高台を付す。外面は横方向のミガキ調整を施す。内面は摩耗のため調整等の観察は困難であるがミガキ調整と考えられる。825は土師器の甕である。口縁部上端を摘み上げる。内外面ともヨコナデ調整を施す。826は土師器の羽釜である。口縁部上端からやや下がった位置に鏝を付す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施す。鏝直下には指頭圧痕がみられる。内面は斜め方向のナデ調整で仕上げる。827は2-2区の包含層2層から出土した土師器の皿である。回転ナデ調整を施す。底部は鼓状を呈した柱状高台で、外底面には回転ヘラ切り痕跡がみられる。精選された胎土である。828は2-2区の包含層2層から出土した土師器の椀である。外面下位に稜を有し、体部は内湾気味に立ち上がる。回転ナデ調整を施す。内面にはヘラミガキ調整を施す。底部には輪高台を貼付

する。精選された胎土である。829は2-2区の包含層3層から出土した土師器の杯である。外面は回転ナデ調整を施す。内面に不明瞭な蓮弁文状の線刻文様が認められる。830は2-2区の包含層3層から出土した土師器の杯である。口縁部は端反り気味に外反し、端部は丸くおさめる。回転ナデ調整を施し、外面にはロクロ目痕がみられる。底部は粘土盤を貼付し、形骸化した円盤状高台様を成す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。831は2-2区の包含層3層から出土した土師器の皿である。体部は緩やかに浅く立ち上がり、器壁は厚め。外底面には回転ヘラ切り痕跡がみられる。精選された胎土である。832は2-2区の包含層3層から出土した土師器の皿である。回転ナデ調整を施し、内底面にロクロ目痕がみられる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。精選された胎土である。833は2-2区の包含層3層から出土した土師器の皿である。体部は外方へひらき気味に立ち上がる。回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。精選された胎土である。834は2-2区の包含層3層から出土した土師器の羽釜である。口縁部内面は内傾し、端部は強いヨコナデ調整により凹状を成す。鏝を貼付し、下方に指頭圧痕がみられる。上方は強いヨコナデ調整を施すことにより凹状を成す。835は2-1区の包含層3層から出土した土師器の破片である。外面はハケ調整である。器面に判読不明の文字状痕がみられる。836は2-1区の包含層3層から出土した土師器の皿である。体部は緩やかに浅く立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡がみられる。837は2-1区の包含層2層から出土した土師器の椀である。回転ナデ調整を施す。底部外縁に断面形が梯形状の輪高台を貼付し、底面が凹状を成す。838は須恵器の椀である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。内面には火襷がみられる。839は須恵器の壺である。口縁部上端を摘み上げ、口唇部は僅かに凹面状を呈する。内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。840は須恵器の壺である。口縁部の上端を摘み上げ、下方を拡張させ、口唇部は凹面状を呈する。内外面ともヨコナデ調整を施す。841は須恵器の平高台の椀である。外底面は回転糸切り痕跡が認められる。内外面ともヨコナデ調整を施す。842は須恵器の杯である。底端部に高台を貼り付ける。高台下端を摘み出し、端面は凹面状を呈する。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。843は須恵器の蓋である。平らな天井部から口縁部は僅かに下がり、口縁端部を折り曲げ、丸くおさめる。天井部外面は回転ヘラケズリ調整後、ヨコナデ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整である。内外面ともセピア色を呈する。844は2-2区の包含層2層から出土した須恵器の椀である。回転ナデ調整を施す。底部は形骸化した円盤状高台様を成す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。精選された胎土である。845は2-2区の包含層2層から出土した須恵器の皿である。底部からの立ち上がりは緩く稜を成して口縁部にいたり、端部はほぼ水平に屈曲する。回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡がみられる。846は2-2区の包含層2層から出土した緑釉陶器の碗である。回転ナデ調整を施す。底部は削り出しの輪高台とする。刷毛塗りで施釉し、高台内は露胎である。須恵質の胎土である。847は2-1区の包含層3層から出土した緑釉陶器の碗である。底部は削り出しの輪高台で僅かに外傾し、畳付まで刷毛塗りで施釉する。須恵質の胎土である。848は2-1区の包含層3層から出土した土師質土器の杯である。回転ナデ調整を施す。底部の切り離しはヘラ起しか。精選された胎土である。849は2-1区の包含層3層から出土した瓦質土器の鍋である。口縁部は受け口状を呈し、端部はヨコナデ調整により僅かに凹面を成す。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施し、口胴部境に指頭圧痕がみられる。850は2-1区の包含層3層から出土した瓦器の椀である。口縁部は僅かに端反り気味に外反し、端部は丸くおさめる。口縁部外面にはナデ調整を施し、

体部外面には指頭圧痕がみられる。また、内面にはヘラミガキ調整を施す。底部には断面形が三角形の輪高台を貼り付ける。チャート等の細粒砂を含む。851は2-1区の包含層2層から出土した瓦器の皿である。底部からの立ち上がりは緩く、凹状を成して口縁部にいたる。口縁部にはナデ調整を施し、底部外面には指頭圧痕がみられる。内面にはヘラミガキ調整を施す。外底中央は僅かに凹状を成す。精選された胎土である。852は白磁の碗である。口縁部を僅かに外反させる。透明感のある釉薬を施す。内面には櫛描文がみられる。853は2-2区の包含層2層から出土した白磁の碗である。体部外面は回転ナデ調整を施す。釉は黄色味を帯びた灰白色を呈し、残存部の全体にうすく施釉し、ピンホールがみられる。口縁部は小さめの玉縁で内面の釉の二重がけ部分に小さな気泡がみられる。胎土は粗く黒い砂粒を含む陶質である。854は青磁の碗である。灰オリーブ色の釉薬を施釉し、内面には2条の沈線、劃花文を施す。855は青磁の碗である。やや黄色味がかった灰オリーブ色の釉薬を施釉し、内面には劃花文を施す。856は青磁の皿の底部である。内底面には櫛描きによりジグザグ文を施す。内面には透明感のある釉薬を施釉し、外底面は露胎となる。857は2-2区の包含層2層から出土した青磁の碗である。釉は残存部の全体に施釉し、ピンホールがみられる。底部は比較的厚い。858は2-1区の包含層2層から出土した土錘である。歪な紡錘形状の円筒形を呈する。孔径は4mmである。859は2-2区の包含層2層から出土した土錘である。円筒形を呈し、孔径5mmである。860は2-1区の包含層3層から出土した土錘である。僅かに紡錘形状の円筒形を呈し、断面形は歪な楕円形状を呈する。側部には圧痕が認められる。孔径7mmである。861は2-1区の包含層3層から出土した土錘である。円筒形を呈し、両端には面取りを施す。また、側部には圧痕が認められる。孔径6mmである。862は2-1区の包含層3層から出土した土錘である。歪な紡錘形状の円筒形を呈し、両端には面取りを施す。また、側部には圧痕が認められる。孔径3mmである。863は2-1区の包含層3層から出土した土錘である。円筒形を呈し、両端には面取りを施す。また、側部には圧痕が認められる。孔径6mmである。864は2-1区の包含層2層から出土した土錘である。僅かに楕円形状の円筒形を呈し、断面形は歪な楕円形状を呈する。また、側部にはヘラナデ調整を施し、圧痕がみられる。孔径は6mmである。外面、剥離か。865は2-2区の包含層2層から出土した瓦である。凹面には布目圧痕が認められる。チャート等の細粒砂を含む。866は2-1区の包含層3層から出土した瓦である。凸面には縄目痕、凹面には布目圧痕が認められる。867は2-1区の包含層2層から出土した釘である。頭部は僅かに肥厚する。胴部の断面形は隅丸方形を呈する。868は2-1区の包含層1層から出土した銅鏡である。穿孔されており、懸垂鏡である。孔は紐ずれにより、ひろがる。文様の一部は摩滅する。櫛歯文の凹部にベンガラが残存しており、塗布されていたと考えられる(第IV章参照)。

第4節 3区

1.ST

ST1

ST1は調査区の北東部で検出した一辺約3.5mの平面形が六角形を呈した竪穴建物跡である。床面積は約31.8㎡である。検出面から床面までの深さは約36cm、埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。中央ピット(ST1_P4)の長軸を基準とした主軸方向はN-53°-Wである。床面では中央ピット(ST1_P4)、支柱穴(ST1_P1~3・5・8・9)、壁溝(ST1_SD1)の遺構を検出した。支柱穴は各頂点の内側に配される。中央ピットは床面のほぼ中央で位置する。長軸1.49m、短軸0.90m、床面からの深さは14cmを測り、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

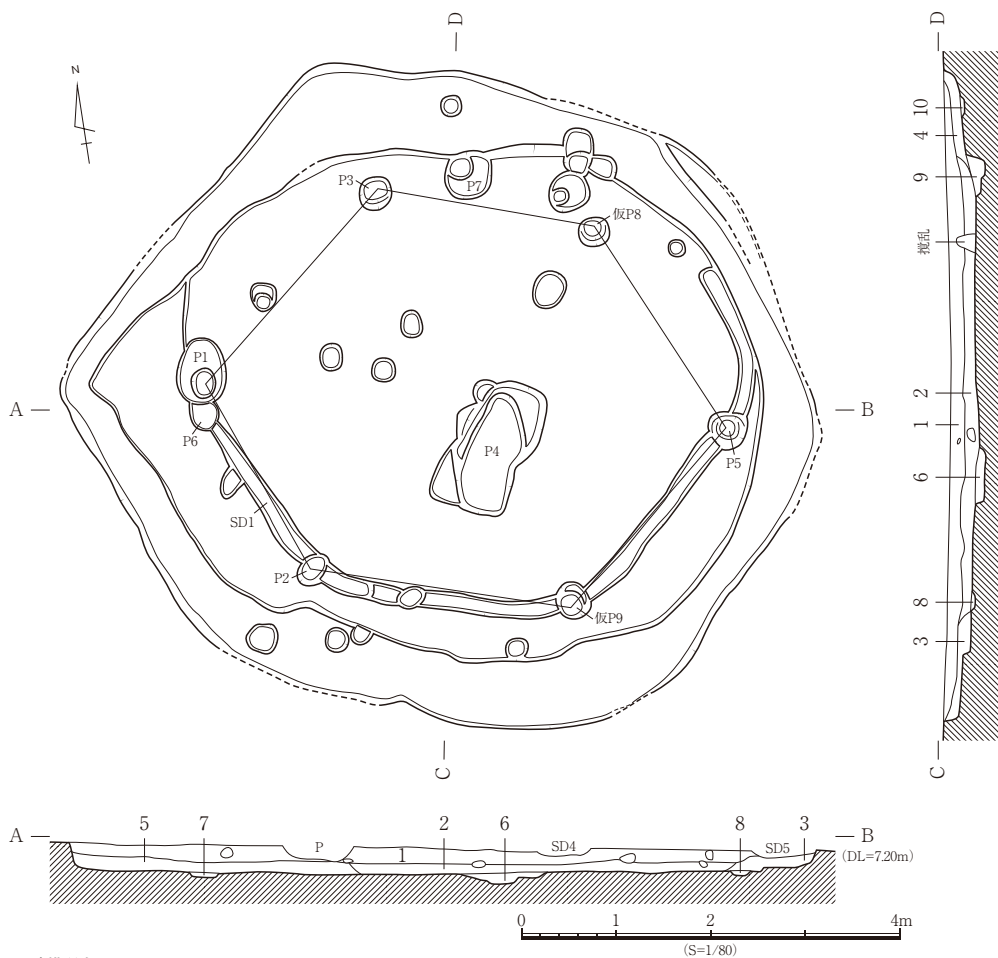


図312 3区 ST1 平面図・断面図

図示した出土遺物は、弥生土器の甕(869~872)・鉢(873~876)である。869は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面は粗いハケ調整である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を施す。内面は粗いハケ調整である。870は甕である。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。口縁部は上胴部からの一連の叩き調整後、指頭により成形する。内面は粗いハケ調整である。体部外面は叩き調整後、タテハケ調整を疎らに施す。内面は粗いハケ調整である。上胴部内面に粘土帯接合痕跡が認められる。871は甕である。口縁部は屈曲度合いの弱い「く」の字状を呈する。口縁部外面にはタテハケ調整を施し、内面はハケ調整か。体部外面は叩き調整、タテハケ調整を密に施す。全体的に摩耗する。872はST1_P1から出土した甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には面取りを施す。内外面ともにハケ調整で仕上げる。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を密に施す。内面は粗いハケ調整である。

873は鉢である。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施し、叩き目がみられる。外面は叩き調整後、ナデ調整で仕上げる。口縁部は指頭で摘み、尖らせる。内面は指頭圧痕がみられ、内底面は凹む。874は鉢である。底部は角の取れた平底であり、外底面にはナデ調整を施し、端部をナデ調整により潰す。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整であり、下半部はナデ調整である。875は鉢である。底部は角の取れた平底であり、ハケ調整により丸底化させる。体部は半球形を呈し、外面は叩き調整後、ナデ調整・ハケ調整を施す。内面は細かいハケ調整を全面に施す。876は鉢である。底部は尖底である。外面はヘラナデ調整を密に施し、砂粒の移動痕跡がみられる部分がある。内面もヘラナデ調整で仕上げる。

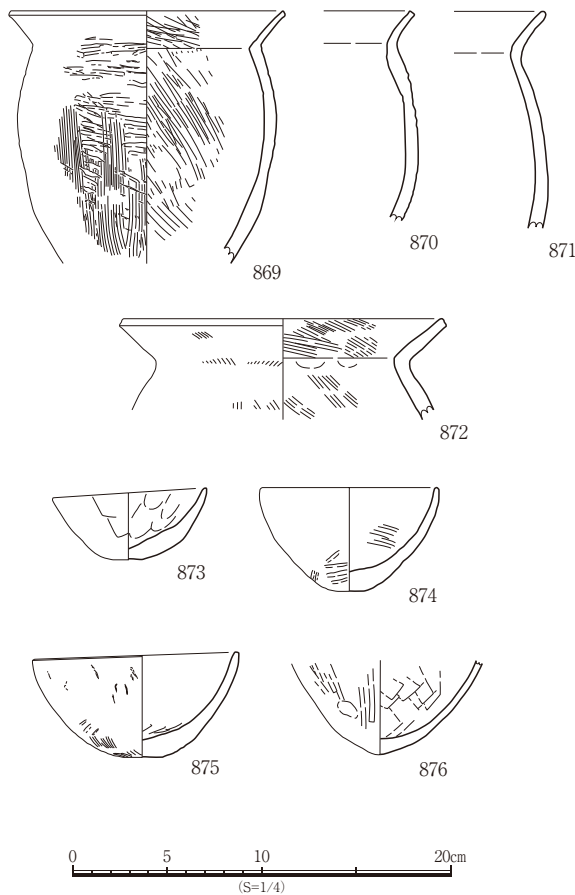


図313 3区 ST1 出土遺物実測図

ST2

ST2は調査区の東部南端で検出した長軸約4.0m、短軸約2.7mの平面形が隅丸長方形を呈した竪穴建物跡である。東半部は平成28年度、西半部は平成29年度での調査である。床面積は約11.0㎡である。検出面から床面までの深さは約32cm、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN-86°-Eである。床面では支柱穴(ST2_P3)、壁溝の遺構を検出した。支柱穴は床面中央部に2基配置される。直径20~30cmの円形から楕円形を呈する。床面からの深さは約40cmである。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕(877)・鉢(878)、ミニチュア土器(879)、石包丁(880)である。

877は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、端部は丸くおさめる。口縁部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。内面はナデ調整である。口頸部内面には口縁部の接合部に有段状を残す。878は鉢である。底部は直立部を持つ角の取れた平底である。摩擦のため調整等の観察は困難であるが、内外面ともにナデ調整か。879は床面から出土したミニチュア土器である。体部外面には指頭圧痕がみられ、内面には指ナデ調整の痕跡が顕著である。880は頁岩製の打製石包丁である。両面とも主要剥離面を残す。平面形は長方形を呈し、短辺の両端に紐かけ用の袢りを入れる。刃部は研磨する。完形である。

ST3

ST3は調査区の東部北寄りで検出した長軸約2.0m、短軸約1.5mの平面形が隅丸長方形を呈した土坑跡である。東半部は平成28年度、西半部は平成29年度での調査である。主軸方向はN-38°-Eである。検出面からの深さは約26cm、埋土は黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

ST4

ST4は調査区の南西部に位置する平面形が円形を呈した竪穴建物跡である。南半分は調査区外である。直径約6.0mと推測される。床面積は約28.2㎡である。削平を受け、床面しか残存していなかった。床面では中央ピット、壁溝、主柱穴を検出した。それぞれ削平の影響を受けていると考えられ、本来の形状・深さは不明である。主柱穴はST4_P4とST4_P6、ST4_P5とST4_P7がそれぞれ組み合わせたり、建て替えられた可能性がある。壁溝は1条のみを検出した。幅約20cm、深さ約7cmである。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒砂他である。中央ピットは床面の中央付近で検出した。南半部は調査区外へひろがり、楕円形から不整形を呈するものと推測される。炭化物由来の黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトが中央ピット以西に薄くひろがっていた。

図示した出土遺物は、弥生土器の甕(881～883)である。

881は甕の口縁部で、口唇部は面取りされる。内面にはヨコハケ調整を施す。882は甕の口縁部で、口唇部はハケ状原体により面取りされ、上端を摘み上げる。外面はナデ調整、内面はヨコハケ調整で

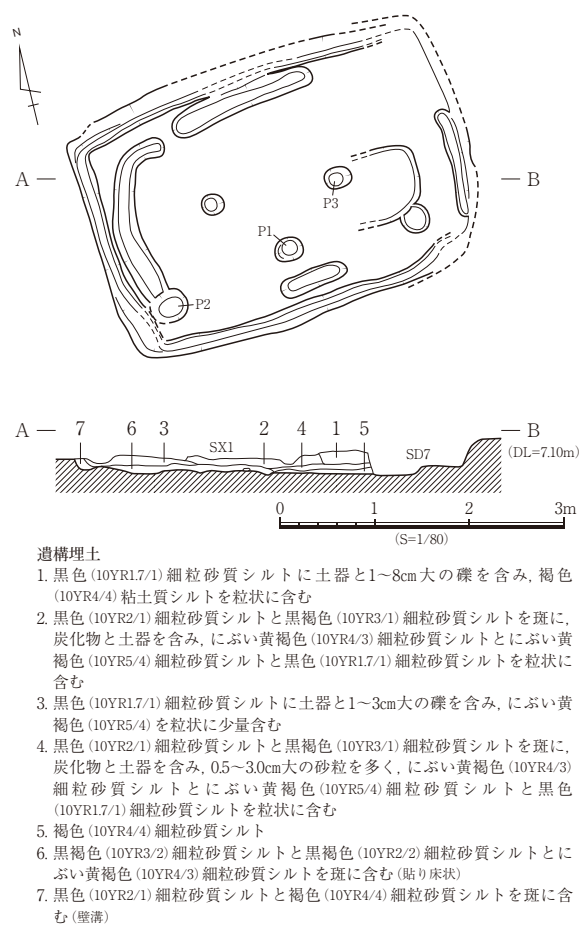


図314 3区 ST2 平面図・断面図

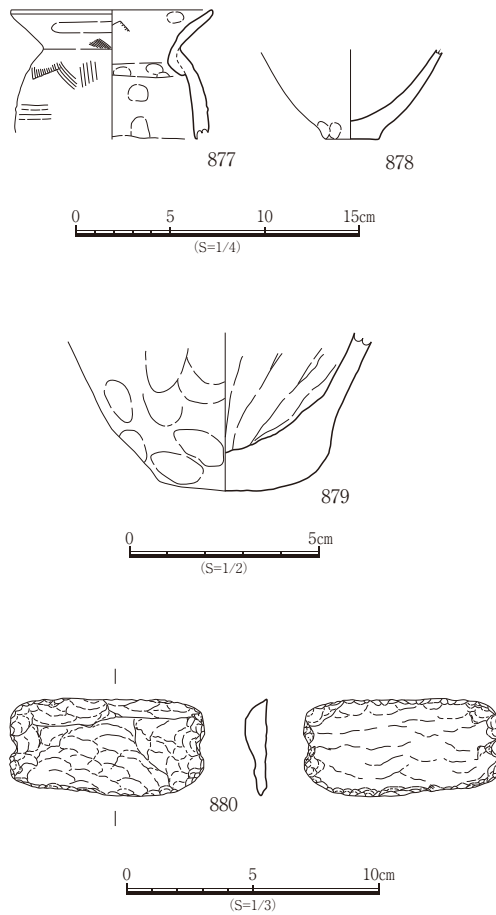


図315 3区 ST2 出土遺物実測図

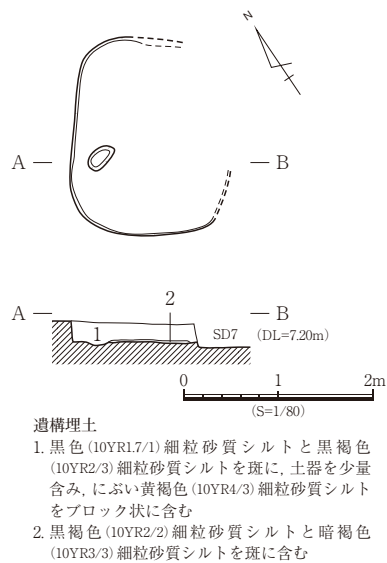


図316 3区 ST3 平面図・断面図

ある。883は壁溝から出土した甕の口縁部である。口唇部はハケ状原体により面取りされ、上下に若干、拡張される。内外面ともヨコナデ調整を施す。

ST5・ST6

ST5・6は調査区北部で検出した竪穴建物跡である。両竪穴建物跡は一部で重複しているものの新旧関係は不明である。両竪穴建物跡とも大きく削平を受けており、床面の一部が残存しているのみである。

ST5は南西部の形状、中央ピットの位置等から推測して、一辺約4.0mの隅丸方形を呈した竪穴建物跡と考えられる。床面では中央ピット、柱穴を検出した。埋土は黒褐色(10YR3/2)粘質シルト他である。中央ピットは床面のほぼ中央で検出した。長軸48cm、短軸44cmの不整円形を呈し、検出面からの深さは20.9cmである。埋土は黒色(10YR1.7/1)粘質シルトである。

図示した出土遺物は、弥生土器の壺(884)・甕(885・886)・鉢(887～889)である。884は壺の口縁部である。口唇部はハケ状原体で面取りし、上端部は摘み上げ、下端は摘み出すことで凹面状を呈する。外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整である。885は甕

の口縁部である。口唇部は面取りされる。外面はナデ調整, 内面はヨコハケ調整である。886は甕の底部である。角の取れた平底である。外面には叩き調整後にナデ調整を施し, 外底面にもうっすらと叩き目が残る。内面にはナデ調整を施す。887は鉢である。口唇部にはルーズな面取りを施す。外面は叩き調整後, ナデ調整を施す。内面は斜め方向のハケ調整である。888はST5_P1から出土した鉢の口縁部である。口唇部は摘み, 尖らせる。外面はナデ調整, 内面はハケ調整である。外面には煤が付着する。889は鉢である。口縁部を外反させる。口唇部を面取り後, 口縁部を外反させたため, 口唇部には沈線を巡らせたようになる。外面はナデ調整である。内面はヨコハケ調整, 口縁部内面は斜め方向のハケ調整を施す。外面にはキレツが認められる。

ST6は本来の形状, 規模とも不明である。埋土は灰黄褐色(10YR4/2)粘質シルトである。床面では中央ピット, 柱穴を検出した。中央ピットは長軸102cm, 短軸54cmの不整楕円形を呈し, 検出面からの深さは13.5cmである。

ST6_P1は長軸36cm, 短軸25cmの不整楕円形を呈し, 検出面からの深さは21.1cmである。支柱穴の可能性はある。

図示した出土遺物は, 弥生土器の壺(890)・甕(891~896)・鉢(897~900)である。

890は直口壺である。口縁部は短く直線的に立ち上がり, 口唇部を尖らせる。口縁部外面は斜め方向のハケ調整, 内面は粗い斜め方向のハケ調整である。体部は扁球形を呈する。体部外面は最大径部より上半部はナデ調整を施し, 一部はミガキ状の光沢を持つ部分がある。下半部はヨコハケ調整であり, その後で底部付近に放射状にタテハケ調整を施す。色調は内外面ともにぶい褐色を呈する。器壁は薄く, 均整のとれた形態で全体的に丁寧な作りである。搬入品である。

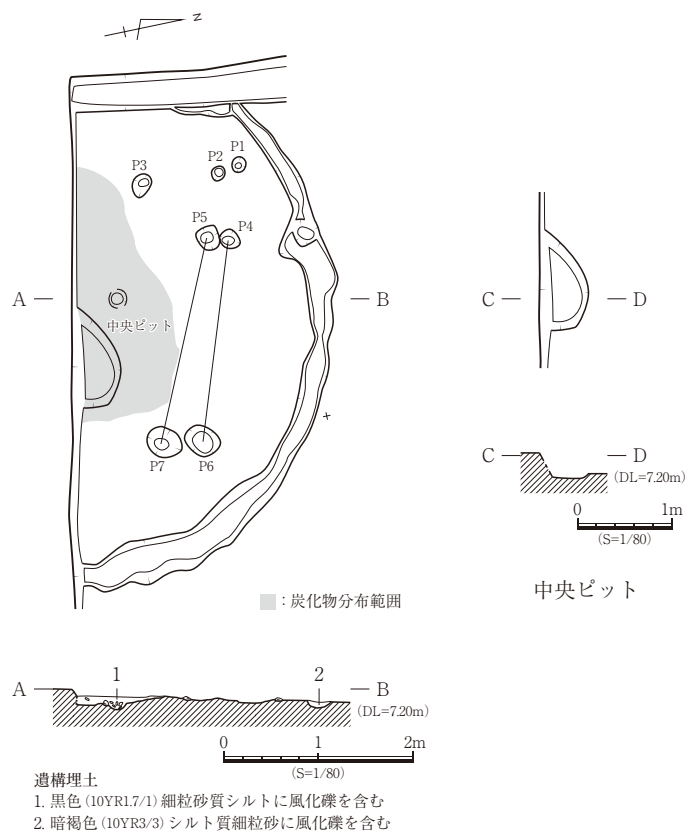


図317 3区 ST4 平面図・断面図

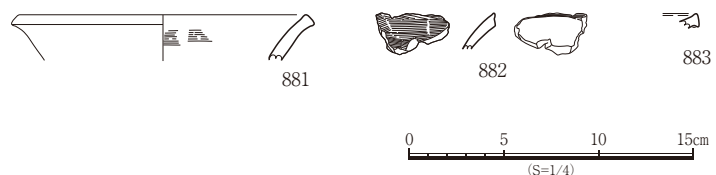


図318 3区 ST4 出土遺物実測図

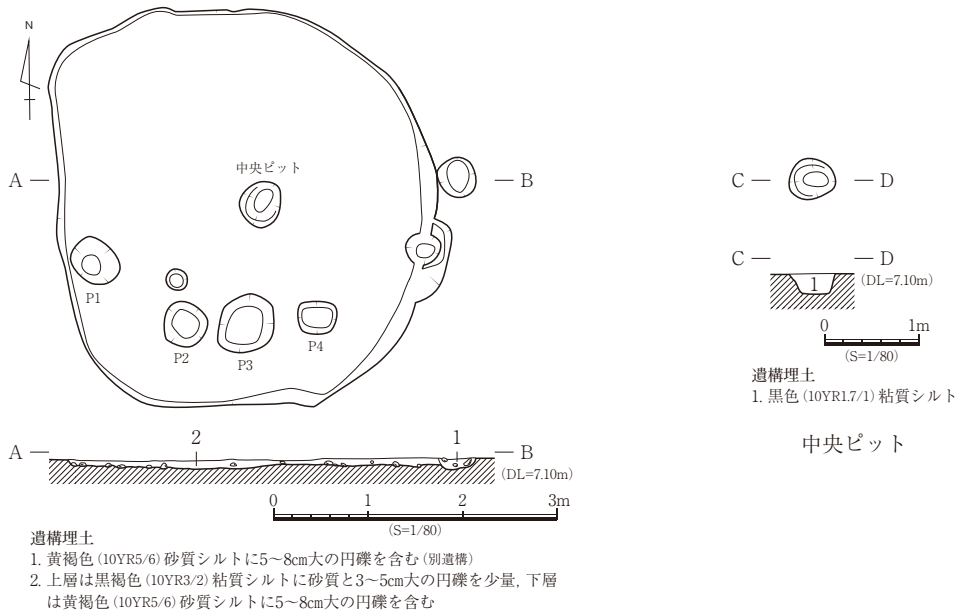


図319 3区 ST5 平面図・断面図

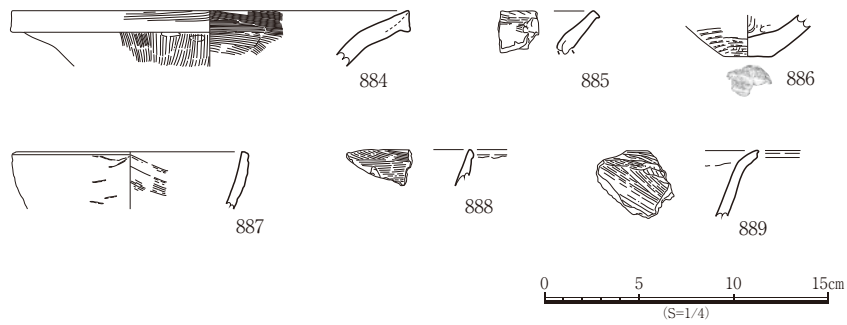


図320 3区 ST5 出土遺物実測図

891 は中央ピットから出土した甕の口縁部である。「く」の字状を呈し、口唇部には刻目を施す。外面は右上がりの叩き調整後、指頭により口縁部を成形する。頸部から口縁部にかけては一連の叩き調整である。口縁部内面は横方向から斜め方向のハケ調整を施す。肩部内面はナデ調整で粘土帯接合痕跡を明瞭に残す。被熱による変色が認められ、外面には煤が付着する。892は甕の口縁部で、「く」の字状を呈する。口唇部にはルーズな面取りを施す。外面は右上がりの叩き調整後、指頭により口縁部を成形する。肩部から口縁部にかけては一連の叩き調整である。口縁部内面は横方向から斜め方向のハケ調整を施す。頸部内面はナデ調整で粘土帯接合痕跡を残す。外面には煤が付着する。893は甕の口縁部で、「く」の字状を呈する。口唇部はハケ状原体による面取りを施す。外面は右上がりの叩き調整後、指頭により口縁部を成形する。口縁部内面は横方向から斜め方向のハケ調整である。外面には煤が付着する。894は甕の口縁部で、「く」の字状を呈する。口唇部にはルーズな面取りを施す。外面は右上がりの叩き調整後、指頭により口縁部を成形する。口縁部内面には斜め方向のハケ調整

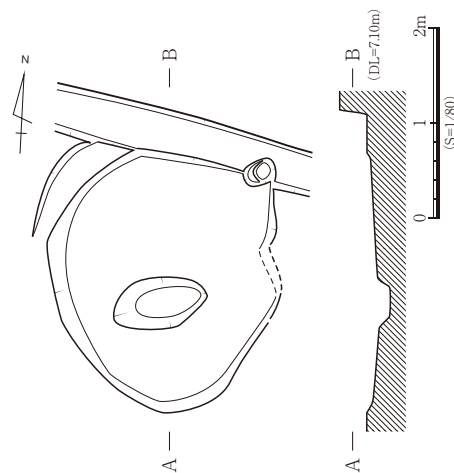


図321 3区 ST6 平面図・エレベーション図

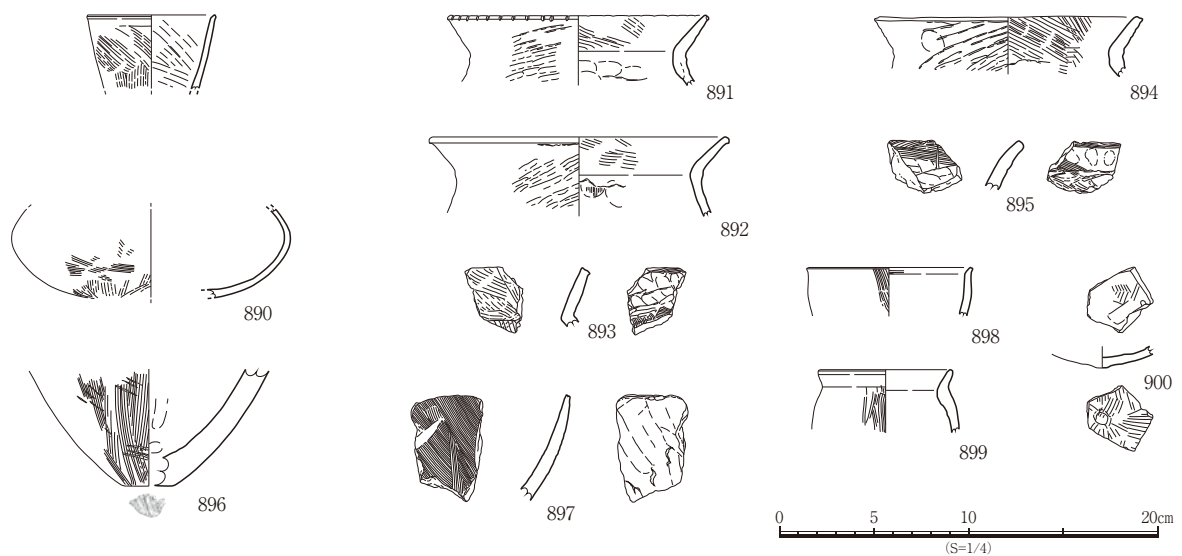


図322 3区 ST6 出土遺物実測図

を施す。頸部内面はナデ調整である。口縁部のハケ調整後、頸部のナデ調整を施す。外面には煤が付着する。895は甕の口縁部である。口唇部はハケ状原体による面取りを施す。外面は右上がりの叩き調整後、斜め方向のハケ調整を施す。口縁端部に粘土帯を追加し、いわゆる貼付口縁状を呈する。内面は斜め方向のハケ調整後ナデ調整を施し、ミガキ状の光沢を持つ部分がある。896は甕の底部である。角の取れた平底である。外面は右下がりの叩き調整後、タテハケ調整を密に施す。外底面に黒斑が認められる。内面は縦方向のナデ調整である。

897は鉢である。口唇部は内外面からの調整で「M」字状に尖らせる。外面はナデ調整でキレツが認められる。叩き目の可能性があるものが一部にみられる程度である。内面は斜め方向のハケ調整を密に施す。898は鉢の口縁部である。口縁部を短く外反させ、端部を尖らせる。外面はタテハケ調整

である。口縁部内面はヨコハケ調整，体部内面はナデ調整を施し，光沢を持つ部分がある。899 は鉢である。口縁部を外反させる。体部外面はタテハケ調整を密に施し，内面はナデ調整である。肩部内面には粘土帯接合痕跡が認められる。900 は鉢である。底部はボタン状に僅かに突出させる。外面は放射状にタテハケ調整を密に施す。内面はハケ調整を施し，内底面はハケ調整後にナデ調整を加える。搬入品か。

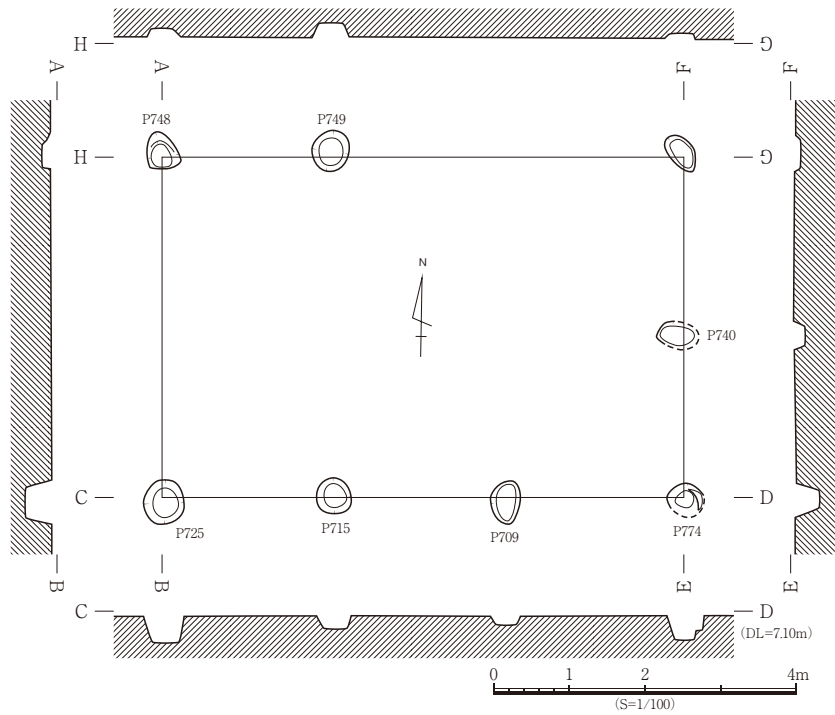


図323 3区 SB1 平面図・エレベーション図

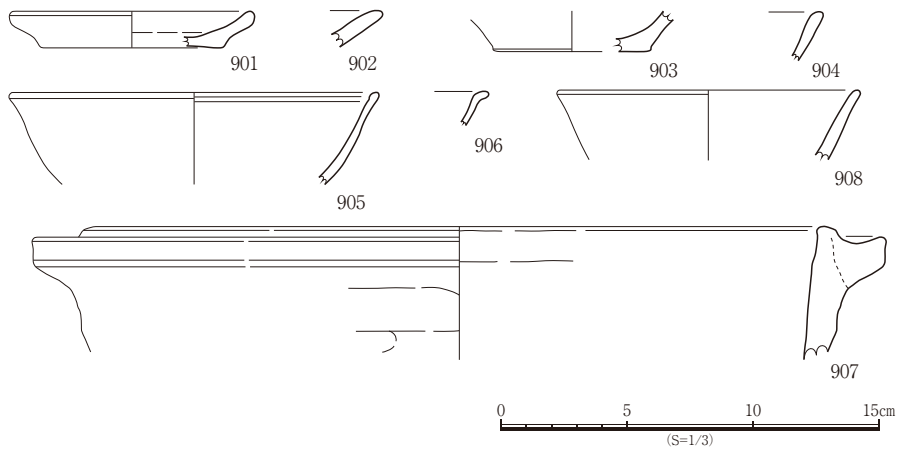


図324 3区 SB1 出土遺物実測図

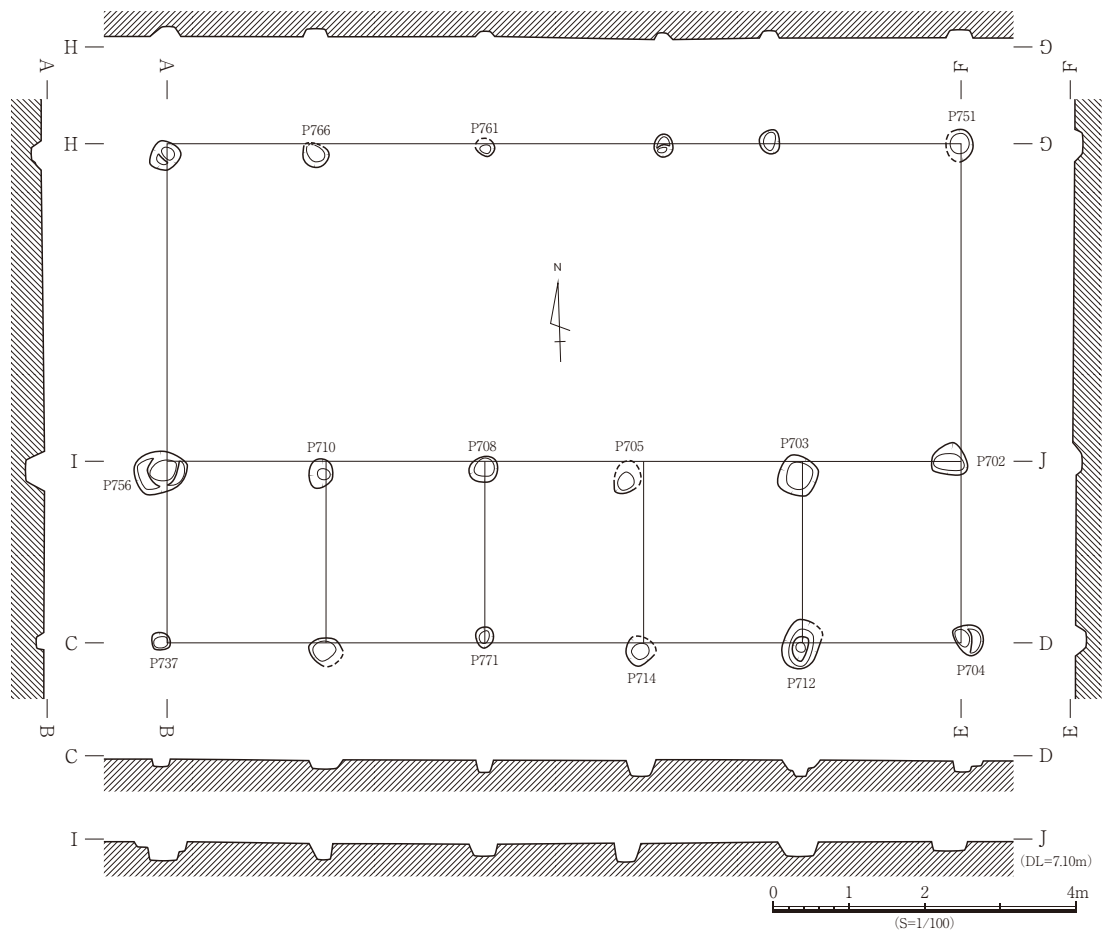


図325 3区 SB2 平面図・エレベーション図

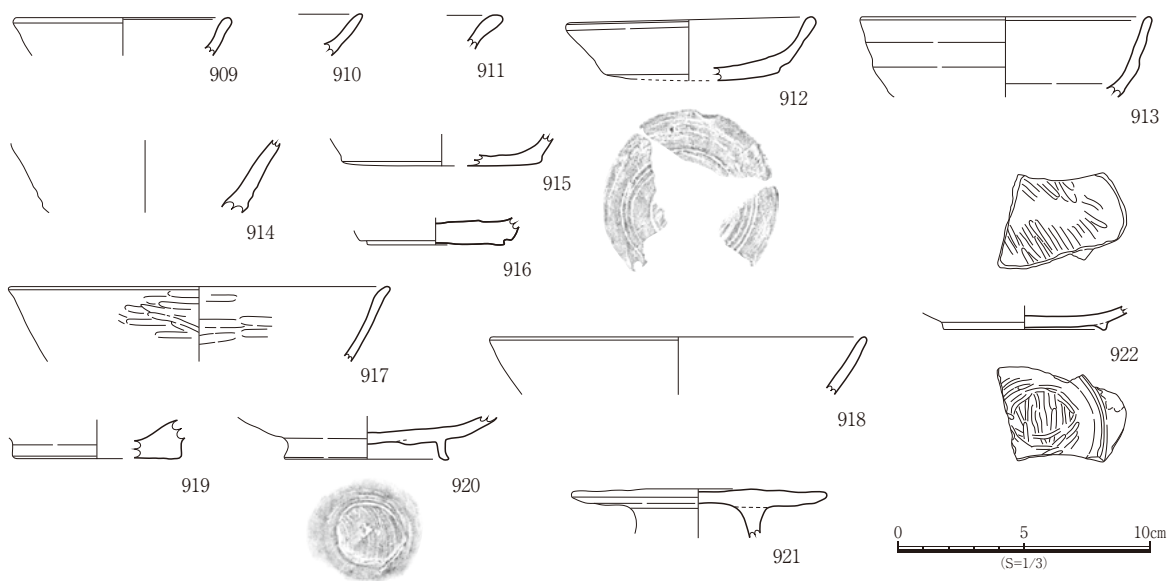


図326 3区 SB2 出土遺物実測図

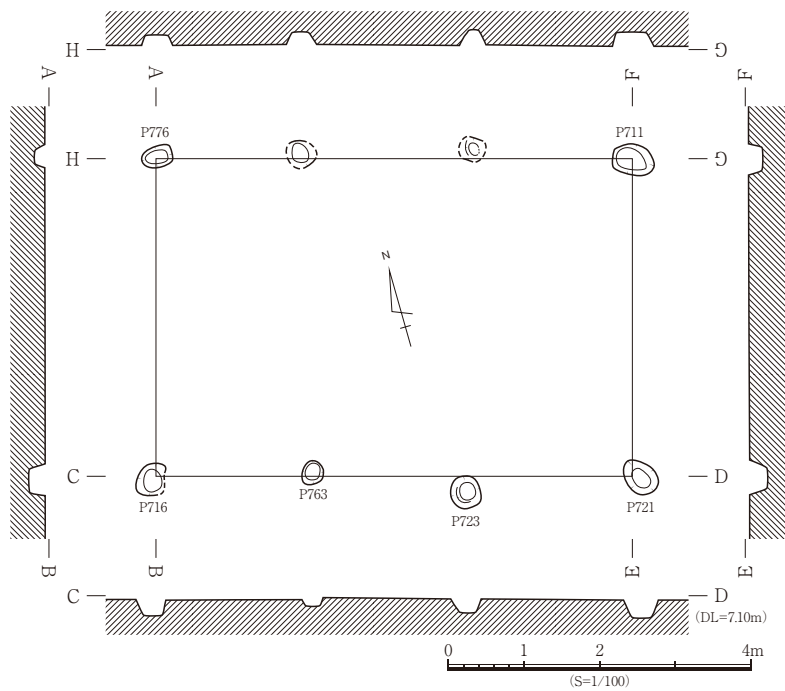


図327 3区 SB3 平面図・エレベーション図

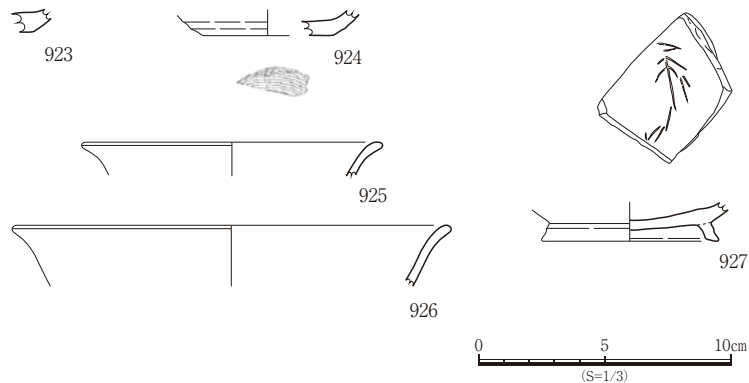


図328 3区 SB3 出土遺物実測図

2.SB

SB1

SB1は調査区西部で検出した桁行3間(6.90m)、梁行2間(4.50m)の建物跡である。主軸方向はN-89°-Wである。柱間寸法は、桁行は2.25～4.65m、梁行は2.10～4.50mである。柱穴は直径47～56cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは8～35cmである。床面積は31.0㎡である。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師器の皿(901・902)・杯(903・904)・椀(905・906)・羽釜(907)、須恵器の杯(908)である。901はP749から出土した土師器の皿である。内外面ともヨコナデ調整を施す。外底面はヘラ切りか。902はP715から出土した土師器の皿である。内外面ともヨコナデ調整を施す。903はP748か

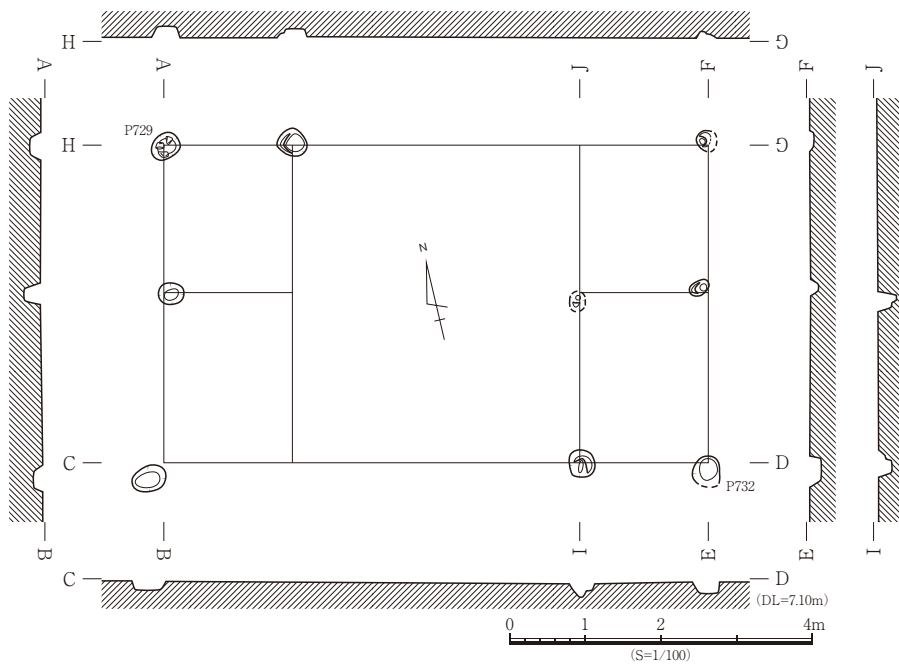


図329 3区 SB4 平面図・エレベーション図

ら出土した土師器の杯である。底端部を僅かに突出させる。内外面ともヨコナデ調整を施し、外底面は回転ヘラ切りか。904はP715から出土した土師器の杯である。内外面ともヨコナデ調整を施す。905はP725から出土した土師器の椀である。口縁部内面に1条の沈線が巡る。内面は平滑に仕上げられ、ミガキ調整と考えられるが、単位は不明瞭である。外面は摩耗により調整不明である。906はP725から出土した土師器の椀の口縁部であり、内外面ともヨコナデ調整を施す。907はP725から出土した土師器の羽釜である。口縁部上面からやや下がった位置に鏝を付す。鏝はヨコナデ調整により上方に僅かに拡張させ、端面に2条の沈線が巡る。内外面ともヨコナデ調整を施す。口縁部付近のヨコナデ調整は強い。胎土には火山ガラス片を少量含む。908はP709から出土した須恵器の杯である。内外面ともヨコナデ調整を施す。混入品である。

SB2

SB2は調査区西部で検出した桁行5間(10.50m)、梁行2間(6.60m)の建物跡である。主軸方向はN-87°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.35~2.55m、梁行は2.40・4.20mである。柱穴は長軸39cm、短軸36cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは6~25cmである。床面積は69.3㎡である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師器の皿(909・910)・杯(911~916)・椀(917~920)・高脚皿(921)、黒色土器の椀(922)である。909はP703から出土した土師器の皿であり、内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。910はP771から出土した土師器の皿であり、内外面ともヨコナデ調整で仕上げる。911はP705から出土した土師器の杯であり、内外面ともヨコナデ調整を施す。912はP703から出土した土師器の杯

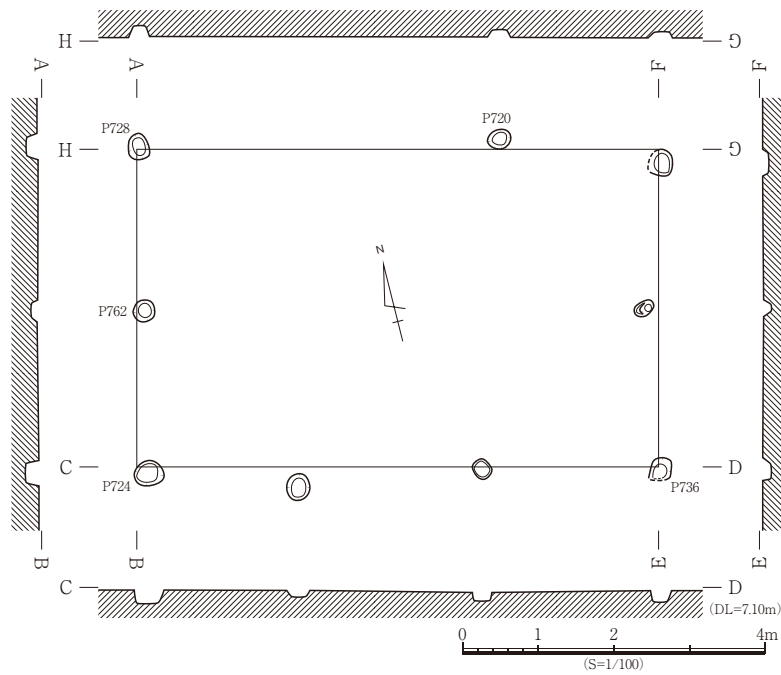


図330 3区 SB5 平面図・エレベーション図

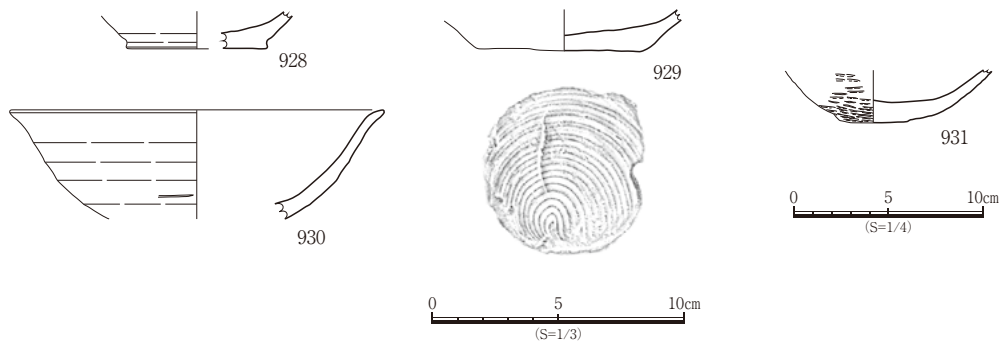


図331 3区 SB5 出土遺物実測図

であり、内外面ともヨコナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切りである。913はP702から出土した土師器の杯であり、内外面ともやや強いヨコナデ調整を施す。914はP703から出土した土師器の杯であり、内外面ともヨコナデ調整を施す。915はP705から出土した土師器の杯である。底端部を僅かに突出し、内外面ともヨコナデ調整により仕上げる。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。916はP705から出土した土師器の杯であり、内外面ともヨコナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整である。917はP703から出土した土師器の椀である。内外面ともヨコナデ調整後、横方向のミガキ調整を施す。灰白色を呈する。918はP712から出土した土師器の椀であり、内外面ともヨコナデ調整を施す。919はP712から出土した土師器の椀の円盤状高台である。内外面ともヨコナデ調整で、外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。920はP712から出土した土師器の椀である。断面形が細い長方形の高台を貼り付け、外底面には貼り付け時の痕跡が明瞭に残る。内面はヨコナデ調整

で仕上げ、外面はヘラケズリ調整か。外底面には回転糸切りの痕跡が認められる。921はP712から出土した土師器の高脚皿である。皿部は口縁部が僅かに窪むがほぼ水平である。外底面に脚部を付す。口縁部内外面にはヨコナデ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。灰白色から浅黄橙色を呈する。922はP705から出土した楠葉型の黒色土器の椀である。外底面には断面形が三角形の高台を貼り付ける。内外面ともヘラミガキ調整を密に施す。外底面は縦方向のヘラミガキ調整後、環状のヘラミガキ調整を施す。搬入品である。

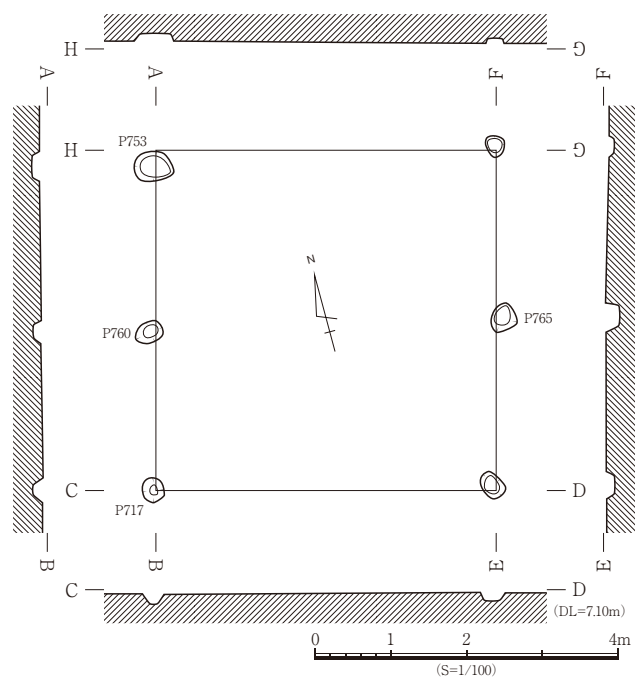


図332 3区 SB6 平面図・エレベーション図

SB3

SB3は調査区西部で検出した桁行3間(6.30m)、梁行1間(4.20m)、の

建物跡である。主軸方向はN-74°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.95～2.25m、梁行は4.20mである。柱穴は長軸53cm、短軸39cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは8～23cmである。床面積は26.4㎡である。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師器の杯(923・924)・椀(925～927)である。923はP711から出土した土師器の杯の底部である。内外面ともにヨコナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切りか。924はP711から出土した土師器の杯の底部である。内外面ともにヨコナデ調整を施す。外底面は回転糸切りである。925はP721から出土した土師器の椀の口縁部であり、内外面ともヨコナデ調整である。926はP776から出土した土師器の椀の口縁部であり、内外面ともヨコナデ調整である。927はP711から出土した土師器の椀の底部である。高台は「ハ」の字形に付され、外端部を摘み出す。畳付には沈線が巡る。内外面ともヨコナデ調整とみられ、内面は平滑に仕上げられる。また、内面には工具痕跡が認められる。浅黄色から灰白色を呈する。

SB4

SB4は調査区西部で検出した桁行3間(7.20m)、梁行2間(4.20m)の建物跡である。主軸方向はN-76°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.70～5.50m、梁行は1.95・2.25mである。柱穴は長軸46cm、短軸34cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは4～24cmである。床面積は30.2㎡である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

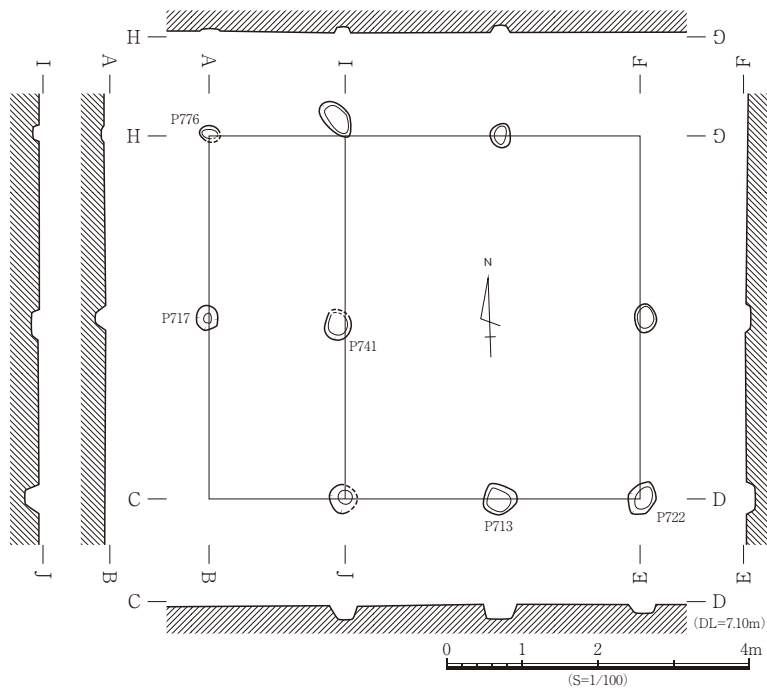


図333 3区 SB7 平面図・エレベーション図

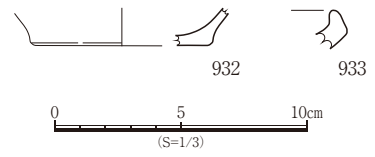


図334 3区 SB7
出土遺物実測図

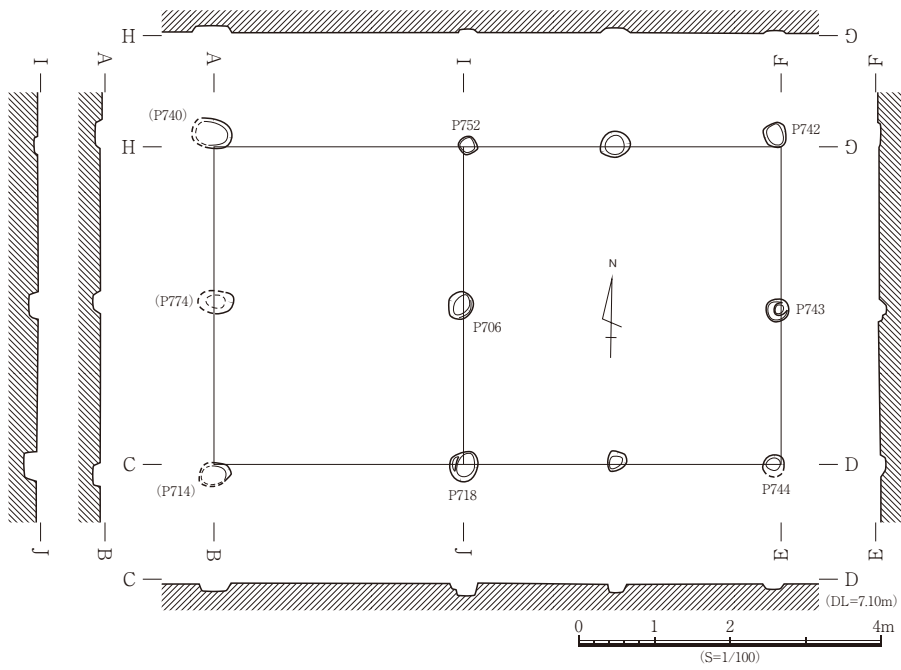


図335 3区 SB8 平面図・エレベーション図

SB5

SB5は調査区西部で検出した桁行3間(6.90m)、梁行2間(4.20m)の建物跡である。主軸方向はN-75°-Wである。柱間寸法は、桁行は2.10~4.80m、梁行は2.10mである。柱穴は長軸39cm、短軸36cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは8~18cmである。床面積は28.9㎡である。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は土師器の杯(928)、土師質土器の杯(929)、土師器の椀(930)、弥生土器の鉢(931)である。928はP724から出土した土師器の杯の底部で、底端部を突出させる。内外面ともヨコナデ調整を施し、外底面は回転ヘラ切りか。929はP720から出土した土師質土器の杯の底部である。内外面ともヨコナデ調整を施し、内底面はナデ調整で仕上げる。外底面は回転糸切りである。930はP762から出土した土師器の椀である。内面及び外面の上半部にはヨコナデ調整を施し、下半部にはヘラケズリ調整を施す。灰白色を呈する。931はP724から出土した弥生土器の鉢である。底部は片方の端部を指頭で押し潰

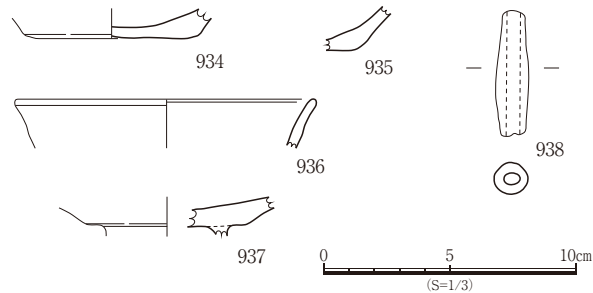


図336 3区 SB8 出土遺物実測図

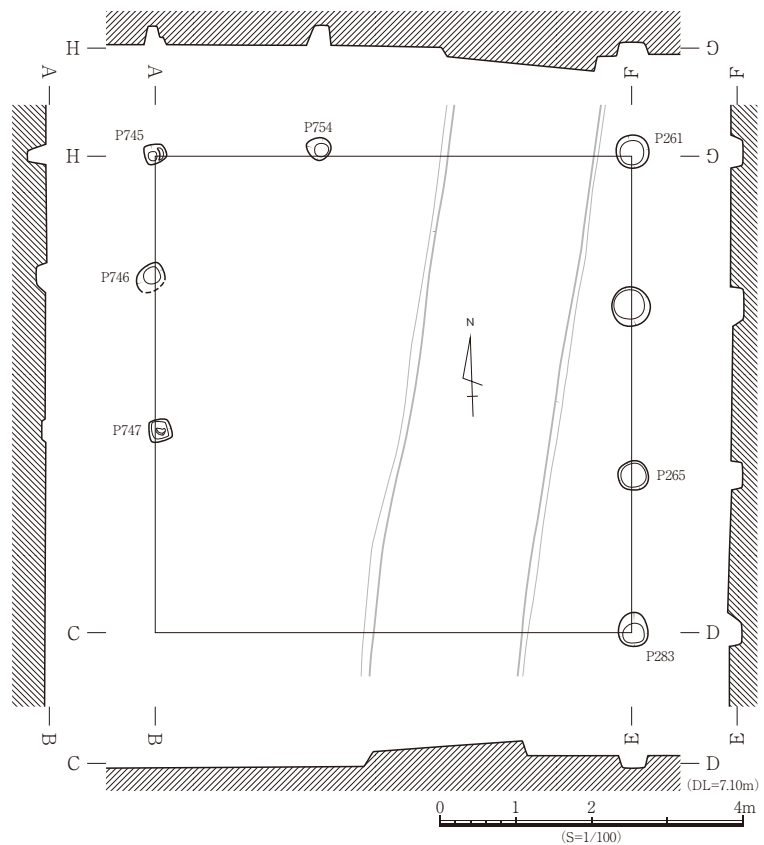


図337 3区 SB9 平面図・エレベーション図

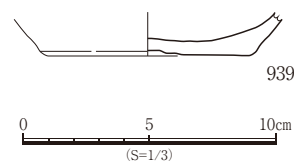


図338 3区 SB9 出土遺物実測図

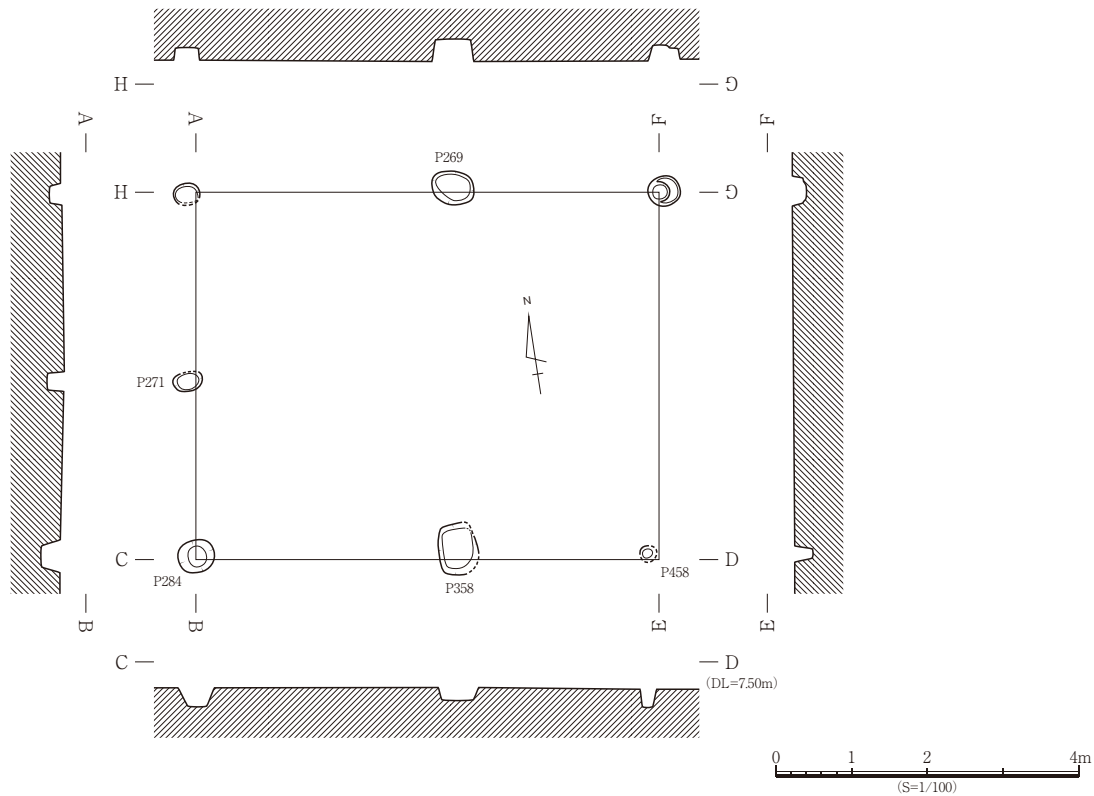


図339 3区 SB10 平面図・エレベーション図

し、ほぼ丸底とする。外面は水平方向の叩き調整後、ナデ調整を加える。外底面にも僅かに叩き目がみられる。内面はミガキ調整で平滑に仕上げるが、ミガキ調整の単位は不明瞭である。混入品である。

SB6

SB6は調査区西部で検出した桁行2間(4.50 m)、梁行1間(4.50 m)の建物跡である。主軸方向はN-15° - Eである。柱間寸法は、桁行2.10～2.40m、梁行は4.50 mである。柱穴は長軸38 cm、短軸28 cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは7～18 cmである。床面積は20.2 m²である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト・黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB7

SB7は調査区西部で検出した桁行3間(5.70 m)、梁行2間(4.80 m)の建物跡である。主軸方向はN-88° - Wである。柱間寸法は、桁行は1.80・2.10 m、梁行は2.40 mである。柱穴は長軸48 cm、短軸34 cmの円形から不整円形であり、検出面からの深さは3～19 cmである。床面積は27.3 m²である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師器の杯(932)・甕(933)である。

932はP713から出土した杯である。内外面ともにヨコナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、

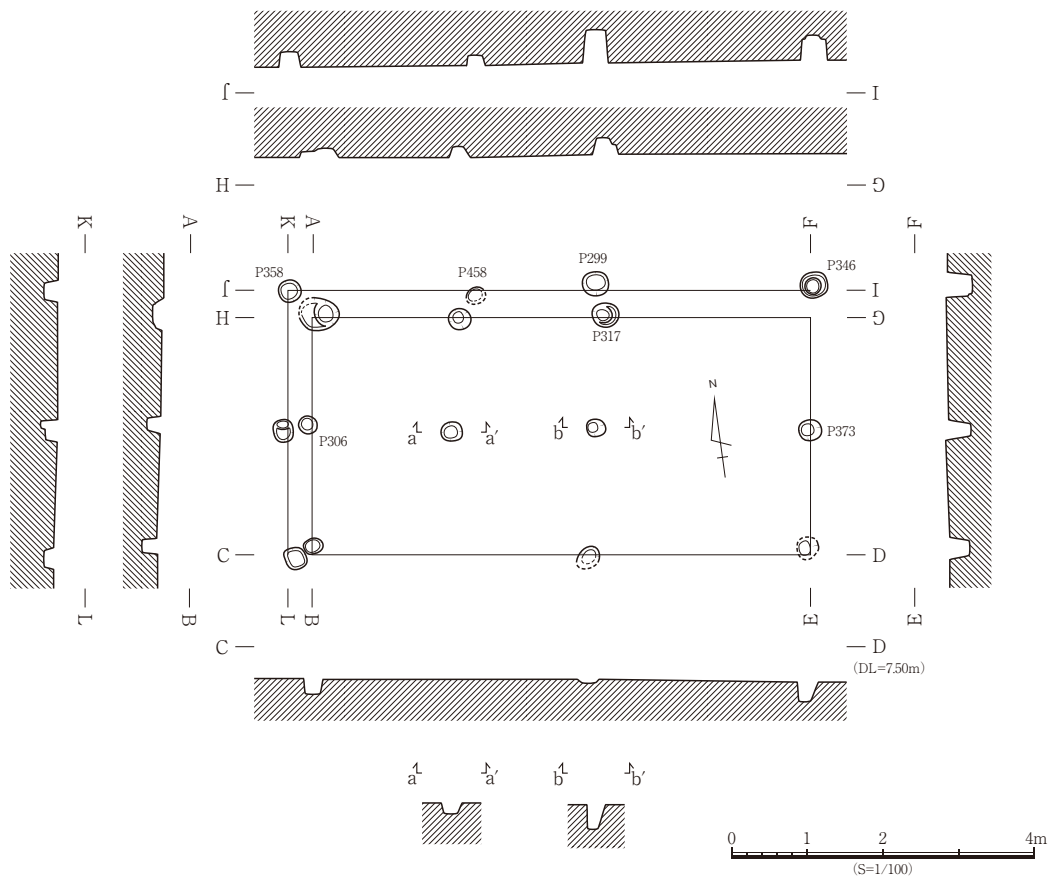


図340 3区 SB11 平面図・エレベーション図

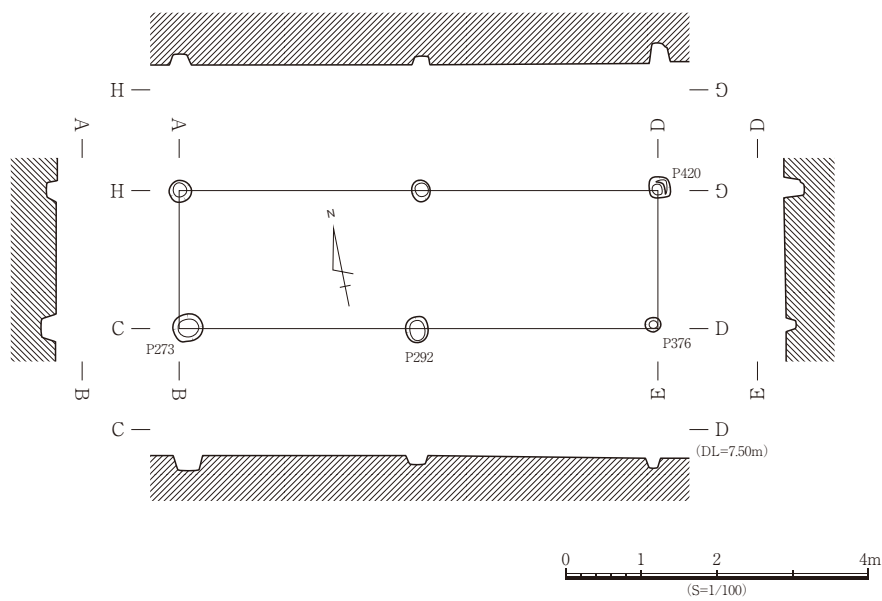


図341 3区 SB12 平面図・エレベーション図

ナデ調整を施す。933はP713から出土した甕である。口縁部は上方へ拡張し、端部はヨコナデ調整により丸くおさめる。口縁部は内外面ともヨコハケ調整を施す。

SB8

SB8は調査区西部で検出した桁行3間(7.50 m)、梁行2間(4.20 m)の建物跡である。主軸方向はN-89° - Eである。柱間寸法は、桁行は2.00 ~ 3.30 m、梁行は2.10 mである。床面積は31.5㎡である。柱穴は長軸42cm、短軸38cmの円形から不整形円形であり、検出面からの深さは3 ~ 22cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師器の杯(934・935)・椀(936)・脚付皿(937)、土錘(938)である。934はP743から出土した土師器の杯である。内外面ともヨコナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り?後、ナデ調整を施す。935はP718から出土した土師器の杯である。内外面ともヨコナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後、ナデ調整を施す。936はP706から出土した土師器の椀である。内外面ともヨコナデ調整を施す。浅黄橙色を呈する。937はP714から出土した土師器の脚付皿である。外底面は平坦で高台は底端部からやや内側に付す。脚は欠損するものの断面形は台形を呈していたものと推測される。外面はヨコナデ調整を施し、内面は摩耗により調整不明である。被熱変色する。938はP706から出土した管状土錘である。中央部が僅かに膨らむ。ナデ調整で仕上げる。楕円形の孔を長軸方向に貫通させる。一部、欠損か。残存重量は6.92gを測る。

SB9

SB9は調査区西部と中央部にわたって検出した桁行3間(6.30 m)、梁行3間(6.30 m)の建物跡である。主軸方向はN-2° -Eである。柱間寸法は、桁行は2.20・4.10 m、梁行は1.55 ~ 2.65 mである。柱穴は円形から不整形円形であり、検出面からの深さは4 ~ 26cmである。床面積は39.6㎡である。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。

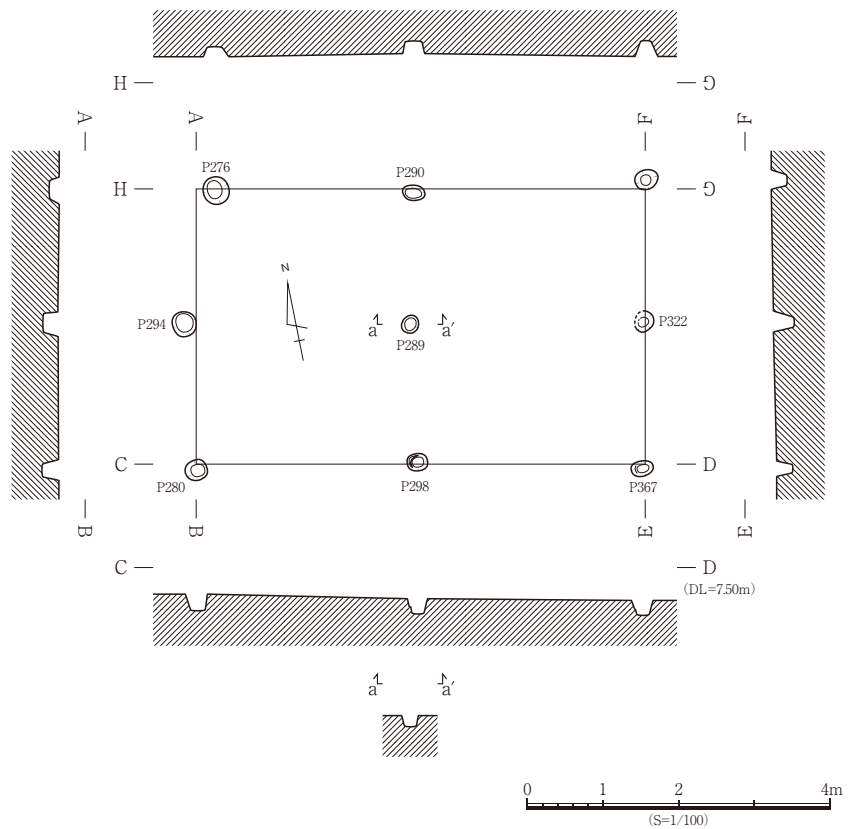


図342 3区 SB13 平面図・エレベーション図

図示した出土遺物は、土師質土器の杯(939)である。P283から出土した。内外面とも回転ナデ調整を施し、内底面は回転成形により僅かに凹状を成す。精選された胎土である。

SB10

SB10は調査区中央部で検出した桁行2間(6.12m)、梁行2間(4.85m)、の東西棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-81°-Wである。柱間寸法は、桁行は2.60・3.60m、梁行は2.35～4.80mである。柱穴は円形から不整円形であり、検出面からの深さは16～29cmである。床面積は29.6㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB11

SB11は調査区中央部で検出した桁行3間(6.59m)、梁行2間(3.13m)の東西棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-82°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.75～3.70m、梁行は1.55～1.60mである。柱穴は円形から不整円形であり、検出面からの深さは5～44cmである。床面積は20.6㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB12

SB12は調査区中央部で検出した、桁行2間(6.33m)、梁行1間(1.80m)の東西棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-78°-Wである。柱間寸法は、桁行は3.05～3.20m、梁行は1.75・1.80mである。柱穴は円形から不整円形であり、検出面からの深さは11～24cmである。床面積は11.5㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB13

SB13は調査区中央部で検出した桁行2間(5.93m)、梁行2間(3.63m)の東西棟の掘立柱建物跡であ

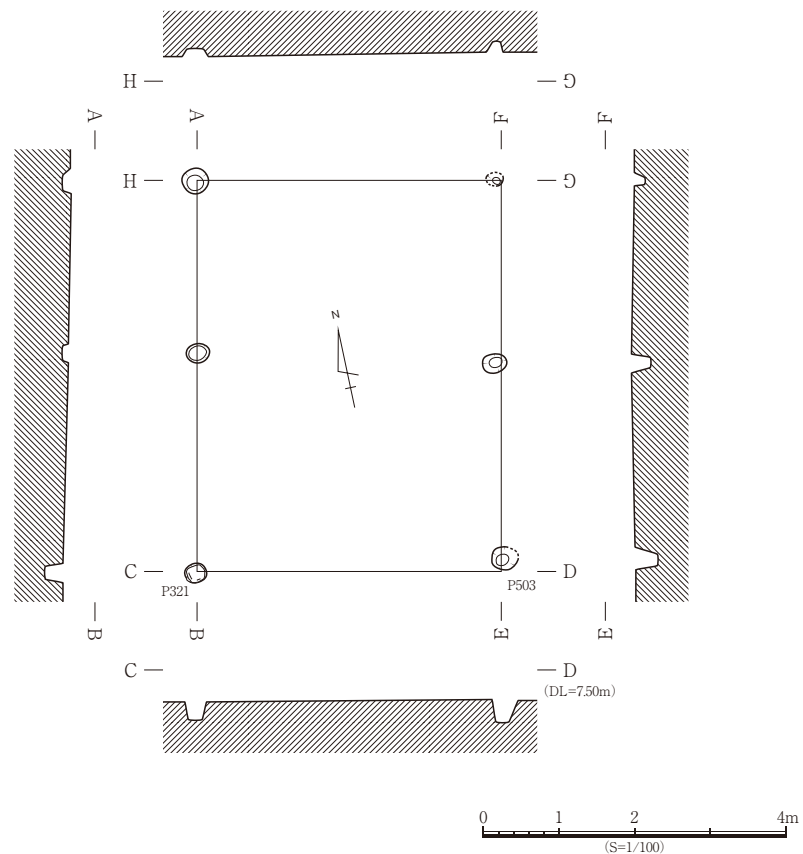


図343 3区 SB14 平面図・エレベーション図

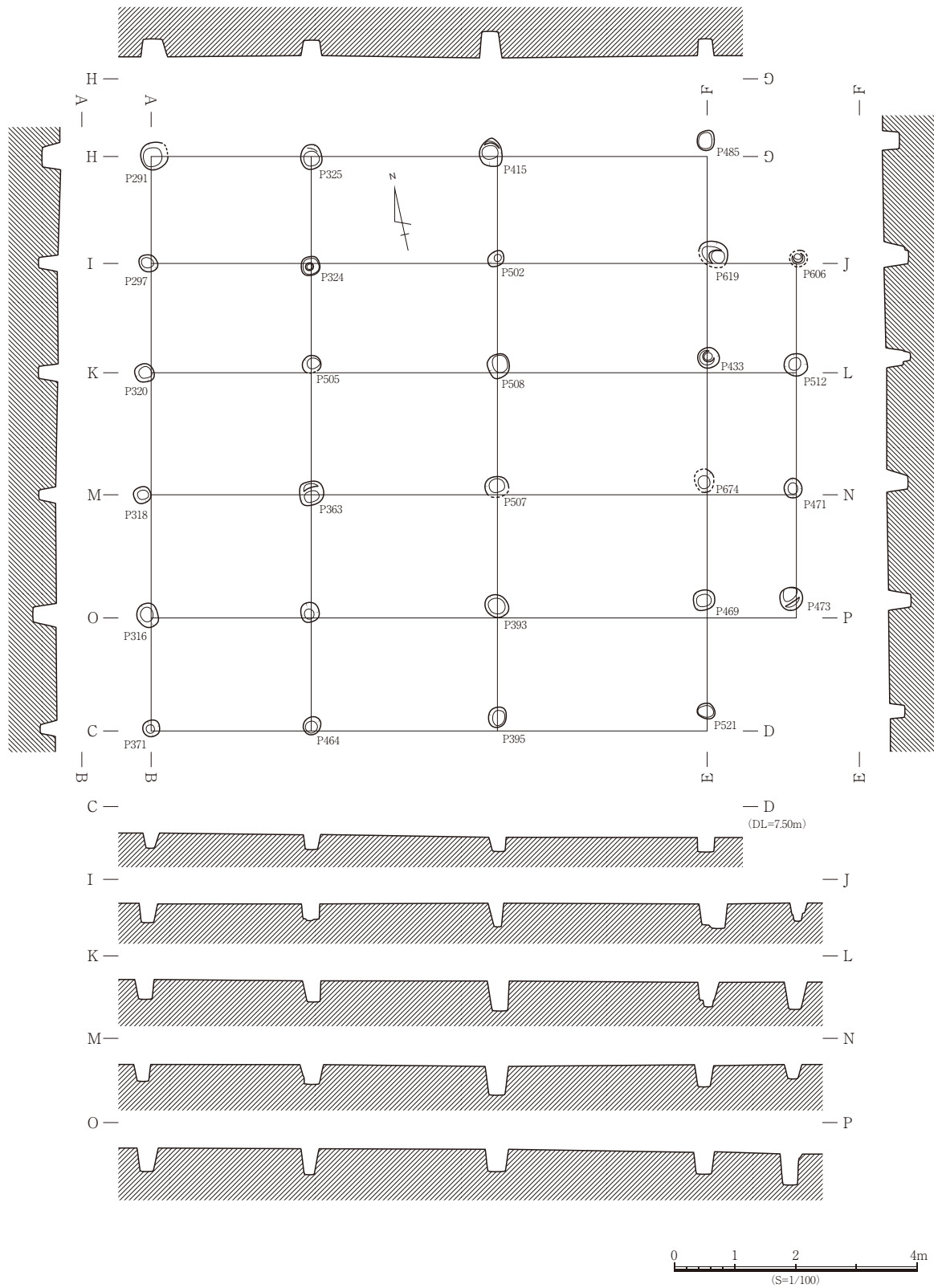


図344 3区 SB15 平面図・エレベーション図

る。主軸方向はN-78°-Wである。柱間寸法は、桁行は2.60～3.05m，梁行は1.75～1.95mである。柱穴は円形から不整形円形であり，検出面からの深さは13～27cmである。床面積は21.5㎡である。

図示した出土遺物はない。

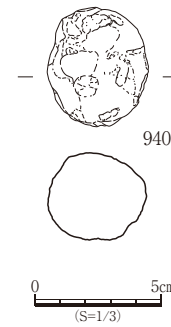


図345 3区 SB15 出土遺物実測図

SB14

SB14は調査区中央部で検出した桁行2間(5.17m)，梁行1間(4.02m)の南北棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-12°-Eである。柱間寸法は，桁行は2.60～2.90m，梁行は4.02mである。柱穴は円形から不整形円形であり，検出面からの深さは8～29cmである。床面積は20.7㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB15

SB15は調査区中央部で検出した桁行4間(10.62m)，梁行5間(9.46m)の東西棟の掘立柱建物跡であ

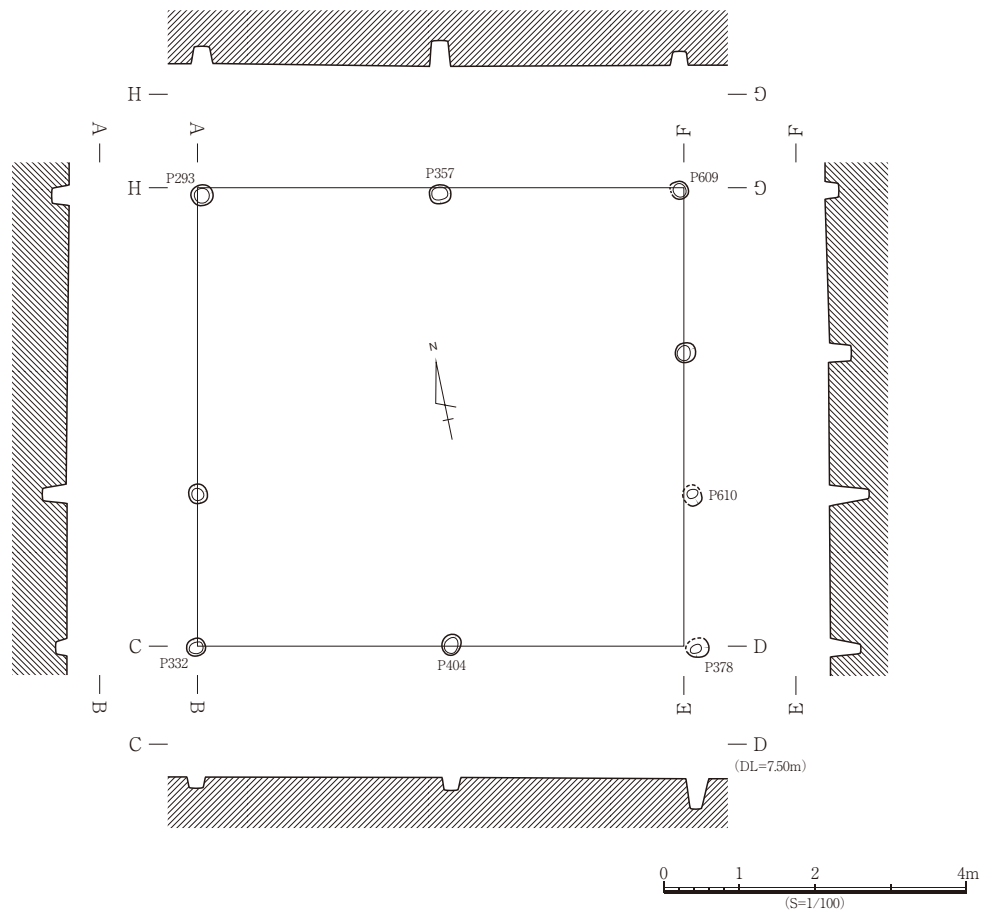


図346 3区 SB16 平面図・エレベーション図

る。主軸方向はN-77° -Wである。柱間寸法は、桁行は1.60～2.00m，梁行は2.65～3.40mである。柱穴は円形から不整形円形であり，検出面からの深さは23～51 cmである。床面積は100.4㎡である。

図示した出土遺物は，砂岩製の投弾(940)である。P521 から出土した。僅かに楕円形状を呈する。敲打による加工痕が認められる。完形である。

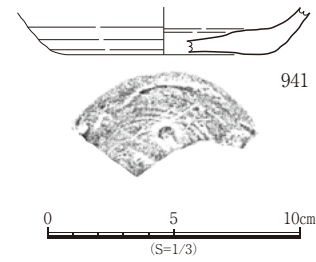


図347 3区 SB16 出土遺物実測図

SB16

SB16は調査区中央部で検出した桁行2間(6.43m)，梁行3間(6.06m)の東西棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-78° -Wである。柱間寸法は，桁行は3.15～3.35m，梁行は1.85～4.00mである。柱穴は円形から不整形円形であり，検出面からの深さは14～52cmである。床面積は38.9㎡である。

図示した出土遺物は，土師質土器の杯(941)である。P378 から出土した。内外面とも回転ナデ調整を施し，内底面は回転成形により凹状を成す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。精選された胎土である。

SB17

SB17は調査区中央部で検出した桁行2間(6.93m)，梁行2間(4.53m)の東西棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-80° -Wである。柱間寸法は，桁行は3.25～3.70m，梁行は2.25～4.53mである。柱穴は

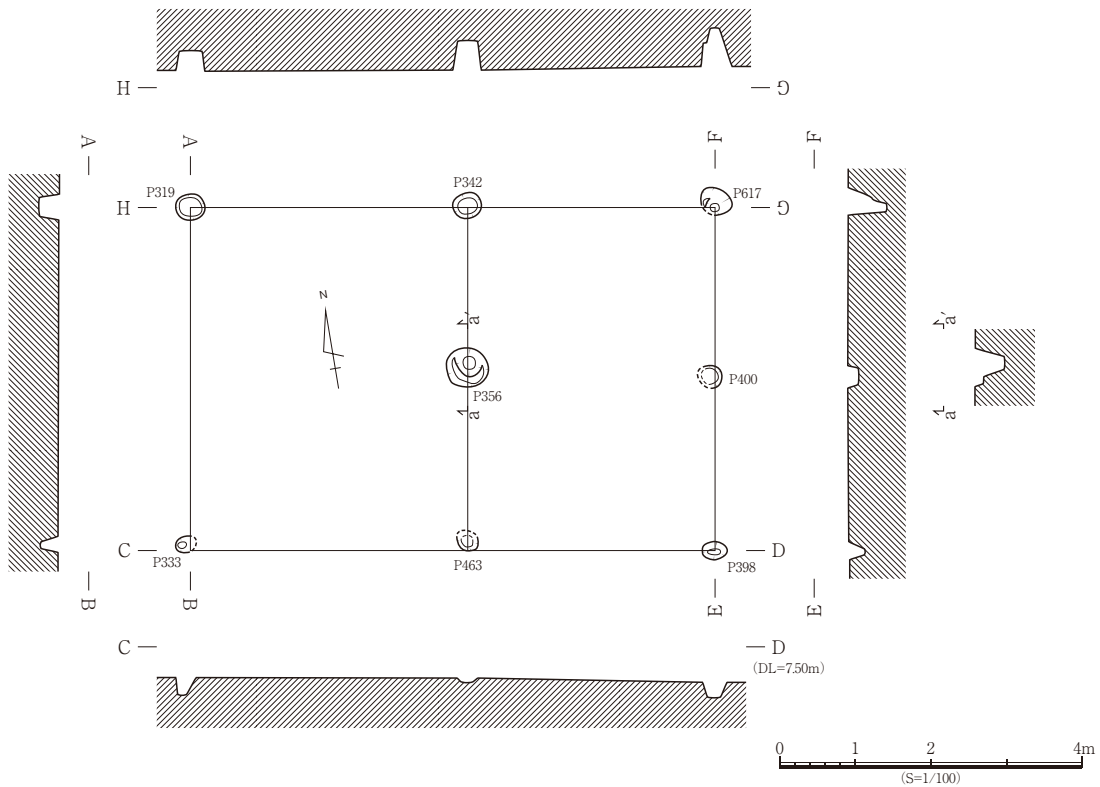


図348 3区 SB17 平面図・エレベーション図

円形から不整形円形であり、検出面からの深さは6～51cmである。床面積は31.3㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB18

SB18は調査区中央部で検出した桁行3間(7.27m)、梁行2間(3.98m)の東西棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-78°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.90～4.00m、梁行は1.80・2.15mである。柱穴は円形から不整形円形であり、検出面からの深さは7～38cmである。床面積は28.9㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB19

SB19は調査区中央部で検出した桁行3間(4.80m)、梁行2間(2.46m)の東西棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-83°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.25～1.95m、梁行は0.80～2.46mである。柱穴は円形から不整形円形であり、検出面からの深さは13～39cmである。床面積は11.8㎡である。

図示した出土遺物はない。

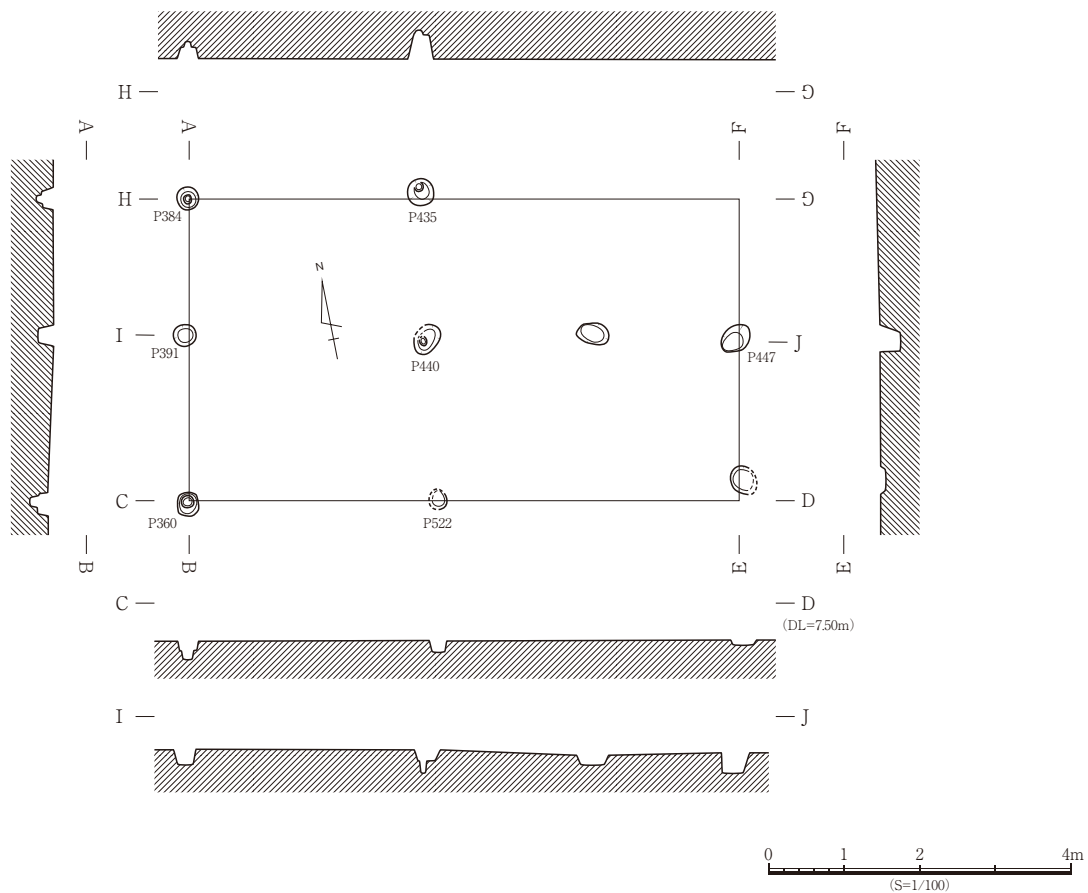


図349 3区 SB18 平面図・エレベーション図

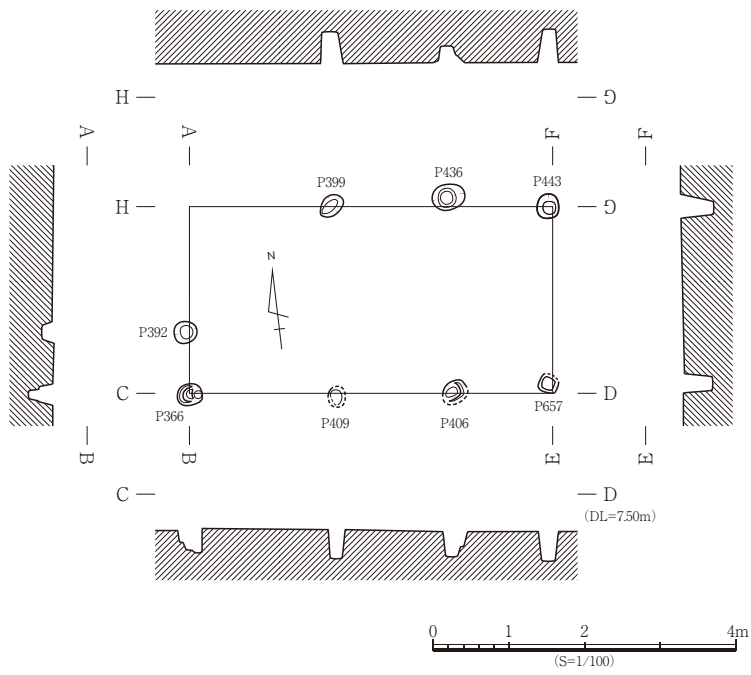


図350 3区 SB19 平面図・エレベーション図

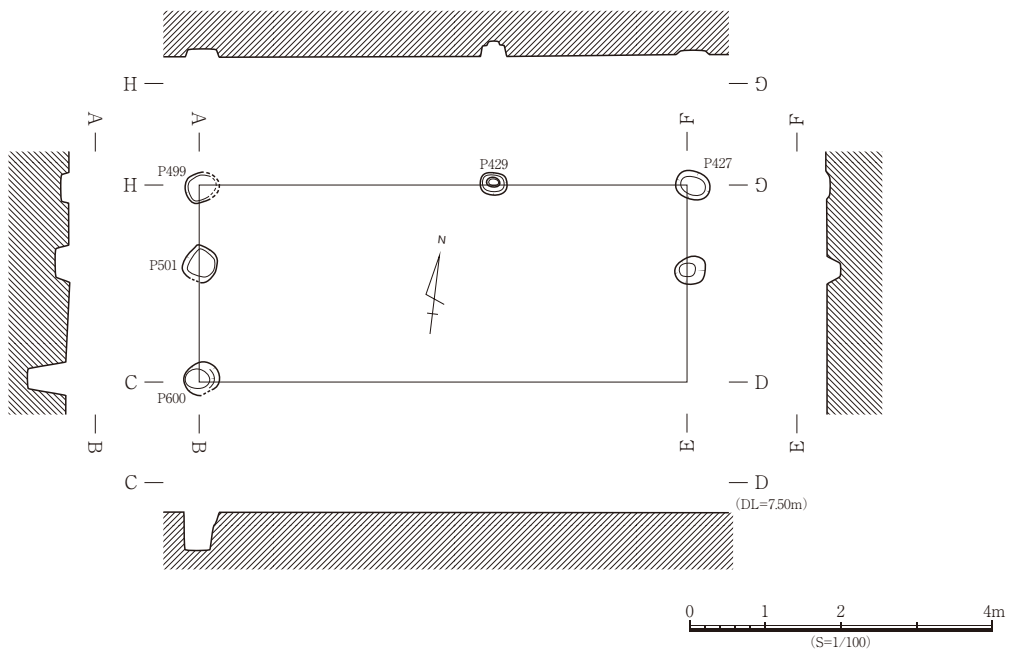


図351 3区 SB20 平面図・エレベーション図

SB20

SB20は調査区中央部で検出した桁行2間(6.45m), 梁行2間(2.60m)の東西棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-83° -Eである。柱間寸法は, 桁行は2.65・3.90m, 梁行は1.00~1.60mである。柱穴は円形から不整円形であり, 検出面からの深さは5~50cmである。床面積は16.7㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB21

SB21は調査区中央部で検出した桁行3間(6.42m), 梁行2間(4.67m)の南北棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-6° -Wである。柱間寸法は, 桁行は1.80~4.60m, 梁行は1.95~4.67mである。柱穴は円形から不整円形であり, 検出面からの深さは15~57cmである。床面積は29.9㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB22

SB22は調査区中央部で検出した桁行3間(5.55m), 梁行2間(4.09m)の南北棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-12° -Eである。

柱間寸法は, 桁行は1.75~2.10m, 梁行は1.95・2.15mである。柱穴は円形から不整円形であり, 検出面からの深さは14~32cmである。床面積は22.6㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB23

SB23は調査区中央部で検出した桁行3間(6.16m), 梁行1間(3.51m)の南北棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-14° -Eである。柱間寸法は, 桁行は1.45~1.90m, 梁行は3.51mである。柱穴は円形から不整円形であり, 検出面からの深さは10~30cmである。床面積は21.6㎡である。

図示した出土遺物はない。

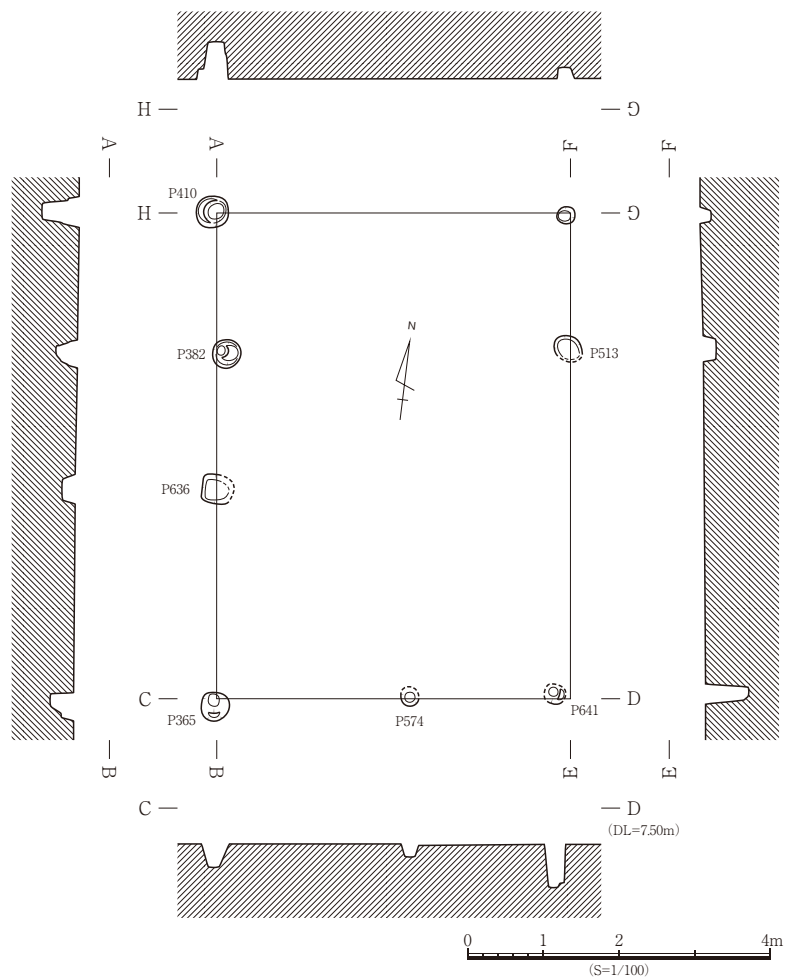


図352 3区 SB21 平面図・エレベーション図

SB24

SB24 は調査区中央部で検出した桁行 2 間(4.11m), 梁行 1 間(2.93m)の南北棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-13° -E である。柱間寸法は, 桁行は 2.00・2.10m, 梁行は 2.93m である。柱穴は円形から不整形円形であり, 検出面からの深さは 16~44 cm である。床面積は 12.0 m² である。

図示した出土遺物はない。

SB25

SB25 は調査区中央部で検出した桁行 2 間(3.73m), 梁行 1 間(2.80m)の南北棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-11° -E である。柱間寸法は, 桁行は 1.60~2.15m, 梁行は 2.80m である。柱穴は円形から不整形円形であり, 検出面からの深さは 5~39cm である。床面積は 10.4m² である。

図示した出土遺物はない。

SB26

SB26 は調査区東部で検出した桁行 2 間(5.61m), 梁行 1 間(3.73m)の東西棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-76° -W である。柱間寸法は, 桁行は 2.70~2.90m, 梁行は 3.73m である。柱穴は円形から不整形円形であり, 検出面からの深さは 7~29cm である。床面積は 20.9m² である。

図示した出土遺物はない。

SB27

SB27 は調査区東部で検出した桁行 2 間(7.62m), 梁行 1 間(2.72m)の東西棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-79° -W である。柱間寸法は, 桁行は 3.45~4.05m, 梁行は 2.72m である。柱穴は円形から不整形円形であり, 検出面からの深さは 14~39cm である。床面積は 20.7m² である。

図示した出土遺物はない。

SB28

SB28 は調査区東部で検出した桁行 4 間(8.06m), 梁行 2 間(3.17m)の東西棟の掘立柱建物跡である。

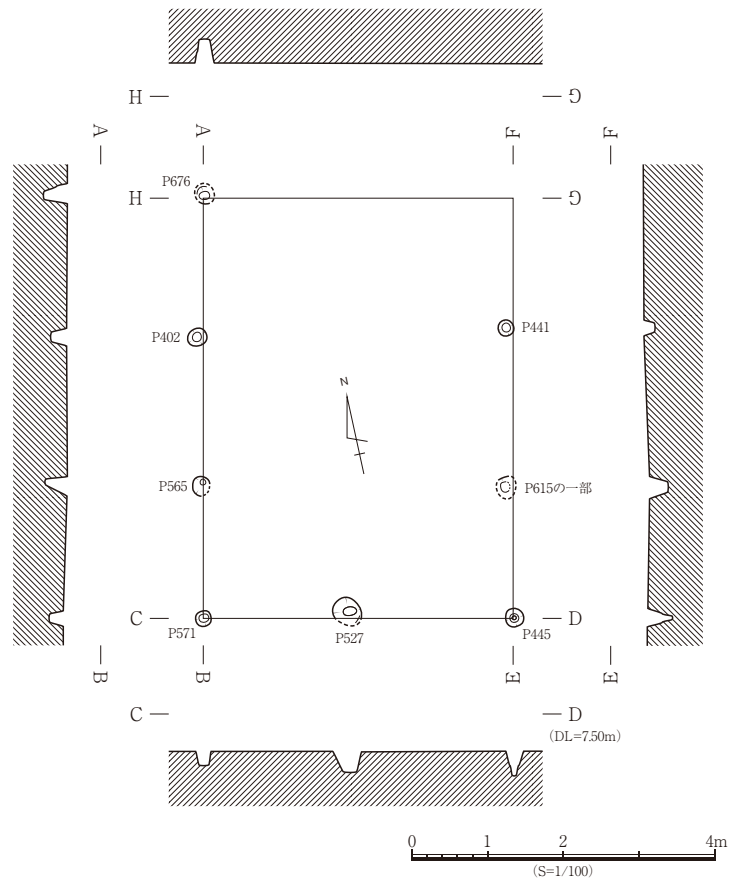


図353 3区 SB22 平面図・エレベーション図

主軸方向はN-75°-Wである。柱間寸法は、桁行は1.55～6.50m，梁行は1.60・1.75mである。柱穴は円形から不整形円形であり，検出面からの深さは4～44cmである。床面積は25.5㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB29

SB29は調査区東部で検出した桁行5間(9.88m)，梁行2間(4.39m)の東西棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-75°-Wである。柱間寸法は，桁行は1.75～2.30m，梁行は2.15～2.25mである。柱穴は円形から不整形円形であり，検出面からの深さは11～49cmである。床面積は43.3㎡である。

図示した出土遺物は，土師質土器の皿(942～944)である。942はP654から出土した。体部は短く斜めにひらき，口縁端部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底

面には回転ヘラ切り痕跡がみられる。口縁部の一部分が黒色を呈しており，灯明皿の可能性もある。943はP179から出土した。体部は斜めにひらき，口縁端部は丸くおさめる。回転ナデ調整で仕上げ，内底面は横方向のナデ調整を加える。外底面に板状の圧痕，回転糸切り痕跡がみられる。精選された胎土である。完形である。944はP497から出土した。体部は浅く，口縁部は稜を成して短く上方へ立ち上がる。内外面とも粗い回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。

SB30

SB30は調査区東部で検出した桁行3間(6.16m)，梁行1間(3.79m)の東西棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-77°-Wである。柱間寸法は，桁行は1.55～2.40m，梁行は3.79mである。柱穴は円形から不整形円形であり，検出面からの深さは9～36cmである。床面積は23.3㎡である。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(945)である。P660から出土した。内底面の回転成形痕をハケ状原体によりナデ消す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。精選された胎土である。

SB31

SB31は調査区東部で検出した桁行4間(7.51m)，梁行2間(3.91m)の東西棟の掘立柱建物跡である。

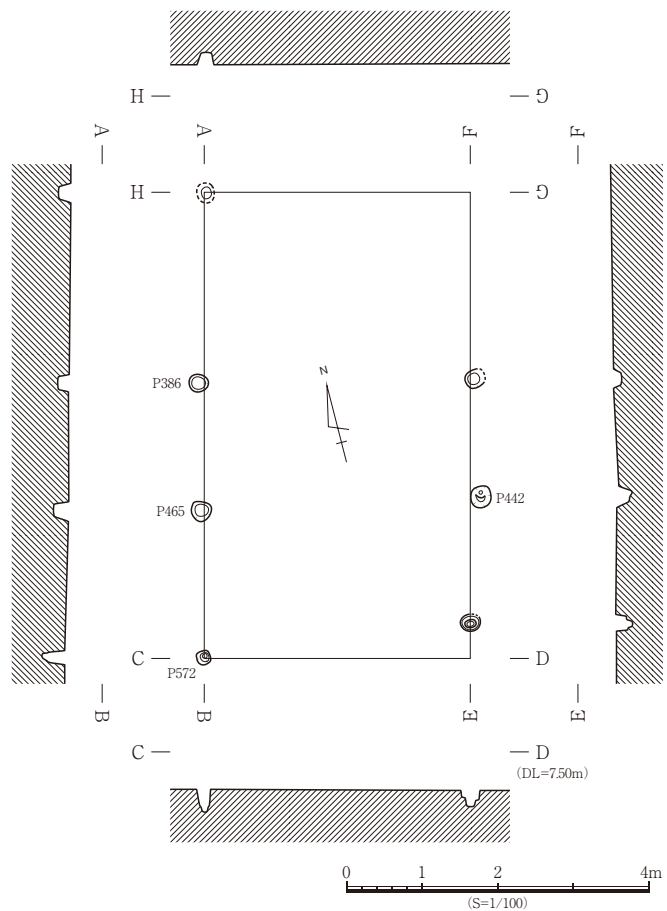


図354 3区 SB23 平面図・エレベーション図

主軸方向はN-12° -Eである。柱間寸法は、桁行は1.70～2.15m，梁行は1.85～3.91mである。柱穴は円形から不整形円形であり，検出面からの深さは11～30cmである。床面積は29.3㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB32

SB32は調査区東部で検出した桁行2間(5.83m)，梁行2間(5.39m)の南北棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-0°である。柱間寸法は、桁行は2.70～5.83m，梁行は2.25～5.39mである。柱穴は円形から不整形円形であり，検出面からの深さは6～68cmである。床面積は31.4㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB33

SB33は調査区東部で検出した桁行2間(7.49m)，梁行1間(3.63m)の東西棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-88° -Wである。柱間寸法は、桁行は2.55～4.95m，梁行は3.63mである。柱穴は円形から不整形円形であり，検出面からの深さは9～24cmである。床面積は27.1㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB34

SB34は調査区東部で検出した桁行2間(4.85m)，梁行2間(3.18m)の東西棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN-83° -Wである。柱間寸法は、桁行は1.95～2.95m，梁行は1.40～3.18mである。柱穴は円形から不整形円形であり，検出面からの深さは46～58cmである。床面積は15.4㎡である。

図示した出土遺物はない。

SB35

SB35は調査区東部で検出した掘立柱建物跡である。桁行2間(2.74m)以上を確認している。梁行2間(3.17m)と推測される。主軸方向はN-88° -Eである。柱間寸法は、桁行は1.45m，梁行は1.60mである。柱穴は円形から不整形円形であり，検出面からの深さは21～48cmである。

図示した出土遺物はない。

3.SA

SA1 (付図9)

SA1は調査区の北端部中央寄りで検出した東西方向の柵である。主軸方向はN-77° -Wであり，約25.6mにわたり検出した。P14・424・588・603他11基のピットで構成されている。柱間寸法は1.95～3.60mとばらつきがみられる。

図示した出土遺物はない。

SA2 (付図9)

SA2は調査区の東部で検出した東西方向の柵である。主軸方向はN-77° -Wであり，約15.2mにわたり検出した。P49・137・562・629・632他7基のピットで構成されている。柱間寸法は約1.75～4.05m

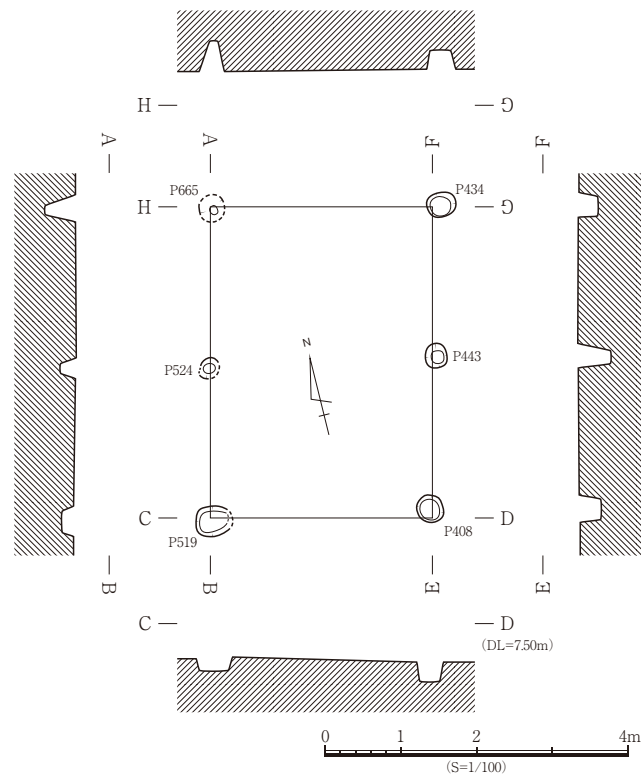


図355 3区 SB24 平面図・エレベーション図

とばらつきがみられる。

図示した出土遺物はない。

SA3 (付図9)

SA3は調査区の東部で検出した東西方向の柵である。主軸方向はN-77°-Wであり、約12.8mにわたり検出した。P71・93・544・608他7基のピットで構成されている。柱間寸法は約1.30～3.45mとばらつきがみられる。

図示した出土遺物は土師器の椀(946)である。P71から出土した。口縁部は短く外反し、端部は僅かに肥厚する。回転ヘラケズリ調整を施す。内底面にロクロ目痕が認められる。円盤状の高台を有し、底部には回転糸切り痕跡がみられる。胎土に雲母片等の細粒砂を含む。内面に煤が付着する。

SA4 (付図9)

SA4は調査区の北東部で検出した東西方向の柵である。主軸方向はN-75°-Wであり、約6.3mにわたり検出した。P29・30・42・83他7基のピットで構成されている。柱間寸法は約2.00・2.30mとばらつきがみられる。

図示した出土遺物はない。

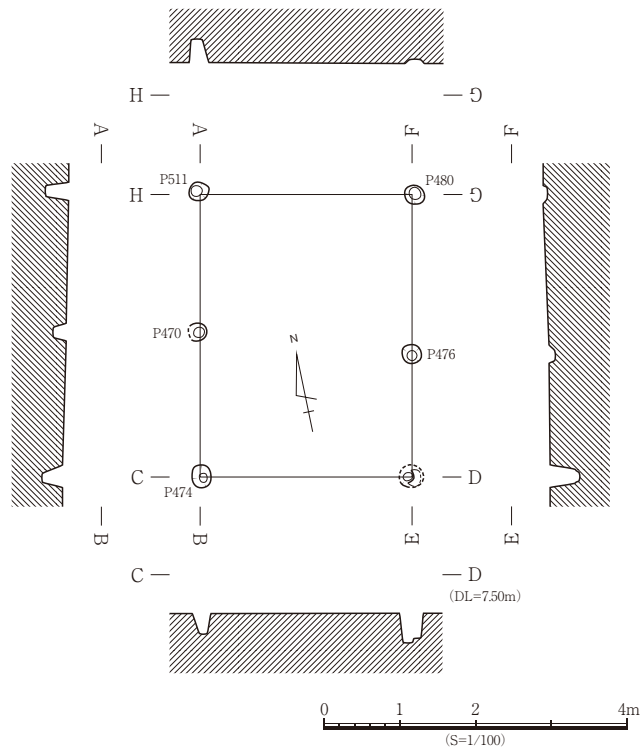


図356 3区 SB25 平面図・エレベーション図

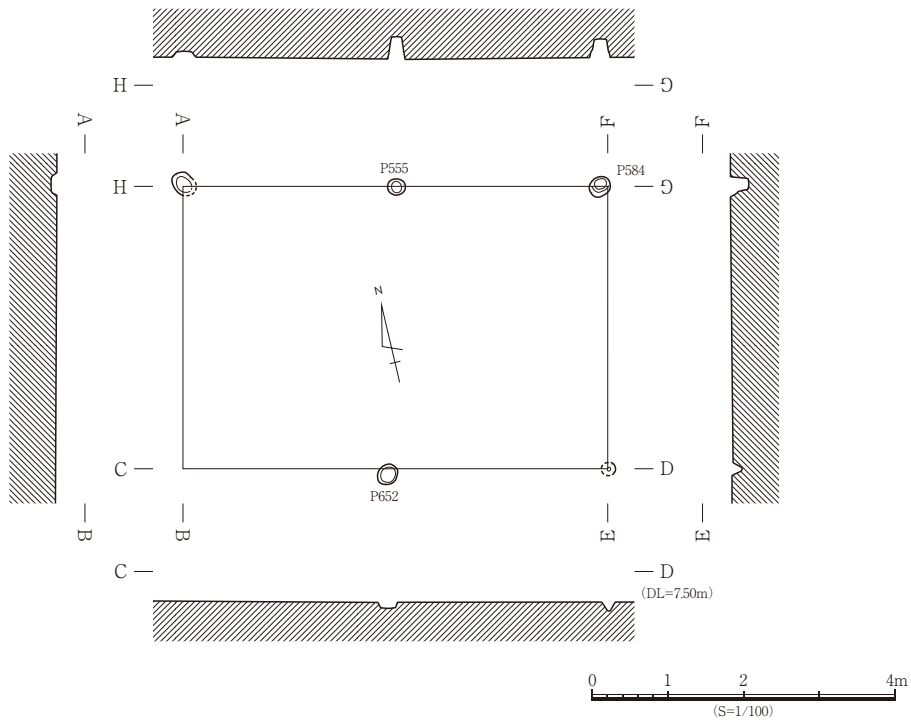


図357 3区 SB26 平面図・エレベーション図

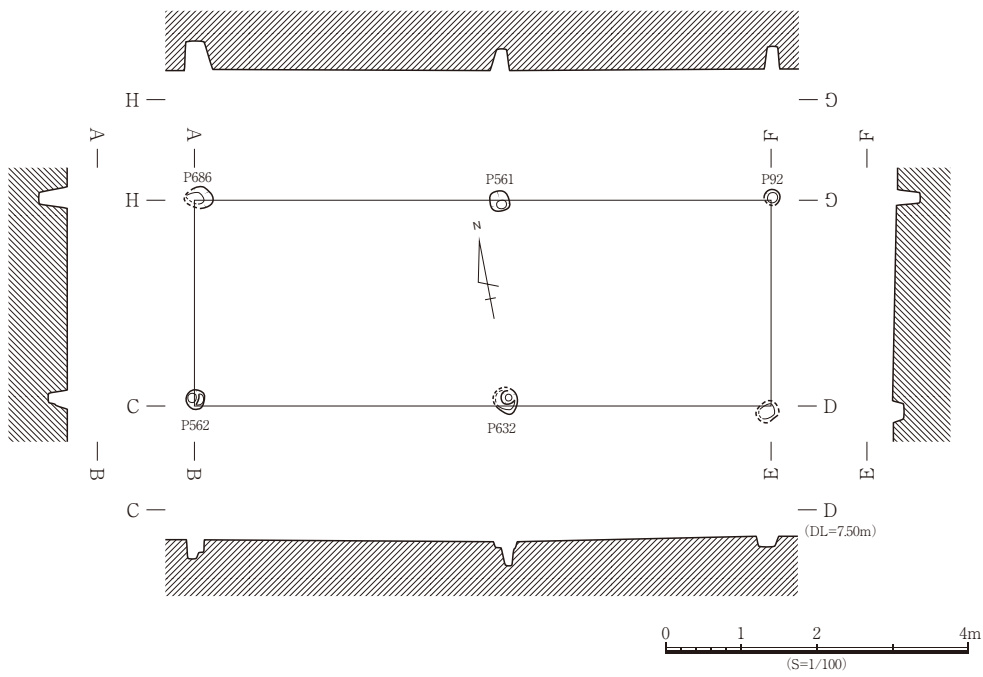


図358 3区 SB27 平面図・エレベーション図

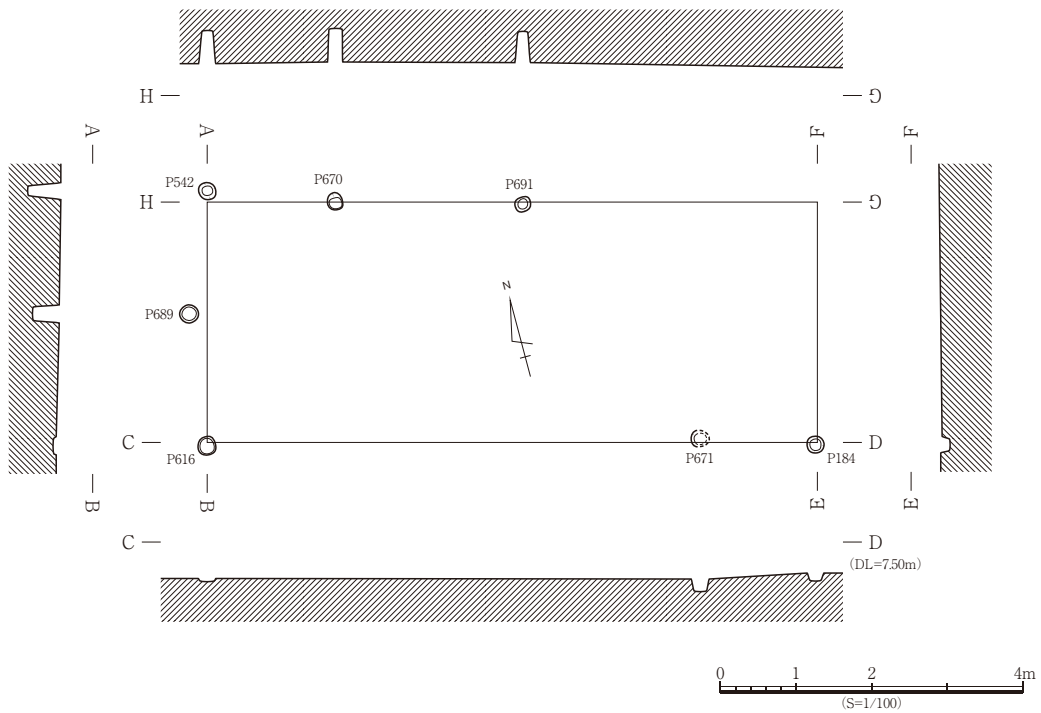


図359 3区 SB28 平面図・エレベーション図

4.SK

SK1

SK1は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.00m、短軸0.82mを測り、検出面からの深さは22.0cmである。主軸方向はN-8°-Wである。

図示した出土遺物は、土師質土器の皿(947)・杯(948・949)である。

947は皿である。体部は斜め上方へ歪みを持って立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。内外面と

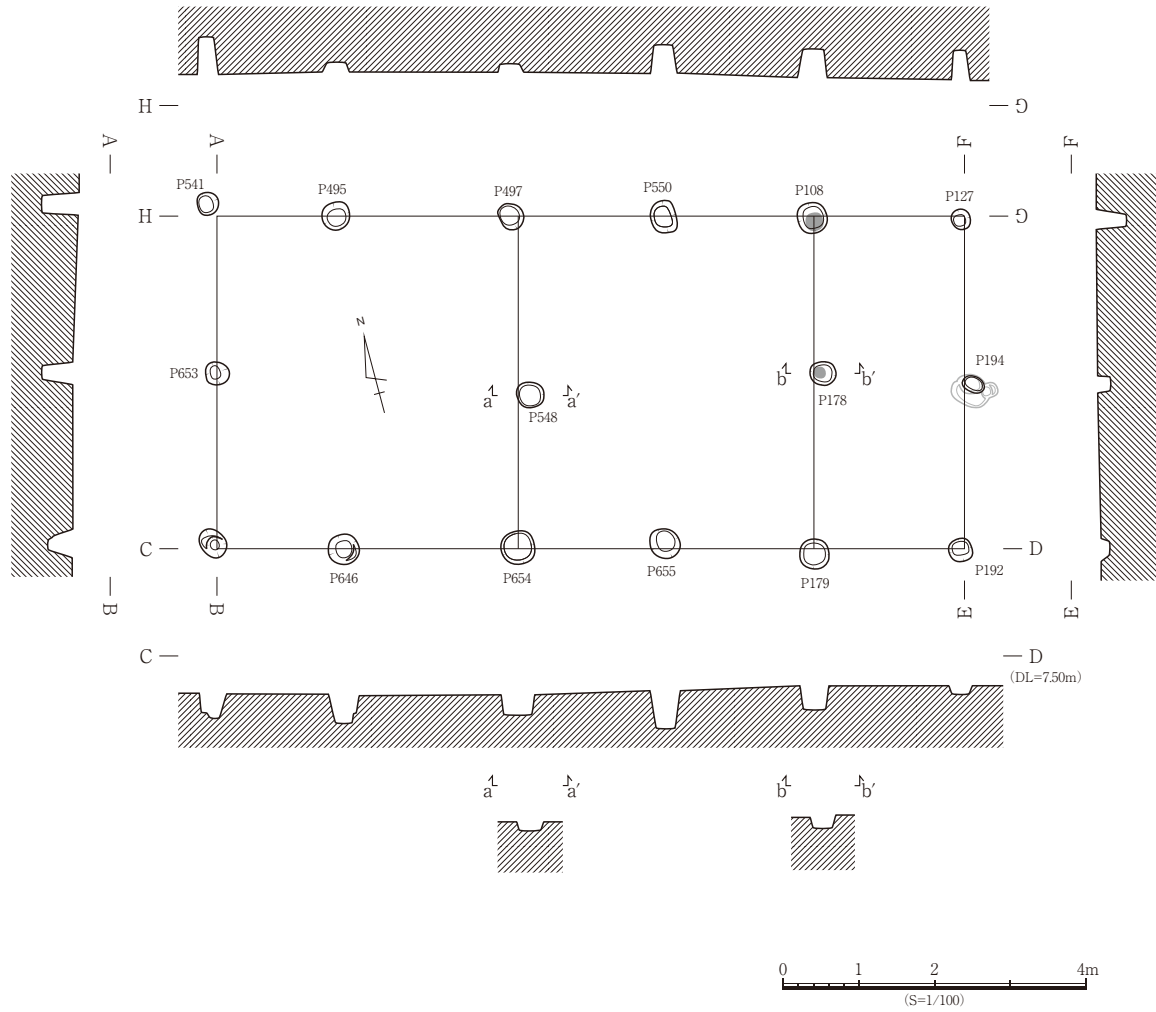


図360 3区 SB29 平面図・エレベーション図



図361 3区 SB29 出土遺物実測図

も回転ナデ調整を施す。内底中央は回転成形により凹状を成す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。精選された胎土である。ほぼ完形である。948は杯である。体部は逆梯形状に立ち上がり、口縁端部は丸状に面を取る。内底中央は回転成形により凹状を成す。内外面とも回転ナデ調整を施し、外面にはロクロ目痕がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。精選された胎土である。949は杯である。体部は逆梯形状に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施し、外面にはロクロ目痕がみられる。内底中央は回転成形により凹状を成す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。精選された胎土である。ほぼ完形である。

SK2

SK2は平面形が楕円形の土坑である。長軸 1.10m，短軸 0.95mを測り，検出面からの深さは 10.2cmである。主軸方向はN-35° -Wである。

図示した出土遺物はない。

SK3

SK3は平面形が方形の土坑である。長軸 1.00m，短軸 0.95mを測り，検出面からの深さは 18.7cmである。主軸方向はN-14° -Eである。

図示した出土遺物はない。

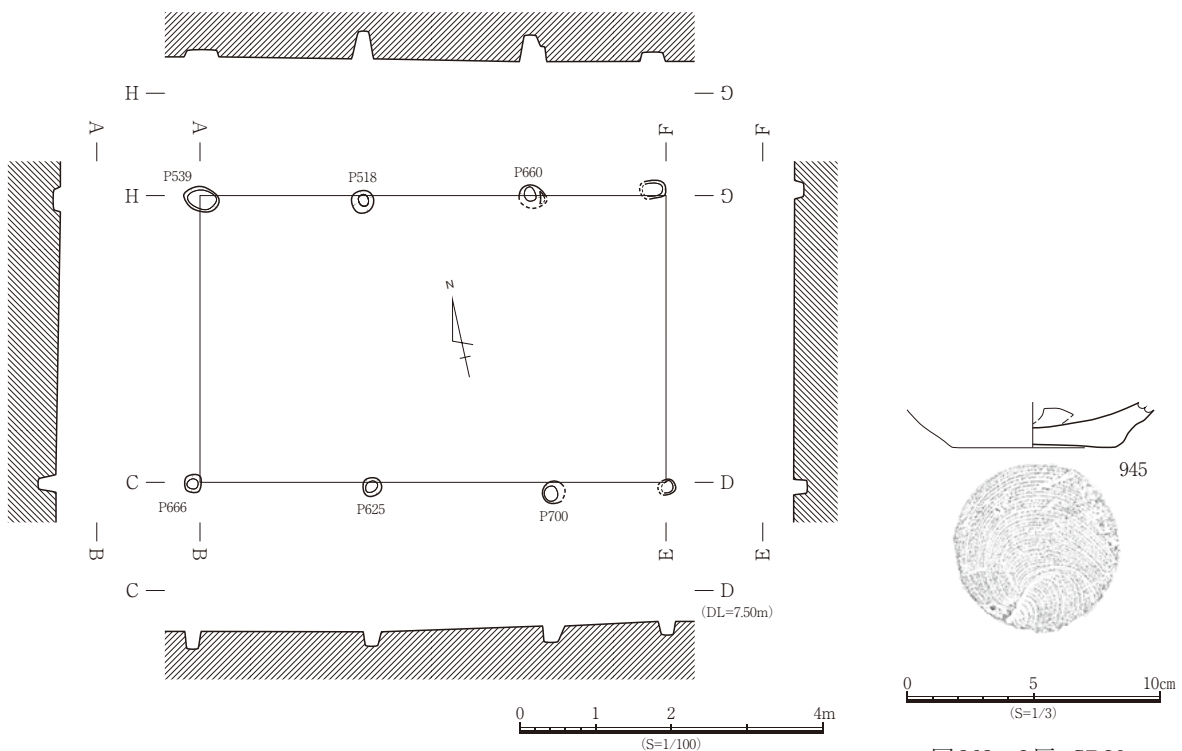


図362 3区 SB30 平面図・エレベーション図

図363 3区 SB30
出土遺物実測図

SK4

SK4は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.28m，短軸0.96mを測り，検出面からの深さは9.6cmである。主軸方向はN-20°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK5

SK5は平面形が楕円形の土坑である。長軸1.25m，短軸0.97mを測り，検出面からの深さは17.0cmである。主軸方向はN-68°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK7

SK7は平面形が方形の土坑である。長軸2.35m，短軸1.30mを測り，検出面からの深さは13.5cmである。主軸方向はN-10°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK8

SK8は平面形が不整形の土坑である。長軸1.73m，短軸1.65mを測り，検出面からの深さは8.7cmである。主軸方向はN-23°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK13

SK13は平面形が不整形の土坑である。長軸2.35m，短軸1.45mを測り，検出面からの深さは23.9cmである。主軸方向はN-18°-Eである。

図示した出土遺物は土師器の杯(950)である。体部は緩やかに立ち上がり，口縁部は僅かに外反して端部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施す。内底中央は回転成形により凹状を成す。外底面に糸切り状痕跡が認められる。精選された胎土である。内面に煤が付着する。

SK15

SK15は平面形が隅丸方形の土坑である。長軸0.88m，短軸0.85mを測り，検出面からの深さは15.3cmである。主軸方向はN-26°-Eである。

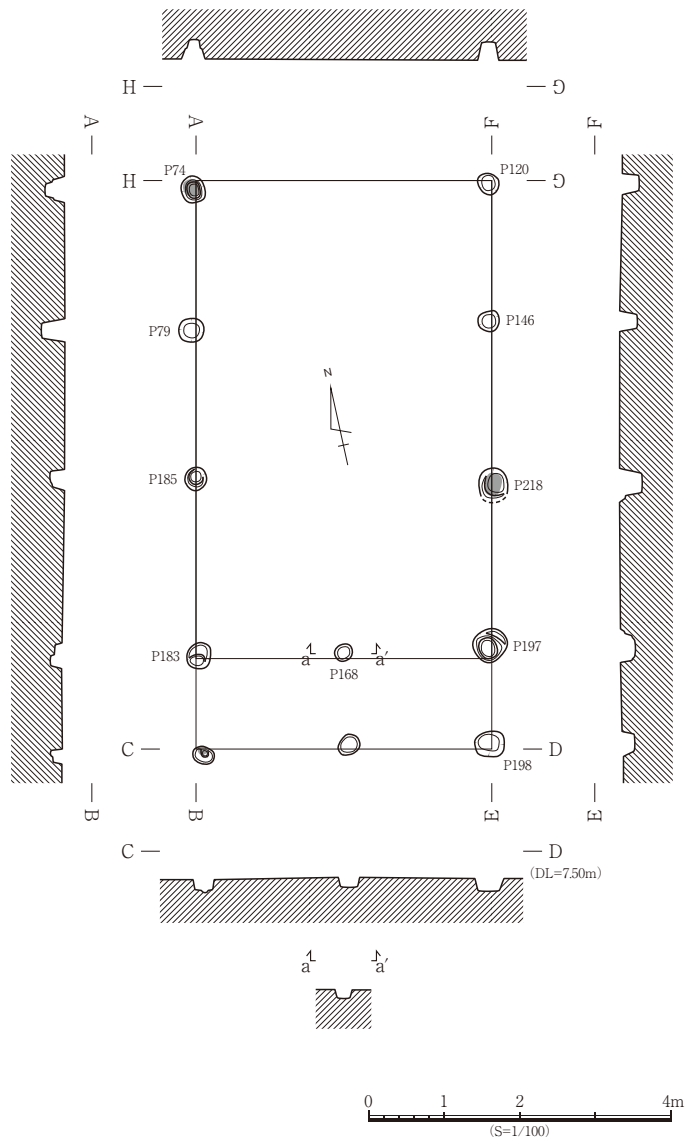


図364 3区 SB31 平面図・エレベーション図

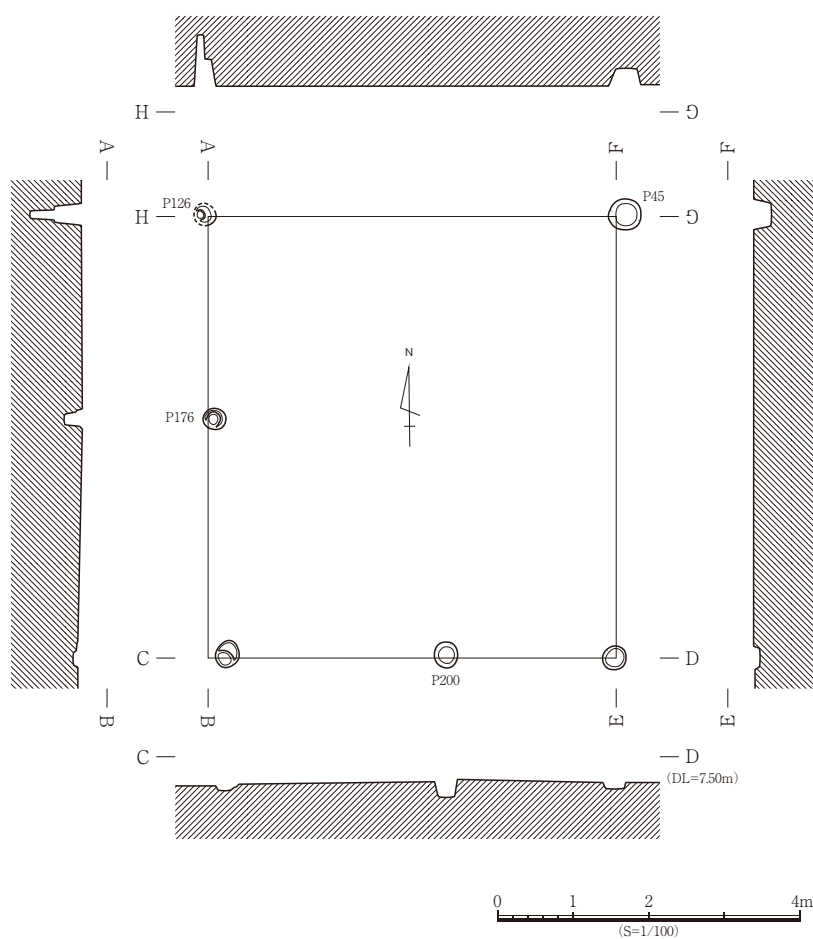


図365 3区 SB32 平面図・エレベーション図

図示した出土遺物はない。

SK17

SK17は平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸1.13m，短軸0.58mを測り，検出面からの深さは7.3cmである。主軸方向はN-15°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK18

SK18は平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸1.23m，短軸0.82mを測り，検出面からの深さは14.3cmである。主軸方向はN-64°-Eである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(951)である。体部は斜め上方へ立ち上がり，口縁端部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施し，内底面にはロクロ目痕が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。精選された胎土である。

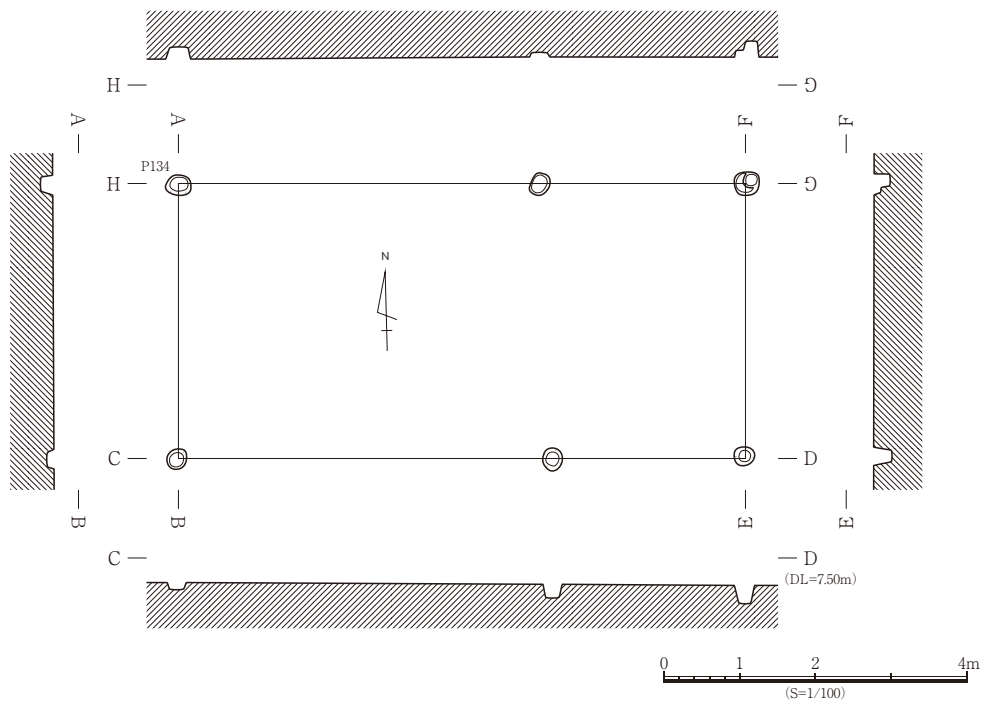


図366 3区 SB33 平面図・エレベーション図

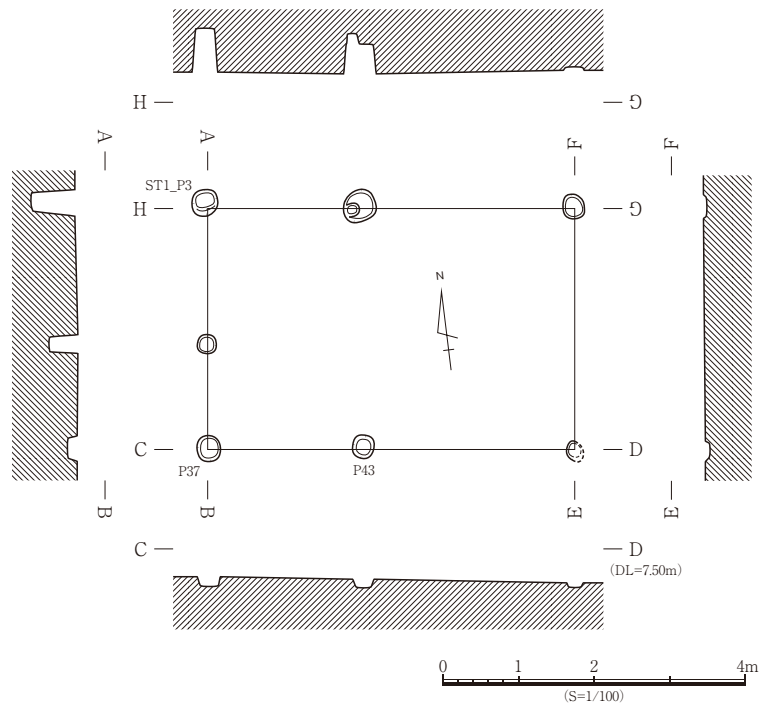


図367 3区 SB34 平面図・エレベーション図

SK20

SK20 は平面形が隅丸方形の土坑である。長軸 0.71m，短軸 0.69m を測り，検出面からの深さは 10.5 cm である。主軸方向は N-33° -E である。

図示した出土遺物はない。

SK21

SK21 は平面形が不整円形の土坑である。長軸 0.87m，短軸 0.83m を測り，検出面からの深さは 13.8cm である。

図示した出土遺物はない。

SK22

SK22 は平面形が隅丸方形の土坑である。長軸 0.90m，短軸 0.90m を測り，検出面からの深さは 4.5cm である。主軸方向は N-30° -E である。

図示した出土遺物はない。

SK23

SK23 は平面形が不整長方形の土坑である。長軸 1.30m，短軸 0.95m を測り，検出面からの深さは 11.1cm である。主軸方向は N-0° である。

図示した出土遺物はない。

SK24

SK24 は平面形が不整長方形の土坑である。長軸 0.68m，短軸 0.59m を測り，検出面からの深さは 4.5 cm である。主軸方向は N-78° -E である。

図示した出土遺物はない。

SK25

SK25 は平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸 0.71m，短軸 0.58m を測り，検出面からの深さは 27.2cm である。主軸方向は N-18° -E である。

図示した出土遺物はない。

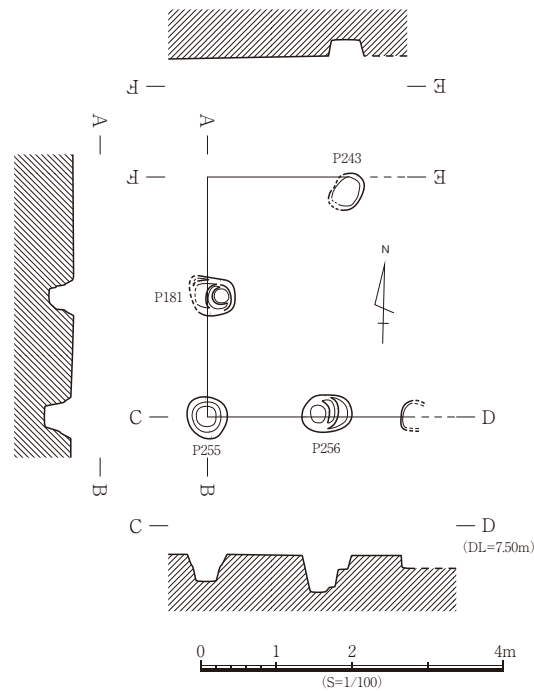


図368 3区 SB35 平面図・エレベーション図

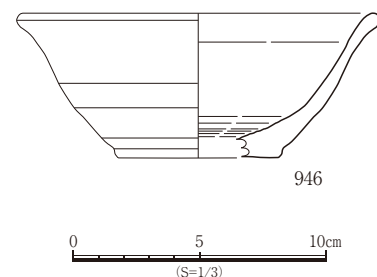
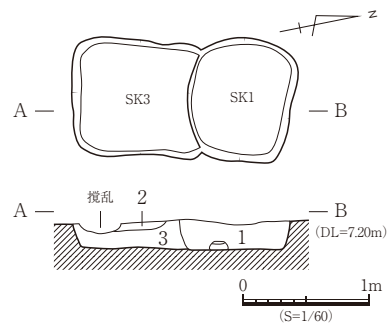


図369 3区 SA3 出土遺物実測図

SK27

SK27は平面形が不整形の土坑である。長軸1.77m，短軸0.80mを測り，検出面からの深さは8.9～36.8cmである。主軸方向はN-7°-Eである。

図示した出土遺物はない。



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む(SK1)
2. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを多く含む(SK3)
3. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを少量含む(SK3)

図370 3区 SK1・3 平面図・断面図

SK28

SK28は平面形が溝状の土坑である。長軸1.64m，短軸0.48mを測り，検出面からの深さは16.5cmである。主軸方向はN-36°-Wである。

図示した出土遺物はない。

SK29

SK29は平面形が不整長方形の土坑である。長軸1.94m，短軸0.73mを測り，検出面からの深さは23.2cmである。主軸方向はN-96°-Eである。

図示した出土遺物はない。

SK30

SK30は平面形が隅丸方形の土坑である。長軸0.70m，短軸0.73mを測り，検出面からの深さは30.5cmである。主軸方向はN-53°-Eである。

図示した出土遺物は，弥生土器の鉢(952)である。底部は突出し，側面及び外底面にはナデ調整を施す。口縁部を僅かに外反させ，ヨコナデ調整により端部は丸く尖らせる。体部は丸みを帯びて立ち上がり，外面は叩き調整後，ナデ調整を丁寧に施す。内面は粗いハケ調整を全面に施す。

SK31

SK31は平面形が不整形の土坑である。長軸1.24m，短軸0.55mを測り，検出面からの深さは11.2cmである。主軸方向はN-32°-Eである。

図示した出土遺物はない。

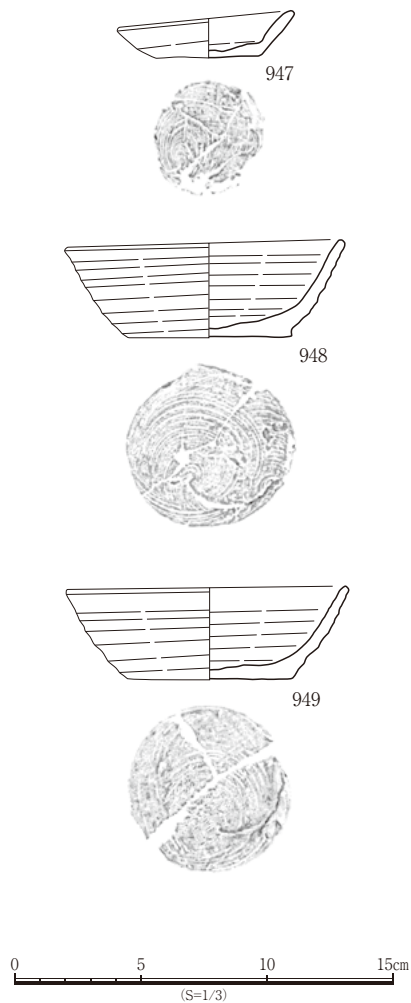


図371 3区 SK1 出土遺物実測図

SK32

SK32は平面形が不整楕円形の土坑である。長軸1.24m，短軸0.57mを測り，検出面からの深さは22.3cmである。主軸方向はN-57°-Wである。

図示した出土遺物は弥生土器の高杯(953)である。杯部は緩い逆「ハ」の字形を呈する。口縁部にはヨコナデ調整を施し，端部を上下に拡張させ凹面状を成す。外面は縦方向のヘラミガキ調整を施し，内面はヨコハケ調整後，沈線状の調整がみられる。

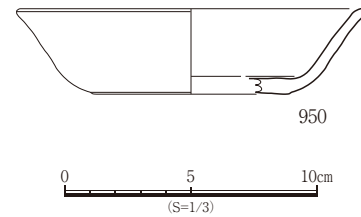


図372 3区 SK13 出土遺物実測図

5.SG

SG1

SG1は調査区の中央部やや東寄りで検出した土器棺墓である。平面形は長軸約0.50m，短軸約0.45mの楕円形を呈し，検出面からの深さは約15cmである。土器棺は掘り方の底面から若干，浮く。上面は削平により，残存していない。

図示した出土遺物は，弥生土器の壺(954・955)である。

954は壺である。体部は角の取れた平底であり，外底面はナデ調整により平滑に仕上げる。体部は倒卵形を呈する。外面は叩き調整後，タテハケ調整を全面に施す。内面はハケ調整を全面に施す。肩部内面には粘土帯接合痕跡が認められる。三分割成形と推測される。955は壺である。底部は直立部を僅かに持つ平底である。外底面はナデ調整により平滑に仕上げる。体部外面は叩き調整後，タテハケ調整を密に施す。内面は斜め方向の粗いハケ調整である。また，内底面には指頭圧痕がみられる。

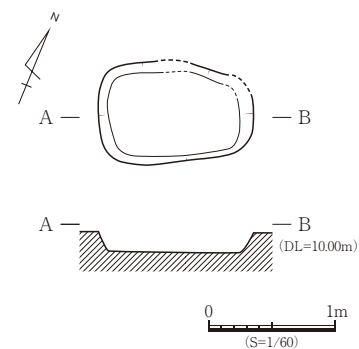


図373 3区 SK18
平面図・エレベーション図

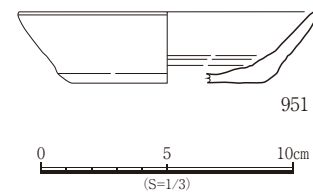


図374 3区 SK18 出土遺物実測図

6.SD

SD5

SD5は3区東端部で検出した南北方向の溝跡である。幅70～113cm，検出面からの深さは約21cmであり，埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。検出長は約5.9mである。主軸方向はN-6°-Eである。

図示した出土遺物は青磁の碗(956)である。見込みには沈線が巡り，劃花文が描かれる。灰オリーブ色の釉薬を施す。豊付及び外底面は露胎となる。

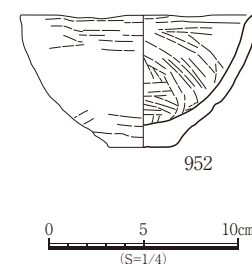


図375 3区 SK30 出土遺物実測図

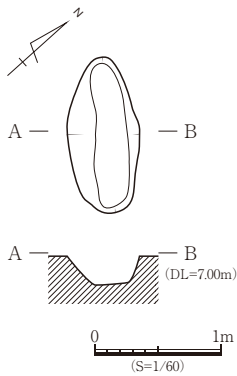


図376 3区 SK32
平面図・エレベーション図

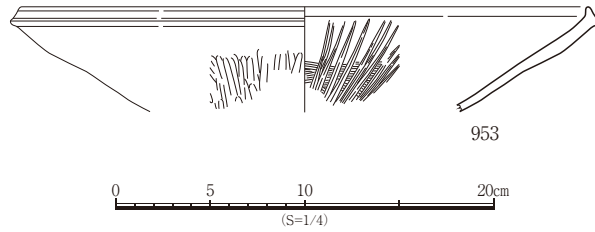


図377 3区 SK32 出土遺物実測図

SD6

SD6は3区で検出した溝跡である。調査区の南東部から北方向に走り、西方向に直角に折れ、さらに北西方向にむきを変えて3区内で終わる。幅28～95cm、検出面からの深さは約28cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。検出長は約21.9mである。主軸方向はN-75°-W・N-23°-Eである。

図示した出土遺物は須恵器の皿(957)、石包丁(958)である。

957は須恵器の皿である。体部は外方に浅くひらき、口縁部は僅かに外反して端部は丸く尖らせる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。958は砂岩製の打製石包丁である。A面は剥離面、B面は自然面を残す。両端に紐かけ用の浅い抉りを入れる。完形である。

SD7

SD7は3区中央東寄りで見出した南北方向の溝跡である。幅は110～130cm以上、検出面からの深さは約32cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。検出長は約14.0mである。主軸方向はN-10°-Eである。2-1区のSD18と同一の溝と考えられる。

図示した出土遺物は土師器の椀(959)・弥生土器の甕(960)である。

959は土師器の椀である。体部は内湾状を呈し、口縁部は端反り気味に外反して下端は稜を成す。内外面とも回転ナデ調整である。口縁端部内面に煤が付着する。960は弥生土器の甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。外面はヨコナデ調整、内面は工具ナデ調整である。体部外面は叩き調整後、ナデ調整であり、内面はナデ調整である。

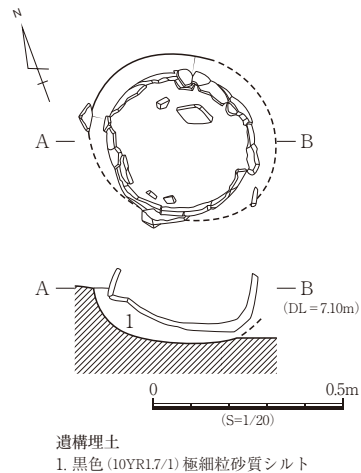


図378 3区 SG1 平面図・断面図

SD15

SD15は3区中央部で検出した南北方向の溝跡で、緩やかな「く」の字状を呈する。幅23～35cm, 検出面からの深さは約6cmであり、埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルトである。検出長は約4.1mである。主軸方向はN-16° -Eである。

図示した出土遺物は平瓦(961)である。端部を斜めに面取りを施す。凸面に縄目痕, 凹面に布目圧痕が認められる。

7.P

962はP12から出土した土師器の碗である。体部は丸みを帯びて器高がやや浅い。口縁部は僅かに外反し、端部は丸くおさめる。外底面には断面形が矩形状の輪高台を貼り付ける。回転ナデ調整及びヘラミガキ調整を施す。963はP15から出土した緑釉陶器の碗である。回転ヘラケズリ調整を施す。底部は削り出しの円盤状高台である。刷毛塗りで薄く施釉する。体部外面に縦方向の沈線状痕がみられる。須恵質系の胎土である。964はP78から出土した土師器の杯である。平底から緩やかに屈曲して体部は斜直状に立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、内面に沈線状の条痕を有す。体部は内外面ともにヘラミガキ調整を施す。内面に煤が付着する。965はP128から出土した弥生土器の壺である。底部は平らな部分が残るものの丸底を指向する。外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後、ハケ調整を広範囲に施す。腰部にはナデ調整を施し、一部はミガキ状を呈する。内面は斜め方向の粗いハケ調整を施す。下半部は荒れる。土器棺として使用か。966はP180

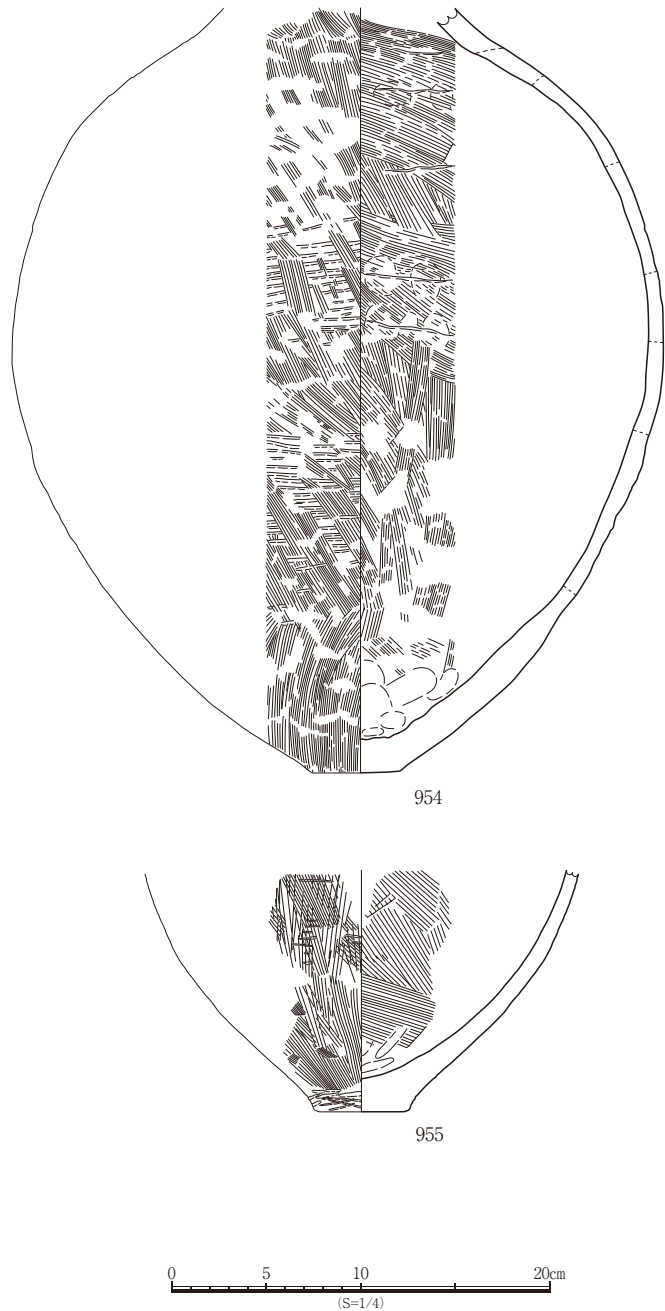
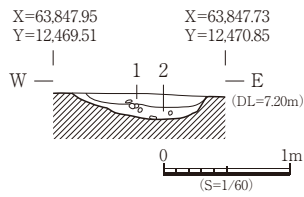


図379 3区 SG1 出土遺物実測図



遺構埋土

1. 黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに5cm大の礫を少量含む
2. 黒褐色(10YR2/2) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックと5cm大の礫を少量含む

図380 3区 SD5 断面図



956

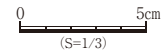
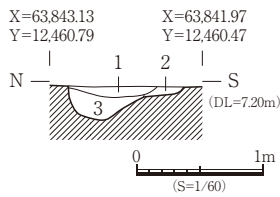


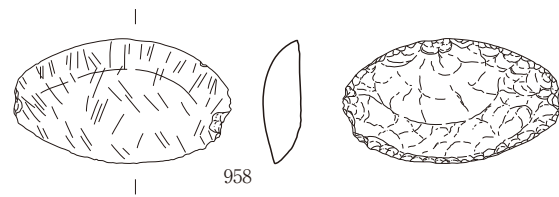
図381 3区 SD5 出土遺物実測図



遺構埋土

1. 黒色(10YR2/1) 細粒砂質シルト
2. 黒褐色(10YR2/3) 細粒砂質シルト
3. 黒色(10YR1.7/1) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む

図382 3区 SD6 断面図



958

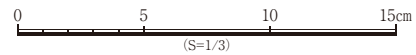
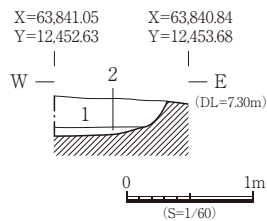


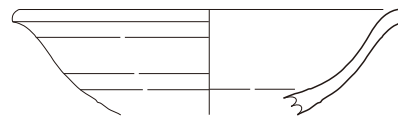
図383 3区 SD6 出土遺物実測図



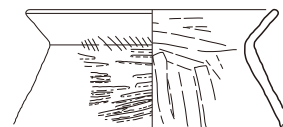
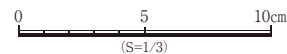
遺構埋土

1. 黒色(10YR2/1) 細粒砂質シルトに土器を含む
2. 黒褐色(10YR2/3) 細粒砂質シルトに黄色シルトブロックを含む

図384 3区 SD7 断面図



959



960

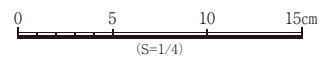


図385 3区 SD7 出土遺物実測図

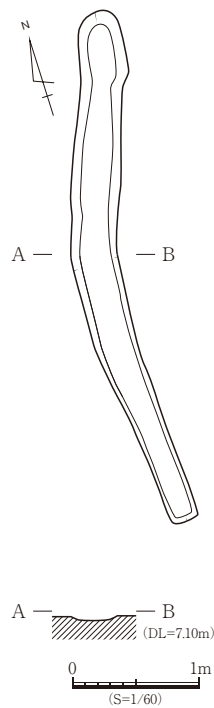


図386 3区 SD15 エレベーション図

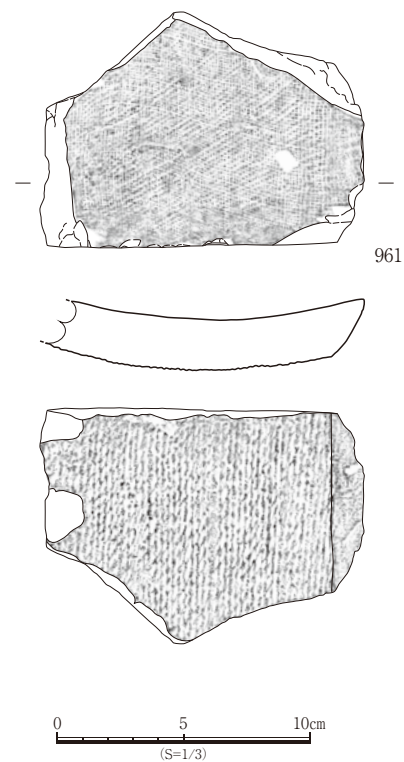
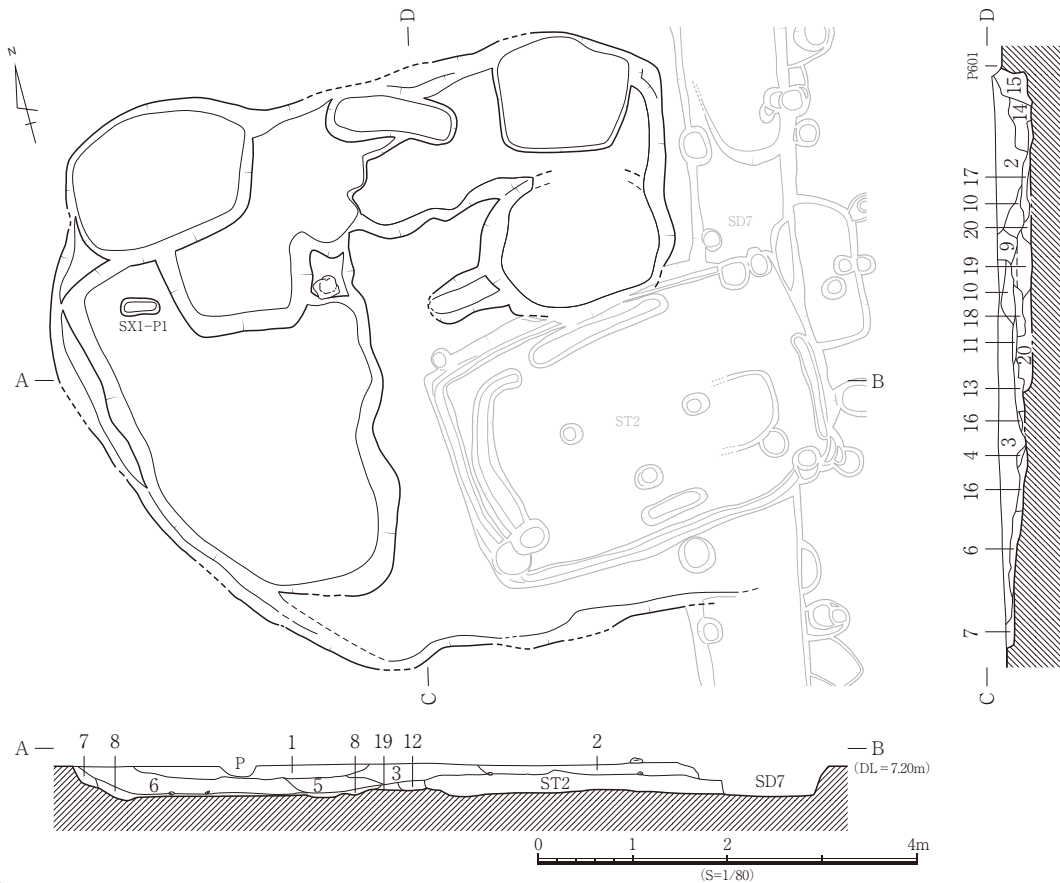


図387 3区 SD15 出土遺物実測図

から出土した土師質土器の皿である。口縁部は水平状に外反し、端部は面状を成す。内外面とも回転ナデ調整を施し、外面にロクロ目痕がみられる。また、内底面にはヘラミガキ調整を加える。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。

967はP220から出土した弥生土器の小型の鉢である。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。深いキレツが認められる。内面は粗いハケ状原体によるナデ調整である。968はP223から出土した釘である。先端部は僅かに曲がる。断面形は方形と推測される。両端を欠損する。969はP234から出土した土師器の羽釜である。口縁端部はヨコナデ調整を施し、凹面状を成す。断面形が梯形状の鏝を貼付し、端部に沈線状の凹線を有する。回転ナデ調整で仕上げる。外面に煤が付着する。摂津型である。970はP259から出土した土師質土器の杯である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反して端部は丸くおさめる。内外面とも回転ナデ調整を施し、内底面は回転成形により僅かに凹状を成す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。971はP298から出土した管状土錘である。僅かに中位が膨らむ紡錘形を呈する。孔径は6～8mmの楕円形を呈する。ほぼ完形である。972はP303から出土した土師質土器の杯である。形骸化した円盤状高台から体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。内外面とも回転ナデ調整を施し、内面にはミガキ調整を施す。また、内底面は回転成形により凹状を成す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。内面に火襻状の煤が付着する。椀形か。974はP334から出土した土師質土器の杯である。高い円盤状高台から体部は逆「ハ」の字形に立ち上がる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。975はP349から出土した土師質土器の杯である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。内外面とも回

転ナデ調整を施し、体部外面にはロクロ目痕がみられ、内底面は回転成形により凹状を成す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。外面に煤が付着する。976はP454から出土した青磁の合子蓋である。菊花の陽刻がみられる。かえり部分まで透明釉を施釉する。977はP693から出土した黒色土器の椀である。底部外縁に小さな断面形が三角形の輪高台を貼り付ける。内面に横方向のヘラミガキ調整を施す。雲母片等を含む精選された胎土である。黒色土器A類であり、畿内産の搬入品と考えられる。978はP701上層から出土した土師質土器の杯である。外面にはナデ調整を施す。外底面は回転へ



遺構埋土

1. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに土器を含み、1~8cm大の礫を少量含む
2. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR3/1)粘土質シルトを粒状に含み、1~15cm大の礫を少量含む
3. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに土器を含み、1~8cm大の礫を少量、褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトをブロック状に含む
4. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに土器を含み、1~8cm大の礫を少量、褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトをブロック状に、にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトを斑に含む
5. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトをブロック状に含む
6. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに土器を含み、4~6cm大の礫を少量、黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトを粒状に黒褐色(10YR3/2)粘土質シルトを斑に含む
7. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトと褐色(7.5YR4/3)細粒砂質シルトを斑に含む
8. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトを少量含む
9. にぶい黄褐色(10YR5/4)細粒砂質シルトを粒状に多く、黒色(10YR1.7/1)と黒色(10YR2/1)を斑に、黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトを斑に多く含む
10. にぶい黄褐色(10YR5/4)細粒砂質シルトを粒状に多く、黒色(10YR1.7/1)と黒色(10YR2/1)と黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトを斑に含む
11. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質シルトに褐色(10YR4/4)粘土質シルトを粒状に含み、1~8cm大の礫を含む
12. 黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトににぶい黄褐色(10YR5/4)と黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトを粒状に多く含む
13. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトににぶい黄褐色(10YR5/4)と黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトを粒状に多く含む
14. 黒色(10YR1.7/1)と黒色(10YR2/1)と黒褐色(10YR2/2)シルトににぶい黄褐色(10YR5/4)細粒砂を粒状に含む
15. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに土器を含み、1~8cm大の礫を少量、褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトをブロック状に、暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトをブロック状と斑に含む
16. 暗褐色(10YR3/3)に黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトを粒状、黒褐色(10YR2/2)と褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトを斑に含む
17. 暗褐色(10YR3/3)粘土質シルトに黒色(10YR1.7/1)と黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトを斑に含む
18. 貼床状の黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトににぶい黄褐色(10YR5/4)を少量含む
19. 上層が貼床状になり褐色(10YR4/4)と黒褐色(10YR2/2)と黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトを斑に含む
20. 褐色(10YR4/4)細粒砂質シルト(地山)

図388 3区 SX1 平面図・断面図

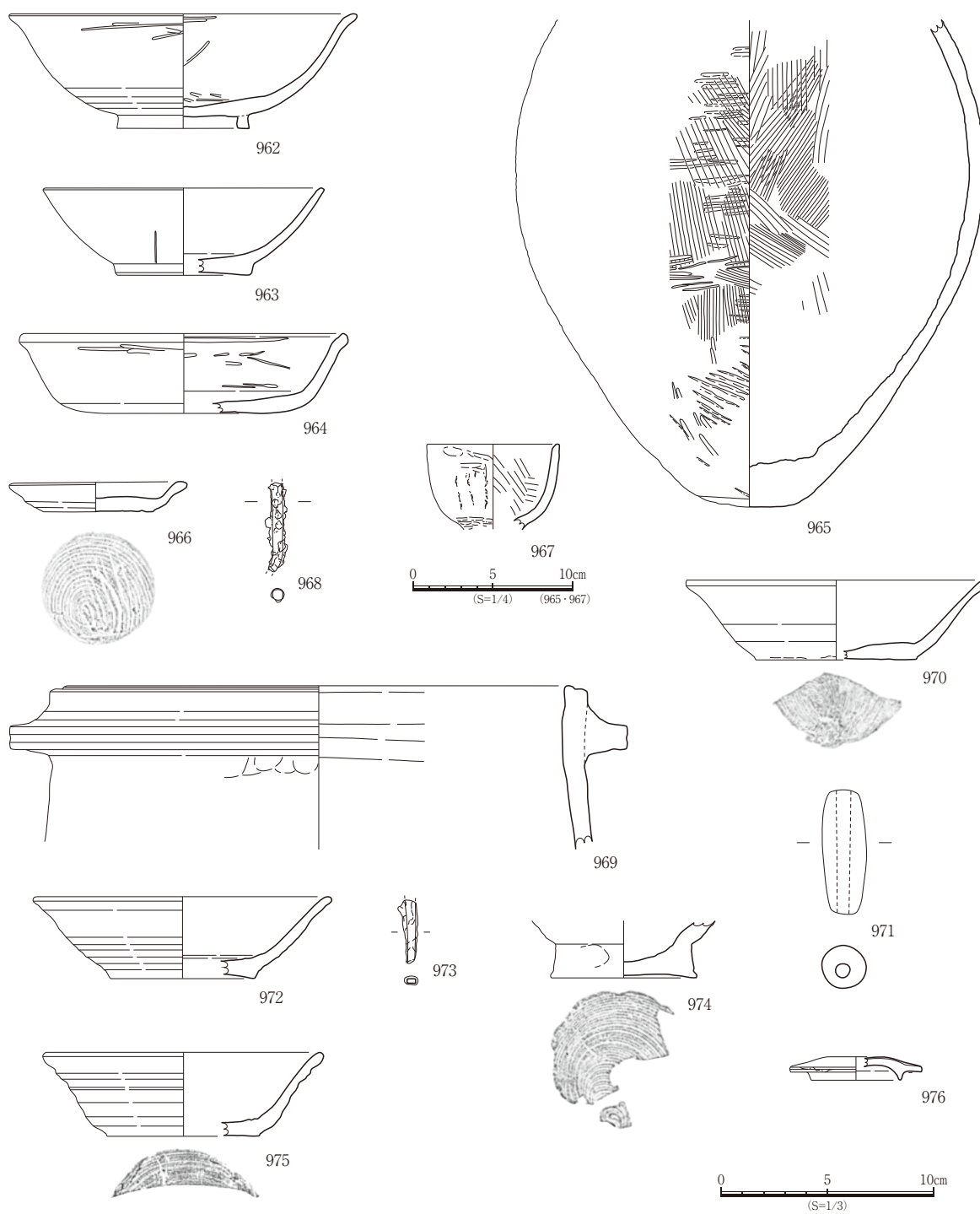


図389 3区 P 出土遺物実測図_1

ラ切り後、ナデ調整を施す。タールが付着しており、灯明皿である。979はP707から出土した黒色土器の椀である。外底面には断面形が長方形の高台を貼り付ける。外面はヨコナデ調整であり、内面はミガキ調整か。980はP707から出土した土師器の羽釜である。口唇部直下に鏝を付す。内外面ともにヨコナデ調整を施す。胎土に雲母片を含む。981はP734から出土した土師質土器の杯である。内外面ともにヨコナデ調整である。底部の切り離しは回転ヘラ切りか。982はP759から出土した土師器の杯である。内外面ともヨコナデ調整である。

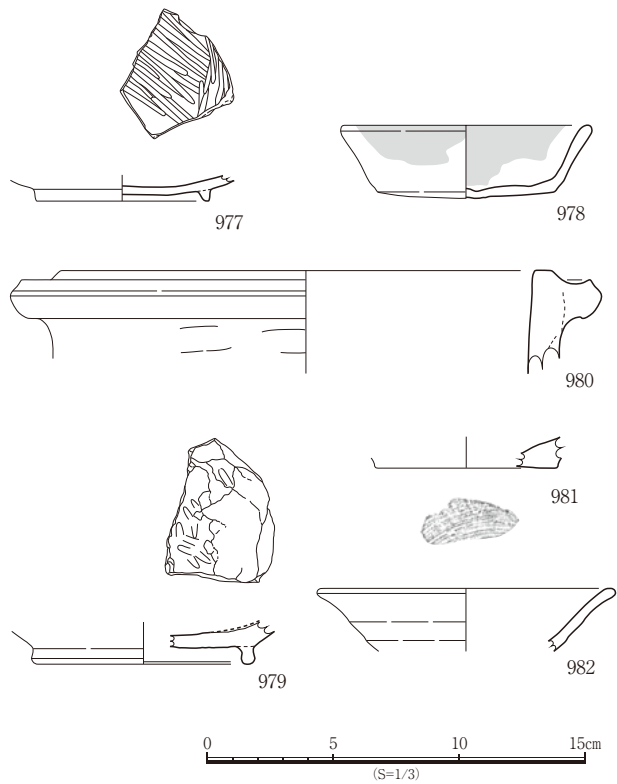


図390 3区 P 出土遺物実測図_2

8. 遺構外出土遺物

図示した出土遺物は、弥生土器の壺、土師器の椀・羽釜、須恵器の蓋・片口鉢・壺、黒色土器の椀、緑釉陶器、瓦質土器の羽釜、白磁の碗、青磁の碗、勾玉、石包丁、平瓦、銭貨である。

983は弥生土器の壺である。頸部はややひらき気味にのび、口縁部は外反する。口唇部はハケ状原体により面取りを施す。口縁端部は内外面ともにヨコナデ調整で仕上げる。頸部外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後、斜め方向のハケ調整を密に施す。内面肩部はナデ調整、体部は斜め方向の粗いハケ調整である。984は土師器の椀である。体部は内湾気味に立ち上がる。底部外縁に輪高台を貼付し、底面に糸切り痕跡が認められる。内外面とも回転ナデ調整を施し、内底面にはヘラミガキ調整を施す。内面には煤が付着する。985は土師器の羽釜である。口縁部は僅かに立ち上がり、端部は面を成す。断面形が矩形状の鏝を貼付し、ヨコナデ調整を施す。摂津型であり、搬入品の可能性がある。986は須恵器の蓋である。天井部外面はナデ調整を施す。回転ヘラケズリ調整の有無は確認できない。口縁部は内外面とも回転ナデ調整を施す。焼成はやや不良である。987は須恵器の壺である。口縁部は逆「ハ」の字形に外反し、端部は面を取る。内外面とも回転ナデ調整を施す。外面には斜め方向の叩き目が認められ、内面には同心円状の当て具痕跡がみられる。988は黒色土器の椀である。内面にはヘラミガキ調整を施し、暗文風を成す。内黒タイプである。雲母片等の細粒砂を含む胎土である。989は黒色土器の椀である。底部外縁に断面形が三角形の輪高台を貼付し、碁笥底状を呈する。また、底面には圏線状の沈線が認められる。内外面とも回転ナデ調整を施し、内面にヘラミガキ調整を施す。内黒タイプである。990は緑釉陶器の底部である。内外面とも回転ナデ調整を施す。底部は削り出しの円盤状高台で、底面中央が凹状を成す。淡緑色の釉薬を全面に刷毛塗りする。内底面に圏線状の沈線がみられる。精選された須恵質系の胎土である。畿内産である。991は土師質土器の皿である。体部は僅かに立ち上がる。柱状高台である。内外面とも回

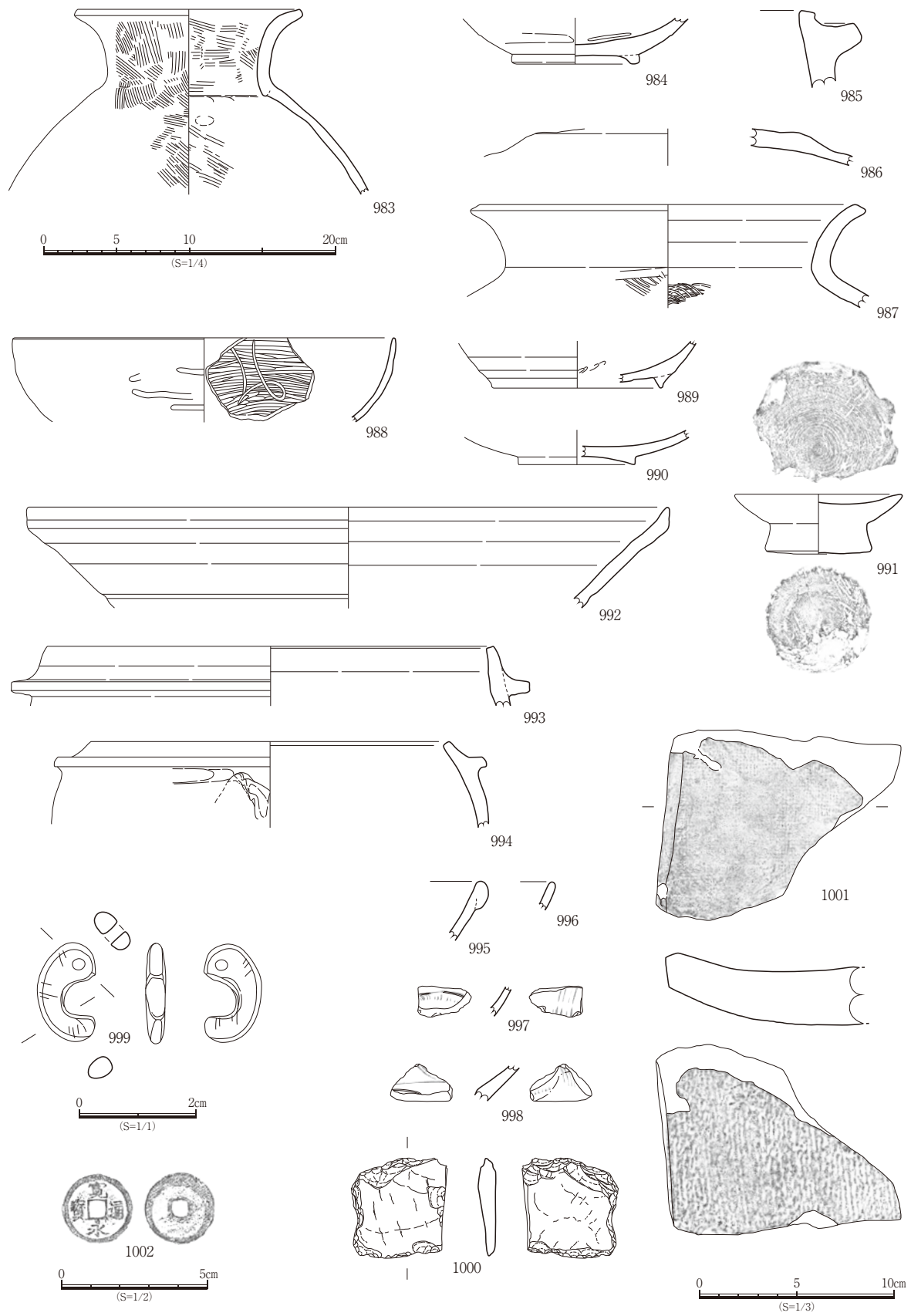


図391 3区 遺構外出土遺物実測図

転ナデ調整を施す。992は東播系須恵器の片口鉢である。体部は逆「ハ」の字形に開き、口縁端部は上方に拡張する。内外面とも回転ナデ調整を施す。993は瓦質土器の羽釜である。口縁部は僅かに内傾し、端部は面を取る。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整を施す。鏝を貼付し、ヨコナデ調整を施す。994は瓦質土器の三足鍋の羽釜である。口縁部外面にヨコナデ調整を施す。丸みを帯びた胴部から口縁部が内傾し、端部は面を取る。鏝を貼付し、下方はヨコナデ調整により凹状を成す。鏝下方に脚部の付け根部分の剥離痕がみられる。995は白磁の碗である。口縁部は玉縁状を呈し、内外面とも灰白色の釉薬を施す。Ⅳ類である。996は青磁の碗である。内外面には灰オリーブ色の釉薬を薄く施す。997は青磁の碗である。内面には圏線と櫛描文、外面には櫛描文を施す。内外面には灰黄色の釉薬を施す。998は青磁の碗である。内外面には灰黄色の釉薬を施し、外面腰部以下は露胎となる。また、内外面には櫛描文を施す。999は蛇紋岩製の勾玉である。縦長の「C」字形を呈する。全面を丁寧に研磨する。片側からの穿孔である。完形である。1000はサヌカイト製の打製石包丁である。両面とも主要剥離面を大きく残し、周囲には調整剥離を施す。短辺に紐かけ用の抉りを入れ、使用による摩滅が認められる。断面は背部から刃部にむかって厚さが減じる。約半分が欠損する。1001は平瓦である。端部には面取りを施す。凸面には縄目痕、凹面には布目圧痕が認められる。焼成不良である。1002は寛永通宝である。両面ともやや摩滅する。裏面の外縁はズレる。外縁の外径は2.4cm、内径は1.9cm、内郭の外径は0.6cm、内径は0.5cm、外縁厚は0.1cmを測る。

第IV章 自然科学分析

1. 若宮ノ東遺跡出土炭化物年代測定及び樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

今回の分析調査では、若宮ノ東遺跡で検出された竪穴住居跡および土坑から出土した炭化材・炭質物について、放射性炭素年代測定および樹種同定を実施し、遺構の年代、木材利用に関する情報を得る。

1. 試料

試料は、SK8, ST5④, ST1②遺構から出土した炭化材・炭質物3点である(表4, 図392)。

SK8のT3試料は、土壌塊に微細な炭質物が付着している状態である。炭質物には組織が認められない。年代測定には、土壌塊より可能な限り炭質物を集めて測定試料とした。

ST5④の炭2試料は、長軸5cm, 短軸3cm以下の多数の炭化材破片からなる。いずれも樹皮は残存していない。このうち最大の破片を分析に使用した。抽出した炭化材はミカン割状を呈し、12年の年輪が確認される。最外年輪を含む5年分の年輪を年代測定, 残りを樹種同定に供した。

ST1②床面の炭3試料は、炭化した径3~6mmの多数の稈状の炭化材(植物遺体)からなる。年代測定は無作為に1本を選択し、半分に割って、それぞれ年代測定と樹種同定に供した。

表4 分析試料一覧

地区	遺構名・層位	試料名	状態	分析項目		年代測定試料の記載	
				AMS	樹種	採取位置	重量
1区	SK8	T3	土壌混じり炭質物	○	-	土壌を取り除いた炭質物	1.21g
1区	ST5④	炭2	炭化材破片	○	○	最大破片(ミカン割状・樹皮無) 残存年輪12年のうち、外側5年分	0.86g
1区	ST1② 床面	炭3	炭化稈状植物遺体	○	○	稈状植物遺体のうち、1本を抽出	0.09g

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

測定試料に土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理: AAA処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

1. 若宮ノ東遺跡出土炭化物年代測定及び樹種同定

表5 放射性炭素年代測定および暦年較正結果

地区・遺構 試料名	種類	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (暦年較正用) yrBP	暦年較正結果				Code No.
				誤差	cal BC/AD	cal BP	相対比	
1区 SK8 T3	炭質物	-24.27 ± 0.33	2,040 ± 20 (2,042 ± 23)	σ	cal BC 89 - cal BC 73	cal BP 2,038 - 2,022	0.192	IAAA- 162074
					cal BC 58 - cal BC 17	cal BP 2,007 - 1,966	0.611	
					cal BC 15 - cal AD 0	cal BP 1,964 - 1,950	0.197	
				2σ	cal BC 156 - cal BC 137	cal BP 2,105 - 2,086	0.034	
					cal BC 113 - cal AD 21	cal BP 2,062 - 1,929	0.966	
1区 ST5④ 炭2	炭化材	-25.03 ± 0.30	1,860 ± 20 (1,857 ± 22)	σ	cal AD 126 - cal AD 179	cal BP 1,824 - 1,771	0.676	IAAA- 162075
					cal AD 186 - cal AD 213	cal BP 1,764 - 1,737	0.324	
				2σ	cal AD 86 - cal AD 110	cal BP 1,864 - 1,840	0.121	
					cal AD 115 - cal AD 225	cal BP 1,835 - 1,725	0.879	
1区 ST1②床面 炭3	炭化程状 植物遺体	-25.83 ± 0.24	1,860 ± 20 (1,861 ± 22)	σ	cal AD 90 - cal AD 100	cal BP 1,860 - 1,850	0.104	IAAA- 162076
					cal AD 123 - cal AD 177	cal BP 1,827 - 1,773	0.636	
					cal AD 190 - cal AD 212	cal BP 1,760 - 1,738	0.260	
				2σ	cal AD 84 - cal AD 222	cal BP 1,866 - 1,728	1.000	

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用した。

2) yrBP年代値は、1950年を基点として何年前であることを示す。付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

3) 暦年の計算は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1 (Copyright 1986-2016 M Stuiver and PJ Reimer) を使用。補正年代に()で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。年代値は、1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、暦年較正用年代値は1桁目を丸めていない。統計的に真の値が入る確率は σ は68.3%、 2σ は95.4%である。相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

化学処理後のグラフアイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(yrBP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma:68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1 (Copyright 1986-2016 M Stuiver and PJ Reimer)を用いる。

暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い(14Cの半減期 5730 ± 40 年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表するのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。いずれも北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

(2) 樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柁目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面について断面を作製して実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生

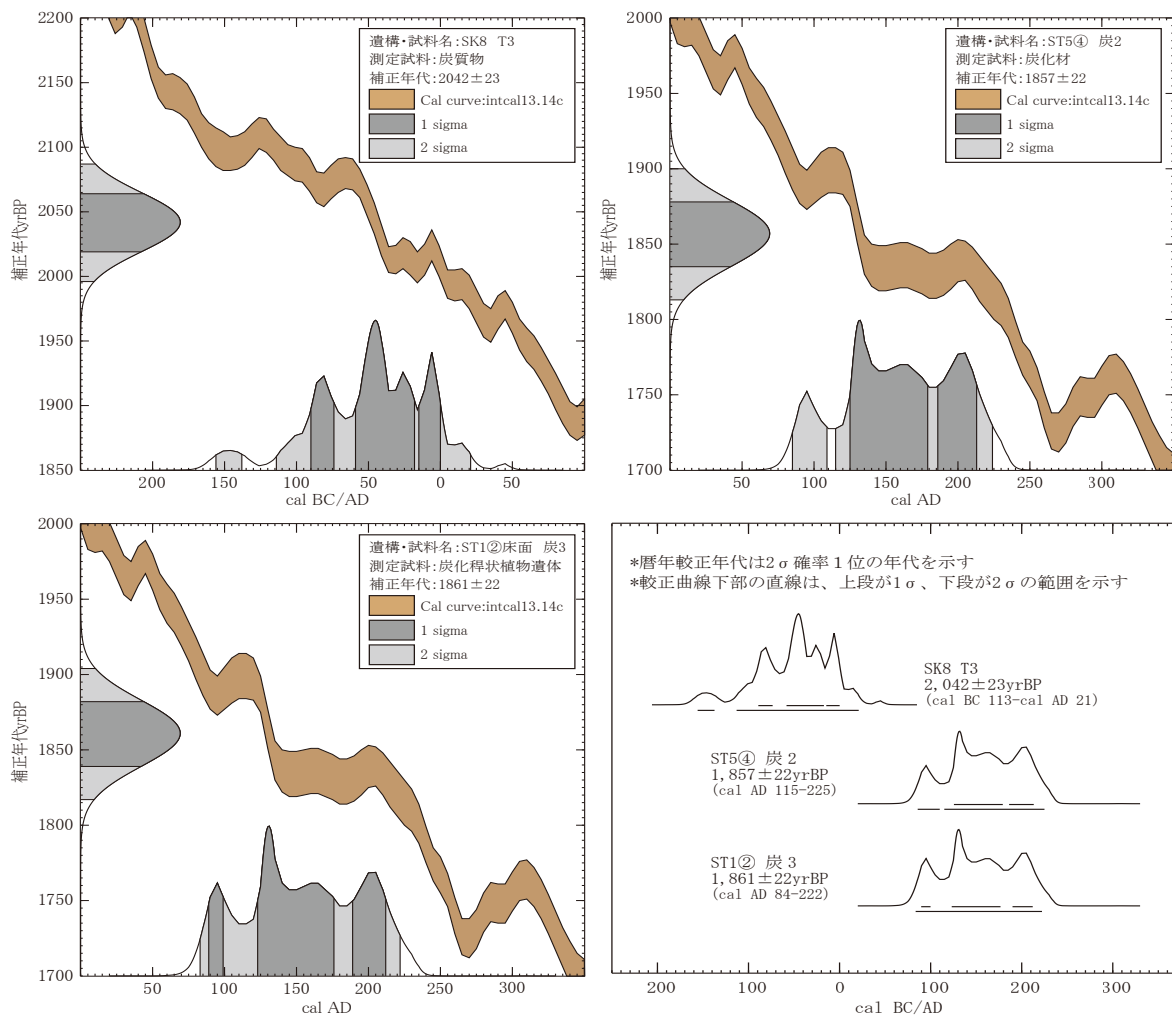


図392 暦年較正結果

標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

3. 結果

(1)放射性炭素年代測定

測定結果および暦年較正結果を表5、図386に示す。同位体効果の補正を行った年代値(補正年代)および暦年較正結果(2σ確率1位)は、SK8のT3試料が $2,040 \pm 20\text{yrBP}$ ・cal BC 113～cal AD 21, ST5④の炭2試料が $1,860 \pm 20\text{yrBP}$ ・cal AD 115～225, ST1②床面の炭3試料が $1,860 \pm 20\text{yrBP}$ ・cal AD 84～222を示す。なお、土塊中の炭質物を測定対象としたSK8のT3試料は、炭質物中にも土が混じっており、前処理後段階で完全に土を除去することが難しく、炭素含有率7.6%とかなり低い値での測定結果である。

表6 樹種同定結果

地区	遺構	試料名	状態	形状	種類	
					学名	和名
1区	ST5④	炭2	炭化材	ミカン割状	Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属
1区	ST1② 床面	炭3	炭化材	桿状	Gramineae	イネ科

(2) 樹種同定

樹種同定結果を表6に示す。ST5④の炭2試料がコナラ属アカガシ亜属、ST1②床面の炭3試料がイネ科に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を以下に記す。

・コナラ属アカガシ亜属(Quercus subgen. Cyclobalanopsis) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・イネ科(Gramineae)

試料は、直径5mm程度の稈。横断面では、2対4個の道管の外側に篩部細胞があり、これらを厚壁の繊維細胞(維管束鞘)が囲んで維管束を形成する。維管束は柔組織中に散在し、不斉中心柱をなす。

4. 考察

(1) 年代について

ST1②およびST5④竪穴住居跡から出土した炭化材・炭化植物遺体の年代値は、上記したように誤差範囲内で一致した年代値を示した。このうちST1②床面の炭3試料は、測定対象がイネ科の稈であったこと、イネ科は1年で生長し、その後数年間生き続けるものもあるが、多くは1年生であることから、得られた年代値はイネ科の稈が使用された年代を示している可能性が高い。これに対して、ST5④の炭2試料は、樹皮が残存していないアカガシ亜属炭化材なので、年輪の古木効果により、実際の伐採・使用年よりも古い年代を示している可能性がある。

ST1②とST5④の年代値は、暦年較正年代で1世紀末～3世紀前葉を示している。この年代値は西本編(2006・2007)による考古年代と¹⁴C年代の対応関係に基づくと、弥生時代後期の年代値に比定される。ただし、1世紀～3世紀の年代の明らかな日本産樹木年輪の¹⁴C年代は、Intcal09が示す¹⁴C年代に対して、古い年代側にずれることが確認されている(中村ほか,2012)。こうした年代のズレは、最新のIntcal13でも解決されておらず、AD 72-1072の年輪で+5±30年ほど古い年代側にずれることが報告されている(中村ほか,2015)。今回得られた暦年代も、このようなズレが生じている可能性が高く、現在作成中の日本版較正データ(J-Cal)による較正が今後必要である。

一方、SK8のT3の炭質物は、cal BC 113～cal AD 21の暦年代を示した。西本編(2006・2007)によると、弥生時代中期後葉～後期初頭に比定される。上記のST1②やST5④の年代値に比較して、古い年代値を示しているが、測定試料が微細な炭質物で由来物質が特定できないこと、結果に示したように炭素含有率が低いことなどから、年代値の解釈は出土状況や遺構の切り合い関係、他の出土遺物も含めて慎重に検討する必要がある。

(2) 木材利用

ST5④の炭2試料はコナラ属アカガシ亜属に同定された。アカガシ亜属は常緑高木で、暖温帯性常緑広葉樹林の主要構成種である。木材は重硬で強度が高い材質を有する。分析に使用しなかった炭

化材片も、樹種を確認した範囲では全てアカガシ亜属であったことから、同一個体が多数の破片に割れている可能性も考えられる。なお、アカガシ亜属は、その材質から、住居跡では建築部材等、強度を要する用途・部位に利用される場合が多い。

ST1②床面の炭3試料は、イネ科の稈に同定された。イネ科の種類は特定できないが、稈が木質化する種類であり、タケ亜科(タケ類, ササ類)やヨシ属等の可能性が考えられる。タケ亜科やヨシ属は、強度、靱性、耐水性等が比較的高く、住居跡では屋根の萱材等に利用されている。

以上の各住居跡から出土したアカガシ亜属材やイネ科の稈の利用状況については、調査時の所見に基づいて評価していきたい。また、両種類は、周辺遺跡の古植物学的調査成果(辻ほか,2007など)に基づくと、当該期の調査区周辺に生育しており、入手しやすい植物であったと推定される。

引用文献

- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社,449p.
- 中村俊夫・増田公明・三宅美紗・永治健太郎・吉光貴裕,2012,14C年代から暦年代への較正に関連する諸問題.名古屋大学加速器質量分析計業務報告書,XXIII,69-75.
- 中村俊夫・増田公明・三宅美紗・箱崎真隆,2015,日本産樹木年輪の14C年代に基づく暦年較正データとIntCal13との比較研究.日本地球惑星科学連合2015年大会予稿集,U06-P10.
- 西本豊弘 編,2006,新弥生時代のはじまり 第1巻 弥生時代の新年代.雄山閣,143p
- 西本豊弘 編,2007,新弥生時代のはじまり 第2巻 縄文時代から弥生時代へ.雄山閣,185p
- 島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
- 辻 康男・田中義文・馬場健司・松元美由紀・高橋 敦,2007,付編1.介良野遺跡の自然科学分析.「高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第100集 介良野遺跡 県道高知東インター線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」,(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター,163-194.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p.[Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

1. 若宮ノ東遺跡出土炭化物年代測定及び樹種同定

試料状態写真

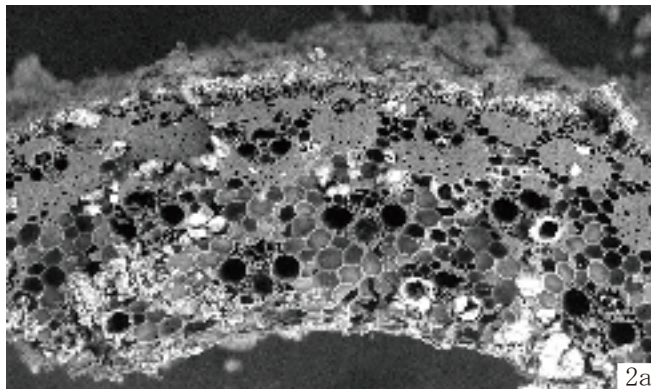
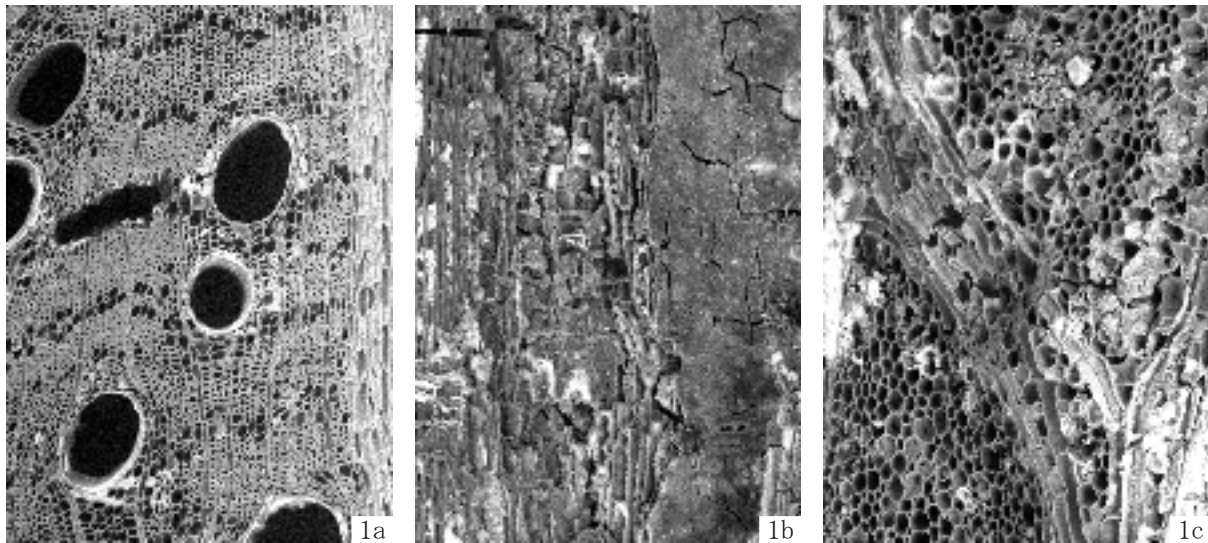


SK8 T3

ST5④ 炭2

ST1② 炭3

炭化材の電子顕微鏡写真



200 μm: a
200 μm: b, c

1. コナラ属アカガン亜属 (ST5④ 炭2)
 2. イネ科 (ST1② 炭3)
- a: 木口 (横断面), b: 柁目, c: 板目

図 393 試料状態写真・炭化材の電子顕微鏡写真

2. 若宮ノ東遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

高知県南国市篠原に所在する若宮ノ東遺跡は、弥生時代から江戸時代にかけての複合遺跡として知られている。

本分析調査では、遺跡から出土した炭化材について、放射性炭素年代測定および炭化材同定を実施し、年代と木材利用についての資料を得る。合わせて、遺跡から出土した石杵表面に付着する赤色顔料について成分分析を実施し、顔料の種類について検討する。

1. 炭化物の分析

1-1. 試料

分析試料は、No.2(5区 ST3 サンプル②)、No.3(5区 ST4 焼土ブロック②)、No.4(5区 ST6 No.8)、No.5(5区 ST11)の4点である。No.2とNo.3は接合関係が不明な複数の炭化材が入っていたため、最も大きな炭化材を選択し分析に用いる。炭化材同定は全点、放射性炭素年代測定はNo.3を除く3点を実施する。

1-2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

適量切り出した後、土壌のついた周辺部を切り落として分析用試料とする。塩酸(HCl)により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム(NaOH)により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1mol/Lである。化学的に脆弱な試料は、炭素の損耗を防ぐためにアルカリの濃度を薄くする(AaAと記載)。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化(鉄を触媒とし水素で還元する)はElementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C -AMS専用装置(NEC社製)を用いて、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$)を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局(NIST)から提供される標準試料(HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料(IAEA-C6等)、バックグラウンド試料(IAEA-C1)の測定も行う。 $\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の ^{13}C 濃度($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver & Polach 1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウェアは、Oxcal4.3 (Bronk,2009)、較正曲線はIntcal13 (Reimer et al.,2013)である。

(2) 炭化材同定

年代測定用試料作成のために削り落とした部分を利用して、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面を作成する。双眼実体顕微鏡や電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。試料の特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。木材組織の名称や特徴については、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

1-3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

結果は表7、図394に示す。分析試料のうちNo.2とNo.4は定法での処理を行ったが(AAAと記載)、No.5は試料が脆弱なためアルカリの濃度を薄くした(AaAと記載)。いずれも加速器質量分析装置を用いた年代測定に必要な炭素量が回収できている。測定の結果、No.2は $3,185 \pm 20\text{BP}$ 、No.4は $1,930 \pm 20\text{BP}$ 、No.5は $1,905 \pm 20\text{BP}$ という値を示す。

暦年較正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、その後訂正された半減期(^{14}C の半減期 $5,730 \pm 40$ 年)を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正用データセットは、Intcal13 (Reimer et al.,2013)を用いる。2 σ の値は、No.2がcalBC1,500～BC1,422、No.4がcalAD26～AD126、No.5がcalAD55～AD133である。

表7 放射性炭素年代測定・炭化材同定結果

試料	性状/樹種	方法	補正年代 (暦年較正用) BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正年代			Code No.		
					年代値		確率 %			
No.2 5区ST3 サンプル②	割材 5年+ アカガシ亜属	AAA (1M)	$3,185 \pm 20$ ($3,184 \pm 20$)	-27.78 ± 0.29	σ	calBC1,496-calBC1,475	3,445-3,424calBP	28.3	YU- 8436	pal- 11475
						calBC1,461-calBC1,431	3,410-3,380calBP	39.9		
					2 σ	calBC1,500-calBC1,422	3,449-3,371calBP	95.4		
No.3 5区ST4 焼土ブロック②	割材 クスノキ科									
No.4 5区ST6 No.8	芯持丸木 20年+ サカキ	AAA (1M)	$1,930 \pm 20$ ($1,930 \pm 20$)	-29.30 ± 0.33	σ	calAD52-calAD87	1,898-1,864calBP	56.7	YU- 8437	pal- 11476
						calAD107-calAD119	1,844-1,831calBP	11.5		
					2 σ	calAD26-calAD126	1,925-1,824calBP	95.4		
No.5 5区ST11	割材 アカガシ亜属	AaA (0.1M)	$1,905 \pm 20$ ($1,907 \pm 20$)	-29.16 ± 0.30	σ	calAD74-calAD92	1,877-1,859calBP	28.2	YU- 8438	pal- 11477
						calAD98-calAD124	1,852-1,826calBP	40.0		
					2 σ	calAD55-calAD133	1,896-1,818calBP	95.4		

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68.2%が入る範囲)を年代値に換算した値。
- 4) AAAは、酸・アルカリ・酸処理を示す。
- 5) 暦年の計算には、Oxcal v4.3.2を使用。
- 6) 暦年の計算には1桁目まで示した年代値を使用。
- 7) 較正データセットはIntcal13を使用。
- 8) 較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。

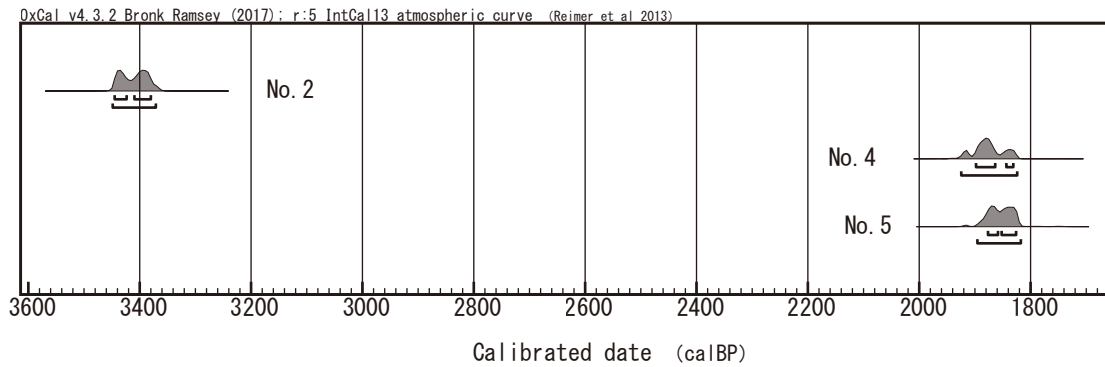


図394 暦年較正結果

(2) 炭化材同定

結果は年代測定とともに表7に示す。No.2(5区 ST3 サンプル②)は5年輪程度の割材でアカガシ亜属, No.3(5区 ST4 焼土ブロック②)は2～3年輪程度の割材でクスノキ科, No.4(5区 ST6 No.8)は20年輪程度の芯持丸木でサカキ, No.5(5区 ST11)は2～3年輪程度の割材でアカガシ亜属である。以下に検出された種類の形態的特徴を述べる。

・コナラ属アカガシ亜属(*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クスノキ科(*Lauraceae*)

散孔材で、管壁は薄く、単独または2-3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-20細胞高。

・サカキ(*Cleyera japonica* Thunb) ツバキ科サカキ属

散孔材で、小径の道管が単独または2-3個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、単列、1-20細胞高。

1-4. 考察

検出された種類はいずれも暖地を中心に生育し、四国の太平洋側には普通にみられる樹種である。当時周辺の山野から採取し、利用したものと思われる。年代値は、No.4とNo.5は遺跡の中心である弥生時代の年代を示すが、No.2はこれより古く、古い時代からの炭化物が混入した可能性もある。

2. 成分分析

若宮ノ東遺跡から出土した石杵の表面に確認される赤色顔料について、その種類を検証するために蛍光X線分析を実施した。

2-1. 試料

試料は石杵1点である。顔料は表面全体に認められるが、特に赤色が目立つ部分が確認できる。

2-2. 分析方法

蛍光X線分析によって、赤彩顔料の種類を推定した。エネルギー分散型蛍光X線分析装置を用いて、マッピング・多点分析を行った。本分析調査で使用した機器は以下の通りである。

エネルギー分散型X線分析装置 JED-2300

- ・加速電圧 0.5～20 kV；測定時 20 kV
- ・倍率 × 8～300,000

2-3. 結果

平面部分については、分析顕微鏡でマッピングを行うことが可能である。赤色部分を含む石杵表面の内、特に赤色が目立つ部分について、次の条件でマッピングした。1 フレームの取り込み時間；300sec，画素数；512×512，走査幅；10.24mm，積算回数；15回。マッピングの結果得られたケイ素，チタン，鉄のマッピング像を図395に示す。さらに、マッピング像に基づいて、測定時間300秒(ライブタイム)で多点分析を行った。結果を表8に示す。測定点6，8で、鉄含有量は、44.6%，55.1%を示している。これらの分析結果から、石杵表面に見られる赤色顔料についてはベンガラであると考えられる。

引用文献

- Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51, 337-360.
- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- Reimer PJ., Bard E., Bayliss A., Beck JW., Blackwell PG., Bronk RC., Buck CE., Cheng H., Edwards RL., Friedrich M., Grootes PM., Guilderson TP., Hafliðason H., Hajdas I., Hatté C., Heaton TJ., Hoffmann DL., Hogg AG., Hughen KA., Kaiser KF., Kromer B., Manning SW., Niu M., Reimer RW., Richards DA., Scott EM., Southon JR., Staff RA., Turney CSM., van der Plicht J., 2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. *Radiocarbon*, 55, 1869–1887.
- Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
- Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. *Radiocarbon*, 19, 355-363.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

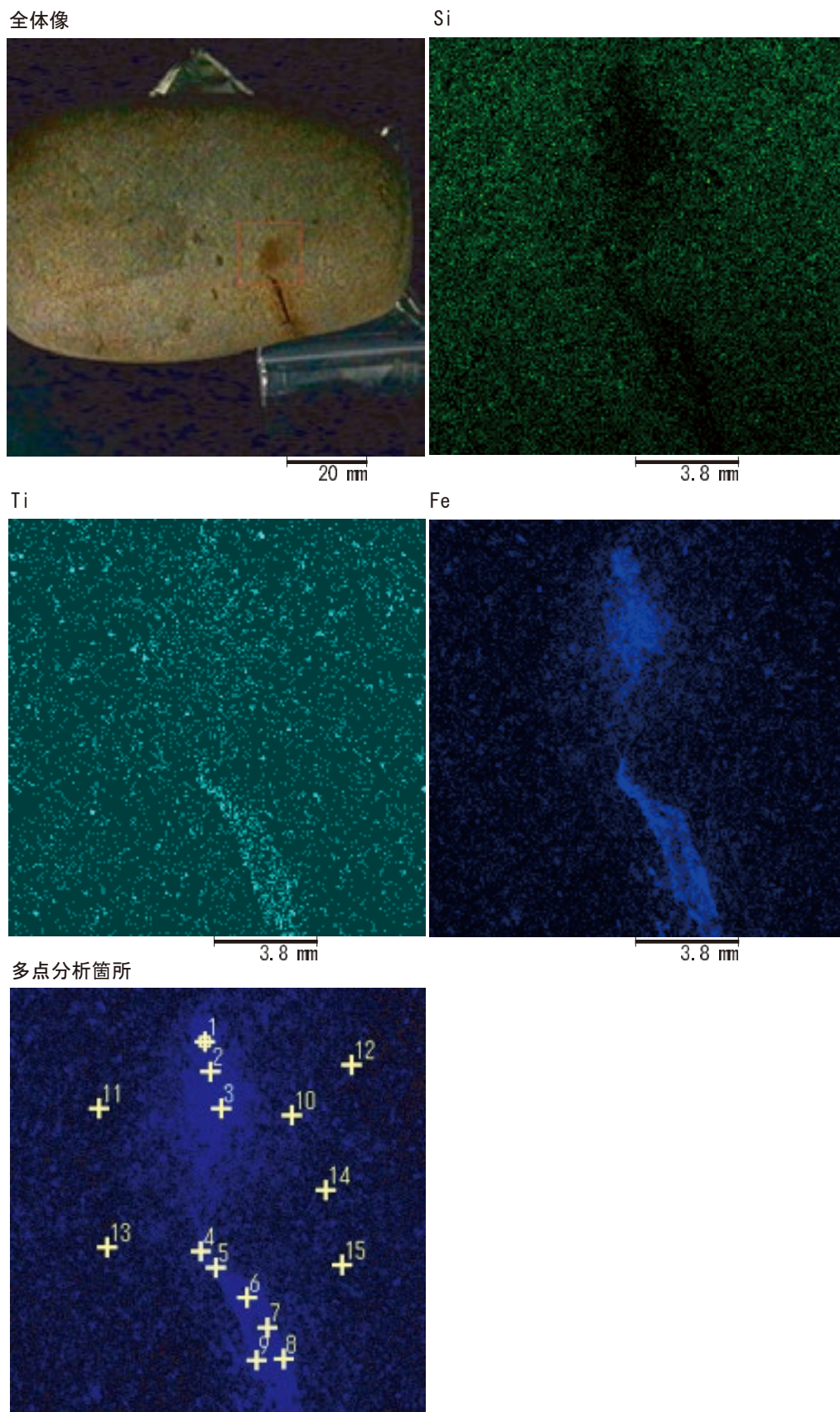
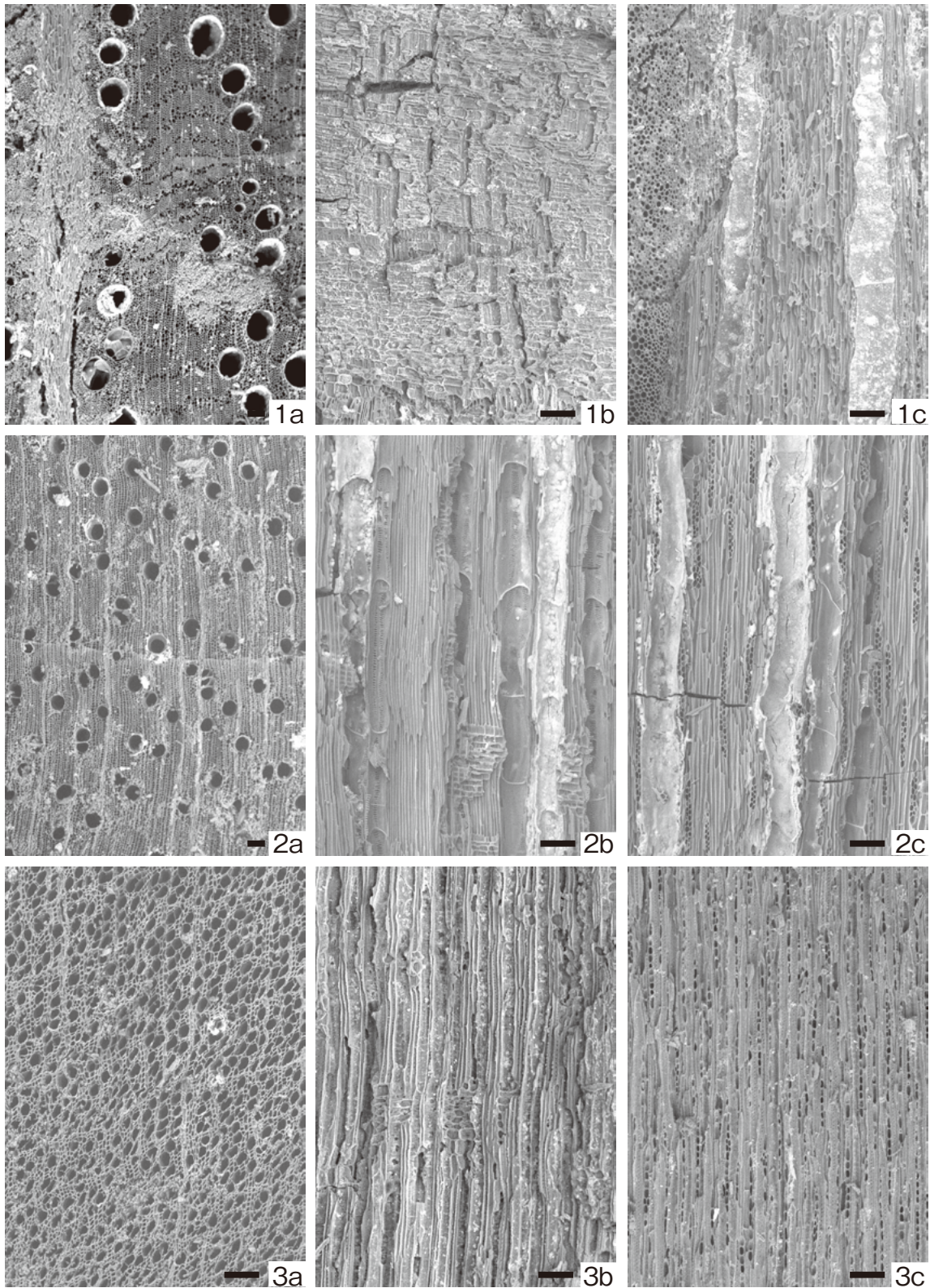


図395 石杵のマッピングおよび多点分析箇所

2.若宮ノ東遺跡の自然科学分析

表8 多点分析結果

元素/ 測定箇所	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15
Al	19.9	30.9	31.6	14.4	15.1	14.3	16.4	11.5	8.9	12.6	11.6	16.9	15.4	17.3	14.1
Si	55.7	27.6	40.2	49.0	63.6	31.7	53.7	19.7	69.7	72.8	67.2	61.6	69.7	60.3	69.7
P	3.2									0.9		1.0			
S				0.3		0.8	0.6		0.8	0.2			0.2		0.2
K	6.6	7.5		25.3	14.7		13.3	5.5	8.1	5.1	18.5	12.7	5.9	10.5	4.4
Ca	1.0	1.8	1.2			6.4	2.3	5.6		0.9		1.7	1.4	2.5	3.6
Ti	0.6	3.5	0.9	0.5	0.4	1.7	0.6	1.3	0.2	0.9	0.2	1.2	0.5	1.1	0.4
V							0.0								
Cr						0.1		0.1							
Mn		0.1				0.1	0.3		0.1			0.1		0.3	0.1
Fe	13.0	28.6	26.1	10.2	6.1	44.6	12.7	55.1	12.3	6.6	2.4	4.9	6.8	7.5	7.7
Cu				0.1		0.2		0.2			0.0			0.1	
Rb			0.1		0.1	0.1					0.1	0.0		0.1	0.1
Sr	0.1			0.1							0.0		0.1	0.2	
Zr						0.2	0.1	0.2					0.1		
Mo	0.0	0.0	0.0					0.0				0.0			
Pb								0.9							
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0



- 1. アカガシ亜属 (No.2)
- 2. クスノキ科 (No.3)
- 3. サカキ (No.4)

スケールは100 μ m
a:木口 b:柁目 c:板目

図396 炭化材の顕微鏡写真

3. 若宮ノ東遺跡出土銅鏡付着赤色顔料分析

株式会社 イビソク

1. はじめに

南国市篠原に所在する若宮ノ東遺跡より出土した、銅鏡に付着する赤色顔料について蛍光X線分析を行い、顔料の種類について検討した。

2. 試料と方法

分析対象は、2区で出土した内行花文鏡破片の鏡背面に付着する赤色顔料である(図版 1a-1)。実体顕微鏡下で、赤色箇所をセロハンテープに極微量採取して、分析試料とした。

分析装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置である(株)堀場製作所製分析顕微鏡 XGT-5000 Type II を使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV・1mA のロジウムターゲット、X線ビーム径が100 μ m または10 μ m、検出器は高純度Si検出器である。検出可能元素はナトリウム～ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光X線分析装置の性質上、検出感が悪い。

本分析での測定条件は、50kV, 1.00mA(自動設定による)、ビーム径100 μ m、測定時間500sに設定した。定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法(FP法)による半定量分析を装置付属ソフトで行った。

さらに、蛍光X線分析用に採取した試料を観察試料として、生物顕微鏡で赤色顔料の粒子形状を確認した。

3. 結果

分析により得られたスペクトルおよびFP法による半定量分析の結果を図391に示す。ケイ素(Si)、アルミニウム(Al)、鉄(Fe)、硫黄(S)が主に検出され、他にリン(P)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、銅(Cu)、スズ(Sn)、鉛(Pb)が検出された。また、生物顕微鏡観察により得られた画像を図398に示す。赤色パイプ状の粒子は観察されなかった。

4. 考察

赤色顔料の代表的なものとしては、朱(水銀朱)とベンガラが挙げられる。水銀朱は硫化水銀(HgS)で、鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。ベンガラは狭義には三酸化二鉄(Fe_2O_3 、鉱物名は赤鉄鉱)を指すが、広義には鉄(III)の発色に伴う赤色顔料全般を指し(成瀬, 2004)、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約1 μ m のパイプ状の粒子形状からなるものも多く報告されている。このパイプ状の粒子形状は鉄バクテリア起源であると判明しており(岡田, 1997)、鉄バクテリア起源の含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す(成瀬, 1998)。鉄バクテリア起源のパイプ状粒子は、湿地などで採集できる。

今回分析した試料は、銅鏡に由来する銅、スズ、鉛や、アルミニウム、ケイ素など土中成分に由来すると考えられる元素は検出されたものの、水銀は検出されなかった。鉄が多く検出されており、赤

い発色は鉄によると推定できる。すなわち、顔料としてはベンガラにあたる。パイプ状粒子は観察されず、いわゆるパイプ状ベンガラではなかった(図398)。

5. おわりに

銅鏡に付着する赤色顔料について分析した結果、鉄が多く検出され、鉄(Ⅲ)による発色と推定された。顔料としてはベンガラにあたる。

技術協力

竹原弘展(パレオ・ラボ)

引用文献

成瀬正和(1998)縄文時代の赤色顔料Ⅰ—赤彩土器—。考古学ジャーナル, 438, 10-14, ニューサイエンス社。

成瀬正和(2004)正倉院宝物に用いられた無機顔料。正倉院紀要, 26, 13-61, 宮内庁正倉院事務所。

岡田文男(1997)パイプ状ベンガラ粒子の復元。日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集, 38-39。

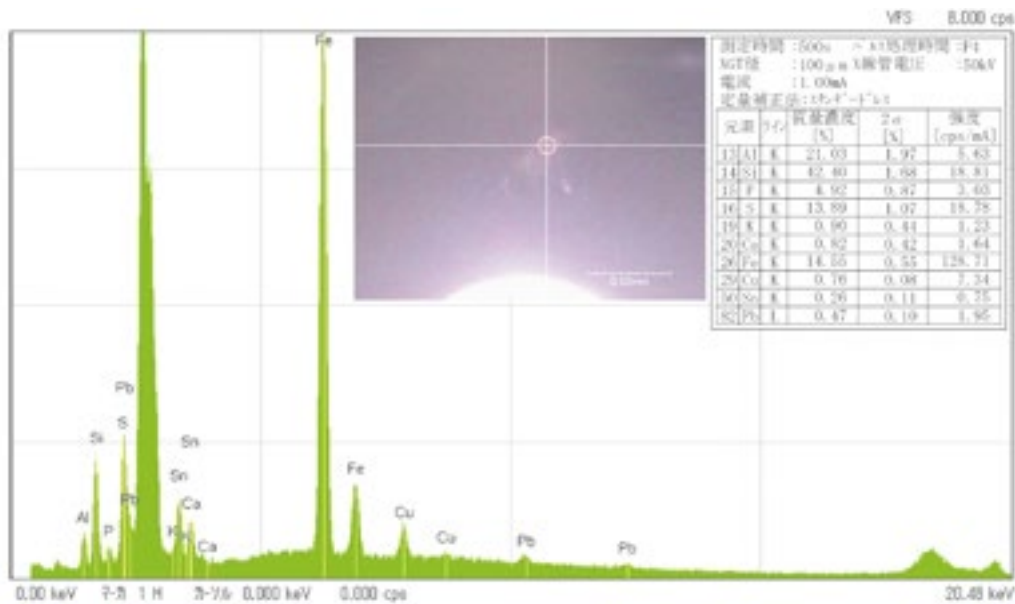


図397 赤色顔料の蛍光X線分析結果

3. 若宮ノ東遺跡出土銅鏡附着赤色顔料分析

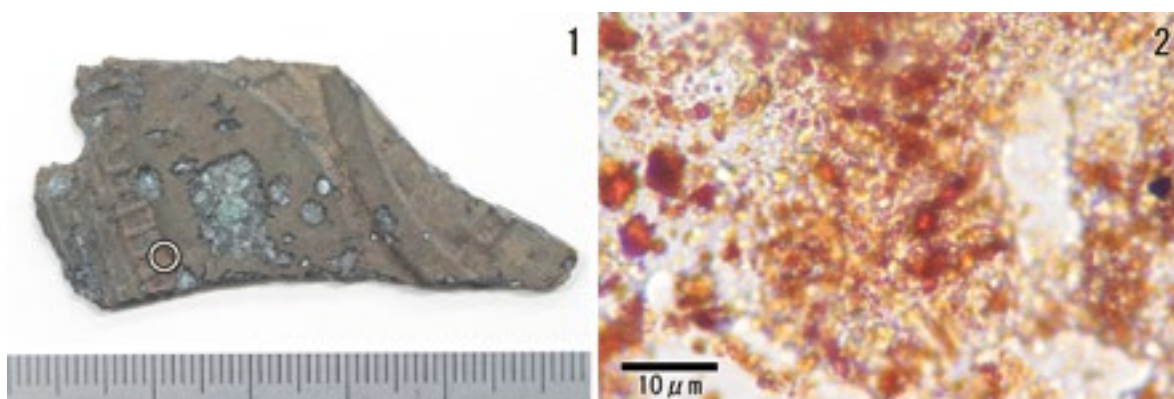


図398 試料採取位置および赤色顔料の生物顕微鏡写真

1. 分析対象遺物写真(○は試料採取位置) 2. 赤色顔料の生物顕微鏡写真



図399 地金の分析位置(図中の○は面分析位置)

4. 若宮ノ東遺跡出土内行花文鏡の蛍光X線分析

株式会社 イビソク

1. はじめに

南国市篠原に所在する若宮ノ東遺跡より出土した内行花文鏡について、蛍光X線分析を行い、その材質を検討した。

2. 試料と方法

分析対象は、2区で出土した内行花文鏡破片である。蛍光X線分析装置による8mm照射径での面分析を行った。測定位置を図版1bに示す。測定は非破壊で行った。また、鏡背面に付着する赤色顔料については別途極微量を採取して分析を行った。

面分析には、オリンパス株式会社製のハンドヘルド蛍光X線分析計VANTA M seriesを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、800 μ Aのロジウム(Rh)ターゲット、X線照射径が8mmまたは4mm、X線検出器はSDD検出器である。また、8ポジションの自動選択フィルタが内蔵されており、S/N比の改善が図れる。検出可能元素はマグネシウム(Mg)～ウラン(U)である。測定条件は、Alloy Plus Extraメソッド、管電圧50kV、測定時間(s)がビーム1 12s・ビーム2 14s、管電流自動設定、照射径は8mm、試料室内雰囲気は大気に設定した。FP法による半定量分析を装置内蔵ソフトで行った。

蛍光X線分析は、表面分析であり、均質とは限らない金属製品の正確な組成比を必ずしも示しているとはいえないが、おおよその主成分や、含まれている微量元素を知る上では非常に有効な手法である。

3. 結果

面分析により得られた半定量分析結果を表9に示す。主として鉄(Fe)、ニッケル(Ni)、銅(Cu)、ヒ素(As)、銀(Ag)、スズ(Sn)、アンチモン(Sb)、鉛(Pb)、ビスマス(Bi)が検出された。

表9 面分析結果 (mass%)

元素El	Zr	Zn	Sn	Si	Sb	Pb	P	Ni	Hg	Fe	Cu	Bi	As	Al	Ag
濃度%	0.005	0.026	68.29	1.733	0.617	5.72	0.167	0.068	0.302	0.418	20.514	0.153	0.277	1.51	0.202
誤差+/-	0.001	0.007	0.16	0.073	0.023	0.032	0.025	0.006	0.021	0.016	0.078	0.009	0.026	0.2	0.006

4. 考察

銅合金製品は、腐食により遺物表面の化学組成に変化が生じており、位置により含有率が大きく異なる。そのため、非破壊分析である今回の分析結果より、細かい組成比について検討すべきではない点にあらかじめ留意する必要がある。

銅(Cu)、スズ(Sn)、鉛(Pb)を主成分とした、Cu-Sn-Pb系の青銅製品と考えられる。ほかに鉄(Fe)、ニッケル(Ni)、ヒ素(As)、銀(Ag)、アンチモン(Sb)、ビスマス(Bi)が検出された。またアルミニウム(Al)やケイ素(Si)は土壌由来の成分と考えられる。

4. 若宮ノ東遺跡出土内行花文鏡の蛍光X線分析

5. おわりに

内行花文鏡の蛍光X線分析を行った結果、Cu-Sn-Pb系の青銅製品と定性的に考えられた。

技術協力

竹原弘展 (パレオ・ラボ)

参考文献

中井 泉編 (2005) 蛍光X線分析の実際. 242p, 朝倉書店.

遺構計測表

表10 ST計測表

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	平面形	規 模				床面標高(m)	主軸方向	時期等
				長軸 (m)	短軸 (m)	床面積 (㎡)	規 模			
1区	ST1	H28	隅丸方形	5.6	(3.9)	31.3	大型	6.9	N - 6° - E	弥後末~古墳初頭
1区	ST2	H28	円形 (多角形)	(7.1)	—	39.5	〃	7.0 ~ 7.2	N - 5° - W	〃
1区	ST3	H28	隅丸長方形	(4.0)	(2.4)	—	—	6.9 ~ 7.2	N - 3° - W	〃
1区	ST4	H28	隅丸方形	4.5	(2.8)	20.2	標準	7.3	N - 4° - E	〃
1区	ST5	H28	隅丸方形	3.6	3.1	11.1	小型	6.9 ~ 7.0	N - 91° - W	古墳初頭
1・2-1区	ST6	H28	隅丸方形 (多角形)	(8.0)	(4.9)	—	—	6.9 ~ 7.2	—	弥後末~古墳初頭
1区	ST7	H28	隅丸長方形	3.0	2.4	7.2	小型	7.2	N - 58° - E	弥生後期末
1区	ST8	H28	隅丸方形	5.0	4.8	24.0	標準	7.0	N - 10° - W	弥後末~古墳初頭
1区	ST9	H28	隅丸方形	5.0	4.4	22.0	標準	7.0 ~ 7.1	N - 3° - E	〃
1区	ST10	H28	隅丸方形	3.1	3.0	9.1	—	6.7	N - 68° - E	古墳初頭
1区	ST11	H28	隅丸方形	(5.6)	(5.6)	31.3	大型	6.7 ~ 6.8	N - 3° - E	弥後末~古墳初頭
2-1区	ST12	H28	隅丸方形か	6.1	(2.9)	37.2	大型	7.1	N - 4° - E	〃
2-1区	ST13	H28	隅丸方形か	7.2	(2.6)	51.8	特大型	6.7 ~ 6.9	N - 2° - E	〃
1区	ST14	H28	隅丸方形	6.2	5.8	35.9	大型	6.9 ~ 7.0	N - 25° - E	後期後葉
1・2-1区	ST15	H28	隅丸方形	5.8	5.7	33.0	大型	6.8 ~ 6.9	N - 2° - E	弥後末~古墳初頭
1区	ST16	H28	円形か	(3.9)	—	—	—	6.8 ~ 6.9	—	〃
1区	ST17	H28	円形	(8.0)	(7.2)	50.2	特大型	6.8 ~ 6.9	—	〃
1区	ST18	H28	隅丸方形	(4.6)	(3.3)	—	—	6.9 ~ 7.0	N - 40° - E	—
1区	ST19	H28	方形	(5.3)	5.5	30.2	大型	6.8 ~ 6.9	N - 5° - E	弥後末~古墳初頭
1区	ST20	H28	隅丸方形	(4.0)	5.4	29.1	標準	7.0	N - 30° - E	〃
2-1区	ST21	H28	円形か	6.6	(4.7)	34.1	大型	6.6 ~ 6.8	—	〃
1区	ST22	H28	隅丸長方形	(3.6)	(2.8)	—	—	7.1	N - 24° - E	弥生後期末
2-3区	ST23	H29	隅丸方形か	(1.8)	(1.6)	—	—	7.1	N - 18° - E	弥後末~古墳初頭
24区	ST24	H30	隅丸方形か	(1.1)	—	—	—	6.9 ~ 7.1	N - 44° - E	〃
24区	ST25	H30	隅丸方形	5.3	(3.4)	28.0	標準	7.2 ~ 7.3	N - 6° - E	〃
24区	ST26	H30	隅丸方形	5.5	(2.9)	30.2	大型	7.0 ~ 7.1	N - 16° - E	古墳初頭
3区	ST1	H28	六角形	3.5	—	31.8	大型	6.7 ~ 6.9	N - 53° - W	弥後末~古墳初頭
3区	ST2	H28・29	隅丸長方形	4.0	2.7	11.0	小型	6.6 ~ 6.7	N - 86° - E	弥生後期末か
3区	ST3	H29	隅丸長方形	2.0	(1.5)	—	—	6.8 ~ 6.9	N - 38° - E	—
3区	ST4	H30	円形	(6.0)	—	28.2	標準	7.0	—	弥生後期末か
3区	ST5	H30	隅丸方形か	(4.6)	(4.0)	—	—	6.9	—	〃
3区	ST6	H30	不明	(2.7)	(2.4)	—	—	6.8 ~ 6.9	—	古墳初頭

表11 SB計測表

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	規模		柱間寸法		床面積 (㎡)	主軸方向	時 期
			桁行×梁行		桁行 (m)	梁行 (m)			
1区	SB1	H28	4×3	9.00×6.00	2.1 ・2.4	1.8 ・2.1	54.0	N-12°-E	古 代
1区	SB2	H28	3×2	4.72×3.47	1.3 ~2.1	1.7	16.3	N-21°-E	-
1区	SB3	H28	3×2	4.70×4.00	1.3 ~1.8	1.9	18.8	N-22°-E	-
1区	SB4	H28	4×3	7.23×5.09	1.5 ~3.4	1.5 ~3.5	36.8	N-72°-W	-
1区	SB5	H28	4×2	7.43×3.13	1.4 ~2.3	1.4 ~1.7	23.2	N-73°-W	-
1区	SB6	H28	2×2	4.27×3.74	1.7 ~2.6	1.9 ~3.7	15.9	N-8°-E	-
1区	SB7	H28	4×3	7.27×4.49	1.7 ~3.4	1.3 ~1.6	32.6	N-86°-W	-
1区	SB8	H28	2×1	4.37×2.66	1.9 ~2.3	2.6	11.6	N-14°-E	-
1区	SB9	H28	3×2	5.57×3.92	1.7 ~5.5	1.5 ~2.4	21.8	N-76°-W	-
1区	SB10	H28	2×2	5.55×3.89	2.2 ~3.2	1.9	21.5	N-78°-W	-
1区	SB11	H28	3×2	5.40×5.08	1.5 ~2.4	2.6	27.4	N-14°-E	-
1区	SB12	H28	3×2	5.98×3.85	1.7 ~2.5	1.9	23.0	N-4°-E	-
1区	SB13	H28	4×2	5.82×2.58	1.6 ~4.2	1.3	15.0	N-73°-W	-
1区	SB14	H28	2×1	3.57×2.34	1.5 ~2.1	2.3	8.3	N-77°-W	-
1区	SB15	H28	3×2	5.48×4.00	1.8 ~1.9	2.0	21.9	N-9°-E	-
1区	SB16	H28	5×4	10.04×9.21	2.1 ~6.0	1.6 ~4.1	92.4	N-70°-W	古代末
1区	SB17	H28	3×2	5.07×2.52	1.4 ~2.1	1.1 ~1.8	12.7	N-76°-W	-
1区	SB18	H28	3×2	3.99×3.37	1.0 ~2.4	1.5 ~3.3	18.3	N-74°-W	-
1区	SB19	H28	4×3	8.20×5.56	1.8 ~3.9	1.8	45.5	N-74°-W	中 世
1区	SB20	H28	3×2	5.70×3.62	1.6 ~3.5	1.8	20.6	N-14°-E	-
1区	SB21	H28	4×3	5.37×3.99	1.3 ~2.9	1.2 ~2.6	21.4	N-21°-E	-
1区	SB22	H28	4×2	5.03×3.28	1.0 ~2.8	1.4 ~1.8	16.4	N-75°-W	-
1区	SB23	H28	3×2	6.62×3.74	1.6 ~2.6	1.8 ~1.9	24.7	N-68°-W	中 世
1区	SB24	H28	3×2	6.99×3.65	1.8 ~2.7	1.6 ~1.8	25.5	N-70°-W	古代末
1区	SB25	H28	2×2	7.29×4.95	3.3 ~4.0	1.8 ~3.2	36.0	N-78°-W	-
1区	SB26	H28	3×2	6.59×2.74	1.4 ~2.5	1.5・2.7	18.0	N-70°-W	中 世
1区	SB27	H28	3×1	6.79×2.33	1.7 ~2.7	2.3	15.8	N-72°-W	-

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	規模		柱間寸法		床面積 (㎡)	主軸方向	時 期
			桁行×梁行		桁行 (m)	梁行 (m)			
1区	SB28	H28	3×2	5.11×2.65	1.8 ~2.9	1.2 ~1.4	13.5	N-75°-W	-
1区	SB29	H28	2×1	2.77×1.72	1.1 ~1.5	1.7	4.7	N-74°-W	-
1区	SB30	H28	3×2	4.58×2.74	1.3 ~1.6	1.4 ~2.7	12.5	N-85°-E	-
1区	SB31	H28	2×2	4.88×3.30	2.4	1.7	16.1	N-86°-E	-
1区	SB32	H28	3×2	4.14×2.99	1.3 ~1.6	1.5	12.3	N-5°-W	-
1区	SB33	H28	3×2	4.41×3.11	1.4・2.9	1.5 ~1.6	13.7	N-88°-E	-
1区	SB34	H28	3×2	7.23×4.23	2.2	2.1 ~2.4	30.5	N-78°-W	-
1区	SB35	H28	2×2	4.55×3.61	2.2 ~4.5	1.7 ~3.6	16.4	N-80°-W	-
1区	SB36	H28	2×1	4.56×2.57	2.1 ~2.4	2.5	11.7	N-80°-W	-
1区	SB37	H28	2×1	4.62×2.12	2.2 ~2.4	2.1	9.7	N-80°-W	中世
1区	SB38	H28	2×1	2.67×1.38	1.1 ~1.5	1.3	3.6	N-83°-E	-
1区	SB39	H28	3×2	7.03×5.42	2.0 ~4.3	2.6 ~5.4	38.1	N-85°-W	-
1区	SB40	H28	3×2	4.45×3.43	1.1 ~1.8	1.7 ~1.8	15.2	N-79°-W	-
1区	SB41	H28	3×2	5.91×3.85	1.9 ~2.2	1.8 ~2.2	22.7	N-70°-W	-
1区	SB42	H28	2×1	3.70×2.99	1.8	2.9	11.0	N-8°-E	-
1区	SB43	H28	3×2	5.79×3.52	1.7 ~4.0	1.5 ~3.5	20.3	N-76°-W	-
1区	SB44	H28	3×2	6.42×3.66	1.8 ~2.6	1.9	23.4	N-72°-W	-
1区	SB45	H28	2×2	5.30×3.64	2.3 ~3.0	1.7 ~1.9	19.2	N-72°-W	-
1区	SB46	H28	2×2	6.58×4.51	2.3 ~4.2	2.0 ~2.5	29.6	N-76°-W	近世か
1区	SB47	H28	3×2	6.34×4.95	1.8 ~4.2	2.4 ~2.5	31.3	N-12°-E	-
1区	SB48	H28	2×2	3.84×3.27	1.9	1.6 ~1.7	12.5	N-6°-E	-
1区	SB49	H28	2×2	5.32×3.78	1.7 ~3.4	3.7	20.1	N-14°-E	中世
1区	SB50	H28	3×1	6.44×3.46	1.6 ~3.3	3.4	22.2	N-10°-E	-
1区	SB51	H28	3×2	5.86×3.87	1.9	1.7 ~2.0	22.6	N-12°-E	-
1区	SB52	H28	4×2	8.86×6.89	2.0 ~2.6	2.4 ~4.9	61.0	N-74°-W	-
1区	SB53	H28	(1)×1	(2.32)×3.48	2.0・2.3	3.4	—	N-9°-E	-
1区	SB54	H28	2×1	3.37×(1.50)	1.6 ~3.3	1.5	5.0	N-84°-W	-
1区	SB55	H28	3×2	7.26×3.83	1.9 ~2.7	1.9 ~2.0	27.8	N-75°-W	-

SB計測表

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	規 模		柱間寸法		床面積 (㎡)	主軸方向	時 期
			桁行×梁行		桁行 (m)	梁行 (m)			
1区	SB56	H28	4×2	6.11×3.08	1.2 ~1.8	1.5 ~1.6	18.8	N-10°-E	-
1区	SB57	H28	3×2	6.16×5.88	2.3 ~3.5	1.8 ~2.3	36.2	N-7°-E	-
1区	SB58	H28	3×2	4.72×2.08	1.2 ~3.4	1.2 ~1.8	9.8	N-80°-W	-
1区	SB59	H28	3×1	5.40×3.95	1.5 ~1.9	3.9	21.3	N-78°-W	-
1区	SB60	H28	5×1	12.39×3.68	1.9 ~4.4	3.6	45.5	N-79°-W	-
1区	SB61	H28	2×2	6.56×3.71	2.7 ~3.7	1.6 ~2.1	24.3	N-81°-W	-
1区	SB62	H28	2×2	3.83×3.08	1.8 ~2.0	1.4	11.7	N-11°-E	-
1区	SB63	H28	(2)×2	(2.20)×5.57	(1.5) ~(2.2)	2.0 ~3.5	-	N-6°-E	-
1区	SB64	H28	3×2	5.07×3.78	1.2 ~2.0	2.1	19.1	N-77°-W	-
1区	SB65	H28	2×1	3.63×2.71	3.6	1.3 ~1.4	9.8	N-81°-W	-
1区	SB66	H28	3×2	5.68×3.77	1.8	1.9	21.4	N-77°-W	中世
1区	SB67	H28	3×1	6.28×2.51	1.7 ~4.6	2.5	13.2	N-66°-E	-
1区	SB68	H28	3×2	5.42×2.67	1.3 ~4.0	1.2 ~1.4	14.4	N-74°-W	-
1区	SB69	H28	2×2	4.02×4.01	2.0	1.9 ~2.1	16.1	N-10°-E	-
2区	SB1	H30	(1)×2	(2.40)×3.30	2.4	1.5・1.8	-	N-3°-E	-
2区	SB2	H30	3×1	5.70×4.20	1.8 ~5.7	4.2	23.9	N-82°-W	古代末
2区	SB3	H29	(2)×(1)	(2.70)×(1.60)	1.3	1.6	-	N-18°-E	古代
2区	SB4	H29	3×(1)	7.26×(1.83)	2.4 ・2.5	1.8・1.9	-	N-83°-W	-
2区	SB5	H29	3×(1)	7.13×(1.91)	2.1 ・2.5	1.8・2.0	-	N-79°-W	-
2区	SB6	H29	2×(1)	4.13×(1.38)	1.9 ・2.0	1.3	-	N-71°-W	-
2区	SB7	H29	6×3	12.92×6.67	2.0 ~2.3	2.2 ~4.3	86.1	N-67°-W	古代末
2区	SB8	H28 H29	5×1or2	12.09×7.68	2.0 ~2.8	-	92.8	N-73°-W	-
2区	SB9	H29	2×2	3.48×1.98	1.6 ~1.8	0.9 ~1.2	6.8	N-73°-W	-
2区	SB10	H28 H29	4×2	8.97×4.05	1.8 ~3.1	1.7 ~2.1	36.3	N-87°-W	-
2区	SB11	H28 H29	4×(1)	8.69×(2.17)	1.7 ~2.5	2.0 ~2.2	-	N-85°-W	-
2区	SB12	H28	2×2	5.21×3.49	2.4 ~5.2	1.5 ~1.8	18.1	N-85°-W	-
2区	SB13	H28	2×2	5.56×2.85	2.3・3.2	1.2・1.4	15.8	N-75°-W	-
2区	SB14	H28	3×2	5.54×2.80	1.4 ~2.3	1.4	15.5	N-77°-W	-

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	規 模		柱間寸法		床面積 (㎡)	主軸方向	時 期
			桁行×梁行		桁行 (m)	梁行 (m)			
2区	SB15	H28	2×2	3.84×2.55	1.7・2.1	1.1・1.4	9.7	N-75°-W	-
2区	SB16	H28	3×(1)	4.58×(1.23)	1.3・1.6	1.2	-	N-78°-W	-
2区	SB17	H28	3×1or2	7.39×4.31	1.8 ~3.0	-	31.8	N-74°-W	-
2区	SB18	H28	3×1or2	6.73×4.36	1.9 ~2.9	-	29.3	N-76°-W	中 世
2区	SB19	H28	3×1or2	6.11×4.18	1.9 ~3.8	-	25.5	N-72°-W	-
2区	SB20	H28	4×4	9.14×6.61	1.8 ~4.2	1.7・1.8	60.4	N-78°-W	-
3区	SB1	H30	3×2	6.90×4.50	2.2 ~4.6	2.1 ~4.5	31.0	N-89°-E	古代末
3区	SB2	H30	5×2	10.50×6.60	1.3 ~2.5	2.4・4.2	69.3	N-87°-W	古代末
3区	SB3	H30	3×1	6.30×4.20	1.9 ~2.2	4.2	26.4	N-74°-W	古代末
3区	SB4	H30	3×2	7.20×4.20	1.7 ~5.5	1.9・2.2	30.2	N-76°-W	-
3区	SB5	H30	3×2	6.90×4.20	2.1 ~4.8	2.1	28.9	N-75°-W	古代末
3区	SB6	H30	2×1	4.50×4.50	2.1 ~2.4	4.5	20.2	N-15°-E	-
3区	SB7	H30	3×2	5.70×4.80	1.8・2.1	2.4	27.3	N-88°-W	-
3区	SB8	H30	3×2	7.50×4.20	2.0 ~3.3	2.1	31.5	N-89°-E	古代末
3区	SB9	H29 H30	3×3か	6.30×6.30	2.2・4.1	1.5 ~2.6	39.6	N-2°-E	-
3区	SB10	H29	2×2	6.12×4.85	2.6 ・3.6	2.3 ~4.8	29.6	N-81°-W	-
3区	SB11	H29	3×2	6.59×3.13	1.7 ~3.7	1.5 ~1.6	20.6	N-82°-W	-
3区	SB12	H29	2×1	6.33×1.82	3.0 ~3.2	1.7・1.8	11.5	N-78°-W	-
3区	SB13	H29	2×2	5.93×3.63	2.6 ~3.0	1.7 ~1.9	21.5	N-78°-W	-
3区	SB14	H29	2×1	5.17×4.02	2.6 ~2.9	4.0	20.7	N-12°-E	-
3区	SB15	H29	4×5	10.62×9.46	1.6 ~2.0	2.6 ~3.4	100.4	N-77°-W	-
3区	SB16	H29	2×3	6.43×6.06	3.1 ~3.3	1.8 ~4.0	38.9	N-78°-W	-
3区	SB17	H29	2×2	6.93×4.53	3.2 ・3.7	2.2 ~4.5	31.3	N-80°-W	-
3区	SB18	H29	3×2	7.27×3.98	1.9 ~4.0	1.8・2.1	28.9	N-78°-W	-
3区	SB19	H29	3×2	4.80×2.46	1.2 ~1.9	0.8 ~2.4	11.8	N-83°-W	-
3区	SB20	H29	2×2	6.45×2.60	2.6・3.9	1.0 ~1.6	16.7	N-83°-E	-
3区	SB21	H29	3×2	6.42×4.67	1.8 ~4.6	1.9 ~4.6	29.9	N-6°-W	-
3区	SB22	H29	3×2	5.55×4.09	1.7 ~2.1	1.9・2.1	22.6	N-12°-E	-

SA計測表

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	規模		柱間寸法		床面積 (㎡)	主軸方向	時 期
			桁行×梁行		桁行 (m)	梁行 (m)			
3区	SB23	H29	3×1	6.16×3.51	1.4 ～1.9	3.5	21.6	N-14°-E	-
3区	SB24	H29	2×1	4.11×2.93	2.0・2.1	2.9	12.0	N-13°-E	-
3区	SB25	H29	2×1	3.73×2.80	1.6 ～2.1	2.8	10.4	N-11°-E	-
3区	SB26	H29	2×1	5.61×3.73	2.7 ～2.9	3.7	20.9	N-76°-W	-
3区	SB27	H28 H29	2×1	7.62×2.72	3.4 ～4.0	2.7	20.7	N-79°-W	-
3区	SB28	H28 H29	4×2	8.06×3.17	1.5 ～6.5	1.6・1.7	25.5	N-75°-W	-
3区	SB29	H28 H29	5×2	9.88×4.39	1.7 ～2.3	2.1 ～2.2	43.3	N-75°-W	中 世
3区	SB30	H28 H29	3×1	6.16×3.79	1.5 ～2.4	3.7	23.3	N-77°-W	-
3区	SB31	H28	4×2	7.51×3.91	1.7 ～2.1	1.8 ～3.9	29.3	N-12°-E	-
3区	SB32	H28	2×2	5.83×5.39	2.7 ～5.8	2.2 ～5.3	31.4	N-0°	-
3区	SB33	H28	2×1	7.49×3.63	2.5 ～4.9	3.6	27.1	N-88°-W	-
3区	SB34	H28	2×2	4.85×3.18	1.9 ～2.9	1.4 ～3.1	15.4	N-83°-W	-
3区	SB35	H28	2以上×2	(2.74)×3.17	1.4	1.6	-	N-88°-E	-

表12 SA計測表

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	規模		主軸方向		時 期
			検出長 (m)	柱間寸法 (m)			
1区	SA1	H28	17.7	2.9 ～3.0	N-11°-E	-	古 代
1区	SA2	H28	23.8	1.2 ～3.1	N-10°-E	-	古代か
1区	SA3	H28	21.9	1.1 ～2.7	N-9°-E	N-15°-E	-
1区	SA4	H28	21.7	0.8 ～2.6	N-10°-E	N-11°-E	-
1区	SA5	H28	46.6	2.2 ～6.9	N-76°-W	-	-
1区	SA6	H28	45.4	1.8 ～11.0	N-75°-W	-	-
2区	SA1	H28 H29	24.2	1.7 ～3.5	N-77°-W	-	-
2区	SA2	H28 H29	25.5	1.7 ～3.8	N-77°-W	-	-
2区	SA3	H29	13.3	2.0・2.1	N-77°-W	-	-
2区	SA4	H29	11.6	1.7 ～2.2	N-77°-W	-	-
3区	SA1	H28 H29	25.6	1.9 ～3.6	N-77°-W	-	-
3区	SA2	H28 H29	15.2	1.7 ～4.0	N-77°-W	-	-
3区	SA3	H28 H29	12.8	1.3 ～3.4	N-77°-W	-	古代末
3区	SA4	H28	6.3	2.0・2.3	N-75°-W	-	-

表13 SK計測表

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	平面形	規 模			方 向	時 期
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)		
1区	SK1	H28	長方形	2.02	0.72 ~ 0.75	88.5	N - 10° - E	近 世
1区	SK2	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK3	H28	長方形	1.14	0.70	45.8	N - 13° - E	近 世
1区	SK4	H28	楕円形	1.21	0.66	5.5	N - 14° - E	-
1区	SK5	H28	長方形	1.82	0.79	34.7	N - 10° - E	近 世
1区	SK6	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK7	H28	-	(1.70)	(0.15)	25.2	N - 18° - E	-
1区	SK8	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK9	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK10	H28	楕円形	(3.82)	2.31	47.0	N - 17° - E	近 世
1区	SK11	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK12	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK13	H28	円形か	(2.48)	(0.57)	15.3	-	-
1区	SK14	H28	溝状	4.87	0.45 ~ 0.90	25.8	N - 83° - W	近 世
1区	SK15	H28	溝状	2.99	1.06	43.2	N - 27° - E	-
1区	SK16	H28	溝状	14.1	0.28 ~ 0.41	17.5	N - 33° - E	-
1区	SK17	H28	不整円形	2.57	0.89 ~ 1.26	23.1	N - 82° - W	-
1区	SK18	H28	楕円形	1.13	0.85	10.2	N - 13° - W	-
1区	SK19	H28	溝状	1.70	0.40 ~ 0.52	38.4	N - 33° - E	-
1区	SK20	H28	不整円形	0.98	0.52 ~ 0.60	7.5	N - 22° - E	-
1区	SK21	H28	楕円形	1.88	0.73	8.9	N - 35° - E	-
1区	SK22	H28	隅丸方形	1.97	1.78	14.5	N - 10° - W	-
1区	SK23	H28	方形か	(1.75)	(1.03)	11.0	N - 9° - W	-
1区	SK24	H28	不整方形	1.12	1.01	14.5	N - 2° - W	-
1区	SK25	H28	楕円形	1.10	1.06	18.0	N - 2° - E	-
1区	SK26	H28	楕円形か	1.52	0.41	8.3	N - 75° - W	-
1区	SK27	H28	楕円形か	(0.67)	1.06	6.4	N - 20° - E	-
1区	SK28	H28	円形	1.07	1.05	50.5	-	近 世

SK計測表

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	平面形	規 模			方 向	時 期
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)		
1区	SK29	H28	楕円形か	1.82	1.70	40.6	N - 20° - E	近 世
1区	SK30	H28	不整楕円形	0.93	0.81	11.8	N - 5° - W	中 世
1区	SK31	H28	楕円形か	1.09	0.50	25.3	N - 70° - W	-
1区	SK32	H28	楕円形	1.37	0.96	31.4	N - 74° - W	中 世
1区	SK33	H28	楕円形	0.96	0.59	39.5	N - 0° - E	中 世
1区	SK34	H28	楕円形	(1.60)	1.18	34.1	N - 74° - W	-
1区	SK35	H28	楕円形か	(0.79)	(0.35)	16.6	N - 18° - W	-
1区	SK36	H28	楕円形	2.51	1.53	59.1	N - 91° - W	-
1区	SK37	H28	楕円形	(0.87)	0.80	33.2	N - 30° - E	-
1区	SK38	H28	方形	1.01	(0.76)	16.4	N - 28° - E	-
1区	SK39	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK40	H28	楕円形か	(1.40)	1.39	16.3	N - 20° - W	近 世
1区	SK41	H28	楕円形	1.44	1.13	25.2	N - 19° - E	-
1区	SK42	H28	楕円形か	(1.06)	0.64	9.8	N - 2° - W	-
1区	SK43	H28	楕円形	1.42	0.88	48.8	N - 80° - W	近 世
1区	SK44	H28	楕円形	1.46	(1.02)	23.8	N - 89° - W	-
1区	SK45	H28	隅丸方形	2.50	(0.61)	25.4	N - 75° - W	-
1区	SK46	H28	楕円形	1.44	1.00	23.3	N - 38° - E	-
1区	SK47	H28	楕円形か	(1.80)	(0.55)	30.9	N - 82° - W	近 世
1区	SK48	H28	楕円形か	(1.75)	(0.55)	14.6	N - 83° - W	〃
1区	SK49	H28	楕円形	4.88	(1.12 ~ 1.52)	36.3	N - 28° - E	〃
1区	SK50	H28	隅丸方形	1.87	(1.42)	8.4	N - 16° - E	-
1区	SK51	H28	楕円形	0.94	0.90	7.3	N - 30° - W	近 世
1区	SK52	H28	長方形	1.20	0.63 ~ 0.78	17.3	N - 65° - E	-
1区	SK53	H28	不整楕円形	1.33	0.97	14.2	N - 64° - W	近世か
1区	SK54	H28	楕円形	3.00	1.76	9.1	N - 10° - E	-
1区	SK55	H28	不整形か	(4.54)	(3.37)	34.5	N - 33° - E	近 世
1区	SK56	H28	楕円形	1.26	1.04	9.7	N - 40° - E	-

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	平面形	規 模			方 向	時 期
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)		
1区	SK57	H28	楕円形	1.44	0.98	69.9	N - 8° - E	-
1区	SK58	H28	隅丸方形か	(4.19)	3.95	12.4	N - 86° - W	近世
1区	SK59	H28	楕円形	(2.93)	(2.74)	9.8	N - 5° - E	近世
1区	SK60	H28	楕円形	1.24	0.70	14.9	N - 77° - E	-
1区	SK61	H28	楕円形	1.37	0.88	11.7	N - 89° - E	-
1区	SK62	H28	隅丸方形か	1.05	0.75	13.8	N - 64° - W	-
1区	SK63	H28	隅丸方形	(2.72)	2.68	14.4	N - 74° - W	-
1区	SK64	H28	不整長方形か	2.21	1.34	30.1	N - 82° - E	-
1区	SK65	H28	楕円形	(1.26)	1.06	6.4	N - 29° - E	近世
1区	SK66	H28	不整隅丸方形	7.82	(1.16 ~ 2.26)	46.4	N - 10° - E	近世
1区	SK67	H28	不整隅丸方形	2.08	1.44	33.4	-	-
1区	SK68	H28	不整方形か	(1.23)	(0.90)	8.9	N - 51° - E	-
1区	SK69	H28	楕円形	1.46	0.98	10.7	N - 32° - W	-
1区	SK70	H28	隅丸方形	(1.43)	1.14	9.3	N - 84° - E	-
1区	SK71	H28	楕円形	1.83	1.09	10.9	N - 13° - E	近世
1区	SK72	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK73	H28	楕円形	2.41	2.06	54.4	N - 66° - W	近世
1区	SK74	H28	楕円形	2.31	2.19	38.3	N - 14° - W	近世
1区	SK75	H28	楕円形か	1.89	(0.91)	37.3	N - 25° - E	近世
1区	SK76	H28	楕円形	0.84	0.79	9.7	N - 15° - E	-
1区	SK77	H28	楕円形	0.92	0.77	8.4	N - 20° - W	-
1区	SK78	H28	楕円形か	(0.88)	0.86	5.2	N - 0°	-
1区	SK79	H28	長方形	2.38	1.37	8.0	N - 17° - E	-
1区	SK80	H28	隅丸方形か	2.14	(2.12)	39.7	N - 5° - W	-
1区	SK81	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK82	H28	楕円形	2.12	1.80	6.3	N - 78° - E	近世
1区	SK83	H28	不整形か	(2.61)	1.30	20.8	N - 7° - E	近世
1区	SK84	H28	隅丸方形	1.86	1.83	24.0	N - 9° - E	近世

SK計測表

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	平面形	規 模			方 向	時 期
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)		
1区	SK85	H28	不整形	2.73	2.06	75.8	-	-
1区	SK86	H28	方形	1.13	1.08	19.0	N - 63° - W	中 世
1区	SK87	H28	不整楕円形	3.67	1.80	36.1	N - 41° - E	-
1区	SK88	H28	楕円形か	(1.05)	0.74	12.6	N - 76° - W	-
1区	SK89	H28	長方形	1.32	0.91	5.9	N - 81° - W	-
1区	SK90	H28	楕円形か	2.21	(1.00)	30.1	N - 8° - E	近 世
1区	SK91	H28	-	(1.23)	(0.25)	27.2	N - 13° - E	中世か
1区	SK92	H28	楕円形か	(1.20)	(0.47)	23.7	N - 63° - W	-
1区	SK93	H28	-	(0.93)	(0.52)	16.3	N - 83° - W	-
1区	SK94	H28	-	(0.90)	(0.19)	15.7	N - 3° - E	-
1区	SK95	H28	不整楕円形	4.69	(4.24)	35.7	N - 85° - W	古代末
1区	SK96	H28	不整楕円形	(1.58)	1.19	25.6	N - 20° - W	古代末
1区	SK97	H28	楕円形か	(2.14)	(1.45)	13.8	N - 84° - W	-
1区	SK98	H28	-	(0.90)	(0.35)	18.8	-	近 世
1区	SK99	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK100	H28	楕円形	2.84	0.98 ~ 1.29	16.6	N - 10° - E	-
1区	SK101	H28	楕円形	1.28	1.01	21.1	-	-
1区	SK102	H28	楕円形	2.12	1.02	33.0	N - 6° - E	-
1区	SK103	H28	楕円形	1.04	(0.85)	28.8	N - 32° - E	-
1区	SK104	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK105	H28	-	-	-	-	N - 32° - W	中 世
1区	SK106	H28	楕円形	2.26	2.02	47.5	N - 83° - E	-
1区	SK107	H28	隅丸方形	1.64	1.13	31.0	N - 7° - W	近 世
1区	SK108	H28	方形か	(1.22)	(2.17)	7.9	N - 10° - E	-
1区	SK109	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK110	H28	楕円形	1.16	1.00	11.3	N - 1° - E	近世か
1区	SK111	H28	不整形	2.26	1.71	48.4	N - 60° - W	近 世
1区	SK112	H28	方形か	3.76	(2.62)	67.9	N - 79° - W	近 世

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	平面形	規 模			方 向	時 期
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)		
1区	SK113	H28	不整方形か	5.92	(1.44)	95.5	N - 75° - W	近 世
1区	SK114	H28	不整楕円形	1.11	0.81	13.9	N - 76° - E	-
1区	SK115	H28	楕円形か	(0.73)	(0.90)	40.9	-	中 世
1区	SK116	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK117	H28	方形か	(2.53)	(2.24)	21.3	N - 79° - W	-
1区	SK118	H28	隅丸長方形	2.72	2.14	48.5	N - 16° - E	中 世
1区	SK119	H28	不整形	(1.87)	0.43	10.0	N - 74° - W	-
1区	SK120	H28	-	(2.03)	(0.58)	22.0	N - 82° - W	-
1区	SK121	H28	楕円形	1.89	1.22	2.8	N - 5° - E	-
1区	SK122	H28	楕円形か	(1.41)	(2.02)	5.8	N - 82° - E	-
1区	SK123	H28	長方形	3.48	1.51	43.8	N - 13° - E	近 世
1区	SK124	H28	方形	1.35	1.20	12.6	N - 27° - E	-
1区	SK125	H28	不整楕円形	3.81	1.65 ~ 2.00	11.8	N - 7° - E	-
1区	SK126	H28	方形か	(1.25)	1.34	17.8	N - 81° - W	-
1区	SK127	H28	不整円形	1.94	1.91	9.3	N - 13° - E	-
1区	SK128	H28	隅丸方形	1.76	(1.45)	29.5	N - 81° - W	近 世
1区	SK129	H28	不整楕円形	3.31	2.24	26.0	N - 89° - W	近 世
1区	SK130	H28	楕円形	1.31	0.88	7.9	N - 79° - W	-
1区	SK131	H28	隅丸方形	(1.06)	1.57	19.9	N - 8° - E	-
1区	SK132	H28	楕円形	1.42	1.06	17.9	N - 7° - E	-
1区	SK133	H28	楕円形	2.19	1.22	55.6	N - 75° - W	-
1区	SK134	H28	隅丸方形	1.56	1.52	19.0	N - 20° - E	近 世
1区	SK135	H28	楕円形か	(0.98)	1.07	10.1	N - 10° - E	-
1区	SK136	H28	楕円形	1.58	0.66	8.6	N - 46° - W	-
1区	SK137	H28	長方形か	3.12	0.90 ~ 1.10	37.6	N - 22° - E	-
1区	SK138	H28	長方形	2.26	1.53	13.7	-	-
1区	SK139	H28	楕円形	1.34	(0.89)	34.9	N - 13° - E	-
1区	SK140	H28	長方形	4.81	2.12	45.8	N - 16° - E	中 世

SK計測表

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	平面形	規 模			方 向	時 期
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)		
1区	SK141	H28	楕円形	1.73	1.36	16.6	N - 26° - E	近 世
1区	SK142	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK143	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK144	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK145	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK146	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK147	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK148	H28	方形	0.88	0.87	11.5	N - 3° - E	
1区	SK149	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK150	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK151	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK152	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK153	H28	方形	1.81	1.54	25.8	N - 27° - E	中 世
1区	SK154	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK155	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK156	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK157	H28	楕円形か	(1.31)	(0.80)	29.5	N - 17° - E	近 世
1区	SK158	H28	楕円形	1.53	(0.87)	7.0	N - 45° - E	-
1区	SK159	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK160	H28	-	(0.40)	0.73	12.5	N - 80° - W	-
1区	SK161	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK162	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK163	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK164	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK165	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK166	H28	楕円形か	(1.00)	0.81	9.7	-	-
1区	SK167	H28	楕円形	(1.39)	(1.40)	9.2	N - 4° - E	-
1区	SK168	H28	-	-	-	-	-	-

調査 区名	遺構 番号	調査 年度	平面形	規 模			方 向	時 期
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)		
1区	SK169	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK170	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK171	H28	-	-	-	-	-	-
1区	SK172	H28	-	-	-	-	-	-
1区	ハンダ SK1	H28	円形	1.22	1.13	42.7	-	近世
1区	ハンダ SK2	H28	隅丸方形	1.40	1.30	40.2	N - 20° - E	近世
2区	SK1	H28	楕円形か	1.74	(0.68)	13.9	N - 53° - W	-
2区	SK2	H28	円形	0.92	0.82	22.2	-	-
2区	SK3	H28	楕円形	1.74	0.69	8.0	N - 81° - W	-
2区	SK4	H28	楕円形	0.93	0.72	20.9	N - 72° - E	-
2区	SK5	H28	楕円形	(1.00)	0.58	14.0	N - 73° - W	-
2区	SK6	H28	溝状か	(5.05)	(0.44)	12.8	N - 75° - W	-
2区	SK7	H28	楕円形か	1.05	(0.52)	6.9	N - 69° - W	-
2区	SK8	H28	隅丸方形か	(0.88)	(0.77)	12.0	N - 32° - W	中世
2区	SK9	H28	方形	1.43	(1.34)	17.4	N - 16° - E	-
2区	SK10	H28	長方形	1.69	0.61	15.7	N - 21° - W	-
2区	SK11	H28	-	-	-	-	-	-
2区	SK12	H28	方形	2.70	(0.96)	20.4	N - 12° - E	-
2区	SK13	H28	隅丸方形	2.64	(1.75)	39.4	N - 85° - W	古代以降
2区	SK14	H28	-	-	-	-	-	-
2区	SK15	H28	方形か	(0.79)	0.63	7.8	N - 3° - E	-
2区	SK16	H28	楕円形か	1.16	(0.25)	8.4	N - 80° - W	-
2区	SK17	H28	楕円形か	1.54	(0.89)	37.6	N - 14° - E	-
2区	SK18	H28	隅丸方形か	3.34	3.40	56.5	N - 20° - E	中世
2区	SK19	H28	楕円形か	4.43	3.56	342.4	-	中世
2区	SK20	H28	溝状	(1.40)	0.52	20.2	N - 60° - E	-
2区	SK21	H28	楕円形	1.39	0.64	20.5	N - 22° - E	-
2区	SK22	H28	楕円形か	(1.28)	(0.52)	11.6	N - 83° - W	-

SK計測表

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規模			方向	時期
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)		
2区	ハンダ土坑	H28	円形	1.92	(1.34)	17.4	-	近世
2区	SK23	H29	隅丸方形か	(0.81)	0.77	11.5	N - 85° - W	-
2区	SK24	H29	不明	(1.02)	(0.25)	9.9	-	-
2区	SK25	H29	不明	(0.57)	(0.44)	4.0	-	-
2区	SK26	H29	不整形	0.52	(0.28)	3.5	-	-
2区	SK27	H29	-	-	-	-	-	-
2区	SK28	H29	不整円形	0.70	0.71	12.0	-	-
2区	SK29	H29	不整形	1.17	1.18	8.7	-	-
2区	SK30	H29	溝状	1.37	0.27	11.1	N - 65° - W	-
2区	SK31	H29	不整円形	0.84	0.84	9.0	-	-
2区	SK32	H30	円形	1.87	(1.87)	42.7	-	-
2区	SK33	H30	-	-	-	-	-	近世
2区	SK34	H30	不整形	-	-	-	-	-
3区	SK1	H28	楕円形	1.00	0.82	22.0	N - 8° - W	中世
3区	SK2	H28	楕円形	1.10	0.95	10.2	N - 35° - W	-
3区	SK3	H28	方形	1.00	0.95	18.7	N - 14° - E	-
3区	SK4	H28	楕円形	1.28	0.96	9.6	N - 20° - E	-
3区	SK5	H28	楕円形	1.25	0.97	17.0	N - 68° - W	古代
3区	SK6	H28	方形か	1.50	(0.75)	13.2	N - 57° - W	-
3区	SK7	H28	方形	2.35	1.30	13.5	N - 10° - E	-
3区	SK8	H28	不整形	1.73	1.65	8.7	N - 23° - E	-
3区	SK9	H28	楕円形か	(3.00)	(0.80)	10.2	N - 14° - E	-
3区	SK10	H28	方形	1.60	(0.52)	11.2	N - 7° - E	弥生
3区	SK11	H28	隅丸方形か	(2.30)	(1.60)	8.1	N - 13° - E	中世
3区	SK12	H28	不整形	(2.95)	(1.15)	16.8	N - 10° - E	-
3区	SK13	H28	不整形	2.35	1.45	23.9	N - 18° - E	-
3区	SK14	H28	-	(1.10)	(0.70)	7.4	N - 18° - E	-
3区	SK15	H29	隅丸方形	0.88	0.85	15.3	N - 26° - E	-

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規模			方向	時期
				長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)		
3区	SK16	H29	不整形	1.42	1.00	10.2	-	-
3区	SK17	H29	隅丸長方形	1.13	0.58	7.3	N - 15° - E	-
3区	SK18	H29	隅丸長方形	1.23	0.82	14.3	N - 64° - E	中世
3区	SK19	H29	不整円形	0.83	0.83	14.0	-	-
3区	SK20	H29	隅丸方形	0.71	0.69	10.5	N - 33° - E	-
3区	SK21	H29	不整円形	0.87	0.83	13.8	-	-
3区	SK22	H29	隅丸方形	0.90	0.90	4.5	N - 30° - E	-
3区	SK23	H29	不整長方形	1.30	0.95	11.1	N - 0°	-
3区	SK24	H29	不整長方形	0.68	0.59	4.5	N - 78° - E	-
3区	SK25	H29	隅丸長方形	0.71	0.58	27.2	N - 18° - E	-
3区	SK26	H29	不整形	-	-	-	-	-
3区	SK27	H29	不整形	1.77	0.80	36.8	N - 7° - E	-
3区	SK28	H29	溝状	1.64	0.48	16.5	N - 36° - W	-
3区	SK29	H29	不整長方形	1.94	0.73	23.2	N - 96° - E	-
3区	SK30	H29	隅丸方形	0.70	0.73	30.5	N - 53° - E	-
3区	SK31	H29	不整形	1.24	0.55	11.2	N - 32° - E	-
3区	SK32	H29	不整楕円形	1.24	0.57	22.3	N - 57° - W	-
3区	SK33	H29	溝状	(0.91)	0.37	4.0	N - 7° - E	-

遺物觀察表

凡例

器種：以下のように略記した。

弥生	弥生土器
ミニ	ミニチュア土器
土師	土師器
土質	土師質土器
須恵	須恵器
黒色	黒色土器
緑釉	緑釉陶器
瓦質	瓦質土器
東四国系	東四国系土器
手捏ね	手捏ね土器

器形：以下のように略記した。

複合	複合口縁壺
----	-------

法量：()内は復元値

色調：標準土色帖を使用した。

調整：外面/中面

特徴：黒斑	黒斑有り。
被熱	被熱変色有り。
キレツ	器面に亀裂が認められる。
煤	煤が付着している。
おこげ	おこげが付着している。
赤色顔料	赤色顔料が付着している。
赤彩	赤色塗彩

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量 (cm)				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図9 1	1区	ST1	弥生 甕	浅黄橙色 10YR8/4	橙色 5YR7/8	-	13.8	19.0	146	1.2	「く」。口縁：叩き後ナデ/ハケ。角の取れた平底。外底、叩き目。体部：叩き後ナデ/ハケ。黒斑。被熱・煤。
2	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	12.4	(15.5)	14.0	-	「く」。口縁：叩き後ハケ/ハケ。体部：叩き後ナデ/摩耗、ナデか。被熱・煤。
3	〃	〃	〃	浅黄橙色 10YR8/4	にぶい黄橙色 10YR6/3	黄灰色 2.5Y6/1	16.0	(6.3)	-	-	「く」。口縁：叩き後ナデ/ハケ。体部：叩き後ハケ・ナデ/ハケ・ナデ。被熱・煤。
4	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 7.5YR7/6	-	(12.5)	9.5	-	叩き後ナデ/ハケ・ナデ。肩内接合痕。被熱・煤。
5	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	-	(21.3)	17.7	4.8	ほぼ丸底。外底面、叩き後ナデ。叩き後ハケ/ハケ・ナデ。内底面、指圧。黒斑。
6	〃	〃	鉢	橙色 5YR6/6	褐色 7.5YR4/3	橙色 5YR6/6	9.4	5.6	-	4.2	口唇、面取り。内外面、ナデ。角の取れた平底。外底面、葉脈痕。体部：叩き後ナデ/ナデ。黒斑。被熱・煤。
7	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	9.0	6.9	-	2.3	平底。外底面、ナデ。叩き後ハケ/ハケ。キレツ。黒斑。
8	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	10.6	(4.9)	-	-	丸底。叩き後ナデ/粗いハケ。キレツ。黒斑。
9	〃	ST1_ P5	〃	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	11.2	7.3	-	3.0	丸底。叩き後ナデ・ハケ/ハケ。外底面、未穿孔有り。黒斑・煤。
10	〃	ST1	〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	12.0	6.5	-	2.6	摩耗。内外面、ナデか。内面、ミガキか。
11	〃	〃	〃	褐灰色 7.5YR4/1	褐灰色 10YR5/1	にぶい黄橙色 10YR7/2	13.1	7.5	-	1.7	丸底、半球形。叩き後ナデ/ハケ。被熱・煤。
12	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	浅黄褐色 7.5YR8/3	12.1	6.2	-	-	丸底。外底面、叩き・ナデ。叩き後ナデ/ハケ・ナデ。キレツ。
13	〃	〃	〃	灰褐色 7.5YR5/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	灰黄褐色 10YR5/2	14.9	6.5	-	3.0	丸底。口縁、上端部を摘み出し、口唇、凹面状。叩き後ナデ/ハケ・ナデ。キレツ。被熱・煤。
14	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	15.0	6.1	-	-	丸底。全面ハケ/ハケ・ナデ。黒斑。
15	〃	ST1_ P5	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	17.0	7.8	-	5.1	口唇、摘み上げ。丸底。外底面、ナデ。叩き後ナデ/ハケ。キレツ。黒斑。
16	〃	ST1	〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	にぶい黄褐色 10YR6/3	17.4	(7.6)	-	-	摩耗。叩き後ナデか/調整不明。
17	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	17.0	8.2	-	5.6	角の取れた平底。ハケで角を取る。外底面、ナデ。叩き後ナデ/粗いハケ。キレツ。被熱・煤。
18	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	18.7	7.8	-	-	口唇、尖らせる。口縁：ヨコハケ。ほぼ丸底。ハケにより丸底化。体部：叩き後ナデ/ハケ。キレツ。黒斑。
19	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	19.0	7.9	-	-	口唇、凹面状。叩き・内底面、押し出しにより丸底化。叩き後ナデ/ハケ・ナデ。キレツ。被熱。
20	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 7.5YR8/4	灰色 N5/0	26.4	(12.1)	-	-	外反口縁。内外面、ハケ。
図13 24	〃	ST2	壺	明赤褐色 5YR5/6	橙色 5YR6/6	オリーブ黒色 5Y3/1	12.3	(5.0)	-	-	頸部直立。口縁、外反。口唇、面取り。ハケ後ナデ/ハケ・ナデ。頸内接合痕。
25	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y4/1	14.1	(6.0)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：ヨコナデ/ヨコハケ。頸部：タテハケ/ハケ後ナデ。
26	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	21.0	(8.1)	-	-	口縁、大きく外反。口唇、面取り。タテハケ・ヨコナデ/摩耗、調整不明。ヨコナデ、ミガキか。
27	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	浅黄褐色 10YR8/3	19.9	(4.5)	-	-	口縁、外反。口唇、面取り凹面状。口縁：タテハケ後ヨコナデ後ミガキ/ヨコハケ後ミガキ。
28	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 2.5Y7/1	16.6	32.5	23.4	3.5	口縁、短く外反。口縁：ハケ/ナデ。ほぼ丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ・ナデ/ナデ。黒斑。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 13 29	1区	ST2	弥生 壺	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	12.6	22.5	19.2	1.8	「く」。口縁：ナデ/ハケ。ほぼ丸底。外底面，叩き目。 体部：叩き後ハケ/ハケ。上胴内接合痕。被熱・煤。
30	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/4	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	17.5	(7.5)	-	-	口縁，外反。上端，摘み上げ。下端，摘み出し。口頭：ハ ケ・ナデ。体部：叩き後ハケ/工具ナデ。煤。
31	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR6/3	14.3	(22.9)	27.3	-	複合。短く内傾。口唇，面取り。口縁：ヨコナデ・ハケ。 体部：叩き後ハケ・ミガキ/ハケ後ミガキ。黒斑。
32	〃	〃	〃	暗黄褐色 2.5Y5/2	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	19.8	(6.4)	-	-	複合。短く内傾。摩耗。内外面，ナデか。
33	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y5/1	20.1	(8.3)	-	-	複合。二次口縁，内傾。口唇，面取り。一次口縁：粗いハ ケ後ヨコナデ/ヨコナデ。二次口縁：荒れる。櫛波文。
34	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 5YR6/8	灰色 5Y5/1	24.3	(7.6)	-	-	複合。二次口縁，内傾。口唇，面取り。一次口縁：ハケ。 二次口縁：ハケ後ナデ/ハケ・ナデ。櫛波文。
図 14 35	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y4/1	23.2	(9.0)	-	-	大型の複合。二次口縁，緩やかに外反。口唇，ハケ状原 体による面取り。内外面，ハケ後ミガキ。
36	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	にぶい赤褐色 5YR5/4	黒色 5YR1.7/1	-	(2.9)	-	4.2	直立部を持つ平底。外底面，ナデ。ハケ・ナデ/ミガ キか。
37	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR6/6	褐灰色 5YR5/1	-	(6.7)	-	4.8	角の取れた平底。外底面は丸みを持つ。外底面，叩き 目。体部：叩き後ハケ・ナデ/ナデ。黒斑。
38	〃	〃	〃	灰色 N4/0	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰色 N4/0	-	(14.3)	20.6	4.2	角の取れた平底。外底面，ハケ・ナデ。体部：叩き後 ハケ/ハケ・ナデ。黒斑。
図 15 39	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	灰黄褐色 10YR5/2	浅黄褐色 10YR8/3	12.9	(21.3)	16.3	-	「く」。口唇，面取り。口縁：叩き後ナデ/ヨコハケ。体 部：叩き後ハケ/ハケ。肩内接合痕。黒斑。煤。
40	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	灰色 5Y5/1	13.4	22.4	16.4	3.4	「く」。口縁：ハケ。平底か。外底面，叩き目か。体部： 叩き後ハケ/ハケ・ナデ。肩内接合痕。被熱・煤。
41	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰白色 5Y4/1	14.3	(24.0)	16.8	-	「く」。口縁：ハケ・ヨコナデ。長胴。体部：叩き後ハ ケ/ハケ・ナデ。肩内接合痕。被熱・煤。
42	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	にぶい赤褐色 5YR5/4	-	14.6	24.2	17.7	3.3	「く」。口縁：叩き後ナデ/ハケ・ナデ。体部：叩き後 タテハケ。内面，ナデ。被熱・煤付着。
43	〃	〃	〃	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y4/1	15.4	23.4	17.7	1.8	「く」。口縁：叩き後ハケ・ナデ/ヨコハケ・ナデ。ほ ぼ丸底。体部：叩き後ハケ/ナデ・ハケ。被熱・煤。
44	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰色 5Y6/1	11.5	(5.9)	-	-	「く」。摘み上げ面取り。口縁：叩き後ナデ/ヨコハ ケ。体部：叩き後ナデ/ハケ・ナデ。肩内接合痕。煤。
45	〃	〃	〃	灰白色 7.5YR8/1	にぶい黄褐色 10YR7/2	暗灰色 N3/0	13.0	(11.8)	18.6	-	「く」。口唇，面取り。口縁：ナデ/ハケ・ナデ。体部： 叩き後ハケ/ナデ。肩内接合痕。煤。東四国系か。
46	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	赤褐色 5YR4/6	褐灰色 10YR4/1	13.1	(12.1)	14.4	-	「く」。口唇，面取り。口縁：叩き後ハケ/ナデ。体部： 叩き後肩部ハケ/ハケ・ナデ。肩内接合痕。
47	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	15.3	(6.4)	-	-	緩やかな「く」。口縁：叩き後ハケ/ハケ。体部：叩 き後ナデ/ハケ。口頭内接合痕。
48	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	浅黄褐色 10YR8/3	17.4	(15.1)	19.1	-	「く」。口唇，面取り。口縁：叩き後タテハケ/ヨコハ ケ。体部：叩き後ナデ/(工具)ナデ。被熱・煤。
49	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	22.9	(12.8)	22.7	-	「く」。口唇，面取り。口縁：叩き後タテハケ/ヨコハ ケ。体部：叩き後ハケ/ナデ。肩内接合痕。
50	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	橙色 5YR6/8	暗灰色 N3/0	24.7	(10.0)	24.0	-	「く」。口唇，面取り。口縁：タテハケ/ヨコハケ。体部： 叩き後ハケか/ナデ。煤。内面，「×」の線刻。
51	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	26.6	(8.3)	-	-	「く」。口唇，面取り。口縁：ハケ。体部：叩き後ハケ・ ナデ/ハケ・ナデ。黒斑。
図 16 52	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	オリーブ色 7.5Y3/1	-	(21.6)	13.7	3.2	口縁：叩き後ナデ/ハケ。平底。外底面，ハケ。長胴。 体部：叩き後ハケ/ナデ。接合痕。黒斑。
53	〃	〃	〃	明赤褐色 5YR5/6	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	-	(11.6)	7.8	2.0	角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ/ ハケ・ナデ。砂粒の移動痕。黒斑。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図16 54	1区	ST2	弥生 甕	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 10YR8/2	黄灰色 2.5Y5/1	-	(13.7)	14.7	4.0	角の取れた平底。外底面, ナデ。叩き後ハケ・ナデ/ ナデ。黒斑。
55	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR6/3	灰色 5Y4/1	-	(10.2)	-	4.6	角の取れた平底。外底面, ナデ。叩き後ハケ/ハケ・ ナデ。黒斑。
図17 56	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/4	7.6	(6.8)	7.8	-	口縁, 僅かに外反。叩き後ハケ/ナデ。
57	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR7/4	橙色 2.5YR7/6	にぶい橙色 5YR7/4	8.9	6.0	-	1.3	ほぼ丸底。外底面, ナデ。叩き後ナデ/ナデ。内面, 初 圧痕か。キレツ。黒斑。
58	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	オリーブ黒色 5Y3/1	10.3	6.1	-	2.9	角の取れた平底。外底面, ナデ。叩き後ナデ・ハケ/ ハケ。キレツ。黒斑。被熱。
59	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	11.6	5.7	-	2.6	ほぼ丸底。外底面, ナデ。叩き後ナデ・ハケ/ハケ。キ レツ。ほぼ完形。
60	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR6/1	14.4	(9.5)	-	-	叩き後強いナデ/工具ナデ・指ナデ。口縁, 焼成前穿 孔。雑なつくり。異質。黒斑。
61	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	灰色 5Y5/1	19.4	9.0	-	2.4	角の取れた平底。外底面, ナデ。口唇, 面取り。叩き後 ナデ/ハケ・ナデ。
62	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰色 5Y6/1	-	(7.1)	-	4.0	平底。外底面, ナデ。叩き/工具ナデ。黒斑。
63	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	黄灰色 2.5Y5/1	-	(6.3)	-	3.7	外底端部, 指頭により摘み出し, 脚部とする。外底 面, ナデ, キレツ。叩き後ナデ/工具ナデ。
64	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 7.5YR5/1	-	(3.7)	-	4.5	外底端部, 指頭により上げ底状とする。外底面, ナ デ, キレツ。叩き後ナデ/ナデ。黒斑。
65	〃	〃	〃 底部	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(2.6)	-	4.2	ほぼ丸底。外底面, 葉脈痕。叩き後ナデ/ナデ。ミガキ 状。黒斑。
66	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR7/4	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	-	(3.0)	-	5.5	突出した平底。外底面, ナデ。叩き後ナデ/ハケ。
67	〃	〃	〃 鉢	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	黄灰色 2.5Y4/1	-	(7.3)	-	-	丸底。外底面, ナデ。叩き後ナデ/ハケ・ナデ。キレツ。 黒斑。
68	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR6/3	灰黄色 2.5Y7/2	黄灰色 2.5Y5/1	47.5	(9.1)	-	-	外反口縁。口唇, 指頭で摘み, 成形。口縁: 叩き後ナデ /ヨコハケ。体部: 叩き後ハケ/ハケ・ミガキ状。
69	〃	〃	〃 高杯	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y6/1	-	(9.2)	-	17.1	杯部内面, ミガキか。脚部, 中空。端部, 面取り。脚部: ハケ後ミガキ/ハケ・しほり目。4方向に円孔。煤。
70	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y4/1	-	(5.3)	-	-	摩耗。ミガキ/ハケ・しほり目。
71	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	明赤褐色 5YR5/6	褐灰色 10YR4/1	-	(2.8)	-	-	杯部: ミガキ。裾部: ミガキ/ハケ。4方向に円孔。 円盤充填。
72	〃	〃	〃 有孔	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 5YR6/4	灰黄色 2.5Y6/2	-	(8.3)	-	2.4	ナデか/ナデ。外底面, 直径1.1cmの焼成前円孔。
74	〃	〃	〃 ミニ	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	淡赤褐色 2.5YR7/3	6.8	3.7	-	0.7	鉢形。叩き後ハケ・ナデ/ハケ・ナデ。キレツ。忠実 に模倣。黒斑。
75	〃	ST2_ P5	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	3.9	6.0	-	0.8	鉢形。ナデ・ハケ・ミガキ/ハケ。黒斑。歪む。
76	〃	ST2	〃	橙色 7.5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR5/4	褐灰色 10YR4/1	-	(5.2)	-	1.1	鉢形。丸底。ハケ・ナデ/ナデ。内底面, しほり目。黒斑。
図19 78	〃	ST3	弥生 鉢	黄灰色 2.5Y4/1	にぶい褐色 7.5YR5/4	灰褐色 7.5YR5/2	20.9	(7.3)	-	-	口唇, 摘み上げ。角の取れた平底か。叩き後ナデ/粗 いハケ。キレツ。黒斑。
79	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(3.5)	-	4.3	平底。ハケ・ナデ/ハケ。
図21 80	〃	ST4	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	20.9	(5.0)	-	-	器面, 荒れる。ハケ・ナデ/ミガキ。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図23 81	1区	ST5	弥生 壺	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR6/3	24.1	(20)	-	-	口唇、面取り、上下に僅かに拡張、全面刻み。ハケ/ハケ・ナデ後ミガキ。被熱。煤。
82	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	16.4	(12.5)	-	-	口縁：ヨコミガキ。頸部：タテミガキ。体部：ハケ後ミガキ/ナデ・ハケ。櫛波文、円形浮文。刻目突帯。煤。
83	〃	〃	〃	にぶい褐色 5YR6/4	にぶい褐色 5YR6/4	灰色 5Y5/1	25.4	(11.5)	-	-	櫛波文、円形浮文。口頸：ハケ/ハケ後ミガキ。体部：ハケ後ミガキ/ハケ。煤。
84	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	24.0	(16.3)	-	-	櫛波文。口頸：ハケ/ハケ後ミガキ。体部：ハケ後ミガキ/ハケ・ナデ。刻目突帯。接合痕。黒斑。被熱。煤。
85	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	オリーブ黒色 5Y3/2	12.6	(35.5)	25.0	4.5	口縁、摘み上げ。口縁：ハケ。丸底。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。接合痕。穿孔。黒斑。被熱。煤。
86	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR6/3	褐色 5YR6/6	黒褐色 2.5Y3/1	-	(27.0)	34.8	6.2	平底。外底面、ナデ。叩き後ハケ・ミガキ/ハケ・ナデ。内底面、指圧。黒斑。
87	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR6/3	褐灰色 10YR5/1	灰白色 10YR7/1	-	(7.5)	-	-	丸底。ナデ・ミガキ/ハケ後ナデ。内底面、指圧。外底面、粘土貼付。被熱。煤。
88	〃	〃	〃	にぶい褐色 5YR7/4	にぶい褐色 5YR6/4	褐灰色 5YR5/1	-	(12.7)	-	-	丸底。ナデ・ミガキ/ハケ後ナデ。内底面、指圧。外底面、粘土貼付。黒斑。
図24 89	〃	〃	〃 甕	褐色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	10.2	12.4	10.9	1.6	緩やかな「く」。角の取れた平底。外底面、ヨコナデ。叩き後ナデ/ナデ。キレット。
90	〃	〃	〃	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	10.7	17.6	13.3	2.6	「く」。角の取れた平底。外底面、ナデ。凹凸有り。体部：叩き後ナデ/ハケ・ナデ。被熱。
91	〃	〃	〃	褐色 5YR6/6	褐色 2.5YR6/6	褐色 5YR6/6	11.6	16.4	12.0	1.5	緩やかな「く」。口縁：叩き後ナデ/ハケ。角の取れた平底。体部：叩き後ハケ・ナデ/ハケ・ナデ。黒斑。
92	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	11.7	15.6	13.3	2.6	緩やかな「く」。角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ・ナデ/ハケ・ナデ。黒斑。
93	〃	〃	〃	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	11.7	18.2	14.4	3.2	緩やかな「く」。角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ・ナデ/ハケ・ナデ。黒斑。被熱。煤。
94	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	灰褐色 7.5YR6/2	12.5	(16.6)	13.6	-	「く」。口唇、面取り。体部：叩き後ハケ/ハケ・工具ナデ・指ナデ。キレット。黒斑。被熱。
95	〃	〃	〃	にぶい赤褐色 2.5YR4/4	にぶい赤褐色 2.5YR4/4	明赤褐色 2.5YR5/6	13.6	19.7	14.7	-	「く」。丸底。外底面、ハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。黒斑。被熱。
96	〃	〃	〃	褐色 7.5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/6	灰色 N4/0	14.5	18.5	14.9	2.8	「く」。角の取れた平底。外底面、叩き目。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。黒斑。被熱。
97	〃	〃	〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	褐色 5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/3	13.2	18.2	-	3.0	「く」。口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。黒斑。
98	〃	〃	〃	褐色 7.5YR4/4	褐色 7.5YR4/4	褐色 7.5YR4/4	14.3	17.8	14.7	3.7	「く」。口唇、ルーズな面取り。角の取れた平底。外底面、ナデ・ハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。黒斑。
99	〃	〃	〃	明赤褐色 2.5YR5/8	明赤褐色 2.5YR5/8	褐色 5YR7/8	15.2	17.4	14.5	2.9	「く」。角の取れた平底。外底面、ハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。被熱。煤。おこげ。
100	〃	〃	〃	赤色 10R5/6	赤色 10R5/6	赤色 10R5/6	12.8	23.3	17.4	1.4	「く」。ほぼ丸底。全体的に器面、荒れる。体部：叩き後ハケ/ナデ。被熱。煤。
101	〃	〃	〃	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	灰色 7.5Y6/1	14.9	24.6	17.6	2.4	「く」。ルーズな面取り。内面、ハケ。ほぼ丸底。外底面、叩き目。体部：叩き後ナデ/ハケ・ナデ。被熱。煤。
102	〃	〃	〃	褐色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR6/4	灰色 5Y4/1	14.5	26.0	18.3	2.7	「く」。角の取れた平底。外底面、叩き目。体部：叩き後ナデ・ハケ/ハケ・ナデ。被熱。煤。
図25 103	〃	〃	〃	褐色 7.5YR7/6	にぶい褐色 7.5YR6/4	灰色 7.5Y4/1	15.1	22.6	16.8	2.2	「く」。口唇、面取り。ほぼ丸底。外底面、ハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。キレット。黒斑。被熱。
104	〃	ST5_ P3	〃	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	黒褐色 2.5Y3/1	16.3	23.3	17.1	3.1	「く」。角の取れた平底。外底面、叩き目。体部：叩き後ナデ/ハケ・ナデ。白色砂粒を含む。黒斑。被熱。煤。
105	〃	ST5	〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	14.4	27.4	20.4	4.3	「く」。口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、叩き目。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。黒斑。被熱。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図25 106	1区	ST5	弥生 甕	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/3	16.4	24.8	20.1	4.0	口縁、直立。角の取れた平底。外底面、叩き後ナデ。体部：叩き後ハケ/ナデ・ハケ。頸内接合痕。被熱。
107	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/2	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/3	-	(23.3)	17.6	3.0	角の取れた平底。外底面、叩き目。体部：叩き後ハケ/ナデ。黒斑。被熱。
108	〃	〃	〃	赤褐色 5YR4/6	赤褐色 5YR4/6	灰色 7.5Y4/1	-	(2.8)	-	-	複合口縁状。口唇、丸くおさめる。内外面、ヨコナデ。模倣品か。胎土は在地。
図26 109	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	9.2	6.7	-	-	尖底。内外面、やや摩耗。ハケ。内底面、ナデ。被熱。煤。
110	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR6/4	9.2	5.9	-	2.4	角の取れた平底。外底面、軽いナデ。外端部の一部、潰す。叩き後ナデ/ハケ。被熱。煤。
111	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	9.4	6.5	-	1.4	ほぼ丸底。ナデにより丸底化。叩き後ナデ/ハケ。キレット。黒斑。被熱。
112	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	褐灰色 10YR4/1	-	9.4	5.9	-	2.3	ほぼ丸底。ナデにより丸底化。叩き後ナデ/ハケ。被熱。煤。
113	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	9.6	6.2	-	-	ハケにより丸底化。ハケ/ナデか。被熱。煤。
114	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR5/4	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	9.8	6.8	-	1.8	丸底。外底面、ハケ・ナデ。体部：ハケ・ナデ/ハケ。キレット。被熱。煤。
115	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	明褐色 7.5YR5/6	10.2	6.9	-	-	ハケにより丸底化。外底面、未調整。叩き後、上半ナデ・下半ハケ/ハケ。キレット。被熱。
116	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR6/4	10.4	5.1	-	-	丸底。叩き後ナデ/ハケ。キレット。被熱。
117	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	10.4	4.9	-	3.7	角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後ナデ/ハケ。キレット。被熱。煤。
118	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.8	4.3	-	2.9	角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後ナデ/ハケ・ナデ。被熱。煤。
119	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	11.1	5.7	-	-	丸底。外底面、ナデ。叩き後ナデ/ハケ。キレット。被熱。煤。
120	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	黒褐色 10YR3/1	11.3	7.4	-	-	ハケにより丸底化。ハケ/ハケ。キレット。被熱。煤。
121	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	12.1	8.4	-	-	ハケにより丸底化。叩き後ナデ・ハケ/ハケ・ナデ。キレット。被熱。
122	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y4/1	12.2	6.0	-	-	丸底。ナデ/ハケ・ナデ。キレット。被熱。煤。
123	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰黄褐色 10YR5/2	11.6	5.8	-	-	丸底。外底面、ナデ。叩き後ナデ/ハケ。キレット。被熱。煤。
124	〃	〃	〃	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	黒褐色 2.5Y3/1	11.9	5.4	-	4.0	ほぼ丸底。外底面、ナデ。ナデ/ハケ・ナデ。キレット。被熱。煤。
125	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	12.4	5.7	-	-	丸底。外底面、ナデ。ハケ/上半ハケ・下半ナデ。キレット。
126	〃	〃	〃	橙色 2.5YR7/8	橙色 5YR7/8	橙色 2.5YR7/8	12.5	5.9	12.9	-	丸底。外底面、ナデ。叩き後ナデ/上半ハケ・下半ナデ。被熱。
127	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	14.1	6.8	-	-	ほぼ丸底。外底面、ナデ。叩き後ナデ/上半ハケ・下半ナデ。被熱。煤。
128	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR7/4	橙色 5YR6/6	14.2	6.7	-	4.2	丸底。外底面、ナデ。叩き後ナデ/上半ハケ・下半ナデ。キレット。被熱。
129	〃	〃	〃	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	14.6	6.0	-	-	丸底。ハケ/ナデ。被熱。
130	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	15.6	6.5	-	-	口唇、面取り。丸底。外底面、ナデ。叩き後ナデ/ハケ。キレット。被熱。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 26 131	1 区	ST5	弥生 鉢	橙色 5YR7/6	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	16.5	6.7	-	-	口唇, 面取り。叩き後ナデ / ハケ。キレツ。被熱。
132	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	16.8	8.0	-	1.3	丸底。外底面, 叩き目。叩き後ナデ / ハケ。キレツ。被熱。煤。
133	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(5.7)	-	4.0	柱状の底部。外底面, ナデ。ナデ / ハケ・ナデ。被熱。煤。
134	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	12.1	15.8	13.8	5.2	円盤状の底部。底端部を摘み出す。叩き後ナデ / ハケ。内面接合痕。被熱。煤。
135	〃	〃	〃 器台	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR6/3	24.2	(2.9)	-	-	粘土帯貼付。口縁外面, 二段の竹管文。鋸歯文。下端に刻目。ヨコナデ。ヨコハケ / ナデ。被熱。煤。
136	〃	〃	〃 底部	褐灰色 10YR4/1	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	-	(5.0)	-	4.0	外底面, 輪高台状。内外面, ナデ。黒斑。
図 28 137	1・2-1 区	ST6	〃 壺	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	-	(14.8)	23.3	-	叩き後ハケ / ハケ・ナデ。頸内接合痕。被熱。
138	〃	〃	〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	灰色 5Y6/1	-	(20.0)	22.7	4.3	ほぼ丸底。外底面, ナデ。叩き後ハケ・ナデ / ハケ・ナデ。黒斑。被熱。
139	〃	〃	〃	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(6.7)	-	3.6	角の取れた平底。外底面, ナデ。叩き後ナデ / ナデ。黒斑。
140	〃	〃	〃 甕	灰白色 10YR8/2	浅黄橙色 10YR8/4	灰白色 10YR8/2	12.0	(14.3)	11.9	-	「く」。口唇, 面取り。上端, 摘み上げ。口縁：ナデ。ハケ / ナデ。黒斑。
141	〃	〃	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 7.5YR4/1	9.7	(3.0)	-	-	内外面, ヨコナデ。キレツ。
142	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	11.7	5.5	-	2.2	角の取れた平底。外底面, ナデ。叩き後ナデ / ハケ。キレツ。
143	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	褐灰色 7.5YR4/1	13.6	8.1	-	3.3	丸底。外底面, ナデ。叩き後ナデ / ナデ。キレツ。黒斑。
144	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	暗灰黄色 2.5Y5/2	-	(2.7)	-	-	丸底。外底面, 凹凸有り。叩き後ナデ / ナデ。黒斑。
145	〃	〃	〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	-	(3.3)	-	3.3	角の取れた平底。外底面, ナデ。葉脈痕。叩き後ナデ / ナデ。キレツ。
146	〃	〃	ミニ	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	灰色 7.5Y5/1	-	(2.9)	-	2.2	ほぼ丸底。外底面, 叩き目。叩き後ナデ / ナデ。
図 30 149	1 区	ST7	弥生 壺	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	-	(4.3)	-	6.2	角の取れた平底。内外面, ナデ。被熱。
150	〃	〃	〃 甕	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	-	(4.3)	-	2.8	平底。外底面, ナデ。叩き後ナデ / ナデ。被熱。煤。
図 32 151	〃	ST8	〃 壺	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	黄灰色 2.5Y6/1	22.1	(7.2)	-	-	口唇, 面取り。口縁：ハケ / ハケ・ナデ。体部：叩き後ハケ / ハケ・ナデ。内面接合痕。
152	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	灰色 N4/0	14.3	(10.5)	-	-	口唇, 面取り。叩き後ハケ / ハケ・ナデ。内面接合痕。
153	〃	〃	〃	黄灰色 2.5Y4/1	にぶい褐色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	-	(9.2)	-	-	タテハケ / ナメハケ。摩耗。被熱。煤。
154	〃	〃	〃	黄灰色 2.5Y4/1	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	-	(6.3)	10.4	1.8	丸底。扁球形。ハケ後ミガキ / ナデ・ハケ。黒斑。
155	〃	〃	〃 甕	橙色 7.5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR6/4	灰色 5Y5/1	15.1	26.1	18.2	2.5	「く」。角の取れた平底。外底面, 叩き目。叩き後ハケ / ハケ・ナデ。キレツ。被熱。煤。おこげ。
156	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	-	(7.8)	-	3.0	角の取れた平底。外底面, 叩き目。叩き後タテハケ / ハケ・ナデ。被熱。
157	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR7/6	にぶい褐色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	-	(6.2)	-	3.0	角の取れた平底。外底面, ナデ。叩き後ナデ / ハケ。キレツ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図32 158	1区	ST8	弥生 鉢	にぶい 橙色 7.5YR7/4	にぶい 橙色 7.5YR7/4	浅黄 橙色 10YR8/3	11.2	(7.6)	-	-	叩き後ナデ/ハケ。
159	〃	〃	〃 〃	にぶい 橙色 7.5YR6/4	橙 色 5YR7/6	橙 色 7.5YR7/6	12.5	6.7	-	-	丸底。外底面、強いハケ。叩き後ナデ/ハケ。被熱。
160	〃	ST8_ P13	〃 〃	にぶい 橙色 7.5YR7/4	にぶい 橙色 7.5YR7/4	にぶい 黄 橙色 10YR7/4	-	(4.9)	-	3.6	平底。外底面、ナデ。叩き後ナデ/工具ナデ。キレツ。黒斑。
161	〃	ST8_ P15	ミニ	にぶい 橙色 7.5YR6/4	にぶい 橙色 7.5YR6/4	橙 色 5YR7/6	7.4	4.4	-	0.9	鉢形。外底面、凹む。内外面、ナデ。
図34 163	〃	ST9	弥生 壺	にぶい 黄 橙色 10YR7/3	にぶい 橙 色 7.5YR7/4	黒 褐色 2.5Y3/1	15.2	(6.0)	-	-	口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ/ナデ。内面、ナデ。叩き後ハケ/ハケか。頸内接合痕。被熱。
164	〃	〃	〃 〃	にぶい 褐色 7.5YR5/3	にぶい 褐色 7.5YR5/4	黄 灰色 2.5Y5/1	-	(33.1)	30.3	4.3	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部、扁球形。叩き後ハケ、ミガキ/ハケ・ナデ。肩内接合痕。黒斑。
165	〃	〃	〃 甕	にぶい 橙 色 5YR6/4	にぶい 橙 色 7.5YR6/4	灰 黄 褐色 10YR4/2	10.6	(2.9)	-	-	「く」。口唇、面取り。内外面、ヨコナデ。煤。
166	〃	〃	〃 〃	橙 色 5YR6/6	橙 色 7.5YR7/6	暗 灰 黄 色 2.5Y5/2	11.4	(6.3)	-	-	「く」。口唇、面取り。粗いハケか、叩き後ナデ/ナデ。肩内接合痕。煤。
167	〃	〃	〃 〃	にぶい 褐色 7.5YR5/3	橙 色 5YR6/6	灰 褐 色 7.5YR5/2	14.6	(7.2)	-	-	「く」。口唇、面取り。叩き後ナデ/ハケ後ナデ。煤。
168	〃	〃	〃 〃	にぶい 橙 色 7.5YR6/4	橙 色 7.5YR7/6	褐 灰 色 7.5YR4/1	14.4	17.0	14.8	3.2	「く」。口唇、ルーズな面取り。角の取れた平底。叩き後ハケ/ナデ・ハケ。口頸内接合痕。被熱。煤。おこげ。
169	〃	〃	〃 〃	にぶい 橙 色 7.5YR6/4	にぶい 橙 色 7.5YR6/4	褐 灰 色 10YR5/1	17.0	(9.3)	-	-	「く」。口唇、面取り。体部：叩き後ナデ/ケズリ・ナデ。被熱。
170	〃	〃	〃 〃	橙 色 5YR6/8	橙 色 5YR6/8	橙 色 5YR6/6	15.6	(4.8)	-	-	「く」。口唇、面取り。叩き後ナデ/摩耗。被熱。煤。
171	〃	〃	〃 鉢	橙 色 7.5YR7/6	橙 色 7.5YR7/6	にぶい 橙 色 7.5YR7/4	15.0	6.6	-	-	丸底。外底面、ナデ。叩き後ナデ/ハケ。キレツ。被熱。煤。
172	〃	ST9・ ST22	〃 〃	にぶい 赤 褐色 5YR5/4	褐 色 7.5YR4/3	褐 灰 色 10YR4/1	20.3	8.3	-	6.0	口唇、面取り。外傾。平底。外底面、ナデ。叩き後ハケ・ナデ/工具ナデ・指ナデ。器壁、厚い。被熱。
173	〃	ST9	〃 〃	橙 色 5YR7/8	浅 黄 橙 色 7.5YR8/6	灰 黄 色 2.5Y6/2	-	(3.1)	-	2.8	角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後ナデ/粗いハケ。キレツ。黒斑。
174	〃	〃	〃 高杯	にぶい 橙 色 7.5YR7/4	にぶい 橙 色 7.5YR7/4	灰 黄 色 2.5Y6/2	18.5	(3.7)	-	-	一次と二次口縁境、やや鋭い稜。一次口縁：ナデ後ミガキ/ナデ。二次口縁：ハケ後ミガキ/ハケ。接合痕。山陰系か。
175	〃	〃	〃 〃	にぶい 橙 色 7.5YR7/4	橙 色 7.5YR6/6	灰 白 色 5Y7/1	-	(5.9)	-	16.4	ハケ後ミガキ/ナデ。円孔、4ヶ所。被熱。煤。
176	〃	〃	ミニ	にぶい 黄 橙 色 10YR6/4	にぶい 橙 色 7.5YR7/4	灰 黄 色 2.5Y6/2	8.0	4.5	-	2.8	鉢形。内外面、ハケ。黒斑。被熱。
図36 177	〃	ST10	弥生 甕	にぶい 黄 橙 色 10YR7/4	にぶい 黄 橙 色 10YR7/4	にぶい 黄 橙 色 10YR7/4	9.6	15.9	-	1.9	緩やかな「く」。口唇、ルーズな面取り。ほぼ丸底。叩き後ハケ/ハケ後ナデ。黒斑。被熱。
178	〃	〃	〃 〃	赤 褐 色 5YR4/6	赤 褐 色 5YR4/6	橙 色 5YR6/6	13.1	17.9	13.8	2.2	「く」。口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、叩き目。叩き後ハケか/ハケ。黒斑。被熱。
179	〃	〃	〃 〃	橙 色 5YR7/6	橙 色 5YR7/6	橙 色 7.5YR7/6	13.6	16.6	-	2.5	緩やかな「く」。ほぼ丸底。外底面、叩き目。体部：叩き後ナデ/ナデ。被熱。
180	〃	〃	〃 〃	にぶい 黄 橙 色 10YR6/3	にぶい 黄 橙 色 10YR7/3	にぶい 黄 橙 色 10YR7/4	14.1	19.7	15.3	3.1	「く」。口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、叩き目。叩き後ハケ/ハケ。被熱。煤。
181	〃	〃	〃 〃	橙 色 7.5YR7/6	橙 色 7.5YR7/6	橙 色 7.5YR7/6	11.4	21.6	-	3.0	緩やかな「く」。口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、叩き目。叩き後ナデ/ハケ・ナデ。被熱。煤。
182	〃	〃	〃 〃	橙 色 7.5YR7/6	にぶい 黄 橙 色 10YR7/4	にぶい 橙 色 7.5YR7/4	12.1	22.8	14.2	3.3	緩やかな「く」。口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、叩き後ナデ。叩き後ナデ/ハケ・ナデ。被熱。煤。
183	〃	〃	〃 〃	橙 色 7.5YR6/6	にぶい 橙 色 7.5YR6/4	にぶい 橙 色 7.5YR7/4	13.5	23.5	15.8	4.0	緩やかな「く」。角の取れた平底。外底面、叩き目。叩き後ハケ・ナデ/ハケ・ナデ。肩内接合痕。被熱。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 36 184	1区	ST10	弥生 甕	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 7.5YR7/6	灰オリーブ色 5Y5/2	13.9	22.0	15.7	3.9	緩やかな「く」。ほぼ丸底。外底面、叩き後ナデ。叩き後ハケ/ハケ後ナデ。被熱。
185	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	14.0	(22.9)	18.7	-	「く」。叩き後ナデ/ハケ・ナデ。被熱。煤。
図 37 186	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 5Y7/2	16.4	25.5	20.2	4.3	「く」。口唇、ルーズな面取り。ほぼ丸底。外底面、ナデ。叩き後ハケ/ナデか。被熱。煤。
187	〃	〃	〃	褐灰色 7.5YR4/1	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	19.3	34.1	23.7	4.1	「く」。口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後ハケ/ハケ。被熱。
188	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y5/1	19.7	31.4	24.2	4.5	「く」。口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後ハケ/ハケ・ナデ。被熱。煤。
189	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/3	-	(22.1)	18.3	-	叩き後タテハケ/ハケ後ナデ。頸内接合痕。被熱。煤。
図 38 190	〃	〃	鉢	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	8.6	5.9	-	2.4	角の取れた平底。片側を潰す。叩き後ナデ/ナデ。被熱。煤。
191	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	9.3	5.4	-	-	丸底。下半ハケ・上半ナデ/ハケ。キレツ。被熱。煤。
192	〃	〃	〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	浅黄橙色 10YR8/4	9.8	(4.6)	-	-	ナデ/ナデ・一部、ミガキ状。キレツ。
193	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/3	9.8	6.4	-	1.1	丸底。外底面、ナデ。叩き後ハケ/(工具)ナデ。黒斑。
194	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.2	6.0	-	3.3	平底。片側を潰す。ナデ/(工具)ナデ。黒斑。
195	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 10YR8/4	9.3	7.3	-	2.1	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ・ナデ/ハケ・ナデ。キレツ。
196	〃	ST10_P1	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	9.4	6.9	-	2.1	丸底。叩き後ナデ/ナデ。キレツ。被熱。
197	〃	ST10	〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	10.3	5.0	-	3.6	ほぼ丸底。ナデ/ハケ・ナデ。キレツ。被熱。
198	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	10.6	7.6	-	-	丸底。外底面、強いナデ。叩き後ナデ/(工具)ナデ。キレツ。黒斑。被熱。
199	〃	〃	〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	灰白色 5Y8/2	10.9	7.2	-	-	丸底。外底面、強いナデ。叩き後ナデ/(工具)ナデ。キレツ。被熱。
200	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.8	6.7	-	2.0	角の取れた平底。外底面、強い工具ナデ。叩き後ナデ/ハケ。
201	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	11.0	4.6	-	2.6	丸底。外底面、ハケか。ナデ/ハケ。キレツ。被熱。
202	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	11.3	7.3	-	3.8	平底。片側を潰す。叩き後ナデ/ハケ後ミガキ。キレツ。被熱。
203	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	11.2	7.1	-	-	丸底。外底面、強いナデ。叩き後ナデ/ハケ。キレツ。被熱。
204	〃	〃	〃	橙色 2.5YR6/6	明赤褐色 2.5YR5/8	にぶい橙色 7.5YR7/4	11.2	6.7	-	-	口唇、面取り、外傾。丸底。外底面、(工具)ナデ。叩き後ナデ/ハケ後ナデ。一部、ミガキ状。キレツ。
205	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	黄灰色 2.5Y5/1	11.3	(4.8)	-	-	ナデ・ハケ/ハケ。黒斑。
206	〃	〃	〃	橙色 5YR6/8	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/8	12.8	5.9	-	-	丸底。外底面、ハケ。叩き後ナデ/ハケ。黒斑。
207	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	13.7	7.0	-	1.6	角の取れた平底。叩き後ナデ/ハケ。キレツ。被熱。
208	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	14.2	6.6	-	-	丸底。外底面、ハケ。叩き後ナデ/ハケ。被熱。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図38 209	1区	ST10	弥生鉢	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/8	14.3	6.9	-	0.8	丸底。外底面、ハケ。ハケ・ナデ / ハケ・ナデ。キレツ。
210	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/4	15.0	7.5	-	-	丸底。外底面、ハケ。叩き後ナデ / ハケ。内面、リング状におこげ。被熱。煤。
211	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	明赤褐色 5YR5/6	橙色 5YR6/6	-	(5.8)	-	2.8	角の取れた平底。外底面、ケズリ。叩き後ナデ / 工具ナデ。キレツ。被熱。煤。
212	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	15.0	7.5	-	-	丸底。外底面、ナデ。叩き後ナデ / ハケ・ナデ。キレツ。被熱。
213	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	16.3	6.9	-	-	丸底。外底面、ナデ。ハケ・ヨコナデ / 摩耗、ハケ後ナデ。一部、ミガキ状。被熱。
214	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	18.5	6.3	-	1.4	丸底。叩き後ナデか / ハケ後下半ミガキ。黒斑。
215	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/4	25.5	(10.4)	-	-	丸底。外底面、ハケ。叩き後ハケ・ナデ / ハケ後ミガキ。キレツ。黒斑。
216	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	9.2	11.6	-	4.2	コップ状。丸みを持った平底。片側を潰す。外底面、ナデ、キレツ。叩き後ナデ / ハケ。接合痕。キレツ。黒斑。
217	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	10.9	7.3	-	-	尖り気味の丸底。タテミガキ / ハケ・ナデ。
図39 218	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR5/1	26.7	27.1	28.1	9.0	「く」。口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、ハケ・ナデ。叩き後ハケ / ナデ・ミガキ。被熱。煤。線刻。
219	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	28.9	26.8	30.5	10.0	「く」。口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、ハケ・ナデ。叩き後ハケ・ナデ / ハケ後ナデ。被熱。煤。
図41 220	〃	ST11	壺	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	31.2	(6.5)	-	-	口縁端部、摘み上げ、摘み出し、凹面状。内外面、ハケ後ミガキ。
221	〃	〃	〃	明赤褐色 5YR5/6	明褐色 7.5YR5/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	12.2	25.1	20.0	4.8	口唇、凹面状。角の取れた平底。外底面、叩き目。叩き後ハケ / ハケ。肩内接合痕。黒斑。被熱。煤。
222	〃	〃	〃	浅黄褐色 7.5YR8/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 7.5Y4/1	13.6	(6.6)	-	-	複合。口唇、面取り。一次口縁：ハケ。二次口縁外面、櫛波文。内面、ヨコナデ。
223	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/4	橙色 2.5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	-	(6.6)	-	-	頸部と体部の境、突帯状。タテハケ / ナデ。内面接合痕。
224	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	-	(4.7)	-	4.4	角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後ナデ / ハケ・ナデ。内底面、漏斗状に凹む。黒斑。
225	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(4.7)	-	-	丸底。外底面、ナデ。ハケ・ナデ / ハケ。黒斑。
226	〃	〃	甕	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	12.4	(16.4)	13.0	-	「く」。叩き後ハケ / ハケ後ナデ。被熱。煤。
227	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	13.1	(20.1)	14.7	-	「く」。口唇、ルーズな面取り。叩き後ハケ / ハケ・ナデ。被熱。煤。
228	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	褐灰色 10YR4/1	12.5	(7.5)	13.5	-	「く」。叩き / ハケ・ナデ。被熱。煤。
229	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	黒褐色 10YR3/1	13.6	13.8	11.6	2.4	緩やかな「く」。丸底。外底面、ナデ。叩き後ハケ / ナデ。口頸境接合痕。被熱。煤。
230	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	灰色 5Y5/1	15.0	(4.2)	-	-	口縁、上方へ拡張。口縁：ヨコナデ。肩部：ハケ / ハケズリ。被熱。煤。混入。
231	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR6/4	橙色 5YR7/8	橙色 5YR6/6	-	(13.8)	15.2	3.6	角の取れた平底。外底面、叩き後ナデ。叩き後ハケ / ナデ。被熱。煤。
232	〃	〃	〃	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい黄褐色 10YR5/3	-	(7.8)	-	4.2	角の取れた平底。外底面、ハケ・ナデ。叩き後ハケ / ナデ。
233	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	褐灰色 10YR4/1	-	(5.1)	-	2.7	角の取れた平底。外底面、叩き目。叩き / ナデ。被熱。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 42 234	1区	ST11	弥生 鉢	橙色 7.5YR6/6	黄橙色 10YR8/6	灰色 N5/0	13.2	(6.3)	-	-	叩き後ナデ/ハケ・ナデ。キレツ。黒斑。
235	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	12.1	5.9	-	3.0	口唇、ルーズな面取り。角の取れた平底。片側を潰す。叩き後ナデ/ハケ。キレツ。被熱。煤。
236	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/4	灰黄褐色 10YR5/2	15.6	8.1	-	2.8	角の取れた平底。叩き後ハケ・ナデ/ナデ・ミガキか。キレツ。黒斑。
237	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	灰色 5Y4/1	15.5	6.1	-	2.6	丸底。底部、ケズリ。叩き後ハケ/ハケ。黒斑。
238	〃	〃	〃	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR7/4	褐灰色 10YR6/1	-	(4.0)	-	2.2	角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後ナデ/工具ナデ。キレツ。被熱。
239	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 7.5YR7/6	-	(4.4)	-	-	ハケにより丸底化。叩き後ハケ/ハケ・ナデ。黒斑。
240	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰オリーブ色 5Y6/2	-	(4.2)	-	2.2	摩耗。丸底。叩き後ナデ/ナデ。
241	〃	〃	〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	-	(6.0)	-	-	摩耗。丸底。叩き後ハケ/ハケ・ナデ。
242	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(5.7)	-	-	丸底。底部、ヘラケズリ。叩き後ハケ/ハケ。黒斑。被熱。煤。
243	〃	〃	有孔	灰色 N4/0	灰色 N4/0	にぶい黄褐色 10YR6/3	-	(5.5)	-	3.8	角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後ナデ/粗いハケ。キレツ。底部に焼成後穿孔。黒斑。
244	〃	〃	ミニ	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	灰白色 2.5Y8/2	-	(4.5)	-	-	底部は指頭により突出。叩き後ナデ/ハケ。
図 44 245	2-1区	ST12	弥生 壺	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y4/1	23.2	(8.0)	-	-	口唇、面取り。口縁：タテハケ後ヨコナデ/ヨコハケ。頸部：タテハケ/ヨコナデ。黒斑。
246	〃	〃	甕	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰色 5Y5/1	11.6	17.3	12.1	2.7	緩やかな「く」。角の取れた平底。外底面、叩き目。叩き後タテハケ/ハケ・ナデ。肩内接合痕。被熱。煤。
247	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰黄褐色 10YR5/2	13.6	(15.3)	13.7	-	「く」。内面、頸部直下までヘラケズリ。
248	〃	〃	鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	オリーブ黒色 7.5Y3/1	12.0	11.8	-	4.3	平底。外底面、叩き後ナデ。叩き後ナデ/ハケ後ナデ。キレツ。被熱。煤。
249	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	12.8	5.0	-	1.5	ほぼ丸底。ケズリにより丸底化。叩き後ナデ/ハケ。キレツ。
250	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	14.4	7.7	-	2.8	角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後ナデ/ハケ。キレツ。黒斑。
251	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	17.2	8.4	-	-	丸底。ナデにより丸底化。叩き後ナデ/ハケ。キレツ。
252	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	浅黄褐色 10YR8/3	灰色 N4/0	13.6	7.0	-	4.2	角の取れた平底。片側を潰す。外底面、ナデ。叩き後ナデ・一部、工具ナデ/ナデ。キレツ。黒斑。
253	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	灰色 N5/0	17.6	6.5	-	1.7	口唇、面取り。底部、ボタン状。ハケ後ミガキ/ミガキ。
254	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	28.6	15.4	-	7.0	角の取れた平底。外底面、叩き後ナデ。叩き後ナデ/工具ナデ。被熱。
255	〃	〃	高杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	-	(6.4)	-	-	タテミガキ/ナデ・ヨコハケ。
256	〃	〃	有孔	にぶい黄褐色 10YR7/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	16.0	17.0	-	-	叩き後タテハケ/ナデ。口縁部・底部、穿孔。被熱。煤。
図 46 258	〃	ST13	壺	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	21.3	(13.8)	-	-	頸部、短く直立。口唇、凹面状。口縁：ハケ後ナデ/ハケ後ミガキ。体部：叩き後ハケ・ミガキ/ハケ・ナデ。
259	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	15.4	(17.4)	27.4	-	「く」。口唇、面取り。口縁：ヨコナデ。体部：叩き後ナデ/粗いハケ後ナデ。被熱。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図46 260	2-1区	ST13	弥生 壺	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 N4/0	221	(130)	-	-	頸部、短く直立。口縁端部、拡張、4条の凹線文。頸部に斜格子刻目突帯。
261	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰オリーブ色 5Y6/2	-	(28.4)	24.7	4.2	角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後ハケ・一部、ミガキ状/全面ハケ。黒斑。ベンガラ塗布か。被熱。煤。
262	〃	〃	〃 甕	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	144	(16.4)	14.5	-	「く」。叩き後タテハケ/上胴以下、ヘラケズリ。肩部、ヨコハケ後タテナデ。被熱。煤。器形・調整、異和感。
263	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	灰色 5Y5/1	120	(7.3)	-	-	「く」。口唇、面取り。叩き後タテハケ/粗いナメハケ。被熱。煤。
264	〃	〃	〃	淡黄色 2.5Y8/3	淡黄色 2.5Y8/3	淡黄色 2.5Y8/3	15.0	(6.8)	-	-	「く」。口唇、面取り。叩き後粗いハケ/頸部直下までヘラケズリ。キレツ。
265	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	15.0	(18.9)	19.4	-	「く」。口唇、ルーズな面取り。叩き後タテハケ/肩部、粗いハケ・下半粗いタテハケ・ナデ。被熱。煤。
266	〃	〃	〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄色 2.5Y6/2	17.2	(17.5)	21.7	-	「く」。口唇、面取り。叩き後ナデ/ナデ。器壁、薄い。被熱。煤。
図47 267	〃	〃	〃 鉢	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	7.6	9.3	-	1.6	コップ形。角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後ナデ/ナデ。被熱。
268	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	12.5	8.2	-	2.0	丸底。外底面、ナデにより丸底化。叩き後ナデ/上半ハケ・下半ナデ。キレツ。被熱。煤。
269	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	灰色 N5/0	18.9	8.5	-	-	外底面、ヘラケズリ・ハケにより丸底化。一部、ミガキ。口縁・底部、ハケ。叩き後ナデ/ハケ。黒斑。
270	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/3	黄灰色 2.5Y5/1	20.5	7.2	-	-	口縁、摘み上げ、外傾。ハケにより丸底化。叩き後ヨコハケ・ヨコナデ/ハケ・ナデ。被熱。
271	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR6/3	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	-	(4.6)	-	-	脚が付く。脚部は接合面で剥離、擬口縁。ストロークの短いハケ・一部、ミガキ/ナデ。
図49 272	1区	ST14	〃 壺	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/3	黒色 10YR2/1	13.0	(5.5)	-	-	口縁端部、摘み上げ、摘み出し。口縁：ヨコナデ。頸部、直立。タテハケ後ヨコナデ/ナデ。
273	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	13.2	(5.6)	-	-	口唇、面取り。下方にやや拡張。口縁：ヨコナデ。頸部：粗いタテハケ/粗いナメハケ。被熱。
274	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	13.6	(5.9)	-	-	口唇、面取り。下方にやや拡張。頸部：粗いタテハケ/粗いナメハケ後ナデ。一部、ミガキ状。
275	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	14.4	(5.6)	-	-	口唇、やや丸みを持たせる。口縁：ヨコナデ。頸部、短く直立。頸部：粗いタテハケ/ナメハケ。
276	〃	〃	〃	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	黄灰色 2.5Y4/1	15.1	30.5	20.0	4.9	口唇、面取り。外底面、ナデ。体部：叩き後下半タテミガキ/タテハケ・タテナデ。肩内接合痕。被熱。煤。
277	〃	〃	〃	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	18.7	(5.1)	-	-	口縁端部、摘み出し。口唇、凹面状。口縁：ヨコナデ。頸部：ナメハケ/ヨコハケ。煤。
278	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/2	浅黄褐色 10YR8/3	灰色 N5/0	13.0	(1.9)	-	-	口縁、上方へ拡張。2条の凹線文、ヘラ波文。内外面、ヨコナデ。内面、一部、ミガキ状。
279	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	23.2	(1.8)	-	-	口縁、下方へ拡張。3条の凹線文。内外面、ヨコナデ。
280	〃	〃	〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	灰黄褐色 10YR4/2	(5.8)	(10.2)	14.2	-	頸部は細く直立。体部、扁球形から算盤玉形。摩耗、ミガキ/ヨコハケ後ヨコナデ。黒斑。
281	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	7.8	(6.2)	-	-	細頸長頸壺。口唇、丸くおさめる。口縁、ヨコナデ。タテミガキ/ナデ。
282	〃	〃	〃	浅黄褐色 7.5YR8/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	灰色 N4/0	-	(12.1)	-	-	長頸壺。口縁：ヨコナデ。頸部：ナメハケ後タテミガキ/ナデ。破断面、擬口縁。
283	〃	〃	〃	黄灰色 2.5Y4/1	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(22.8)	23.9	2.9	角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後ハケ/ナメハケ。黒斑。
284	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR6/3	灰黄褐色 10YR6/2	褐灰色 10YR4/1	-	(4.6)	-	5.4	直立部を持つ平底。外底面、ナデ。叩き後タテハケ/ナデ。接合痕、明瞭。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 49 285	1区	ST14	弥生 壺	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄褐色 2.5Y5/3	-	(3.2)	-	7.2	平底。外底面、ナデ。タテミガキ/摩耗、ナデか。被熱。
286	〃	ST14_ P9	〃 〃	黄灰色 2.5Y4/1	橙色 7.5YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	-	(5.3)	-	5.2	角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後タテハケ/ナデ。内外面、やや摩耗。
287	〃	ST14	〃 〃	黄灰色 2.5Y4/1	にぶい黄褐色 10YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(3.5)	-	6.8	角の取れた平底。外底面、ナデ。タテハケ後ナデ/ナデ。黒斑。
288	〃	〃	〃 甕	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/6	14.1	(9.5)	-	-	「く」。口縁、摘み上げ。口唇、凹面状。叩き後タテハケ/ハケ。肩内接合痕。被熱。煤。
289	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 7.5YR4/1	15.2	(7.3)	-	-	「く」。口縁、摘み上げ。口唇、面取り。叩き後ハケ/ハケ後ナデ。
290	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰色 N4/0	15.1	(19.6)	18.9	-	「く」。口唇、面取り。ハケ/上胴以下ヘラケズリ。被熱。煤。
291	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰色 N4/0	-	(14.2)	-	2.8	角の取れた平底。外底面、ナデ。タテハケ/ヘラケズリ。被熱。煤。斜め白吹き痕。
292	〃	ST14_ P9	〃 〃	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(10.3)	-	3.3	角の取れた平底。外底面、ハケ。叩き後タテハケ/タテナデ。被熱。煤。
293	〃	ST14	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	黄褐色 2.5Y5/3	-	(9.5)	-	2.2	角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後タテハケ/ナデ。被熱。煤。
294	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰色 N4/0	-	(3.1)	-	4.8	角の取れた平底。外底面、ナデ。端部をナデることで角を取る。叩き後ナデ/ハケ。被熱。
図 50 295	〃	ST14_ P21	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	7.3	8.5	-	2.8	コップ形。角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後タテハケ/ナデ。
296	〃	ST14	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	10.7	6.6	-	3.0	直立部を持つ平底。内外面、摩耗。調整等の観察困難。黒斑。
297	〃	〃	〃 〃	灰色 5Y4/1	にぶい黄褐色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	23.1	12.1	-	4.0	口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、ナデ。ハケ/ハケ・ナデ。黒斑。
298	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰黄褐色 10YR6/2	-	(4.3)	-	5.1	平底。外底面、ナデ。叩き後強いナデ/ナデ。被熱。
299	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/8	橙色 5YR7/6	-	(4.8)	-	3.3	僅かに上げ底。外底面、ナデ。ナデ/ハケ・ナデ。キレット。被熱。
300	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	-	(5.0)	-	4.0	平底。外底面、ナデか。叩き後ナデ/ハケ。キレット。
301	〃	〃	〃 高杯	黄褐色 7.5YR7/8	橙色 5YR7/8	灰黄褐色 10YR6/2	-	(6.3)	-	-	分割成形。内底面から粘土を充填し、下方から竹管で突く。内外面、摩耗。杯部の接合痕、明瞭。
302	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR4/2	-	(3.9)	-	17.9	ナナメハケ後タテミガキ/上半ナデ・下半ヨコナメハケ。直径1.2cmの円孔。被熱。
303	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 10YR8/3	-	(2.7)	-	21.3	タテミガキ/ハケ後ヨコナデ。
304	〃	〃	〃 器台	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	暗灰黄色 2.5Y5/2	26.9	(3.2)	-	-	壺か。口縁：ミガキ/ミガキか。口縁端部に粘土帯を貼付し、上下に拡張し、さらに突帯を貼付。櫛波文。
図 51 305	〃	〃	土質 杯	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	11.2	4.4	-	6.4	内外面、ロクロナデ。内底面、強いナデ。外底面、回転糸切り。混入。
306	〃	〃	瓦質 羽釜	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y4/1	灰黄色 2.5Y7/2	19.2	(5.8)	21.5	-	口縁、内湾。口縁に鏝、貼付。口縁：ヨコナデ/。体部：ナデ/ヨコナデ。煤。混入。
307	〃	〃	〃 〃	灰白色 5Y8/1	灰色 5Y5/1	灰白色 5Y7/1	21.9	(4.0)	-	-	口縁、内湾。口唇、面取り。断面台形の鏝。口縁：ヨコナデ/。体部：ナデ/ヨコナデ。煤。混入。
図 53 308	1・2 区	ST15	弥生 壺	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	23.8	(3.6)	-	-	口唇、面取り。僅かに拡張。櫛波文。ナナメハケ後タテミガキ/ヨコハケ後ミガキ。
309	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	14.8	(6.7)	-	-	口唇、面取り、凹面状。口縁：ハケ後ナデ/ハケ。頸部：ハケ後ナデ/ハケ・ナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 53 310	1・2区	ST15	弥生 壺	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	144	(7.4)	-	-	口唇,面取り。粗いハケ / ナデ。被熱。
311	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい黄橙色 10YR6/3	黒色 N1.5/0	102	(5.2)	-	-	複合。口唇,丸みを持たせる。一次口縁:粗いハケ / 粗いヨコハケ。二次口縁:ハケ / ナデ。工具痕。
312	〃	〃	〃 甕	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	122	(10.4)	12.0	-	「く」。口唇,面取り。叩き後タテハケ / ナデ。肩内接合痕。被熱。煤。
313	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	130	(5.0)	-	-	「く」。叩き後タテハケ / 粗いナナメハケ。被熱。煤。
314	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	黒色 5Y2/1	橙色 7.5YR6/6	139	(8.0)	-	-	「く」。叩き後ナデ / ナデ。煤。
315	〃	ST15_ P5	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	褐灰色 10YR5/1	140	(8.7)	13.5	-	「く」。口唇,ルーズな面取り。叩き後ハケ / 粗いナナメハケ後タテハケ。器壁,厚い。被熱。
316	〃	ST15	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y5/1	-	(9.5)	-	1.6	ほぼ丸底。外底面,ナデ。叩き後ナナメハケ / ハケ・ナデ。内底面,指圧。
317	〃	〃	〃 鉢	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	淡黄色 2.5Y8/3	102	6.5	-	2.5	上げ底。叩き後ナデ / 全面ハケ。内底面,凹む。キレット。黒斑。
318	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	黄灰色 2.5Y4/1	140	6.1	-	3.2	角の取れた平底。片側を潰す。ナデにより角をとる。叩き後ナデ / 全面ハケ。黒斑。被熱。
319	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	褐灰色 10YR4/1	-	(4.1)	-	2.8	上げ底。端部を摘み,脚状とする。叩き後ナデ / ハケ。被熱。
320	〃	〃	〃 脚付鉢	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/8	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(6.0)	-	-	口縁,ヨコナデ。タテハケ後タテミガキ / タテミガキ。精製品。
321	〃	〃	〃 高杯	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	-	(3.1)	-	18.0	裾部,大きくひらき,端部,面取り。タテハケ / ヨコハケ。煤。蓋として使用か。
図 55 323	1区	ST16	〃 壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰色 N4/0	-	(23.3)	26.5	5.2	角の取れた平底。外底面,叩き目。叩き後タテハケ / 上半ナナメハケ・下半タテハケ。黒斑。被熱。
324	〃	〃	〃 鉢	にぶい褐色 7.5YR5/4	灰褐色 7.5YR4/2	にぶい褐色 7.5YR5/3	126	5.4	-	1.7	角の取れた平底。外底面,ナデ。ナデることで角を取る。叩き後ナデ / ハケ。キレット。被熱。
図 57 325	〃	ST17	〃 壺	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/8	にぶい黄褐色 10YR5/3	166	(5.6)	-	-	口唇,面取り,上方へ拡張。口縁,ヨコナデ。頸部:ナナメハケ / ヨコナデ。レアな器形。
326	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/6	橙色 7.5YR7/6	灰色 7.5Y5/1	167	(3.5)	-	-	口唇,3条の凹線文。内外面,摩擦,調整等不明。被熱。
327	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 N6/0	-	(8.1)	-	-	タテハケ / ナナメハケ・ナデ。
328	〃	〃	〃 甕	にぶい黄褐色 10YR6/4	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/4	129	(22.3)	15.1	-	短い「く」。口唇,ルーズな面取り。叩き後タテハケ / ハケ・ナデ。被熱。煤。
329	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	172	(7.7)	-	-	「く」。口唇,ルーズな面取り。叩き後ナデ / ハケ後ナデ。被熱。
330	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	7.6	7.8	-	1.8	口縁,短く外反。丸底。外底面,ナデ。タテハケ / ナデ。
331	〃	ST17_ P27	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	11.7	6.3	-	1.0	尖り気味のほぼ丸底。指押さえて角を取る。叩き後ナデ・ハケ / ハケ。
332	〃	ST17	〃 〃	黄灰色 2.5Y4/1	灰褐色 7.5YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	-	(8.8)	-	4.4	外底面,ナデ。叩き後ナデ / ナナメハケ。黒斑。被熱。
図 59 334	〃	ST18	土質 杯	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/4	灰白色 10YR8/2	11.5	4.4	-	6.6	内外面,ロクロナデ。回転糸切り。
図 61 336	〃	ST19	弥生 壺	橙色 5YR6/6	にぶい赤褐色 5YR5/4	灰黄褐色 10YR5/2	15.3	(3.7)	-	-	受け口状口縁。口縁,ヨコナデ。頸部内面,ハケ。煤。
337	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	-	(4.7)	-	-	複合。口唇,面取り,斜格子文。二次口縁,櫛波文。一次口縁:ヨコナデ後タテミガキ / ヨコナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 61 338	1 区	ST19	弥生 甕	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	褐灰色 10YR5/1	14.9	(8.7)	-	-	「く」。口唇、面取り。叩き後ナナメハケ / 粗いナナメハケ・ヨコハケ。煤。
339	〃	ST19_ P2	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR4/2	16.4	(4.6)	-	-	「く」。口唇、面取り、1 条の沈線。工具ナデ / ヨコハケ・ナデ。被熱。搬入か。
340	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR6/4	灰黄褐色 10YR4/2	褐灰色 10YR5/1	13.8	(13.0)	15.2	-	「く」。口唇、面取り、1 条の沈線。工具ナデ / ヨコハケ・ナデ・ヘラケズリ。被熱。搬入か。
341	〃	ST19	〃 鉢	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	6.4	6.7	-	2.4	直立部を持つ平底。外底面、ナデ。叩き後ナデ / ナデ。キレット。
342	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	灰色 N5/0	7.0	6.2	-	2.1	平底。外底面、ナデ。叩き後ナデ / ナデ。被熱。
343	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	-	(6.3)	-	3.2	平底。外底面、ナデ。叩き後ナデ / ナデ。被熱。
344	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	26.2	14.4	-	5.0	大型鉢。口縁、僅かに外反。口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後ハケ / ハケ。被熱。
345	〃	〃	ミニ	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	全長 (3.5)	全幅 (2.7)	-	-	指頭により脚を作出。体部横断面、長楕円形。外面、タテハケ。支脚がモデルか。被熱。
図 63 346	〃	ST20	弥生 甕	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR6/4	13.2	(14.8)	12.9	-	「く」。叩き後ナデ / ナナメハケ。被熱。煤。白吹き痕。
347	〃	ST20_ P5	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	14.8	(6.9)	-	-	「く」。口唇、面取り。叩き後タテハケ / ナナメハケ。煤。
348	〃	ST20	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(18.7)	14.1	2.5	角の取れた平底。外底面、叩き後ナデ。叩き後タテハケ / 上半ハケ・下半ハケ後ナデ。肩内接合痕。被熱。煤。
349	〃	ST20_ P6	〃 〃	灰色 N5/0	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰色 N4/0	-	(12.8)	12.7	2.9	丸底。外底面、ナデ。叩き後ナデ / ナナメハケ。キレット。被熱。
350	〃	ST20	〃 鉢	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	橙色 7.5YR6/6	11.9	5.7	-	-	口唇、面取り。丸底。外底面、ナデ。ナデ / ナデ。キレット。口縁内面、着色有り。
351	〃	〃	ミニ	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい黄褐色 10YR5/4	6.4	3.0	-	2.2	鉢形。角の取れた平底。外底面、ナデ。ナデ / ナデ。キレット。被熱。
図 65 352	2-1 区	ST21	弥生 甕	にぶい褐色 7.5YR6/4	黒色 7.5YR2/1	灰黄褐色 10YR5/2	15.3	(11.5)	14.6	-	「く」。口唇、面取り。叩き後ナナメハケ / タテナデ。煤。
353	〃	〃	〃 鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	9.0	4.4	-	2.2	角の取れた平底。外底面、ナデ。ナデ / ナデ。キレット。
354	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	17.7	7.5	-	3.0	丸底。ハケにより丸底化。叩き後ナナメハケ / ナナメハケ・ナデ。キレット。被熱。
355	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	19.3	10.7	-	4.9	口縁、外反。口唇、丸くおさめる。平底。外底面、ナデ。粗いタテハケ・ヘラケズリ / ナデ。黒斑。
356	〃	〃	〃 脚付鉢	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y4/1	-	(8.4)	-	11.1	杯部：粗いタテハケ / 粗いタテハケ後ミガキ。脚部：ナナメハケ後ナデ / ナデ。分割成形か。
図 67 357	1 区	ST22	〃 壺	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	15.1	28.5	22.9	6.1	「く」。口唇、面取り。角の取れた平底。外底、ナデか、凹む。叩き後タテハケ / ナデ。肩内接合痕。被熱。煤。
358	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	12.9	8.5	-	4.1	直立部を持つ平底。外底面、ナデ。叩き後ハケ / ヨコ～ナナメハケ後ミガキ。キレット。
359	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/8	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/4	15.3	8.1	-	3.0	口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、ナデ。ハケ後ヘラミガキ / タテミガキ。黒斑。
360	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	黒褐色 7.5YR3/1	灰白色 5Y7/1	19.3	(14.8)	-	1.9	口縁、摘み上げ。角の取れた平底、叩き後ナデか。叩き後ハケ・ミガキ / ハケ後ミガキ。キレット。被熱。
361	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/8	にぶい黄褐色 10YR6/3	21.2	11.1	-	4.6	口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、ナデ、凹む。叩き後ハケ / ハケ。煤。
362	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(5.2)	-	4.9	直立部を持つ平底。外底面、ナデ、葉脈痕。叩き後ナデ / ハケ。キレット。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 72 363	1 区	SB1 SK150	緑釉 皿	灰白色 10Y7/2	灰白色 10Y7/2	灰白色 2.5Y8/1	-	(1.8)	-	7.5	薄い緑色の釉薬を施釉。外底面にケズリ。貼付輪高台。精選された胎土。京都産か。
364	〃	〃 SK168	弥生 壺	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y6/1	-	(4.2)	-	-	複合。ヨコハケ / ヨコナデ。一次口縁、外反。二次口縁、内傾。外面に稜。
365	〃	〃 SK142	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	-	20.9	(2.3)	-	-	口縁、上方へ拡張。口縁：ヨコハケ。頸部：タテハケ。櫛波文。煤。
366	〃	〃 SK144	〃 甕	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	12.8	(5.2)	-	-	「く」。口唇、面取り。叩き / ハケ。煤。
367	〃	〃 SK171	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	13.1	(3.8)	-	-	「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：ヨコナデ。体部：タテハケ / ヨコハケ・ナデ。煤。
368	〃	〃 SK172	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰黄褐色 10YR5/2	13.4	(6.7)	13.3	-	緩やかな「く」。口唇、面取り。叩き / 摩耗。
369	〃	〃 SK152	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR4/2	14.0	(4.3)	-	-	「く」。口唇、僅かに肥厚、面取り。口縁：ナデ / ハケ・ナデ。体部：叩き後ハケ / ハケ。
370	〃	〃 SK145	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	17.0	(4.8)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ / ナデ。体部：叩き / タテハケ。煤。
371	〃	〃 SK152	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	灰色 N5/0	18.8	(2.9)	-	-	「く」。口縁：叩き後ナデ / ヨコハケ。体部：叩き / ナデか。摩耗。
372	〃	〃 SK147	〃 底部	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(2.5)	-	4.2	角の取れた平底。外底面、叩き後ナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ。
373	〃	〃 SK144	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(3.8)	-	2.8	ほぼ丸底。ヘラミガキ / ナデ。
374	〃	〃 SK145	〃 鉢	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	22.0	(4.9)	-	-	口唇、面取り、摘み出す。ハケ / ヨコハケ後ヘラミガキ。
375	〃	〃 SK162	〃 蓋	橙色 7.5YR6/6	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	灰黄褐色 10YR4/2	-	(4.9)	-	5.4	天井部、僅かに凹状。端部、突出。ナデか / ナデ。被熱。
376	〃	〃 SK152	〃 ミニ	橙色 5YR7/8	橙色 7.5YR7/6	灰黄褐色 10YR5/2	-	(3.8)	-	3.4	平底。ナデ / ナデ。被熱。煤。ミニチュア土器か。
図 88 378	〃	SB16 P1092	土質 杯	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	14.7	5.9	-	6.6	ロクロ / ヘラ状原体による回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
図 92 379	〃	SB19 P727	瓦質 羽釜	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	19.8	(5.8)	22.6	-	口縁、内傾。端部、面取り。断面三角形の鑄を貼付し、上方は強いヨコナデ。精選された胎土。
380	〃	〃 〃	弥生 甕	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい橙色 7.5YR7/3	黒褐色 10YR3/1	12.2	(4.8)	-	-	口唇、摘み上げ、摘み出し。口縁：ヨコナデ。体部：ナデか / ヘラケズリ。凹線文系。
図 97 381	〃	SB23 P1135	土質 杯	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	6.0	2.1	-	3.7	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
382	〃	〃 〃	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	6.0	2.0	-	3.9	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
図 99 384	〃	SB24 P1074	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	11.4	4.0	-	7.6	回転ナデ。内外面、ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
図 102 385	〃	SB26 P961	〃 皿	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	6.3	1.5	-	4.8	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
387	〃	〃 〃	弥生 不明	にぶい黄褐色 10YR6/3	橙色 7.5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	-	-	-	-	ナデか / 粗いハケ。やや磨耗。外面、弧状の線刻。
図 115 389	〃	SB37 P644	瓦器 椀	灰色 5Y5/1	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	-	(2.9)	-	3.8	指押え / ヘラミガキ。貼付輪高台。精選された胎土。
390	〃	〃 P696	弥生 甕	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	12.4	17.0	13.2	2.6	「く」。ほぼ丸底。口縁：叩き後ハケ・ナデ / ヨコハケ。体部：叩き後ハケ / タテハケ。残存率、良好。
391	〃	〃 〃	〃 鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	16.2	7.0	-	1.2	口唇、ルーズな面取り。底部、やや突出、強いナデ。口縁：ヨコナデ。体部：ナデ / ハケ。キレツ。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 118 392	1区	SB39 P815	弥生 鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR6/6	浅黄橙色 10YR8/4	193	(5.6)	-	-	口唇、面取り。内外面、ヘラミガキ。内外面、撥形等の 線刻。
図 130 394	〃	SB49 P276	青磁 皿	灰オリーブ色 5Y6/2	灰白色 5Y7/2	灰白色 2.5Y7/1	10.7	2.2	-	6.0	須恵質の胎土。見込み、劃花文と櫛描文。薄く施釉。部 分的に貫入有り。底部、露胎。同安窯系。11B類。
図 151 398	〃	SB66 P130	土質 杯	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	8.3	2.9	-	4.5	回転ナデ。内面にロクロ目。回転糸切り。精選された 胎土。
399	〃	〃 〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	9.0	2.5	-	4.6	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
400	〃	〃 P132	弥生 底部	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR5/1	-	(6.2)	-	4.4	角のとれた平底。叩き後ハケ / ナデ。
図 157 401	〃	SA1 SK6	〃 壺	橙色 5YR6/8	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 5YR6/8	20.9	(1.5)	-	-	口唇、上下に拡張。櫛波文。ナデ / ミガキ。化粧土、塗 布か。
402	〃	〃 SK9	〃 甕	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	淡黄色 2.5Y8/3	11.6	(7.6)	-	-	緩やかな「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ナデ / ハ ケ。体部：叩き後ナデ / ハケ後ナデ。煤。
403	〃	〃 SK8	〃 鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	-	(4.4)	-	2.4	突出した平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ナデ / ハ ケ・ナデ。
図 158 405	〃	SA2 P753	土師 盤	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	18.5	2.6	-	10.8	直立気味の貼付輪高台。精選された胎土。
図 159 406	〃	SA4 P733	弥生 甕	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	-	(4.6)	-	2.8	角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後ナデ / ハケ・ 工具ナデ。煤。
図 166 411	〃	SK10	陶器 碗	灰黄色 2.5Y6/2	灰白色 2.5Y8/2	にぶい橙色 2.5YR6/4	8.3	6.2	-	3.9	陶質の胎土。外面に白濁釉（一部剥落）。畳付は無釉。 見込みに茶溜り状の凹部。
412	〃	〃	磁器 〃	灰白色 5GY8/1	灰白色 5GY8/1	灰白色 2.5Y8/2	8.0	4.9	-	3.6	透明釉を施釉。器面に染付文様。外面、界線の染付。畳 付に釉剥ぎ。見込みに残留遺物焼成痕。肥前系。
413	〃	〃	〃 〃	灰白色 10Y8/1	青灰色 5B5/1	灰白色 N8/0	-	(2.5)	-	3.6	透明釉を施釉。染付文様。界線。高台内、1条の圏線 と記号状に崩れた銘。畳付、釉剥ぎ・粗砂。肥前系。
414	〃	〃	陶器 皿	-	-	-	13.0	3.3	-	4.7	陶質。内面、銅緑釉。蛇の目状の釉剥ぎ。外面下半、露 胎。高台内兜巾状。見込みに重ね焼き痕。内野山窯。
415	〃	〃	〃 鉢	黒褐色 7.5YR3/2	黒褐色 7.5YR3/2	灰白色 2.5Y7/1	21.3	(11.3)	-	-	片口鉢。陶質の胎土。鉄釉。外面下位は露胎。口縁、玉 縁状に肥厚。内底面に磨着痕。
416	〃	〃	土質 焜炉	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	褐灰色 10YR5/1	27.4	11.6	-	24.0	口縁端部、肥厚。上端を面取り。内面、ヘラによる回転 ナデ・指押え。逆台形状の短脚。口縁端部、煤。
417	〃	〃	磁器 水滴	白色 9/0	赤色 7.5R4/6	白色 9/0	-	-	-	-	胎土は密で白色。体部、中空で上部に鼠状の装飾を貼 付。下部に焼成前の円孔、1～2ヶ所残存。
図 172 419	〃	SK29	白磁 碗	灰白色 5Y7/1	浅黄褐色 2.5Y7/3	灰白色 5Y8/1	-	(2.3)	-	5.8	外面、高台まで施釉。外底面、露胎。ヘラケズリ状の調 整痕。見込み、沈線状の小段。IV類。
420	〃	〃	弥生 壺	橙色 7.5YR6/6	明赤褐色 5YR5/6	灰黄褐色 10YR4/2	10.0	(6.0)	-	-	複合。口縁、外反し、端部に内傾する二次口縁を付 加。接合部、稜。口縁：/ ヨコハケ。
図 174 421	〃	SK48	土質 皿	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	6.5	1.4	-	4.0	底部内縁に沈線状痕。精選された胎土。
422	〃	〃	陶器 〃	灰オリーブ色 7.5Y4/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	12.4	3.8	-	4.7	陶質の胎土。銅緑釉。蛇の目状の釉剥ぎ。外面上半、透 明釉。下半、露胎。見込み・外面、砂目。内野山窯。
図 177 423	〃	SK49	磁器 碗	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	11.1	(3.4)	-	-	透明釉。ピンホール。染付。
424	〃	〃	陶器 皿	灰白色 2.5Y8/1	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(2.2)	-	3.8	陶質の胎土。外面残存部、露胎。内面、白濁釉を施釉。 見込み、砂目。
425	〃	〃	土師 甕	にぶい赤褐色 5YR5/4	灰褐色 7.5YR5/2	にぶい褐色 7.5YR5/4	-	(6.0)	-	-	長胴甕。口縁、逆「ハ」の字形。端部、面取り。
426	〃	〃	弥生 〃	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰白色 2.5Y8/2	14.8	(5.2)	-	-	「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。タテハケ / ヨ コハケ。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 182 428	1 区	SK55	陶器 皿	灰オリーブ色 5Y5/3	灰黄色 2.5Y6/2	灰白色 10YR8/2	125	(3.2)	-	-	陶質の胎土。銅緑釉。外面、灰白色の釉溜り。内野山窯。
図 184 429	〃	SK58	磁器 〃	灰白色 10Y7/1	灰白色 10Y7/1	灰白色 N8/0	127	2.5	-	64	透明釉を施釉。見込み、二重界線。染付、黒色を呈する。畳付に釉剥ぎ・粗砂付着。
430	〃	〃	陶器 〃	オリーブ灰色 10Y5/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	灰白色 10YR8/2	-	(2.1)	-	48	陶質の胎土。銅緑釉。蛇の目状の釉剥ぎ。透明釉、灰白色の釉溜り。下半、露胎。
431	〃	〃	炆器 播鉢	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい橙色 5YR6/4	灰黄褐色 10YR6/2	249	(5.6)	-	-	回転ナデ。ロクロ目。外縁帯、2条の凹線、内面、摺目。17C 中葉～18C 前葉。
図 185 432	〃	SK66	〃 鉢か	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい橙色 5YR6/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	168	8.4	-	17.6	回転ナデ。外底面、ハケ。穿孔が1ヶ所残存。ベタ底。匣鉢の可能性。
図 187 433	〃	SK75	磁器 皿	明緑灰色 7.5GY8/1	明緑灰色 7.5GY8/1	灰白色 2.5Y8/1	21.4	3.4	-	11.9	折縁皿。透明釉。貫入有り。染付。界線。畳付に釉剥ぎ。高台内に1条の圏線。
図 189 434	〃	SK82	瓦質 焙烙	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	-	-	-	-	十能。調整、粗雑。基部は筒状（中空）。精選された胎土。
図 190 435	〃	SK86	土質 皿	にぶい橙色 5YR7/4	橙色 2.5YR6/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	8.2	1.2	-	6.2	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
図 192 436	〃	SK91	瓦質 三足鍋	-	灰色 5Y5/1	灰白色 2.5Y7/1	-	-	-	-	一部、面取り状。
図 193 437	〃	SK95	土師 碗	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい橙色 5YR6/3	灰白色 10YR8/2	15.6	(4.8)	-	-	回転ナデ。ロクロ目。口縁は端反り気味、端部は肥厚。底部、僅かに段。
図 194 438	〃	SK96	土質 皿	浅黄褐色 7.5YR8/6	浅黄褐色 7.5YR8/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	-	(1.7)	-	5.2	内底面にロクロ目を有するが、摩耗により不明瞭。精選された胎土。
図 195 439	〃	SK105	〃 杯	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	6.9	1.4	-	4.8	底部内縁に沈線状痕。精選された胎土。
440	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	11.3	3.7	-	5.6	回転ナデ。ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
441	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	黄灰色 2.5Y6/1	-	(3.1)	-	6.0	回転ナデ。ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
図 197 444	〃	SK112	磁器 皿	灰白色 10Y8/1	灰白色 10Y8/1	灰白色 7.5Y8/1	11.6	3.9	-	4.3	染付文様。蛇の目状の釉剥ぎ。透明釉、灰白色の釉溜り。下半及び高台、露胎。
図 199 446	〃	SK113	〃 碗	灰白色 10Y7/1	灰白色 10Y7/1	黄灰色 2.5Y6/1	-	(4.5)	-	4.2	透明釉（灰白色）。貫入・ピンホール。染付文様。界線。畳付に重ね焼き痕。
448	〃	〃	弥生 壺	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	20.0	(6.3)	-	-	口唇、面取り、僅かに上方へ摘み上げ。口縁端部：ヨコナデ。口縁：タテハケ/ヨコハケ。黒斑。
図 200 449	〃	SK117	須恵 蓋か	にぶい黄褐色 10YR7/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	-	(4.2)	-	-	回転ヘラケズリ。焼成不良。
450	〃	〃	〃 壺	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	にぶい黄褐色 10YR7/3	23.4	(8.6)	-	-	「く」。口唇、面取り。叩き。接合痕。
図 202 451	〃	SK118	土質 皿	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	6.3	(1.1)	-	4.3	灯明皿。回転ナデ。回転糸切り。口縁の2ヶ所に灯芯油痕。精選された胎土。
図 204 452	〃	SK128	弥生 鉢	褐灰色 10YR4/1	橙色 2.5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	-	(6.2)	-	8.2	脚付鉢。体部：叩き後タテハケ/ナデ。脚部：ナデ。煤。
図 205 453	〃	SK129	磁器 皿	灰白色 10Y8/1	灰白色 10Y8/1	灰白色 N8/0	12.5	3.0	-	4.3	透明釉、灰白色の釉溜り。ピンホール有り。染付。蛇の目状の釉剥ぎ。下半及び高台、露胎。
454	〃	〃	〃 〃	灰白色 10Y7/1	灰白色 10Y7/1	灰白色 N8/0	12.0	3.4	-	3.8	やや青みがかった白濁釉。見込み、蛇の目状の釉剥ぎ・砂目。畳付、粗砂付着。
図 211 456	〃	SK140	土質 杯	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	13.7	4.1	-	7.5	回転ナデ。ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
図 213 457	〃	SK153	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/3	6.6	2.0	-	4.3	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 213 458	1区	SK153	土質 杯	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/3	6.2	1.9	-	4.0	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
459	〃	〃	瓦質 羽釜	灰白色 5Y8/1	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 7.5Y6/1	-	(4.3)	-	-	断面三角形の鑊を貼付。精選された胎土。
図 214 462	〃	SK157	磁器 皿	灰白色 5GY8/1	灰白色 5GY8/1	灰白色 N8/0	15.1	3.4	-	9.8	透明釉。染付。やや灰色がかかる。圈線。畳付。釉剥ぎ。見込み。砂目。畳付。粗砂付着。
図 217 463	〃	SD2	弥生 甕	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	-	(20.4)	-	-	叩き後タテハケ / ハケ・ナデ。煤。
464	〃	〃	〃 小型鉢	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(4.8)	-	2.0	手捏ね成形。黒斑。ミニチュアか。
図 219 465	〃	SD3	磁器 皿	灰白色 10Y8/1	灰白色 10Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	-	(2.3)	-	4.3	白濁釉。蛇の目状の釉剥ぎ。外面下半及び高台。露胎。見込み。砂目。
466	〃	〃	弥生 甕	褐灰色 10YR4/1	褐灰色 10YR4/1	にぶい黄褐色 10YR6/4	22.2	(7.7)	-	-	「く」。口唇。面取り。口縁：ハケ。体部：叩き後ナデ / ナデ。雲母片を含む。搬入か。
図 221 467	〃	SD5	須恵 蓋	灰白色 5Y8/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	10.2	3.0	-	-	天井部外面。回転ヘラケズリ。内面。回転ナデ。擬宝珠様摘み。かえり。
468	〃	〃	〃	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 N5/0	灰赤色 10R5/2	10.9	(1.9)	-	-	天井部外面。回転ヘラケズリか。内面。回転ナデ・仕上げナデ。断面。鋭い三角形のかえり。
図 226 471	〃	SD10	土質 皿	灰白色 2.5Y8/2	浅黄褐色 10YR8/4	灰白色 10YR8/2	7.0	1.4	-	3.8	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
図 228 472	〃	SD16	弥生 甕	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	15.5	(5.6)	-	-	「く」。口縁：ナデ / ハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ。煤。
図 230 473	〃	SD18	土師 羽釜	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR4/4	-	(4.8)	-	-	外面。指押え。鑊を貼付。雲母片等の細粒砂を含む。炆器状に焼締まる。搬入か。
図 232 474	〃	ST1_ P3	弥生 壺	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰色 5Y4/1	15.7	29.8	18.7	5.6	長頸壺。口唇。凹面状。平底。叩き後ハケ・ミガキ / ナデ・ヘラケズリ。口唇。刻目。煤。
475	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR6/3	橙色 7.5YR6/6	灰色 N5/0	13.5	26.9	21.1	5.1	口唇。上方に拡張。角の取れた平底。叩き後ハケ・ナデ / ハケ・ナデ。煤。体部。穿孔か。
476	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR5/1	14.4	(7.3)	-	-	口唇。面取り。口縁：ヨコナデ / ハケ。頸部：タテハケ / ナデ。
477	〃	〃	〃	灰黄褐色 10YR4/2	橙色 7.5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR5/3	14.2	(9.5)	-	-	口唇。凹面状。口縁：ヨコナデ。頸部：タテハケ・ナデ / しぼり目。肩内接合痕。
478	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	暗灰色 N3/0	15.3	(6.7)	-	-	口唇。僅かに上下に拡張し凹面状。口縁：ヨコナデ。頸部：タテハケ / ヨコナデ。
479	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	黄褐色 7.5YR7/8	灰色 7.5Y4/1	18.0	(10.7)	-	-	口唇。面取り。僅かに凹面状。口縁：ヨコナデ。肩部：タテハケ・ミガキ / ナデ・ハケ。肩内接合痕。
480	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	橙色 7.5YR7/6	灰黄褐色 10YR5/2	-	(15.1)	21.4	5.4	角の取れた平底。叩き後タテハケ / 工具ナデ・ユビナデ。黒斑。
481	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(23.0)	36.6	7.0	角の取れた平底。タテハケ / ハケ・ヘラケズリ。内面接合痕。粘土帯幅 2.5cm。黒斑。
482	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR5/3	橙色 7.5YR6/6	灰色 5Y5/1	-	(8.0)	12.3	1.9	細頸長頸壺。狭小な平底。ヘラミガキ / ナデ・ハケ。内面接合痕。黒斑。
483	〃	〃	〃	暗灰黄色 2.5Y4/2	橙色 5YR6/6	黄褐色 2.5Y5/3	-	(10.8)	14.7	3.0	細頸長頸壺か。平らな部分を残す丸底。ヘラミガキ / ナデか。内面接合痕。
図 233 484	〃	〃	〃 甕	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	9.9	15.8	10.9	3.6	緩やかな「く」。平底。口縁：ヨコナデ。体部：叩き後ハケ / ナデ。黒斑。
485	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	黒褐色 10YR3/2	暗灰色 N3/0	15.2	21.5	17.0	4.1	「く」。口唇。面取り。角の取れた平底。外底面。ハケ。叩き後ハケ / ハケ・ナデ。肩内接合痕。煤。穿孔か。
486	〃	〃	〃	明黄褐色 10YR7/6	橙色 7.5YR6/6	褐灰色 7.5YR4/1	12.7	(11.7)	13.3	-	緩やかな「く」。叩き後ハケ / ナデ・ケズリか。被熱。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 233 487	1 区	ST1_ P3	弥生 甕	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	12.2	(6.6)	-	-	口縁、短く水平に外反。口唇、面取り。口縁：ヨコナ デ。体部：ナデ/ケズリ。被熱。煤。
488	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	褐色 7.5YR4/4	黄灰色 2.5Y5/1	15.0	(5.0)	-	-	「く」。口唇、僅かに上下に拡張、凹面状。口縁：ヨコナ デ。体部：ハケ/ナデ・ケズリ。煤。
489	〃	〃	〃 底部	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	-	(9.4)	-	3.6	角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後ハケ/ナデ。内 底面、凹凸有り。黒斑。
490	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい黄褐色 10YR4/3	-	(6.4)	-	5.0	上げ底状。タテハケ/工具ナデ。煤。
491	〃	〃	〃 鉢	橙色 7.5YR7/6	黄橙色 10YR8/6	黒褐色 10YR3/1	10.7	(7.5)	-	-	口縁、短く外反。ナデ/粗いヨコハケ。キレツ。
492	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	16.2	8.4	-	4.6	平底。叩き後タテハケ/ハケ。黒斑。煤。
493	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	褐灰色 10YR4/1	26.2	13.6	-	3.5	角の取れた平底。タテハケ/ヨコハケ。キレツ。煤。
494	〃	〃	〃 高杯	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/4	-	(5.8)	-	-	中空。ミガキ/工具ナデ・しほり目。粘土盤充填。孔 径0.9cmの円孔。
495	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	-	(7.0)	-	-	杯部：ハケ後ミガキ/ナデ。脚裾部：ハケ後ミガ キ/工具ナデ・ハケ。孔径0.7cmの円孔。2ヶ所。
図 235 496	〃	SX1	土質 杯	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	淡黄色 2.5Y8/3	6.9	3.9	-	4.0	回転ナデ。内底面、ロクロ目。回転糸切り。精選された 胎土。
497	〃	〃	須恵 碗	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	-	(2.1)	-	7.0	回転ナデ。円盤状高台を貼付。静止糸切り。精選され た胎土。
図 238 498	〃	SX4	土質 杯	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	-	(3.1)	-	6.4	回転ナデ。ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
499	〃	〃	弥生 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	12.5	5.8	-	1.8	角の取れた狭小な平底。ナデ・ハケ/ナデ。キレツ。 黒斑。
図 240 500	〃	SX6	磁器 皿	明オリーブ灰色 5GY7/1	明オリーブ灰色 5GY7/1	灰白色 7.5Y8/1	-	(2.3)	-	4.5	青磁釉。ピンホール。蛇の目状の釉割ぎ。外面下半及 び高台、露胎。見込み、重ね焼き痕。高台内、粗砂付着。
501	〃	〃	土質 杯	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	-	(2.7)	-	6.9	回転ナデ。ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
図 241 503	〃	SX7	〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	6.8	1.9	-	4.3	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
504	〃	〃	〃	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y6/1	-	(2.5)	-	6.6	回転ナデ。ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
505	〃	〃	白磁 碗	灰白色 10Y7/1	灰白色 10Y7/1	灰白色 7.5Y7/1	-	(2.2)	-	7.0	見込み、沈線状の小段。平底。Ⅸ類か。
506	〃	〃	瓦質 鍋	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y4/1	24.4	(5.5)	-	-	口縁、僅かに外方へ張り出し、面取り。外面、指圧。精 選された胎土。
507	〃	〃	弥生 壺	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	オリーブ黒色 5Y3/1	9.4	16.8	11.5	-	直口壺。丸底。ハケ後へラミガキ/ハケ。肩内接合痕。
508	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	暗灰黄色 2.5Y5/2	19.2	10.2	-	-	丸底。叩き後ハケ/ハケ・ナデ。
図 242 510	〃	P21	〃 甕	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい黄褐色 10YR5/3	25.8	(13.8)	24.3	-	「く」。口縁：ハケ・ナデ/ハケ。体部：叩き後ハケ/ ヨコハケ。被熱。
511	〃	〃	〃	褐灰色 10YR4/1	褐灰色 10YR4/1	にぶい褐色 7.5YR5/4	30.0	(7.1)	-	-	大型。「く」。口縁：タテハケ/ヨコハケ。体部：叩き 後ナデ/ナデ。
512	〃	P51	〃 壺	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	30.6	(2.5)	-	-	広口壺。口唇、上方へ拡張。口縁：ナデ/ミガキ。櫛波 文。
513	〃	P80	〃 甕か	にぶい赤褐色 5YR5/4	灰褐色 7.5YR4/2	にぶい褐色 7.5YR5/4	12.6	(2.8)	-	-	緩やかに外反。叩き後ナデ/ヨコナデ。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 242 514	1区	P135	弥生 壺か	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄褐色 2.5Y5/3	21.8	(1.6)	-	-	口唇, 拡張, 面取り, 竹管文。摩耗。
515	〃	P160	〃 甕	灰白色 10YR8/2	にぶい黄橙色 10YR7/3	褐灰色 10YR4/1	12.5	19.3	14.5	1.1	緩やかな「く」。丸みを帯びた平底。口縁：叩き後ナ デ / ヨコハケ。体部：叩き後タテハケ / ナデ。黒斑。
516	〃	P278	〃 壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/2	-	(4.4)	-	6.7	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部：ハケ・ミガキ / ナデ。黒斑。
517	〃	P314	〃 甕	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	11.4	(18.7)	14.1	-	緩やかな「く」。口縁：ハケ。体部：叩き後タテハケ / ハケ。煤。
518	〃	P386	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/3	13.8	(4.3)	-	-	「く」。口唇, 面取り。口縁：ヨコナデ。体部：叩き後ナ デ / ナデ。煤。
519	〃	P427	〃 〃	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	橙色 5YR6/6	16.2	(6.2)	-	-	「く」。口唇, 摘み上げ, 摘み出し, 凹面状。口縁：ヨコ ナデ。体部：タテハケ / ヘラケズリ。煤。
520	〃	P447	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰黄褐色 10YR6/2	13.4	(6.2)	-	-	ナデ / ハケ。キレツ。
521	〃	P469	〃 底部	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰白色 10YR8/2	-	(2.5)	-	-	底部は突出。外底面, ナデ。叩き後ナデ / ナデ。
522	〃	P534	〃 壺	浅黄褐色 7.5YR8/4	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y4/1	15.1	(4.5)	-	-	複合。口唇, 面取り。ハケ / ハケ・ヨコナデ。櫛波文。 煤。
523	〃	P543	〃 鉢	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	黒色 10YR2/1	11.1	6.1	-	1.8	ほぼ丸底。ナデ / ハケ後ナデ。黒斑。煤。ほぼ完形。
524	〃	P605	〃 甕	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	12.7	17.2	12.9	2.8	「く」。口唇, 面取り。平底。口縁：ナナメハケ / ヨコハ ケ。体部：ハケ / ナナメハケ。黒斑。煤。
525	〃	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y5/1	にぶい黄褐色 10YR5/3	黄灰色 2.5Y5/1	-	(15.0)	13.4	3.5	平底。外底面, ナデ。叩き後タテハケ / ナデ。黒斑。煤。
526	〃	P647	〃 壺	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰色 5Y4/1	20.6	(33.6)	34.0	-	口唇, 面取り。口頭：ナデ・タテハケ / ナデ・ハケ・ ミガキ。体部：叩き後タテハケ・ミガキ / タテハケ。
527	〃	P1518	〃 底部	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	-	(3.3)	-	1.2	狭小で上げ底状。タテハケ / ナデ。煤。小型の鉢か。
528	〃	P1565	〃 鉢	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y4/1	11.1	6.8	-	2.2	ほぼ丸底。叩き後ハケ / ハケ・ナデ。キレツ。黒斑。
図 243 529	〃	P105	土質 皿	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	6.3	1.3	-	4.5	回転ナデ。底部内縁, 沈線状痕。回転糸切り。精選され た胎土。完形。
530	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	6.4	1.4	-	4.3	回転ナデ。底部内縁, 沈線状痕。回転糸切り。精選され た胎土。
531	〃	〃	〃 杯	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	6.6	2.0	-	4.6	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
532	〃	P406	瓦質 羽釜	灰白色 2.5Y7/1	黄灰色 2.5Y6/1	灰白色 2.5Y7/1	19.0	(5.2)	21.0	-	口縁, 内傾し, 面取り。指圧 / ナデ。鏝を貼付し, 上方 はヨコナデにより凹状。精選された胎土。
533	〃	P427	土質 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	8.0	1.7	-	4.1	回転ナデ。内底面に「の」の字状のナデ。回転糸切り。 精選された胎土。
534	〃	P436	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	8.6	1.7	-	5.3	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
535	〃	P726	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	6.8	1.7	-	5.4	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
536	〃	P911	〃 杯	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	6.1	1.7	-	4.2	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。煤。
537	〃	P699	土師 甌	-	にぶい黄褐色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	-	-	-	把手。手握ね成形。煤。
538	〃	P1434	土質 杯	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	灰黄褐色 10YR6/2	6.6	1.8	-	4.3	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 243 539	1 区	P1546	土質 杯	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	6.1	2.1	-	4.7	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
540	〃	P1145	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/4	黄灰色 2.5Y5/1	10.9	4.7	-	6.0	回転ナデ。ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。内外面, タール付着。
541	〃	P890	瓦質 羽釜	-	黄灰色 2.5Y4/1	灰白色 2.5Y7/1	-	(9.8)	-	-	三足羽釜。ヘラナデ。精選された胎土。煤。
542	〃	P1606	土質 杯	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	6.2	1.9	-	4.0	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
543	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	灰白色 10YR8/2	6.3	2.1	-	3.8	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
544	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	6.3	2.2	-	3.7	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
545	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	6.8	1.9	-	3.9	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
546	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	12.1	4.3	-	7.7	回転ナデ。ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
547	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	12.2	4.5	-	8.4	回転ナデ。ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
548	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	11.4	4.8	-	7.7	回転ナデ。ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
549	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	12.5	4.0	-	8.2	回転ナデ。ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
550	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	12.5	4.2	-	7.7	回転ナデ。ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
551	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	12.3	3.7	-	8.0	回転ナデ。内外面, ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
552	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	-	(2.9)	-	6.8	回転ナデ。外面, ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
553	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	-	(2.8)	-	8.0	回転ナデ。ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
図 245 561	〃	1 層	瓦質 羽釜	灰色 N5/0	灰色 N5/0	黄灰色 2.5Y6/1	-	(5.3)	-	-	口縁, 内傾, 端部, 面取り。鏝を貼付し, 上方はヨコナデにより凹状。内外面, ヘラナデ。
562	〃	〃	磁器 碗	灰白色 5GY8/1	灰白色 5GY8/1	灰白色 N8/0	-	(4.3)	-	3.8	透明釉 (灰白色)。染付文様 (網目文)。界線。畳付, 釉剥ぎ・粗砂付着。見込み, 重ね焼き痕。
563	〃	〃	〃 〃	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	-	(5.1)	-	5.8	透明釉。貫入有り。染付。界線。畳付, 釉剥ぎ。
564	〃	〃	〃 皿	オリーブ黄色 5Y6/4	淡黄色 2.5Y8/3	灰白色 10YR8/1	11.8	3.7	-	4.6	陶質の胎土。銅緑釉。貫入・ピンホール。緑灰色の釉溜り。蛇の目状の釉剥ぎ。畳付・高台内, 露胎。内野山窯。
図 246 565	〃	2 層	弥生 壺	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	12.8	(5.5)	-	-	口唇, 僅かに肥厚, 面取り。口縁: ヨコナデ。頸部: タテハケ/ヨコハケ。
566	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR6/3	橙色 7.5YR6/6	黄灰色 2.5Y6/1	-	(1.9)	-	-	口縁: ナデ/ナデ。一次口縁と二次口縁端部に櫛波文。二重口縁壺か。
567	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	-	(3.6)	-	-	二重口縁壺。ヘラミガキ。竹管文を施した円形浮文を貼付。搬入か。
568	〃	〃	〃 底部	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	浅黄橙色 10YR8/4	-	(2.3)	-	1.2	外底面にボタン状の粘土を貼付。ナデ/ミガキ。
569	〃	〃	〃 〃	灰色 N5/0	橙色 7.5YR7/6	灰色 N5/0	-	(32.5)	22.3	3.9	ほぼ丸底。叩き後タテハケ/タテハケ・ナデ。黒斑。
570	〃	〃	〃 甕	灰色 7.5Y4/1	にぶい黄橙色 10YR6/3	黄灰色 2.5Y5/1	13.0	(10.9)	17.8	-	「く」。口唇, 面取り。タテハケ/ハケ。黒斑。白吹き痕。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 246 571	1区	2層	弥生 甕	暗灰色 N3/0	灰黄褐色 10YR5/2	黄灰色 2.5Y5/1	136	(70)	-	-	「く」。口縁：ナデか/ハケ。体部：ナデ/ハケ。煤。
572	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	黄灰色 2.5Y4/1	138	18.4	-	2.4	「く」。口唇、面取り。平底。外底面、ナデ。口縁：ハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。被熱。煤。
573	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	14.4	(6.1)	-	-	「く」。口唇、摘み上げ、凹線状。叩き後ナデか/ナデ。肩部内面、指押え。煤。
574	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい褐色 7.5YR6/3	褐灰色 10YR5/1	18.9	(10.1)	16.1	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ・ナデ/ハケ。体部：叩き後タテハケ/ナデ。煤。
575	〃	〃	鉢	にぶい黄褐色 10YR7/3	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	7.1	9.7	-	1.0	ほぼ丸底。外底面、叩き目。タテハケ/ナデ。黒斑。
576	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	7.0	6.9	-	2.3	平底。外底面、叩き目。叩き後ナデ/ナデ。キレット。黒斑。
577	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	14.9	9.1	-	3.7	突出した平底。外底面、ナデ。ナデ/ハケ。キレット。煤。
578	〃	〃	壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(3.3)	-	29.6	ヨコナデ/ヨコナデ。複合鋸歯文・列点文。接合面で剥離。器台か。
図 247 579	〃	〃	須恵 杯	灰色 N5/0	灰色 N5/0	灰色 N5/0	13.9	2.2	-	8.4	回転ナデ。外底面、同心円状の当て具痕。精選された胎土。
580	〃	〃	〃	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	-	(1.5)	-	7.4	回転ナデ。外傾する断面方形の貼付輪高台。精選された胎土。自然釉。
581	〃	〃	壺か	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	-	(2.9)	-	9.8	回転ナデ。「ハ」の字形に外傾するやや高め貼付輪高台。精選された胎土。
582	〃	〃	土師 高杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(6.7)	-	-	芯を用いて成形。十面に面取り。
583	〃	〃	土質 皿	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	6.3	1.5	-	4.6	回転糸切り。精選された胎土。
584	〃	〃	杯	灰白色 10YR8/2	浅黄褐色 10YR8/3	灰白色 10YR8/2	6.1	2.1	-	4.0	回転ナデ・指押え。内底面は回転成形により僅かに凹状。回転糸切り。精選された胎土。
585	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	6.8	1.7	-	4.8	回転ナデ。底部、形骸化した円盤状高台様。回転糸切り。精選された胎土。
586	〃	〃	〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	6.8	2.1	-	4.2	回転ナデ。回転糸切り。精選された胎土。
587	〃	〃	〃	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	灰白色 10YR8/2	6.8	2.0	-	3.8	回転ナデ。内底面、粘土盤を貼付。回転糸切り。精選された胎土。
588	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	9.6	3.4	-	5.2	回転ナデ。ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
589	〃	〃	〃	浅黄褐色 7.5YR8/3	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/3	10.2	3.1	-	7.4	回転ナデ。ロクロ目。底部、形骸化した円盤状高台様。回転糸切り。精選された胎土。
590	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(1.5)	-	4.4	回転ナデ。ロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
591	〃	〃	瓦質 羽釜	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y5/1	灰白色 2.5Y7/1	18.6	(40)	-	-	口縁、内傾し、端部、面取り。鈔を貼付し、下方は強いヨコナデにより凹状。
592	〃	〃	〃	黄灰色 2.5Y6/1	灰黄褐色 10YR5/2	黄灰色 2.5Y6/1	18.8	(3.6)	-	-	口縁、内傾し、端部、面取り。断面梯形状の鈔を貼付。煤。
593	〃	〃	〃	灰色 5Y4/1	黄灰色 2.5Y4/1	-	26.1	(6.1)	29.6	-	口縁、内傾し、端部、肥厚、面取り。断面方形の鈔を貼付し、上方は強いヨコナデにより凹状。
594	〃	〃	三足鍋	-	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	-	(19.4)	-	-	ナデ。脚端部は如意状に外反。断面は歪な円形状。精選された胎土。搬入か。
595	〃	〃	〃	-	灰黄褐色 10YR5/2	橙色 5YR6/6	-	(6.1)	-	-	断面は円形状。被熱。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 248 596	1 区	2 層	白磁 碗	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/2	14.5	(2.6)	-	-	灰白色釉。玉縁、釉の二重がけ部分に小さな気泡。IV類。
597	〃	〃	〃 〃	灰白色 10Y7/1	灰白色 10Y7/1	灰白色 N8/0	-	(1.8)	-	4.0	灰白色釉。高台、露胎。
598	〃	〃	〃 〃	灰白色 5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	-	(1.6)	-	6.1	透明釉。削り出し高台、一部施釉。
599	〃	〃	青磁 〃	暗灰黄色 2.5Y5/2	暗灰黄色 2.5Y5/2	黄灰色 2.5Y6/1	15.6	(2.8)	-	-	残存部全面、施釉。ピンホール有り。内面に2条の沈線。外面に櫛目状文。同安窯系。
600	〃	〃	〃 〃	灰オリーブ色 7.5Y6/2	灰オリーブ色 7.5Y5/2	灰白色 N7/0	-	(1.9)	-	6.3	残存部全面、施釉。見込み、草花文。体部境に沈線状の段。削り出し高台。高台内に熔着・剥離痕。龍泉窯系。
601	〃	〃	〃 〃	明緑灰色 10GY7/1	明緑灰色 10GY7/1	灰白色 2.5Y7/1	-	(1.8)	-	4.8	残存部外面、施釉。削り出し高台内、露胎。見込み、飛雲状文。体部境に沈線状の段。
602	〃	〃	〃 〃	灰色 7.5Y6/1	灰色 7.5Y6/1	灰白色 2.5Y7/1	-	(1.8)	-	4.8	残存部外面、施釉。貫入有り。見込み、草花文。削り出し高台。高台内、回転ヘラケズリ。龍泉窯系。
603	〃	〃	陶器 皿	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	11.2	2.3	-	4.4	信楽系灯明皿。回転ヘラケズリ。内面・口縁外面、施釉。貫入。菊花紋状の浮文。火櫛。重ね焼き痕。
604	〃	〃	〃 〃	緑灰色 5G6/1	灰黄色 2.5Y7/2	灰白色 10YR8/2	14.8	(2.0)	-	-	陶質の胎土。銅緑釉。外面上半、透明釉、下半、露胎。体部外面に重ね焼き痕。内野山窯。
605	〃	〃	〃 卸し皿	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	-	(2.4)	-	7.6	陶質の胎土。灰釉。内底面に卸し目。回転糸切り。外面に重ね焼き痕。
図 250 614	〃	表採	弥生 壺	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/6	-	(2.8)	-	-	複合。接合部を突出させる。口縁：ノコハケ。複合鋸歯文。
615	〃	攪乱	土質 皿	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/6	-	6.2	0.8	-	4.5	回転ナデ。回転糸切り。口縁の1ヶ所に灯芯油痕。灯明皿。精選された胎土。
616	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	6.0	1.0	-	3.6	回転ナデ。回転糸切り。灯明皿。精選された胎土。
617	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	橙色 5YR6/6	6.2	1.4	-	4.6	回転ナデ。回転糸切り。口縁の1ヶ所に灯芯油痕。灯明皿。精選された胎土。
618	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	6.3	1.1	-	4.2	回転ナデ。回転糸切り。口縁の1ヶ所に灯芯油痕。灯明皿。精選された胎土。
619	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	橙色 5YR6/6	6.4	1.1	-	3.7	回転ナデ。回転糸切り。口縁の2ヶ所に灯芯油痕。灯明皿の可能性。精選された胎土。
620	〃	〃	陶器 碗	灰白色 5Y8/1	灰白色 5Y8/1	灰白色 2.5Y8/2	-	(4.8)	-	6.0	やや粗い陶質。透明釉（灰白色）。ピンホール有り。染付。界線。腰輪高台状。畳付、釉剥ぎ。瀬戸・美濃産か。
621	〃	トレン チ	磁器 染付蓋	灰白色 5GY8/1	灰白色 5GY8/1	灰白色 2.5Y8/1	-	(2.0)	-	-	透明釉を施釉。貫入有り。染付。界線。肥前系の望科碗の蓋か。
図 252 622	2-3 区	ST23	弥生 壺	褐灰色 10YR6/1	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(16.2)	-	4.3	ほぼ丸底。外底面、ナデ。叩き後ハケ／ハケ後ナデ。黒斑。煤。おこげ。
623	〃	〃	〃 甕	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR5/1	10.8	12.9	-	2.8	「く」。ナデにより丸底化。口縁：叩き後ハケ／ハケ。体部：叩き後ハケ／ハケ・ナデ。キレツ。黒斑。
624	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰色 5Y5/1	11.8	(16.0)	-	-	「く」。口唇、ルーズな面取り。口縁：ハケ。体部：叩き後ハケ／ハケ・ナデ。穿孔。
625	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	橙色 5YR6/6	12.5	18.9	-	2.0	「く」。口唇、面取り。ほぼ丸底。口縁：叩き後ハケ／ハケ。体部：叩き後ハケ／ハケ・ナデ。被熱。煤。
626	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	13.3	20.0	-	2.5	「く」。角の取れた平底、ハケ。口縁：叩き後ハケ／ハケ。体部：叩き後ハケ／ハケ・ナデ。被熱。煤。おこげ。
627	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	-	(9.5)	-	3.2	ほぼ丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ／ハケ・ナデ。煤。
628	〃	〃	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい橙色 7.5YR6/4	-	(5.3)	-	-	角の取れた平底。外底面、ナデ。強いナデにより丸底化。叩き後ハケ／ナデ。キレツ。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 252 629	2-3 区	ST23	弥生 鉢	にぶい 橙色 7.5YR7/4	にぶい 黄橙色 10YR7/4	にぶい 黄橙色 10YR7/4	16.0	8.8	-	-	丸底。外底面、ハケ・ナデ。体部：ハケ／ハケ・ナデ。 キレツ。黒斑。煤。
630	〃	〃	〃	橙色 5YR6/8	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	22.7	15.9	-	5.0	口縁、外反。ほぼ丸底。外底面、叩き後ナデ。体部：叩 き後ハケ・ナデ／ハケ・ナデ。黒斑。摩耗。片口か。
図 255 632	2-4 区	ST24	〃 壺	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	黄褐色 2.5Y5/3	18.0	(2.9)	-	-	タテハケ／ハケ。
633	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい 黄橙色 10YR7/4	褐灰色 10YR5/1	-	(2.3)	-	-	口唇、上方へ拡張、ハケ状原体による面取り。ヨコナ デ／ヨコナデ後ミガキ。
634	〃	ST24_ P1	〃 甕	にぶい 橙色 5YR6/4	にぶい 橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(2.9)	-	-	口唇、面取り。摘み出し。タテハケ後ヨコナデ／ヨコ ハケ。内面、平滑。被熱・煤。
635	〃	ST24	〃	にぶい 橙色 7.5YR7/3	にぶい 橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/3	-	(4.1)	-	-	口縁、叩き後、指頭により成形。体部：叩き／ハケ。煤。
636	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	灰黄色 2.5Y6/2	9.5	4.2	-	3.2	角の取れた平底。叩き後ナデ／ハケ。黒斑。
637	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄褐色 2.5Y5/3	9.4	3.6	-	3.4	角の取れた平底。叩き後ナデ／ハケ。黒斑。
638	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	にぶい 橙色 5YR6/4	橙色 5YR6/6	17.8	(3.5)	-	-	口唇、面取り。ハケ。
639	〃	ST24_ P2	〃	橙色 5YR6/6	にぶい 橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	-	(4.0)	-	9.0	杯部：／ミガキ。脚部：ミガキ／ナデ。黒斑。
640	〃	ST24	〃	にぶい 赤褐色 5YR5/4	にぶい 赤褐色 5YR5/4	にぶい 赤褐色 5YR5/4	25.4	23.0	26.4	-	外反口縁。丸底。叩き後タテのミガキ／ナデ。黒斑。
641	〃	〃	ミニ	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい 橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR6/2	4.8	5.0	-	3.2	手捏ね成形。叩きか／しぼり目。器壁、厚い。
図 257 644	〃	ST25	弥生 壺	橙色 2.5YR6/6	橙色 5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/6	18.6	(2.2)	-	-	口唇、凹面状。ハケメ。タテハケ／ミガキ。
645	〃	〃	〃	にぶい 黄褐色 10YR7/4	浅黄褐色 10YR8/4	黄灰色 2.5Y6/1	23.8	(2.9)	-	-	口唇、凹面状、沈線。ヨコナデ後タテハケ／ミガキ。
646	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y5/1	-	(3.4)	-	-	複合。外面には5条1単位の櫛波文を施す。内面、ハ ケ。
647	〃	〃	〃 甕	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	9.5	11.3	10.1	-	丸底。叩き後ナデ／ハケ・ナデ。黒斑。
648	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 7.5YR5/1	15.6	23.8	-	3.6	「く」。口唇、面取り。角の取れた平底。外底面、ハケ。叩 き後ハケ／ハケ。被熱・煤。
649	〃	〃	〃	にぶい 黄褐色 10YR7/4	にぶい 黄褐色 10YR7/4	にぶい 黄褐色 10YR7/4	16.0	(8.7)	-	-	「く」。口唇、面取り。叩き後ハケ／ハケ・ナデ。肩内接 合痕。黒斑。
650	〃	〃	〃	にぶい 褐色 7.5YR6/4	にぶい 褐色 7.5YR6/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	15.5	(6.1)	-	-	「く」。口唇、面取り。叩き後ハケ／ハケ・ナデ。煤。
651	〃	〃	〃	にぶい 褐色 7.5YR5/4	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	16.2	(4.2)	-	-	「く」。口唇上端、摘み上げ。下端、摘み出し。叩き後ハ ケ／ナデ。煤。
652	〃	〃	〃	にぶい 褐色 7.5YR5/3	にぶい 褐色 7.5YR5/4	褐灰色 10YR4/1	18.2	(4.6)	-	-	「く」。口唇上端、摘み上げ。下端、摘み出し。叩き後ハ ケ／ハケ・ナデ。擬口縁。煤。
653	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰白色 2.5Y7/1	13.2	(4.7)	-	-	「く」。口唇、面取り。叩き後ハケ／ハケ。煤。
654	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい 褐色 7.5YR7/4	灰色 N4/0	12.9	(3.9)	-	-	「く」。口唇、面取り。叩き後ハケ／ハケ・ナデ。
655	〃	〃	〃	にぶい 黄褐色 10YR7/3	にぶい 黄褐色 10YR7/3	にぶい 黄褐色 10YR7/3	15.2	(6.5)	-	-	「く」。口唇、凹面状。ハケ／ハケ・ケズリ。煤。
656	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	にぶい 褐色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	13.0	(2.7)	-	-	緩やかな「く」。口唇、面取り。叩き後ナデ・ハケ／ハ ケ。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 257 657	2-4 区	ST25_ P5	弥生 甕	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	14.2	(4.0)	-	-	緩やかな「く」。口唇、ルーズな面取り。叩き後ナデ・ハケ/ナデ。煤。
658	〃	ST25	〃	黄灰色 2.5Y4/1	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	13.2	(6.3)	-	-	「く」。叩き後ハケ・異なる二種類の原体を使用/ハケ。煤。
659	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.0	(4.1)	-	-	緩やかな「く」。叩き後ハケ・ナデ/ナデ・ケズリ。
660	〃	ST25_ P9	〃	にぶい黄褐色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	-	(2.9)	-	-	「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。叩き後指頭により成形/ハケ。
661	〃	ST25	〃 底部	にぶい黄褐色 10YR7/3	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/3	-	(5.9)	-	7.2	平底。外底面、平滑。ハケ/ハケ・ナデ。黒斑。
662	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR5/3	褐灰色 10YR5/1	-	(2.8)	-	5.6	角の取れた平底。外底面、叩き目。叩き後ハケ/ハケ。
663	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/3	-	(5.7)	-	3.2	底部は厚い。外底面、平滑。叩き後ハケ/ナデ。黒斑。
664	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(4.4)	-	3.2	丸底。外面のナデと内底面からの押し出しにより丸底化。ナデ・ハケ/ハケ・ナデ。キレツ。被熱。煤。
665	〃	ST25_ P9	〃	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	-	(3.5)	-	-	丸底。外面のナデと内底面からの押し出しにより丸底化。ナデ/ハケ・ナデ。キレツ。黒斑。
図 258 666	〃	ST25	〃 鉢	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 2.5YR7/6	8.4	3.2	-	-	皿状鉢。外面、指圧、顕著。内面、ナデ。キレツ。
667	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	浅黄褐色 7.5YR8/6	10.2	3.2	-	-	皿状鉢。外面、指圧、顕著。内面、粗いハケ。キレツ。
668	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄褐色 10YR5/3	橙色 7.5YR7/6	9.7	3.2	-	6.3	角の取れた大きい平底。口唇、尖らせる。ナデ/ハケ・ナデ。キレツ。黒斑。未成品か。
669	〃	〃	〃	褐灰色 7.5YR5/1	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	8.9	4.3	-	6.6	角の取れた大きい平底。外底面、圧痕。ナデ/ハケ・ナデ。キレツ。未成品か。
670	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	11.0	(4.0)	-	-	外反口縁。口縁：ヨコナデ。体部：ナデ/ハケ。
671	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	9.2	6.5	-	2.9	平底。叩き後ナデ/ハケ。口縁内面、施文。僅かにキレツ。黒斑。
672	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	7.2	7.1	-	3.0	平底。口唇、摘み尖らせる。叩き後ナデ/ハケ・ナデ。キレツ。
673	〃	〃	〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	浅黄褐色 7.5YR8/4	10.8	8.3	-	3.2	平底。口唇、ルーズな面取り。叩き後ナデ/ハケ。黒斑。
674	〃	〃	〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	11.0	7.8	-	-	口唇、尖らせる。丸底。底端部をナデにより丸底化。叩き後ナデ/ハケ。
675	〃	〃	〃	橙色 2.5YR6/8	橙色 5YR7/6	橙色 2.5YR6/8	13.8	5.4	-	4.8	角の取れた平底。内外面、ナデか。内底面、工具痕。黒斑。
676	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	18.9	7.2	-	1.5	強いナデにより丸底化。ナデ後ミガキ・ナデ/ハケ・ナデ後ミガキ。黒斑。被熱。
677	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	32.6	(7.6)	-	-	大型鉢。口縁、緩やかに外反。口唇、面取り。口縁：ヨコナデ。体部：叩き後ハケ・ミガキ/ハケ。
678	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(3.3)	-	-	口縁、ヨコナデ。僅かに外反。ハケ後ミガキか/ハケ。
679	〃	ST25_ P4	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	-	(3.3)	-	-	口唇、丸くおさめる。ナデ後ミガキ/ナデ。
680	〃	ST25	〃	にぶい黄褐色 10YR5/3	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR6/2	-	(3.3)	-	-	「く」。口縁：ナデ。体部：ハケ/ナデ。煤。
681	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/4	黒褐色 10YR3/1	-	(5.8)	-	-	口唇、丸くおさめる。叩き板によるナデ・ハケ/ハケ・ナデ。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 258 682	24 区	ST25	弥生 鉢	橙色 5YR6/8	黄橙色 7.5YR7/8	浅黄橙色 7.5YR8/6	-	(6.8)	-	28	丸底。叩き後ハケ・ナデ/摩耗のため調整不明。内底面, 工具の静止痕。
683	〃	ST25_ P9・ P459	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	-	(5.1)	-	-	強いナデにより丸底化。叩き後ナデ/ハケ。内底面, 工具の静止痕。キレツ。黒斑。
684	〃	ST25_ 中央 P	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	黄橙色 7.5YR7/8	黄橙色 7.5YR7/8	-	(6.7)	9.2	-	外反口縁。丸底。全体的に摩耗。観察困難。ハケ/ハケ・ナデ。
685	〃	ST25	〃 高杯	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	-	(2.0)	-	-	口唇, 上面をむき, 肥厚させ凹面状。摩耗のため, 観察困難。
686	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	-	(3.1)	-	-	杯部, 内外面ともミガキ。脚部内面, ナデ。
687	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR6/2	-	(5.3)	-	19.0	裾端部, 丸くおさめる。ミガキ/ハケ。裾部, 4ヶ所に円孔か。
688	〃	〃	〃 器台	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(2.4)	-	-	ヨコナデ。外面, 複合鋸歯文, 竹管文。擬口縁。
689	〃	〃	〃 ミニ	褐灰色 10YR4/1	灰黄色 2.5Y7/2	褐灰色 10YR4/1	4.5	3.1	-	-	手捏ね成形。指頭圧痕, 顕著。
690	〃	〃	〃 黒色 椀	黒色 10YR2/1	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 10YR8/2	17.0	(2.6)	-	-	内黒。内外面, ヨコナデ。内面, ミガキ。精良な胎土。混入。
691	〃	〃	〃 須恵 壺	褐灰色 7.5YR4/1	褐灰色 10YR5/1	褐灰色 10YR6/1	19.4	(2.7)	-	-	口縁, 上方に拡張, 丸くおさめる。内外面, 回転ナデ。混入。
692	〃	〃	〃 土師 甕	にぶい褐色 7.5YR5/4	赤褐色 5YR4/6	にぶい褐色 7.5YR5/4	22.9	(6.1)	-	-	口縁, 上端を摘み上げ。口唇, 凹面状。内外面, ヨコナデ。煤。混入。
図 261 696	〃	ST26_ 中央 P	〃 弥生 壺	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	浅黄色 2.5Y7/3	23.8	(3.4)	-	-	口唇, 上下に拡張, 凹面状。口縁, ヨコナデ。内外面, ハケ。キレツ。煤。
697	〃	ST26	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	19.0	(2.0)	-	-	口唇, 僅かに拡張, 二段の竹管文。口縁: ヨコナデ。体部: タテハケ後ミガキ/摩耗, ナデか。
698	〃	ST26_ P1	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	灰色 5Y4/1	-	(1.8)	-	-	口唇, 上下に拡張, 櫛波文。タテハケ・ヨコハケ/ヨコハケ。
699	〃	ST26	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/6	17.1	(2.1)	-	-	口唇, 竹管文。摩耗, 調整不明。
700	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(3.8)	-	-	口唇, 上下に僅かに拡張。ヨコハケ・ヨコナデ/ヨコナデ。煤。
701	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰黄色 2.5Y6/2	-	(2.5)	-	-	口唇, 上下の振幅が小さい櫛波文。ハケ・ナデ/粗いヨコハケかヨコナデ。擬口縁。
702	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR6/4	橙色 7.5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR6/4	8.4	(4.8)	-	-	口縁: ヨコナデ。体部: ハケ後ミガキ/ヨコナデ後ミガキ。黒斑。搬入か。
703	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/3	10.0	(4.9)	-	-	ハケ/ヨコハケ・ナデ。
704	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR4/4	にぶい黄褐色 10YR6/3	10.2	(4.9)	-	-	内外面, ヨコナデ。口唇, 尖らせる。シャープなつくり。搬入。705・758と同一個体か。
705	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	-	(3.5)	-	-	内外面, ヨコナデ。搬入。704・758と同一個体か。
706	〃	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y5/1	灰黄色 2.5Y6/2	淡黄色 2.5Y8/3	-	(3.1)	-	-	頸部, 刻目突帯, 貼付。ヨコハケ/ハケ・ナデ。
707	〃	ST26_ 中央 P	〃 〃	灰黄褐色 10YR4/2	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	-	-	-	-	ハケ/ハケ・ナデ。内面接合痕。仁淀川流域の胎土か。
708	〃	ST26	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	-	(5.4)	-	3.5	平らな部分が残る丸底。叩き後ハケ・ナデ/ハケ・ナデ。黒斑。
709	〃	ST26_ 中央 P	〃 底部	にぶい黄褐色 10YR7/4	明黄褐色 10YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	-	(4.0)	-	-	丸底。ナデ・ハケ/ハケ・ナデ。内底面, 指圧。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 261 710	24 区	ST26	弥生 壺	黒色 7.5Y2/1	にぶい黄橙色 10YR6/4	褐灰色 10YR5/1	-	(8.0)	-	-	大型壺。叩き後ハケ・ナデ/ハケ・ナデ。黒斑。
711	〃	ST26_ 中央P	〃 〃	褐灰色 10YR4/1	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	-	(19.8)	-	-	ほぼ丸底。叩き後ハケ・ミガキ/ハケ・ナデ。被熱変色。煤。
712	〃	ST26	〃 〃	明黄褐色 10YR6/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR6/1	-	(22.6)	-	-	丸底。叩き後ハケ・ナデ/ハケ・ケズリ・ナデ。キレツ。黒斑。
図 262 713	〃	〃	〃 甕	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	灰白色 2.5Y7/1	14.6	(11.2)	-	-	「く」。口唇、ハケ状原体による面取り。口縁、ヨコナデ。叩き後ナデ/ハケ。キレツ。煤。
714	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	黄灰色 2.5Y6/1	15.6	(3.8)	-	-	間延びした「く」。口唇、面取り。ナデか/ハケ。煤。混入。
715	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR6/3	15.3	(10.3)	-	-	「く」。口唇、ハケによる面取り。上半ハケ・ナデ、下半叩き後ナデ/ナデ・ハケ。接合痕。煤。白吹き痕。
716	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	浅黄褐色 10YR8/3	黄灰色 2.5Y5/1	14.4	(5.9)	-	-	「く」。口唇、面取り。口縁：叩き後ハケ/ハケ。体部：ナデ。肩内接合痕。煤。
717	〃	ST26_ P1	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	暗灰黄色 2.5Y5/2	17.5	(7.8)	-	-	口縁、緩やかに外反。口唇、ハケ状原体による面取り。口縁：ハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。煤。
718	〃	ST26	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰褐色 7.5YR5/3	にぶい黄橙色 10YR7/4	17.0	(15.2)	-	-	口縁、緩やかに外反。口唇、面取り。口縁：ハケ。体部：叩き後ハケ/ハケ・ナデ。煤。
719	〃	ST26_ P1	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	灰黄褐色 10YR4/2	黄灰色 2.5Y5/1	-	(4.2)	-	2.2	平底。外底面、ハケ後ナデ。粗いたテハケ/ナデ。煤。
720	〃	ST26_ 中央P	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	-	(3.5)	-	-	外底面、叩き。叩き後ナデ/ナデ。指圧。
721	〃	ST26	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	-	(3.2)	-	3.0	角の取れた平底。外底面、ハケ後ナデ。叩き後ハケ/ハケ・ナデ。煤。
722	〃	〃	〃 〃	灰色 N4/0	橙色 7.5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(7.7)	-	2.6	ほぼ丸底。外底面、ハケにより丸底化。叩き後ハケ/ハケ後ナデ。内底面、指押え。黒斑。煤。
図 263 723	〃	〃	〃 鉢	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	黄灰色 2.5Y6/1	10.2	6.9	-	2.2	外底面、未調整。圧痕。叩き後ナデ/ナデ・工具ナデ。キレツ。黒斑。
724	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	褐灰色 10YR5/1	10.2	7.3	-	2.0	丸底か。叩き後ナデ/ナデ。キレツ。黒斑。
725	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR6/6	10.6	(7.4)	-	-	外底面をケズリにより丸底化。叩き後ナデ/ハケ(工具ナデ)。
726	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y4/1	-	(6.7)	-	3.5	平らな部分が残る丸底。叩き後ハケ・ナデ/ナデ。
727	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰色 5Y5/1	12.0	(7.4)	-	(2.6)	半球形。丸底か。叩き後ナデ・ハケ/ナデ・ハケ。キレツ。黒斑。
728	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y6/1	12.6	5.5	-	2.6	角のとれた平底。口縁：ヨコナデ。体部：叩き後ナデ/ハケ。
729	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	16.8	6.4	-	-	外底面、ナデにより丸底化。ナデ/ハケ。煤。
730	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	黄灰色 2.5Y4/1	9.6	(5.0)	-	-	外反口縁。叩き後ハケ/ハケ・ナデ。
731	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	10.6	(6.1)	-	-	外反口縁。口縁：ヨコナデ。体部：ハケ/ハケ・ナデ。
732	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	-	(3.3)	-	-	外反口縁。口縁：ハケ。体部：叩き後ナデ/ミガキか。
733	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	-	(2.5)	-	-	ヨコナデ/ハケ。鋸歯文の線刻か。
734	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	褐灰色 10YR4/1	-	(3.6)	-	-	ハケ後ミガキか/ミガキ。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 263 735	2-4 区	ST26	弥生 鉢	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	32.6	20.1	29.9	-	片口鉢。外反口縁。口唇、面取り。丸底か。叩き後ハケ /ハケ・ナデ。キレツ。黒斑。被熱。煤。
736	〃	〃	〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	暗灰黄色 2.5Y5/2	36.4	(13.9)	34.6	-	片口鉢。外反口縁。口唇、面取り。叩き後ハケ / ハケ・ ミガキ。煤。
737	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	-	(3.6)	-	-	小型精製土器。内外面、ミガキ。搬入か。
738	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	-	(5.8)	-	2.7	ナデにより丸底化。叩き後ナデ / ハケ・ナデ。キレ ツ。黒斑。
739	〃	ST26_ 中央 P	〃 底部	にぶい黄褐色 10YR6/4	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄褐色 10YR7/4	-	(3.1)	-	-	丸底。外底面、底端部をナデにより丸底化。叩き後ナ デ / ハケ・ナデ。黒斑。
740	〃	ST26	〃 有孔	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	灰黄褐色 10YR6/2	-	(3.4)	-	2.6	角の取れた平底。外底面、ナデ。叩き後ナデ / ハケ。底 部、焼成前穿孔。黒斑。
図 264 741	〃	〃	〃 器台か	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰色 5Y6/1	-	(2.4)	-	-	外端上面、剥離痕、擬口縁。外面、ハケ後ミガキか。内 面、摩耗・剥離、調整不明。外面、剥離痕。高杯か。
742	〃	〃	〃 高杯	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	-	(4.0)	-	13.8	端部、ハケ状原体による面取り。ハケ後ミガキ / ハケ 後ナデ・一部、ミガキ状。未穿孔の孔。
743	〃	〃	〃 器台	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y6/1	26.8	(1.9)	-	-	口唇、拡張、櫛波文。内外面とも剥離、観察困難。内 面、ミガキか。擬口縁。
744	〃	〃	〃	灰黄色 2.5Y6/2	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y5/1	17.9	(1.9)	-	-	口唇、上方へ拡張し、櫛波文。内外面、ヨコナデ。キレ ツ。
745	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	24.6	(1.4)	-	-	口唇、上下に拡張、複合鋸歯文。外面、ヨコナデ。内 面、摩耗、調整不明。
746	〃	〃	〃	黄灰色 2.5Y4/1	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	21.0	(1.9)	-	-	口縁端部、上下に拡張。口唇、刻目、複合鋸歯文。ナデ・ ハケ / ナデ・ハケ。黒斑。
747	〃	〃	〃	橙色 5YR7/8	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y4/1	21.6	(2.5)	-	-	粘土紐貼付、口唇、上方へ拡張。口唇、刺突文、櫛波 文、円形浮文。ハケ後ミガキ / ナデか。
749	〃	〃	ミニ	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰色 5Y6/1	7.1	8.3	7.0	-	丸底。「く」の字状口縁部がモデル。ナデ・ミガキ / ナデ。黒斑。
750	〃	〃	〃	にぶい黄褐色 10YR7/4	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	6.1	3.2	-	4.8	手捏ね成形。鉢形。平底。キレツ。黒斑。
753	〃	〃	土師 杯	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	11.4	3.2	-	6.2	内外面、ヨコナデ。回転ヘラ切り。混入。
754	〃	〃	〃	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/8	浅黄褐色 7.5YR8/3	-	(1.7)	-	-	ヨコナデ / ヨコナデ後ミガキ。底部、回転ヘラ切り後 ナデ。赤色塗彩。混入。
755	〃	〃	〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(1.7)	-	15.0	断面長方形の貼付高台。外底面、回転ヘラ切り後ナ デ。内底面、回転ナデ後ミガキ。混入。
図 266 757	〃	ST25・ 26	弥生 壺	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y6/1	22.9	(2.8)	-	-	口唇、面取り。斜格子文・全面刻み。外面、摩耗、調整 不明。 / ヨコハケ。
758	〃	〃	〃	褐色 7.5YR4/3	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい黄褐色 10YR4/3	-	(3.1)	-	-	口唇、尖らせる。内外面、ヨコナデ。雲母片、少量含 む。搬入。704・705 と同一個体か。
759	〃	〃	〃	浅黄褐色 7.5YR8/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	-	(2.5)	-	-	口唇、上方へ拡張、竹管文。内外面、摩耗、ヨコナデか。
760	〃	〃	〃	にぶい黄色 2.5Y6/3	橙色 7.5YR6/6	黄灰色 2.5Y6/1	19.0	(3.0)	-	-	複合。口唇、ハケ状原体による面取り。櫛波文。ヨコナ デ / ヨコナデ。擬口縁。
761	〃	〃	〃 甕	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	14.1	(3.3)	-	-	「く」。口唇、面取り。叩き後ナデ / ハケ。煤。
762	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	13.0	(4.8)	-	-	緩やかな「く」。口縁端部、摘み出し。口唇、平坦～凹 面状。タテハケ / ハケ。肩内接合痕。煤。
763	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y6/1	-	(5.1)	-	-	緩やかな「く」。口唇、面取り。叩き後ナデ / ハケ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 266 764	2-4 区	ST25・ 26	弥生 甕	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい黄橙色 10YR6/3	灰黄褐色 10YR6/2	-	(3.0)	-	2.7	丸底。外底面、端部をハケ・ナデにより丸底化。ナデ・ハケ / ナデ。雲母片・火山ガラス片、少量含む。黒斑。煤。
765	〃	〃	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	橙色 7.5YR7/6	18.5	(5.2)	-	-	口唇、ハケ状原体によるルーズな面取り。内外面、ナデ。ペンガラ、塗布か。
766	〃	〃	〃 高杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	-	(6.4)	-	-	短い中実部。叩き後ハケ / ナデ・ハケ。支脚の可能性。被熱変色。
767	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR8/2	-	(3.6)	-	-	短い中実部。タテハケ後ミガキ / ハケ。擬口縁。
768	〃	〃	土師 皿	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(2.3)	-	-	折り込み口縁。内外面、回転ナデ。混入。
769	〃	〃	〃 杯か	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(3.7)	-	-	口縁、僅かに外反。内外面、回転ナデ。口縁端部、煤か。
図 269 771	〃	SB2 P449	〃 盤	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	1.3	-	-	ヨコナデ・一部、ミガキ状 / 摩耗、ヨコナデか。
772	3 区	〃 P767	〃 椀	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR7/4	-	(1.2)	-	5.4	断面方形の貼付高台。内外面、摩耗、調整等の観察困難。
図 271 774	2-3 区	SB3 P421	〃 杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	12.4	3.6	-	7.6	回転ナデ。内外面にロクロ目。外底面に板状の丘痕。回転ヘラ切り。
図 276 775	2-2 区	SB7 P322	〃 皿	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	8.8	2.0	-	6.7	回転ナデ。内外面にロクロ目。内底央に「の」の字状のナデ。回転ヘラ切り。精選された胎土。煤。
776	〃	〃 〃	〃 杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	13.9	3.5	-	7.2	回転ナデ。内外面にロクロ目。内底央は凸状を成す。ヘラ起こし。精選された胎土。
777	3 区	〃 P642	〃 椀	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	-	(1.9)	-	6.0	回転成形により外底面は凸状を成す。貼付輪高台。精選された胎土。
図 282 780	2-1 区	SB11 P256	土質 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	9.0	3.1	-	4.1	回転ナデ。内面にヘラミガキ。柱状高台。外底面の切り離し痕をナデ消す。精選された胎土。
782	〃	〃 P296	土師 椀	にぶい橙色 7.5YR7/3	明赤褐色 2.5YR5/6	にぶい橙色 7.5YR7/3	15.3	5.4	-	-	回転ナデ。外面にロクロ目。内面にヘラミガキ。貼付輪高台の剥離痕。精選された胎土。
図 284 783	〃	SB12 P279	土質 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	7.8	1.4	-	6.5	回転ナデ。底径に比して体部は浅い。回転糸切り。精選された胎土。
784	〃	〃 P272	須恵 椀	灰色 5Y5/1	灰色 5Y5/1	灰黄褐色 10YR5/2	-	(2.3)	-	6.2	回転ヘラナデ。貼付輪高台。外面、火襷状の煤け。
図 287 785	〃	SB14 P226	〃 〃	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	-	(1.9)	-	6.6	やや内湾気味で細身の貼付輪高台。高台内にヘラナデ痕。精選された胎土。焼成不良。
図 293 787	〃	SB18 P58	土師 杯	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/7	橙色 5YR7/7	14.5	5.1	-	7.0	回転ナデ。外面にロクロ目。底部は形骸化した円盤状高台。回転糸切り。精選された胎土。
図 295 788	〃	SA2 P229	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/2	-	(1.8)	-	6.7	底面、外縁端部に断面三角形の貼付輪高台。
図 298 789	〃	SK8	土質 皿	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	にぶい赤褐色 10R6/4	9.2	1.9	-	5.5	体部はひらき気味に立上がり、口縁端部は丸くおさめる。器面は剥離。精選された胎土。
図 299 790	〃	SK18	〃 杯	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 7.5YR8/6	-	(4.6)	-	4.8	回転ナデ。内外面にロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。内面に火襷状の煤け。
図 300 791	〃	SK19	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	-	(2.8)	-	5.2	回転ナデ。内面にロクロ目。回転糸切り。底央に孔状の欠損。精選された胎土。
図 302 792	2-4 区	SK32	磁器 碗	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 7.5Y7/1	10.6	(4.2)	-	-	外面、文様有り。内面、2 条の圏線。透明釉を施釉。
793	〃	〃	〃 〃	灰白色 10Y8/1	灰白色 10Y8/1	白色 7.5Y7/1	-	(2.5)	-	3.6	蓮弁状。置付、釉剥ぎ。内面、1 条の圏線。コンニャク印版。2 条の圏線。高台内、3 ヶ所に砂付着。
図 304 795	2-1 区	SD12	弥生 鉢	にぶい褐色 7.5YR5/3	灰褐色 7.5YR4/2	褐灰色 10YR4/1	-	(7.2)	-	5.6	脚付鉢。叩き後ナデ・ハケ / ハケ・ナデ。被熱。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 306 796	2-1 区	SD16	土質 皿	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/3	7.8	1.6	-	4.8	回転ナデ。口縁部は僅かに外反し、端部は丸くおさめる。回転糸切り。精選された胎土。
797	〃	〃	土師 羽釜	灰褐色 7.5YR5/2	灰褐色 7.5YR6/2	にぶい橙色 5YR6/4	21.8	(5.0)	-	-	断面梯形状の鑊を貼付。雲母片等の細粒砂を含む。摂津C型。
798	〃	〃	須恵 椀	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y6/1	灰黄褐色 10YR6/2	-	(4.0)	-	6.0	回転ナデ。円盤状高台。回転糸切り。外面に火襷状の煤け。内面に重ね焼き痕。器表は平滑。
図 307 799	〃	SD17	土質 杯	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	7.8	1.6	-	5.4	回転ナデ。回転糸切り。
800	〃	〃	〃 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	9.0	1.9	-	6.4	回転ナデ。底部は形骸化した円盤状高台。底部の切り離し痕は不明瞭。
801	〃	〃	土師 椀	淡黄色 2.5Y8/3	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/3	-	(1.9)	-	6.6	底部は断面矩形状の貼付輪高台。
図 308 802	〃	P12	弥生 甕	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい黄褐色 10YR6/3	黄灰色 2.5Y5/1	-	(11.3)	-	-	ほぼ丸底。体部：叩き後ナデか/ナデ。摩耗。被熱。煤。おこげ。
803	〃	P61	土師 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	黒褐色 10YR3/1	にぶい黄褐色 10YR7/3	14.2	(11.0)	15.6	-	体部は下膨れ。口縁、短く屈曲。ヨコナデ・叩き/ヨコナデ。煤。
804	〃	P81	弥生 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y6/1	-	9.7	-	4.9	平底。外底面、叩き目。体部：叩き後粗いタテハケ/ハラケズリ。被熱。煤。
805	〃	P119	〃 底部	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	黒色 2.5Y2/1	-	(5.2)	-	4.3	平底。外底面、ハケ。体部：叩き後ハケ/ナデ。黒斑。煤。
806	〃	P172	〃 鉢	にぶい黄褐色 10YR7/4	褐色 10YR4/1	褐色 10YR5/1	22.0	(5.6)	-	-	口縁、短く外反。体部：ミガキ/ハケ後ミガキ。黒斑。
807	〃	P194	土師 杯	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	-	(3.0)	-	7.3	回転ナデ。底部に細身の貼付輪高台。煤。
808	〃	P197	弥生 鉢	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 2.5YR7/8	19.2	(11.1)	-	1.7	口縁、短く外反。角の取れた平底。口縁：ヨコナデ/ハケ。体部：タテハケ/ナデ。黒斑。
809	〃	P204	須恵 杯	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y5/1	-	(1.5)	-	8.0	回転ナデ。僅かに外傾する断面矩形状の貼付輪高台。自然釉。
810	〃	P205	土師 〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	-	(2.9)	-	7.6	回転ナデ。外傾する貼付輪高台。回転ハラ切り。
813	〃	P271	瓦器 皿	灰色 N4/0	灰色 5Y5/1	灰黄色 2.5Y6/2	8.2	1.7	-	1.8	口縁、ヨコナデ。底部、指圧。底部は丸みを帯びて底央は凹状を成す。
814	〃	〃	〃 〃	灰色 N4/0	灰色 N4/0	黄灰色 2.5Y4/1	8.8	1.8	-	-	口縁、ヨコナデ。底部、指圧。内底面に粗略な暗文を施す。外底面にハラ状原体による沈線状痕。
図 309 815	2-2 区	P310	土師 甕	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	26.2	(6.4)	-	-	長胴甕。口縁、ヨコナデ。外面タテハケ。
817	〃	P357	〃 杯	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	-	(1.9)	-	6.2	体部・底部境に沈線状痕。底部は形骸化した円盤状高台。回転糸切り。
819	2-3 区	P400	瓦質 羽釜	灰色 N4/0	灰色 N4/0	灰白色 5Y8/1	25.0	(5.8)	-	-	口縁、回転ナデ。口縁は内傾し、端部は面を取る。断面三角形状の鑊を貼付する。
820	〃	P401	土師 杯	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/3	-	(3.2)	-	7.4	回転ナデ。外面にロクロ目。体部は斜め上方に立上がる。回転糸切り。
821	2-4 区	P456	須恵 皿	灰白色 2.5Y7/1	灰黄色 2.5Y7/2	黄灰色 2.5Y6/1	16.6	1.8	-	13.8	内外面、ヨコナデ。回転ハラ切り後ナデ。内底面、当て具痕有り。
図 310 822	〃	検出面	弥生 器台	橙色 5YR6/8	橙色 7.5YR6/6	灰白色 10YR7/1	-	(1.8)	-	-	口唇、上下に拡張、櫛波文。内外面、ナデか。
823	〃	〃	〃 鉢	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	7.2	1.8	-	3.7	皿状鉢。手握ね成形。
824	〃	〃	土師 椀	浅黄褐色 10YR8/3	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/3	-	(1.0)	-	5.8	かなり扁平な高台。ミガキ/摩耗、ミガキか。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 310 825	2-4 区	検出面	土師 甕	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	-	(1.8)	-	-	口縁端、摘み上げ。内外面、ヨコナデ。
826	〃	〃	〃 羽釜	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	18.3	(4.4)	-	-	口縁上端からやや下がった位置に銜を付す。口縁、ヨコナデ。体部：ノナデ。
827	2-2 区	包含層 2層	〃 皿	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	-	(2.9)	-	4.8	回転ナデ。底部は鼓状を呈した柱状高台。回転ヘラ切り。精選された胎土。
828	〃	〃	〃 椀	橙色 2.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/3	-	(2.7)	-	6.0	回転ナデ。内面にヘラミガキ。底部は貼付輪高台。精選された胎土。
829	〃	〃 3層	〃 杯	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	-	-	-	-	外面は回転ナデ。内面に不明瞭な蓮弁文状の線刻文様。精選された胎土。
830	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	-	14.0	4.2	-	6.2	回転ナデ。外面にロクロ目。形骸化した円盤状高台様。回転糸切り。
831	〃	〃	〃 皿	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	10.2	1.7	-	7.6	回転ヘラ切り。焼成はやや軟質。精選された胎土。
832	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	9.2	2.0	-	7.6	回転ナデ。内底面にロクロ目。回転糸切り。精選された胎土。
833	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	褐灰色 10YR6/1	7.5	1.6	-	4.6	回転ナデ。回転糸切り。口縁、煤。焼成はやや軟質。精選された胎土。
834	〃	〃	〃 羽釜	にぶい黄褐色 10YR7/4	褐灰色 10YR4/1	にぶい黄褐色 10YR6/4	21.0	(7.9)	-	-	口縁内面は内傾し、端部は強いヨコナデにより凹状を成す。断面矩形形状の銜。被熱。煤。摂津 C 型。
835	2-1 区	〃	〃 不明	にぶい褐色 7.5YR5/6	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/6	-	-	-	-	外面、ハケ。墨書土器。判読不明。
836	〃	〃	〃 皿	橙色 7.5YR7/6	灰褐色 7.5YR6/2	灰オリーブ色 5Y5/2	10.0	1.8	-	6.8	回転ナデ。体部は緩やかに浅く立上がり、口縁端部は丸くおさめる。回転ヘラ切り。
837	〃	〃 2層	〃 椀	灰白色 2.5Y8/2	灰黄褐色 10YR6/2	灰白色 2.5Y8/2	-	(1.7)	-	7.3	回転ナデ。底部外縁に断面梯形状の輪高台を貼付し、底面が凹状を成す。
838	2-4 区	検出面	須恵 〃	浅黄色 2.5Y7/3	にぶい黄褐色 10YR7/2	淡黄色 2.5Y8/3	-	(2.9)	-	6.8	回転糸切り。内外面、ヨコナデ。内面、火襷有り。
839	〃	〃	〃 壺	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y5/1	16.0	(2.0)	-	-	口縁、摘み上げ。口唇、僅かに凹面状。内外面、ヨコナデ。
840	〃	〃	〃 〃	灰色 N4/0	暗灰色 N3/0	褐灰色 10YR6/1	18.8	(0.9)	-	-	口縁、摘み上げ、下方に僅かに拡張。口唇、凹面状。内外面、ヨコナデ。
841	〃	攪乱	〃 椀	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	-	(1.6)	-	7.0	平高台。内外面、ヨコナデ。回転糸切り。
842	〃	検出面	〃 杯	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	灰白色 2.5Y7/1	-	(1.4)	-	12.2	貼付高台、端部は凹面状。回転ヘラ切り後ナデ。内面、ヨコナデ。内底面、ナデ。
843	〃	〃	〃 蓋	灰褐色 5YR5/2	にぶい赤褐色 5YR5/3	黄灰色 2.5Y5/1	14.2	(1.5)	-	-	天井部：回転ヘラケズリ後ナデ/ナデ。口縁：回転ナデ。
844	2-2 区	包含層 2層	〃 椀	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	-	(2.1)	-	6.3	回転ナデ。底部、形骸化した円盤状高台様。回転糸切り。精選された胎土。
845	〃	〃	〃 皿	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	15.3	2.1	-	14.2	回転ナデ。回転ヘラ切り。
846	〃	〃	緑釉 碗	灰白色 10Y7/2	灰白色 10Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	-	(1.8)	-	6.2	須恵質系。回転ナデ。削り出し輪高台。刷毛塗りで施釉。高台内、露胎。淡緑色の施釉。畿内産。
847	2-1 区	〃 3層	〃 〃	灰白色 10Y7/2	灰白色 10Y7/2	浅黄色 2.5Y7/3	-	(2.3)	-	6.8	須恵質系。削り出し輪高台で僅かに外傾する。畳付まで刷毛塗りで施釉。淡緑色の施釉。畿内産。
848	〃	〃	土質 杯	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	黄灰色 2.5Y4/1	9.6	1.8	-	5.2	回転ナデ。ヘラ起しか。精選された胎土。
図 311 849	〃	〃	瓦質 鍋	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y5/1	灰白色 2.5Y8/2	36.2	(5.8)	-	-	口縁、受け口状。口唇、ヨコナデ、凹面状。口縁：ヨコナデ。体部：ナデ・指圧/ヨコナデ。煤。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 311 850	2-1 区	包含層 3層	瓦器 椀	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y4/1	灰白色 2.5Y8/2	15.0	3.9	-	4.8	口縁外面, ナデ。体部外面, 指圧。内面にヘラミガキ。 断面三角形の貼付輪高台。搬入(和泉産か)。
851	〃	〃 2層	〃 皿	灰色 5Y5/1	灰色 5Y5/1	灰白色 5Y8/1	8.2	1.7	-	3.4	口縁, ナデ。外底面, 指圧。内面にヘラミガキ。外底央 は僅かに凹状を成す。炭素の吸着は弱い。
852	2-4 区	検出面	白磁 碗	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	灰黄色 2.5Y7/2	14.5	(2.2)	-	-	口縁, 僅かに外反。櫛描文。透明感のある釉薬。
853	2-2 区	包含層 2層	〃 〃	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰白色 2.5Y8/1	16.3	(4.8)	-	-	玉縁。回転ナデ。釉は黄色味を帯びた灰白色釉。ピン ホール。胎土は粗く黒い砂粒を含む。IV類。
854	2-4 区	検出面	青磁 〃	灰オリーブ色 5Y5/2	灰オリーブ色 5Y5/2	灰白色 N7/0	-	(2.0)	-	-	2条の沈線, 劃花文。灰オリーブ色の釉薬。
855	〃	〃	〃 〃	オリーブ色 5Y5/4	オリーブ色 5Y5/4	灰黄色 2.5Y7/2	-	(1.7)	-	-	劃花文。やや黄色味があった灰オリーブ色の釉薬。
856	〃	〃	〃 皿	灰色 7.5Y6/1	灰黄色 2.5Y6/2	灰白色 2.5Y7/1	-	-	-	-	櫛描きによるジグザク文。透明感のある釉薬。外底 面, 露胎。同安窯系。
857	2-2 区	包含層 2層	〃 碗	にぶい黄色 2.5Y6/3	オリーブ黄色 5Y6/3	黄灰色 2.5Y6/1	-	(2.2)	-	6.0	須恵質の胎土。残存部, 施釉。ピンホール。底部は比較 的厚い。畳付, 熔着・目跡。
図 313 869	3 区	ST1	弥生 甕	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい黄橙色 10YR6/3	黄灰色 2.5Y5/1	14.4	(13.4)	13.7	-	「く」。口唇, 面取り。口縁: 叩き後ナデ/ハケ。体部: 叩き後ハケ/粗いハケ。キレツ。煤。
870	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR6/2	-	(11.1)	-	-	緩やかな「く」。口唇, 面取り。口縁: 叩き後ナデ/ハ ケ。体部: 叩き後ハケ/粗いハケ。内面接合痕。煤。
871	〃	〃	〃 〃	明赤褐色 2.5YR5/8	明赤褐色 2.5YR5/8	明赤褐色 2.5YR5/8	-	(11.5)	-	-	緩やかな「く」。口縁: ハケ/ハケか。体部: 叩き後 ハケ/ハケ。全体的に摩耗。煤。
872	〃	ST1_ P1	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	褐灰色 10YR4/1	16.8	(5.3)	-	-	「く」。口唇, 面取り。口縁: ハケ/ハケ。体部: 叩き後 ハケ/粗いハケ。
873	〃	ST1	〃 鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	8.1	3.8	-	1.6	角の取れた平底。外底面, 叩き目。体部: 叩き後ナデ /ナデ。内底面, 凹む。キレツ。被熱。黒斑。
874	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	9.3	5.5	-	1.5	角の取れた平底。外底面, ナデ。体部: 叩き後ナデ/ ハケ・ナデ。歪む。全体的に摩耗。
875	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/3	10.6	5.6	-	2.0	角の取れた平底。外底面, ハケ。体部: 叩き後ナデ・ ハケ/ハケ。キレツ。
876	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	灰色 5Y4/1	-	(5.0)	-	-	尖底。ヘラナデ/ヘラナデ。外面, 砂粒の移動痕。黒 斑。煤。
図 315 877	〃	ST2	〃 甕	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄褐色 10YR8/4	10.6	(6.8)	-	-	「く」。口縁: 叩き後ナデ/ナデ。体部: 叩き後ナデ/ ナデ。頸内接合痕。煤。
878	〃	〃	〃 鉢	明黄褐色 10YR7/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR5/1	-	(4.8)	-	2.8	直立部を持つ角の取れた平底。外底面, ナデ。内外面 ともナデか。黒斑。
879	〃	〃	ミニ	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	-	(4.2)	-	3.9	手捏ね成形。内面, 指ナデ痕, 顕著。キレツ。煤。
図 318 881	〃	ST4	弥生 甕	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	15.0	(2.4)	-	-	口唇, 面取り。ナデ/ヨコハケ。
882	〃	〃	〃 〃	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	-	(1.9)	-	-	口唇, ハケ状原体による面取り。ナデ/ヨコハケ。
883	〃	ST4_ 壁溝	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	-	(0.8)	-	-	口唇, ハケ状原体による面取り。上下に若干, 拡張。
図 320 884	〃	ST5	〃 壺	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 N5/0	21.0	(3.0)	-	-	口唇, ハケ状原体による面取り。摘み上げ, 摘み出 し, 凹面状。タテハケ/ヨコハケ。
885	〃	〃	〃 甕	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	褐灰色 10YR4/1	-	(2.0)	-	-	口唇, 面取り。ナデ/ヨコハケ。擬口縁。煤。
886	〃	〃	〃 底部	黒褐色 2.5Y3/1	にぶい黄褐色 10YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	-	(2.2)	-	2.6	角の取れた平底。外底面, 叩き目。叩き後ナデ/ナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 320 887	3区	ST5	弥生 鉢	明黄褐色 10YR6/6	明黄褐色 10YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	11.8	(3.0)	-	-	口唇, ルーズな面取り。叩き後ナデ/ハケ。黒斑。
888	〃	ST5_ P1	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	-	(1.9)	-	-	ナデ/ハケ。煤。
889	〃	ST5	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい黄橙色 10YR6/4	褐灰色 10YR4/1	-	(3.5)	-	-	外反口縁。ナデ/ハケ。キレット。
図 322 890	〃	ST6	〃 壺	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	6.6	(3.9)	-	-	直口壺。口縁：ハケ。体部：上半ナデ・ミガキ, 下半 ハケ/ナデ。黒色物, 塗布か。搬入。
891	〃	ST6_ 中央P	〃 甕	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	13.4	(3.7)	-	-	「く」。口唇, 刻目。叩き・ナデ/ハケ・ナデ。肩内接合 痕。被熱。煤。
892	〃	ST6	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰褐色 7.5YR4/2	褐灰色 10YR5/1	15.3	(4.2)	-	-	「く」。口唇, ルーズな面取り。叩き・ナデ/ハケ・ナ デ。肩内接合痕。煤。
893	〃	〃	〃 〃	明赤褐色 2.5YR5/6	褐灰色 5YR6/1	黄灰色 2.5Y5/1	-	(3.1)	-	-	「く」。口唇, ハケ状原体による面取り。叩き後ナデ/ ハケ。煤。
894	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 5YR7/4	灰色 7.5Y5/1	13.6	(3.3)	-	-	「く」。口唇, ルーズな面取り。叩き後ナデ/ハケ・ナ デ。煤。
895	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	-	(2.6)	-	-	口唇, ハケ状原体による面取り。叩き後ハケ/ハケ後 ナデ。指圧。貼付口縁状。
896	〃	〃	〃 底部	にぶい黄褐色 10YR7/4	浅黄褐色 10YR8/4	灰色 N5/0	-	(6.2)	-	2.4	角の取れた平底。外底面, 叩き目。叩き後タテハケ/ ナデ。黒斑。
897	〃	〃	〃 鉢	明赤褐色 5YR5/6	にぶい黄褐色 10YR5/4	灰色 5Y6/1	-	(5.6)	-	-	ナデ/ハケ。キレット。
898	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR6/6	にぶい黄褐色 10YR7/3	8.6	(2.6)	-	-	外反口縁。タテハケ/ヨコハケ・ナデ。
899	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 2.5Y7/1	6.9	(3.3)	-	-	外反口縁。口縁：ヨコナデ。体部：タテハケ/ナデ。
900	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR4/2	褐色 7.5YR4/6	にぶい褐色 7.5YR5/4	-	(1.2)	-	0.6	底部, ボタン状。タテハケ/ハケ・ナデ。黒斑。搬入か。
図 324 901	〃	SB1 P749	土師 皿	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	9.4	(1.5)	-	7.2	内外面, ヨコナデ。回転ヘラ切りか。
902	〃	〃 P715	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	-	(2.0)	-	-	内外面, ヨコナデ。
903	〃	〃 P748	〃 杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	-	(1.6)	-	6.3	底端面, 僅かに突出。内外面, ヨコナデ。回転ヘラ切り か。
904	〃	〃 P715	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄褐色 10YR8/4	-	(2.0)	-	-	内外面, ヨコナデ。
905	〃	〃 P725	〃 椀	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/8	橙色 5YR7/6	14.6	(3.7)	-	-	口縁内面, 沈線。内面, ミガキか。外面, 摩耗, 調整不 明。雲母片, ごく少量含む。
906	〃	〃 〃	〃 〃	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	-	(1.3)	-	-	内外面, ヨコナデ。外底面, 回転糸切り。
907	〃	〃 〃	〃 羽釜	黒褐色 10YR3/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR6/4	28.8	(5.3)	-	-	内外面, ヨコナデ。鈔の端面に2条の沈線。
908	〃	〃 P709	〃 須恵 杯	灰色 N5/0	灰色 N5/0	灰色 N6/0	11.9	(2.8)	-	-	内外面, ヨコナデ。
図 326 909	〃	SB2 P703	土師 皿	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	8.5	(1.5)	-	-	内外面, ヨコナデ。
910	〃	〃 P771	〃 〃	浅黄褐色 7.5YR8/6	赤褐色 2.5YR4/8	浅黄褐色 7.5YR8/6	-	(1.6)	-	-	内外面, ヨコナデ。
911	〃	〃 P705	〃 杯	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 5YR7/6	-	(1.4)	-	-	内外面, ヨコナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 326 912	3区	SB2 P703	土師 杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	9.8	(2.5)	-	6.8	内外面, ヨコナデ。回転ヘラ切り。
913	〃	〃 P702	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	11.4	(3.2)	-	-	内外面, やや強いヨコナデ。
914	〃	〃 P703	〃 〃	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	灰赤色 10R6/2	-	(2.9)	-	-	内外面, ヨコナデ。
915	〃	〃 P705	〃 〃	灰褐色 7.5YR4/2	灰褐色 7.5YR4/2	にぶい橙色 7.5YR7/3	-	(1.2)	-	7.7	内外面, ヨコナデ。回転ヘラ切り後ナデ。
916	〃	〃 〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(1.1)	-	5.5	内外面, ヨコナデ。回転ヘラ切り後ナデ。
917	〃	〃 P703	〃 椀	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	15.0	(3.0)	-	-	内外面, ヨコナデ後ミガキ。
918	〃	〃 P712	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	14.8	(2.3)	-	-	内外面, ヨコナデ。
919	〃	〃 〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	-	(2.0)	-	6.4	円盤状高台。内外面, ヨコナデ。回転ヘラ切り後ナデ。
920	〃	〃 〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	灰白色 2.5Y7/1	-	(1.8)	-	6.3	断面長方形の貼付高台。外端部, 摘み出す。ヘラケズ リか/ヨコナデ。回転糸切り。
921	〃	〃 〃	〃 高脚皿	灰白色 10YR8/2	浅黄橙色 10YR8/3	灰白色 10YR8/1	10.1	(1.9)	-	-	ヨコナデ/ヨコナデ・ナデ。
922	〃	〃 P705	〃 黒色 椀	黒色 5Y2/1	黒色 5Y2/1	黄灰色 2.5Y5/1	-	(0.9)	-	6.4	両黒。断面三角形の貼付高台。内外面, ミガキ。楠葉 型。搬入。
図 328 923	〃	SB3 P711	土師 杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	-	(0.9)	-	-	内外面, ヨコナデ。回転ヘラ切りか。
924	〃	〃 〃	〃 杯か	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	浅黄橙色 7.5YR8/3	-	(1.0)	-	5.2	内外面, ヨコナデ。回転糸切り。
925	〃	〃 P721	〃 椀	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 10YR8/2	11.8	(1.3)	-	-	内外面, ヨコナデ。
926	〃	〃 P776	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	17.2	(2.4)	-	-	内外面, ヨコナデ。
927	〃	〃 P711	〃 〃	浅黄色 2.5Y7/3	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	-	(1.5)	-	7.0	高台の外端部を摘み出す。畳付に沈線。内外面, ヨコ ナデ。内面, ミガキか。内底面に工具痕。
図 331 928	〃	SB5 P724	〃 杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	浅黄橙色 10YR8/3	-	(1.5)	-	5.5	内外面, ヨコナデ。回転ヘラ切りか。
929	〃	〃 P720	〃 土質 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	浅黄橙色 10YR8/3	-	(1.7)	-	6.6	内外面, ヨコナデ。回転糸切り。内底面, ナデ。外底 面, キレツ。被熱。
930	〃	〃 P762	〃 土師 椀	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	14.8	(4.3)	-	-	やや摩耗。内面, 外面上半, ヨコナデ。外面下半, ヘラ ケズリ。煤。
931	〃	〃 P724	〃 弥生 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	-	(2.8)	-	3.7	ほぼ丸底。外底面, 叩き目。叩き後ナデ/ナデ・ミガ キ。黒斑。混入。
図 334 932	〃	SB7 P713	土師 杯	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	褐灰色 10YR5/1	-	(1.5)	-	7.0	内外面, ヨコナデ。外底面, 回転ヘラ切り後ナデ。
933	〃	〃 〃	〃 甕	明赤褐色 5YR5/6	にぶい赤褐色 5YR5/4	明赤褐色 5YR5/8	-	(1.5)	-	-	口縁, 上方へ拡張。口縁端部, ヨコナデ。内外面, ヨコ ハケ。
図 336 934	〃	SB8 P743	〃 杯	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	-	(1.2)	-	7.0	内外面, ヨコナデ。外底面, 回転ヘラ切り後ナデ。
935	〃	〃 P718	〃 〃	褐灰色 10YR4/1	灰黄褐色 10YR6/2	浅黄橙色 10YR8/4	-	(1.7)	-	-	内外面, ヨコナデ。回転ヘラ切りか。
936	〃	〃 P706	〃 椀	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/4	灰白色 10YR8/2	11.9	(1.9)	-	-	内外面, ヨコナデ。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 336 937	3区	SB8 P714	土師 脚付皿	褐灰色 7.5YR4/1	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	-	(1.6)	-	-	外底面、平坦。外面、ヨコナデ。内面、摩耗、調整不明。 断面台形の貼付高台。被熱。
図 338 939	〃	SB9 P283	土質 〃	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	-	(1.7)	-	8.0	回転ナデ。内底面、僅かに凹状。精選された胎土。
図 347 941	〃	SB16 P378	〃 杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(1.9)	-	8.0	回転ナデ。内底面、回転成形により凹状。回転糸切り。 精選された胎土。全体的に摩耗。
図 361 942	〃	SB29 P654	〃 皿	にぶい橙色 2.5YR6/3	淡赤褐色 2.5YR7/3	にぶい橙色 5YR7/4	7.5	1.4	-	4.6	灯明皿か。回転ナデ。回転ヘラ切り。精選された胎土。 全体的に摩耗。口縁の一部分、黒色。
943	〃	〃 P179	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄褐色 10YR7/3	-	7.9	1.5	-	5.1	回転ナデ。内底面、回転痕をナデ消す。外底面、板状の 圧痕。回転糸切り。精選された胎土。完形。
944	〃	〃 P497	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	にぶい褐色 7.5YR7/4	8.7	1.1	-	5.7	粗い回転ナデ。体部は浅い。口縁、稜を成し短く上方 へ立ち上がる。回転ヘラ切り。
図 363 945	〃	SB30 P660	〃 杯	浅黄褐色 10YR8/3	にぶい黄褐色 10YR7/2	灰白色 10YR8/2	-	(1.8)	-	6.5	内底面、回転成形痕をハケ状原体によりナデ消す。回 転糸切り。精選された胎土。
図 369 946	〃	SA3 P71	土師 椀	にぶい褐色 2.5YR6/3	にぶい褐色 2.5YR6/3	にぶい褐色 2.5YR6/3	14.0	5.8	-	6.4	回転ヘラケズリ。内底面、ロクロ目。円盤状高台。回転 糸切り。雲母片等の細粒砂を含む。煤。
図 371 947	〃	SK1	土質 皿	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	6.8	1.9	-	4.1	回転ナデ。内底央、回転成形により凹状。回転糸切り。 精選された胎土。ほぼ完形。
948	〃	〃	〃 杯	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	10.9	3.9	-	6.5	回転ナデ。外面にロクロ目。内底央、回転成形により 凹状。回転糸切り。精選された胎土。
949	〃	〃	〃 〃	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	11.0	3.7	-	6.5	回転ナデ。外面にロクロ目。内底央、回転成形により 凹状。回転糸切り。精選された胎土。ほぼ完形。
図 372 950	〃	SK13	土師 杯	にぶい褐色 7.5YR6/4	褐色 7.5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR5/4	13.5	3.4	-	7.8	回転ナデ。内底央、回転成形により凹状。外底面、糸切 り状。精選された胎土。煤。
図 374 951	〃	SK18	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	11.8	2.8	-	7.8	回転ナデ。内底面にロクロ目。回転糸切り。精選され た胎土。全体的に摩耗。
図 375 952	〃	SK30	弥生 鉢	にぶい褐色 5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	12.3	7.0	-	3.7	直立部を持つ平底。口縁、僅かに外反、ヨコナデ。叩き 後ナデ/ハケ。黒斑。被熱。
図 377 953	〃	SK32	〃 高杯	褐色 5YR6/6	褐色 7.5YR6/6	褐色 7.5YR7/6	30.0	(5.5)	-	-	杯部、緩い逆「ハ」の字。口縁、ヨコナデ、端部拡張、 凹面状。ミガキ/ヨコハケ後、沈線状の調整。黒斑。
図 379 954	〃	SG1	〃 壺	灰白色 10YR7/1	浅黄褐色 10YR8/3	黄灰色 2.5Y4/1	-	(406)	34.5	4.7	角の取れた平底。外底面、ナデ。体部：叩き後ハケ/ ハケ。下半、分割成形の痕。肩内接合痕。被熱。
955	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい褐色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	-	(12.8)	-	5.0	直立部を僅かに持つ平底。外底面、ナデ。叩き後ハケ/ ハケ・ナデ。煤。
図 381 956	〃	SD5	青磁 碗	灰オリーブ色 5Y6/2	灰オリーブ色 5Y6/2	淡黄色 2.5Y8/3	-	(2.2)	-	5.7	削り出し高台。見込み、沈線・劃花文。畳付・外底面、 露胎。龍泉窯系。
図 383 957	〃	SD6	須恵 皿	褐灰色 10YR5/1	褐灰色 10YR5/1	褐灰色 10YR5/1	16.2	1.6	-	11.0	回転ナデ。回転ヘラ切り。
図 385 959	〃	SD7	土師 椀	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	15.0	(4.2)	-	-	回転ナデ。体部は内湾状を呈し、口縁は端反り気味に 外反、下端、稜。煤。
960	〃	〃	弥生 甕	明赤褐色 5YR5/6	褐色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	12.8	(6.3)	-	-	「く」。口縁：ナデ/工具ナデ。体部：叩き後ナデ/ ナデ。被熱。
図 389 962	〃	P12	土師 椀	浅黄褐色 7.5YR8/4	浅黄褐色 7.5YR8/4	灰白色 10YR8/2	16.2	5.4	-	6.2	回転ナデ・ヘラミガキ。断面矩形状の貼付輪高台。精 選された胎土。
963	〃	P15	緑釉 碗	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	灰色 N5/0	13.0	4.1	-	6.2	須恵質。回転ヘラケズリ。削り出しの円盤状高台。体 部外面に縦方向の沈線状痕。畿内産。
964	〃	P78	土師 杯	褐色 7.5YR6/6	褐色 7.5YR6/6	褐色 7.5YR6/6	15.0	3.8	-	7.6	口縁は僅かに外反し、内面に沈線状の条痕を有す。体 部内外面にヘラミガキ。精選された胎土。煤。
965	〃	P128	弥生 壺	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい褐色 7.5YR7/4	暗灰色 N3/0	-	(306)	29.2	6.4	平らな部分が残る丸底。外底面、ナデ。体部：叩き後 ハケ・ナデ/粗いハケ・ナデ。内面、荒れる。黒斑。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 389 966	3区	P180	土質 皿	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/4	灰白色 10YR8/2	7.5	14	-	5.2	回転ナデ。ロクロ目。内底面、回転痕をヘラミガキで消す。回転糸切り。精選された胎土。
967	〃	P220	弥生 鉢	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	8.2	(5.4)	-	-	叩き後ナデ/ナデ。キレツ。煤。
969	〃	P234	土師 羽釜	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	23.6	(7.7)	-	-	回転ナデ。口縁端部、ヨコナデにより凹面状。断面梯形状の鈔を貼付し、端部、沈線状の凹線。煤。摂津型。
970	〃	P259	土質 杯	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	灰色 5Y5/1	14.1	3.8	-	7.6	回転ナデ。内底面、回転成形により僅かに凹状。回転糸切り。精選された胎土。
〃 972	〃	P303	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	13.8	3.8	-	6.8	回転ナデ。内面、ミガキ。内底面、凹状。形骸化した円盤状高台。回転糸切り。精選された胎土。火樺状。
974	〃	P334	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	-	(2.7)	-	6.8	回転ナデ。高い円盤状高台から体部は逆「ハ」の字形に立上がる。回転糸切り。精選された胎土。
975	〃	P349	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	褐灰色 10YR4/1	浅黄橙色 10YR8/3	12.9	4.0	-	7.2	回転ナデ。外面にロクロ目。内底面、回転成形により凹状。回転糸切り。精選された胎土。煤。
976	〃	P454	青磁 合子蓋	灰白色 2.5Y8/1	明緑灰色 7.5GY7/1	灰白色 2.5Y8/1	4.2	1.1	-	-	上部を菊花で陽刻。かえり部分まで施釉（透明釉）。
図 390 977	〃	P693	黒色 椀	オリーブ黒色 7.5Y3/1	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	-	(1.0)	-	6.8	内面、ヘラミガキ。断面三角形の輪高台。雲母片等を含む精選された胎土。黒色土器 A 類。畿内産。
978	〃	P701	土質 杯	にぶい黄褐色 10YR7/4	浅黄褐色 10YR8/4	浅黄褐色 10YR8/4	9.8	2.9	-	7.0	灯明皿。外面、ナデ。回転ヘラ切り後ナデ。
979	〃	P707	黒色 椀	暗灰色 N3/0	にぶい褐色 7.5YR7/4	灰色 5Y4/1	-	(1.7)	-	8.5	断面長方形の貼付高台。外面、ヨコナデ。内面、荒れ、調整不明瞭、ミガキか。
980	〃	〃	土師 羽釜	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい褐色 5YR6/4	-	(4.1)	-	-	口縁直下に鈔を付す。内外面、ヨコナデ。胎土に雲母片を含む。
981	〃	P734	土質 杯	にぶい黄褐色 10YR7/2	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/2	-	(1.2)	-	7.2	内外面、ヨコナデ。回転糸切りか。
982	〃	P759	土師 〃	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	11.7	(2.5)	-	-	内外面、ヨコナデ。
図 391 983	〃	包含層	弥生 壺	褐色 7.5YR6/6	褐色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	15.2	(12.7)	-	-	口唇、ハケ状原体による面取り。頸部：ハケ/ハケ。体部：叩き後ハケ/ナデ・ハケ。頸内接合痕。黒斑。
984	〃	包含層 2層	土師 椀	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	-	(2.4)	-	6.5	回転ナデ。内底面、ヘラミガキ。輪高台。糸切り痕。精選された胎土。煤。
985	〃	トレンチ	〃 羽釜	褐灰色 10YR4/1	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい褐色 7.5YR5/3	-	(4.0)	-	-	口縁は僅かに立上がり、端部は面を成す。断面矩形形状の鈔を貼付し、ヨコナデ。摂津型。搬入か。
986	〃	遺構外	須恵 蓋	灰白色 5Y7/1	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 N6/0	-	(1.9)	-	-	天井部外面、ナデ。口縁内外面、回転ナデ。やや焼成不良。
987	〃	包含層 2層	〃 壺	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	灰白色 2.5Y7/1	19.3	(5.3)	-	-	回転ナデ。外面に斜め方向の叩き目。内面、当て具痕。口縁は逆「ハ」の字形に外反し、端部面取り。
988	〃	〃	黒色 椀	暗灰色 N3/0	にぶい赤褐色 5YR5/4	褐灰色 5YR4/1	19.5	(4.3)	-	-	内面、ヘラミガキ、暗文風の加飾。雲母片等の細粒砂を含む。黒色土器 A 類（畿内系）。
989	〃	〃	〃 底部	黒色 7.5Y2/1	にぶい褐色 7.5YR5/4	黒褐色 10YR3/1	-	(2.4)	-	8.6	回転ナデ。内面、ヘラミガキ。断面三角形の輪高台。碁笥底状。底面、圈線状の沈線。黒色土器 A 類。
990	〃	〃	緑釉 〃	灰白色 10Y7/2	灰白色 10Y7/2	灰黄褐色 10YR6/2	-	(1.8)	-	6.0	須恵質。回転ナデ。削り出しの円盤状高台。底央、凹状。内底面に圈線状の沈線。淡緑色の釉薬。畿内産。
991	〃	〃	土質 皿	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/3	浅黄褐色 10YR8/4	8.6	3.1	-	5.4	回転ナデ。柱状高台。精選された胎土。
992	〃	〃	須恵 片口鉢	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	32.8	(5.2)	-	-	回転ナデ。口縁端部、上方に拡張。東播系。
993	〃	トレンチ	瓦質 羽釜	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y5/1	22.9	(3.1)	-	-	口唇、面取り。口縁、ヨコナデ。鈔、貼付、ヨコナデ。精選された胎土。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種 器形	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 391 994	3区	包含層 2層	瓦質 羽釜	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y8/1	灰色 N6/0	18.4	(4.5)	-	-	三足鍋。口縁：ヨコナデ。鐏、貼付、ヨコナデ。鐏下方、剥離痕。精選された胎土。
995	〃	遺構外	白磁 碗	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 N8/0	-	(3.0)	-	-	口縁、玉縁状。灰白色の釉薬。Ⅳ類。
996	〃	〃	青磁 〃	灰オリーブ色 5Y6/2	灰オリーブ色 5Y6/2	灰白色 5Y7/1	-	(1.5)	-	-	灰オリーブ色の釉薬。
997	〃	〃	〃 〃	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	灰白色 2.5Y7/1	-	(1.5)	-	-	外面、櫛描文。内面、圏線・櫛描文。内外面、灰黄色の釉薬。同安窯系。
998	〃	〃	〃 〃	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	灰白色 2.5Y7/1	-	(1.9)	-	-	内外面、櫛描文。灰黄色の釉薬。外面腰部、露胎。同安窯系。

遺物観察表 土製品

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	全長	全幅	全厚	重量	
図 17 73	1区	ST2	支脚	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	-	9.7	-	-	中空。裾部、ひろがる。叩き？後ハケ・ナデ/ナデ。被熱。
図 28 147	1・2-1 区	ST6	紡錘車	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	4.8	4.9	0.9	22	ナデ。円形。側面はルーズな面取り。中央に直径約7mmの円孔。
図 32 162	1区	ST8	〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	(5.5)	(5.9)	1.5	38	ナデ。扁平なやや楕円形。側面はルーズな面取り。中央に直径約7mmの円孔。被熱。煤。
図 44 257	2-1区	ST12	支脚	-	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	(8.0)	2.7	2.1	-	ナデ。被熱。
図 59 335	1区	ST18	平瓦	浅黄褐色 10YR8/3	淡黄色 2.5Y8/3	浅黄褐色 10YR8/3	(7.3)	(4.7)	2.0	-	凸面、縄叩き。凹面、布目か。角を取る。
図 97 383	〃	SB23 P1488	土錘	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	4.2	1.3	1.2	5	管状土錘。円筒形。焼成、軟質。
図 102 386	〃	SB26 P1548	〃	-	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	-	5.0	1.4	1.1	6	管状土錘。僅かに紡錘形状を呈した円筒形。焼成、軟質。
図 113 388	〃	SB36 P669	平瓦	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄褐色 10YR6/3	(9.9)	(10.3)	2.1	-	凸面、縄目。凹面、布目・ケズリ。精選された胎土。焼成不良。
図 197 445	〃	SK112	フイゴ 羽口	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	(12.2)	7.6	7.4	-	細・粗粒砂を含む。円筒形。入り口側孔径3.5cm、出口側孔径3.0cm。出口（炉）側に鍛冶滓滓熔着。
図 199 447	〃	SK113	丸瓦	灰色 N6/0	灰色 N6/0	-	(11.6)	(10.6)	(4.2)	-	須恵質。凸面、板状原体によるナデ。凹面、布目。玉縁、ハケ。
図 221 469	〃	SD5	土錘	-	-	-	5.3	3.1	2.8	44	管状土錘。楕円形状を呈した円筒形。芯を用いて成形。両端は面を取る。側部に圧痕が認められる。
図 224 470	〃	SD9	土玉	-	にぶい黄褐色 10YR5/4	-	1.8	2.3	-	8	扁球形。焼成前穿孔。ほぼ完形。
図 244 558	〃	P1546	土錘	-	-	-	4.5	1.3	1.2	6	管状土錘。僅かに紡錘形状を呈した円筒形。焼成は軟質。
図 249 606	〃	2層	〃	-	橙色 7.5YR7/6	-	7.3	2.8	1.8	38	双孔棒状土錘。手捏ね成形。丸みを帯びた直方体状を呈し、両端面に孔径6mmの穿孔。
607	〃	〃	丸瓦	浅黄色 2.5Y7/4	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	(10.1)	(8.7)	(4.3)	-	須恵質。凸面、ナデ・縄目。凹面、布目。玉縁端、面取り。
図 255 643	2-4区	ST24	平瓦	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	暗灰色 N3/0	(5.3)	(6.1)	2.3	-	凸面、縄叩き。凹面、布目。混入。
図 264 748	〃	ST26	支脚	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	5.9	(3.1)	-	-	天井部、ナデ、凹凸有り。外面は叩き目、強い指押え。内面、ナデ。黒斑。被熱。
図 266 770	〃	ST25・ 26	土錘	-	橙色 5YR7/8	橙色 5YR6/8	3.6	1.3	1.2	(4)	管状土錘。両端、欠損。混入。
図 269 773	〃	SB2 P448	丸瓦	灰白色 10YR8/1	灰黄色 2.5Y7/2	灰白色 2.5Y7/1	(6.8)	(7.7)	1.7	-	凸面、ナデ。凹面、布目。コビキ痕 A 類。
図 276 778	3区	SB7 P556	土錘	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	2.8	1.2	1.1	3	管状土錘。円筒形。両端、面取り。側部に圧痕が認められる。中空部は楕円形状を呈し、孔径5mm。
図 278 779	〃	SB8 P650	〃	-	灰白色 10YR8/2	灰白色 2.5Y8/1	(3.8)	1.4	1.3	(6)	管状土錘。中位が僅かに膨らんだ円筒形。孔径4mm。片端一部欠損。
図 282 781	2-1区	SB11 P256	〃	-	にぶい橙色 7.5YR7/4	-	(3.2)	1.1	1.0	(3)	管状土錘。円筒形。孔径6mm。片端一部欠損。
図 291 786	〃	SB17 P59	平瓦	灰色 N5/0	黄灰色 2.5Y6/1	灰黄褐色 10YR6/2	(10.4)	(10.9)	(2.2)	-	凸面、縄目。凹面、布目。一面が残存。
図 308 811	〃	P207	土錘	-	にぶい黄褐色 10YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	(3.4)	(1.6)	(1.5)	(7)	管状土錘。歪な紡錘形状を呈した円筒形。孔径4mm。片側欠損。
812	〃	P218	丸瓦	にぶい黄褐色 10YR7/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	灰黄色 2.5Y7/2	(11.2)	(11.1)	7.1	-	凸面、ナデ。凹面、布目・緩弧線（コビキ A）。片端・側面が残存。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	色 調			法 量				特 徴
				内面	外面	断面	全長	全幅	全厚	重量	
図 309 816	2-2 区	P315	土錘	にぶい 橙色 7.5YR7/3	にぶい 橙色 7.5YR7/3	にぶい 橙色 7.5YR7/3	3.7	1.9	(1.9)	(11)	管状土錘。楕円形状を呈した円筒形。側部に圧痕。孔径 8mm。両端部及び側方の一部を欠損。
図 311 858	2-1 区	包含層 2 層	〃	-	赤橙色 10R6/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	(4.3)	1.2	1.2	(4)	管状土錘。歪な紡錘形状を呈した円筒形。孔径 4mm。被熱。
859	2-2 区	〃	〃	赤色 10R5/6	赤色 10R5/6	赤色 10R5/6	(4.0)	1.3	1.2	(4)	管状土錘。円筒形。孔径 5mm。両端欠損。
860	2-1 区	〃 3 層	〃	にぶい 黄橙色 10YR7/3	にぶい 黄橙色 10YR7/3	にぶい 黄橙色 10YR7/3	(4.0)	1.6	1.4	(6)	管状土錘。僅かに紡錘形状を呈した円筒形。断面は歪な楕円形状。側部に圧痕。孔径 7mm。両端欠損。
861	〃	〃	〃	にぶい 黄橙色 10YR7/3	にぶい 黄橙色 10YR7/3	にぶい 黄橙色 10YR7/3	4.2	1.5	1.5	7	管状土錘。円筒形。両端は面を取る。側部に圧痕。孔径 6mm。片端一部欠損。
862	〃	〃	〃	にぶい 黄橙色 10YR7/4	にぶい 黄橙色 10YR7/4	にぶい 黄橙色 10YR7/4	4.2	1.5	1.4	7	管状土錘。歪な紡錘形状を呈した円筒形。両端は面取り。側部に圧痕。孔径 3mm。双方中円形状。
863	〃	〃	〃	-	にぶい 橙色 7.5YR6/4	にぶい 橙色 7.5YR6/4	3.4	1.2	1.1	4	管状土錘。両端は面を取る。側部に圧痕。円筒形。孔径 6mm。
864	〃	包含層 2 層	〃	-	にぶい 黄橙色 10YR7/3	浅黄橙色 10YR8/3	3.5	1.8	1.6	9	管状土錘。僅かに楕円形状を呈した円筒形。断面は歪な楕円形状。側部に圧痕・ヘラナデ。孔径 6mm。
865	2-2 区	〃	丸瓦か	灰色 5Y6/1	灰色 5Y5/1	灰白色 5Y8/2	(6.1)	(6.2)	(2.3)	-	凹面、布目。軟質。
866	2-1 区	〃 3 層	平瓦か	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	(9.0)	(6.8)	(2.7)	-	凸面、縄目痕。凹面、布目。精選された胎土。
図 336 938	3 区	SB8 P706	土錘	-	にぶい 橙色 7.5YR7/4	明赤褐色 7.5YR7/2	5.0	1.3	1.3	7	管状土錘。僅かに紡錘形状を呈した円筒形。孔径 5mm の楕円形。片端一部欠損。
図 387 961	〃	SD15	平瓦	浅黄色 7.5Y7/3	黄灰色 7.5Y5/1	黄灰色 7.5Y6/1	(9.4)	(12.9)	2.0	-	端部、斜めに面取り。凸面、縄目。凹面、布目。キレツ。
図 389 971	〃	P298	土錘	-	浅黄橙色 10YR8/3	-	5.9	2.1	2.0	21	管状土錘。やや歪む。孔径 6～8mm の楕円形。ほぼ完形。
図 391 1001	〃	トレンチ	平瓦	浅黄色 2.5Y7/3	浅黄色 2.5Y7/4	暗灰色 N3/0	(9.8)	(12.6)	3.0	-	端部、面取り。凸面、縄目。凹面、布目。焼成不良。煤。

遺物観察表 石製品

図版番号	調査区	出土遺構	器種	法 量				特 徴
				全長	全幅	全厚	重量	
図 10 21	1 区	ST1	台石	(31.7)	(28.6)	11.3	(17.8 kg)	一部、欠損する。中央部に直径約 10cm の凹み有り。赤褐色を呈する。裏面、平滑な部分有り。
図 28 148	1・2-1 区	ST6	砥石	11.9	10.6	3.1	654	砂岩製。両面、一方の側面を研面として使用。一面には叩打痕有り。三面は欠損。
図 57 333	1 区	ST17	〃	14.0	3.0	2.2	165	泥岩製。四面とも使い込まれる。
図 133 395	〃	SB51 P231	〃	(7.8)	5.2	5.6	402	定形砥石。四角柱状。四面が使用され、線状の擦痕を認める。二面は摩滅により凹状を成す。
図 149 397	〃	SB65 P46	石臼	(20.9)	(15.6)	(6.7)	2,800	礫臼。砂岩製。下臼部分。臼面の摺目は弧状を呈し、副溝は 5 条が残存。底面は平滑。
図 157 404	〃	SA1 SK6	石包丁	7.5	3.5	0.6	24	打製。長方形状を呈し、両端に抉り。両刃状の刃部。千枚岩。
図 170 418	〃	SK28	砥石	9.3	5.6	2.9	258	定形砥石。砂岩製。四角柱状。長辺の四面が使用され、線状の擦痕を認める。
図 240 502	〃	SX6	〃	25.0	11.8	7.7	1,549	定形砥石。砂岩製。四角柱状。長辺の四面が研磨され、線状の擦痕を認める。使用面は摩滅により凹状に湾曲する。
図 244 554	〃	P278	〃	13.1	5.9	2.5	182	白色泥岩製。側面を含む四面が使用され、線状の擦痕を認める。剥離痕。不定形（断面五角形）。
555	〃	P1481	石包丁	8.0	4.1	0.9	56	泥質片岩。長方形状を呈し、一端に抉り。周縁に調整痕。刃部は一部研磨。完形。
556	〃	P782 (欠番)	〃	8.2	4.4	0.5	31	片刃。孔は 4 ヶ所を認め、1 ヶ所は未貫通。孔は両面から穿孔。
557	〃	P1026	砥石	14.9	14.2	4.8	1,123	砂岩製。側面を含む三面が使用され、線状の擦痕を認める。一部使用面に敲打痕
図 249 608	〃	2 層	石包丁	6.3	4.2	1.1	34	砂岩製。打製。隅丸の長方形状を呈し、両端に抉り。両刃状の刃部のみ研磨。
609	〃	〃	〃	(3.8)	(5.3)	(0.6)	16	頁岩製。磨製。
610	〃	〃	砥石	11.7	6.4	5.1	596	泥岩製。歪な四角柱状に加工。二面が使用され、一面は摩滅により凹状を成す。鋭利な線刻状の痕跡を数条認める。鉄製品の研磨に用いた可能性。
図 252 631	2-3 区	ST23	台石	37.7	26.1	11.7	13.4kg	砂岩製。平滑面、線状の擦痕有り。
図 255 642	2-4 区	ST24	叩石	12.6	11.8	6.2	1,149	砂岩製。主として側面に敲打痕。完存。
図 258 693	〃	ST25	石包丁	7.4	4.7	1.1	43	頁岩製。打製。両面とも主要剥離面を大きく残存。一部に表皮が残存。周囲に調整剥離。短辺に紐かけ用の抉りを入れる。ほぼ完存。
694	〃	〃	〃	6.5	4.1	0.5	19	頁岩製。打製。表面、主要剥離面。裏面、表皮。一方の短辺に紐かけ用の抉りか。調整剥離もほとんどみられない。未成品。
図 264 751	〃	ST26	磨石	11.4	7.2	6.3	807	砂岩製。自然石を使用。上下端をベンガラを精製に使用。側面には手に付着したベンガラが付着。完存。分析試料。
図 302 794	〃	SK32	砥石	(10.9)	5.2	4.6	(426)	二面を使用。側面には加工痕が残る。欠損。
図 315 880	3 区	ST2	石包丁	7.7	3.9	0.9	33	頁岩製。打製。両面とも主要剥離面。短辺両端に紐かけ用の抉り。刃部、研磨。完形。
図 345 940	〃	SB15 P521	投弾	4.7	4.0	3.5	81	敲打により表面は凹凸が激しい。
図 383 958	〃	SD6	石包丁	8.6	5.0	1.5	77	砂岩製。打製。A 面は剥離面、B 面は自然面。両端に紐かけ用の浅い抉り。完形。
図 391 999	3 区	検出面	勾玉	1.7	1.0	0.3	1	蛇紋岩製。縦長の「C」字形。両面とも研磨。片側穿孔。完形。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	法 量				特 徴
				全長	全幅	全厚	重量	
図 391 1000	3区	検出面	石包丁	(5.0)	5.0	0.9	(30)	サヌカイト製。打製。両面とも主要剥離面を大きく残す。周囲、調整剥離。ステップ状の剥離。短辺に紐かけ用の抉り。断面は背部から刃部にむかって厚さが減じる。

遺物観察表 金属製品

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	法 量				特 徴
				全長	全幅	全厚	重量	
図 11 22	1 区	ST1	鉄製品 鉄斧か	(8.5)	5.7	1.1	(65)	平面形は長方形。短辺を折り曲げ、装着。他辺は折り曲げ部で欠損。刃部の一部は残存か。
23	〃	〃	〃 鉄鏃	(4.9)	2.1	0.6	(7)	圭頭鏃。鏃身は先端にむかい厚さを減じる。茎部の断面、長方形。基部先端は欠損か。
図 17 77	〃	ST2	〃 釘	7.0	1.3	0.7	14	頭部は肥厚する。逆「L」字形か。混入か。
図 53 322	1・2-1 区	ST15	〃 鈍	(8.6)	1.3	0.6	12	鈍い鑄有り。刃部は反る。縦断面は緩やかな「S」字状。横断面は扁平な長方形。基部、欠損。
図 72 377	1 区	SB1 SK171	〃 不明	(8.5)	2.6	0.4	41	板（鏡）状を呈し、基部は欠損。錆・腐食が進行。器形・用途不明。
図 126 393	〃	SB46 P240	銅製品 銭貨	?	?	?	1	面文が「マ」頭通。緑青。
図 139 396	〃	SB56 P221	鉄製品 釘	4.5	0.9	0.7	5	断面、四角形。
図 160 407	〃	SK1	銅製品 銭貨	-	-	-	18	面文が「ハ」貝寶。緑青。新寛永の可能性。
図 162 408	〃	SK3	〃 〃	-	-	-	14	面文が「コ」頭通、「ハ」貝寶。緑青。6枚重ね。新寛永の可能性。
図 164 409	〃	SK5	〃 〃	-	-	-	4	面文が「コ」頭通、「ハ」貝寶。背面上に「文」（背文）文字。緑青。新寛永（文銭）。1668年以降。
410	〃	〃	〃 〃	-	-	-	16	面文が「コ」頭通、「ハ」貝寶。背面に刻印（不明）。緑青。5枚重ね。新寛永の可能性。
図 177 427	〃	SK49	鉄製品 釘	(1.9)	0.7	0.5	1	頭部は僅かに逆「L」字形。
図 195 442	〃	SK105	〃 〃	(8.3)	1.0	0.5	21	頭部は僅かに逆「L」字形。断面、四角形。
443	〃	〃	〃 〃	(7.1)	1.1	0.6	12	頭部は僅かに逆「L」字形。剥離が激しい。断面、四角形。
図 209 455	〃	SK139	〃 刀子	29.8	3.7	0.4	216	匕首状。
図 213 460	〃	SK153	〃 釘	(5.0)	(0.7)	(0.5)	8	断面、四角形。
461	〃	〃	〃 〃	(4.0)	1.3	0.5	6	頭部は僅かに逆「L」字形。断面、四角形。
図 241 509	〃	SX7	〃 鉄鏃	(6.4)	0.5	0.5	6	断面、四角形。茎部の可能性。
図 244 559	〃	P1291	〃 〃	(5.8)	1.7	0.3	6	圭頭鏃。鏃身は薄く左右非対称。曲がる。木質が付着。茎部の断面、長方形。
560	〃	P427	〃 刀子か	(5.7)	1.6	0.5	10	先端は幅広。厚さは均一。
図 249 611	〃	2層	〃 釘	(3.6)	0.8	0.4	5	頭部は僅かに逆「L」字形。断面、隅丸方形。
612	〃	〃	〃 〃	3.7	1.0	0.4	6	頭部は僅かに逆「L」字形。断面、四角形。L字形に屈曲。
613	〃	〃	銅製品 耳環	2.4	2.6	0.4	3.0	表面剥離。緑青。
図 258 695	2-4 区	ST25	鉄製品 不明	(5.5)	2.8	0.5	(15.5)	平面、直角三角形状。一部、欠損。錆の付着は少ない。残存部は本来の形状を保持。混入か。
図 264 752	〃	ST26	〃 鈍	(5.4)	0.8	0.5	(5.8)	両端、欠損。横断面、扁平な長方形。細身。裏すき有り。

図版 番号	調査区	出土 遺構	器種	法 量				特 徴
				全長	全幅	全厚	重量	
図 264 756	2-4 区	ST26	スラグ	4.8	4.1	1.8	54	上面は付着物も少なく凹凸も少ない。下面は流動滓、気泡、白色部分等がみられる。一部、欠損。
図 309 818	2-2 区	P396	鉄製品 釘	(4.7)	0.6	0.7	(8)	先端部、欠損。基部、曲がる。断面、方形。
図 311 867	2-1 区	包含層 2層	〃 〃	(4.8)	1.5	0.6	(9)	頭部は僅かに肥厚する。断面、隅丸方形。先端部、欠損。
868	〃	包含層 1層	青銅器 銅鏡	(2.7)	(5.6)	0.1	(9)	内行花文鏡。銘帯・端部孔有り。懸垂鏡。摩滅。ペンガラ付着。分析試料。
図 389 968	3 区	P223	鉄製品 釘	(4.7)	(0.7)	(0.5)	(3)	先端、曲がる。断面、方形か。両端、欠損。
973	〃	P323	〃 〃	(3.0)	(0.5)	(0.2)	(2)	両端、欠損。断面、長方形。
図 391 1002	〃	攪乱	銅製品 銭貨	外縁 2.4	内郭 0.6	0.1	2	寛永通宝。

写真図版



1区 東半部・2-1区 空中写真(垂直)

図版2



調査区 周辺 空中写真(北より)



1区 東半部 空中写真(北より)



1区 東半部 空中写真(垂直)



1区 東半部 空中写真(垂直)

図版4



1区 調査前風景(東より)



1区 調査前風景(西より)



1区 東半部 遺構検出状況(西より)



1区 東半部 遺構検出状況(南より)



1区 東半部・2-1区 遺構完掘状況(西より)



1区 西半部・2-1区 遺構完掘状況(西部) (東より)



1区 東半部 遺構完掘状況(北西部) (南より)



1区 西半部・2-1区 遺構完掘状況(東より)

図版8



1区 北東トレンチセクション(西より)



1区 ST1・7 完掘状況(東より)



1区 ST1 完掘状況(南より)



1区 ST1 床面遺構検出状況(南より)



1区 ST1 西半セクション(南より)



1区 ST1 北半セクション(東より)



1区 ST1 焼土検出状況(西より)



1区 ST1_P5 炭化物・弥生土器出土状態(北より)



1区 ST1 遺物(6)出土状態(北より)



1区 ST2・5 完掘状況(南より)



1区 ST2 完掘状況(南より)



1区 ST2 南北セクション(西より)



1区 ST2 東半セクション(南より)



1区 ST2_P1 セクション(西より)



1区 ST2 遺物出土状態(西より)



1区 ST2 遺物出土状態(北より)



1区 ST3 セクション(南より)



1区 ST4 完掘状況(南西より)



1区 ST4 西半セクション(南より)



1区 ST5 完掘状況(南より)



1区 ST5 南北セクション(西より)



1区 ST5 北半セクション(西より)



1区 ST5 遺物出土状態(南より)



1区 ST5 遺物(89・98)出土状態(北より)



1区 ST5 遺物(109・115・121)出土状態(南より)



1区 ST6・SD9・10 南半セクション(西より)



1区 ST7 完掘状況(南東より)



1区 ST7・SK69 南半セクション(南より)



1区 ST8 完掘状況(垂直)



1区 ST8 南北セクション(東より)



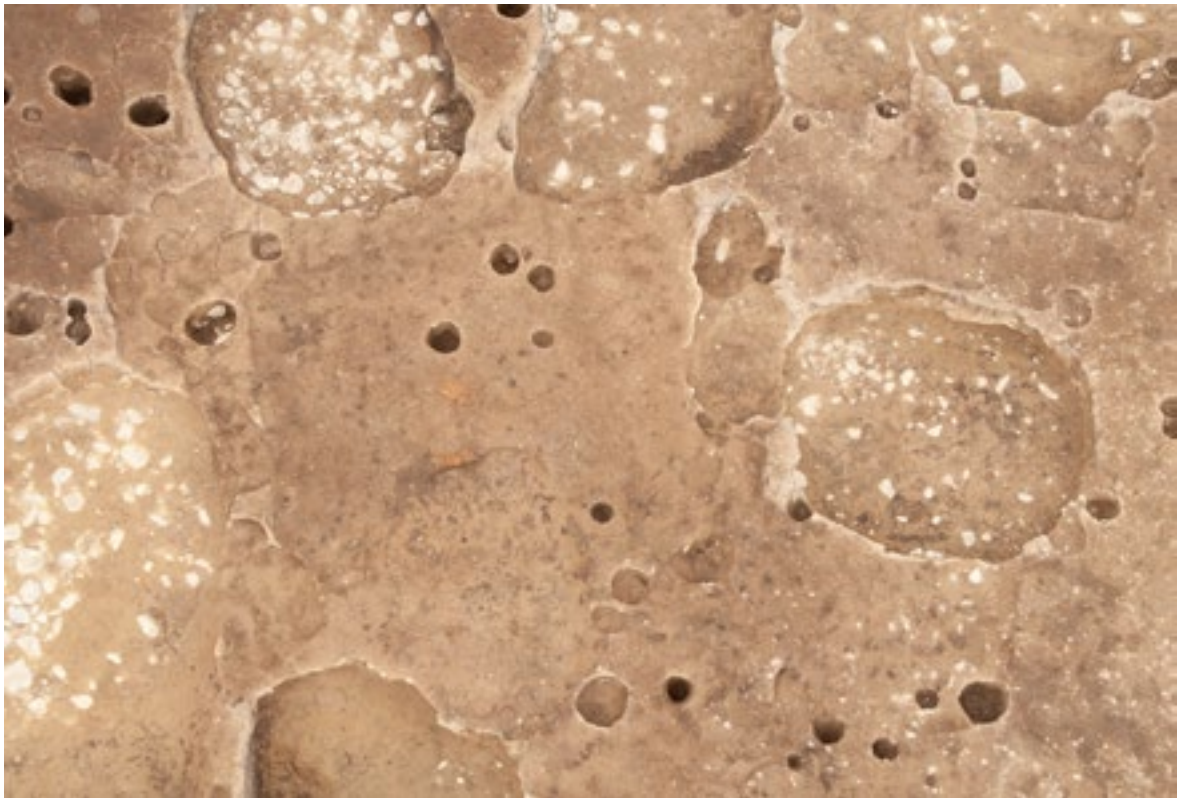
1区 ST8 遺物(154)出土状態



1区 ST8 遺物(157)出土状態(北より)



1区 ST8 紡錘車(162)出土状態



1区 ST9 完掘状況(垂直)



1区 ST9・SK80 南北セクション(東より)



1区 ST9 遺物(164)出土状態(東より)



1区 ST8・10 完掘状況(東より)



1区 ST10 セクション(西より)



1区 ST10 遺物(190・203・204)出土状態(南より)



1区 ST10 遺物(180・212)出土状態(北東より)



1区 ST10 遺物(183・206・213)出土状態



1区 ST10_P1 遺物(196)出土状態(南西より)



1区 ST11 完掘状況(南より)



1区 ST11 東西セクション(南より)



1区 ST14 完掘状況(東より)



1区 ST15・19 完掘状況(東より)



1区 ST15 西半セクション(南より)



1区 ST15_P5 セクション(東より)



1区 ST16 完掘状況(北西より)



1区 ST16 東半セクション(南より)



1区 ST17 完掘状況(北東より)



1区 ST17 東西セクション(南より)



1区 ST17_P27 遺物(331)出土状態



1区 ST18 東半セクション(南より)



1区 ST19 セクション(南より)



1区 ST19_P2 炭化物出土状態(北より)



1区 ST19_P2 セクション(東より)



1区 ST20 セクション(南より)



1区 ST20_P10 セクション(東より)



1区 ST22 · SK83 セクション(南東より)



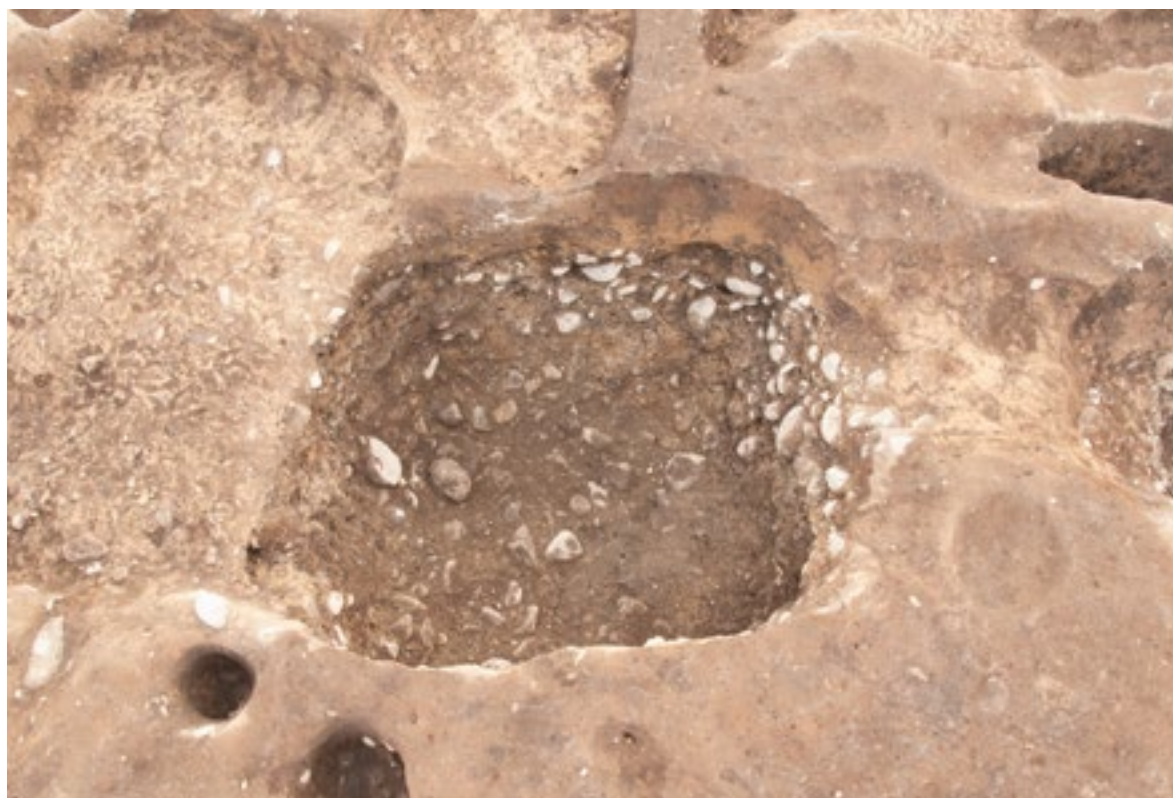
1区 SB1 完掘状況(東より)



1区 SB1_SK142 完掘状況(南より)



1区 SBI_SK143・147 完掘状況(北より)



1区 SBI_SK144 完掘状況(北より)



1区 SB1_SK151 完掘状況(西より)



1区 SB1_SK154 完掘状況(南より)



1区 SBI_SK155 完掘状況(南より)



1区 SBI_SK162 完掘状況(西より)



1区 SB1_SK171 完掘状況(北より)



1区 SB1_SK172 完掘状況(北より)



1区 SB56 完掘状況(南より)



1区 SB23_P1135 遺物(381)出土状態(南より)



1区 SB37_P696 遺物(390)出土状態(北より)



1区 SA1 完掘状況(北より)



1区 SA1_SK2 セクション(東より)



1区 SA1_SK6 完掘状況(南より)



1区 SA1_SK6 セクション(南より)



1区 SA1_SK6 柱痕完掘状況(南より)



1区 SA1_SK8 セクション(西より)



1区 SA1_SK9 完掘状況(東より)



1区 SA1_SK12 セクション(北西より)



1区 SA1_SK12 完掘状況(東より)



1区 SA1_SK39 セクション(西より)



1区 SK57 完掘状況(南より)



1区 SK31・36 セクション(東より)



1区 SK32・43 セクション(西より)



1区 SK71・75 セクション(東より)



1区 SK84・85・115 セクション(南より)



1区 SK105 セクション(南より)



1区 SK105 遺物(439・441)出土状態



1区 SK112 東半セクション(北より)



1区 SK133 完掘状況(東より)



1区 ハンダ SK1 完掘状況(南より)



1区 ST1_P3(井戸) セクション(東より)



1区 SD3・5・6 セクション(南より)



1区 SD5 セクション(南より)



1区 SX2 セクション(南より)



1区 P1 根石出土状態



1区 SD10 石列検出状況(北より)



1区 P21 遺物(510)出土状態(西より)



1区 P647 土器棺(526)完掘状況(北より)



1区 SA2_P753 遺物(405)出土状態(西より)



1区 遺物(556)出土状態(P782)



1区 P911 遺物(536)出土状態



1区 P1092 遺物出土状態(南より)



1区 P1606 遺物(549)出土状態



1区 西半部・21区 空中写真(垂直)



2・3区 空中写真(西より)



2-2区 調査前風景(東より)



24・3区 調査前風景(北東より)



2-1区 遺構検出状況(東より)



2-4・3区 遺構検出状況(東より)



2-1区 上面遺構完掘状況(西より)



2-1区 遺構完掘状況(西より)



2-1区 遺構完掘状況(東より)



2-2・2-3・3区 遺構完掘状況(東より)



2-2区 遺構完掘状況(東より)



2-3区 遺構完掘状況(東より)



2-1区 調査区北壁セクション(南東より)



2-2区 調査区北壁セクション(南西より)



2-2区 調査区北壁セクション(南より)



2-3区 調査区北壁セクション(南西より)



2-3区 調査区北壁セクション(南より)



2-4区 調査区北壁セクション(南東より)



2-1区 ST6 完掘状況(北西より)



2-1区 ST12 完掘状況(西より)



2-1区 ST12_P7 セクション(西より)



2-1区 ST12 遺物(252・254)出土状態



2-1区 ST13 東西セクション(南東より)



2-1区 ST13 遺物(260)出土状態



2-3区 ST23 東半セクション(南より)



2-3区 ST23 遺物(625・626・630)出土状態(南より)



2-3区 ST23 遺物(626・630)出土状態(西より)



2-3区 ST23 遺物(625・626)出土状態(西より)



2-4区 ST24 東半セクション(南より)



2-4区 ST24 遺物(640)出土状態(南より)



24区 ST25 東半セクション(北より)



24区 ST25 遺物(647・671・674)出土状態(北より)



2-4区 ST25 遺物(668)出土状態(北より)



2-4区 ST25 遺物(694)出土状態(南東より)



24区 ST26 南北セクション(東より)



24区 ST26 遺物出土状態(東より)



2-4区 ST26 遺物(723・735・738)出土状態(北より)



2-4区 ST26 遺物(713)出土状態(南より)



24区 ST26 遺物出土状態(東より)



24区 ST26 遺物(751)出土状態(北より)



2-4区 ST26 遺物(752)出土状態



2-1区 SB18_P58 遺物(787)出土状態(東より)



2-1区 SK13 集石出土状態(南より)



2-4区 SK32 遺構完掘状況(北より)



2-1区 SD14・15 セクション(西より)



2-1区 P205 遺物(810)出土状態



2-1区 P271 遺物(814)出土状態(東より)



2-2区 SB7_P322 遺物(776)出土状態(南より)



2-2区 SB7_P322 遺物(775)出土状態(北より)



2-3区 SB3_P421 遺物(774)出土状態(北より)



24区 SB2_P449 セクション(北より)



24区 P456 遺物(821)出土状態(北より)



3・2-2・2-3区 空中写真(南より)



3・2-2・2-3区 空中写真(北より)



3・24区 調査前風景(西より)



3区 遺構完掘状況(東より)



3区 遺構検出状況(東より)



3区 遺構検出状況(東より)



3区 遺構完掘状況(東より)



3区 遺構完掘状況(東より)



3・24区 遺構完掘状況(東より)



3区 調査区北壁セクション(南西より)



3区 ST1 完掘状況(東より)



3区 ST1 南半セクション(西より)



3区 ST1 北半セクション(西より)



3区 ST2 完掘状況(東より)



3区 ST2 セクション(南より)



3区 ST2 遺物(880)出土状態(北より)



3区 ST3 セクション(南より)



3区 ST4 セクション(西より)



3区 ST6_中央ピット セクション(東より)



3区 SB29 完掘状況(東より)



3区 SB13_P298 遺物(971)出土状態(北より)



3区 SB14_P321 根石出土状態(東より)



3区 SB29_P179 遺物(943)出土状態



3区 SB30_P660 遺物(945)出土状態(南東より)



3区 SK1 遺物(949)出土状態(東より)



3区 SK2 セクション(西より)



3区 SK4 セクション(北より)



3区 SK27 セクション(北より)



3区 SK29 セクション(東より)



3区 SK32 遺物(953)出土状態(北より)



3区 SK33 セクション(北より)



3区 SG1 遺物(954)出土状態(南より)



3区 SG1 セクション(南東より)



3区 SD6 セクション(南東より)



3区 SD6・P138 セクション(西より)



3区 SD7 セクション(南より)



3区 SD10・11 セクション(東より)



3区 SD15 遺物(961)出土状態(南より)



3区 P12 遺物(962)出土状態



3区 P128 遺物(965)出土状態(東より)



3区 P180 遺物(966)出土状態



3区 P631 根石出土状態(西より)



3区 SB2_P712 遺物(921)出土状態(南より)



3区 SB5_P720 遺物(929)出土状態(西より)



3区 SB8_P718 セクション(南より)



3区 検出面遺物(999)出土状態(東より)



218



392内



392外



291

















































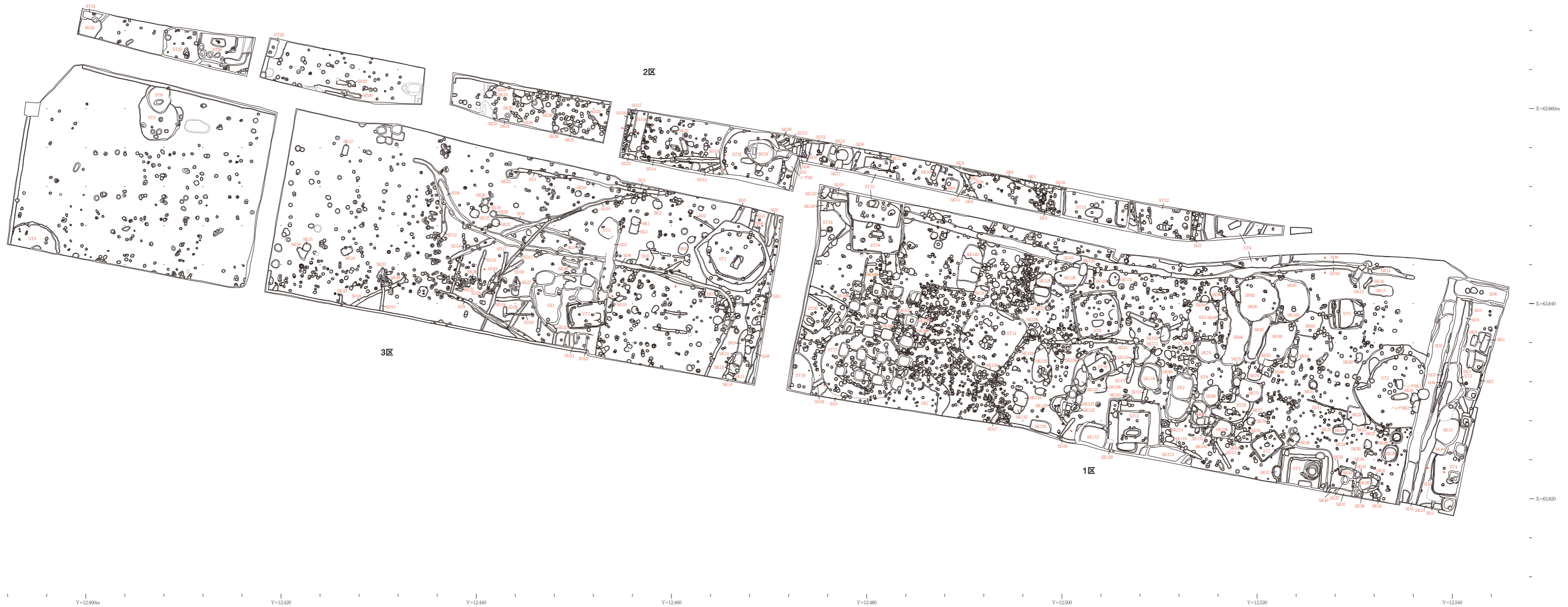




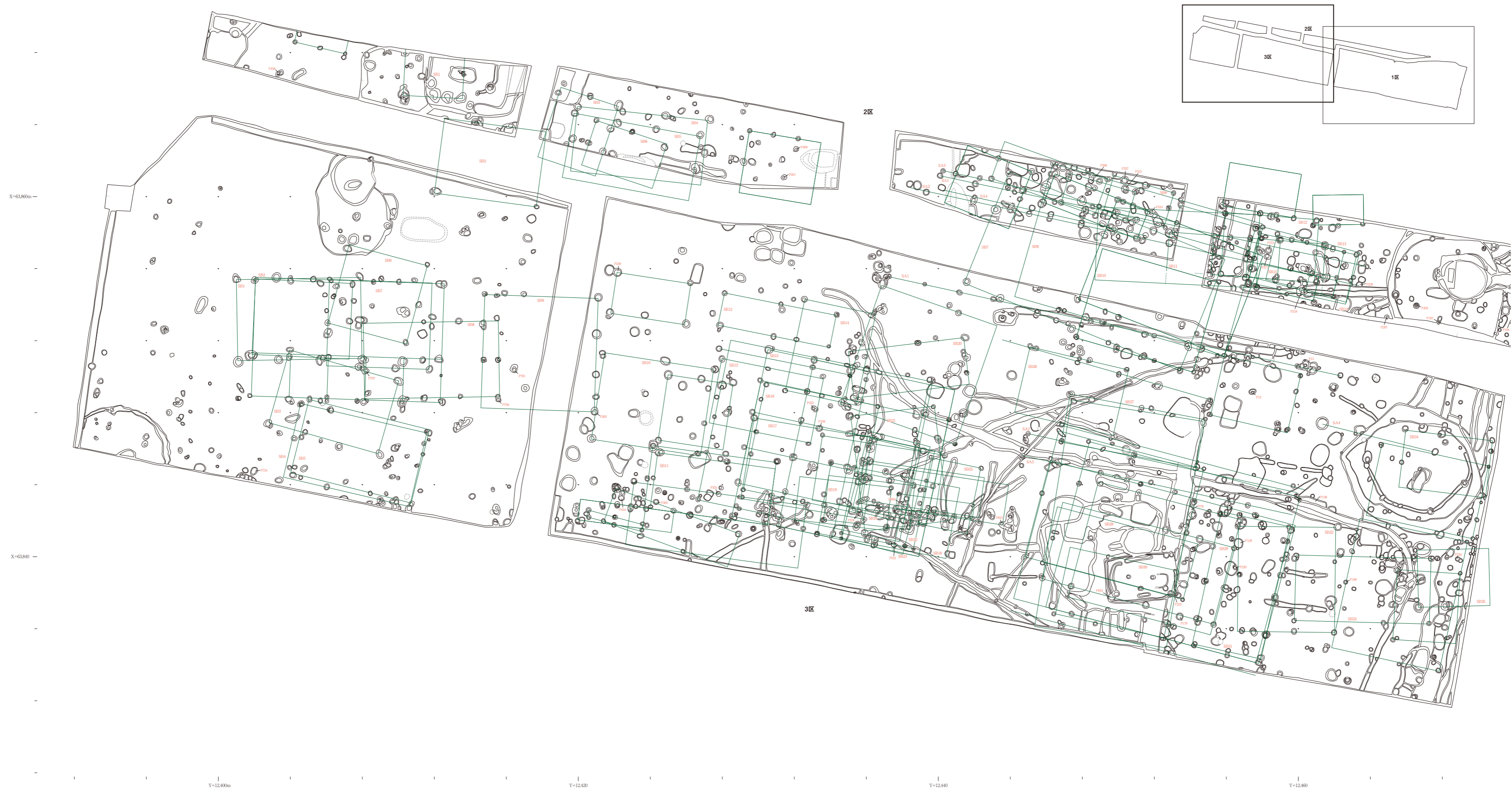


報告書抄録

ふりがな	わかみやのひがしいせきいち							
書名	若宮ノ東遺跡 I							
副書名	都市計画道路高知南国線建設工事に伴う発掘調査報告書 I							
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第155集							
編著者名	坂本憲昭, 久家隆芳, パリノ・サーヴェイ株式会社, 株式会社イビソク							
編集機関	(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	高知県南国市篠原1437-1							
発行年月日	2022年3月10日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
わかみやのひがしいせき 若宮ノ東遺跡	〒783-0006 高知県 南国市 篠原	39204	040181	33° 57' 55"	133° 63' 46"	2016.8.15 ～ 2017.2.17 2017.4.12 ～ 2017.6.8 2018.5.11 ～ 2018.7.19	3,650㎡	記録保存調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
若宮ノ東遺跡	集落跡	弥生時代 古墳時代 古代 中世 近世	竪穴建物跡 33棟 掘立柱建物跡 124棟 柵列跡 14条 土坑 244基 土器棺墓 1基 溝跡 69条 井戸跡 2基 性格不明遺構 ビット	弥生土器 土製品 石製品 鉄製品 土師器 須恵器 土師質土器 陶器 磁器 古銭	弥生時代, 古墳時代, 古代, 中世, 近世の遺構・遺物を検出した。			
要約	弥生時代後期後半～古墳時代初頭にかけての竪穴建物跡を現在までに約100棟検出している。田村遺跡群解体後の大規模集落である。飛鳥時代～平安時代にかけては溝と柵で囲まれた官衙跡・正倉と考えられる掘立柱建物跡等官衙関連遺構を多数検出している。中世後期では溝で囲まれた屋敷群を検出している。以上のように若宮ノ東遺跡は長期間にわたり当地域における拠点的な位置を保持している。 本書は、平成28年度～平成30年度にかけて調査を実施した調査成果である。							



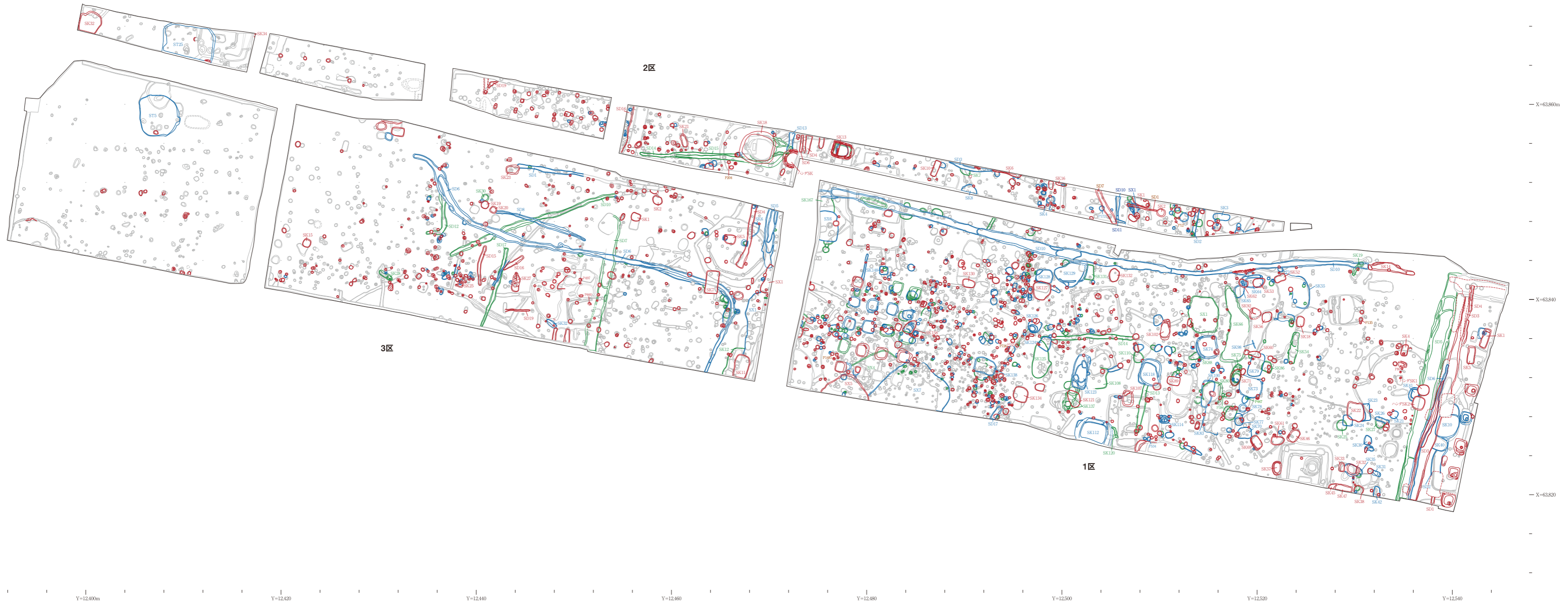
付图 1 若宮ノ東遺跡_1~3区遺構平面図(S-1/200)



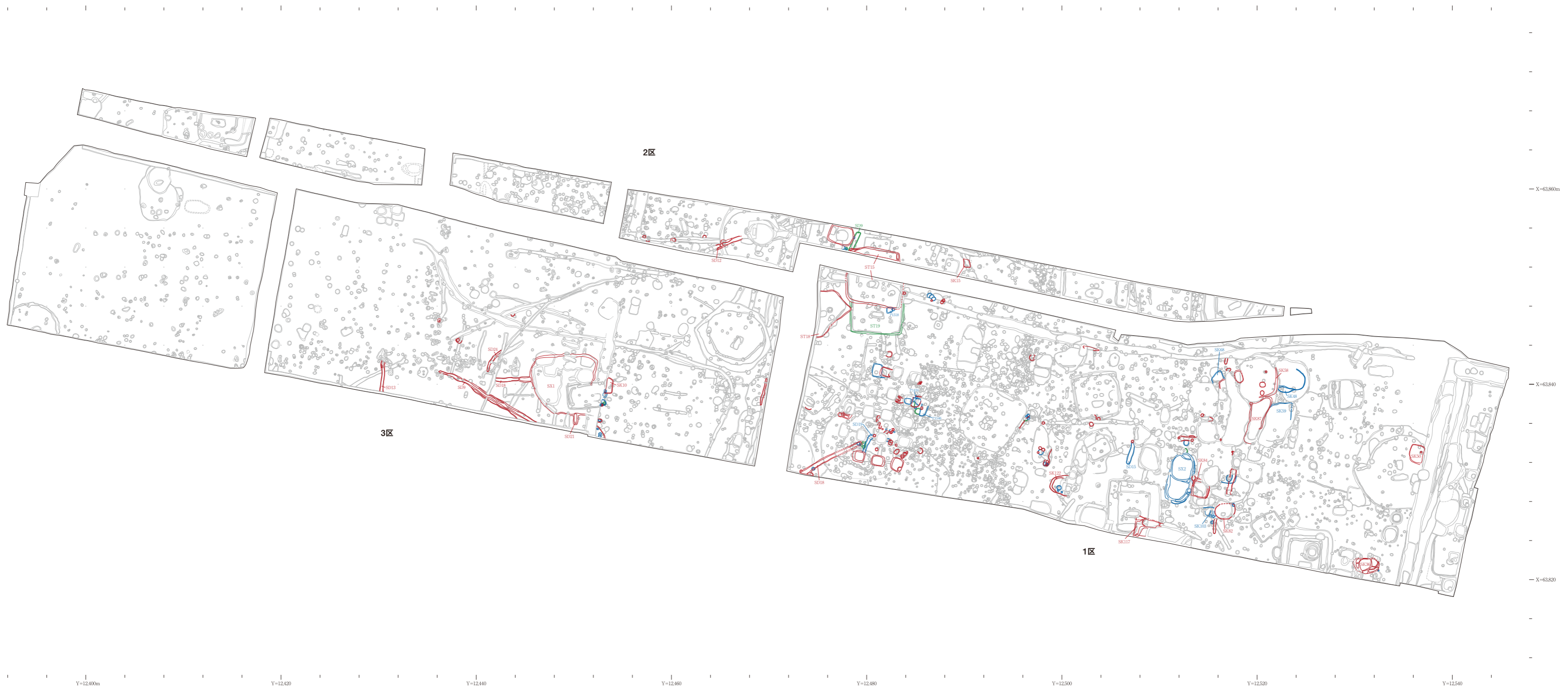
付图2 若宫/东遗址_1-3区西侧遗构平面图 (S=1/100)



付图3 若宮/東遺跡_1-3区東側遺構平面図(S=1/100)



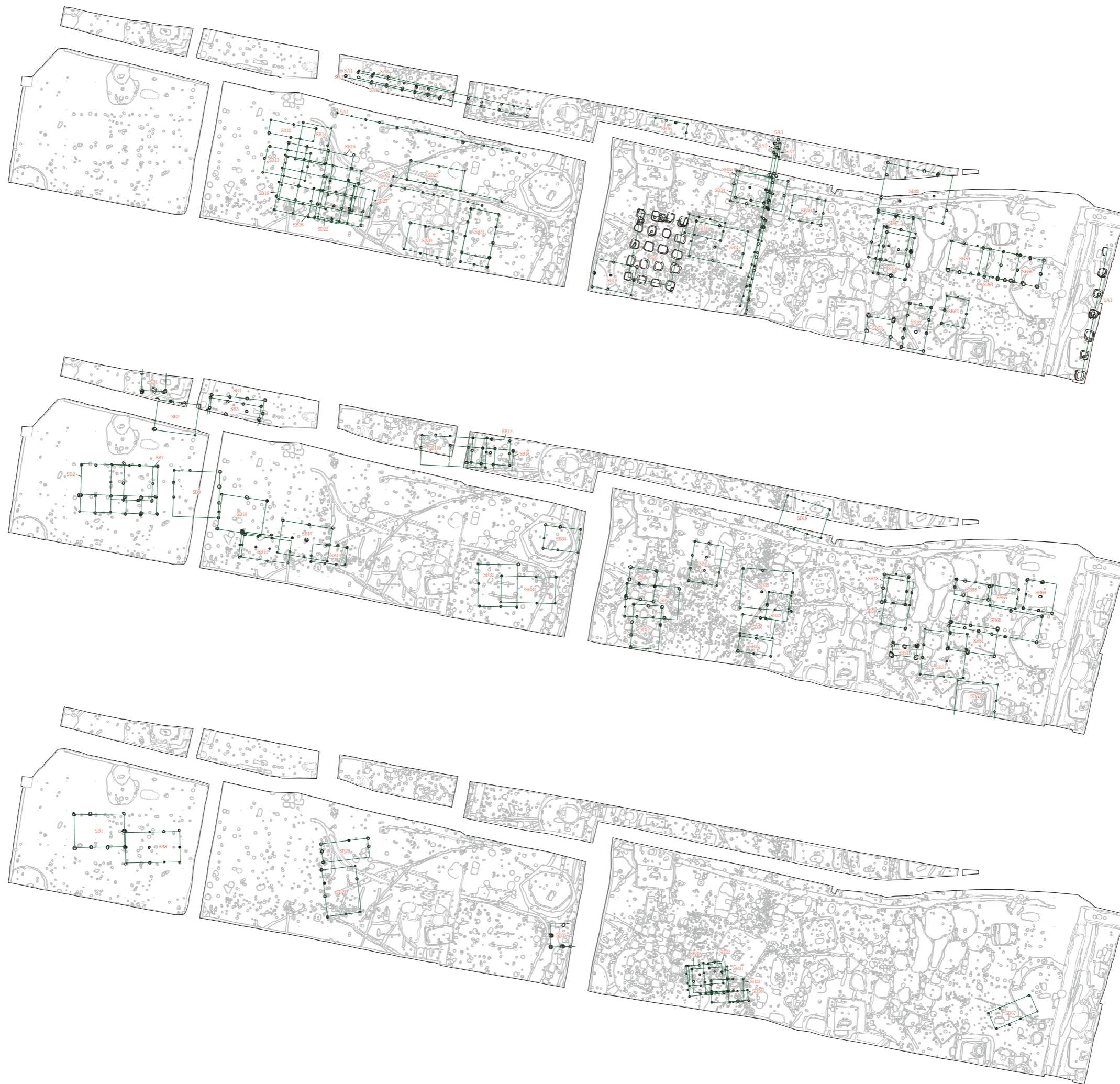
付図 4 若宮ノ東遺跡_1~3区上層遺構平面図①(S=1/200)



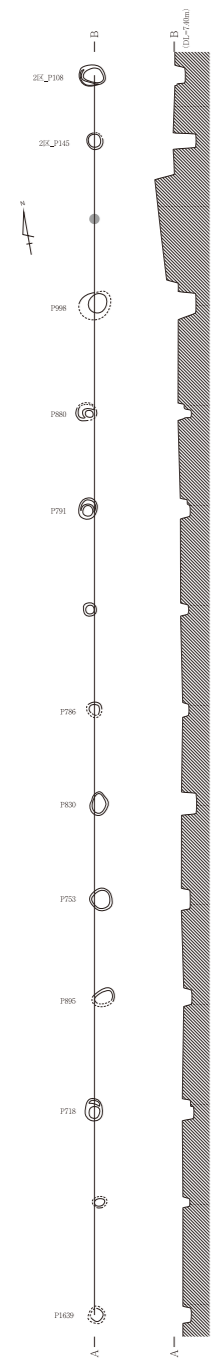
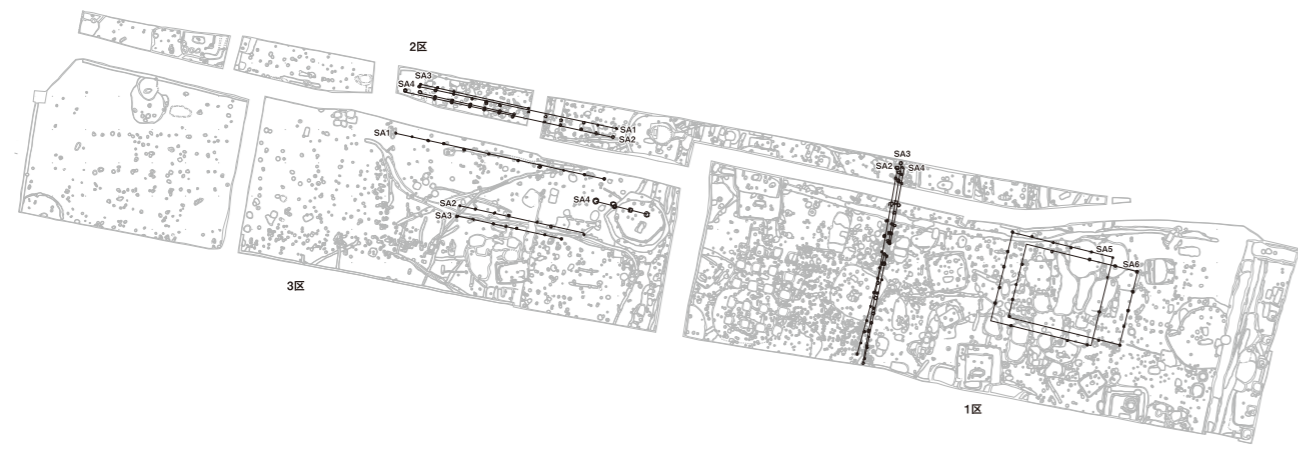
付図 5 若宮ノ東遺跡_1~3区上層遺構平面図②(S=1/200)



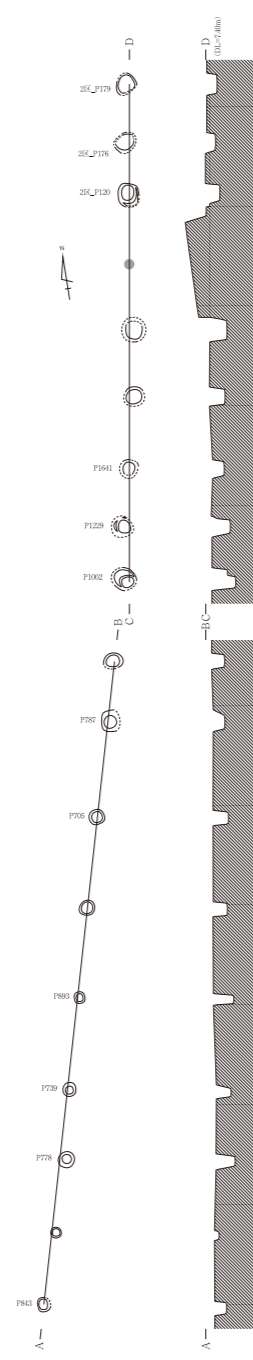
付図6 若宮ノ東遺跡_1~3区SB・SA遺構平面図①(S=1/300)



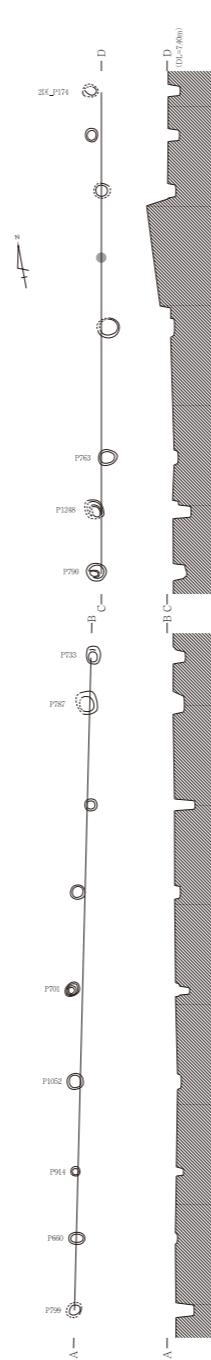
付図7 若宮ノ東遺跡_1~3区SB・SA遺構平面図②(S=1/300)



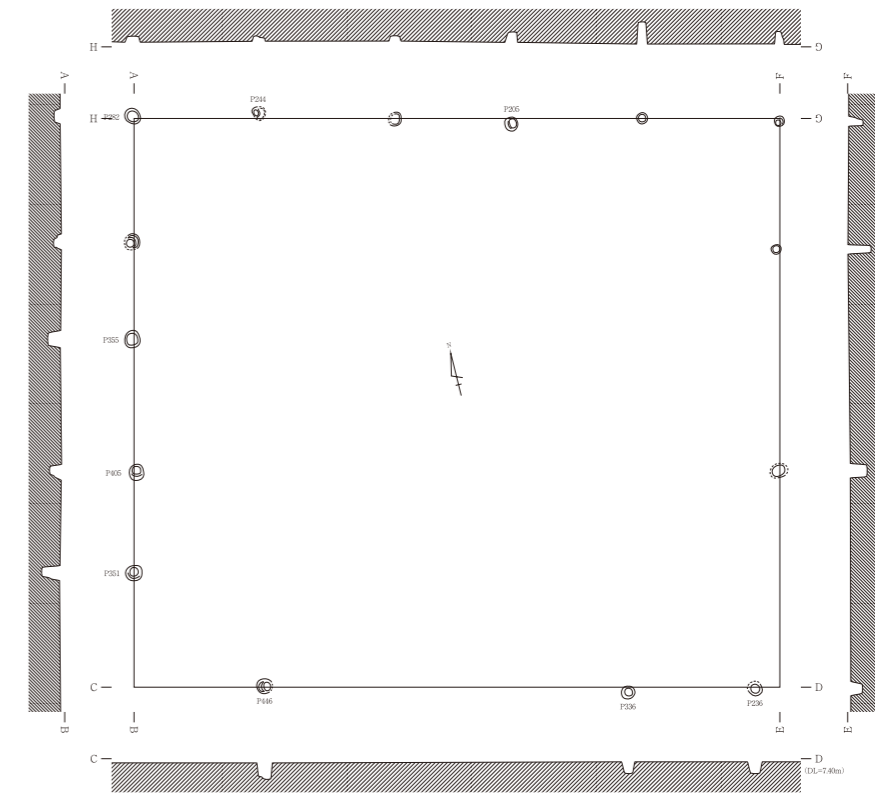
SA2



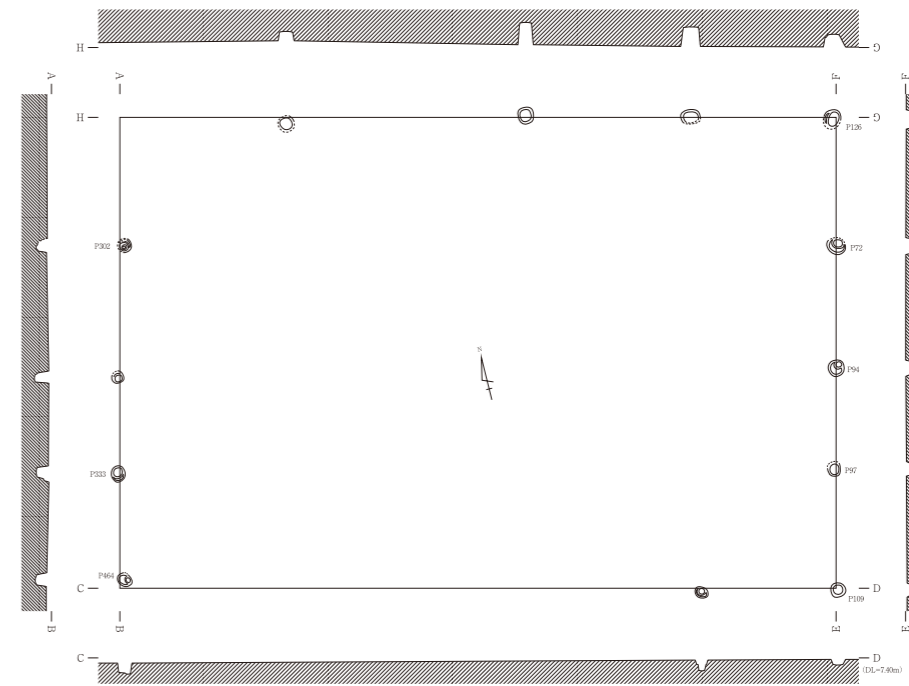
SA3



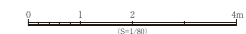
SA4



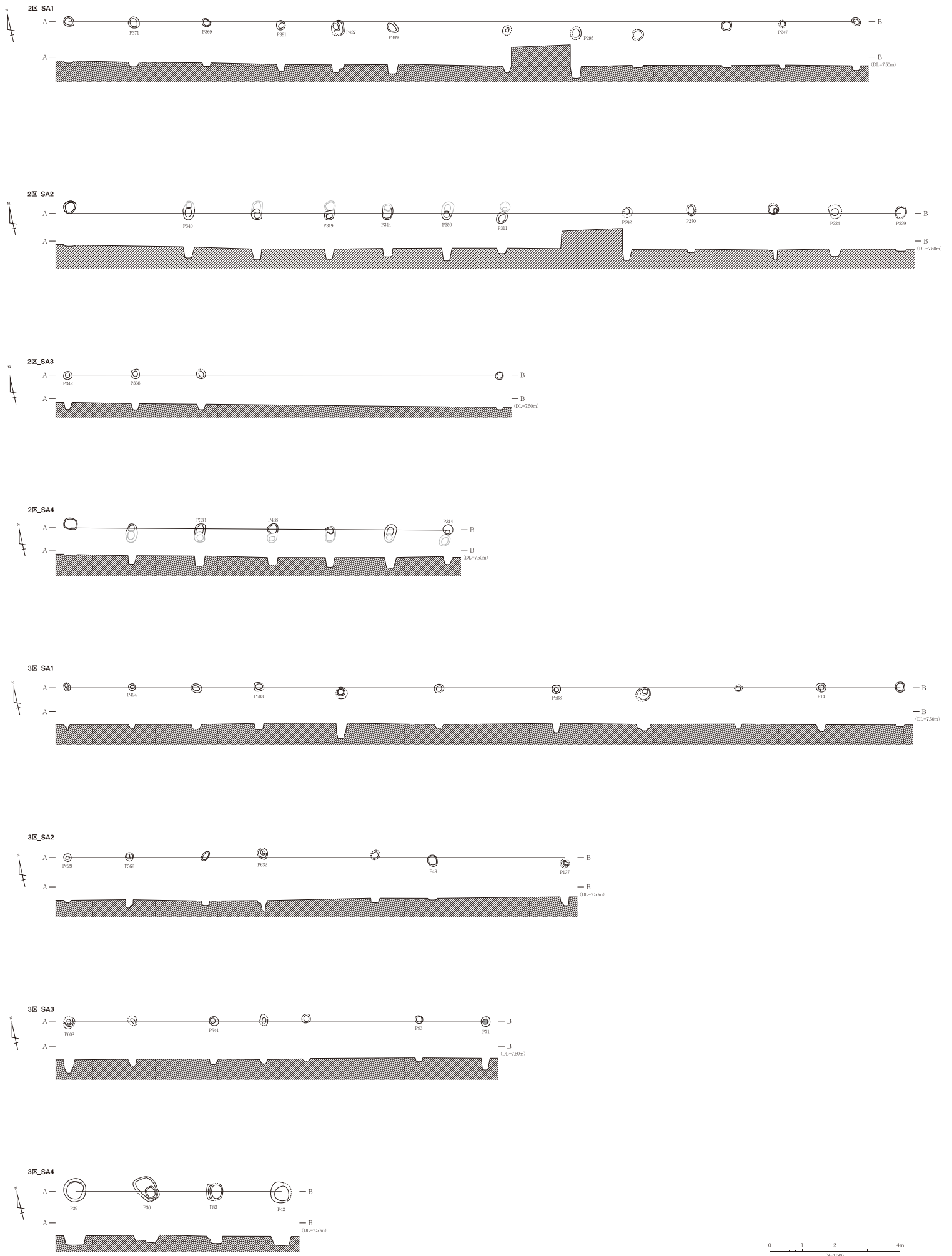
SA5



SA6



付図8 若宮ノ東遺跡_1~3区SA平面図・エレベーション図①(S=1/80)



付図9 若宮ノ東遺跡_1~3区SA平面図・エレベーション図②(S=1/80)

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第155集

若宮ノ東遺跡I

都市計画道路高知南国線建設工事に伴う発掘調査報告書I

2022年3月10日

発行 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

Tel. 088-864-0671

印刷 株式会社 飛鳥

